

栃木県埋蔵文化財調査報告第358集

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡

—経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2013.3

栃木県教育委員会
（財）とちぎ未来づくり財団

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡

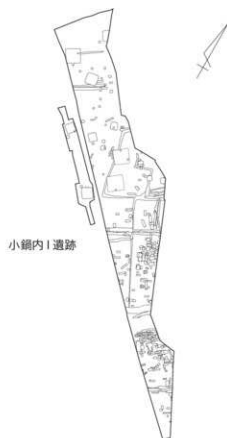
—経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2013.3

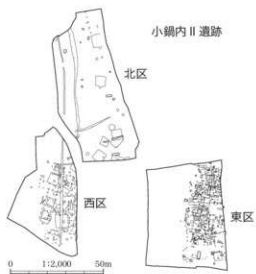
栃木県教育委員会
財とちぎ未来づくり財団



小網内I遺跡・小網内II遺跡 全景



小網内I遺跡



小網内II遺跡

北区

西区

東区

0 12,000 50m



小鍋内I遺跡 全景（東上空より）



小鍋内II遺跡 全景（南上空より）

序

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡は、栃木県の東部、さくら市鹿子畑地内に所在します。当地は喜連川丘陵と呼ばれる丘陵地帯を荒川、内川、江川、岩川などの河川が東南流しています。これらの河川に臨む段丘上や丘陵の裾には多くの遺跡が分布しており、この一帯が古来より人々の生活に適した豊かな土地であったことを物語っています。

このたび、江川南部Ⅰ地区の農地整備事業に先立ち、計画地内に所在する遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡の発掘調査では、主に縄文時代から奈良・平安時代、中世までの遺構や遺物が多数発見され、隣接する森後遺跡・欠ノ上遺跡などとともに、本地域の歴史を理解するための重要な遺跡の一つであることが明らかとなりました。

本報告書は、江川南部Ⅰ地区に所在する小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が、県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助となるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なるご協力をいただきました、栃木県農政部、さくら市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

栃木県教育委員会
教育長 古澤利通

例 言

1. 本書は、栃木県さくら市鹿子畑に所在する小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区に伴う記録保存のための発掘調査である。
3. 発掘調査は、栃木県農政部の委託事業であり、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導により、財団法人とちぎ生涯学習文化財団（平成23年度から財団法人とちぎ未来づくり財団に再編）埋蔵文化財センターが実施したものである。
4. 遺跡名は、平成15年度に栃木県教育委員会事務局文化財課によって実施された確認調査結果に基づき、平成20年度に調査した北側の範囲を「小鍋内Ⅰ遺跡」とし、南側の遺構分布の希薄な部分を隔てて平成21年度に調査した範囲を「小鍋内Ⅱ遺跡」とした。また、小鍋内Ⅱ遺跡は整備事業に伴って削平される3箇所を調査するため、それぞれ「北区」、「西区」、「東区」の名称を付した。
5. 本遺跡の発掘調査・整理作業・報告書作成の期間並びに担当者は以下の通りである。

平成20年度（小鍋内Ⅰ遺跡発掘作業）

平成20年4月23日～平成21年3月30日

調査部調査部長：川原由典

調査部調査第一担当 係長：芹澤清八

調査部資料整理担当 主任：板橋正幸、藤田直也

嘱託調査員：鈴木芳英、田村雅樹、長演健一

平成21年度（小鍋内Ⅰ遺跡整理作業、小鍋内Ⅱ遺跡発掘作業・整理作業）

平成21年5月1日～平成22年3月30日

調査部調査部長：初山孝行

調査部調査第一担当 部長補佐：中山 晋

調査部調査第一担当 主査：田代己佳

平成23年度（小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡整理作業）

平成23年7月1日～平成24年3月30日

調査部調査部長 初山孝行

調査部調査第一担当 部長補佐：中山 晋

調査部長差第一担当 係長：津野 仁

平成24年度（小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡報告書作成）

平成24年7月2日～平成25年3月30日

整理課 副主幹兼整理課長：田代 隆

整理課 副主幹：進藤敏雄

6. 遺物整理・実測図・図面作成・写真図版作成は、田代、津野、進藤が担当した。
7. 本書の編集・執筆は、進藤が担当した。
8. 小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡発掘調査において実施した委託業務は、以下の通りである。
表土除去：笹沼建設株式会社

基準点測量及び基準杭設定・航空写真撮影・航空写真測量図化：中央航業株式会社

自然科学分析：バリノ・サーヴェイ株式会社

9. 発掘調査における遺構の写真及び遺物写真は、主として担当者が撮影している。
10. 発掘調査から整理報告に至るまで、次の諸機関・諸氏からの御指導・御協力を賜っている。記して謝意を表したい(敬省略)。

江川南部土地改良区、喜連川土地改良区推進協議会、さくら市教育委員会、さくら市市史編さん委員会、さくら市農政課、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、栃木県県土整備部、栃木県農政部、栃木県塩谷農業振興事務所、栃木県矢板土木事務所、那須烏山市教育委員会

瀧美賢吾、池田真規、上野修一、海老原郁雄、江守浩史、大嶽浩良、小澤 毅、木下 実、木元肇周、木本雅康、小竹弘剛、小林大二、齊藤 弘、清水重敦、眞保昌弘、菅原祥夫、鈴木 勝、高橋清司、竹澤 謙、菅川秀夫、中村信博、箱崎和久、橋本澄朗、堀 静夫、馬場 基、伴克一郎、山中敏史、渡辺晃宏

11. 発掘調査に従事した作業員は次の通りである。

相ヶ瀬征美、阿久津ヒロ、天羽國廣、石井サキ子、上松千晶、小川征男、小野幸夫、加藤達雄
川上保乃、久郷ヨシエ、久郷好子、桑原恵美子、小島利三、小森英二、齊藤和子、佐藤 強、佐藤美子
塩田治男、鈴木和夫、墨野倉弘美、高瀬キミ子、田所清一、豊田裕美子、中村洋一郎、樋山 稔、藤田斌久
増田早苗、溝上吉博、皆川 晶 (五十音順)

12. 整理報告作業に従事した補助員は次の通りである。

天野崇弘、上野美紗子、河又智美、杵渕佳代子、君島みどり、桑川江美子、田崎訓子、塚田幸枝
鶴見里子、芳賀美津子、橋本品江、深津美穂、福田春美、吉田優一 (五十音順)

13. 本遺跡の出土品・資料類は、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターに保管している。

14. 本遺跡における調査概要は、下記の年報等で一部公表されているが、本書をもって正報告とする。

- ・2009『埋蔵文化財センター年報』第19号(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- ・2010『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』32 平成20年度(2008) 栃木県教育委員会
- ・2010『埋蔵文化財センター年報』第20号(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- ・2011『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』33 平成21年度(2009) 栃木県教育委員会
- ・2011『埋蔵文化財センター年報』第21号(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

凡例

遺跡

1. 遺跡の略号は、
 - ・小鍋内Ⅰ遺跡：SR-KNⅠ（SAKURA-KONABEUCHIⅠ）
 - ・小鍋内Ⅱ遺跡：SR-KNⅡ（SAKURA-KONABEUCHIⅡ）である。

遺構

1. 遺構の表示は、SA（掘立柱塼）、SB（掘立柱建物）、SD（溝）、SE（井戸）、SI（竪穴建物）、SK（土坑・方形竪穴遺構・地下式坑・一部小ピット）、SX（周溝遺構・柱穴状土坑・性格不明遺構）の略号で示し、番号は遺構の種類・時期に関係なく、確認した順に付した。報告書においても原則としてこれを踏襲している。なお、竪穴建物跡に付属する柱穴や貯蔵穴は遺構毎に「P1、P2…」と発番した。なお、本報告書では発掘調査時の遺構番号を踏襲しているが、発掘調査・整理事業の過程で変更・欠番になった番号もある。
2. 各遺構の位置については、国家座標第Ⅸ系に基づくグリッドにより表記した。方位については国家座標第Ⅸ系に基づく座標北である。
3. 現地での遺構実測は原則として縮尺1/20で行った。また、報告書掲載の遺構実測図は、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸を1/80、竪穴建物跡に付属するカマド・張出ピットなど1/40を原則とした。
4. 遺構実測図中の断面水準は海拔標高を示す。

遺物

1. 遺物は発掘調査時、器種や材質によらず、概ね出土遺構単位に1、2、3、……と付して取り上げた。本報告においては遺構単位に土器（縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器）、石製品、鉄器、土製品に番号を付した。遺構外や明らかに遺構に伴わない遺物は一括して遺構外出土遺物と見なし、時代別にまとめた。
2. 遺物実測図の縮尺は、原則として縄文土器・弥生土器・土製品・石製品を1/3、土師器・須恵器・中世陶器・土師質土器を1/4、石器・銅銭を2/3で掲載した。なお、遺物の大きさ・形状によっては適宜縮尺を変え、実測図とともにスケールを示した。
3. 遺物実測図中、灰釉陶器断面、および黒色処理された土師器内面、土師器の赤彩・漆塗布範囲にはスクリーントーンを添付した。また、須恵器断面は黒く塗りつぶした。
4. 写真図版の遺物番号は、挿図の遺物番号に一致する。
5. 遺物写真図版の縮尺は不統一である。

目次

序	
例言	i
凡例	iii
目次・挿図目次・表目次・巻首図版目次	iv
第Ⅰ章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査の方法	4
第Ⅱ章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	8
第Ⅲ章 小鍋内Ⅰ遺跡	
第1節 遺跡の概要	20
第2節 旧石器時代から弥生時代の出土遺物	23
1. 旧石器時代の遺物 2. 縄文時代の遺物 3. 弥生時代の遺物	
第3節 古墳時代の遺構と遺物	28
1. 竪穴建物跡 2. 土坑 3. 遺構外出土遺物	
第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物	64
1. 竪穴建物跡 2. 遺構外出土遺物	
第5節 中世以降の遺構と遺物	74
1. 溝跡 2. 土坑 3. ビット 4. 遺構外出土遺物	
第Ⅳ章 小鍋内Ⅱ遺跡	
第1節 遺跡の概要	123
第2節 旧石器時代	127
1. 旧石器時代の遺物	
第3節 縄文時代の遺構と遺物	128
1. 竪穴建物跡 2. 遺構外出土遺物	
第4節 弥生時代	143
1. 弥生時代の遺物	
第5節 古墳時代の遺構と遺物	145
1. 竪穴建物跡 2. 土坑 3. 遺構外出土遺物	
第6節 奈良・平安時代の遺構と遺物	203
1. 掘立柱脚跡 2. 掘立柱建物跡 3. 溝跡 4. 竪穴建物跡 5. 土坑 6. 遺構外出土遺物	
第7節 中世以降の遺構と遺物	239
1. 井戸跡 2. 土坑 3. ビット 4. 遺構外出土遺物	
第Ⅴ章 調査のまとめ	
第1節 古墳時代から平安時代の遺構・遺物について	297
第2節 中世以降の遺構・遺物について	301
附章 小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡発掘調査に係る自然科学分析	303

挿図目次

第1図	江川南部1地区事業地内遺跡地図	2
第2図	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡標準土層図	4
第3図	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡グリッド配置図	5
第4図	栃木県の地形図	6
第5図	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡の位置および周辺の地形図	7
第6図	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡分布図(旧石器時代、縄文時代、弥生時代)	9
第7図	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡分布図(古墳時代)	12
第8図	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡分布図(奈良・平安時代)	15
第9図	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡分布図(中世)	18
第10図	小鍋内I遺跡 調査区全体図	21・22
第11図	小鍋内I遺跡 遺構外出土の旧石器時代遺物実測図	23
第12図	小鍋内I遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物実測図	24
第13図	小鍋内I遺跡 遺構外出土の弥生時代遺物実測図	27
第14図	小鍋内I遺跡 SI-168実測図	28
第15図	小鍋内I遺跡 SI-168出土遺物実測図	28
第16図	小鍋内I遺跡 SI-256実測図	29
第17図	小鍋内I遺跡 SI-256出土遺物実測図	30
第18図	小鍋内I遺跡 SI-263実測図	31
第19図	小鍋内I遺跡 SI-263出土遺物実測図	32
第20図	小鍋内I遺跡 SI-279実測図	33
第21図	小鍋内I遺跡 SI-279出土遺物実測図	34
第22図	小鍋内I遺跡 SI-299実測図	37
第23図	小鍋内I遺跡 SI-299出土遺物実測図	38
第24図	小鍋内I遺跡 SI-301実測図(1)	41
第25図	小鍋内I遺跡 SI-301実測図(2)	42
第26図	小鍋内I遺跡 SI-301出土遺物実測図(1)	42
第27図	小鍋内I遺跡 SI-301出土遺物実測図(2)	43
第28図	小鍋内I遺跡 SI-307実測図	46
第29図	小鍋内I遺跡 SI-307出土遺物実測図	46
第30図	小鍋内I遺跡 SI-310実測図	48
第31図	小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物実測図(1)	49
第32図	小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物実測図(2)	50
第33図	小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物実測図(3)	51
第34図	小鍋内I遺跡 SI-311実測図	54
第35図	小鍋内I遺跡 SI-311出土遺物実測図	55
第36図	小鍋内I遺跡 古墳時代土坑分布図	58
第37図	小鍋内I遺跡 古墳時代土坑実測図(1)	59
第38図	小鍋内I遺跡 SK-254・SK-257・SK-261出土遺物実測図	60
第39図	小鍋内I遺跡 古墳時代土坑実測図(2)	61
第40図	小鍋内I遺跡 SK-304・SK-314出土遺物実測図	62
第41図	小鍋内I遺跡 遺構外出土の古墳時代遺物実測図	63
第42図	小鍋内I遺跡 SI-232実測図	65
第43図	小鍋内I遺跡 SI-232出土遺物実測図	65
第44図	小鍋内I遺跡 SI-240実測図	66
第45図	小鍋内I遺跡 SI-240出土遺物実測図	66
第46図	小鍋内I遺跡 SI-246実測図	67
第47図	小鍋内I遺跡 SI-246出土遺物実測図	67
第48図	小鍋内I遺跡 SI-276実測図	68
第49図	小鍋内I遺跡 SI-276出土遺物実測図	68

第50図	小鍋内 I 遺跡	SI-280実測図	69
第51図	小鍋内 I 遺跡	SI-280出土遺物実測図 (1)	70
第52図	小鍋内 I 遺跡	SI-280出土遺物実測図 (2)	71
第53図	小鍋内 I 遺跡	SI-294実測図	73
第54図	小鍋内 I 遺跡	SI-294出土遺物実測図	73
第55図	小鍋内 I 遺跡	遺構外出土の奈良・平安時代遺物実測図	74
第56図	小鍋内 I 遺跡	SD-004実測図	75
第57図	小鍋内 I 遺跡	SD-013・SD-014実測図	75
第58図	小鍋内 I 遺跡	SD-013出土遺物実測図	75
第59図	小鍋内 I 遺跡	SD-016実測図	76
第60図	小鍋内 I 遺跡	SD-090実測図	76
第61図	小鍋内 I 遺跡	SD-090出土遺物実測図	76
第62図	小鍋内 I 遺跡	中世以降溝・土坑分布図 (1)	77
第63図	小鍋内 I 遺跡	中世以降溝・土坑分布図 (2)	78
第64図	小鍋内 I 遺跡	SD-114・SD-115実測図	79
第65図	小鍋内 I 遺跡	SD-115出土遺物実測図	80
第66図	小鍋内 I 遺跡	SD-166実測図	80
第67図	小鍋内 I 遺跡	SD-187・SD-188・SD-234・SD-235実測図	81
第68図	小鍋内 I 遺跡	SD-189・SD-224・SD-225実測図	82
第69図	小鍋内 I 遺跡	SD-227・SD-230・SD-238・SD-239実測図	83・84
第70図	小鍋内 I 遺跡	SD-262・SD-269実測図	85
第71図	小鍋内 I 遺跡	SD-290・SD-291実測図	86
第72図	小鍋内 I 遺跡	SD-305実測図	87
第73図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (1)	88
第74図	小鍋内 I 遺跡	SK-007・SK-010・SK-011出土遺物実測図	88
第75図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (2)	89
第76図	小鍋内 I 遺跡	SK-017出土遺物実測図	89
第77図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (3)	91
第78図	小鍋内 I 遺跡	SK-028・SK-030出土遺物実測図	91
第79図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (4)	92
第80図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (5)	93
第81図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (6)	94
第82図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (7)	95
第83図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (8)	96
第84図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (9)	97
第85図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (10)	98
第86図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (11)	99
第87図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (12)	100
第88図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (13)	101
第89図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (14)	102
第90図	小鍋内 I 遺跡	SK-207出土遺物実測図	102
第91図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (15)	103
第92図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (16)	104
第93図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (17)	105
第94図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (18)	106
第95図	小鍋内 I 遺跡	中世以降土坑実測図 (19)	107
第96図	小鍋内 I 遺跡	SK-296出土遺物実測図	107
第97図	小鍋内 I 遺跡	ビット分布図	116
第98図	小鍋内 I 遺跡	ビット分布図 (A)	117

第99図	小鍋内Ⅰ遺跡	ビット分布図 (B)	118
第100図	小鍋内Ⅰ遺跡	ビット分布図 (C)	119
第101図	小鍋内Ⅰ遺跡	遺構外出土の中世以降遺物実測図	122
第102図	小鍋内Ⅱ遺跡	調査区全体図	123
第103図	小鍋内Ⅱ遺跡	調査区(北区) 遺構分布図	124
第104図	小鍋内Ⅱ遺跡	調査区(西区) 遺構分布図	125
第105図	小鍋内Ⅱ遺跡	調査区(東区) 遺構分布図	126
第106図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の旧石器時代遺物実測図	127
第107図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-003実測図	128
第108図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-003出土遺物実測図 (1)	129
第109図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-003出土遺物実測図 (2)	131
第110図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-005実測図 (1)	132
第111図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-005実測図 (2)	133
第112図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-005出土遺物実測図	134
第113図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の縄文時代遺物実測図 (1)	137
第114図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の縄文時代遺物実測図 (2)	138
第115図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の縄文時代遺物実測図 (3)	139
第116図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の弥生時代遺物実測図	143
第117図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-001実測図 (1)	146
第118図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-001実測図 (2) 及び出土遺物実測図	147
第119図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-002実測図 (1)	150
第120図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-002実測図 (2)	151
第121図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-002出土遺物実測図 (1)	152
第122図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-002出土遺物実測図 (2)	153
第123図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-004実測図 (1)	157
第124図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-004実測図 (2) 及び出土遺物実測図 (1)	158
第125図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-004出土遺物実測図 (2)	159
第126図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-006実測図 (1)	161
第127図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-006実測図 (2)	162
第128図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-006出土遺物実測図	163
第129図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-007実測図 (1)	165
第130図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-007実測図 (2)	166
第131図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-007出土遺物実測図	167
第132図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-008実測図	170
第133図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-008出土遺物実測図	171
第134図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-050実測図	172
第135図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-050出土遺物実測図	173
第136図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-053実測図 (1)	174
第137図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-053実測図 (2)	175
第138図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-053出土遺物実測図 (1)	176
第139図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-053出土遺物実測図 (2)	177
第140図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-055実測図	180
第141図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-055出土遺物実測図	181
第142図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-121実測図	183
第143図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-121出土遺物実測図	184
第144図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-139実測図	187
第145図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-139出土遺物実測図	187
第146図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-146実測図	188
第147図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-183実測図	189

第148図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-183出土遺物実測図	189
第149図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-185実測図	191
第150図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-185出土遺物実測図	192
第151図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-300実測図	193
第152図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-300出土遺物実測図	194
第153図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-301実測図	194
第154図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-457実測図及び出土遺物実測図	195
第155図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-475実測図及び出土遺物実測図	196
第156図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-521実測図	198
第157図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-521出土遺物実測図	198
第158図	小鍋内Ⅱ遺跡	古墳時代土坑実測図	200
第159図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-014出土遺物実測図	200
第160図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の古墳時代遺物実測図	202
第161図	小鍋内Ⅱ遺跡	SA-044実測図	203
第162図	小鍋内Ⅱ遺跡	SA-821実測図	204
第163図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-152実測図	205
第164図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-152出土遺物実測図	206
第165図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-250実測図	207
第166図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-251実測図	208
第167図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-252実測図	209
第168図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-253実測図	210
第169図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-254実測図	211
第170図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-262実測図	212
第171図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-262出土遺物実測図	213
第172図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-674実測図	214
第173図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-674出土遺物実測図	215
第174図	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-820実測図及び出土遺物実測図	216
第175図	小鍋内Ⅱ遺跡	SD-054・SD-136実測図	217・218
第176図	小鍋内Ⅱ遺跡	SD-054出土遺物実測図	219
第177図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-102実測図(1)	221
第178図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-102実測図(2)	222
第179図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-102出土遺物実測図(1)	222
第180図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-102出土遺物実測図(2)	223
第181図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-171実測図及び出土遺物実測図	226
第182図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-172実測図及び出土遺物実測図	227
第183図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-184実測図	228
第184図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-184出土遺物実測図	229
第185図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-263実測図及び出土遺物実測図	231
第186図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-302実測図	231
第187図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-302出土遺物実測図	232
第188図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-303実測図	234
第189図	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-303出土遺物実測図	235
第190図	小鍋内Ⅱ遺跡	奈良・平安時代土坑実測図	236
第191図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-022・SK-052・SK-062・SK-360出土遺物実測図	237
第192図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の奈良・平安時代遺物実測図	238
第193図	小鍋内Ⅱ遺跡	SE-135実測図	239
第194図	小鍋内Ⅱ遺跡	SE-135出土遺物実測図	240
第195図	小鍋内Ⅱ遺跡	SE-768実測図及び出土遺物実測図	241
第196図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑分布図(北区)	243・244

第197図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑分布図(西区)……………	245
第198図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑分布図(東区)……………	246
第199図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(1)……………	247
第200図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(2)……………	248
第201図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(3)……………	249
第202図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(4)……………	250
第203図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(5)……………	251
第204図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(6)……………	252
第205図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(7)……………	253
第206図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(8)……………	254
第207図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-321・SK-328出土遺物実測図……………	254
第208図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(9)……………	255
第209図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(10)……………	256
第210図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(11)……………	257
第211図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(12)及びSK-461～SK-464出土遺物実測図……………	258
第212図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(13)……………	259
第213図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-391・SK-472出土遺物実測図……………	259
第214図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(14)……………	260
第215図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-395出土遺物実測図……………	260
第216図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(15)……………	261
第217図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-400出土遺物実測図……………	261
第218図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(16)……………	262
第219図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-402出土遺物実測図……………	262
第220図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(17)……………	263
第221図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-456出土遺物実測図……………	263
第222図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(18)……………	264
第223図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-589他・SK-666周辺出土遺物実測図……………	264
第224図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(19)……………	266
第225図	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-605出土遺物実測図……………	266
第226図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(20)……………	267
第227図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑実測図(21)……………	268
第228図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット分布全体図……………	276
第229図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット分布図(北区)……………	277
第230図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット分布図(西区)……………	278
第231図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット分布図(東区)……………	279
第232図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット実測図(1)……………	280
第233図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット実測図(2)……………	281
第234図	小鍋内Ⅱ遺跡	S-563・S-610・S-617出土遺物実測図……………	281
第235図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット実測図(3)……………	282
第236図	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降ビット実測図(4)……………	283
第237図	小鍋内Ⅱ遺跡	S-819出土遺物実測図……………	283
第238図	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の中世以降遺物実測図……………	296
第239図	小鍋内Ⅱ遺跡	黒曜石原産地判別図(関東地域)……………	306
第240図	小鍋内Ⅰ遺跡	SI-310試料のX線回分析チャート……………	307

表目次

第1表	江川南部1地区事業地内遺跡一覧表	2
第2表	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺的主要遺跡一覧表(旧石器時代、縄文時代、弥生時代)	10
第3表	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺的主要遺跡一覧表(古墳時代)(1)	13
第4表	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺的主要遺跡一覧表(古墳時代)(2)	14
第5表	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡一覧表(奈良・平安時代)	16
第6表	小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡一覧表(中世)	19
第7表	小鍋内I遺跡 遺構外出土の旧石器時代遺物観察表	23
第8-1表	小鍋内I遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(1)	25
第8-2表	小鍋内I遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(2)	26
第8-3表	小鍋内I遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(3)	26
第9表	小鍋内I遺跡 遺構外出土の弥生時代遺物観察表	27
第10表	小鍋内I遺跡 SI-168出土遺物観察表	28
第11表	小鍋内I遺跡 SI-256出土遺物観察表	30
第12表	小鍋内I遺跡 SI-263出土遺物観察表	32
第13-1表	小鍋内I遺跡 SI-279出土遺物観察表(1)	34
第13-2表	小鍋内I遺跡 SI-279出土遺物観察表(2)	35
第14-1表	小鍋内I遺跡 SI-299出土遺物観察表(1)	39
第14-2表	小鍋内I遺跡 SI-299出土遺物観察表(2)	40
第15-1表	小鍋内I遺跡 SI-301出土遺物観察表(1)	43
第15-2表	小鍋内I遺跡 SI-301出土遺物観察表(2)	44
第15-3表	小鍋内I遺跡 SI-301出土遺物観察表(3)	45
第16表	小鍋内I遺跡 SI-307出土遺物観察表	46
第17-1表	小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物観察表(1)	51
第17-2表	小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物観察表(2)	52
第17-3表	小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物観察表(3)	53
第17-4表	小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物観察表(4)	53
第18-1表	小鍋内I遺跡 SI-311出土遺物観察表(1)	55
第18-2表	小鍋内I遺跡 SI-311出土遺物観察表(2)	56
第19表	小鍋内I遺跡 SK-254出土遺物観察表	60
第20表	小鍋内I遺跡 SK-257出土遺物観察表	60
第21表	小鍋内I遺跡 SK-261出土遺物観察表	60
第22表	小鍋内I遺跡 SK-304出土遺物観察表	62
第23表	小鍋内I遺跡 SK-314出土遺物観察表	62
第24表	小鍋内I遺跡 古墳時代土坑一覧表	62
第25表	小鍋内I遺跡 遺構外出土の古墳時代遺物観察表	64
第26表	小鍋内I遺跡 SI-232出土遺物観察表	65
第27表	小鍋内I遺跡 SI-240出土遺物観察表	66
第28表	小鍋内I遺跡 SI-246出土遺物観察表	67
第29表	小鍋内I遺跡 SI-276出土遺物観察表	68
第30-1表	小鍋内I遺跡 SI-280出土遺物観察表(1)	72
第30-2表	小鍋内I遺跡 SI-280出土遺物観察表(2)	72
第31表	小鍋内I遺跡 SI-294出土遺物観察表	73
第32表	小鍋内I遺跡 遺構外出土の奈良・平安時代遺物観察表	74
第33表	小鍋内I遺跡 SD-013出土遺物観察表	75
第34表	小鍋内I遺跡 SD-090出土遺物観察表	76
第35表	小鍋内I遺跡 SD-115出土遺物観察表	80
第36表	小鍋内I遺跡 SK-007出土遺物観察表	90
第37表	小鍋内I遺跡 SK-010出土遺物観察表	90
第38表	小鍋内I遺跡 SK-011出土遺物観察表	90

第39-1表	小鍋内Ⅰ遺跡	SK-017出土遺物観察表(1)	90
第39-2表	小鍋内Ⅰ遺跡	SK-017出土遺物観察表(2)	90
第40表	小鍋内Ⅰ遺跡	SK-028出土遺物観察表	90
第41表	小鍋内Ⅰ遺跡	SK-030出土遺物観察表	90
第42表	小鍋内Ⅰ遺跡	SK-207出土遺物観察表	103
第43表	小鍋内Ⅰ遺跡	SK-296出土遺物観察表	107
第44-1表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	108
第44-2表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	109
第44-3表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	110
第44-4表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	111
第44-5表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	112
第44-6表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	113
第44-7表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	114
第44-8表	小鍋内Ⅰ遺跡	中世以降土坑一覧表	115
第45-1表	小鍋内Ⅰ遺跡	ビット一覧表	120
第45-2表	小鍋内Ⅰ遺跡	ビット一覧表	121
第45-3表	小鍋内Ⅰ遺跡	ビット一覧表	122
第46-1表	小鍋内Ⅰ遺跡	遺構外出土の中世以降遺物観察表(1)	122
第46-2表	小鍋内Ⅰ遺跡	遺構外出土の中世以降遺物観察表(2)	122
第47表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の旧石器時代遺物観察表	127
第48-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-003出土遺物観察表(1)	130
第48-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-003出土遺物観察表(2)	131
第49-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-005出土遺物観察表(1)	135
第49-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-005出土遺物観察表(2)	135
第50-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の縄文時代遺物観察表(1)	140
第50-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の縄文時代遺物観察表(2)	141
第50-3表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の縄文時代遺物観察表(3)	142
第51表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の弥生時代遺物観察表	144
第52-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-001出土遺物観察表	147
第52-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-001出土遺物観察表	148
第53-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-002出土遺物観察表(1)	154
第53-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-002出土遺物観察表(2)	155
第54-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-004出土遺物観察表(1)	159
第54-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-004出土遺物観察表(2)	159
第55表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-006出土遺物観察表	164
第56表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-007出土遺物観察表	168
第57表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-008出土遺物観察表	171
第58表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-050出土遺物観察表	173
第59-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-053出土遺物観察表(1)	177
第59-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-053出土遺物観察表(2)	178
第60-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-055出土遺物観察表(1)	182
第60-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-055出土遺物観察表(2)	182
第61表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-121出土遺物観察表	185
第62表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-139出土遺物観察表	187
第63表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-183出土遺物観察表	190
第64表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-185出土遺物観察表	192
第65表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-300出土遺物観察表	194
第66表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-457出土遺物観察表	195
第67表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-475出土遺物観察表	197

第68表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-521出土遺物観察表	198
第69表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-014出土遺物観察表	201
第70表	小鍋内Ⅱ遺跡	古墳時代土坑一覽表	201
第71表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の古墳時代遺物観察表	202
第72表	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-152出土遺物観察表	206
第73表	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-262出土遺物観察表	213
第74-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-674出土遺物観察表(1)	215
第74-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-674出土遺物観察表(2)	215
第75表	小鍋内Ⅱ遺跡	SB-820出土遺物観察表	216
第76表	小鍋内Ⅱ遺跡	SD-054出土遺物観察表	219
第77-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-102出土遺物観察表(1)	224
第77-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-102出土遺物観察表(2)	225
第78表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-171出土遺物観察表	227
第79表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-172出土遺物観察表	227
第80-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-184出土遺物観察表(1)	229
第80-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-184出土遺物観察表(2)	230
第81表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-263出土遺物観察表	231
第82-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-302出土遺物観察表(1)	233
第82-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-302出土遺物観察表(2)	233
第83表	小鍋内Ⅱ遺跡	SI-303出土遺物観察表	235
第84表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-022・SK-052・SK-062・SK-360出土遺物観察表	237
第85表	小鍋内Ⅱ遺跡	奈良・平安時代土坑一覽表	237
第86表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の奈良・平安時代遺物観察表	238
第87-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SE-135出土遺物観察表(1)	240
第87-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SE-135出土遺物観察表(2)	240
第88表	小鍋内Ⅱ遺跡	SE-768出土遺物観察表	241
第89表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-321出土遺物観察表	254
第90表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-328出土遺物観察表	254
第91表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-461～464出土遺物観察表	258
第92表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-402出土遺物観察表	262
第93表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-391出土遺物観察表	265
第94表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-472出土遺物観察表	265
第95表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-395出土遺物観察表	265
第96-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-400出土遺物観察表(1)	265
第96-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-400出土遺物観察表(2)	265
第97表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-456出土遺物観察表	265
第98表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-589出土遺物観察表	265
第99表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-666出土遺物観察表	265
第100表	小鍋内Ⅱ遺跡	SK-605出土遺物観察表	266
第101-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑一覽表	269
第101-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑一覽表	270
第101-3表	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑一覽表	271
第101-4表	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑一覽表	272
第101-5表	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑一覽表	273
第101-6表	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑一覽表	274
第101-7表	小鍋内Ⅱ遺跡	中世以降土坑一覽表	275
第102表	小鍋内Ⅱ遺跡	S-610出土遺物観察表	282
第103表	小鍋内Ⅱ遺跡	S-617出土遺物観察表	282
第104表	小鍋内Ⅱ遺跡	S-563出土遺物観察表	282

第105表	小鍋内Ⅱ遺跡	S-819出土遺物観察表	283
第106-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	284
第106-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	285
第106-3表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	286
第106-4表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	287
第106-5表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	288
第106-6表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	289
第106-7表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	290
第106-8表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	291
第106-9表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	292
第106-10表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	293
第106-11表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	294
第106-12表	小鍋内Ⅱ遺跡	ピット一覧表	295
第107-1表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の中世以降遺物観察表(1)	296
第107-2表	小鍋内Ⅱ遺跡	遺構外出土の中世以降遺物観察表(2)	296
第108表	蛍光X線分析測定条件		304
第109表	黒曜石元素分析結果		305

図版目次

巻頭図版一	小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡 全景	SI-299貯蔵穴 完掘全景(南より)
巻頭図版二	小鍋内Ⅰ遺跡 全景(東上空より)	SI-301 完掘全景白線入り(南東より)
	小鍋内Ⅱ遺跡 全景(南上空より)	SI-301カマド 確認状況(南東より)
図版一 小鍋内Ⅰ遺跡 航空写真	小鍋内Ⅰ遺跡 全景	SI-301張出ピット 遺物出土状況(南より)
	小鍋内Ⅱ遺跡 全景(南東上空より)	図版五 小鍋内Ⅰ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡・土坑
図版二 小鍋内Ⅰ遺跡 作業風景	小鍋内Ⅰ遺跡 調査区全景(南半分)(北西より)	SI-307 遺物出土状況(西より)
	小鍋内Ⅰ遺跡 作業風景(北より)	SI-310 完掘全景(西より)
	小鍋内Ⅰ遺跡 作業風景(南西より)	SI-310北東隅 遺物出土状況(北より)
	小鍋内Ⅰ遺跡 作業風景(北西より)	SI-310カマド周辺 遺物出土状況(北より)
	小鍋内Ⅰ遺跡 作業風景(東より)	SI-311 完掘全景(西より)
図版三 小鍋内Ⅰ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡	SI-168 土層断面(南西より)	SK-254 完掘全景(南より)
	SI-168、SD-166、SK-167・169~174 完掘全景(南西より)	SK-261 完掘全景(南東より)
	SI-256 完掘全景白線入り(北東より)	SK-287 遺物出土状況(東より)
	SI-256貯蔵穴 遺物出土状況(西より)	図版六 小鍋内Ⅰ遺跡 古墳時代の土坑・奈良~平安時代の竪穴建物跡
	SI-263 完掘全景白線入り(南東より)	SK-304 完掘全景(南より)
	SI-263貯蔵穴 遺物出土状況(東より)	SK-232 完掘全景(南東より)
	SI-279 遺物出土状況(南東より)	SI-240 遺物出土状況(南東より)
	SI-279カマド 土層断面・遺物出土状況(南東より)	SI-246・SK-247 完掘全景(北東より)
図版四 小鍋内Ⅰ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡	SI-279カマド 土層断面・遺物出土状況(北東より)	SI-246カマド・貯蔵穴 完掘全景(東より)
	SI-279カマド 完掘全景(南東より)	SI-276 完掘全景(南東より)
	SI-299 遺物出土状況(南より)	SI-276カマド 完掘全景(南より)
	SI-299 ^併 確認状況(南より)	SI-280 遺物出土状況(南より)
		図版七 小鍋内Ⅰ遺跡 奈良・平安時代の竪穴建物跡・中世以降の溝跡
		SI-280南西隅 遺物出土状況(北東より)
		SI-280南西隅 遺物出土状況(東より)
		SI-280 墨書土器「万用」出土状況(南より)
		SI-280カマド 土層断面(南より)

SI-294カマド 完掘全景(東より)
SD-013・014・016、SK-008・010~012・017・
018・021 完掘全景(北西より)
SD-114・115、SK-113 土層断面(南西より)
SD-187・188・234・235 完掘全景(南西より)

図版八 小鍋内I遺跡 中世以降の溝跡・土坑

SD-189・224・225・227、SK-226 完掘全景(北西より)
SD-227・230・238、SK-231 完掘全景(西より)
SK-019・020 完掘全景(西より)
SK-022・023 完掘全景(西より)
SK-024 完掘全景(南西より)
SK-027~030・045・069 完掘全景(南西より)
SK-032・038~040 完掘全景(南東より)
SK-033~037 完掘全景(北東より)

図版九 小鍋内I遺跡 中世以降の土坑

SK-036・038~044 完掘全景(北東より)
SK-046 完掘全景(南東より)
SK-046~049・060・061 完掘全景(北東より)
SK-050~054 完掘全景(北東より)
SK-055~057・092・095 完掘全景(北より)
SK-062~068 完掘全景(南東より)
SK-070~072・093・094 完掘全景(北東より)
SK-071・072・093・094・100・108~112 完掘全景(南西より)

図版一〇 小鍋内I遺跡 中世以降の土坑

SK-073~075 完掘全景(南東より)
SK-077~080 完掘全景(北東より)
SK-081~089・096、SD-090 完掘全景(北より)
SK-093・094・112 完掘全景(北より)
SK-111 完掘全景(東より)
SK-119 完掘全景(北東より)
SK-120・122~124・135~141 完掘全景(東より)
SK-121 完掘全景(南西より)

図版一一 小鍋内I遺跡 中世以降の土坑

SK-133・134・142・148 完掘全景(南西より)
SK-146・147・155 完掘全景(南東より)
SK-148・151~154・156~158 完掘全景(北西より)
SK-149・150 完掘全景(北東より)
SK-159~165 完掘全景(南東より)
SK-175~180 完掘全景(北東より)
SK-181~183 完掘全景(南西より)
SK-184~186、SD-234 完掘全景(南西より)

図版一二 小鍋内I遺跡 中世以降の土坑

SK-190~192 完掘全景(西より)
SK-193~195 完掘全景(南西より)
SK-196 完掘全景(南東より)
SK-198 完掘全景(北東より)
SK-199 完掘全景(北東より)
SK-200・203 完掘全景(東より)
SK-204・205 完掘全景(北東より)
SK-207 完掘全景(東より)

図版一三 小鍋内I遺跡 中世以降の土坑

SK-208 完掘全景(北東より)
SK-211~213 完掘全景(北より)
SK-215 完掘全景(北東より)
SK-216~218 完掘全景(北東より)
SK-219 完掘全景(北東より)
SK-220・221 完掘全景(南西より)
SK-222 完掘全景(北東より)
SK-229 完掘全景(西より)

図版一四 小鍋内I遺跡 中世以降の土坑

SK-249 完掘全景(南東より)
SK-250 完掘全景(東より)
SK-252 完掘全景(東より)
SK-263~266 完掘全景(南東より)
SK-292 完掘全景(北東より)
SK-293 完掘全景(東より)
SK-296 完掘全景(北より)
SK-302 完掘全景(南東より)

図版一五 小鍋内I遺跡 旧石器時代から弥生時代の遺物

旧石器・縄文土器・縄文時代石製品・弥生土器

図版一六 小鍋内I遺跡 古墳時代の遺物

SI-256・263・279・299

図版一七 小鍋内I遺跡 古墳時代の遺物

SI-299・301

図版一八 小鍋内I遺跡 古墳時代の遺物

SI-301・310

図版一九 小鍋内I遺跡 古墳時代の遺物

SI-310

図版二〇 小鍋内I遺跡 古墳時代・平安時代の遺物

SI-310・311、SK-257・261、遺構外出土遺物、SI-232・240

図版二一 小鍋内I遺跡 平安時代・中世以降の遺物

SI-246・276・280、SK-017・030・028・207・296、遺構外出土遺物

図版二二 小鍋内II遺跡 航空写真

小鍋内II遺跡 全景(北東上空より)

小鍋内II遺跡 全景

図版二三 小鍋内II遺跡 作業風景

小鍋内II遺跡 東区全景(北より)

小鍋内II遺跡 作業風景(南西より)

小鍋内II遺跡 作業風景(北西より)

小鍋内II遺跡 作業風景(南東より)

小鍋内II遺跡 作業風景(南より)

図版二四 小鍋内II遺跡 縄文時代の竪穴建物跡

SI-003 遺物出土状況(南より)

SI-003 完掘全景(南より)

SI-003 完掘全景(南より)

SI-003^ア 確認状況(南より)

SI-005 完掘全景(南より)

SI-005^ア 土層断面(西より)

SI-005東壁際柱穴 完掘全景(北より)

SI-005西・南壁際柱穴 完掘全景(北西より)

図版二五 小鎮内Ⅱ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡

- SI-001 完掘全景 (南東より)
 SI-001 張出部遺物出土状況 (北西より)
 SI-001 張出部完掘全景 (南東より)
 SI-002 遺物出土状況 (南より)
 SI-002 完掘全景 (東より)
 SI-002カマド 全景 (南より)
 SI-002 掘形完掘全景 (南より)
 SI-004 完掘全景 (南より)

図版二六 小鎮内Ⅱ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡

- SI-004カマド 確認状況 (南より)
 SI-004カマド 土層断面 (南より)
 SI-006 遺物出土状況 (南より)
 SI-006 完掘全景 (南より)
 SI-006北西隅カマド 完掘全景 (東より)
 SI-006 P5 土層断面 (東上より)
 SI-006 掘形完掘全景 (東より)
 SI-007 完掘全景 (南より)

図版二七 小鎮内Ⅱ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡

- SI-007 掘形完掘全景 (西より)
 SI-008 完掘全景 (西より)
 SI-008 掘形完掘全景 (西より)
 SI-053 完掘全景 (西より)
 SI-053カマド 全景 (西より)
 SI-053カマド 旧カマド全景 (南より)
 SI-053 P5・P6 遺物出土状況 (東より)
 SI-055 完掘全景 (西より)

図版二八 小鎮内Ⅱ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡

- SI-055カマド 全景 (西より)
 SI-121貯蔵穴 土層断面 (南より)
 SI-121貯蔵穴 遺物出土状況 (西より)
 SI-139 完掘全景 (南より)
 SI-146a・146b 完掘全景 (南より)
 SI-183 完掘全景 (南より)
 SI-185、184 遺物出土状況 (南より)
 SI-185張出ビット 遺物出土状況 (南より)

図版二九 小鎮内Ⅱ遺跡 古墳時代の竪穴建物跡・土坑

- SI-300 完掘全景 (南より)
 SI-521カマド 全景 (南東より)
 SK-014 遺物出土状況 (東より)
 SK-025 完掘全景 (南より)
 SK-064 完掘全景 (南より)
 SK-134 完掘全景 (南より)
 SK-189・188 完掘全景 (南より)
 SK-329 完掘全景 (西より)

図版三〇 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の竪穴柱櫓・竪穴柱建物跡

- SA-044 完掘全景 (南より)
 SA-044 P1 土層断面 (東より)
 SA-044 P3 土層断面 (東より)
 SA-821 P4 土層断面 (南より)
 SB-152 完掘全景 (南より)

図版三一 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の竪穴柱建物跡

- SB-152 P1 土層断面 (東より)
 SB-152 P2 土層断面 (東より)
 SB-152 P8 土層断面 (南より)
 SB-152 P10 土層断面 (東より)
 SB-250・SB-251 完掘全景 (南より)

図版三二 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の竪穴柱建物跡

- SB-250 P1 土層断面 (南より)
 SB-250 P4 土層断面 (南より)
 SB-251 P1 完掘全景 (東より)
 SB-251 P5 完掘全景 (南より)
 SB-252・253 完掘全景 (南より)

図版三三 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の竪穴柱建物跡

- SB-252 P2・SB-253 P2 土層断面 (南より)
 SB-252 P3 土層断面 (南より)
 SB-252 P4 土層断面 (南より)
 SB-252 P8 土層断面 (西より)
 SB-254 完掘全景 (西より)

図版三四 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の竪穴柱建物跡

- SB-254 P1 土層断面 (南より)
 SB-254 P4 土層断面 (南より)
 SB-262 完掘全景 (南より)
 SB-262 P1 土層断面 (東より)
 SB-262 P4 土層断面 (南東より)

図版三五 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の竪穴柱建物跡・竪穴建物跡

- SB-674 完掘全景 (南より)
 SB-674 P3 完掘全景 (南より)
 SB-820 P2 完掘全景 (西より)
 SI-102 遺物出土状況 (南より)
 SI-102 完掘全景 (南より)

図版三六 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の竪穴建物跡

- SI-171カマド 土層断面 (南より)
 SI-171柱穴 完掘全景 (南より)
 SI-171カマド・SI-172カマド 土層断面 (南より)
 SI-172カマド 土層断面 (南東より)
 SI-184 遺物出土状況 (南より)
 SI-184カマド 全景 (南より)
 SI-302 完掘全景 (南より)
 SI-303 完掘全景 (南より)

図版三七 小鎮内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代の土坑・中世以降の井戸跡・土坑

- SK-022 遺物出土状況 (北より)
 SK-052 完掘全景 (南より)
 SK-062 完掘全景 (南西より)
 SE-135 土層断面 (西より)
 SE-135 全景 (東より)
 SE-763 土層断面 (南東より)
 SK-009 完掘全景 (北より)
 SK-010・015 完掘全景 (北東より)

図版三八 小鎮内Ⅱ遺跡 中世以降の土坑

- SK-021 完掘全景 (東より)
 SK-026 完掘全景 (西より)

- SK-027 完掘全景 (南より)
 SK-029・042 完掘全景 (東より)
 SK-030 完掘全景 (南より)
 SK-038～041 完掘全景 (東より)
 SK-051 完掘全景 (南より)
 SK-058 完掘全景 (南より)
- 図版三九 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降の土坑**
 SK-069・070 完掘全景 (南より)
 SK-122 土層断面 (東より)
 SK-132 完掘全景 (南より)
 SK-143 完掘全景 (南より)
 SK-175 完掘全景 (南より)
 SK-217 完掘全景 (南より)
 SK-225 完掘全景 (南より)
 SK-268 完掘全景 (南より)
- 図版四〇 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降の土坑**
 SK-320 完掘全景 (西より)
 SK-363 完掘全景 (西より)
 SK-371・372、S-365・430・432・441・444 完掘全景 (西より)
 SK-382 完掘全景 (西より)
 SK-383 完掘全景 (西より)
 SK-392・472～474 完掘全景 (西より)
 SK-402・403a・403b 完掘全景 (西より)
 SK-438 完掘全景 (西より)
- 図版四一 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降の土坑・ピット**
 SK-445 完掘全景 (西より)
 SK-455・456 完掘全景 (南より)
 SK-473、SI-475 完掘全景 (西より)
 S-124 土層断面 (南より)
 S-125 土層断面 (東より)
 S-212 完掘全景 (南より)
 S-423 土層断面 (西より)
 S-819 遺物出土状況 (東より)
- 図版四二 小鍋内Ⅱ遺跡 旧石器時代・縄文時代の遺物**
 旧石器、SI-003、遺構外出土の縄文時代遺物
- 図版四三 小鍋内Ⅱ遺跡 縄文時代の遺物**
 SI-005
- 図版四四 小鍋内Ⅱ遺跡 縄文時代・弥生時代の遺物**
 SI-005、遺構外出土の縄文時代遺物、弥生土器
- 図版四五 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代の遺物**
 SI-001・002
- 図版四六 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代の遺物**
 SI-002・004
- 図版四六 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代の遺物**
 SI-006・007・008・050・053
- 図版四七 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代の遺物**
 SI-004・006
- 図版四八 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代の遺物**
 SI-006・007・008・050・053
- 図版四九 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代の遺物**
 SI-053・055
- 図版五〇 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代の遺物**
 SI-055・121・183
- 図版五一 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代・奈良・平安時代の遺物**
 SI-183・185・457・521、SK-014、遺構外出土遺物、SI-102
- 図版五二 小鍋内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代・中世以降の遺物**
 SI-102・184・302・303、SK-062・321・395・400・456・472、S-563・617・819、遺構外出土遺物

第Ⅰ章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

栃木県農政部による経営体育成基盤整備事業とは、将来の地域農業の担い手となる経営体を育成するために行う圃場整備のことを言う。この事業は、地域農業に必要な生産基盤等の整備を一体的に実施して、大規模水田地域の整備と優良農地の維持と保全を図る事を主目的としている。さくら市東部を流れる江川流域は、江川南部地区としてⅠ・Ⅱ地区の二地区を対象としている。この内、江川南部Ⅰ地区はさくら市鹿子畑地内を範囲とし、事業量71haを対象として平成13年度から着手している。

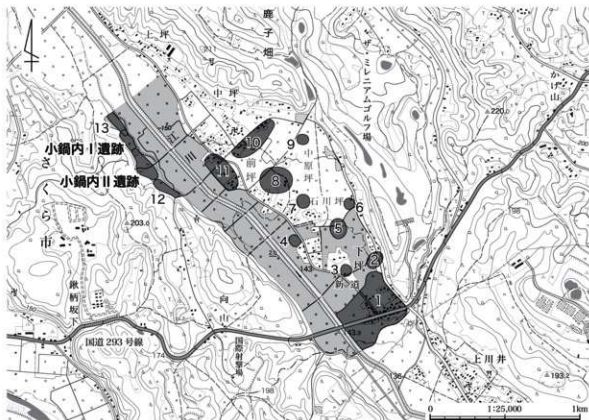
事業地内には、周知の遺跡（①前坪遺跡）の他に、喜連川町史編纂に係る所在調査で発見された17遺跡（小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡・石川前遺跡・①森後遺跡・②高山下遺跡・③下坪遺跡・④沢田遺跡・⑤中沢Ⅱ遺跡・⑥中沢Ⅲ遺跡・⑦中沢Ⅰ遺跡・⑧中原坪遺跡・⑨大沢遺跡・⑩切上遺跡・上原Ⅱ遺跡・⑪古屋敷遺跡・⑫欠ノ上Ⅱ遺跡・廣表Ⅱ遺跡）が存在していることが判明していた（第1図・第1表）。

平成12年度、事業着手に先んじて、栃木県農務部（以下「農務部」、現栃木県農政部）農地計画課から栃木県教育委員会事務局（以下、「県教委」）文化財課へ本事業の照会が行われ、同年「県教委」文化財課は塩谷農業振興事務所（以下、「塩谷農振」）と共に所在調査を実施した。平成15年度、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター（以下、「財団」）は、「県教委」文化財課の依頼を受け、県営圃場整備事業江川南部Ⅰ・Ⅱ地区内遺跡の確認調査を実施した。確認調査の結果、小鍋内Ⅰ遺跡では縄文時代・古墳時代～平安時代・中近世の土坑・溝等が確認され、小鍋内Ⅱ遺跡では縄文時代・古墳時代～平安時代の竪穴建物跡、中近世の土坑・溝等の存在が明らかになった。「県教委」文化財課は、この調査結果についての報告を「塩谷農振」との現地協議にて行った。同年度、「県教委」文化財課により「農務部」農地整備課へ確認調査結果が報告され、その後、「県教委」文化財課・「農務部」農地整備課・「塩谷農振」との協議の結果、平成20年度に小鍋内Ⅰ遺跡、平成21年度に小鍋内Ⅱ遺跡の、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の経過

【平成20年度】

平成20年4月22日付け文財号外文書において、「県教委」文化財課長より「財団」理事長あてに見積り依頼があり、同日付けとち埋文第11号文書で回答を行った。さらに、平成20年4月23日付け文財第119-1号文書において「県教委」教育長より「財団」理事長あてに「平成20年度経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区における埋蔵文化財発掘調査（森後遺跡、欠ノ上遺跡、小鍋内Ⅰ遺跡）の委託契約の締結について」の実施依頼があり、同日付けとち埋文第13号文書において「財団」理事長より「県教委」教育長あてに契約締結の回答を行った。受託業務内容は、小鍋内Ⅰ遺跡については「発掘調査」とし、発掘調査面積は「5,700㎡」で、受託期間は「平成20年4月23日から平成21年3月30日」までである。また、経営体育成基盤整備事業における工程の計画変更に伴い、翌年度調査予定範囲の表土除去を行うことになったため、契約変更を行うこととなった。平成21年1月9日付け文財第454号文書において、「県教委」文化財課長より「財団」理事長あてに再見積りの提出依頼があり、同日付けとち埋文第224号文書で回答を行った。さらに、平成21年1月9日付け文財第482-1号文書において「県教委」教育長よ



第1図 江川南部1地区事業地内遺跡地図

第1表 江川南部1地区事業地内遺跡一覧表

№	遺跡名	所在地	時代	遺跡の種類	確認調査対象面積 (㎡)	備考
1	森地遺跡	さくら市豊子塚	縄文・奈良～中世	集落・宮跡・環壕遺域	101,400	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。平成17～19年度本調査
2	高山下遺跡	さくら市豊子塚	縄文・奈良～平安	遺物散布地	450	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
3	下坪遺跡	さくら市豊子塚	奈良～平安	遺物散布地	8,800	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
4	沢田遺跡	さくら市豊子塚	奈良～平安	遺物散布地	1,000	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
5	中沢II遺跡	さくら市豊子塚	古墳・奈良～平安	遺物散布地	6,700	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
6	中沢I遺跡	さくら市豊子塚	縄文・近世	遺物散布地	2,200	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
7	中沢I遺跡	さくら市豊子塚	奈良～平安	遺物散布地	1,200	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
8	中原坪遺跡	さくら市豊子塚	縄文・古墳～中世	遺物散布地	13,500	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
9	大沢遺跡	さくら市豊子塚	古墳・奈良～平安	遺物散布地	4,800	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
10	切上遺跡	さくら市豊子塚	縄文・古墳	遺物散布地	26,400	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
11	川坪遺跡 (鹿子塚遺跡)	さくら市豊子塚	縄文・古墳・中世・近世	遺物散布地		現地の遺跡
12	古瀬敷遺跡	さくら市豊子塚	奈良～平安・中世・近世	遺物散布地	5,000	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。
13	久ノ上I遺跡	さくら市金城	縄文・奈良・古墳～中世	集落・遺物散布地	46,900 (久ノ上I遺跡含む)	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。平成20・21年度本調査
	小鍋内I遺跡	さくら市豊子塚	旧石器・縄文・弥生 古墳～中世	集落・居城 遺物散布地	46,900	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。平成20・21年度本調査
	小鍋内II遺跡	さくら市豊子塚	旧石器・縄文・弥生 古墳～中世	集落・居城 遺物散布地	16,300	高瀬川町史編纂に係る所在調査で新発見。平成20・21年度本調査

り「財団」理事長あてに「平成20年度経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区における埋蔵文化財発掘調査（森後遺跡、欠ノ上遺跡、小鍋内Ⅰ遺跡）の委託契約変更について」の変更契約依頼があり、同日付けとち埋文第225号文書において「財団」理事長より「県教委」教育長あてに変更契約締結の回答を行った。変更契約書においての変更点は、再委託承認業務の追加と、発掘調査対象範囲の追加である。

平成20年度は、小鍋内Ⅰ遺跡の北端部分の発掘調査を実施した。古墳時代前期から奈良・平安時代の竪穴建物跡や、中世以降の溝跡および土坑群などが確認された。

【平成21年度】

平成21年4月28日付け文財号外文書において、「県教委」文化財課長より「財団」理事長あてに見積り依頼があり、平成21年4月30日付けとち埋文第48号文書で回答を行った。さらに、平成21年5月1日付け文財第158-1号文書において「県教委」教育長より「財団」理事長あてに「平成21年度経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区における埋蔵文化財発掘調査（森後遺跡、欠ノ上Ⅱ遺跡、小鍋内Ⅰ遺跡、小鍋内Ⅱ遺跡）の委託契約の締結について」の実施依頼があり、同日付けとち埋文第50号文書において「財団」理事長より「県教委」教育長あてに契約締結の回答を行った。受託業務内容は、小鍋内Ⅰ遺跡については整理作業、小鍋内Ⅱ遺跡に関しては、「6,400㎡」の発掘調査および整理作業である。受託期間は「平成21年5月1日から平成22年3月30日」までである。また、当初計画した再委託業務の内容が諸般の事情により変更になったため、委託料が減額となり、契約変更を行うこととなった。平成21年9月30日付け文財第375号文書において、「県教委」文化財課長より「財団」理事長あてに見積りの提出依頼があり、同日付けとち埋文第262号文書で回答を行った。さらに、平成21年10月1日付け文財第401-1号文書において「県教委」教育長より「財団」理事長あてに「平成21年度経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区における埋蔵文化財発掘調査（森後遺跡、欠ノ上Ⅱ遺跡、小鍋内Ⅰ遺跡、小鍋内Ⅱ遺跡）の委託契約変更について」の変更契約依頼があり、同日付けとち埋文第273号文書において「財団」理事長より「県教委」教育長あてに変更契約締結の回答を行った。

平成21年度の発掘調査は、調査区を3分割（北区・西区・東区）して実施した。縄文時代前期の竪穴建物2軒、古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴建物26軒や奈良・平安時代の掘立柱建物9棟、中近世の土坑群などが確認され、旧石器、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰軸陶器、中世陶器、鉄製品などが出土した。

また、平成21年11月29日には、地元の鹿子畑・金枝地区の地域住民を主な対象とした「小鍋内Ⅱ遺跡発掘調査現地見学会」を実施し、86名の参加者があった。

整理作業は、記録類の整理、遺構の資料化、遺物の洗浄・注記作業、選別、接合・復元、実測作業などを実施した。

【平成23年度】

平成23年6月28日付け文財号外文書において、「県教委」文化財課長より「財団」理事長あてに見積り依頼があり、平成23年6月29日付けとち埋文第150号文書で回答を行った。さらに、平成23年7月1日付け文財第314-1号文書において「県教委」教育長より「財団」理事長あてに「平成23年度経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区における埋蔵文化財発掘調査（小鍋内Ⅰ遺跡、小鍋内Ⅱ遺跡）の委託契約の締結について」の実施依頼があり、同日付けとち埋文第178号文書において「財団」理事長より「県教委」教育長あてに契約締結の回答を行った。受託業務内容は「整理作業」とし、受託期間は「平成23年7月1日から平成24年3月30日」までである。

平成23年度には、小鍋内Ⅰ遺跡の遺構図作成、レイアウト等を行った。また、小鍋内Ⅱ遺跡については遺構図面整理、遺構第2原因図作成、遺構計測表作成を実施し、遺物の接合作業、復元作業、実測作業などを行った。

【平成24年度】

平成24年6月28日付け文財号外文書において、「県教委」文化財課長より「財団」理事長あてに見積り依頼があり、平成24年6月28日付けとち理文第122号文書で回答を行った。さらに、平成24年7月2日付け文財号外文書において「県教委」教育長より「財団」理事長あてに「平成24年度農地整備事業（経営体育成型）江川南部1地区における埋蔵文化財発掘調査（小鍋内Ⅰ遺跡、小鍋内Ⅱ遺跡）の委託締結について」の実施依頼があり、7月2日付けとち理文第134号文書において「財団」理事長より「県教委」教育長あてに契約締結の回答を行った。受託業務内容は「整理作業および報告書作成」とし、受託期間は「平成24年7月2日から平成25年3月28日」までである。

平成24年度には、小鍋内Ⅰ遺跡の遺構図のレイアウト、原稿執筆等を行った。また、小鍋内Ⅱ遺跡については遺構図作成、遺構図トレース・レイアウト、原稿執筆を実施し、両遺跡の遺物写真撮影などを行った。文章・図・写真の割り付けを経て入稿し、校正を含めた製本・印刷作業を実施して報告書を作成した。本報告書は平成25年3月28日に刊行し、遺物・図面・写真等を収納した後、全ての業務は平成25年3月28日に終了となった。

第3節 調査の方法

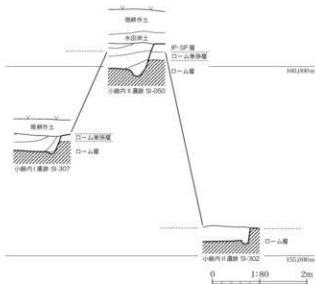
【発掘調査】 小鍋内Ⅰ遺跡、小鍋内Ⅱ遺跡の発掘調査では、遺構の位置、遺物の出土地点等を正確に地図上に表記するため、及び調査区内の遺構の位置関係を把握し易くする目的で、遺跡範囲のほぼ全体に対して、世界測地系に基づいた20m四方のメッシュを設定した。メッシュは、X座標81,300m・Y座標18,860mを北西の基点として20m間隔ごとに、東西辺では西からアルファベットの「A」～「W」を、南北辺は北から算用数字の「1」～「43」を付した。よって、各グリッドは、東西辺の名称と南北辺の名称の組み合わせにより、例えば「K-14」のように表記した。また、各グリッドは、北西コーナーに打設した杭を便宜的に基点とし、この杭にグリッド名を付した。このグリッド名は、上記の通り発掘調査時における遺物取り上げにも使用している。

遺構番号は、小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡で別個に付した。発掘調査業務において遺構の種類・時期に関係なく、調査区内の確認した遺構から発番している。また、本報告書では原則として発掘調査時の遺構番号を踏襲しているが、発掘調査・整理作業の過程で変更・欠番になった番号もある。

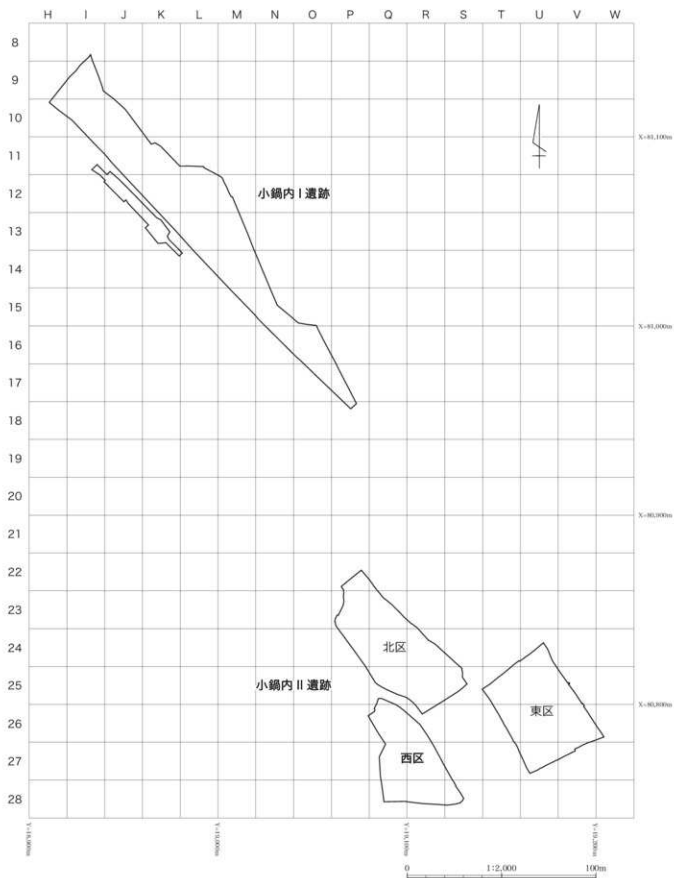
【整理作業・報告書作成】 整理作業の内、遺物については水洗、注記、接合・復元、実測、実測図トレース（コンピュータートレース・一部ハンドトレース）、挿図版（デジタル・一部版下）作成の順番で行った。遺構については、図面修正、第2原図作成、遺構図面トレース（コンピュータートレース）、挿図版（デジタル）作成の順番で行った。

報告書作成は、遺構（掘立柱建物・土坑等）計測表作成、遺物観察表作成、原稿執筆等を行った。

以上の作業の後、遺物・遺構図版挿図、遺物・遺構写真、原稿の全体割付けを行い、校正を含めた製本・印刷作業を実施し本報告書を作成した。



第2図 小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡標準土層図

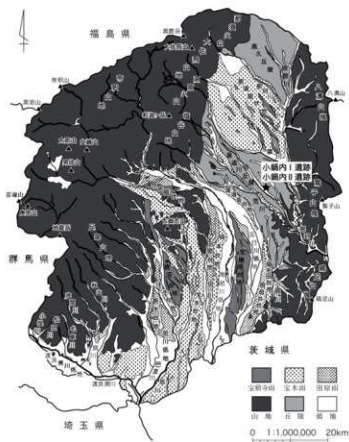


第3図 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡グリッド配置図

第II章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

栃木県は、関東平野の北部に位置し、北に福島県、南に埼玉県、西に群馬県、東に茨城県と接している内陸県である。県域の三方には山地が連なり、地形別に東部山地・西部山地・中央部平地の地形区に大別することができる(第4図)。東部山地は、福島県・茨城県との県境を南北に連なり、北部から八溝山塊・鷲子山塊・鶏足山塊に分かれ、八溝山地とも呼ばれる。西部山地は、三地形区の最大面積を有し、福島県・茨城県との県境を北東から南東に向かい連なっている。那須・高原・日光・白根の火山、北西部の帝釈・大佐飛・塩谷の三山地、南西部の足尾山地・古賀志山地・今市盆地に区分できる。中央部平地は、上記の山地に挟まれた平地であり、高久丘陵・那須野が原・喜連川丘陵・県中央部の台地・低地に区分できる。



第4図 栃木県の地形図

小鍋内I遺跡、小鍋内II遺跡は、さくら市(旧喜連川町)鹿子畑内に所在する。旧喜連川町は、栃木県のほぼ中央東部、宇都宮市の北東約25kmに位置する。地形的には、中央部平地の東側を占める喜連川丘陵のほぼ中央に位置する(第5図)。喜連川丘陵は塩那丘陵とも呼ばれ、北西方向から南東方向に延びている。標高は南に向かって低くなり、旧喜連川町内では標高は約200mである。丘陵の頂上には平坦な部分が連続している。丘陵内を那河川水系に属する荒川・内川・江川・岩川が北西から南東方向に流れ、両岸にはこれらの河川によって開析された河岸段丘が形成されている。小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡はこうした段丘に立地する(第1図)。

小鍋内I遺跡は、江川西岸の喜連川丘陵から低地に張り出した台地に位置する。台地の上面は、南東方向に流れる江川を見下ろす東向き緩斜面になる。遺跡の標高は160.4~155.6mで、江川右岸の現水田面との高低差は7m前後である。調査区内は水田の造成により階段状に掘削され、段差部分の掘削は著しいが、逆に斜面側は掘削土で盛り土されており、その下に旧地形や遺構が比較的良好な状態で保存されていた。

小鍋内II遺跡は、南東方向に流れる江川を見下ろす東向きの緩斜面に立地する。遺跡の標高は157~161mで、江川右岸の現水田面との高低差は7m前後である。調査区内は小鍋内I遺跡と同様に、開田のために階段状に造成され、段差部分の削削は著しいが、逆に斜面側は掘削土で盛り土されており、旧地形や遺構が比較的良好な状態で保存されていた。両遺跡は、喜連川丘陵内を流れる江川右岸低位河岸段丘上に立地し、小鍋内I遺跡の標高は、調査区北端と南端では約4.8mの比高差があり、北から南の低地に向かって緩やかに傾斜していることが分かる。



第5図 小湍内I遺跡・小湍内II遺跡の位置および周辺の地形図

小湍内I遺跡と小湍内II遺跡の間には、浅い低地が入り、両遺跡を分断している。また、小湍内I遺跡調査区内では調査範囲の北部に、南西から北東にかけて黒色土が堆積する埋没谷が確認されたが、古墳時代中期から後期の竪穴建物跡5軒が堆積土上に存在し、この時期には完全に埋没していることが確かめられた。一方、小湍内II遺跡では北区において、同様の埋没谷が確認でき、やはり黒色の堆積土上には古墳時代の竪穴建物跡が確認されている。

参考文献

喜連川町史編さん委員会 2003『喜連川町史 第1巻 資料編1 考古』喜連川町

栃木県企画部資源対策課 1991『土地分類基本調査 喜連川・太子』

第2節 歴史的環境

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡が所在するさくら市の旧喜連川町域では、旧石器時代から中・近世までの多くの遺跡が確認されている。特に縄文時代の遺跡の豊富さは周知されている所である。ここでは、本遺跡に関連する旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代前期から中世についての周辺遺跡を概観する。また、本遺跡が所在するさくら市東部域（旧喜連川町）を中心に、那珂川町西部域（旧小川町）及び那須烏山市西部域（旧南那須町）の遺跡を併せて概観することとしたい。

旧石器時代（第6図、第2表）

小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡では、原位置・層位は特定できなかったが、ブレード・彫器・掻器・剥片などの旧石器が、現表土下および古墳時代～中世の遺構埋土等から少量採取された。

小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺の該期の遺跡を、詳細な分布調査が行われている旧喜連川町内の範囲で概観すると、これまでに10遺跡が確認されている。これらは、立地から、荒川や江川などの主要河川の河岸段丘上に位置するもの、それらから離れた丘陵中に存在するものの二つに大別されるという。前者は荒川流域の將軍道Ⅰ遺跡（1）・野辺山Ⅱ遺跡（2）・テサライⅠ遺跡（3）、江川流域の湯泉山Ⅱ遺跡（4）・引田原Ⅱ遺跡（5）、石関平遺跡（8）の6遺跡が該当し、後者は、鹿子畑・穂積にかけての丘陵に所在する、内越遺跡（6）・鹿子畑軍沢Ⅱ遺跡（7）・タヤ久保Ⅰ遺跡（9）・タヤ久保Ⅱ遺跡（10）の4遺跡が挙げられている。水の得やすい前者の遺跡は「生活の場」、現在より支谷が未発達で水が得にくかったと推測される後者は「一過性の強い」存在と考えられている。小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡は江川右岸の段丘上に立地することから、この分類からは「生活の場」としての性格が強い遺跡となろう。以下、上記の10遺跡について概略を述べる。

將軍道Ⅰ遺跡は荒川左岸の段丘上平坦面に立地し、流紋岩または頁岩製のドリル1点が採取されている。野辺山Ⅱ遺跡は、荒川右岸の段丘平坦面に立地し、頁岩製有舌尖頭器や珪質頁岩の剥片が採取されている。テサライⅠ遺跡は内川右岸の段丘上に位置し、高原山黒曜石製の尖頭器または削器と思われる資料1点が出土した。湯泉山Ⅱ遺跡は江川右岸の丘陵中腹に位置し、珪質凝灰岩剥片1点が採取されている。引田原Ⅱ遺跡は引田川と江川の合流点近くの丘陵裾部に立地する。珪質頁岩製の大型縦長剥片も採取された。ここから引田川を約1km北上した引田-A地点では、小川スコリア層と鹿沼軽石層の間から石核・焼礫・黒曜石チップなどが発見され、石器の出土層位が確認された。内越遺跡は、小鍋内遺跡とは江川を挟んで北に約1km、江川左岸の丘陵中に立地し、赤色珪岩製の小型の剥片が採取された。金枝・鹿子畑地区の旧石器時代遺跡として貴重な存在である。鹿子畑軍沢Ⅱ遺跡は、小鍋内遺跡と江川を挟んだ東側の丘陵の東麓に所在し、江川支流の岩川右岸の段丘上に立地する。縄文期の遺物と共に高原山産出の黒曜石製削器が採取された。その他、小鍋内遺跡と旧領を挟んだ南側の石関平遺跡で珪質凝灰岩製削器、小鍋内遺跡の北東約3kmに位置する、縄文時代後期のタヤ久保Ⅰ遺跡で頁岩の細石核、瑪瑙の細石刃、珪岩製の縦長剥片、珪質頁岩あるいは流紋岩製の柳葉形尖頭器などが出土している。この遺跡の東約300mに位置するタヤ久保Ⅱ遺跡でも珪質凝灰岩の大振りの石核が採取された。

縄文時代（第6図、第2表）

小鍋内Ⅰ遺跡では、縄文時代の遺構は発見されず、主に土器破片が採取された。前期の羽状縄文系・諸磯式・浮島式期、後期の堀之内式・安行Ⅲa式期、晩期の大洞系などに分類される。一方、小鍋内Ⅱ遺跡では、SI-003・005の前期の竅穴住居跡2軒が発見され、黒浜・関山式期の土器がまとめて出土した。SI-003の埋土からは早期三戸式期の土器破片も発見されている。以下、旧喜連川町域での縄文時代の遺跡を概観する。



第6図 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡分布図(旧石器時代、縄文時代、弥生時代)

早期では、星の宮裏遺跡(24)で燃系文期、井草I式の土器破片が出土している。小鍋内遺跡の南西約1kmの丘陵頂部に立地する寺久保トヤ遺跡(14)では、採取された土器片に条痕文、斜位の擦痕、アナダラ種の目殻腹縁による押印文などがみられ、早期中葉から後葉にかけての集落跡と考えられる。また、小鍋内遺跡の南方約6kmの丘陵裾部に立地する外山I遺跡(15)でも、早期前葉の井草II式土器が出土している。また、薬師下I遺跡(19)では早期擦痕文土器破片が採取された。梨ノ木遺跡(20)では、早期前半から中葉にかけての、燃系文系・沈線文系の三戸式期および無文系土器文化期の破片が出土した。トフヨII遺跡(21)では早期前葉の稲荷原式期、天矢場式期の土器破片や、後葉の条痕文系土器の破片が採取され、子母口式期・常世2式期に比定されている。

前期の遺跡では、上記の外山II遺跡に隣接する外山II遺跡(16)が挙げられる。遺物出土量が少ないが、土製珠状耳飾り等が出土し、前期頃の集落跡の可能性がある。北ノ内II遺跡(28)は昭和52・53年に造成に伴う調査が実施され、前期では黒浜式・浮島I式の土器破片を中心に多数の遺物が採取された。小鍋内I遺

第2表 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡一覧表(旧石器時代、縄文時代、弥生時代)

No.	時代	遺跡名	所在地	時期区分	備考
1	旧石器時代	箕野道I遺跡	さくら市大字葛城	—	
2		野辺山II遺跡	さくら市大字高津川		
3		テサライI遺跡	さくら市大字龍宮		
4		廣原山II遺跡	さくら市大字下河戸		
5		引山原II遺跡	さくら市大字下河戸		
6		内庭遺跡	さくら市大字金枝		
7		鹿子畑原I遺跡	さくら市大字鹿子畑		
8		石岡平遺跡	さくら市大字鹿子畑		
9		タヤ久保I遺跡	さくら市大字榑楯		
10		タヤ久保II遺跡	さくら市大字榑楯		
11		治武ノ門遺跡	氏家町上野子1男		
12		狭間田A遺跡	氏家町狭間田字家道下		
13		榑木沢上遺跡	氏家町榑木沢字藤原		
14	縄文時代	鹿子畑原I遺跡	さくら市大字鹿子畑		
8		石岡平遺跡	さくら市大字鹿子畑	中期	阿玉台式期・加曾利E1・EⅡ式期
9		タヤ久保I遺跡	さくら市大字榑楯	後期	南関東系の地名寺1・EⅡ式期・根之内1・2式期・加曾利B1・B2・B3式期・登谷式期・安行1式期・南東北系の新地式期
14		寺久保トヤ遺跡	さくら市大字葛城	早期中葉～後葉	弥生文
15		外山I遺跡	さくら市大字葛城	早期前葉	
16		外山II遺跡	さくら市大字葛城	前期	
17		大久保II遺跡	さくら市大字葛城	中期中葉	阿玉台式遺末
18		大目下II遺跡	さくら市大字高津川	中期中葉	大木8a・加曾利EⅡ
19		家節下I遺跡	さくら市大字高津川	早期・前期	黒山式・漆器a式期
20		魁ノ木遺跡	さくら市大字高津川	早期前半～中葉	標赤文系・辻離文系の三戸式期
21		トフヨI遺跡	さくら市大字高津川	早期	稲荷原式期・夫夫地式期・桑倉文期
22		渡木遺跡	さくら市大字小人	中期	阿玉台式期・加曾利EⅡ式期
23		百巻塚I遺跡	さくら市大字小人	中期	
24		宮原遺跡	さくら市大字小人	早期	標赤文期
25		早乙女富士山遺跡	さくら市大字早乙女		
26		観治小浜遺跡	さくら市大字上河戸		
27		東高江遺跡	さくら市大字上河戸	中期・後期	阿玉台式期・加曾利EⅡ～EⅣ式期・寺式期・根之内式期・大木9・10式期
28		北ノ内山II遺跡	さくら市大字下河戸	前期・中期	黒山式期・浮島1式期・阿玉台式BⅡ式期・大木7b式期・加曾利E1式期
29		愛宕山I遺跡	さくら市大字廣相田		
30		欠ノ上I遺跡	さくら市大字金枝	前期	黒山式期・漆器a式期
31		菅場遺跡	さくら市大字榑楯		
32		南II遺跡	さくら市大字榑楯		
33		榑楯高塚遺跡	さくら市大字榑楯	中期・後期	加曾利E1・EⅡ・EⅢ・EⅣ式期・根之内1・BⅡ式期・加曾利B1・EⅡ式期・東北南部系編成1・2式期
34		轟原敷前遺跡	さくら市大字榑楯	中期	加曾利EⅡ式期
35		尾崎久保遺跡	さくら市大字榑楯		
36		広久保遺跡	さくら市大字榑楯		
37		トウシ山遺跡	さくら市大字榑楯		
38	龍見トヤ遺跡	さくら市大字榑楯			
39	坂下遺跡	氏家町龍見ヶ沢字坂下			
40	本郷遺跡	氏家町龍見ヶ沢字本郷	中・後期		
41	長岡谷岡遺跡	氏家町龍見ヶ沢字水郷	中期		
42	鎌原遺跡	氏家町龍見ヶ沢	中期		
43	トヤ遺跡	氏家町龍見ヶ沢字長峰	中期		
44	古原敷遺跡(旧氏家町)	氏家町龍見ヶ沢字水郷	前期		
45	長岡谷岡南遺跡	氏家町龍見ヶ沢字水郷	前期		
46	長峰遺跡	氏家町龍見ヶ沢字長峰	前期		
47	八幡前遺跡	氏家町狭間田字八幡前			
48	中塚西遺跡	氏家町龍見ヶ沢字五反田中塚西	中期～古墳時代		
49	ハットヤ遺跡	氏家町狭間田字榑木	中・後期		
50	庭塚寺遺跡	氏家町狭間田字酒梨			
51	酒梨遺跡	氏家町狭間田字酒梨			
52	谷中京遺跡	氏家町狭間田字谷中			
53	榑木沢上遺跡	氏家町榑木沢字藤原			
54	下遺跡	氏家町龍治ヶ沢			
3	弥生時代	テサライI遺跡	さくら市大字龍宮	早期前半	弥生文
26		観治小浜遺跡	さくら市大字早乙女	中期	弥生文・標赤文
55		高津川大目下遺跡		前期	弥生文
56		古原敷I遺跡		後期	十五台式期
23		百巻塚I遺跡	さくら市大字小人	中期後半	
57		広平遺跡	さくら市大字小人	中期中葉～後葉	
58		前坂上遺跡	さくら市大字早乙女	中期	弥生文・標赤文
59		中塚I遺跡	さくら市大字早乙女	中期	弥生文・標赤文
60		お坂塚北遺跡	氏家町狭間田字酒梨		
61		四斗の遺跡	氏家町狭間田字四斗の	弥生～古墳時代中期	

跡北方の穴ノ上Ⅰ遺跡(30)も、黒浜式期・諸磯a式期の土器を多く出土し、前期の集落跡と考えられる。葉塚下Ⅰ遺跡(19)では前期黒浜式期の土器破片および、等地域では珍しい諸磯a式期の土器破片が採取された。

中期の主要遺跡では、百巻塚Ⅰ遺跡(23)、東高月遺跡(27)、北ノ内Ⅱ遺跡(28)、穂積高畑遺跡(33)などが挙げられる。百巻塚Ⅰ遺跡は昭和44年に発掘調査が行われ、土器捨て場と思われる箇所が確認できた。中期では、阿玉台式Ⅱ・Ⅲ式期、大木7b式期、加曾利EⅠ・EⅡ・EⅢ・EⅣ式期、大木8a式期の土器破片が出土した。東高月遺跡は中期から後期にかけての大集落跡と考えられ、中期では阿玉台式期・加曾利EⅡ～EⅣ式期の土器破片が多量に採取されている。北ノ内Ⅱ遺跡は先述のとおり、前期の土器破片が多数採取されているが、中期の阿玉台式Ⅱ期、大木7b式期、加曾利EⅠ式期の土器資料も採取されている。穂積高畑遺跡は中期から後期にかけての広大な集落跡で、中期の遺物としては加曾利EⅠ・EⅡ・EⅢ・EⅣ式期の土器破片が大量に採取されている。また、該期の筒型土偶も特筆すべき遺物である。その他、小鍋内遺跡の南西約1.5kmの、内川・荒川合流地点の右岸段丘上に位置する大天箱Ⅱ遺跡(17)で阿玉台式期終わり頃の土器破片が採取され、喜連川市街地の北東に位置する大日下Ⅱ遺跡(18)では、中期中葉の大木8a式・加曾利EⅡ式期の土器片が採取され、地形の状況から、中期の広範囲におよぶ集落跡と考えられる。波木遺跡(22)は小規模な散布地と考えられるが、阿玉台式期・加曾利EⅡ式期の土器破片が採取されている。小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡南方の丘陵上に立地する石岡平遺跡(8)は広範囲に及ぶ集落跡と考えられるが、阿玉台式期・加曾利EⅠ・同EⅡ式期の遺物が採取されている。高畑屋敷前遺跡(34)は加曾利EⅡ式期の遺物が多く採取される。

後期では東高月遺跡(27)、穂積高畑遺跡(33)、タヤ久保Ⅰ遺跡(9)などが主要な遺跡として挙げられる。高月東遺跡では中期に続いて称名寺式期、堀之内式期、大木9・10式期の後期の土器破片も多く採取され、大規模な集落がこの時期まで継続すると推測されている。穂積高畑遺跡では後期の遺物として堀之内Ⅰ・Ⅱ式期、加曾利BⅠ・Ⅱ式期、東北部系の編取Ⅰ・Ⅱ式期の土器破片が出土している。タヤ久保Ⅰ遺跡は、平成13(2001)年に喜連川町史編さん委員会によって発掘調査され、円形の土坑状の遺構等が確認された。出土遺物としては南関東系の称名寺Ⅰ・Ⅱ式期、堀之内Ⅰ・Ⅱ式期、加曾利BⅠ・BⅡ・BⅢ式期、曾谷式期、安行Ⅰ式期、および南東北系の新地式期、金剛寺式期の瘤付き土器などが出土した。

弥生時代(第6図、第2表)

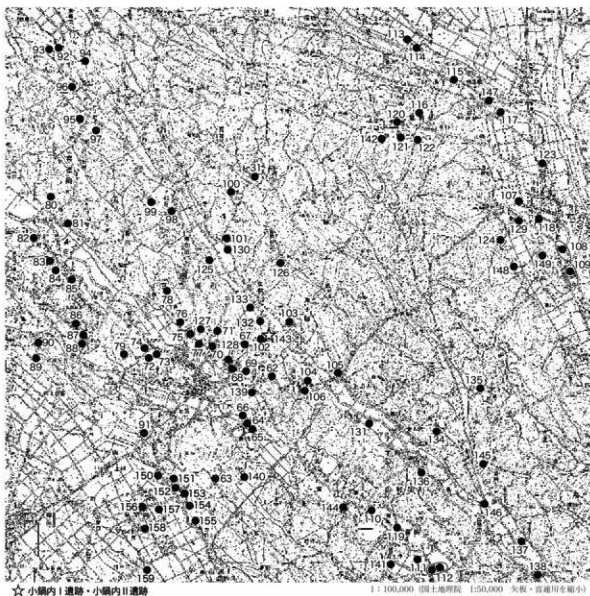
小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡ともに、発掘調査範囲において該期の遺構は確認されなかったが、小鍋内Ⅰ遺跡では古墳時代中期の竪穴建物土やその周辺で弥生時代前期の土器破片が採取された。また、小鍋内Ⅱ遺跡では調査区西寄りの丘陵裾部において、やはり前期の土器破片の散布がみられた。

弥生時代前期の遺跡としては、喜連川大日向遺跡(55)が挙げられる。ここでは、開墾中に前期の条痕文の甕Ⅰ点が出土し、甕棺葬の可能性も指摘されている。

その他の遺跡はほとんどが中期以降のものである。小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺では、小鍋内Ⅰ遺跡西側の丘陵上の古屋敷Ⅱ遺跡(56)で後期の壬午台式期の土器破片が採集されている。百巻塚Ⅰ遺跡(23)でも中期後半の土器片が発見された。一方、テサライⅠ遺跡(3)は昭和53年(1978)に発掘調査が行われ、円形・楕円形などの土坑33基が発見された。出土土器には条痕文を施すものが多く、中期前半頃の遺構と考えられる。この遺跡の南に位置する瓜平遺跡(57)も同時に調査され、中期中葉から後葉にかけての土器が出土した。前坂上遺跡(58)、鍛冶小路遺跡(26)、申塚Ⅰ遺跡(59)でも条痕文・燃糸文を施した中期の土器破片がわずかに採集されている。

古墳時代(第7図、第3・4表)

小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡では、古墳時代前期から後期までの竪穴建物跡28軒と土坑33基が調査された。中期の集落遺跡が少ない当地域において、この時期の集落の一部が確認できたことは、貴重である。



第7図 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡分布図(古墳時代)

古墳時代前期

まず、古墳の分布を見ると、小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡の西側を南東に向かって流れる江川の流域では、左岸の丘陵上に高山古墳(105)が所在し、前方後方墳の可能性も指摘されている。小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡からは、江川を挟んで南東約2kmの距離に立地する。また、江川右岸の上金枝II・III遺跡(125)では、該期の堅穴建物跡が2軒確認されており、小規模な集落が存在すると思われる。この他、さくら市内の集落遺跡として、江川左岸の軍沢遺跡(126)、岩川左岸に萱場遺跡(31)、荒川左岸の広島遺跡(127)、大日下I遺跡(128)が確認されている。一方、那珂川町域の那珂川流域では、この時期における県内でも有数の古墳密集地域である。特に、前方後方墳と方墳で古墳群が形成される特徴を有する。那珂川と那珂川支流の権津川合流地点では、前方後方墳である駒形大塚古墳(107)、及び前方後方墳の吉田温泉神社古墳と20基の方墳からなる吉田温泉神社古墳群(108)、前方後方墳の那須八幡塚古墳と方墳の吉田富士山古墳からなる那須八幡塚古墳群(109)が相次いで造営される。さらに、三輪仲町遺跡(129)においても方墳が8基確認されている。

第3表 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡一覧表（古墳時代）(1)

No.	時期 時期区分	遺跡名	所在地	古墳時代				備考
				前期	中期	後期	終末期	
62		久久古墳	さくら市大字蘇城					古墳 円墳。墳長約16m。
63		大仏古墳	さくら市大字蘇城					古墳 方墳。墳長約9m。近傍の假説墳の可能性あり。
64		阿久津古墳	さくら市大字蘇城					古墳 円墳。墳長9m。
65	後期・終末期	御中古墳	さくら市大字蘇城			●	●	古墳 円墳。墳長約9.8m。南北10.2m。
66	後期	越前橋/泉郡	さくら市大字蘇城			●		横穴墓 35m中現在確認できるのは6基。昭和28年東京大学の調査。 平成14年度史跡編纂事業に伴う石室調査が実施。
67	後期・終末期	大山山古墳群	さくら市大字養連川			●	●	古墳 円墳5基。直径約4m。1号墳墳長5m。2号墳墳長6m。3号墳墳長4m。4号墳墳長4.5m。5号墳墳長3m。
68	終末期（7世紀初頭）	大日下古墳群	さくら市大字養連川			●	●	古墳 円墳2基が養連川基砂改築跡に消滅。
69		築山山古墳	さくら市大字養連川					古墳 方墳。東西15～16m。南北1～16m。
70	後期・終末期	行人塚古墳	さくら市大字養連川			●	●	古墳 墳址はすべて覆土。横穴式石室も消滅。
71	前期か	大沼古墳群	さくら市大字養連川	●				古墳 前方後円墳。墳長53.4m。平成14年度史跡編纂事業に伴う調査実施。
72		八幡石古墳群	さくら市大字養連川					古墳
73		八幡石古墳群	さくら市大字養連川					古墳
74		上林神社古墳群	さくら市大字養連川					古墳
75	終末期（7世紀初頭か）	田沢古墳（磯城岡古墳）	さくら市養連川				●	古墳 前方後円墳。墳長53.4m。平成14年度史跡編纂事業に伴う調査実施。
76	後期・終末期	夜行古墳群	さくら市大字養連川			●	●	古墳 円墳2基。1号墳墳長15m。2号墳墳長12m。
77		大沼古墳	さくら市大字養連川					古墳
78		藤山古墳	さくら市大字養連川					古墳
79		須ノ子古墳群	さくら市大字養連川					古墳
80		冠土山古墳群	さくら市大字養連川					古墳
81		雲山古墳	さくら市大字養連川					古墳
82		柳川古墳群	さくら市大字養連川					古墳
83		中塚古墳群	さくら市大字養連川					古墳
84		西原古墳	さくら市大字養連川					古墳
85		下原古墳群	さくら市大字養連川					古墳
86		坂平古墳	さくら市大字小入					古墳
87		小入原古墳古墳群	さくら市大字小入					古墳
88		西倉塚古墳	さくら市大字小入					古墳
89		早乙女内古墳	さくら市大字早乙女					古墳
90		御山古墳	さくら市大字早乙女					古墳
91		中塚古墳	さくら市大字早乙女					古墳
92		藤山古墳	さくら市大字上戸戸					古墳
93		藤山古墳	さくら市大字上戸戸					古墳
94		東原古墳	さくら市大字上戸戸					古墳
95		浄土古墳	さくら市大字上戸戸					古墳
96		山野古墳群	さくら市大字上戸戸					古墳
97		大田ノ原古墳	さくら市大字上戸戸					古墳
98		下戸区土古墳	さくら市大字下戸戸					古墳
99		藤山古墳群	さくら市大字下戸戸					古墳
100	後期・終末期	藤山古墳	さくら市大字下戸戸			●	●	古墳 円墳。墳長17.5m。
101		雲山古墳	さくら市大字南和田					古墳 円墳。墳長7m。経緯の可能性あり。
102	後期・終末期	古瀬古墳群	さくら市大字養子塚			●	●	古墳 円墳8基。
103	中期か	藤山古墳	さくら市大字養子塚					古墳 円墳。
104	後期・終末期	石原平古墳群	さくら市大字養子塚			●	●	古墳 円墳5基。
105		藤山古墳	さくら市大字養子塚	●				古墳 墳長約30m。前方後方墳の可能性あり。
106	前期	藤山古墳	さくら市大字養子塚					古墳 円墳11.5m。
107	前期	駒形古墳	駒形町小川					古墳 墳長11.5m。
108	前期	古田園泉神社古墳群	那須町古田	●				古墳 国史定案。昭和29年調査。前方後方墳。墳長60.5m。木造。 国史定案。後である前方後方墳の古田園泉神社古墳と方墳20基（観音寺古墳等）からなる古墳群。藤山八幡塚古墳群と併せて古田園泉古墳群を形成。
109	前期	藤山八幡塚古墳群	那須町小川・古田	●				古墳 国史定案。前方後方墳の藤山八幡塚古墳（1号墳）と方墳の山田部土山古墳（2号墳）からなる古墳群。古田園泉神社古墳群と併せて古田園泉古墳群を形成。
110	後期・終末期	戸田古墳群	那須園山市三園			●	●	古墳 前方後円墳1基（1号墳）・円墳2基（2・3号墳）。1号墳墳長25m。2・3号墳墳長10m前後。
111	後期・終末期	久保山古墳	那須園山市藤田			●	●	古墳 円墳。墳長東西2.5m・南北2.7m。
112	後期・終末期	大和久古墳群	那須園山市南大和久			●	●	古墳 昭和34・60年調査。寺田・西の原・林先の3支郡に分かれ、3支郡以上存在している可能性がある。林先支郡の3基現存。寺田支郡は7基の円墳を調査。林先支郡は前方後円墳2基・円墳3基が現存。
113		柳山藤山古墳	人田郡中野田					古墳 前方後円墳。墳長40m。
114	中・後期	柳山藤山古墳群	人田郡中野田	●	●			古墳 昭和50年調査。円墳4基。踏式石室・横穴式石室など8基。古田園泉神社古田園泉古墳群。
115	後期・終末期	新野古墳群	那須町新野寺			●	●	古墳 円墳。墳長約15m。横穴式石室。
116	後期・終末期	長塚古墳	那須町新野寺			●	●	古墳 円墳（消滅）。
117	後期・終末期	梅野大塚古墳	那須町小川			●	●	古墳 昭和59年調査。前方後円墳。墳長50m。横穴式石室2基。
118	後期・終末期	吉長古墳群	那須町三輪			●	●	古墳 平成4年調査。前方後円墳か。出刃小川（横穴式石室）。
119		御所古墳群	那須園山市藤田					古墳 円墳3基現存。墳長10m以下。
120		中川古墳	那須町高瀬					古墳 円墳（消滅）。
121		藤山古墳	那須町高瀬					古墳 円墳（消滅）。
122		藤山古墳群	那須町高瀬					古墳 前方後円墳1基と円墳1基（消滅）。
123		上の原古墳	那須町小川					古墳 円墳（消滅）。
124		升ノ戸古墳	那須町升平					古墳 通称藤野神社古墳。前方後円墳跡。
125	前期・平安・中世・近世	上倉枝1・2・3遺跡	さくら市倉枝	●				集落 平成18・21年度調査。平成19年度1遺跡（中世頃の遺跡8棟・井戸7基・土坑多数）。古墳跡（古墳時代前期の横穴式石室1棟。平安時代の石室1棟。中世頃の遺跡1基・井戸3基・土坑）。古墳跡（古墳時代前期の横穴式石室1棟。中世頃の遺跡3基・井戸3基・土坑）。
126	前期	藤山古墳	さくら市倉枝	●				集落 古墳時代前期の上野原を表現。
127	前期	藤山古墳	さくら市大字藤田	●				集落

第4表 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡一覧表（古墳時代）（2）

No.	時期 時期区分	遺跡名	所在地	古墳時代			備考
				前期	中期	後期	
127	前期	花巻遺跡	さくら市大字高津田	●			集落
128	前期～後期	大日下遺跡	さくら市大字高津田	●	●	●	集落
129	日石遺～中世	三輪町町遺跡	那須川町三輪	●		●	集落 数度の調査を実施。古墳から奈良・平安時代の埴穴130軒以上確認。大規模集落が確認。古墳時代前期の方墳8。また奈良時代の埴穴13軒の下半2基の遺跡が先行（前遺跡）。平成16年度埋蔵文化財発掘調査で古墳時代前期の1号墳確認。
130	前期～奈良・平安	若狭田遺跡	さくら市太平南南田		●		集落
131	前期～中世	黒足田A遺跡	那須川市上川井	●	●	●	集落 平成6年調査。古墳時代前期の埴穴2軒基・溝1基。
132	後期～終末期	穴ノ上1・B遺跡	さくら市金枝			●	集落
133	後期～中世	山の神B遺跡	さくら市金枝			●	集落 平成19・20年度調査。平成19年度調査区内から、埴穴13軒37軒（古墳時代後期2軒、奈良・平安時代35軒）、麗土柱建物2棟（奈良・平安時代1棟、中世1棟）、中世の磁器1基・竹器製の遺構1基が確認。
134	後期～終末期	金草遺跡	那須川山志島			●	集落
135	後期～終末期	島の子沢遺跡	那須川山志島			●	集落
136	後期～奈良・平安	若狭田遺跡	那須川山下川井	●	●	●	集落 この地域の拠点集落か。
137	後期～奈良・平安	後伏遺跡	那須川山田田	●	●	●	集落
138	後期～終末期	新田遺跡	那須川市月次	●	●	●	集落
139	後期～終末期	三角遺跡	さくら市大字越城	●	●	●	集落
140	後期～奈良・平安	平の宮1遺跡（内山遺跡）	さくら市越城			●	集落
141	後期～奈良・平安	三日月遺跡	那須川市藤田	●	●	●	集落 昭和60年度調査。埴穴13軒9軒、麗土柱建物4棟、溝1基。
142	後期～終末期	藤林遺跡	那須川町芳井	●	●	●	集落 昭和55年度調査。埴穴13軒3軒。
143	古墳・奈良・平安時代	小鍋内I・B遺跡	さくら市藤子塚				集落 平成15年度埋蔵文化財発掘調査実施。平成20年度穴ノ上B遺跡と併せ1遺跡調査（古墳～奈良時代の埴穴13軒・溝跡24基・土坑368基。平成21年度再度調査調査。
144	後期～終末期	古郡崎穴墳群	那須川山志島	●	●	●	埴穴群 7基確認。
145	後期～終末期	小ノ島崎穴墳群	那須川山志島	●	●	●	埴穴群 41基確認。
146	後期～終末期	山崎崎穴墳群	那須川山田田	●	●	●	埴穴群 3基確認。
147	後期～終末期	観音堂崎穴墳群	那須川浄正寺	●	●	●	埴穴群 2基確認。
148	後期～終末期	江ノ内崎穴墳群	那須川月井平	●	●	●	埴穴群
149	前期	柳田高津遺跡	那須川町二輪			●	集落 昭和42年調査。埴穴13軒9軒。
150	前期	ぬか保古墳	氏家町狭間田字根本				集落
151	後期	上根本古墳	氏家町狭間田字根本			●	古墳群
152	後期	ウラ古墳群	氏家町狭間田字根本			●	古墳群
153	後期	八幡前古墳群	氏家町狭間田字根本			●	古墳群
154	後期	ハットヤ北古墳	氏家町狭間田字根本八ノ倉				古墳
155	後期	四ツ塚古墳群	氏家町狭間田字根本八ノ倉			●	古墳群
156	後期	御座塚古墳	氏家町狭間田字中畑				古墳群
157	奈良～古墳時代(前期)	西斗森遺跡	氏家町狭間田字西斗森	●			集落
158	後期	一の塚古墳	氏家町狭間田字松田			●	古墳
159	後期	竹藪1遺跡	氏家町根本沢字藤原				敷布地

古墳時代中期

当地域におけるこの時期の遺跡は極端に少ない。江川流域では、百姓原遺跡（130）と黒尾原A遺跡（131）において、集落に関連すると推測される土坑や溝が確認されているに過ぎない。

古墳時代後期・終末期

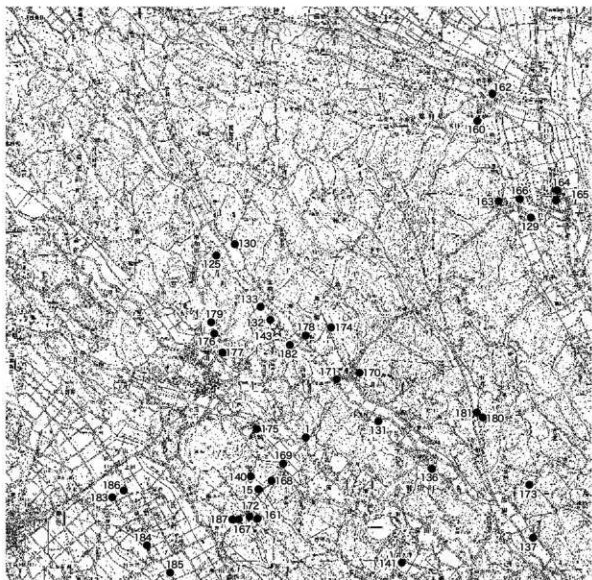
この時期には、中期とは対照的に喜連川丘陵上に多くの古墳が造営され、荒川・江川流域には多くの集落が営まれる。また、終末期には喜連川丘陵断崖に横穴墓が多く造られており、県内でも屈指の横穴墓密集地域である。

当概期の古墳としては、次の遺跡が確認されている。江川流域には石関平古墳群（104）、古屋敷古墳群（102）、東山古墳（100）が所在し、特に石関平古墳群は森後遺跡に近接し、江川を挟んで対岸に位置する。荒川流域のさくら市域では、畑中古墳（65）、大日下古墳群（68）、大日山古墳群（67）、行人塚古墳（70）、田町古墳（75）、夜打内古墳群（76）が所在し、那須烏山市域では、戸田古墳群（110）、久保前古墳（111）、大和久古墳群（112）が所在している。那珂川・澁川流域では、蛭田富士山古墳群（114）、新屋敷古墳（115）、荒屋古墳（116）、梅曾大塚古墳（117）、首長原古墳（118）が造営されている。横穴墓は、さくら市域の荒川流域には、総数35基を数える葛城横穴墓群が造られている。下流の那須烏山市域では、古館横穴墓群（144）が造営されている。那須烏山市の江川と岩川の合流地点付近には、小志鳥横穴墓群（145）と山崎横穴墓群（146）が造られている。那珂川・極津川流域では、観音堂横穴墓群（147）や岩谷内横穴墓群（148）が造営されている。

この時期、多くの集落が形成され始め、その殆どが奈良・平安時代まで継続していく。当遺跡もその一つと考えられる。さくら市域の江川流域には、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡(132)、山の神Ⅱ遺跡(133)、百姓原遺跡(130)が形成される。那須烏山市域では、江川・岩川流域に黒尾原A遺跡(131)、金草遺跡(134)、鳥の子沢遺跡(135)、宮前遺跡(136)、後俵遺跡(137)、町田遺跡(138)が営まれる。荒川流域では、さくら市域の大目下Ⅰ遺跡(128)、三角遺跡(139)、星の宮Ⅰ遺跡(140)が、那須烏山市域では三百目遺跡(141)が該期の遺跡と確認されている。那珂川・権津川流域では、概期以降の大規模集落である三輪仲町遺跡(129)や藤柄遺跡(142)が形成される。

奈良・平安時代(第8図、第5表)

『和名類聚抄』によると下野国には、足利郡・梁田郡・安蘇郡・都賀郡・寒川郡・河内郡・芳賀郡・塩原郡・那須郡の九郡ありと記されている。小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡が所在するさくら市(旧喜連川町)は、荒川以東が那須郡、以西が塩原郡と推測される(荒川と内川の合流点以北は内川が境界か)。ただ、森後遺跡の南方に



☆ 小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡

第8図 小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡周辺の主要遺跡分布図(奈良・平安時代)

第5表 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡一覧表(奈良・平安時代)

No.	時期 時期区分	遺跡名	所在地	古代	備考
				類別	
125	前期・平安・中世・近世	土金枝1・Ⅱ・Ⅲ遺跡	さくら市金枝	集落	平成18・21年度調査。平成18年度I遺跡(中世世の溝8条・井戸7本・土坑多数)、II遺跡(古墳時代前期の竪穴住居1軒。平安時代の竪穴住居2軒、中世世の溝1条・井戸3本・土坑)、III遺跡(古墳時代前期の竪穴住居1軒。中世世の溝3条・井戸3基・土坑)。
129	旧石器～中世	三輪神町遺跡	那珂川町三輪	集落	調査に資する調査が実施。古墳から奈良・平安時代の竪穴住居130軒以上確認。大規模集落が展開。古墳時代前期の方墳8基。また奈良時代の竪穴住居の上を2条の溝跡が走行(遺跡跡)。
130	中期・奈良・平安	古碓原遺跡	高津川町大字南和	集落	平成16年度高津川町整備事業調査で古墳時代中期の土坑確認。
131	中期～中世	黒尾原A遺跡	那須烏山市上川井	集落	平成8年度調査。古墳時代後期の竪穴住居2軒・中期の溝1条。奈良・平安の溝4条。中世の土坑2基・溝1基。
132	後期～終末期	欠ノ上1・Ⅱ遺跡	さくら市金枝	集落	平成19・20年度調査。平成19年度調査区内から、竪穴住居37軒(古墳時代後期2軒、奈良・平安時代35軒)、竪穴柱建物7棟(奈良・平安時代1棟、中世6棟)、中世の堀跡1条・方形形穴遺構1基を確認。この地域の拠点集落か。
133	後期～中世	山の神B遺跡	さくら市金枝	集落	平成19・20年度調査。平成19年度調査区内から、竪穴住居37軒(古墳時代後期2軒、奈良・平安時代35軒)、竪穴柱建物7棟(奈良・平安時代1棟、中世6棟)、中世の堀跡1条・方形形穴遺構1基を確認。この地域の拠点集落か。
136	後期～奈良・平安	宮前遺跡	那須烏山市下川井	集落	
137	後期～奈良・平安	後俣遺跡	那須烏山市横田	集落	
140	後期～奈良・平安	笹の宮1遺跡(内山遺跡)	さくら市葛城	集落	
141	後期～奈良・平安	三谷井遺跡	那須烏山市藤田	集落	昭和60年度調査。竪穴住居9軒。掘立柱建物4棟。溝1条。
143	古墳～奈良・平安時代	小鍋内1・Ⅱ遺跡	さくら市前子福	集落	平成15年度調査員調査場整備事業調査実施。平成20年度欠ノ上II遺跡と併せてI遺跡調査。古墳～奈良時代の竪穴住居13軒。溝跡24条・土坑268基。平成21年度追加調査実施。
160	奈良・平安時代	那須宮前遺跡	那珂川町梅青	宮前	那須郡跡。東西60m・南北20mの範囲内に、潰で区画された4つのブロックを形成(西・中央・東・南東)。西ブロックは「正倉院」、東ブロックは「青田」、南東ブロックは「新・榊家」と考えられる。西ブロックと中央ブロックの間は山道遺跡が通る。
161	奈良・平安時代	長者ヶ平遺跡	那須烏山市南野山	宮前	範囲は南北22m、東西350m以上。5ブロックを形成(中央・西・東・南東・北)。中央ブロックは大型掘立柱建物(正殿・脇殿)が「コ」の字型に配置(政府)。西ブロックは掘立柱建物と礎石建物を中心とし東西方向に並列(倉庫)。東ブロックには倉庫が建てられている。南東ブロックには竪穴住居や小型掘立柱建物が建てられていた。北ブロックには特殊な構造的な建物が建てられていた。大きく3時期(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期)に実施。新田駅跡と万葉集所産新田町の複合施設か。
162	奈良・平安時代(飛鳥7世紀後半)	浄法寺塚寺跡	那珂川町浄法寺	寺院	浄法寺遺跡により構成されている可能性が高い。
163	奈良・平安時代	三和神社	那珂川町三輪	神社	延喜式内社。
164	奈良・平安時代	上道遺跡	那珂川町小川	集落	佐所や寺岡などで作成された備品台帳の草葉と考えられる漆版文書出土。漆器出土的か。
165	古墳～奈良・平安時代	上の台遺跡	那珂川町小川	集落	大型工所1棟。赤色顔料を用いた土房か。
166	奈良・平安時代	物部6号墳周辺遺跡	那珂川町小川	集落	
167	奈良・平安時代	悠久保遺跡	那須烏山市南野山	古代道路	昭和63年度の調査において県内初の山道遺跡と確認。平成15・16年度調査。山道遺跡。
168	奈良・平安時代	明治久保遺跡	那須烏山市小豆井	古代道路	平成16・17年度調査。山道遺跡。
169	奈良・平安時代	清水架遺跡	那須烏山市小豆井	古代道路	平成18年度調査。山道遺跡。
170	奈良・平安時代	新道平遺跡	那須烏山市上川井	古代道路	平成5・18～20年度調査。山道遺跡。
171	古墳前期～近世	森塚遺跡	高津川町大字鏡子嶺	集落・官倉関連	本報告(経路体育成基盤整備事業高津川南部1地区部分)、南側の那須烏山市藤田五郎遺跡と同一遺跡か。
172	奈良～中世	タツ新道	那須烏山市南野山	古代道路	平成15・16年度調査。芳賀郡跡と塩原郡跡を結ぶ連絡道(伝説)か。
173	平安時代	真神塚跡	那須烏山市横田	遺跡跡	遺跡跡跡部
174	奈良・平安時代	大木坊遺跡	高津川町大字高子嶺	集落関連遺跡か	平成元年調査4基の発跡。
175	奈良・平安時代	畑中遺跡	さくら市葛城	製鉄関連遺跡	
176	奈良・平安時代	大沼遺跡(山田B遺跡)	さくら市高津川	集落	8世紀から9世紀の大規模集落か。瓦葺の出土から仏堂の存在も示唆。
177	奈良・平安時代	行人塚1遺跡	高津川町大字高津川	集落	奈良平安時代の拠点的な集落か。
178	奈良・平安時代	探野道1遺跡	高津川町大字葛城	集落	山道遺跡に関連した集落か。
179	奈良・平安時代	外山1遺跡	高津川町大字葛城	集落	周知に小規模遺跡群が展開。山道遺跡に関連した集落か。
178	奈良・平安時代	切ノ遺跡	さくら市前子福	集落	平成14年度高津川町整備事業調査で奈良・平安時代の竪穴住居1軒確認。平成2年度調査。平安時代の竪穴住居1軒。散居的集落か。
179	平安時代	山田B北遺跡	高津川町大字高津川	集落	
180	奈良・平安時代・中世	古石遺跡	那須烏山市志島	集落	平成3・5年度調査。平安時代の竪穴住居2軒。中世以降の竪穴穴遺構2基・土坑13基・井戸5本。溝5条。
181	平安時代	宮田遺跡	那須烏山市志島	集落	
182	古墳～奈良・平安・中世	古原倉遺跡	高津川町大字鏡子嶺	城跡か	鏡子嶺遺跡移転前の城跡か。
183	奈良・平安時代	代次遺跡	氏家町箕田山代次	集落跡	
184	奈良・平安時代	竹嶋北遺跡	氏家町榊木沢字榊原	散居地	
185	平安時代	竹嶋遺跡	氏家町榊木沢字竹嶋	集落跡	
186	奈良・平安時代	絶山遺跡	氏家町箕田山字南沢	集落跡	
187		山道遺跡	氏家町藤治ヶ沢	古道	

川井（那須烏山市上川井・下川井）という地名が残っていることから、小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺を塩屋郡河會郷に比定する考えもある。律令国家による地方支配の拠点として、各地に官衙が設置され、国の行政施設としては国府が置かれる。下野国府は都賀郡に設置され、発掘調査によって栃木市田村町に所在することが明らかになっている。各郡には郡衙（郡家）が置かれ、那須郡衙は那珂川町（旧小川町）所在の那須官衙遺跡（160）である。小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡の南西約4.5kmには長者ヶ平遺跡（161）が位置する。平成13年度～平成17年度の発掘調査によって、「コの字」型配置の政庁や多くの倉庫で構成される倉院などが確認され、長者ヶ平遺跡が官衙遺跡であることが判明した。この官衙は、古代の芳賀郡に属していることから、「芳賀郡衙出先機関」や「芳賀郡内に置かれた東山道駅路の新田駅家」、または「芳賀郡衙出先機関と新田駅家を複合した官衙施設」と想定されている。

官衙の整備に相前後して郡寺も設置され、那須郡では那須官衙遺跡の北約400mに浄法寺麁寺跡（162）が置かれた。また、那須官衙遺跡の南約3kmには延喜式内社の三和神社（163）が設置されている。さらに、那須官衙遺跡周辺からは、那須郡衙に関連する遺跡も確認されている。上宿遺跡（164）からは、備品台帳の草案を記したと推測される漆紙文書が出土しており、漆関連の工房跡と推測されている。上の台遺跡（165）からは、赤色顔料工房跡が確認されている。そして、駒形6号墳周辺遺跡（166）からは、平安時代の竅穴住居から「南曹司」と書かれた墨書土器が出土しており、官衙関連施設の可能性を指摘できる。

国家体制が整うと、全国的な道路網（官道）が整備され、下野国には東山道（駅路）が作道される。さくら市と那須烏山市境には將軍道と呼ばれる古道が残り、昭和63年度栃木県教育委員会により既久保遺跡（167）の発掘調査が行われ、この古道が東山道の可能性が高い事が判明している。この將軍道は保存状況がよく、平成15年度～平成18年度に長者ヶ平遺跡と併せた史跡整備事業のための発掘調査が那須烏山市教育委員会により実施された。既久保遺跡・助治久保遺跡（168）・清水畑遺跡（169）の三遺跡において、7地点の調査が行われた。また、小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡の南東約2.5kmに位置する新道平遺跡（170）や那須官衙遺跡においても、東山道の可能性が高い道路遺構が確認されている。小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡の南東約2kmに位置する森後遺跡（171）の発掘調査では、東山道と推測される道路遺構は確認出来なかったことから、東山道は森後遺跡の南方を通過していたと考えられる。さらに、東山道以外の道路遺構も確認されている。長者ヶ平遺跡の西隣を南北に通る通称タツ街道（172）は、発掘調査の結果、古代まで遡る道路遺構と判明し、長者ヶ平遺跡の北側で東山道と交差する事も明らかになった。芳賀郡衙と塩屋郡衙を結ぶ、郡衙間連絡道（伝路）の可能性も考えられる。

8世紀には那須郡においても農業生産が開始され、8世紀後葉には喜連川丘陵上にも須恵器窯の中山窯跡（那須烏山市中山）が作られ、9世紀前半には銭神窯跡群（173）に受け継がれる。また、那須郡では古代から中世にかけて製鉄が盛んに行われており、製鉄関連遺跡も多く確認されている。大多坊遺跡（174）や畑中遺跡（175）からは、鉄滓が表採されており、製鉄遺跡の分布範囲が西に広がる可能性が指摘されている。

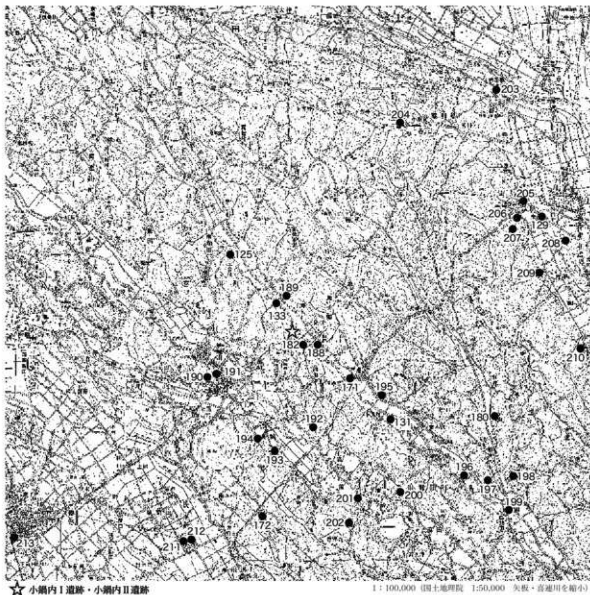
奈良時代（8世紀）の集落は、当地域では、古墳時代後期に形成された集落から継続して営まれる場合が多い。江川流域には、本遺跡のほか、森後遺跡（171）、山の神Ⅱ遺跡（133）、百姓原遺跡（130）、黒尾原A遺跡（131）、宮前遺跡（136）、後依遺跡（137）が、荒川流域には星の宮Ⅰ遺跡（140）、三百目遺跡（141）が、那珂川支流権津川流域には三輪仲町遺跡（129）が、古墳時代後期からの継続集落である。新たに形成されたと考えられる集落としては、荒川・内川流域の大沼臺遺跡（176）、行人塚Ⅰ遺跡（177）などが挙げられる。大沼臺遺跡からは、瓦塔が出土していることから集落内の仏堂の存在も推測できる。また、整備された東山道沿いにも、新たに將軍道Ⅰ遺跡（1）や、外山Ⅰ遺跡（15）等の集落が形成され、東山道に関連した遺跡と考えられる。

平安時代（9世紀以降）になると、律令制下の集落は解体する傾向にあり、丘陵上や沖積地への小規模集落（散居的集落）が増加する。切上遺跡（178）、上金枝Ⅱ遺跡（125）、田町Ⅱ北遺跡（179）、古沢遺跡（180）

などは、少数の竪穴住居で構成される集落跡である。

中世（第9図、第6表）

小鍋内遺跡Ⅰ・Ⅱ遺跡が所在する鹿子畑・金枝地区は、那須氏の支配地域であり、鹿子畑館跡（188）、古屋敷遺跡（182）、金枝城跡（189）が築かれ、江川以西を領有した宇都宮氏一族の塩谷氏と対峙していた。荒川兩岸には、塩谷氏の城館として、喜連川城跡（190）、喜連川館跡（191）、中畑Ⅰ遺跡（192）、葛城城跡（193）、葛城亀貝城跡（194）などが築城された。また、那須烏山市の荒川や那珂川町の那珂川・権津川流域の崖線には、那須氏一族の居城として多くの城館が築かれた（70～77、103～110）。また、江川流域の山の神Ⅱ遺跡（133）、上金枝Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡（125）、黒尾原A遺跡（131）、岩川流域の古沢遺跡（180）、権津川流域の三輪仲町遺跡（129）からは、中世以降の溝や墓穴・竪穴遺構などが確認されている。



第9図 小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡周辺の主要遺跡分布図（中世）

第6表 小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡周辺の主要遺跡一覧表(中世)

No.	時期	遺跡名	所在地	種別	備考
125	古墳時代前期・平安・中世・近世	土倉柱Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	さくら市金柱	集落	平成18・21年度調査。平成18年度1遺跡(中近世の溝8条・井戸7本・土坑多数)。Ⅱ遺跡(古墳時代前期の塚6位住居2棟。中近世の溝1条・井戸3本・土坑)。Ⅲ遺跡(古墳時代前期の塚6位住居1棟。中近世の溝3条・井戸3本・土坑)。
129	新石器～中世	三輪塚町遺跡	郡山町三輪	集落	数回に渡る調査が実施。古墳から奈良・平安時代の塚6位住居130軒以上確認。大規模集落跡が確認。古墳時代前期の方墳8基。また奈良時代の塚6位住居の上を2基の溝が走り(道路跡)。
131	中世～中世	黒地原A遺跡	郡山臨山市上川井	集落	平成8年度調査。古墳時代後期の塚6位住居2棟・中世の溝1条。奈良・平安の遺跡4基。中世の土坑2基・溝1条。
133	古墳時代後期～中世	山の神Ⅱ遺跡	さくら市金柱	集落	平成19・20年度調査。平成19年度調査区内から、塚6位住居37軒(古墳時代後期2軒。奈良・平安時代35軒)。独立柱建物7棟(奈良・平安時代1棟。中世6棟)。中世の堀跡1条・方形穴遺構1基を確認。
171	古墳～近世	森後遺跡	喜連川町大字獅子塚	集落 官衙関連	本郷吉(群芳体成基盤整備事業区江向部1地区部分)、沼原の郡山跡山(中世5基遺跡と同一遺跡か)。
172	奈良～中世	タツ熊遺	郡山臨山市鹿野山	古代遺跡	平成15・16年度調査。男園跡と鬼園跡を結合伝説。
180	奈良・平安時代・中世	古沢遺跡	郡山臨山市志島	集落	平成3・5年度調査。平安時代の塚6位住居2軒。中世以降の塚6位遺構2基・土坑13基・井戸5基。溝5条。
188	中世	獅子塚遺跡(前坪遺跡)	さくら市獅子塚	城跡	土家鹿子塚氏城跡。天文11(1542)年廃す。
182	古墳～中世	古沢城遺跡	喜連川町大字獅子塚	城跡か	獅子塚跡跡跡和名の遺跡か。
189	中世	金柱城跡(西沢寺西遺跡)	さくら市金柱	城跡	後部のx山城。正平年間(1346～1350)。郡山臨前河内陸奥城。
190	中世	喜連川城跡(倉ヶ崎城跡、塩谷氏城跡)	さくら市喜連川	城跡	連部心山城。文治2(1186)年。塩谷重忠築城か。 天保8(1590)年焼城。喜連川城跡内177の城。
191	中世	喜連川城跡(足利氏城跡)	さくら市喜連川	城跡	近世には足利氏城跡。
192	中世末	中塚Ⅰ遺跡	喜連川町大字葛城	城跡か	
193	中世	葛城城跡(尾ノ宮遺跡)	さくら市葛城	城跡	山城。長禄元(1457)年。塩谷安守築城城か。 大永4(1524)年焼城か。
194	中世	葛城電川城跡	喜連川町大字葛城	城跡	山城。
195	中世	上川井城跡(小堀城跡)	郡山臨山市上川井	城跡	単部の平城。郡山友家築城か。大永元(1521)年焼城。
196	中世	堀之内遺跡	郡山臨山市下川井	城跡	平地の跡跡。
197	中世	下川井城跡	郡山臨山市下川井	城跡	連部心山城。郡山友家築城か。川井氏築代の城。 元正18(1590)年焼城。
198	中世	志島城跡	郡山臨山市志島	城跡	山城。
199	中世	栗田城跡(栗田城跡)	郡山臨山市栗田	城跡	貞仁年間(1222・1223)に郡山友家築城。天正18(1590)年焼城。
200	中世	戸田城跡	郡山臨山市三園	城跡	単部の跡跡。
201	中世	堀古城跡	郡山臨山市三園	城跡	後部の跡跡。
202	中世	入江野城跡	郡山臨山市三園	城跡	連部心山城。永禄6(1563)年佐久山彦秀興築。天正14(1586)年焼城。
203	中世	淨法寺城跡	郡山町浄法寺	城跡	昭和59年～60年調査。中世以後の遺構は、井戸2本、方形塚穴・土坑25基。溝1条。内堀、外堀。郡山氏家浄法寺氏城跡。文禄・慶長(1592～1615)年間に廃止。
204	中世	高田城跡	郡山町芳井	城跡	山城。
205	中世	三輪新城跡(三輪城跡)	郡山町三輪	城跡	井平氏築城か。昭和7年調査。中世以降の遺構は中世の方形塚穴4基、独立柱建物7棟。井戸11基。
206	中世	後城跡	郡山町三輪	城跡	方形単部の跡跡。
207	中世	戸田城跡	郡山町東戸田	城跡	連部心山城。
208	中世	郡山神山城跡	郡山町三輪	城跡	国許定宗跡。昭和42年調査。単部式丘方プランの跡跡。12世紀前半は郡山氏築城か。郡山氏築城時代の本拠地。
209	中世	井平城跡	郡山町井平	城跡	連部心山城。
210	中世	大久保城跡	郡山町白久	城跡	山城。
211		狭間田城跡	氏家町狭間田字元福	城跡	
212		碓方寺遺跡	氏家町狭間田字碓方寺	集落跡	
213		堀内寺遺跡	氏家町氏家字高野田	寺院跡	

主要参考文献

小川町教育委員会 1991『増補改訂 小川町の遺跡』

喜連川町史編さん委員会 2003『喜連川町史 第1巻 資料編Ⅰ 考古』喜連川町

喜連川町教育委員会 1990『栃木県喜連川町 田町Ⅱ北遺跡』

南那須町教育委員会 1991『南那須町の遺跡』南那須町文化財調査報告第6集

南那須町史編さん委員会 1993『南那須町史 史料編』南那須町

南那須町史編さん委員会 2000『南那須町史 通史編』南那須町

第III章 小鍋内I遺跡

第1節 遺跡の概要（第10図、巻頭図版一・二、図版一・二）

小鍋内I遺跡は、遺跡範囲の北側で欠ノ上II遺跡と接している。喜連川町史によると、小鍋内I遺跡は町史編纂時の踏査において古墳時代の遺物が多く散布することから該期の集落跡と考えられ、その時点での推定では江川右岸の段丘縁辺部の南北180m、東西100mの範囲とされた。今回の平成20年度の調査では、遺跡推定範囲の東縁部分5700㎡の発掘を実施し、遺跡の約30パーセント程度の実態が明らかになったことになる。また、欠ノ上II遺跡も欠ノ上I遺跡と共に町史編纂時の分布調査の際に確認され、古墳時代から平安時代までの遺物散布地として把握されていた。

調査範囲からは、若干の旧石器と、遺構は確認できないものの縄文時代前期から晩期までの土器破片・石礫石器・石製品などが出土し、調査区の北端部分では弥生時代前期の土器破片の散布も発見された。続く古墳時代では、前期から後期・終末期にかけての竪穴建物跡9軒、土坑22基が確認され、奈良・平安時代の遺構としては竪穴建物跡6軒、中世以降では土坑234基、溝跡25条などが発見された。

縄文時代では、小鍋内II遺跡で前期黒浜式期の竪穴建物が2軒発見され、同一段丘上に該期の集落跡が存在するものと推測される。また、採取された弥生土器には、当地域では確認例の少ない前期のものが一定量含まれていることも判明した。

古墳時代では、中期の竪穴建物跡は6軒を数え、該期の集落跡の存在が確認できた。また、一辺5mを越える、相対的に大型の竪穴建物跡においては、貯蔵穴や張出ピットおよびその周辺から多数の土師器が出土し、酸化鉄を主成分にした顔料により赤彩された坏が多く出土した。

奈良・平安時代の竪穴建物は、古墳時代のものに比べると小型で、主柱穴の存在しないものも多い。分布範囲は調査区の北半分で、古墳時代の遺構分布域とほぼ重複している。墨書された土師器の出土も見られるが、本遺跡の北に隣接する欠ノ上II遺跡では当該時期の竪穴建物が多数確認され、墨書土器も多く発掘されている。今回の小鍋内I遺跡の調査では、欠ノ上II遺跡から続く古代の集落跡の南端が確認されたものと考えられる。本遺跡の南東約1.9kmに位置する森後遺跡（第1図、第1表）では、平成17～19年度の発掘調査で、駅戸の集落跡と思われる8世紀前葉から9世紀後葉にかけての大規模な掘立柱建物群および区画施設が発見されている。また南西約5kmには芳賀郡節や東山道新田駅家との関係が指摘される長者ヶ平遺跡（第1章第2節歴史的環境参照）も存在することから、小鍋内I遺跡で確認された古代の集落跡は、これらの遺跡とも密接な関連があるものと思われる。

中世以降の遺構としては、溝跡と土坑群が確認された。溝跡は大半が調査区を北東方向に横断する形で発見され、特定の場所で複数が重複している様相が看取された。こうした「溝群」は、調査範囲の中央から南部にかけて一定の間隔を開けて存在し、段丘縁辺に直交方向に設けられている。土坑群では大小の長方形平面の土坑が、主軸を平行あるいは直交する向きに密集し、激しく切り合っている。土坑群は調査範囲の南半分に、大きく2群に分かれて集中する。溝跡と重複するものが少ないことから、両者は時期をほぼ同じくして、掘削されたものと考えられる。溝・土坑からの出土遺物は少ないが、内耳土銅、鉄銅の破片や朱銭などが出土している。従って、これらの遺構は、墓壇群とそれを区画する溝群と考えられる。なお、2つの土坑群の間には、所謂「波板状圧痕」を有する道路跡と考えられる遺構（SD-115）が確認された。近年、栃木県内においても各地で調査例が増加している。溝・道路・土坑群などがセットになった中世遺構群との比較資料が得られたものと考えられる。

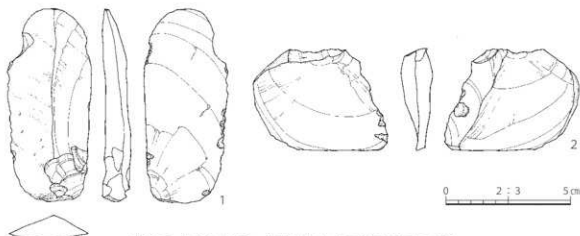
第2節 旧石器時代から弥生時代の出土遺物

旧石器時代・縄文時代・弥生時代に関しては、調査区内では遺構は確認されなかった。

1. 旧石器時代の遺物（第11図、第7表、図版一五）

1は縦長剥片である。原礫面を打面とし、表側にも原礫面が続いている。片側に使用痕と思われる、小剝離が認められる。表面と裏面では剝離の方向が90°異なる。石材は高原山麓に産出する珪質流紋岩と思われる。

2は原礫面を打点とする。この原礫面は側縁から端部まで一続きである。素材は扁平な礫であったと考えられる。表裏の剝離方向はほぼ同じである。



第11図 小鍋内I遺跡 遺構外出土の旧石器時代遺物実測図

第7表 小鍋内I遺跡 遺構外出土の旧石器時代遺物観察表

No.	出土位置	区分	種別	石材	特徴	計測値			
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
1	SI-301埋土	石器	剥片	珪質流紋岩 (高原山麓産)	縦長剥片、側縁に小剝離。	7.58	3.36	0.88	25.30
2	表層	石器	剥片	珪質流紋岩 (高原山麓産)	扁平な礫を使用。	5.30	4.05	0.83	20.01

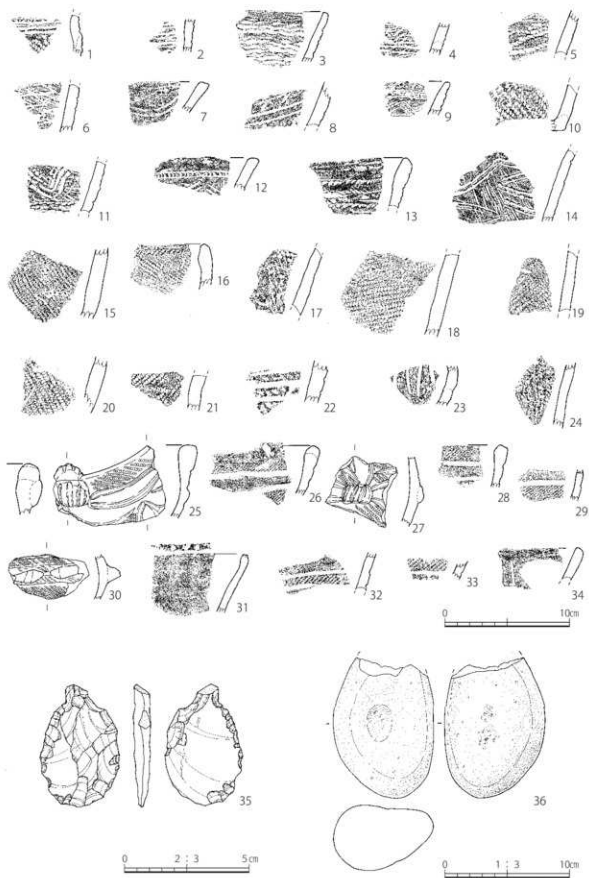
2. 縄文時代の遺物（第12図、第8表、図版一五）

黒浜式および並行する土器（第12図1～6）

1は半截竹管による平行沈線を施し、以下に2段RLの横位施文による単節縄文がみられる。2は無文地に横位の平行沈線がみられる。3は櫛歯状工具を横位に支点をずらしながら押しきっている。植房式に比定される。4は1段Rの縄、5は1段Lの縄を用いた単軸絡条体による横位の摺糸文がみられる。6は1段Rの縄を用いた単軸絡条体第5類による網目状摺糸文がみられる。大木2a式に比定される。これらはいずれも胎土に植物繊維を含む。

浮島式土器および諸磯式土器（第12図7～14）

7は摺糸文地に半截竹管による弧状の平行沈線を施す。浮島I a式土器である。8は無文地に横位の平行沈線がみられる。9・12は、口縁に沿って爪形文を施し、以下半截竹管で鋸歯状文を施す。爪形文は、半截竹管で平行沈線を引いた後、半截竹管端部を刺突している。無文地である。10は2段RLの横位施文による単節斜縄文がみられる。諸磯b式と思われる。11は、有節平行沈線を横位、波状に施す。浮島I式と思われる。13は、口縁に沿って横位の変形爪形文を施す。浮島II式に比定される。14は、1段Rの縄を用いた単軸絡条体によるまばらな摺糸文を地文とし、半截竹管による平行弧状沈線を施す。浮島I a式に比定される。7・8・11・13・14は、砂を多く含む特徴的な胎土で、色調はにぶい黄褐色（10YR 4/3）やにぶい黄橙色（10YR 6/4）を呈す。



第12図 小銅内I遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物実測図

前期末葉～中期初頭の土器（第12図15・16）

多量の白色の小礫を含む特徴的な胎土により識別される。15は、2段RLの横位施文による単節斜縄文と結節回転文がみられる。16は、口縁部直下が2段LR、以下が2段RLの横位施文による単節斜縄文を施す。口縁部内面に稜が巡り、五領ケ台式期と思われる。

中期後半から後期の土器（第12図17～24）

17～21は縄文のみが施される破片である。中期後半から後期前葉の土器と思われる。17・20が2段LRの縦位施文、他が2段LRの横位施文による単節斜縄文である。22は縄文地に横位の沈線、23は縄文地に縦位の沈線が施される。原体は22は不明で、23は2段RLの縄の横位施文である。24は、薄手で内面が平滑に仕上げられている。2段RLの横位施文による単節斜縄文が施される。後期中葉の土器と思われる。

晩期の土器（第12図25～34）

25～27は晩期前葉の安行式帯状縄文系土器である。25・27は貼瘤に縦位のキザミがみられる。26は小突起の頂部にキザミを加える。25・27は2段RLの縄、26は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文を施す。28・30はやや幅広の沈線で画された横位の縄文帯がみられる。縄文は、28が2段LRの縄、29が2段RLの縄による単節斜縄文である。30は、器形の屈曲部に押捺を加えた横位の隆帯を巡らす。縄文は、2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文である。31は、無文の土器の口縁部破片で、口端に竹管状工具で刺突を加える。32・33は細い沈線で画された横位の縄文帯がみられる。ともに、縄文は2段LRの横位施文による単節斜縄文である。34は、縦位の沈線がみられる口縁部破片である。

石器（第12図35・36）

35は縦型の石匙である。握みの端部と片側の肩部に原礫の自然面を残す。縦長剥片を素材としたと思われる、主要剥離面を大きく残す。表面のほぼ全周、裏面の片側に、小さな剥離を施し、刃部を作り出している。石材は、高原山鹿殿沢等に産出する重質流紋岩と思われる。

36は両面に凹部を持つ凹石で、長軸上の端部を欠損する。凹部は片面に1カ所、他の面に2カ所存在する。

第8-1表 小鍋内I遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(1)

No	出土位置	時期	器種	部位	器厚 (mm)	色調			焼成	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
1	表探	Ⅱ期式	深鉢	胴部	0.9	7.5YR6/4 にぶい橙	5Y3/1 オリーブ黒	10YR4/2 灰黒	良	白色微～細粒少量、 植物繊維多量。	胴部に横位の半截竹管文、半截竹管による押引、2段LRの横位単節斜縄文。
2	1-10 表探	Ⅱ期式	深鉢	胴部	0.7	5YR5/6 明赤	5Y3/1 オリーブ黒	5YR4/6 赤	良	白色微粒多量、白色～赤褐色細 粒混在含む。	無紋地に横位の平行沈線。
3	表探	Ⅱ期式	深鉢	口縁部	0.7	10YR5/3 にぶい黄橙	5Y3/1 オリーブ黒	10YR5/4 にぶい黄	良	白色微～細粒少量、 植物繊維多量。	器底状工具による押引き、横式。
4	表探	Ⅱ期式	深鉢	胴部	0.9	7.5YR6/4 にぶい橙	5Y3/1 オリーブ黒	10YR5/2 灰黒	良	白色微粒少量、 植物繊維少量。	付加糸縄文。1段Lの縄を使用した単節 斜縄文による横位の器文。
5	表探	Ⅱ期式	深鉢	胴部	0.8	10YR5/4 にぶい黄橙	5Y4/1 灰	10YR5/3 にぶい黄	良	白色微粒多量、 植物繊維少量。	付加糸縄文。1段Lの縄を使用した単節 斜縄文による横位の器文。
6	表探	大木2	深鉢	胴部	1.0	7.5YR4/3 橙	5Y3/1 オリーブ黒	10YR5/4 にぶい黄	良	白色微～細粒少量、 植物繊維多量。	1段Lの縄を使用した単節斜縄文第5型 による斜目状器文。
7	Ⅱ-280 埋土	浮島14	深鉢	口縁部	0.8	7.5YR6/6 橙	5Y3/1 オリーブ黒	5YR5/6 明赤	良	白色微粒多量含む。	器底文地に半截竹管で画した平行沈線。
8	Ⅱ-299 埋土	浮島14	深鉢	胴部	1.0	7.5YR7/6 橙	10YR5/2 灰黒	5YR6/6 橙	良	白色微～細粒多量含む。	無文地に横位の平行沈線。

第8-2表 小鍋内1遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(2)

No.	出土位置	時期	器種	部位	残厚 (mm)	色調			焼成	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
9	表採	縄文c	深鉢	口縁部	1.0	5YR4/3 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	5YR4/6 赤褐色	良	白色微粒多量、白色・黒色微粒少量含む。	縦割で、口縁に沿って爪形文、平軌竹首で編織状文
10	表採	縄文b	深鉢	底部～側下部	0.8	5YR5/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	5YR5/6 明赤褐色	良	白色微粒多量、白色・赤褐色微粒少量含む。	2段LRの縦位施文による平軌斜線文。
11	表採	浮島I	深鉢	胴部	0.9	7.5YR5/3 に赤い赤褐色	5Y3/1 オリーブ黒	5YR5/4 に赤い赤褐色	良	白色微～細粒多量、赤褐色微粒少量含む。	右側平行波線を横位・波紋に施文。
12	表採	縄文c	深鉢	口縁部	0.8	5YR4/3 に赤い赤褐色	5Y3/1 オリーブ黒	5YR5/4 に赤い赤褐色	良	白色微粒多量、赤褐色微粒少量含む。	口縁に沿って爪形文、以下、平軌竹首で編織状文
13	表採	浮島II	深鉢	口縁部	0.9～1.3	7.5YR6/6 橙	10YR5/2 灰褐色	10YR6/4 に赤い赤褐色	良	白色微粒多量、赤褐色・白色微粒少量含む。	口縁に沿って横位の波形爪形文。
14	表採	縄文c	深鉢	胴部	0.8	10YR4/3 に赤い赤褐色	10YR5/2 灰褐色	10YR6/3 に赤い赤褐色	良	白色微粒多量、黒色・赤褐色・白色微粒少量含む。	竹管文系土器
15	SI-232	前期土器～中期初期	深鉢	胴部	1.1	7.5YR6/4 に赤い赤褐色	5YR6/6 橙	10YR6/3 に赤い赤褐色	良	白色微粒少量、白色微粒少量含む。	2段LR、横位施文による平軌斜線文と結節斜線文。
16	SI-299 埋土	五箇ヶ台	深鉢	口縁部	0.9	7.5YR5/3 に赤い赤褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/4 に赤い赤褐色	良	白色・透明微粒多量含む。	口縁部以下に2段LR、以下は2段LRの縦位施文による編織斜線文。
17	SI-168 埋土	中期後半～後期前期	深鉢	胴部	0.9	10YR7/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	10YR5/3 に赤い赤褐色	良	白色・黒色微粒多量、白色・黒色微粒少量含む。	2段LRの縦位施文。
18	SI-307 埋土	中期後半～後期前期	深鉢	胴部	1.0～1.3	2.5Y6/2 灰黄	N3/O 細灰	10YR6/3 に赤い赤褐色	良	白色微粒多量、白色・赤褐色・黒色微粒少量含む。	2段LRの縦位施文による平軌斜線文。
19	SI-307 埋土	中期後半～後期前期	深鉢	胴部	0.8	10YR7/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	10YR6/2 灰黄褐色	良	白色・黒色・赤褐色微粒多量含む。	2段LRの縦位施文による平軌斜線文。
20	SI-307 埋土	中期後半～後期前期	深鉢	胴部	1.1	10YR6/4 に赤い赤褐色	5Y2/2 オリーブ黒	10YR7/3 に赤い赤褐色	良	白色・褐色微粒多量、透明微粒少量含む。	2段LRの縦位施文。
21	SI-307 埋土	中期後半～後期前期	深鉢	胴部	1.1	2.5Y3/3 黄褐色	5Y3/1 オリーブ黒	2.5Y6/3 に赤い赤褐色	良	白色・赤褐色微粒多量含む。	2段LRの縦位施文による平軌斜線文。
22	SI-307 埋土	後期	深鉢	胴部	1.2～1.4	10YR7/4 に赤い赤褐色	2.5Y6/2 灰黄	7.5YR7/3 に赤い赤褐色	良	白色微～細粒多量、透明微粒少量含む。	器体不明。
23	SK-89 埋土	後期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR6/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	7.5YR5/4 黄褐色	良	白色微粒多量、白色微粒少量含む。	2段LRの縦位施文による平軌斜線文、縄文地に縦位の波紋。
24	SK-89 埋土	後期中葉	深鉢	胴部	0.7	10YR3/1 黒褐色	10YR5/3 に赤い赤褐色	7.5YR5/4 に赤い赤褐色	良	白色微粒多量、白色微粒少量、黄褐色微粒少量含む。	2段LRの縦位施文による平軌斜線文、内面が平滑。
25	SI-299 埋土	晩期前期	深鉢	口縁部	0.6～2.1	7.5YR6/4 に赤い赤褐色	5YR7/6 橙	10YR6/4 に赤い赤褐色	良	白色・赤褐色微粒多量、白色微粒少量含む。	知都～尾谷に於ける、2段LRの縦位施文。
26	SI-299 埋土	晩期前期	深鉢	口縁部	0.7	10YR5/2 灰黄褐色	5Y4/1 灰	10YR7/4 に赤い赤褐色	良	白色・赤褐色・黒色微粒多量含む。	小突起の頂部にナズネ。
27	SI-299 埋土	晩期前期	深鉢	胴部	0.6～1.2	5YR3/1 黒褐色	7.5YR7/4 に赤い赤褐色	7.5YR3/1 黒褐色	良	白色・黒色微粒多量、白色微粒少量含む。	2段LR、縦の縦位施文。
28	SI-299 埋土	晩期	深鉢	口縁部	0.7	10YR6/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	10YR6/4 に赤い赤褐色	良	黒色微粒多量、赤褐色・白色微粒少量含む。	2段LRの縄文文。
29	SI-299 埋土	晩期	深鉢	胴部	0.7	7.5YR6/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	10YR6/4 に赤い赤褐色	良	赤褐色・黒色微粒多量含む。	2段LRの平軌斜線文。
30	SI-299 埋土	晩期	深鉢	胴部	0.5～1.7	5YR3/1 黒褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR4/1 灰黄	良	白色微粒多量、白色微粒少量含む。	2段LRの縦位施文による平軌斜線文。
31	SI-280 埋土	後期	深鉢	口縁部	0.6	7.5YR5/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	10YR6/4 に赤い赤褐色	良	白色微粒多量、白色微粒少量含む。	口縁部に竹管状工具の彫刻。
32	表採	後晩期	深鉢	胴部	0.8	10YR7/4 に赤い赤褐色	5Y4/1 灰	10YR7/4 に赤い赤褐色	横	黒色微粒多量、白色・褐色微粒～細粒少量含む。	2段LRの縦位平軌斜線文。
33	SK-192 埋土	後晩期	深鉢	胴部	0.6	10YR6/3 に赤い赤褐色	5YR5/4 に赤い赤褐色	10YR7/3 に赤い赤褐色	良	白色・黒色微粒多量、白色微粒少量含む。	2段LRの縦位平軌斜線文。
34	SK-286 埋土	晩期	深鉢	口縁部	0.8	10YR7/2 に赤い赤褐色	10YR7/4 に赤い赤褐色	10YR6/4 に赤い赤褐色	良	白色微粒多量、白色微粒少量含む。	縦位の波紋。

第8-3表 小鍋内1遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(3)

No.	出土位置	区分	種類	石種	特徴	計測値			
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
35	SI-301	埋土	石製品	石匙	主質黄緑岩。高取山麓段段段等産出の塊状石。	4.81	3.13	0.62	10.03
36	J-10	グッド表採	石製品	石匙	安山岩	11.20	8.05	5.33	619.98

3. 弥生時代の遺物 (第13図、第9表、図版一五)

1は横位の撚糸文がみられる体部破片である。原体は1段Lの縄を用いた単軸絡条体である。胎土には微砂粒を含み、色調はにぶい黄褐色(10YR 4/3)を呈す。

2は、斜位と縦位の擦痕がみられる体部破片である。内面は平滑に仕上げられている。胎土には、白色粒、白色の小礫および微砂粒を含む。色調はにぶい褐色(7.5YR 5/4)を呈す。

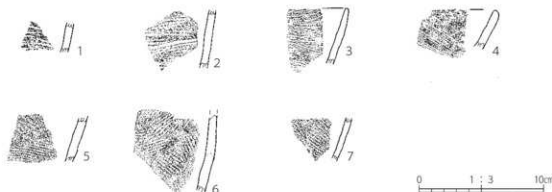
3は、口縁部から横位の条痕文がみられる土器である。口縁は角頭状を呈し、斜位の条痕を施す。口端内面直下は、指頭による押捺が加えられ、僅かに窪んでいる。以下は横位のミガキがみられる。胎土には少量の砂粒を含み、色調は明赤褐色(5YR 5/6)を呈す。

4は口縁部から斜位の条線を施している。口縁は丸頭状を呈し、器内面は平滑に仕上げられている。胎土には小礫およびガラス質の微粒を含む。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)を呈す。

5は2段RLの横位施文による単節斜縄文と横位の結節回転文を施す。内面は平滑に仕上げられている。胎土には白色の小礫およびガラス質微粒を含み、色調は褐色(7.5YR 4/3)を呈す。

6は2段LRの縄を縦位、横位に間隔を開けて施文している。内面には接合痕を残す。外面にススが付着する。胎土には微砂粒を含み、色調はにぶい褐色(7.5YR 5/3)を呈す。

7は2段LRの縦位施文による単節斜縄文を施す。砂粒、雲母片を含み、にぶい黄褐色(10YR 6/4)を呈す。



第13図 小鍋内I遺跡 遺構外出土の弥生時代遺物実測図

第9表 小鍋内I遺跡 遺構外出土の弥生時代遺物観察表

No	出土位置	時期	器種	部位	器厚 (mm)	色調			構成	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
1	I-10法渠	前期	甕	胴部	0.7	10YR4/3 にぶい黄褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	白色微粒少量含む。	横位の撚糸文。胴部破片。1段Lの単軸絡条体。
2	SI-299 埋土	前期	甕	胴部	0.8	7.5YR3/4 にぶい褐色	5Y3/1 オリーブ黒	10YR3/3 にぶい褐色	良	白色微粒多量。白色細粒少量。 白色粗粒微量含む。	斜位と縦位の条痕文。胴部破片。
3	SI-299 埋土	前期	甕	口縁部	0.6	5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	良	白色微～細粒多量。赤褐色・黒色 細粒少量含む。	口縁部に横位の条痕文。口端に斜位の条痕文。口縁部破片。
4	SI-299 埋土	前期	甕	口縁部	0.7	10YR4/2 灰黄褐色	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR2/1 黒褐色	良	白色微粒多量。赤褐色・白色細粒 少量。白色粗粒微量含む。	斜位の条線。無文・埋筋文。
5	SI-299 埋土	前期	甕	胴部	0.8	7.5YR4/3 褐色	5Y3/1 オリーブ黒	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	白色・赤褐色微粒多量。白色・赤 褐色細粒少量含む。	2段LRの単節斜縄文。横位の結節文。
6	SI-299 埋土	前期	甕	胴部	0.7	7.5YR5/3 にぶい褐色	2.5Y4/1 炭灰	7.5YR6/6 黒	良	白色・黒色・赤褐色微粒多量。白 色・赤褐色細粒少量含む。	2段LR。
7	SI-256 野城穴	前期	甕	胴部	0.6	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	白色微粒多量。透明・白色細粒 少量含む。	2段LRの単節斜縄文。

第3節 古墳時代の遺構と遺物

小鍋内I遺跡における該期の遺構の多くは、調査区の北半に位置する（第10図）。古墳時代前期から後期・終末期にかけての竪穴建物9軒、円筒形の土坑22基が確認された。

1. 竪穴建物跡

SI-168（第14・15図、第10表、図版三）

【概要】調査区のほぼ中央の東端で確認された平面形方形の竪穴建物跡である。西のコーナー部分がわずかに調査区内にかかる。南西壁上端の中央をSK-172に切られる。南西壁の方位は、N-44.0°-Wである。

【位置】M-13グリッドに位置する。確認面標高は遺構北端で155.620m、南端で155.500mである。

【規模】調査可能であったのは、南西壁3.50m、北西壁1.48mである。確認面から床面までの深さは北端で0.44m、南端で0.32m、コーナー部分で0.42mあり、床面の標高は調査範囲の中央で約155.200mである。

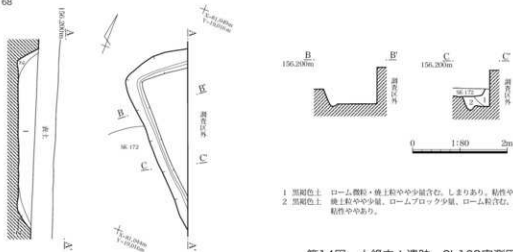
【埋土】「レンズ状堆積」が認められ、自然堆積（1～2層）と考えられる。

【床面・掘形】床面はほぼ平坦で、硬くしまっている。掘形は、調査範囲内では認められず、ハードローム層まで掘削したままの状態を床面とする。調査範囲内にかマド、柱穴および貯蔵穴、入口ピットは存在しない。

【壁溝】調査範囲内では、全ての壁際に壁溝が存在する。床面からの深さは4～7cmである。

【出土遺物】図化できた遺物は、土師器高坏1点（1）で、4世紀末頃と考えられる。

SI-168



- 1 黒褐色土 ローム微粒・焼土粒や少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 焼土粒や少量、ロームブロック少量、ローム粒含む。しまりあり。粘性ややあり。

第14図 小鍋内I遺跡 SI-168実測図



第15図 小鍋内I遺跡 SI-168 出土遺物実測図

第10表 小鍋内I遺跡 SI-168出土遺物観察表

編	種類 西様	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 高坏	—	10YR7/3 にぶい黄褐色	黄褐色・赤色粒少量、 小礫微量含む。	良好	杯部 1/3	杯部	放射状ヘラミガキ	放射状ヘラミガキ	杯身底部が溝状 に変形。杯身部 欠損。杯身基部 径(10.0) cm	甕上中層	
	—	—	—	—	—	—	杯部	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	脚	指ナデ	縦ヘラミガキ	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

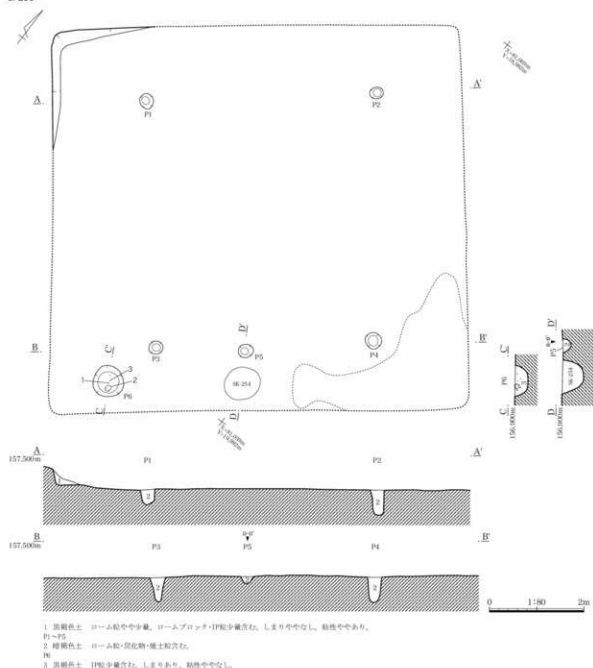
SI-256 (第16・17図、第10表、図版三・一六)

【概要】調査区中央よりやや北寄りで確認された方形平面の竪穴建物跡である。壁をほとんど削平されており、西側コーナー部分の周辺のみ壁が残る。しかし、床面の硬化部分がわずかに残存するため、この範囲で建物跡の規模が判明する。南西壁の方位は、 $N-37.0^{\circ}-W$ である。他の遺構との重複はない。

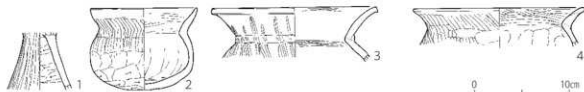
【位置】K-12・13、L-12・13グリッドに跨る。確認面標高は西側コーナー部分の上端で154.500m、北コーナーで149.900m、東コーナーで150.200m、南コーナーで149.800mである。

【規模】南西辺8.08m、北西辺8.64m、北東辺8.04m、南東辺8.87mである。確認面から床面までの深さは最大0.3mで、床面標高は西コーナーで151.100mある。

SI-256



第16図 小鍋内I遺跡 SI-256 実測図



第17図 小鍋内1遺跡 SI-256 出土遺物実測図

第11表 小鍋内1遺跡 SI-256出土遺物観察表

No.	種類 西暦	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 高杯	口径	—	小礫・白色細砂粒・ 白色砂状物を含む。	良好	肩部1/2	口縁部	—	肩部は下方 に向かって 高脚状に傾く。	貯蔵穴 埋土中層		
		口径	7.5YR6/6				体部	横割ナデ				縦ヘラミガキ
		口径	11.2				底面	—				—
2	土師器 高杯	口径	11.2	小礫・白色細砂粒・ 黒色細砂粒を含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	ハケメ	口縁部はや や平明する。	貯蔵穴 埋土上層	肩部から制 部の敷きは 一連
		口径	2.5YR/3				体部	縦ヘラナデ	縦ハケ、ヘラナデ			
		口径	8.6				底面	ヘラナデ	縦ヘラケズリ			
3	土師器 高杯	口径	17.6	小礫・白色細砂粒・ 黒色細砂粒を含む。	不良	口縁部破片	口縁部	横ナデ	ヘラナデ後、ヘラミガキ	敷貫、口縁 端部断面は 内部系。	貯蔵穴 埋土中層	口縁部から 製部の敷き は一連
		口径	7.5YR6/6				体部	ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ			
		口径	15.9				底面	—	—			
4	土師器 甕	口径	18.0	10YR7/3 に赤い斑を 含む。	良好	口縁部破片	口縁部	横ハケメ	新ハケメ	原 型 は 薄 く、肩部か ら反り出す ずかに建厚。	貯蔵穴 埋土中層	
		口径	18.0				体部	縦割ナデ	新ハケメ			
		口径	4.2				底面	—	—			

【埋土】本建物跡は削平が著しいため、西コーナー周囲にしか埋土（1層）が残存しない。そのため、自然堆積か人為的に埋め戻されているかは不明である。

【床面・掘形】床面はほぼ平坦で、硬くしまっている。床の表面は浅く掘削を受けている。掘形は、存在せず、ハードルーム層まで掘り込んだままの状態を床面としている。

【柱穴】主柱穴は5基（P1～5）確認された。P1は円形で直径31～34cm、床面からの深さ33cm、P2は円形で直径26～30cm、床面からの深さ54cm、P3も円形で直径30～32cm、床面からの深さ52cm、P4も円形で直径34～38cm、床面からの深さ54cm、P5も円形で直径29～34cmであるが、他4本に比べて著しく浅く、床面からの深さ10cmである。埋土中に柱痕や抜き取り痕などは確認できない。

【壁溝】存在しない。

【貯蔵穴】南コーナーに小型で円形の貯蔵穴1基が存在する。床面での大きさは直径66～68cm、床面からの深さは28cmである。埋土中より図示可能な土師器4点が出土した。

【入口ピット】P5の南東に円形土坑1基（SK-254）が存在するが、上端を削平されているため重複関係が確認できず、入口ピットか否かは不明である。

【炉】残存する床面には、炉の存在を示す焼土の散布などはみられず、実態は不明である。

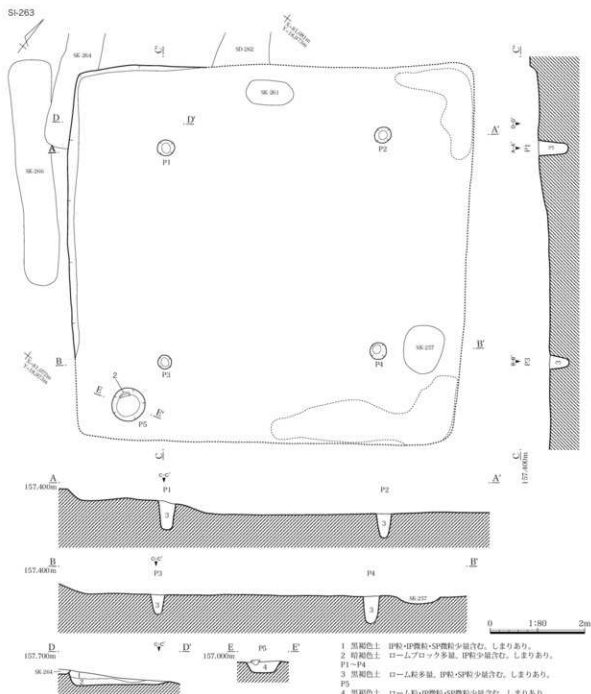
【出土遺物】図化・掲載した遺物は、土師器高杯脚部1点（1）、土師器小型甕1点（2）、土師器甕2点（3・4）である。先述の通り、4点とも貯蔵穴から出土した。3と4には口縁部から肩部にかけてハケ目が顕著である。

【時期】出土遺物から、4世紀末～5世紀初頭の遺構と考えられる。

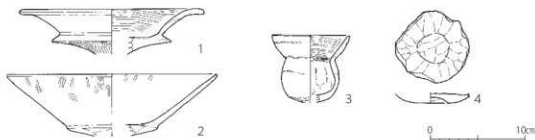
SI-263 (第18・19図、第12表、図版三・一六)

【概要】調査区中央の北寄りで確認された方形平面の竪穴建物跡である。7m南にはSI-256が存在する。当建物跡も東側の広範囲を削平されており、西側コーナーから南西辺にかけての部分のみ、壁が残る。床面の硬化部分も西側に残るだけで、東側は床面まで失われている。主柱穴と、北と東のコーナーに掘形底面がわずかに確認できるため、規模が判明する。南西壁の方位は、N-38.5°-Wである。北西辺の中央をSD-262とSK-261に、西側コーナーの上端をSK-264、東側コーナーの内側をSK-257に切られる。

【位置】K-11・12、L-12グリッドに跨る。確認面標高は西側コーナー部分の上端で157.260m、北コーナーで156.760m、東コーナーで156.760m、南コーナーで156.800mである。



第18図 小鍋内I遺跡 SI-263 実測図



第19図 小鍋内1遺跡 SI-263 出土遺物実測図

第12表 小鍋内1遺跡 SI-263出土遺物観察表

No.	種類 図録	計測値 (cm)	色調	粘土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土師器 高杯	口径 (19.6)	10YR7/2 に濃い黄緑	黒色細砂・赤色粘 土質少量、小礫質 量含む。	良好	杯部1/4 脚部欠損	口縁部	横ハケ	横ナデ	杯身底部外面 が湾曲突出。	埋土 下層
		杯身部					横ハケ	横ナデ			
		底部					不定方向のナデ	横ハケ			
2	土師器 高杯	口径 (22.0)	7.5YR5/6 明黄	砂粒多量、小礫・質 母少量含む。	良好	杯部1/2 脚部欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が今 少内湾。	床面直上
		杯身部					ヘラミガキ	ヘラミガキ			
		底部					ヘラミガキ	ヘラナデ			
3	土師器 小型壺	口径 (8.2)	7.5YR5/4 に濃い黄	砂粒多量、白色粘 土質少量含む。	良好	1/3	口縁部	横ハケ	横ナデ	口縁部やや内 湾。 内面に輪縁痕。	埋土
		杯身部					ヘラナデ後、指ナデ	ナデ			
		底部					ナデ、指頭圧痕	ヘラケズリ			
4	土師器 小型壺	口径 (—)	10YR6/3 に濃い黄緑	砂粒多量、赤色粘 土質少量含む。	良好	底部欠片	口縁部	—	—	底部外面の中 角が欠け。	床面直上
		杯身部					—	—			
		底部					指ナデ	ヘラケズリ			

【規模】南西辺7.74m、北西辺8.46m、北東辺8.06m、南東辺7.98m程度と推測される。確認面から床面までの深さは最大0.45mで、床面標高は西コーナーで157.250mある。

【埋土】本建物跡は削平が著しいため、西コーナー周囲にしか埋土（1～2層）が残存しない。この部分の土層観察では、わずかにレンズ状堆積が看取できることから、自然堆積と考えられる。

【床面・掘形】床面は西側に残る。西側では掘形が存在せず、ハードルーム層まで掘り込んだままの状態を床面としている。一方、東側では床面は削平を受けていたが、北側コーナーと東側コーナーに掘形の底部と考えられる浅い掘り込みが残存していた。壁溝は存在しない。竈の存在も確認できなかった。

【柱穴】主柱穴は4基（P1～4）確認された。P1は円形で直径35～39cm、床面からの深さ61cm、P2は円形で直径34～38cm、床面からの深さ52cm、P3も円形で直径30cm、床面からの深さ42cm、P4も円形で直径36cm、床面からの深さ60cmである。埋土中に柱痕や抜き取り痕などは確認できない。

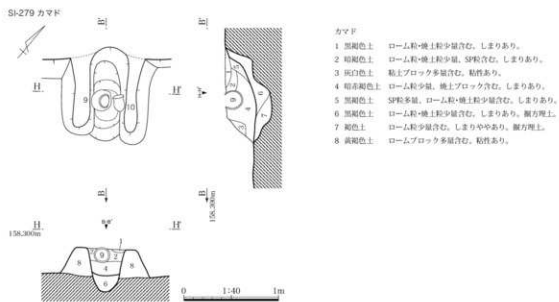
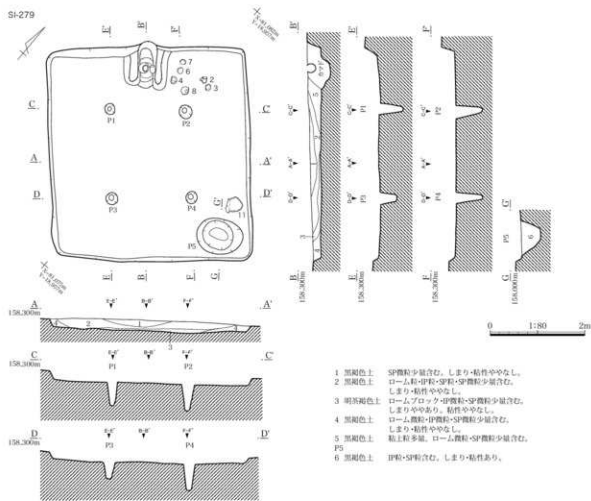
【貯蔵穴】南コーナーに小型で円形の貯蔵穴1基が存在する。床面での大きさは直径71cm、床面からの深さは26cmである。埋土中より図示可能な土師器1点が出土した。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は、土師器高坏坏身2点（1・2）、土師器小型壺1点（3）、土師器小型壺の底部と考えられる破片1点（4）である。先述の通り、2は貯蔵穴から出土した。

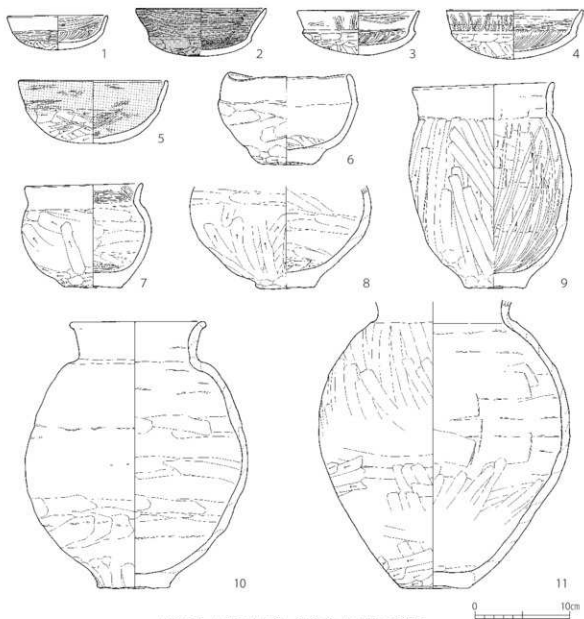
【時期】出土遺物の形状から、4世紀末～5世紀初頭の遺構と考えられる。

SI-279（第20・21図、第13表、図版三・四・一六）

【概要】調査区中央よりやや北寄りで確認された、方形平面の竪穴建物跡である。北東10mには平安時代のSI-280が存在する。他遺構との切り合いは無い。南西壁の方位は、N-42°-Wである。



第20図 小鍋内I遺跡 SI-279 実測図



第21図 小鍋内I遺跡 SI-279 出土遺物実測図

第13-1表 小鍋内I遺跡 SI-279出土遺物観察表(1)

No.	種類 器種	寸法値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	上頸鍋 H	口径 10.4	10YR5/4 に赤い黄褐色	砂粒・雲母少量含む。	良好	1/2	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	境が不明瞭。	埋土
		体部					へらナデ後、横へらミガキ	横へらミガキ			
		底面					放射状へらミガキ	へらケズリ			
2	上頸鍋 H	口径 (13.7)	2.5YR4/8 赤褐色	雲母多量、砂粒少量含む。	良好	口縁部1/4、 体部～底面 欠存	口縁部	横へらミガキ	横へらミガキ	内面と外面共に赤褐色。	床面直上
		体部					放射状へらミガキ	横へらケズリ			
		底面						不定方向へらケズリ			
3	上頸鍋 H	口径 (12.7)	5YR4/6 赤褐色	白色細砂粒・雲母多量含む。	良好	口縁部1/4、 体部～底面 欠存	口縁部	横へらミガキ	横ナデ後、へらミガキ	境が不明瞭。	床面直上
		体部					横へらミガキ	横へらケズリ			
		底面					放射状へらミガキ	不定方向へらケズリ			

第13-2表 小鍋内1遺跡 SI-279出土遺物観察表(2)

No.	地層 部種	計測値 (cm)	色調	出土	状況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内部	外面				
4	土師器 杯	口径 14.4	7.5YR6/6 橙	砂粒・雲母多量、小 砂少量、白色針状 物少量混在。	良好	ほぼ定存	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	表面直上		
		底部					横ナデ	ヘラミガキ、指ナデ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラミガキ、指ナデ				
5	土師器 杯	口径 (15.6)	10YR3/1 黒黒	砂粒少量、小砂少量 混在。	良好	1/3	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	表面は高く短丸、 内面は外直上平 にウレシ。	埋土	
		底部					ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラミガキ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラミガキ				
6	土師器 鉢	口径 13.0	7.5YR5/3 に濃い黄	砂粒・雲母多量、小 砂少量混在。	良好	定存	口縁部	横ナデ	横ナデ	底部は突出し、 中央はやや凹む。	表面直上	
		底部					ナデ	横ヘラナデ				
		底面					指ナデ	ナデ				
7	土師器 甕	口径 12.2	10YR4/3 に濃い黄	砂粒・雲母多量、小 砂少量混在。	良好	ほぼ定存	口縁部	横ナデ後、ハケメ	横ナデ	ハケメあり。 底部中央はや や凹む。	表面直上	
		底部					横ヘラナデ	ヘラミガキ後、ナデ				
		底面					ナデ後、ヘラミガキ	不定方向ナデ				
8	土師器 甕	口径 —	5YR4/4 に濃い赤褐	小砂・砂粒多量、雲 母少量混在。	良好	底部定存、 胴部下半1/3	口縁部	—	—	胴は球状。	表面直上	
		底部					ヘラミガキ後、指ナデ	指ナデ、ヘラナデ				
		底面					不定方向指ナデ	不定方向指ナデ				
9	土師器 甕	口径 14.7	5YR5/5 暗赤	砂粒・小砂多量混在。	良好	定存	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好。 底部やや突出。	表面直上	
		底部					ヘラミガキ後、横ヘラミガキ	横ヘラミガキ				
		底面					不定方向ヘラミガキ	ナデ				
10	土師器 甕	口径 (13.8)	7.5YR4/3 黄	砂粒多量、小砂少 量混在。	良好	口縁部1/3、 胴部は定存	口縁部	横ナデ	横ナデ	胴部の下位に 是人瓦。	カマド	
		底部					横ヘラナデ	横ヘラナデ				
		底面					不定方向ヘラミガキ	不定方向ナデ				
11	土師器 甕	口径 —	10YR4/3 に濃い黄	砂粒多量、小砂少 量混在。	良好	胴部上半 3/4、胴部下 半～底部迄	口縁部	放射状ナデ	放射状ナデ	胴部のやや上 位に是人瓦。	埋土	
		底部					横ヘラナデ	ヘラミガキ後、ヘラナデ				
		底面					指ナデ	不定方向ヘラミガキ				

【位置】J-11・K-12、K-12グリッドに跨る。確認面標高は西側コーナー部分の上端で158.050m、北コーナーで157.980m、東コーナーで157.880m、南コーナーで157.990mである。

【規模】南西辺4.37m、北西辺4.20m、北東辺4.50m、南東辺4.20mの大きさで、正方形に近い。床面の標高は、西側コーナー157.850m、北側コーナー157.760m、東側コーナー157.755m、南側コーナー157.845m、中央157.830mである。東側に向かって緩く傾斜し、わずかに凹面を呈する。床面積は17.6㎡である。

【埋土】「レンズ状堆積」が認められ、自然堆積(1～5層)と考えられる。黒色系の埋土の中で、4層のみがロームブロックを含む暗黄褐色土で、土壌根等の落下層の可能性もある。

【床面・掘形】床面は平坦である。全体的に硬くしまっているが、中央部分で比較的硬化の度合いが強い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。壁溝は無い。

【柱穴】主柱穴は4基(P1～4)確認された。P1は円形で直径22～26cm床面からの深さ50cm、P2は円形で直径28～30cm、床面からの深さ56cm、P3も円形で直径25～27cm、床面からの深さ35cm、P4も円形で直径24～27cm、床面からの深さ56cmである。埋土中に柱痕や抜き取り痕などは確認できない。東側の2基(P2・P4)がやや深い。入口ピットは存在しない。

【貯蔵穴】東側コーナーに1基存在する。開口部平面は楕円形で、建物主軸に対して長軸が直交する。底面は楕円形で狭い。壁の立ち上がりの角度は緩く、中程から開口部に向って傾斜が急になる。開口部の長軸98cm、短軸75cmで、床面からの深さは41cmになる。底面は長軸42cm、短軸23cmである。

【カマド】北西辺の中央に付設している。一端、燃焼部の範囲に不整形平面の掘形を設け、埋め戻して底面を平坦に成形し、その上にローム粒を含む暗褐色土で袖部を構築している。カマド上面はほとんど削平を受けていないため、両袖部とも保存状態は比較的良好である。芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けられている。焚口のブリッジ部分はすでに崩落していたが、埋土中に粘土ブロックを含む層として形を留めていた。煙道は

ほとんど突出せず、燃焼部から急角度に立ち上がっている。燃焼部では大小2点の土師器甕(9・10)が出土したが、カマド自体は破壊された形跡は無く、大型の9は原位置を保っていると思われる。支脚は存在しない。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は、土師器環5点(1~5)、土師器鉢1点(6)、土師器甕5点(7~11)である。11は貯蔵穴付近の床面から出土したが、他は全てカマド内やその周辺の床面及び床面直上から発見された。3・4は稜が明瞭で口縁が開く、蓋模倣の環である。2は稜が坏身の低い位置に巡り、丁寧なミガキを施して赤彩する。8はやや小ぶりだが、球胴の甕であろう。9は上記の通り、カマド内から出土した。広口の甕で胴部内面にミガキがみられる。

【時期】出土遺物から、6世紀中葉の遺構と考えられる。

SI-299 (第22・23図、第14表、図版四・一六・一七)

【概要】調査区北部で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。7m北西にはSI-301が存在し、周辺にはSK-298・300などの古墳時代の土坑が散在する。上面を削平され、東辺中央の上端をSK-297に、南東コーナー部分の上端をSD-291に切られるが、床面に達する重複はみられない。西壁の方位は、N-8.5°-Wである。

【位置】I-10、J-10グリッドに跨る。確認面標高は北西側コーナー部分の上端で158.525m、北東コーナーで158.405m、南東コーナーで158.350m、南西コーナーで158.590mである。

【規模】北辺5.98m、東辺5.69m、南辺6.06m、西辺5.65mの大きさで、やや胴張りのある正方形を呈する。床面の標高は、西側コーナー158.105m、北側コーナー158.030m、東側コーナー158.100m、南側コーナー158.125m、中央158.100mである。東側に向かってわずかに傾斜し、若干凹面を呈する。床面面積は31.0㎡である。

【埋土】「レンズ状堆積」が認められ、自然堆積(1~5層)と考えられる。黒色系の埋土の中で、2層のみがローム粒子を多量に含む褐色土で、土屋根等の落下層の可能性もある。

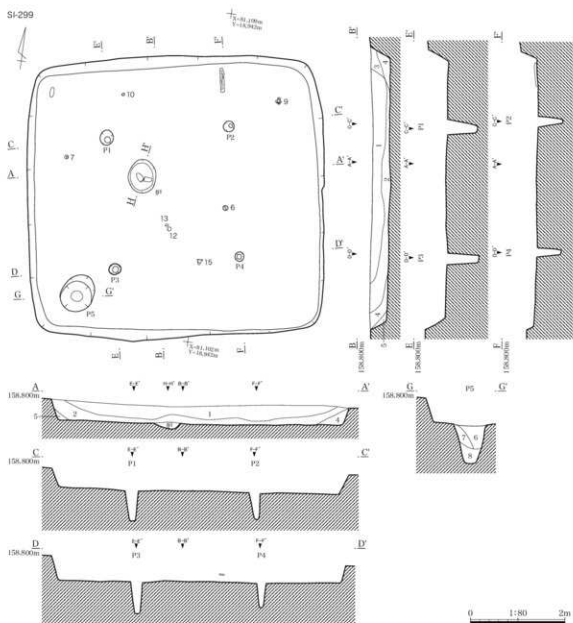
【床面・掘形】床面には著しい凹凸や、壇状の高まりもみられない。全体的に硬くしめるが、中央部分で比較的硬化の度合いが強い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。

【柱穴】主柱穴は4基(P1~4)確認された。P1は円形で直径30~34cm、床面からの深さ64cm、P2は円形で直径23~24cm、床面からの深さ56cm、P3も円形で直径24~26cm、床面からの深さ67cm、P4も円形で直径20~21cm、床面からの深さ53cmである。埋土中に柱痕や抜き取り痕などは確認できない。西側の2基(P2・P4)がやや深い。

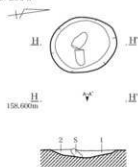
【壁溝】存在しない。

【貯蔵穴】南西コーナーに存在するP5を貯蔵穴と考えた。開口部平面は円形で、北側に上端の崩れが認められる。底面も円形で狭い。壁の立ち上がりの角度は急で、ビット状を呈する。開口部の直径68cm、底面の直径24cm、床面からの深さ86cmである。埋土は3層に分かれ、建物の壁側からの流入土(P5:9層)が確認できる。遺物の出土は無い。

【入口ビット】存在しない。

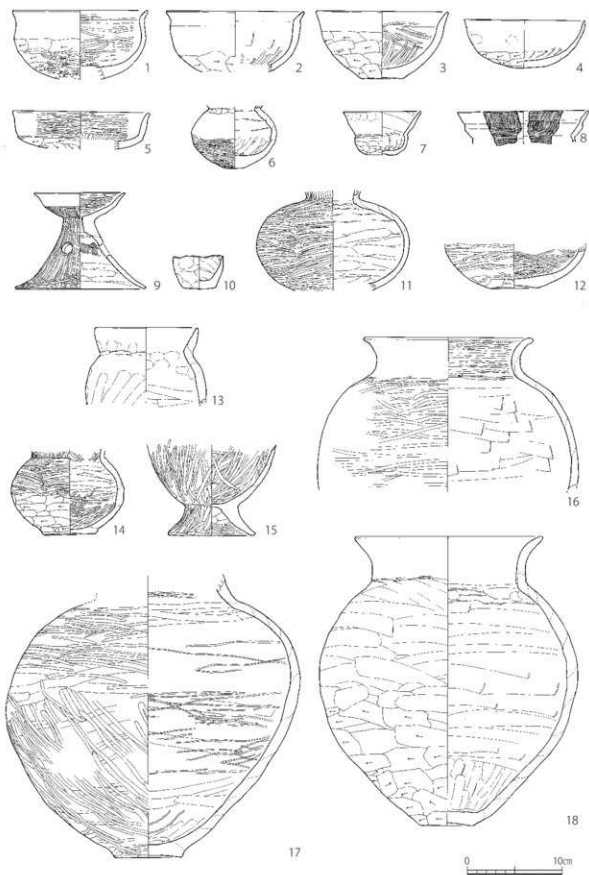


SI-299 跡



- 1 黒褐色土 伊粘やや少混、SP粒少混、ローム粒含む。しまりややあり、粘性ややなし。
- 2 褐色土 ローム粒多混、伊粘やや少混、SP粒少混含む。しまりややあり、粘性ややなし。
- 3 暗黒褐色土 ローム粒少混やや少混含む。しまりややあり、粘性ややなし。
- 4 黒褐色土 伊粘やや少混、ローム粒少混含む。しまりややあり、粘性ややなし。
- 5 暗褐色土 ローム粒やや少混、ロームブロック含む。しまり・粘性ややあり。
- P5
- 6 黒褐色土 ローム粒少混、伊粘微混含む。しまりあり、貯蔵穴。
- 7 暗褐色土 ローム粒・粘上粘上ブロック少混含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗黒褐色土 ローム粒多混含む。しまり・粘性あり。
- S1
- 1 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒少混含む。しまりあり。
- 2 褐色土 ローム粒少混、炭化物粒微混含む。しまりあり。

第22図 小鍋内I遺跡 SI-299 実測図



第23図 小鍋内I遺跡 SI-299 出土遺物実測図

第14-1表 小鍋内I遺跡 SI-299出土遺物観察表(1)

No.	種類 名称	片断径 (cm)	色調	出土	状況	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内部	外面			
1	土器類 埴輪片	口径 (14.2)	7.5YR5/4 にぶい・黄	遺物少量含む。	良好	1/4	口縁部	横ナデ後、横ヘラミガキ	横ナデ	口縁部が内傾し、外面に横。	埴土
		底面					横ナデ後、横ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			
		底面					不定方向ヘラミガキ	ヘラミガキ			
2	土器類 埴輪片	口径 (14.5)	10YR6/4 にぶい・黄緑	砂粒・雲母・小礫少量含む。	良好	口縁部～体部1/6	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が内傾し、外面に横。	埴土
		体部					ヘラナデ後、ヘラミガキ	上半ナデ、下半ヘラナズリ			
		底面					—	—			
3	土器類 埴輪片	口径 (13.8)	7.5YR5/6 明黄	白色細砂粒・雲母少量含む。	良好	1/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	平底で、中央がやや凹む。	埴土
		体部					横ナデ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ			
		底面					ナデ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ			
4	土器類 埴輪片	口径 12.7	10YR7/3 にぶい・黄緑	砂粒・雲母少量含む。	良好	3/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	横不明瞭。	埴土
		体部					ナデ	指頭圧痕			
		底面					ヘラナデ	ヘラケズリ			
5	土器類 埴輪片	口径 (14.7)	5YR5/6 明赤褐	白色細砂粒・雲母少量含む。	良好	1/8	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ヘラミガキ	口縁部は直立。	埴土
		体部					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ			
		底面					—	—			
6	土器類 小型壺	口径 —	10YR5/3 にぶい・黄褐	砂粒・赤色粘多量、雲母少量含む。	良好	体部～底面、ほぼ完好	口縁部	—	—	小型の直口壺。	埴面上
		体部					ヘラナデ、指ナデ	上半指ナデ、下半ハケメ			
		底面					ヘラナデ、指ナデ	ヘラケズリ			
7	土器類 小型壺	口径 8.2	10YR6/3 にぶい・黄褐	砂粒少量、白色針状物異常量含む。	良好	完好	口縁部	ナデ	指頭圧痕	頸部の直径大。	埴面上
		体部					ナデ	上半指ナデ、下半ヘラナズリ			
		底面					ヘラナデ	ナデ			
8	土器類 鉢	口径 (13.0)	2.5YR4/6 赤褐	白色細砂粒・雲母多量含む。	良好	1/12	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	口縁部断面がS字状。内面と外面共に赤褐色。	埴土
		体部					横ヘラミガキ	横ヘラミガキ			
		底面					—	—			
9	土器類 埴輪片	口径 (9.5)	5YR5/6 明赤褐	砂粒・雲母少量含む。	良好	断面欠片	口縁部	ヘラミガキ	横ナデ	断面部は大きく凹む。	埴面上
		体部					ヘラミガキ	ハケメ、ナデ			
		底面					横ナデ、一部にハケメ	横ヘラミガキ			
10	土器類 小型土器	口径 5.3	10YR6/4 にぶい・黄褐	白色細砂粒多量、雲母微量含む。	良好	完好	口縁部	ツマミ上げ	ツマミ上げ	手捏ねによる成形。平底。	埴面上
		体部					指ナデ	指頭圧痕			
		底面					指ナデ	指ナデ			
11	土器類 小型壺	口径 —	5YR6/6 黄	砂粒・雲母多量、小礫少量含む。	良好	断面2/3	口縁部	横ナデ	横ヘラミガキ	やや大型の直口壺。	埴土
		体部					横ナデ	横ヘラミガキ			
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ			
12	土器類 小型壺	口径 —	7.5YR5/6 明黄	白色細砂粒・雲母少量含む。	良好	断面欠片	口縁部	—	—	底面中央がやや凹む。 やや大型の直口壺底面。	埴面上
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ミガキ			
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ナデ			
13	土器類 甕	口径 (11.0)	10YR5/4 にぶい・黄褐	砂粒・白色細砂粒・雲母少量含む。	良好	1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	小型の甕。口縁部がやや内傾。	埴面上
		体部					上半指頭圧痕、ナデ	ナデ			
		底面					—	—			
14	土器類 小型壺	口径 —	5YR4/6 赤褐	砂粒・雲母少量含む。	良好	体部～底面、ほぼ完好	口縁部	—	—	平底。	埴土
		体部					上半ナデ、下半ヘラミガキ	上半ヘラミガキ、下半ヘラナズリ			
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ			
15	土器類 埴輪片	口径 —	7.5YR6/4 にぶい・黄	砂粒・赤色粘多量、雲母少量含む。	良好	断面下半～下部1/2	口縁部	—	—	断面部9.0cm	埴面上
		体部					ヘラケズリ後、ヘラミガキ	ナデ後、ヘラミガキ			
		底面					横ヘラミガキ	横ヘラミガキ			

第14-2表 小鍋内1遺跡 SI-299出土遺物観察表(2)

No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	素材	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
16	土師陶器 口径 底径 高さ	(17.5) — (16.1)	10YR6/4 に濃い黄緑	白色陶粉粒多量、 雲母少量含む。	良好	口縁部～胴 部1/4	口縁部	ナデ後、ヘラミガキ	ナデ	胴部は球状。	埋土	
							胴部	ヘラナデ	ナデ後、ヘラミガキ			
							底部	—	—			
17	土師陶器 口径 底径 高さ	— 7.2 (29.8)	2.5YR7/4 浅黄	砂粒・雲母少量、小 礫微量含む。	良好	胴部1/2、底 部完全	口縁部	ナデ、ヘラナデ	ナデ	胴部上位に黒 大径、平底。	埋土	
							胴部	ヘラナデ後、ミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			
							底部	ヘラケズリ後、ナデ	ヘラケズリ後、ミガキ			
18	土師陶器 口径 底径 高さ	(19.6) 5.7 30.6	5YR5/6 明赤褐	小礫・砂粒多量、雲 母少量含む。	良好	1/2	口縁部	ナデ	ナデ	胴部中に黒 大径、平底。	埋土	
							胴部	横ヘラナデ	上平ヘラナデ、下平ナデ			
							底部	ナデ	ヘラケズリ			

【材】床面中央のやや北西寄りに存在する。平面は楕円形で、建物床面を皿状に浅く掘り窪めた形状である。長軸72cm、短軸60cm、床面からの深さ10cmである。内面は焼土化し、埋土には炭化物粒子・焼土粒子・灰などが多く含まれる。火床面からは長楕円形の川原石2点が出土し、炉石あるいは支脚と考えられる。2点とも激しく被熱し脆くなっている。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は全て土師器で、埴5点(1～4・8)、坏1点(5)、小型壺2点(6・7)、小型器台1点(9)、小型土器1点(10)、壺2点(11・12)、小型甕2点(13・14)、台付裏あるいは鉢1点(15)、甕3点(16・17・18)である。これらは床面あるいはその直上で確認され、特定箇所に集中することなく、床面全域から出土している。1・2・3の埴は所謂内斜口縁で、19の碗は有段口縁で赤彩される。5の坏は遺構確認面でも出土し、埋土の上層に混入した遺物とも考えられる。9の小型器台はほぼ床面に接する位置から正位置で出土した。15は内面に丁寧なミガキが施されることから、台付裏あるいは鉢とも考えられる。16・17・18の甕は埋土から出土している。胴部は球形である。

【時期】出土遺物から、5世紀前葉の遺構と考えられる。

SI-301 (第24～27図、第15表、図版四・一七・一八)

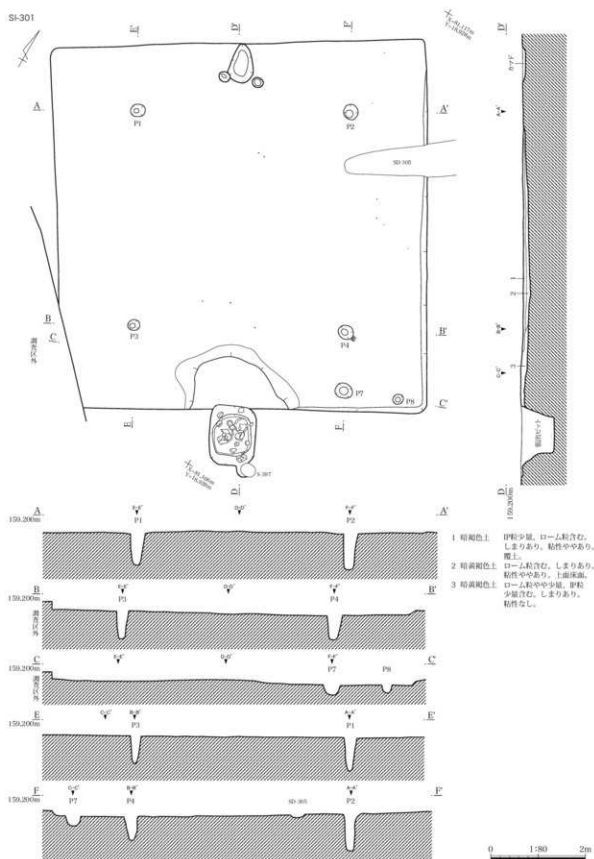
【概要】調査区北端で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。7m南東にはSI-299が、北東12mにはSI-307が存在する。周辺にはSK-300・304などの古墳時代の円筒形の土坑が散在する。南側コーナーは調査区外になる。上面は北西側がかなり削平を受け、北東辺と南東辺の一部に、わずかに壁が残る。カマドの周囲は床の表面まで削平されていた。しかし、床面の硬化部分と貼床が残存するため、この範囲によってある程度、建物跡の平面形・規模が判明した。北側の一部をSD-305に切られている。北東辺の方位は、N-30°-Wである。

【位置】1・10グリッドに位置する。確認面標高は北西側コーナー上端で158.820m、北東コーナーで158.850m、南東コーナーで158.850m、南西コーナーで158.880mである。

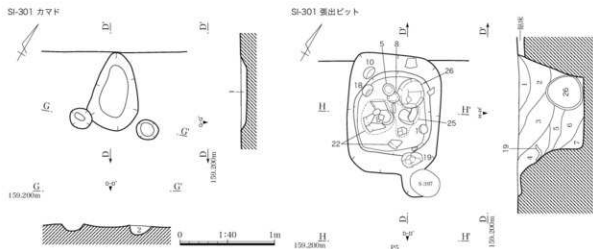
【規模】北辺7.94m、東辺7.92m、南辺7.30m、西辺5.53mの大きさで、ほぼ正方形を呈する。床面の標高は、東側コーナー158.740m、中央158.740mである。南東側に向かってわずかに傾斜する。床面積は59.3㎡である。

【埋土】埋土は最下層(1層)がわずかに残るのみで、自然堆積か人為的埋め戻しかは判断できない。

【床面・掘形】床面中央から南側にかけて貼床を施す。これは新旧2層に分層される。各層は硬く締まっている。南東辺中央に位置する張出ピットの前面では、床が幅2m、奥行き1.2mの半円形に5～7cm高くなる。



第24図 小鍋内I遺跡 SI-301 実測図(1)



カマド

1 暗褐色土 SP粒少量、ローム粒含む、しまりややあり、粘性ややなし。

カマド断面土

2 暗褐色土 SP粒少量、SP粒微量含む、しまりあり。

1 黒褐色土 SP粒やや少量、ローム粒・SP粒少量含む、しまりあり、粘性なし。

2 褐色土 SP粒やや少量、ローム粒・SP粒少量含む、しまりあり、粘性ややなし。

3 黒褐色土 ローム粒少量、SP粒・SP粒含む、しまりややあり、粘性ややなし。

4 黒色土 ローム粒やや少量、SP粒・SP粒少量含む、しまりややあり、粘性ややなし。

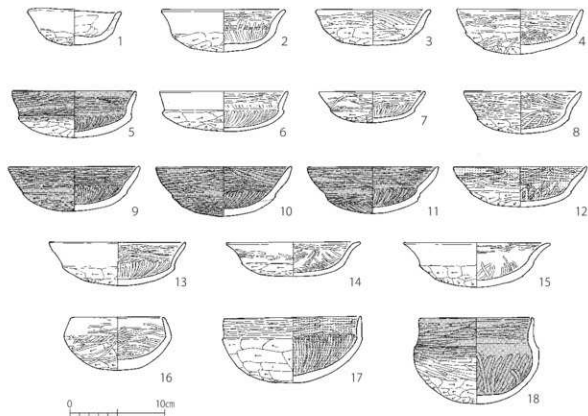


5 明黒褐色土 SP粒やや少量、ローム粒少量、SP粒含む、しまりややあり、粘性ややなし。

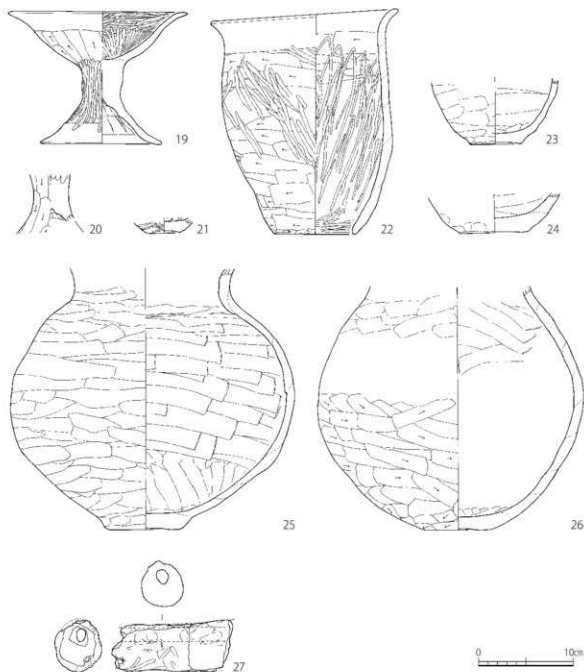
6 黒褐色土 ローム粒やや少量含む、しまりややあり、粘性ややなし。

7 暗褐色土 ローム粒含む、しまりややあり、粘性ややなし。

第25図 小鍋内I遺跡 SI-301 実測図(2)



第26図 小鍋内I遺跡 SI-301 出土遺物実測図(1)



第27図 小鍋内I遺跡 SI-301 出土遺物実測図(2)

第15-1表 小鍋内I遺跡 SI-301出土遺物観察表(1)

No	種類 器種	寸法 計測値 (cm)	色調	出土	状況	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内部	外部				
1	土器 杯	口径	3.5	7.5V7.6 紺	黒色陶砂粒・白色陶 砂粒含む。	良好	ほぼ完全	口縁部	横ナデ	横ナデ	小形の杯。種 不明。	堀出 ピット
		体部	ヘラナデ					横ナデ				
		底面	ヘラナデ					ヘラケズリ				
2	土器 杯	口径	12.0	5YR5/6 明赤	白色陶砂粒・黒色陶 砂粒・雲母含む。	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ	口縁部がやや 開く。種不明 。	表面直上
		体部	放射状ヘラミガキ					横ナデ				
		底面						ヘラケズリ				
3	土器 杯	口径 (11.8)	2.5YR5/6 紺	白色陶砂粒・雲母含 む。	良好	口縁部一部 1/2	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	口縁部がやや 開く。種不明 。	表面直上	
		体部					ヘラミガキ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				

第15-2表 小鍋内1遺跡 SI-301出土遺物観察表(2)

No.	種類 種別	計測値 (cm)	色調	素材	状況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内部	表面				
4	土師陶 杯	口径 13.2	5YR6/6 橙	小磯・白色細砂粒・ 黄母・白色針状物質 含む。	良好	口縁部1/2 欠損	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	縁は明瞭。	底面直上	
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ後、彫ミガキ				
5	土師陶 杯	口径 13.0	5YR6/4 に赤い・橙	小磯・白色細砂粒・ 黄母・白色針状物質 含む。	良好	口縁部1/3 欠損	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面と外面上 半に赤彩。	掘出 ビット	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
6	土師陶 杯	口径 13.4	7.5YR6/4 に赤い・橙	透明細砂粒・白色細 砂粒・白色針状物質 含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ	口縁縁部は中 外外見、横は 明瞭。	底面直上	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
7	土師陶 杯	口径 (11.2)	7.5YR6/6 橙	白色細砂粒含む。	良好	1/2	口縁部	ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	口縁縁部は中 外外見、横は 明瞭。	底面直上	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
8	土師陶 杯	口径 12.2	5YR6/6 橙	小磯・透明細砂粒・ 白色細砂粒・赤色粒 含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	口縁縁部は中 外外見、横は 明瞭。	掘出 ビット	
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
9	土師陶 杯	口径 13.8	2.5YR8/3 黄黒	小磯・黒色細砂粒・ 白色細砂粒含む。	良好	完好	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	内面と外面共 に赤彩。	底面直上	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
10	土師陶 杯	口径 (14.2)	10YR8/3 浅黄赤	黒色細砂粒・白色細 砂粒含む。	良好	1/2	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	口縁部が大きく 開く。内面と外 面共に赤彩。	底面直上	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	横・斜ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	横・斜ヘラミガキ				
11	土師陶 杯	口径 (13.6)	2.5YR/1 灰白	白色・白色細砂粒含 む。	良好	口縁部～底 部1/2	口縁部	横ナデ	横ヘラミガキ	口縁部が大きく 開く。内面と外 面共に赤彩。	底面直上	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	横・斜ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	横・斜ヘラミガキ				
12	土師陶 杯	口径 14.0	5YR6/6 橙	小磯・白色細砂粒・ 白色針状物質含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナデ	ヘラミガキ	内面と外面上 半にウルクシ。	底面直上	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
13	土師陶 杯	口径 14.2	5YR6/8 橙	白色細砂粒含む。	不良	ほぼ完好	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ	口縁部が開く。	底面直上	
		底面					放射状ヘラミガキ	横ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	横ヘラケズリ				
14	土師陶 杯	口径 (14.0)	5YR6/8 橙	小磯・白色細砂粒・ 黄母含む。	不良	ほぼ完好	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	口縁部が外反 する。横は不 明瞭。	底面下	
		底面					斜ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					一定方向ヘラミガキ	ヘラケズリ				
15	土師陶 杯	口径 15.1	5YR6/6 橙	白色細砂粒・黒色細 砂粒・黄母・白色針 状物質含む。	良好	口縁部1/3 欠損	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ	口縁部が外反 する。	底面直上	
		底面					斜ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					斜ヘラミガキ	ヘラケズリ				
16	土師陶 杯	口径 (19.5)	2.5YR5/6 明黄赤	白色細砂粒・黄母・ 白色針状物質含む。	良好	口縁部1/5 欠損	口縁部	横ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部が内傾 する。やや平 浅。	底面直上	
		底面					斜ヘラミガキ	ヘラケズリ後、彫ミガキ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ後、彫ミガキ				
17	土師陶 杯	口径 14.4	5YR5/4 に赤い・赤黄	白色細砂粒・透明細 砂粒・黄母含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	内面にウルクシ。	掘出 ビット	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
18	土師陶 鉢	口径 11.8	5YR6/6 橙	小磯・白色細砂粒・ 黄母・白色針状物質 含む。	良好	完好	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	内面と外面上 半に赤彩。	掘出 ビット	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
19	土師陶 蓋杯	口径 18.8	5YR6/4 に赤い・橙	透明細砂粒・白色細 砂粒・黄母・白色針 状物質含む。	良好	ほぼほぼ完 好。	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ	口縁部は開 く。脚部径 (12.8) cm	掘出 ビット	
		底面					放射状ヘラミガキ	横ヘラケズリ				
		底面					横ナデ	ヘラミガキ、横ナデ				
20	土師陶 高杯	口径 —	5YR6/6 橙	小磯・白色細砂粒・ 透明細砂粒・白色針 状物質含む。	良好	脚部のみ	口縁部	—	—	脚部上半は中 視。	底面直上	
		底面					—	—				
		底面					横ナデ	横ヘラケズリ				
21	土師陶 小型 高杯	口径 —	2.5YR8/2 灰白	白色細砂粒・黒色細 砂粒含む。	良好	底面完好	口縁部	—	—	底面中央が凹 む。小型者の 底面部。	埋土	
		底面					—	ヘラミガキ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラミガキ				

第15-3表 小鍋内1遺跡 SI-301出土遺物観察表(3)

No.	地層 部種	計測値 (cm)	色調	赤土	地況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内部	外面				
22	土師陶 甕	口径	19.5	2.5YR5/6 赤褐色	白色細砂粒・雲母・ 白色針状物を含む。	良好	口縁部1/4 欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	胴部の膨らみ は少ない。孔 直径7.8cm	張り ビット
		底径	8.5					体部	縦ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ		
		高さ	23.1					底部	縦ヘラミガキ	横ナデ		
23	土師陶 甕	口径	—	2.5Y7/2 灰黄	小礫・白色細砂粒・ 雲母・白色針状物を含む。	良好	底部欠存	口縁部	—	—	平底。中央が やや凹む。	床面直上
		底径	5.4					体部	横ヘラナデ	横ヘラナデ		
		高さ	17.1					底部	指ナデ	ヘラケズリ		
24	土師陶 甕	口径	—	2.5YR/3 淡黄	小礫・白色細砂粒・ 雲母・白色針状物を含む。	良好	底部1/2	口縁部	—	—	平底。中央が やや凹む。	床面直上
		底径	7.5					体部	ヘラナデ	指間圧痕		
		高さ	4.0					底部	ヘラナデ	ヘラナデ		
25	土師陶 甕	口径	—	10YR5/3 に黄・灰黄	砂粒・白色細砂粒多 量。雲母少量含む。	良好	口縁部欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	厚製。底部は 突出し、平底。	張り ビット
		底径	8.0					体部	横ヘラナデ、輪轆痕	上ナデ、下平ヘラケズリ		
		高さ	27.6					底部	縦ヘラナデ	ヘラケズリ		
26	土師陶 甕	口径	—	5YR7/4 に赤・黄	白色細砂粒・赤色粒 ・黒色細砂粒・雲母 を含む。	良好	口縁部欠損	口縁部	—	—	厚製。平底で 中央がやや凹む。	張り ビット
		底径	3.5					体部	横ヘラナデ、輪轆痕	上ナデ、下平ヘラケズリ		
		高さ	12.9					底部	ナデ	ヘラケズリ		
27	土師陶 瓦	長さ	12.9	2.5YR8/2 灰白	小礫・白色細砂粒・ 赤色粒・雲母を含む。	良好	両端欠損	上端	—	—	葺面上より端 部欠損。孔直径 1.6cm	
		幅	3.0					体部	輻方向に穿孔	指間圧痕、ヘラナデ		
		厚さ	4.8					下端	—	—		

【柱穴】当遺構では、床面で8基のビット(P1~8)が確認された。このうち主柱穴は4基(P1~4)確認された。P1は円形で直径26~32cm、床面からの深さ70cm、P2は円形で直径32~34cm、床面からの深さ77cm、P3も円形で直径24~26cm、床面からの深さ59cm、P4も円形で直径30~35cm、床面からの深さ52cmである。埋土中に柱痕や抜き取り痕などは確認できない。

【壁溝】存在しない。

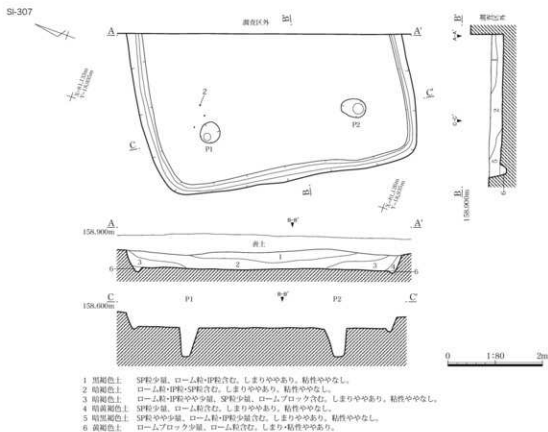
【貯蔵穴】南東辺中央部分に接して張りビットが存在する。開口部平面は長方形で、開口部は2段に掘り込まれる。底面は隅丸方形である。開口部の直径100~128cm、底面の直径74~84cm、床面からの深さ68cmである。埋土は7層に分かれ、主に建物の壁側からの流入土によって自然埋没した状況が確認できる。遺物は、環・埴・鉢・高環・甕・甕など、土師器が多数出土した。

【入口ビット】存在しない。

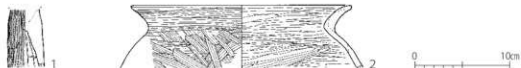
【カマド】北西辺の中央に存在する。本体は全て削平され、燃焼部掘形底面と袖部下のビットが残るのみである。燃焼部掘形底面の平面は卵形で、長軸83cm、短軸48cm、深さは70cmである。煙道は壁外にほとんど突出しない。袖部下のビットは円形で、西側のものは開口部直径24cm、確認面からの深さ9cm、東側は開口部直径20~25cm、確認面からの深さ10cmである。両ビットは袖部の先端の下に位置し、袖部を固定するためのものであろう。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は、土師器では、埴17点(1~17)、鉢1点(18)、高環2点(19・20)、小型甕1点(9)、小型土器1点(10)、壺2点(11・12)、小型甕2点(13・14)、小型壺1点(21)、甕1点(22)、甕4点(23・24・25・26)である。ほかに土製支脚1点(27)がある。これらのうち、1・5・8・17・18・19・22・25・26は張りビット内から出土し、底面あるいはその直上でまとまって確認されている。体部中位に稜線を持つ模倣埴とともに、8~13などの下位に稜線を巡らし口縁がわずかに内湾する形の埴がみられる。9・10・11は全面に赤彩を施す。19の高環は棒状の脚を持つ。甕は球胴である。

【時期】出土遺物から、6世紀前半の遺構と考えられる。



第28図 小鍋内I遺跡 SI-307 実測図



第29図 小鍋内I遺跡 SI-307 出土遺物実測図

第16表 小鍋内I遺跡 SI-307出土遺物観察表

No.	種類 名称	尺測値 (m)	色調	出土	境成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	上部竪 直井	口径 — 底径 — 深高 (6.2)	7.5YR7/4 に赤・橙	小礫・白色細砂粒・ 黄色細砂粒含む。	良好	断部	口縁部	—	—	外面のみ赤鉄。 埋土	赤鉄粉屑 ベンガラ
							体部	—	—		
							脚部	縦ヘラナデ	縦ヘラミガキ		
2	上部竪 溝	口径 — 底径 — 深高 (6.8)	10YR6/3 に赤・黄緑	小礫・白色細砂粒・ 黄色細砂粒含む。	良好	口縁部1/4	口縁部	縦ヘラミガキ	横ハケ	口縁部は強く外 反する。断面内 面に横、球状。	断面直上
							体部	斜ヘラミガキ	斜ハケ		
							底部	—	—		

SI-307 (第28・29図、第16表、図版五)

【概要】調査区北部に存在する。東側約1/2は調査区外になるため、全形は確認できないが、方形の竪穴建物跡である。南西約2mには古墳時代の土坑SK-306が、さらに13m先にはSI-301が存在する。他遺構との重複はみられない。南西辺の方位は、N-29°-Wである。

【位置】1-9グリッドに位置する。確認面標高は 調査区境界線北側で158.600m、南側で158.340m、西側コーナーで158.380m、南側コーナーで158.260mである。

【規模】南西辺5.46m、北西辺の確認長3.62m、南東辺の確認長2.60mで、やや胴張りのある方形と考えられる。床面の標高は、西側コーナー158.070m、南側コーナー158.020m、中央158.000mであり、ほぼ水平である。床面面積は調査範囲内で17.6㎡である。

【埋土】「レンズ状堆積」が認められ、自然堆積（1～6層）と考えられる。

【床面・掘形】床面には著しい凹凸や、壇状の高まりなどはみられない。全体的に硬くしまるが、中央部分で比較的硬化の度合いが強い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。

【柱穴】主柱穴は2基（P1・2）確認された。P1は円形で直径43～46cm、床面からの深さ60cm、P2は円形で直径39～54cm、床面からの深さ61cmである。埋土中に柱痕や抜き取り痕などは確認できない。

【壁溝】調査範囲内で全周する幅10～4cm、深さ5～7cm前後である。

【貯蔵穴】調査範囲には存在しない。

【入口ピット】調査範囲には存在しない。

【か】調査範囲には存在しない。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は土師器2点で、高坏脚部破片1点（1）、甕1点（2）である。1は棒状脚の上半部の破片である。埋土から出土した。2は球胴張で、外面には口縁部から肩部にかけて密なハケ目が見られる。

【時期】出土遺物から、4世紀末と考えられる。

SI-310（第30～33図、第17表、図版五・一八～二〇）

【概要】調査区北寄りの南西縁辺部を確認調査した際に発見された、方形平面の竪穴建物跡である。11m東にはSI-279が存在し、南側コーナーから1.3m南西にSK-306が存在する。上面を削平されているが、他遺構との切り合いは無い。北東壁の方位は、N-50.5°-Wである。

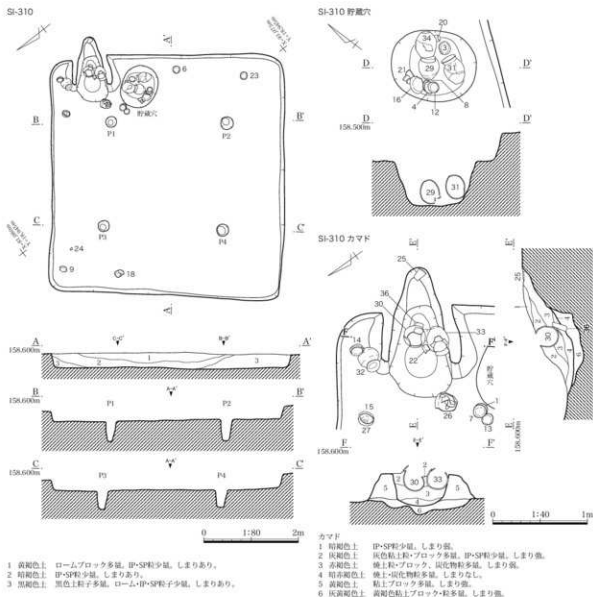
【位置】J-11・12グリッドに跨る。確認面標高は 西側コーナー部分の上端で158.460m、北コーナーで158.390m、東コーナーで158.270m、南コーナーで158.400mである。

【規模】南西壁5.33m、北西壁4.86m、北東壁5.00m、南東壁4.92mの大きさで、やや歪な方形を呈する。床面の標高は、西側コーナー158.165m、北側コーナー158.130m、東側コーナー157.440m、南側コーナー158.125m、中央158.120mである。床面は東側はほぼ水平で、平坦である。床面面積は23.5㎡である。

【埋土】「レンズ状堆積」が認められ、自然堆積（1～3層）と考えられる。土屋根等の崩落や、火災の痕跡などはみられない。

【床面・掘形】床面には著しい凹凸や、段差もみられない。全体的に硬くしまっているが、中央部分で比較的硬化の度合いが強い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。壁溝は存在しない。

【柱穴】主柱穴は4基（P1～4）確認された。P1は円形で直径24cm、床面からの深さ43cm、P2は円形で直径26～28cm、床面からの深さ47cm、P3も円形で直径25～26cm、床面からの深さ40cm、P4も円形で直径24～26cm、床面からの深さ39cmである。埋土中に柱痕や抜き取り痕などは確認できない。深さは4基とも、ほぼ同じである。

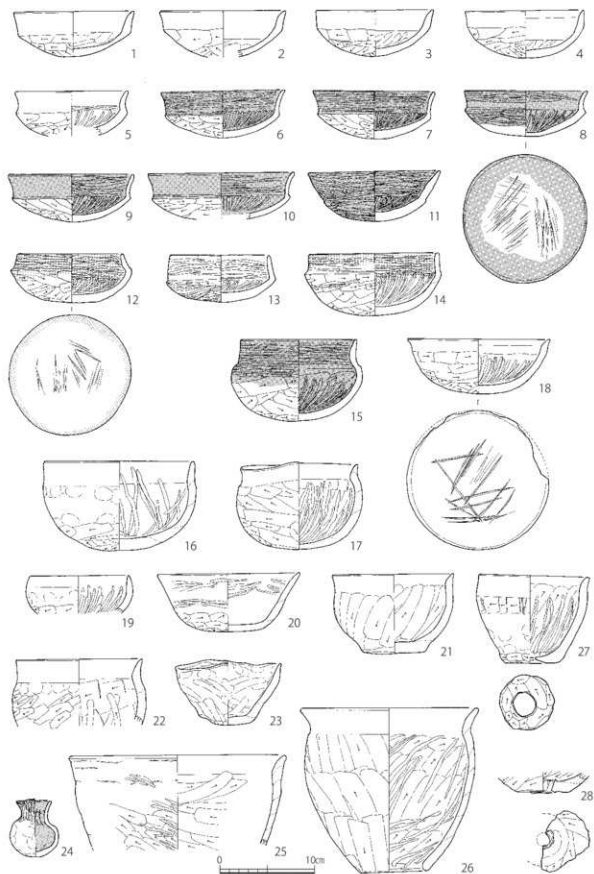


第30図 小鍋内I遺跡 SI-310 実測図

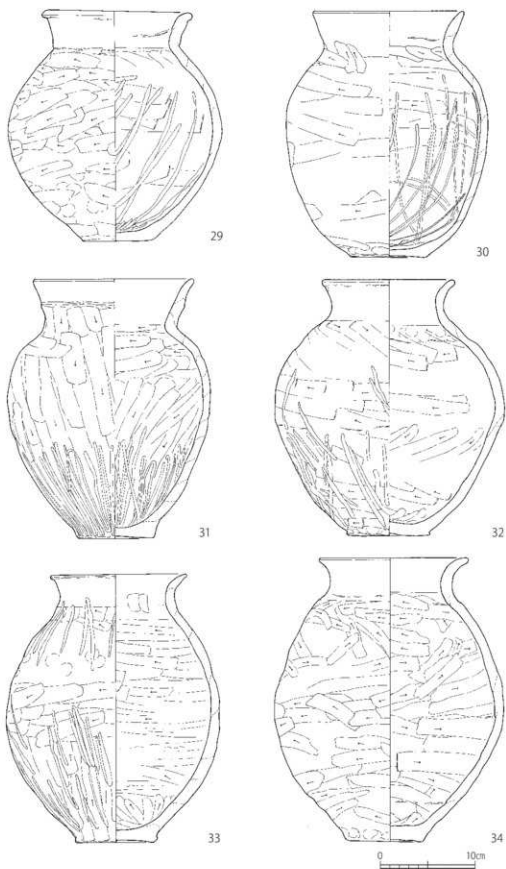
【貯蔵穴】東側コーナーのカマド脇に1基存在する。開口部平面は楕円形で、カマド主軸にほぼ平行である。底面はカマド主軸と直交する方向の楕円形である。壁の立ち上がりの角度は比較的緩く、開口部に向って直線的に開く。開口部の長軸92cm、短軸76cmで、床面からの深さは49cmになる。底面は長軸62cm、短軸56cmである。

【入口ピット】存在しない。

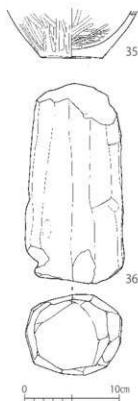
【カマド】南東壁の東側コーナー近くに付設され、焚き口は北西を向く。一端、袖部外側までの範囲に半円形の掘形を設け、石製の支脚(36)を立てて埋め戻して、燃焼部の底面とし、その上に粘土黄褐色の粘土で袖部を構築している。カマド上面は削平を受けていたが、両袖部とも保存状態は比較的良好であった。また、



第31図 小竈内I遺跡 SI-310 出土遺物実測図(1)



第32図 小銅内I遺跡 SI-310 出土遺物実測図(2)



第33図 小鍋内I遺跡 SI-310 出土遺物実測図(3)

や、赤色顔料を入れた小型の壺(24)も出土している。坏や鉢には赤彩したものが比較的多く見られ、7点確認できる。31の坏は稜線が体部下方に巡り、口縁端部がやや内傾する。そして内面外面ともに全て赤彩する。

焚き口の上部や煙道の天井などは崩落していたが粘土ブロックを含む層として形を留めていた。袖部は芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けられている。煙道は建物本体の壁面から48cm突出し、燃焼部からの立ち上がりの角度は緩い。燃焼部の底部では、上記の石製支脚煙道側に傾いた状態で出土した。また、この上で土師器裏2点(30・33)が、カマド主軸方向に直交する方向に並んで、2点ともほぼ正位置で出土している。支脚は30の底部を支えていたものと思われる。燃焼部には十分な幅があることから、所謂2連カマドと思われる。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

【出土遺物】カマド内部、その周囲及び貯蔵穴から多数の土師器が出土した。また上記のとおり、カマドの燃焼部からは石製の支脚が出土した。図化・掲載した遺物は、土師器坏14点(1~14)、土師器碗1点(18)、土師器鉢8点(15~17・19~23)、土師器甗4点(25~28)、土師器裏6点(29~34)ある。その他、小型の鉢あるいは裏の底部(35)

第17-1表 小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物観察表(1)

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 坏	口径 13.0 底径 — 高さ 4.8	2.5YR4/6 赤褐色	胎土やや硬質。白 色細砂粒少量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ	口縁部は急角 度に立ち上 がる。	床面直上		
							体部	横ヘラケズリ				
							底部	新ヘラナデ				不定方向ヘラケズリ
2	土師器 坏	口径 (12.6) 底径 — 高さ (4.9)	2.5YR4/6 赤褐色	細砂粒少量含む。	良好	1/3	口縁部	横ナデ	口縁部は急角 度に立ち上 がる。	埋土		
							体部	横ナデ				横ヘラケズリ
							底部	新ヘラナデ				不定方向ヘラケズリ
3	土師器 坏	口径 (12.6) 底径 — 高さ 4.8	2.5YR5/8 赤褐色	細砂粒・白色細砂粒 ・雲母微量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ	横はやや不明 瞭。口縁部は急 角度に立ち上 がる。	貯蔵穴		
							体部	横ナデ				横ヘラケズリ
							底部	新ヘラナデ				不定方向ヘラケズリ
4	土師器 坏	口径 12.2 底径 — 高さ 3.0	2.5YR5/8 赤褐色	白色細砂粒少量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ	横は不明瞭。 口縁部は急角 度に立ち上 がる。	貯蔵穴		
							体部	横ナデ				ナデ
							底部	ヘラケズリ、ヘラミガキ				ヘラケズリ
5	土師器 坏	口径 (12.0) 底径 — 高さ (3.5)	10YR5/3 赤褐色	細砂粒・赤色粒・白 色細砂粒少量、雲 母含む。	良好	口縁部~底 部1/4	口縁部	横ナデ	横は不明瞭。口縁 部は外反する。	カマド		
							体部	横ヘラミガキ				横ヘラケズリ
							底部	放射状ヘラミガキ				不定方向ヘラケズリ
6	土師器 坏	口径 13.1 底径 — 高さ 3.0	2.5YR5/6 赤褐色	赤粒多量含む。	良好	完存	口縁部	横ヘラミガキ	横不明瞭。口縁部 は外反する。内 面と外面上平 に赤彩。	床面直上	赤彩面内 ペンガウ	
							体部	横ヘラミガキ				横ヘラミガキ
							底部	放射状ヘラミガキ				ヘラケズリ
7	土師器 坏	口径 12.9 底径 — 高さ 3.1	2.5YR5/8 赤褐色	砂粒多量、透明 砂粒少量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	横ヘラミガキ	横不明瞭。口縁部 は外反する。内 面と外面上平 に赤彩。	床面直上	赤彩面内 ペンガウ	
							体部	横ヘラミガキ				横ヘラミガキ
							底部	縦ヘラミガキ				ヘラケズリ

第17-2表 小鍋内1遺跡 SI-310出土遺物観察表(2)

No.	種類 種別	計測値 (cm)	色調	出土	状況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内部	外面				
8	土師焼 環	口径 13.1	7.5YR6/6 橙	やや暗黒、白色細 砂粒少量含む。	良好	完存	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ、ヘラミガキ	底部外面以外 全て赤彩。	野蔵穴	ベンガラ、 底部外面に 焼し黒。
		底面					放射状ヘラミガキ	横ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	厚塗				
9	土師焼 環	口径 13.0	2.5YR5/8 明赤橙	砂粒多量、小礫少 量含む。	良好	3/4	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	焼明色、口縁部 は外反する。内 面と外面上半 に赤彩。	床面直上	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
10	土師焼 環	口径 (15.3)	2.5YR5/6 明赤橙	砂粒多量含む。	良好	1/4	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	焼明色、口縁部 は外反する。内 面と外面上半 に赤彩。	床面直上	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
11	土師焼 環	口径 13.8	10R4/8 赤	細砂粒少量含む。	良好	5/6	口縁部	横ヘラミガキ	斜ヘラミガキ	内面と外面 共 に赤彩。	埋土	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	横ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	横ヘラミガキ				
12	土師焼 環	口径 10.9	5YR5/8 明赤橙	黒色細砂粒少量含 む。	良好	完存	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	身輪部外、内 面と口縁部外 面にウルシ。	野蔵穴 惣掘	底部外面に 対掘し黒、 惣掘
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
13	土師焼 環	口径 10.5	2.5YR5/6 明赤橙	黒砂粒・白色細砂 粒、雲母・赤色粒 少量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	横ナデ	横ナデ後、ヘラミガキ	身輪部外、	床面直上	
		底面					ヘラミガキ	ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
14	土師焼 鉢	口径 14.5	2.5YR6/8 橙	小中礫部、赤色粒・ 白色細砂粒、黒砂 粒少量含む。	良好	口縁部3/5、 底部完存	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	内面と口縁部内 面にウルシ、内 面底面は焼熟で ウルシ消失。	床面直上	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
15	土師焼 環	口径 (12.4)	10YR3/6 暗赤	砂粒・白色細砂粒・ 赤色粒含む。	良好	口縁部2/5、 底部3/4	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	内面と外面上 半に赤彩。	床面直上	赤彩顔料 ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
16	土師焼 楕円形 鉢	口径 15.6	5YR5/8 明赤橙	細砂粒・小礫少量含 む。	良好	3/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	大型の楕円形、 口縁部底面は直 立。	野蔵穴	黒肌、縦筋 後に焼熟
		底面					横ナデ、ヘラミガキ	割削正産				
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
17	土師焼 楕円形 鉢	口径 (12.4)	5YR5/6 明赤橙	砂粒少量、透明黒 砂粒多量含む。	良好	口縁部～底 部2/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	断面がやや等 まる。口縁部 部は外反。	床面直上	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
18	土師焼 楕円形 鉢	口径 14.8	7.5YR7/6 橙	白色細砂粒少量含 む。	良好	口縁部4/5、 身～底部完 存	口縁部	横ナデ、ヘラミガキ	横ナデ	口縁部内面に 焼、底面に外 掘し黒。	床面直上	底部外面に 対掘し黒
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
19	土師焼 楕円形 鉢	口径 (10.4)	5YR6/6 橙	白色細砂粒多量含 む。	良好	口縁部1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部内横、 焼不明瞭。	埋土	
		底面					放射状ヘラミガキ	割削正産、ヘラケズリ				
		底面					—	—				
20	土師焼 楕円形 鉢	口径 (15.0)	5YR5/8 明赤橙	赤色粒多量含む。	良好	口縁部1/2 欠損	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	焼不明瞭。底 部平焼、口縁 部凹入。	野蔵穴	
		底面					ナデ	ヘラケズリ後、ナデ				
		底面					ナデ	ヘラケズリ後、ナデ				
21	土師焼 楕円形 鉢	口径 12.8	5YR6/8 橙	小中礫部、白色細 砂粒少量含む。	良好	口縁部1/6、 底部3/5、 底部4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	平焼、 底部やや突出。	野蔵穴	
		底面					斜ヘラミガキ	斜ヘラミガキ				
		底面					ヘラミガキ	ナデ				
22	土師焼 鉢	口径 (13.8)	10YR8/6 黄橙	砂粒・白色細砂粒、 雲母・赤色粒少量含 む。	良好	口縁部～底 部1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	断面内面に焼、 カマド		
		底面					ヘラミガキ後、斜ナデ	斜ヘラミガキ				
		底面					—	—				
23	土師焼 鉢	口径 11.1	7.5YR6/8 橙	細砂粒少量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	割削正産	割削正産、斜ナデ	手取土層、口 縁部の凹凸感 強い。	床面直上	黒肌、斜押 さえ
		底面					斜ナデ	斜ナデ				
		底面					斜ナデ	斜ナデ				
24	土師焼 小形 碗	口径 3.7	5YR5/4 に赤・黄橙	白色細砂粒少量、 透明黒砂粒多量含 む。	良好	口縁部2/5 欠損	口縁部	斜ナデ	斜ヘラミガキ	手取土層、口 縁部～断面の 凹凸感強い。	床面直上	ベンガラの 容器
		底面					斜ナデ、割削正産	割削正産				
		底面					割削正産	割削正産				
25	土師 煎	口径 (20.8)	5YR6/6 橙	黒色細砂粒・白色細 砂粒・赤色粒少量含 む。	良好	口縁部～底 部1/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	大型の扁平、 断面凹形。	カマド	焼の可能性 高い。
		底面					斜ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				

第17-3表 小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物観察表(3)

No.	種類 品名	計測値 (cm)	色調	素材	状況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
26	土師陶 壺	口径 18.9	5YR5/6 赤褐色	砂粒少量含む。	良好	口縁部3/3、 胴部9/10	口縁部	横ナデ	横ナデ	孔直径7cm	床面直上	
		体部					ヘラケズリ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
		底部					横ヘラケズリ	ヘラミガキ				
27	土師陶 壺	口径 12.5	5YR7/6 褐色	やや粗粒。白色細 砂粒微量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	内・外面に黄 褐色。孔直径 2.7cm	床面直上	
		体部					ヘラナデ後、新ヘラナデ	ヘラナデ、磨面玉粒				
		底部					新ヘラミガキ					
28	土師陶 壺	口径 —	10YR2/1 黒	白色細砂粒・赤色粒 ・透明細砂粒・砂粒 含む。	良好	底部1/3	口縁部	—	—	赤孔数。底部 破片。孔直径 2.0cm	埋土	
		体部					—	—				
		底部					ヘラケズリ	ヘラケズリ				
29	土師陶 壺	口径 25.4	10YR6/6 黄褐色	白色細砂粒多量、 小粒・透明細砂粒少 量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部外縁。 胴部中に最大 径。	貯蔵穴	黒焼
		体部					横ヘラナデ後、ヘラミガキ	新ヘラナデ				
		底部					ヘラミガキ	ナデ				
30	土師陶 壺	口径 15.7	10YR6/3 に濃い黄緑	砂粒多量。透明細 砂粒含む。	良好	口縁部3/4 欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部は直線的 に開く。	カマド	
		体部					ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラナデ				
		底部					ヘラミガキ	磨ナデ				
31	土師陶 壺	口径 16.8	10YR5/4 に濃い黄緑	砂粒多量含む。	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	胴部外面中に は、胴部上 位で最大径。	貯蔵穴	
		体部					ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラナデ、ヘラミガキ				
		底部					ヘラミガキ	磨ナデ				
32	土師陶 壺	口径 13.6	10YR7/4 に濃い黄緑	砂粒多量含む。	良好	胴部1/2欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	胴部やや狭 い。胴部中に は最大径。	床面直上	
		体部					ヘラナデ	ヘラケズリ後、ミガキ				
		底部					ヘラナデ	ヘラケズリ				
33	土師陶 壺	口径 13.7	10YR6/3 に濃い黄緑	砂粒多量含む。	良好	ほぼ完形	口縁部	横ナデ	横ナデ	やや長製。胴 部中に最大 径。	カマド	
		体部					横ヘラナデ	ヘラナデ後、ヘラミガキ				
		底部					縦磨ナデ	ヘラケズリ				
34	土師陶 壺	口径 15.8	10YR6/3 に濃い黄緑	細砂粒・白色細砂粒、 赤色粒・小粒少量含む。	良好	胴部中央一 部欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	やや長製。胴 部中に最大 径。	貯蔵穴	
		体部					横ヘラナデ	横・新ヘラナデ				
		底部					ヘラナデ	ヘラケズリ				
35	土師陶 壺	口径 —	7.5YR5/4 に濃い黄	細砂粒・透明細砂粒 多量含む。	良好	底部3/4	口縁部	—	—		床面直上	
		体部					—	縦ヘラミガキ				
		底部					新ヘラミガキ	ヘラケズリ				

第17-4表 小鍋内I遺跡 SI-310出土遺物観察表(4)

No.	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
36	石製品	支脚	21.1	8.6	9.8	1482.0	ほぼ完形	カマド	類似石製。上端は縦熱土。摩擦によって尖わっている。

SI-301の9・10・11(第26図)に近似する。6～10は器壁が薄く丁寧な作り・仕上げを行っている。坏類はカマド脇、北側コーナー、貯蔵穴底部などから広く出土している。18は内斜口縁の埴に近似する。20は平底に近く、体部の中位から口縁部に架けてやや外反する。23の鉢は粗製である。8と12・18の底部外面には、砥石に転用され、刃潰しを行った跡が残る。25は内面にミガキが見られないが、器形から甔の口縁部と推定した。27の甔は小型である。甔も貯蔵穴から3点出土した。土師器甔は、6点とも胴部はやや縦長で、球胴の甔は見られない。口縁端部を玉縁状に折り返し、胴部中位に最大径を持つもの(第32図29・32・33・34)と、口縁部が直線的に開き、肩部に最大径を持つもの(第32図30・31)が存在する。胴部の内外面に粗いミガキを施すものが多い。24の小型甔は北コーナーの床面直上で、ほぼ正位置で出土している。内部には酸化鉄を主成分とする赤色顔料(付査 理化学分析参照)が胴部の高さの約1/3まで残っていた。実用的な容器として使われたものか、祭祀用の小型土器かは検討を要する。34の支脚は凝灰岩質砂岩である。側面は面取りを細かく行い、底面を平坦に削っている。上端は被熱や土器底との摩擦で劣化している。

【時期】坏類は形状面ではSI-301に近似するものも散見するが、やや大型である。また、甔の長胴化が顕著である。こうした遺物の特徴から、本壺穴建物跡は6世紀後半の遺構と考えられる。

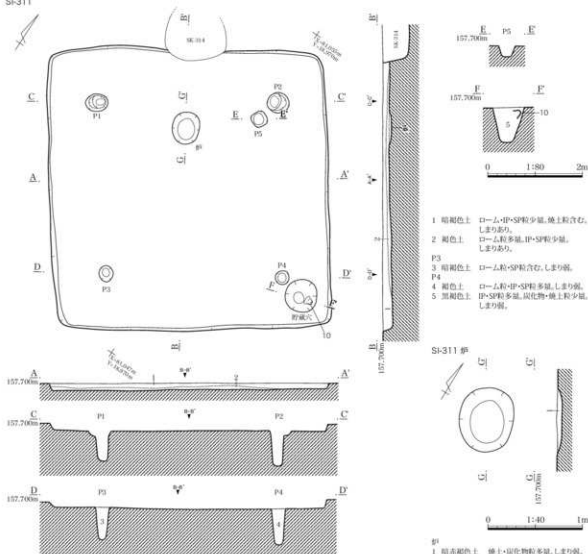
SI-311 (第34・35図、第18表、図版五・二〇)

【概要】調査区中央の南西縁辺部分を確認調査した際に発見された、方形平面の竪穴建物跡である。北東7mにはSI-256が存在し、西側コーナーに接してSK-313が存在する。北西壁の中央をSK-314に切られている。南西壁の方位は、N-34°-Wである。

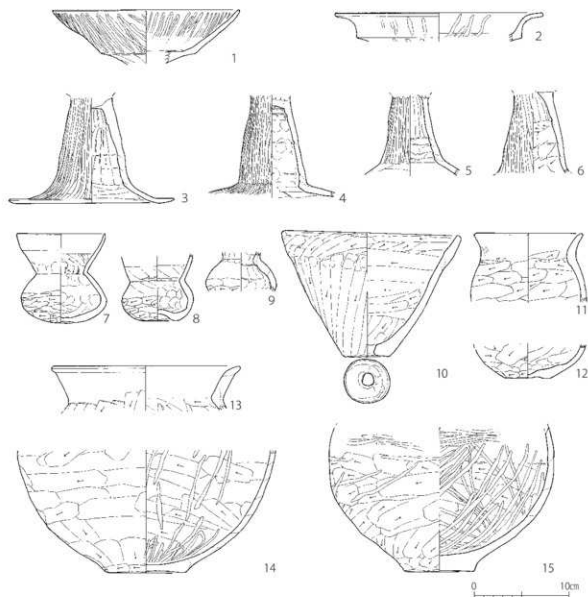
【位置】K-13グリッドに位置する。確認面標高は西側コーナー部分の上端で157.600m、北コーナーで157.560m、東コーナーで157.570m、南コーナーで155.550mである。

【規模】北西壁5.78m、北東壁5.94m、南西壁6.00m、南東壁5.78mの大きさで、やや胴張りのある正方形を呈する。床面の標高は、西側コーナー157.460m、北側コーナー157.430m、東側コーナー157.400m、南側コーナー157.390m、中央157.430mである。東側に向かってわずかに傾斜する。ほぼ平坦だが、東側コーナーの周囲はやや低くなる。床面面積は32.4㎡である。

SI-311



第34図 小鍋内I遺跡 SI-311 実測図



第35図 小鍋内I遺跡 SI-311 出土遺物実測図

第18-1表 小鍋内I遺跡 SI-311出土遺物観察表(1)

No.	種類 形状	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	上部 高杯	口径	20.0	細砂粒・白色細砂粒 ・赤色粒・小礫・透明 細砂粒含む。	良好	片縁2/3 脚部欠損	口縁部	横対ヘラミガキ	縦ヘラミガキ	口縁部がわずかに内傾。 体部下端に横。	埋土
		底径	—				—	—			
		脚高	(5.7)				—	ヘラナデ	ヘラナデ		
2	上部 高杯	口径	(20.0)	細砂粒少量、透明 に富み、黄緑	良好	片身・口縁部 1/8	口縁部	横ナデ後、縦ヘラミガキ	横ナデ後、縦ヘラミガキ	片身・口縁部と 体部の境に段 を有する。	埋土
		底径	10.9R7/3				—	—			
		脚高	(3.1)				—	—			
3	須恵焼 高杯	口径	—	胎土透明、白色・透 明細砂粒・透明少量。	良好	脚部2/5	口縁部	—	—	脚端部がわず かに反り上がる。 脚部 径 17.7cm	埋土
		底径	2.5YR8/3				—	—			
		脚高	(11.1)				—	—			
4	上部 高杯	口径	—	砂粒少量含む。	良好	片身・脚端部 欠損	口縁部	—	—	器壁が薄い、 脚端部と基部 の境目が屈曲 する。	埋土
		底径	7.5YR6/6				—	—			
		脚高	(10.6)				—	—			

第18-2表 小鍋内1遺跡 SI-311出土遺物観察表(2)

No.	種類 品類	計測値 (cm)	色調	承土	状況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
5	土師陶 高杯	口径	—	10YR7/3 にぶい黄褐色	良好	半身~脚端部 欠損	口縁部	—	—	厚壁が薄い。 脚輪部と基部 の境目がはや かに見ゆる。	埋土	
		底径	—				脚輪正面、胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムミガキ			
6	土師陶 高杯	口径	—	5YR5/6 明赤褐色	良好	半身~脚端部 欠損	口縁部	—	—	厚壁が薄い。 脚輪部と基部 の境目がはや かに見ゆる。	埋土	
		底径	—				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムミガキ			
7	土師陶 小型壺	口径	9.2	10YR7/4 にぶい黄褐色	良好	ほぼ完存	口縁部	横ナデ、ヘラムナデ	横ナデ	口縁部がわず かに内陥。脚 端部が厚壁状。	埋土	黒炭
		底径	2.5				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ			
8	土師陶 小型壺	口径	—	10YR7/4 にぶい黄褐色	良好	口縁部1/4	口縁部	横ナデ、ヘラムナデ	胎ヘラムナデ	胎部の括弧は 強い。底面外面 の中央が凹む。	埋土	
		底径	3.3				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ			
9	土師陶 壺	口径	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	頸部~体部 1/4	口縁部	胎ナデ	胎ヘラムナデ	胎部は厚壁玉 状を呈するが、	埋土	
		底径	4.2				胎ナデ	胎ナデ	胎ナデ			
10	土師陶 壺	口径	18.1	5YR6/8 橙	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	横ナデ	胎ヘラムナデ	口縁部は肥厚 する。体部に 沿うに厚い。孔 直径1.3cm	貯蔵穴	
		底径	4.8				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ			
11	土師陶 壺	口径	11.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	良好	口縁部~脚 端部上半1/4	口縁部	横ナデ	胎ナデ	口縁部外面の 凹凸は胎ヘラ ム。	埋土	
		底径	3.4				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ			
12	土師陶 壺	口径	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	胴部 下半~ 底面	口縁部	—	—	底面中央がわず かに凹む。11の 底面と同様性。	埋土	
		底径	4.7				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ、ナデ			
13	土師陶 壺	口径	19.5	10YR7/4 にぶい黄褐色	良好	口縁部1/2	口縁部	横ナデ	胎ナデ	口縁部は直線的 に厚く、脚 端部はわずかに 外陥。	埋土	
		底径	4.7				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ			
14	土師陶 壺	口径	—	2.5YR6/2 灰白	良好	体部1/4、 底面1/2	口縁部	—	—	厚壁。胴部内 面にヘラムミ ガキ。	埋土	
		底径	8.0				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ			
15	土師陶 壺	口径	—	5YR6/8 橙	良好	下半~底面	口縁部	—	—	厚壁。胴部内 面にヘラムミ ガキ。	埋土	外面に炭化物付着
		底径	7.2				胎ナデ	胎ナデ	胎ヘラムナデ、ヘラムミガキ			

【埋土】埋土が薄く、「レンズ状堆積」か否かは確認できないが、粒子が細かく、比較的均一なため、自然堆積(1~2層)と考えられる。1層には焼土粒子が含まれる。

【床面・掘形】床面には著しい凹凸や、段差はみられない。全体的に硬くしめるが、中央から東側コーナーの周囲にかけて、比較的硬化の度合いが強い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。

【柱穴】主柱穴は5基(P1~5)確認された。P1は円形で直径39~48cm、床面からの深さ64cm、P2は円形で直径45~47cm、床面からの深さ76cm、P3も円形で直径30~36cm、床面からの深さ70cm、P4も円形で直径30cm、床面からの深さ78cm、P5も円形で直径38cm、床面からの深さ25cmである。埋土中に柱痕は確認できない。P1、P2は上端がそれぞれ壁側から浅く掘り込まれており、抜き取り痕と考えられる。東側の2基(P2・P4)がやや深い。P5は他の4柱穴に比べてかなり浅く、柱穴とすれば、補助的な柱の掘え付痕跡となるであろう。

【壁高】存在しない。

【貯蔵穴】東側コーナーに1基存在する。開口部の平面は円形である。底面も円形で狭い。壁の立ち上がりの角度は緩く、ビット状を呈する。開口部の直径68cm、底面の直径21~25cm、床面からの深さ38cmである。埋

土は1層だが、粒子は細かく下層はやや砂礫が混ざる。建物の壁側からの流入土による自然堆積と考えられる。埋土の上位から土師器甕1点(第35図10)が出土した。

【入口ピット】存在しない。

【炉】床面中央のやや北西寄りに存在する。平面は楕円形で、長軸は建物主軸と平行である。建物床面を皿状に浅く掘り窪めた形状である。長軸71cm、短軸58cm、床面からの深さ8cmである。内面は焼土化し、埋土には炭化物粒子・焼土粒子・灰などを多く含む。遺物は出土しなかった。

【出土遺物】図4・掲載した遺物は全て土師器で、高坏6点(1~6)、小型甕3点(7~9)、甕1点(10)、小型甕2点(11・12)、甕3点(13~15)である。上記のとおり、10の甕は貯蔵穴から出土したが、他の遺物は床面からやや上部の、埋土2層から出土している。1の坏身は体部と底部の境界で屈曲する。2も坏身だが体部に段を有し、口縁端部が強く外反する。3~6の高坏脚部は、裾が大きく開く屈折脚である。7~9の小型甕は所謂「壇」で、7と8は底部外面の中央が凹む。10の甕はほぼ完形である。口縁端部が肥厚し、体部に膨らみは無く、底部が小さい。単孔である。13の甕は口縁端部がわずかに外反し、所々で外側に折り返している。14・15は球状の胴部で、主に内面に粗いミガキがみられる。底部は突出する。

【時期】土師器の形状から、5世紀前葉と考えられる。

2. 土坑

当遺跡では、竪穴建物の周辺に、古墳時代の土坑が22基確認できた(第36図)。その多くは開口部の直径1~1.5mの円筒形のものである。遺構のほとんどは上部を削平されていたが、SK-285・313・312は比較的保存状態がよい。また、SK-254・257・261・304・314では土師器等の遺物が出土した。以下、主要なものについて記述する。その他の土坑は、一覧表(第24表)のとおりである。

SK-254(第37・38図、第19・24表、図版五)

調査区北部で確認した、円形の土坑である。L-12・13グリッドに跨る。他遺構との重複はない。土師器甕(卍)口縁部1点(1)が出土した。消滅した竪穴建物跡の貯蔵穴等の可能性もある。古墳時代中期の土坑である。

SK-257(第37・38図、第20・24表、図版二〇)

調査区北部で確認した、楕円形の土坑である。K-12グリッドに位置する。他遺構との重複はない。土師器高坏脚部1点(1)と甕の口縁部1点(2)が出土した。消滅した竪穴建物跡の付属施設の可能性もある。古墳時代中期の土坑である。

SK-261(第37・38図、第21・24表、図版五・二〇)

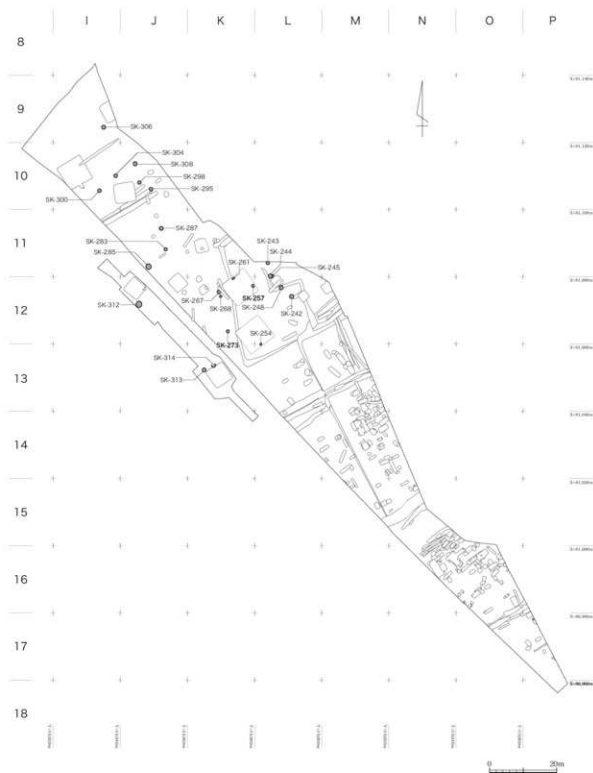
調査区北部で確認した、楕円形の土坑である。K-12グリッドに位置する。他遺構との重複はない。土師器甕1点(1)等が出土した。遺構の形状から墓塚の可能性もある。古墳時代前期~中期の土坑である。

SK-285(第39図、第24表)

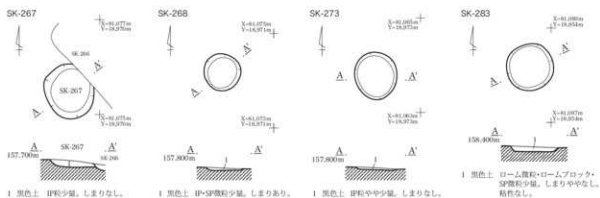
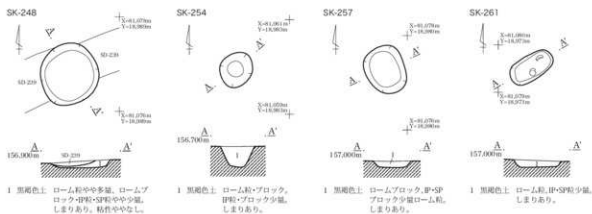
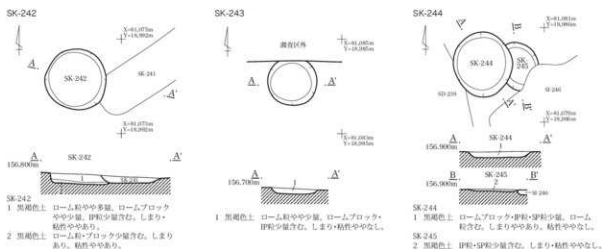
調査区北部で確認した、円筒形の土坑である。J-11グリッドに位置する。他遺構との重複はない。壁高は残存部分で0.47mあり、遺構上面の削平は比較的軽微と思われる。開口部は正円に近く、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面も円形で、平坦である。埋土は細かい分層はできず、人的な埋戻しも考えられる。土師器の小破片が少量出土したが、図示できるものは無い。

SK-287(第39図、第24表、図版五)

調査区北部で確認した、円筒形の土坑である。J-11グリッドに位置する。他遺構との重複はない。削平され、底部のみが残る。底面は平坦で、北東寄りに浅い円形の掘り込みがあり、底面に接して角礫が数個残って

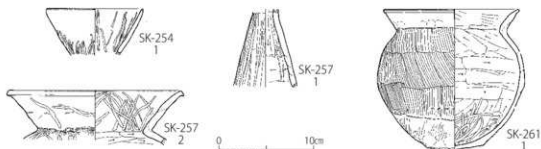


第36図 小鍋内I遺跡 古墳時代土坑分布図



0 1:80 2m

第37図 小鍋内I遺跡 古墳時代土坑実測図(1)



第38図 小鍋内I遺跡 SK-254・SK-257・SK-261 出土遺物実測図

第19表 小鍋内I遺跡 SK-254出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	粘土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土師器 小型壺	口径 (10.1)	7.5YR4/3 黒	白色細砂粒・雲母少 量含む。	良好	口縁部1/4	口縁部	縦ヘラミガキ	底口縁(口縁部、 口縁部がやや 凸出。	埋土	
		底径 (4.9)					体部	—			
		高さ					底部	—			
		口縁部					—				

第20表 小鍋内I遺跡 SK-257出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	粘土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 高杯	口径 (—)	10YR4/1 黒灰	白色細砂粒少量、 白色針状物質微量。	良好	胴部	口縁部	—	脚輪部は、中 段でやや膨ら む。	埋土		
		底径 (—)					体部	ヘラナデ				縦ヘラミガキ
		高さ (8.3)					底部	—				—
		口径 (13.1)					口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ				横ナデ後、ヘラミガキ
2	土師器 壺	口径 (—)	7.5YR5/3 赤い黒	白色細砂粒多量、 雲母少量。	良好	口縁部1/5	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	口縁部外反。	埋土		
		底径 (—)					体部	縦ヘラナデ				縦ヘラミガキ
		高さ (5.7)					底部	—				—
		口径 (—)					口縁部	—				—

第21表 小鍋内I遺跡 SK-261出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	粘土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 壺	口径 (14.2)	10YR3/1 黒	砂粒多量、赤色針・ 雲母少量含む。	良好	3/4	口縁部	横ハケ	底口の縁、口縁 部が外反。底 部はやや凸出。	埋土		
		底径 (6.0)					体部	ヘラナデ				縦ハケ
		高さ (14.9)					底部	ヘラミガキ				脚面直
		口径 (—)					口縁部	—				—

いた。古墳時代の土師器の小破片がわずかに出土したが、図示できるものは無い。周囲に類似の土坑は確認されていないが、柱穴の可能性もある。

SK-312 (第39図、第24表)

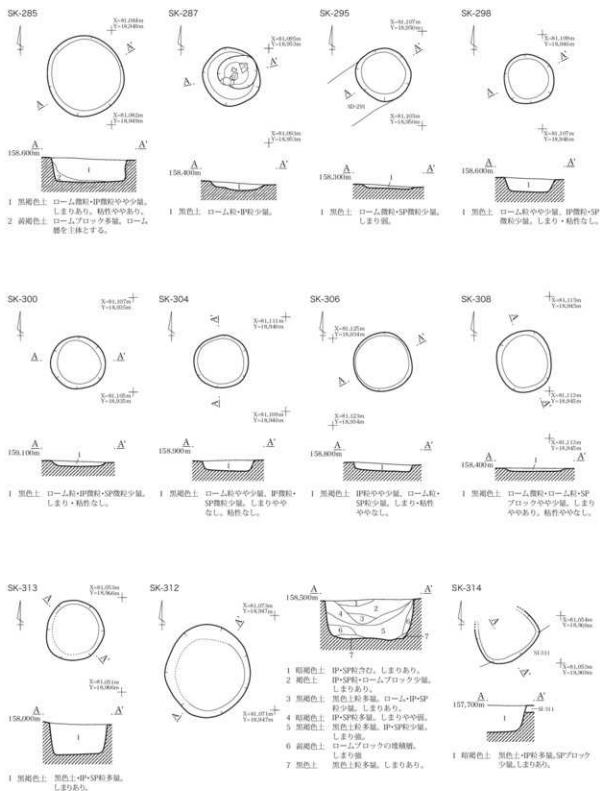
調査区北部で確認した、円筒形の土坑である。J-12グリッドに位置する。他遺構との重複はない。壁高は残存部分で0.85mあり、遺構上面の削平は少ないと思われる。開口部は正円に近く、壁面は急角度に立ち上がる。底面も円形で、やや凸面を呈する。埋土はレンズ状堆積に近く、自然埋没と考えられる。

SK-313 (第39図、第24表)

調査区北部で確認した、円筒形の土坑である。K-13グリッドに位置する。他遺構との重複はない。壁高は残存部分で0.67mあり、遺構上面の削平は軽微と思われる。開口部はほぼ正円で、壁面は急角度に立ち上がる。底面は平坦である。埋土層でぎす、人的埋め戻しとも考えられる。図示できる出土遺物は無い。

SK-314 (第39・40図、第23・24表)

調査区北部で確認した、円筒形の土坑である。K-13グリッドに位置し、SI-311を切る。北西側は削平され存在しない。残存壁高は0.58mである。開口部はやや歪んだ円形で、壁面は急角度に立ち上がる。埋土は1層で人為的な埋め戻しとも考えられる。古墳時代中期の土師器高杯の坏身破片が出土したが、SI-311からの流入遺物の可能性もある。



0 1:80 2m

第39図 小鍋内I遺跡 古墳時代土坑実測図(2)



第40図 小鍋内1遺跡 SK-304・SK-314 出土遺物実測図

第22表 小鍋内1遺跡 SK-304出土遺物観察表

No.	種類 名称	計測値 (cm)	色調	出土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内部	外面				
1	須恵陶 甕	口径 — 底径 — 高さ [4.7]	SY5/1 灰	砂粒少量、小礫数 個含む。	良好	破片	口縁部	—	口縁部は薄く、 底は、円 筒底部に接。	埋土		
							体部	無文の瓦片類 (木目)				平面タタキ
							底面	—				—
							—	—				—

第23表 小鍋内1遺跡 SK-314出土遺物観察表

No.	種類 名称	計測値 (cm)	色調	出土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内部	外面				
1	上須恵 甕	口径 (18.0) 底径 — 高さ (4.2)	10YR7/2 にぶい黄褐色	砂粒少量、透明細 砂粒数個含む。	良好	坏身1/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部は薄く、 底は、円 筒底部に接。	埋土	
							体部	縦ヘラミガキ	縦ヘラミガキ			
							底面	ヘラミガキ	ヘラナデ			
							—	—	—			

第24表 小鍋内1遺跡 古墳時代土坑一覧表

No.	遺構 番号	調査区	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			土軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
1	SK-242	1	L-12	円	1.28	1.28	0.20				SK-241より旧。
2	SK-243	1	L-11	円	1.04	1.04	0.10				調査区外へびでている。
3	SK-244	1	L-11+12	楕円	1.34	1.22	0.12	N30°W			SK-245より新しい。 SD-239との切り合い不明。
4	SK-248	1	L-12	円	1.26	1.24	0.14				SD-239より旧。
5	SK-254	1	L-12+13	円	0.72	0.70	0.44		炭椀遺物あり	土器1	
6	SK-257	1	K-12	楕円	1.02	0.82	0.14	N26°W	炭椀遺物あり	土器2	
7	SK-261	1	K-12	楕円長方	1.00	0.52	0.16	N58°E	炭椀遺物あり	土器1	
8	SK-267	1	K-12	楕円	1.12	0.98	0.14	N40°W			SK-266より旧。
9	SK-268	1	K-12	円	0.80	0.78	0.06				
10	SK-273	1	K-12	円	0.94	0.94	0.04				
11	SK-283	1	J-11	円	1.00	0.98	0.10				
12	SK-285	1	J-11	円	1.68	1.66	0.50		土師器小破片少量		
13	SK-287	1	J-11	円	1.22	1.20	0.16		土師器小破片少量	底面中央にビット状の掘り込みあり。	ビットとの切り合い不明。
14	SK-295	1	J-10	円	1.12	1.10	0.06		土師器小破片少量		SD-291との切り合い不明。
15	SK-298	1	J-10	円	1.06	1.06	0.28		土師器小破片少量		
16	SK-300	1	I-10	円	1.14	1.12	0.10		土師器小破片少量		
17	SK-304	1	I-10	円	1.12	1.10	0.22		炭椀遺物あり	須恵1	
18	SK-306	1	I-9	円	1.24	1.24	0.14		土師器小破片少量		
19	SK-308	1	J-10	楕円長方	1.28	1.16	0.06	N21°W	土師器小破片少量		
20	SK-312	1	J-12	円	1.86	1.82	0.84		土師器小破片少量		
21	SK-313	1	K-13	円	1.22	1.24	0.64		土師器小破片少量		
22	SK-314	1	K-13	楕円長方	1.26	(0.90)	0.56	N61°E	炭椀遺物あり	土器1	SK-311より新しい。

3. 遺構外出土遺物（古墳時代）（第41図、第25表、図版二〇）

小鍋内I遺跡では、遺構確認面等において、古墳時代の遺物も採取された。主要遺物について記載する。

1の土師器杯は調査区北部の遺構確認面で採取された。体部と底部の境界に稜を持ち、口縁部は大きく開く。内面には放射状の粗いヘラミガキが施され、内面から口縁端部にかけて漆の塗布が見られる。

2は土師器碗あるいは鉢の底部破片である。調査区北部の遺構確認面で採取された。底部は円形の粘土板を貼り付けて突出させ、内外面共に極めて丁寧な細かいヘラミガキが施される内面・外面ともに赤彩される。

3の土師器は所謂「埴」の口縁部破片である。調査区中央部のやや北寄りの遺構確認面で採取された。頸部からやや外反して立ち上がり、口縁端部はわずかに内湾する。器壁は薄い。

4は土師器壺の胴部下端から底部にかけての破片である。3の周辺の遺構確認面で採取された。底部の中央がわずかに凹む。3と同一個体の可能性がある。

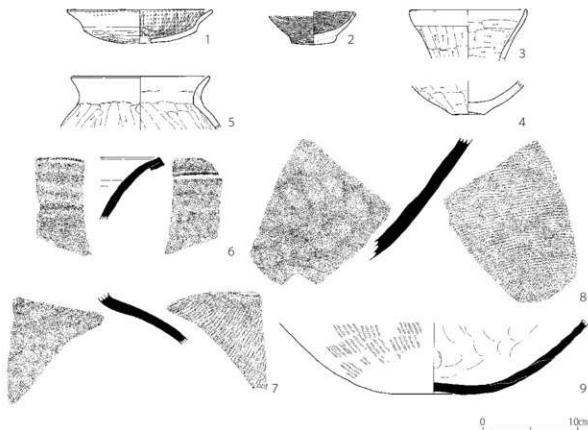
5は土師器甕で、調査区中央の遺構確認面から採取された胴部は広がり、球状を呈するものと考えられる。

6は表土中で採取された須恵器甕の口縁部破片である。頸部外面には6条の櫛状工具による波状文が4段残る。横方向の文様区画線はみられない。内面はロクロナデである。波状文は細かく、施文も丁寧であるが、胎土には白色針状物質がわずかに含まれることから、古墳時代以降の遺物の可能性もある。

7は須恵器甕胴部破片で、遺構確認面で採取された。内面には当て具の木目が残る。外面は平行タタキである。

8は須恵器甕胴部破片である。遺構確認面で採取された。内面に無地の当て具痕、外面に平行タタキ痕が残る。

9は須恵器甕底部である。表土中より採取された。底部外面には、焼成時に生じたと思われる僅かな凹みがある。内面には無地の当て具痕、外面には平行タタキがみられる。



第41図 小鍋内I遺跡 遺構外出土の古墳時代遺物実測図

第25表 小鍋内1遺跡 遺構外出土の古墳時代遺物観察表

No.	種類 種類	計測値 (m)	色調	表土	地況	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 環	1層 経径 — 高さ [3.8]	10Y06/4 にぶい黄褐色	砂粒・黒色細砂粒・ 赤色粒・雲母少量	良好	1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面と口縁部 外面ウレシシ、 内面摩耗	SK-253 埋土	
							体部	横斜状ヘラミダキ	ヘラタズリ			
							底面	—	—			
2	土師器 鉢	1層 経径 4.9 高さ [3.7]	2.5Y06/4 にぶい青褐色	砂粒・白色細砂粒少 量、雲母・小礫混在	良好	2/3	口縁部	—	—	内・外面赤彩	表様	原料に ベンガラ
							体部	斜ヘラミダキ	斜ヘラミダキ			
							底面	ヘラミダキ	不定方向ヘラミダキ			
3	土師器 小型壺	1層 経径 — 高さ [5.5]	5Y06/6 青	砂粒・赤色粒・白色 細砂粒多量混在	良好	口縁部1/5	口縁部	横ヘラナデ	縦ヘラナデ後、横ナデ	真口巻、口縁 端部中央内溝	表様	
							体部	—	—			
							底面	—	—			
4	土師器 甕	1層 経径 3.5 高さ [3.7]	5Y05/6 赤褐色	砂粒・赤色粒・白色 細砂粒多量混在	良好	胴部下平一 底面	口縁部	—	—	底面やや突出 し、中央が凹 む。3の底面 縦片が。	1-10 グリッド 表様	
							体部	摩滅著しい	横ヘラナデ			
							底面	摩滅著しい	横ナデ			
5	土師器 甕	1層 経径 — 高さ [6.0]	10Y06/3 にぶい黄褐色	白色細砂粒・雲母少 量含む。	良好	口縁部破片	口縁部	横ナデ	横ナデ	球製か。	表様	
							体部	縦ヘラナデ	縦ヘラナデ			
							底面	—	—			
6	須恵器 甕	1層 経径 — 高さ [6.9]	5P05/1 青灰	白色細砂粒多量、 白色針状物微量混 在。	良好	口縁部破片	口縁部	コウロナデ	樽縁状文	口縁部断面 なし。6条の帯 溝状工具使用。	1-10 グリッド 表様	
							体部	—	—			
							底面	—	—			
7	須恵器 甕	1層 経径 — 高さ [11.8]	N5/0 灰	砂粒少量含む。	良好	胴部破片	体部	ナデ、無文当具	平行タタキ	当具の木目肌。	表様	
							底面	—	—			
							口縁部	—	—			
8	須恵器 甕	1層 経径 — 高さ [14.7]	2.5Y5/1 黄灰	白色細砂粒多量、 砂粒少量含む。	良好	胴部破片	口縁部	—	—	7と同一胴体 の可能性がある。	1-10 グリッド 表様	
							体部	無文当具類	平行タタキ			
							底面	—	—			
9	須恵器 甕	1層 経径 — 高さ [8.3]	2.5Y5/1 黄灰	小礫・砂粒多量、雲 母微量含む。	良好	胴部下平一 底面	口縁部	—	—	底面中央が中 空凹む。	1-10 グリッド 表様	
							体部	無文当具類	平行タタキ			
							底面	無文当具類	平行タタキ、ナデ			

第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

小鍋内1遺跡における該期の遺構の多くは、調査区の北半に集中する。竪穴建物6軒が確認された。

1. 竪穴建物跡

SI-232 (第42・43図、第26表、図版六・二〇)

【概要】調査区中央東端で確認された、竪穴建物跡である。東側の約1/2は調査区外になる。南西壁の方位は、N-33.0°-Wである。L-12、M-12グリッドに跨る。確認面は西側コーナー部分で155.960mである。

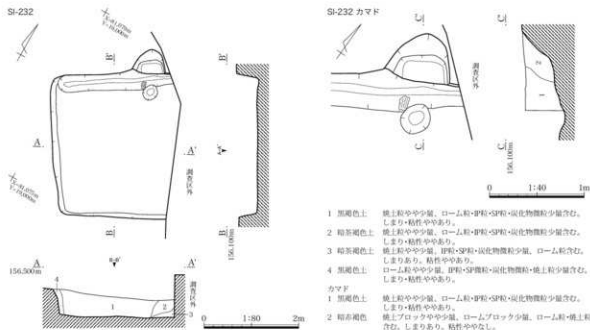
【規模】南西壁は2.95mで、北西壁の調査部分2.55m、南東壁の調査部分2.29mである。床面の標高は、床面中央で155.440mである。ほぼ水平で、調査した床面積は7.6㎡である。埋め戻しの可能性もある。

【床面】ローム面を直接床面とする。壁溝は北西の壁に沿って存在する。

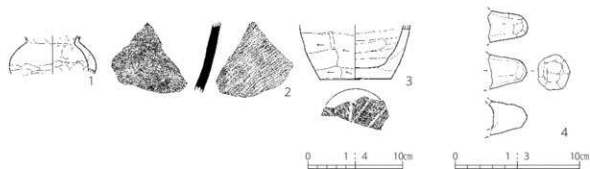
【カマド】北西壁に付設されるが、煙道と燃焼部の床面(火床面)が残るのみで、廃絶カマドと考えられる。

【出土遺物】土師器小型壺1点(1)、須恵器裏破片1点(2)、土師器裏底部1点(3)、土製品破片1点(4)が出土した。1は古墳時代の混入遺物である。4は土製品破片と考えられ、古墳時代の混入遺物であろう。

【時期】3の土師器裏の形状から、9世紀の遺構と考えられる。



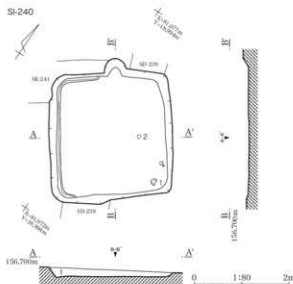
第42図 小鍋内I遺跡 SI-232 実測図



第43図 小鍋内I遺跡 SI-232 出土遺物実測図

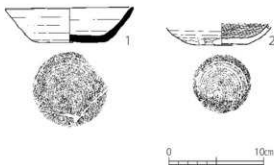
第26表 小鍋内I遺跡 SI-232出土遺物観察表

編	種類 形状	寸法 縦横 (cm)	色調	出土	焼成	焼効率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 小型 口罎	—	10YR6/3 に赤い黄褐色	砂粒微塵含む。	良好	胴部約1/4	口縁部	縦へラナデ	縦へラナデ	小型の口口罎。	埋土上層	古墳時代の 器入品
							体部	横割ナデ	下平縁へラナデ			
2	銅器 鏡 口罎	—	10YR5/1 褐色	白色顔料多量、 白色針状物質少量 含む。	良好	胴部鏡片	口縁部	—	—	内面当具部は ナデ用しか。	埋土	南部銅座か
							体部	横ナデ (当具部なし)	平行タタキ			
							底部	—	—			
3	土師器 鏡 口罎	—	10YR6/4 に赤い黄褐色	黒褐色・砂粒多量、 白色針状物質少量 含む。	良好	胴部下平1/4、 底部1/3	口縁部	—	—	肩縁はやや平 しい。	埋土	
							体部	横割ナデ	横へラウケリ			
							底部	不定方向割ナデ	木葉痕			
4	不明 土製品 皿	—	10YR6/3 に赤い黄褐色	黒褐色・赤色粒多量 含む。	良好	ほぼ完形	口縁部	—	—	用途不明。 敷居手ではない 形状土製品 か?	埋土	古墳時代の 器入品
							体部	—	一定方向へラナデ			
							底部	—	—			



1 黒色土 ローズと少量含む。しまりあり。粘りやや多い。

第44図 小鍋内I遺跡 SI-240 実測図



第45図 小鍋内I遺跡 SI-240 出土遺物実測図

第27表 小鍋内I遺跡 SI-240出土遺物観察表

No.	種類 器種	片断数 (枚)	色調	粘土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考	
							内面	外面					
1	須恵器 杯	1層	13.4	2.5Y8/2 灰白	小礫・白色細砂粒 含む。	不良	2/3	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁部僅かに して底片やや 丸。軟質。	床面直上	
		底部	ロクロナデ					ロクロナデ					
		底面	ロクロナデ					回転糸切り					
2	土師器 杯	1層	—	10Y8/2 灰黄緑	小礫・白色細砂粒・ 白色砂状物質含む。	良好	底面完存	口縁部	—	—	内面黒色粘厚・ 外面にターム状 無色物質附着。	床面直上	海部遺産の 可能性あり。
		底部	ヘラミ苜本					ロクロナデ、ヘラミ苜					
		底面	ヘラミ苜本					回転糸切り後、ナデ					

SI-240 (第44・45図、第27表、図版六・二〇)

【概要】調査区中央で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。7 m東には平安時代前期のSI-232が存在する。壁上端をSD-239、西側コーナーから北西壁の上端をSK-241に切られる。上面を削平され、南東壁はほとんど残っていない。北東壁の方位は、N-36°-Wである。

【位置】L-12グリッドに位置する。確認面標高は、埋土上面中央で156.420mである。

【規模】南西壁は2.68mで、北西壁は2.46m、北東壁は2.55m、南東壁は2.53mである。床面の標高は、西側コーナー156.295m、北側コーナー156.290m、東側コーナー156.295m、南側コーナー156.300mである。ほぼ水平で、床面積は5.9㎡である。

【埋土】埋土(1層)の残りがわずかだが、粒子が細かく自然埋没の可能性が高い。

【床面・掘形】床面は平坦で、全体的に硬くしまる。掘形は存在しない。

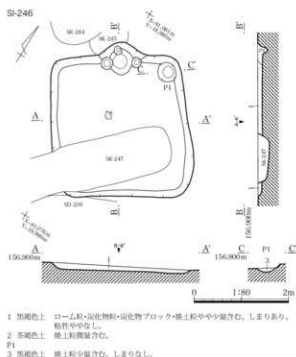
【柱穴・貯蔵穴・入口ピット】柱穴、貯蔵穴、入口ピットは存在しない。

【壁溝】南西壁際と北西壁際の西半分に存在する。

【カマド】北西壁の中央に付設されるが、構築材は失われている。煙道は壁面から29cm突出する。

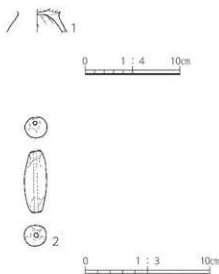
【出土遺物】図化・掲載した遺物はわずかで、須恵器杯1点(1)、土師器杯1点(2)である。1・2ともロクロ成形で、1は底部が回転糸切りのまま。2は回転糸切り後、体部下端を手持ちヘラ削りする。

【時期】杯の形状から、9世紀中葉の遺構と考えられる。



1 黒褐色土 ローム状・炭化物粉・炭化物ブロック・焼土粒や少量含む。しまりあり。
 2 赤褐色土 焼土粒少量含む。
 PI 3 黒褐色土 焼土粒少量含む。しまりなし。

第46図 小鍋内I遺跡 SI-246 実測図



第47図 小鍋内I遺跡 SI-246 出土遺物実測図

第28表 小鍋内I遺跡 SI-246出土遺物観察表

No.	種類 名称	寸法 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	上部筒付土器	口径	7.5XR5/4 に5.1/4	細砂粒多量。骨片 少量含む。	良好	胴部下端- 脚部上端	口縁部	—	器壁は極めて 薄い。	埋土	小型 脚付型	
		器底					—					
		器高					(2.5)					
2	土製品 土塊	長	7.5XR7/6 粗	骨片多量。細砂粒 少量含む。	良好	完存	孔は竹ヒコ取工具で貫通。	両端には数頭圧痕。 中央は肋骨状。端部は 指で押さえている。	中や軟質。両 端部は若干摩 滅。使用痕あり。	埋土	重量 13.68g	
		径										5.0
		径										1.75
		孔	0.35									

SI-246 (第46・47図、第28表、図版六・二一)

【概要】調査区中央北寄りで確認された、方形平面の竪穴建物跡である。8m南東にはSI-240が存在する。南側コーナーをSK-247、カマドの上端をSK-245に切られる。上面を削平され、東側の壁はほとんど残っていない。北東壁の方位は、N-39.5°Wである。

【位置】L-11・12グリッドに跨る。確認面標高は、埋土上面中央で156.610mである。

【規模】南西壁は2.95mで、北西壁は2.76m、北東壁は3.02m、南東壁は2.78mである。床面の標高は中央で156.500mである。ほぼ水平で、床面積は8.8㎡である。

【埋土】埋土(1・2層)の残りがわずかだが、粒子が細かく自然埋没の可能性が高い。

【床面・掘形】床面は平坦で、全体的に硬くしまる。掘形は存在しない。

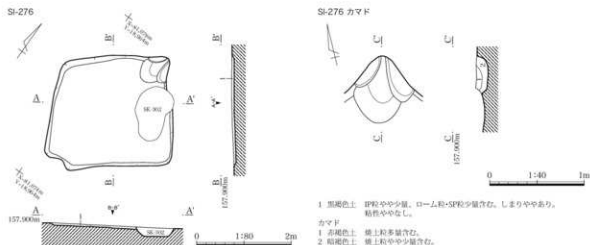
【柱穴・壁溝・入口ピット】柱穴、壁溝、入口ピットは存在しない。

【貯蔵穴】北側コーナーに開口部直径40~46cm、深さ4.5cmの浅い掘り込みがあるが、貯蔵穴か否かは確認できない。

【カマド】北西壁の中央に付設されるが、構築材は失われている。煙道は壁面から29cm突出する。両方の袖と、燃烧部の支脚の位置にそれぞれ1基ずつピットが存在する。

【出土遺物】陶化・掲載した遺物はわずかで、土師器小型甕の脚部1点(1)、土錘1点(2)である。

【時期】脚付小型甕の存在から、9世紀中葉以降の遺構と考えられる。



第48図 小鍋内1遺跡 SI-276 実測図



第49図 小鍋内1遺跡 SI-276 出土遺物実測図

第29表 小鍋内1遺跡 SI-276出土遺物観察表

No.	種類 名称	計測値 (m)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内部	外面			
1	上部陶 環	口径 13.2	10YR6/4 に近い黄褐色	赤褐色・黄褐色多量含む。	良好	1/2	口縁部	縦へらミガキ	ロクロナデ	口縁に比して 底縁が薄い。	カマド 内壁上
		底径 5.8					体部	縦へらミガキ	ロクロナデ		
		底高 4.0					底面	一定方向へらミガキ	回転へらケズリ後、ナデ		
		口径					—	—	—		
2	上部陶 底	口径 (10.6)	10YR6/3 黒褐色	赤褐色・黄褐色多量、小 量少量含む。	良好	1/3	口縁部	—	—	底面外縁が突 出。	床面 直上
		底径 (3.1)					体部	—	—		
		口径					—	—	—		
		底径 (3.2)					底面	へらナデ	へらナデ		
3	上部陶 底	口径	10YR4/3 に近い黄褐色	赤褐色・黄褐色多量含む。	良好	1/3	口縁部	—	—	器壁が極めて 薄い。	カマド 内壁上
		底径 (5.2)					体部	斜へらナデ	縦へらケズリ		
		口径					—	—	—		
		底径					不定方向へらナデ	不定方向へらナデ			

SI-276 (第48・49図、第29表、図版六・二一)

【概要】調査区中央の北寄りで確認された、方形平面の竪穴建物跡である。6m西には古墳時代のSI-279が、7m東には古墳時代のSI-263が存在する。北東壁中央から床面にかけてSK-302に切られる。上面を削平され、壁はほとんど残っていない。北東壁の方位は、N-37.0°-Wである。

【位置】K-12グリッドに位置する。確認面標高は、埋土上面中央で157.660mである。

【規模】南西壁は2.38mで、北西壁は2.31m、北東壁は2.30m、南東壁は2.60mである。床面中央の標高は、157.610mである。ほぼ水平で、床面積は5.3㎡である。

【埋土】埋土(1層)は5～7cmの厚さに、わずかに残る。

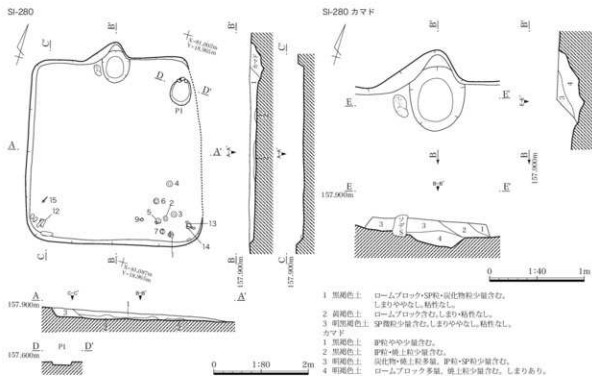
【床面・掘形】床面は平坦で、全体的に硬くしまる。掘形は存在しない。

【柱穴・壁溝・貯蔵穴・入口ピット】柱穴、壁溝、貯蔵穴、入口ピットは存在しない。

【カマド】北側コーナーに存在し、両袖部の基部が残る。煙道は、コーナーから45°方向に42cm突出する。火床面の焼土化は弱い。土師器環(1)と土師器底(3)が燃焼部から出土した。

【出土遺物】図化・掲載した遺物はわずかで、土師器環1点(1)、土師器底2点(2、3)、である。1はロクロ成形で、内面はミガキである。底部外面は回転へら削りである。3の底は器壁が極めて薄い。

【時期】環、底(3)の形状から、9世紀後半～10世紀初頭の遺構と考えられる。



第50図 小鍋内I遺跡 SI-280 実測図

SI-280 (第50～52図、第30表、図版六・七・二一)

【概要】調査区北部で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。10m南西にはSI-279が存在する。東には、SD 262・269が平行して存在する。遺構の上面は東側にかけて斜めに削平を受けており、東壁の大部分は、立ち上がり部分から消失している。他遺構との直接の切り合いは確認できない。西壁の方位は、N-12.5°-Wである。

【位置】K-11グリッドに位置する。確認面の標高は北西側コーナー部分の上端で157.650m、北東コーナーで157.395m、南東コーナーで157.480m、南西コーナーで157.700mである。

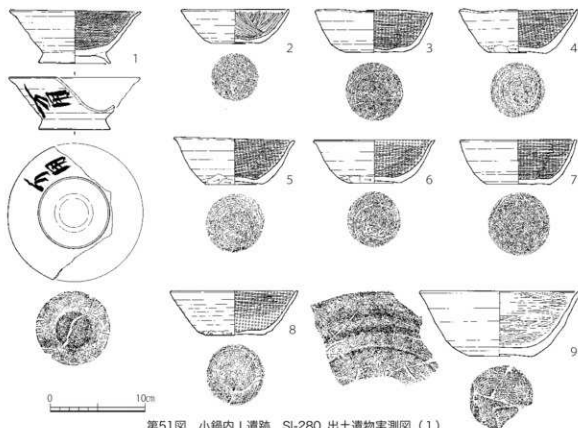
【規模】北壁3.32m、東壁4.04m、南壁3.74m、西壁3.88mの大きさで、ほぼ正方形を呈する。上記のとおり、東壁は削平されているが、北東と南東のコーナーが残存しているため、東壁の長さが推定できた。床面の標高は、西北側コーナー157.520m、南西側コーナー157.530m、中央157.460mである。床面は東に向かってわずかに傾斜する。床面積は13.9㎡である。

【埋土】埋土は3層に分層され、一部に西側から流入している形跡があり(3層)自然堆積と考えたい。2層はロームブロックを含む黄褐色土層で、床面を覆っていることから、土層根の前崩層の可能性もある。

【床面・掘形】床面はほぼ平坦で、しまりはやや弱い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んだままの状態を床面としている。

【柱穴・壁溝】当遺構では、柱穴および壁溝は存在しない。東側の削平部分にも、壁溝の痕跡は見られない。また、壁柱穴やピットも痕跡はなく、当初から柱穴、壁溝は持たない構造と考えられる。

【貯蔵穴】北東コーナーのやや内側に浅い掘り込みが1基存在する。開口部平面は楕円形で、底面もほぼ同じ形である。開口部の長軸は60cm、短軸は46cm、床面からの深さ80cmで、長軸は建物主軸方向と一致する。埋土は1層で、主に建物の壁側からの流入土によって自然埋没したと思われる。遺物は、小破片のため図示し得なかったが土器器破片が少数出土した。



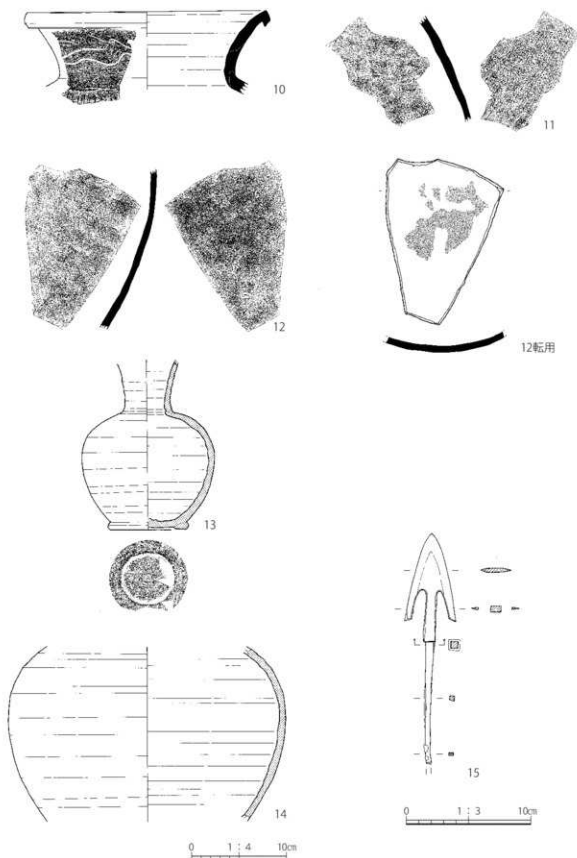
第51図 小堀内1遺跡 SI-280 出土遺物実測図(1)

【入口ピット】存在しない。

【カマド】北壁の中央に存在する。構築材はほとんど失われ、煙道と燃焼部掘形底面が残っていた。また、西側袖部では、芯材の細長い川原石が正位置を保って直立していた。この芯材は底面が平らで、建物床面に置かれた状態であった。燃焼部掘形底面の平面は卵形で、長軸48cm、短軸39cm、深さは30cmである。煙道は壁外に38cm突出する。煙道には天井部分の崩落層がわずかに残り、燃焼部にも覆の架け口周囲の天井が崩落したと考えられる土層が見られる。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は、土師器では、坏9点(1～9)、須恵器甕の口縁部破片1点(10)・肩部破片1点(11)・胴部下半破片1点(12)、灰軸陶器の瓶1点(13)・壺胴部破片1点(14)である。ほかに鉄鏝1点(15)がある。これらは南西コーナーおよび南東コーナーの床面にまとまって出土している。土師器坏は全てロクロ成形で、底部は回転糸切りが多く、糸切り後回転ヘラ削りで仕上げるもの(2・3・7)も見られる。回転糸切りのものは体部下端を手持ちヘラ削りするものが見られる。1は回転ヘラ削りの後高台を付け、その両脇をロクロナデして密着させる。坏の内面は全て密なミガキを施し、大部分に黒色処理を施す。1の坏は高台丈が高く、体部外面に「万用」の墨書がみられる。9の坏は体部外面に井桁、すなわち「井」形のヘラ描きが見られる。須恵器甕は10と11は外面の平行タタキ目が近似し、同一個体の可能性がある。頸部外面には極めて粗い柳描き波状文が3周する。12は碗に転用されていた。14は蔵骨器などに用いられる、球胴の短頸甕であろう。ともに外面に薄く灰釉が塗布され、14の無釉部分は赤褐色に発色する。15は床面直上で発見された鉄鏝である。保存状態は良好で腸袂の先端まで残っていた。平根で長い腸袂を持つ。茎は長く、頸部との境界は四面角間になる。

【時期】土師器、高台坏等の形状から、9世紀中葉～後葉の遺構と考えられる。



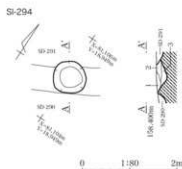
第52図 小鍋内I遺跡 SI-280 出土遺物実測図(2)

第30-1表 小鍋内1遺跡 SI-280出土遺物観察表(1)

No.	種類 種類	計測値 (cm)	色調	出土	状況	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土器 高付付	口径 13.8	7.5YR7/4 に赤い黄緑	小鍋-白色細砂粒・ 灰色細砂粒-白色針 状物質を含む。	良好	完存	口縁部	口縁部	器身「方肩」、 内面黒色処理。 高台径7.8cm	床面直上	
		底面					底面				
		底面					底面				
2	土器 環	口径 11.4	10YR7/2 に赤い黄緑	小鍋-白色細砂粒・ 黒色細砂粒-白色針 状物質を含む。	良好	完存	口縁部	口縁部	—	床面直上	
		底面					底面				
		底面					底面				
3	土器 環	口径 12.2	10YR8/4 淡黄緑	小鍋-白色細砂粒・ 灰色細砂粒-白色針 状物質を含む。	良好	完存	口縁部	口縁部	—	床面直上	
		底面					底面				
		底面					底面				
4	土器 環	口径 12.4	2.5Y6/2 黄	小鍋-白色細砂粒・ 黒色細砂粒を含む。	良好	完存	口縁部	口縁部	—	床面直上	
		底面					底面				
		底面					底面				
5	土器 環	口径 12.6	2.5Y4/1 黄灰	小鍋-白色細砂粒・ 黒色細砂粒を含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	口縁部	—	床面直上	
		底面					底面				
		底面					底面				
6	土器 環	口径 12.5	10YR6/4 に赤い黄緑	小鍋-白色細砂粒・ 灰色細砂粒-白色針 状物質を含む。	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	口縁部	—	床面直上	
		底面					底面				
		底面					底面				
7	土器 環	口径 (12.2)	7.5YR5/4 に赤い黄	小鍋-白色細砂粒・ 灰色細砂粒-白色針 状物質を含む。	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	口縁部	—	床面直上	
		底面					底面				
		底面					底面				
8	土器 環	口径 13.2	10YR7/3 に赤い黄緑	小鍋-黒色細砂粒・ 白色細砂粒-透明細 砂粒を含む。	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	口縁部	—	埋土	
		底面					底面				
		底面					底面				
9	土器 碗	口径 (16.6)	10YR7/3 に赤い黄緑	小鍋-透明細砂粒・ 白色細砂粒-白色針 状物質を含む。	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	口縁部	—	床面直上	へら型守・保付 品。
		底面					底面				
		底面					底面				
10	銅器 鏝	口径 —	2.5Y5/2 黄	小鍋-白色細砂粒・ 灰色細砂粒-白色針 状物質を含む。	良好	口縁部破片	口縁部	口縁部	—	埋土	南側溝縁か、 中・下方向にの びる。
		底面					底面				
		底面					底面				
11	銅器 鏝	口径 —	7.5Y6/1 黄	小鍋-白色細砂粒・ 白色針状物質を含む。	良好	銅部破片	口縁部	口縁部	—	埋土	南側溝縁か、
		底面					底面				
		底面					底面				
12	銅器 鏝	口径 —	5Y5/1 黄	小鍋-白色細砂粒含 む。	良好	銅部破片	口縁部	口縁部	—	床面直上	軸用視、内面 中央に彫刻。
		底面					底面				
		底面					底面				
13	灰輪 陶器 丸型	口径 —	7.5Y6/2 黄オリーブ	黒色細砂粒少量含 む。両面に気泡。	良好	口縁部欠陥、 底部一部 4/5	口縁部	口縁部	—	床面直上	脇段縁か、
		底面					底面				
		底面					底面				
14	灰輪 陶器 丸型	口径 —	5Y6/2 黄オリーブ	黒色細砂粒少量含 む。	良好	口縁部1/5	口縁部	口縁部	—	カマド	脇段縁か、
		底面					底面				
		底面					底面				

第30-2表 小鍋内1遺跡 SI-280出土遺物観察表(2)

No.	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
15	銅製品	鏝	(18.20)	4.07	1.22	(30.85)	基部欠陥	床面直上	器身がやや狭い。器は内面内側。



- 1 暗褐色土 ローム粒や少量、焼土粒含む。
しまり粘りや中あり。腐土。
2 暗赤褐色土 焼土粒やや多量、焼土ブロック
少量含む。しまり・粘りややあり。
樫志からの流入土。
3 黒褐色土 ローム腐粒・焼土粒やや少量含む。
しまり弱。粘りあり。黒腐土。

第53図 小鍋内I遺跡 SI-294 実測図



0 10cm

第54図 小鍋内I遺跡 SI-294 出土遺物実測図

第31表 小鍋内I遺跡 SI-294出土遺物観察表

順	種類	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	形状		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土師器 甕	口径 (16.4)	10YR7/4 にぶい黄褐色	小礫・白色磁石粉・ 白色針状物質含む。	良好	口縁部1/6	口縁部	脛ナデ	口縁部が短く、 胴部はやや膨脹 する。	埋土	
		体部					斜ヘラナデ	縦ヘラケズリ			
		底部					—	—			
2	灰陶器 皿	口径 —	2.5YR/1 灰白	黒色細砂・白色細 砂を含む。	良好	口縁部破片	口縁部	ロクロナデ	内面→口縁部外 面にかけて膨脹。	カマド	黒京90号 式式期
		体部					—	—			
		底部					—	—			
3	灰陶器 皿	口径 —	2.5Y7/8 にぶい黄	白色細砂・黒色細 砂を含む。	良好	口縁部～体 部破片	口縁部	ロクロナデ	内面に深く膨脹。	カマド	黒京90号 式式期
		体部					—	—			
		底部					—	—			

SI-294 (第53・54図、第31表、図版七)

【概要】調査区中央の北寄りに存在する、竪穴建物跡と推定される遺構である。カマドの燃焼部の痕跡と考えられる焼土ピットのみ確認されたが、4 m西には古墳時代のSI-299が存在する。北側はSD-291に、南側はSD-290に切られる。上面も削平され、カマドの構築材も全く残っていない。

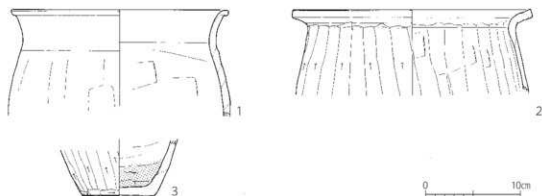
【位置】J-10グリッドに位置する。確認面標高は158.100mである。

【規模】確認面での大きさは、直径約70～80cmで、確認面からの深さ28cmのピット状に残存する。主軸方向は不明である。

【埋土】埋土は3層(1～3層)に分層され、白色粘土ブロック、焼土塊、炭化物、灰などを多量に含むことから、カマドの痕跡と判断した。

【出土遺物】遺構の残存部分は極めて少ないが、図化した遺物は土師器甕1点(1)、灰陶器碗口縁部の破片2点(2・3)、である。1は口縁部の丈が比較的短く、広く開口する。体部外面は縦方向のヘラケズリ、内面は斜め上方へのヘラナデを施す。胎土には白色針状物質を含んでいる。1と2の灰陶器は、内面から口縁部外面にかけて施釉が確認でき、口縁部下端を強く押さえ、端部が短く外反する。ともに量産窯の製品(黒京90号式式期)と考えられる。

【時期】甕の形状や、灰陶器の示す年代等から、9世紀後葉～10世紀初め頃の竪穴建物のカマドの一部と考えられる。



第55図 小鍋内I遺跡 遺構外出土の奈良・平安時代遺物実測図

第32表 小鍋内I遺跡 遺構外出土の奈良・平安時代遺物観察表

No.	発掘 遺構	許容積 (m ³)	色調	粘土	焼成	残存率	柱法		特徴	出土位置	備考
							内部	外面			
1	上部 口縁部	(23.0)	SYRS/B 明赤褐色	白色細砂粒多量、 管母少量含む。	良好	口縁部～胴部 上半部片	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部外反、 裾部内反、裾部 の括れが深い。	表採
	胴部	横ヘラナデ					縦ヘラナデ				
	底部	—					—				
2	上部 口縁部	(19.0)	10YR6/3 に濃い黄褐色	砂粒・管母多量含 む。	良好	口縁部～胴部 1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁短く、急曲 が深い。口縁は 肥厚し、裾部の 受け口状。	J-10 グリッド 表採
	胴部	縦ヘラナデ					縦ヘラナデ				
	底部	—					—				
3	上部 口縁部	—	10YR6/4 に濃い黄褐色	砂粒多量、 赤色粒・管母少量 含む。	良好	胴部下半～ 底部	口縁部	—	—	内面にウルシ を入れた痕跡。	J-10 グリッド 表採
	胴部	横ヘラナデ					縦ヘラナデ				
	底部	横ナデ					不定方向横ナデ				

2. 遺構外出土遺物 (第55図、第32表)

小鍋内I遺跡では、遺構確認作業に際し、遺構外から奈良時代から平安時代にかけての遺物が採取されている。これらのうち、図示可能な主要遺物について記載する。土器器裏3点 (第55図1～3) である。

1は調査区中央部の遺構確認面で採取された。口縁部の丈が高く、端部があまり広がらない。胴部は内外面とも幅の広い工具によるナデが認められる。

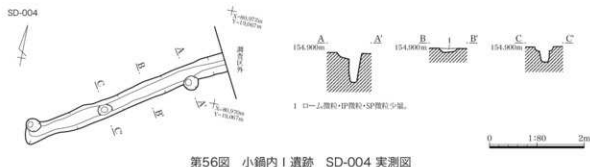
2も調査区中央の遺構確認面而出土した。口縁部が短く、急角度に開く。口縁部は肥厚し、端部の断面形は角張っている。胴部内面は縦方向のナデ、外面は縦方向のケズリが施される。

3は裏底部で、調査区北寄りの遺構確認面で採取された。底部外面は平坦で、胴部は直線的に急角度で立ち上がる。内面には一定の高さまで漆が入っていた痕跡があり、漆の容器として裏底部を転用していたものと考えられる。

第5節 中世以降の遺構と遺物

1. 溝跡 (第62・63図)

小鍋内I遺跡の調査区内では、暗渠や、農地改良に伴う地割り溝などを除き、24条の溝跡を確認した。遺構上面の削平が激しく、積極的に古墳～平安時代に位置づけられるものは確認できず、調査した全ての溝跡を中世以降の遺構と判断した。後述する土坑の分布状況と照合すると、それらの区画溝として機能するものが多数存在すると思われる。



第56図 小鍋内I遺跡 SD-004 実測図

SD-004 (第56図)

調査区南東端で確認された東西方向の溝である。東側は調査区外になり、全容は不明である。溝に沿って、一定間隔でピットが3基並ぶが、溝に伴うか否かは確認できなかった。

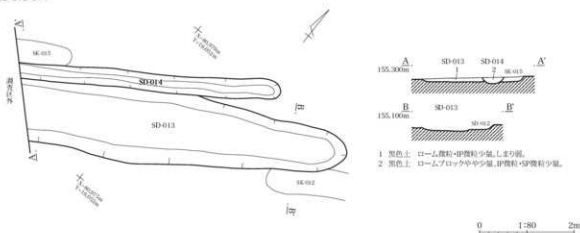
SD-013・014 (第57・58図、第33表、図版七)、SD-016 (第59図、図版七)

この3条の溝は平行し、調査区南部の土坑群南端の区画として機能するものと考えられる。SD-014はSD-013を切っている。SD-013は削平が激しいが、底面幅が広い。SD-016も遺構上部がかなり失われているが、断面形からは所謂築研堀と考えられる。溝の西端は調査区幅の中央で明確に止まっており、土橋等、区画内への出入り口施設の存在を想起させる。SD-013とSD-016両者の先端は接している。遺物は、SD-013埋土上層から須恵器裏胴部破片が出土している。

SD-090 (第60・61図、第34表、図版一〇)

この溝も東西方向に横たわり、調査区南部の土坑群の北端を区画する可能性がある。遺構上面の削平により、断面形は不明確である。西端は削平により調査区幅の中央付近で途切れている他遺構との重複は少ない

SD-013-014



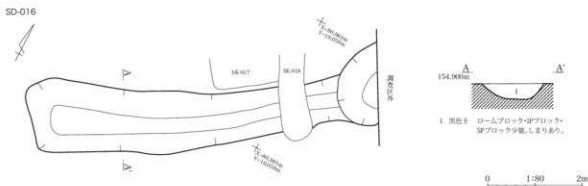
第57図 小鍋内I遺跡 SD-013・SD-014 実測図



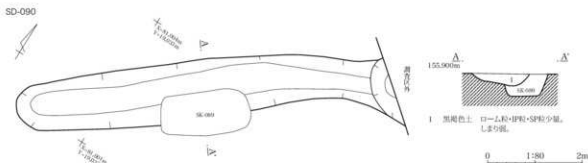
第58図 小鍋内I遺跡 SD-013 出土遺物実測図

第33表 小鍋内I遺跡 SD-013出土遺物観察表

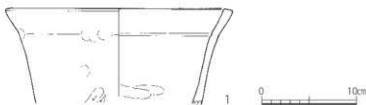
No.	発掘 区画	計測値 (m)	色調	胎土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	調査区 東	上層	—	2.5R5/1	砂粒・骨母細粒 を含む。	中々 不具	胴部破片	上縁部	—	—	埋土 新治産か。
		基壇	—	黄沢	—	—	—	底部	十字	同心四角々本	
		基底	[4.3]	黄沢	—	—	—	—	—	—	



第59図 小鍋内I遺跡 SD-016実測図



第60図 小鍋内I遺跡 SD-090実測図



第61図 小鍋内I遺跡 SD-090 出土遺物実測図

第34表 小鍋内I遺跡 SD-090出土遺物観察表

No.	種類 産種	計測値 (cm)	色調	取土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土師器 土鍋	口径 (24.0)	SVZ/1 黒	砂粒・雲母多量含む。	良好	口縁部～胴部1/6	口縁部	ナデ	ナデ	内口土鍋、口縁部は使用し、やや外傾。	埋土
		底径 (19.2)					体部	ナデ	ナデ、筋面汪面		
							底面	—	—		

が、SK-089を切っている。埋土からは口径に比して器高の高い内耳土鍋が出土している。

SD-114・115 (第64・65図、第35表、図版七)

SD-114はSD-115を切っている。SD-114は調査区南部の土坑群からやや北に離れて位置し、軸の方も東西方向からはややずれ、南西から北東に向かって延びる。断面形は葉研状である。SD-115は溝状であるが、底面に波板状の圧痕が続き、道路であったことがうかがわれる。圧痕は長さ1.2～0.5m、幅0.4～0.55mで、溝底面からの深さ10～17cmである。埋土には礫を多く含み、硬くしまっている。SD-115底面から美濃産の天目茶碗の高台破片が出土した。

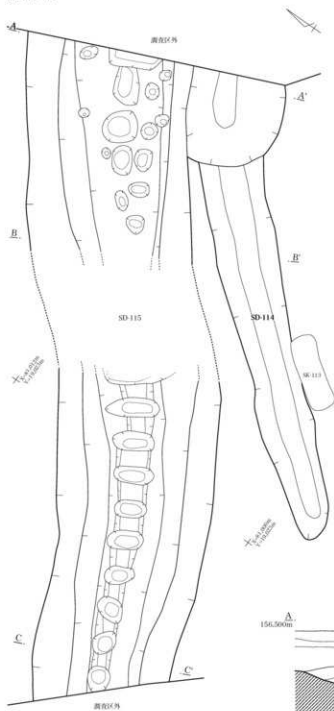


第62図 小鍋内I遺跡 中世以降の遺構・土坑分布図(1)

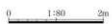
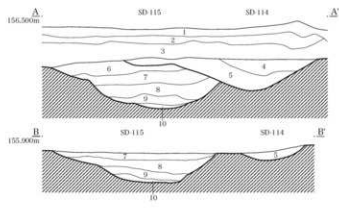
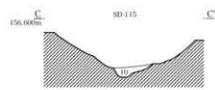


第63図 小鍋内I遺跡 中世以降溝・土坑分布図(2)

SD-114・115



- | | |
|----------|-----------------------------|
| 1 黒色土 | しまり泥。 |
| 2 褐色土 | ローム・IP多量、しまり泥。 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒・IP粒・IP粒・炭化物粒少量、しまり泥。 |
| SD-114 | |
| 4 黒褐色土 | ロームブロック・ローム粒・IP粒少量、しまりなし。 |
| 5 暗茶褐色土 | ローム粒多量、IP粒中や少量、しまり泥。 |
| SD-115 | |
| 6 黒褐色土 | ローム粒・IP粒少量、SP粒・炭化物粒少量、しまり泥。 |
| 7 黒褐色土 | SP粒・炭化物粒少量、ローム粒・IP粒含む、しまり泥。 |
| 8 黒褐色土 | ローム粒・IP粒・SP粒・炭化物粒少量、しまり泥。 |
| 9 黒褐色土 | ローム粒少量、しまり泥。 |
| 10 暗茶褐色土 | 礫少量、ローム粒・IP粒少量、しまり泥。 |



第64図 小鍋内I遺跡 SD-114・SD-115実測図



第65図 小鍋内I遺跡 SD-115 出土遺物実測図

第35表 小鍋内I遺跡 SD-115出土遺物観察表

区	種類 部類	計測値 (cm)	色調	出土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
I	溝跡	口径 —	2.5YR7/2 灰黄	自然微風含む。	良好	底部のみ	口縁部	—	心や枕窪。内面 直線。裏打目 4.4cm	埋土	美濃産か。	
	底層	—					棟部	ロクロナデ				回転ヘラケズリ
	土層	—					底部	ロクロナデ				付部付か
	底層	(1.8)					—	—				—

SD-166 (第66図)

調査区中央の土坑群の中に位置する。SK-173・174を切り、SK-170に切られる。東西方向から南北方向に弧を描き、延長上にはSD-224・225が位置する。これらが全体で区画溝であるならば、SD-166は区画のコーナー部分になる。

SD-187・188・234・235 (第67図、図版七・一一一)

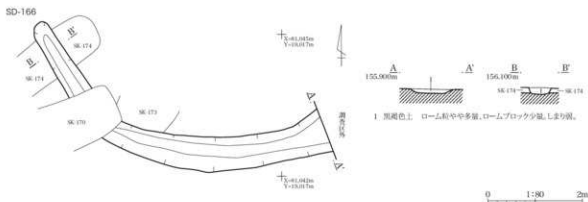
調査区中央の土坑群の北端を区画する東西方向の溝である。SD-188の断面形は葉研状である。これらの4条の溝は平行し、SD-187はSD-188を切っている。SD-188とSD-235の直接の切り合いは無い。SD-187は調査範囲の中央で南に直角に曲がり、SD-234に接続する。新旧は不明だが、両者が一連の溝である可能性もある。SD-187とSD-235の新旧も不明である。

SD-189・224・225 (第68図、図版八)

調査区中央の土坑群の北に位置する、概ね南北方向に延びる溝群である。先述の通り、SD-166と密接な位置関係にあるものと考えられる。SD-189はSD-224・225とは方向がやや異なり、北西から南東に延びる。3条とも底部が残るのみで、断面形は不明である。

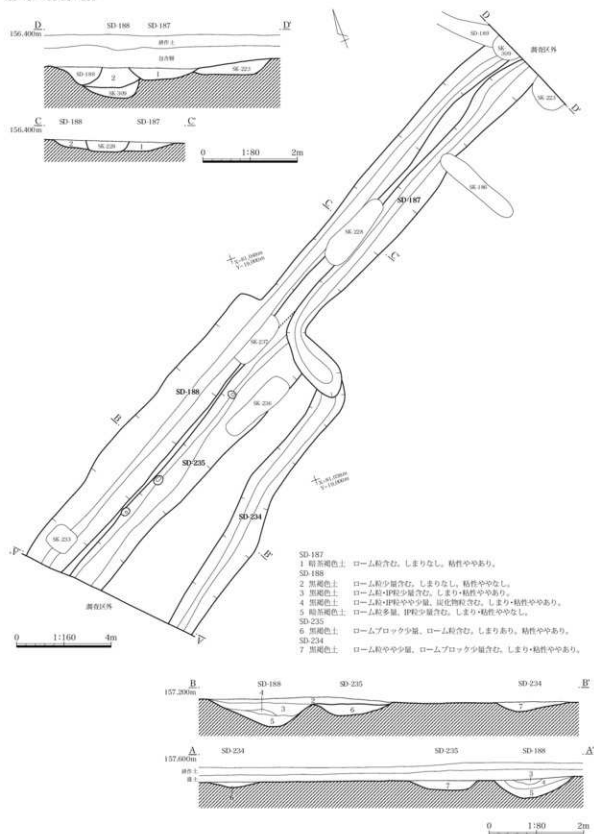
SD-227・230・238・239 (第69図、図版八)

調査区中央に位置するクランク状に屈曲する溝群である。SD-239はSI-240の中央を切り、二股に分かれ、両者とも東西方向のSD-227と直角に接する。この二股部分は、SD-239が一部で掘り直されて新旧の位置がずれたために生じた箇所と考えられる。SD-227・230・238は東西方向に平行し、SD-227はSD-224・225の北端と交わる。SD-227は葉研状である。

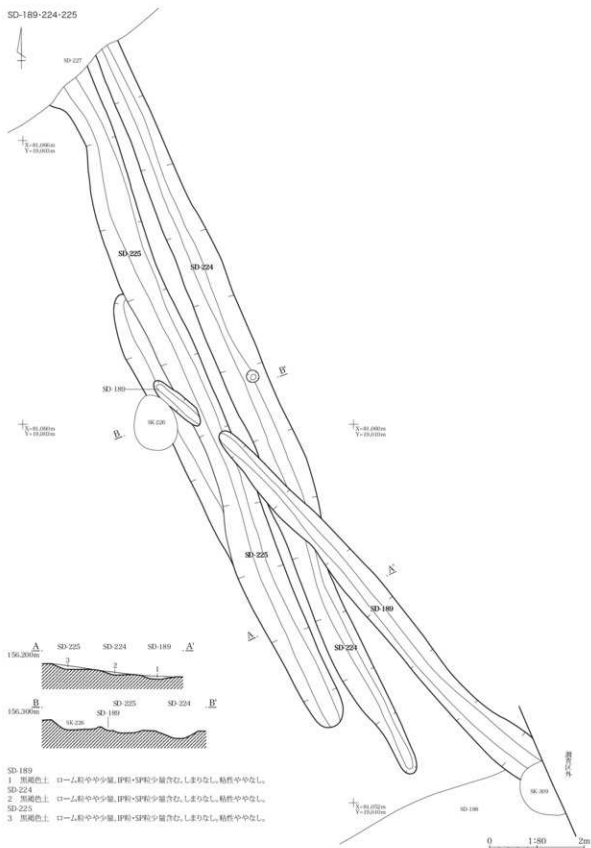


第66図 小鍋内I遺跡 SD-166 実測図

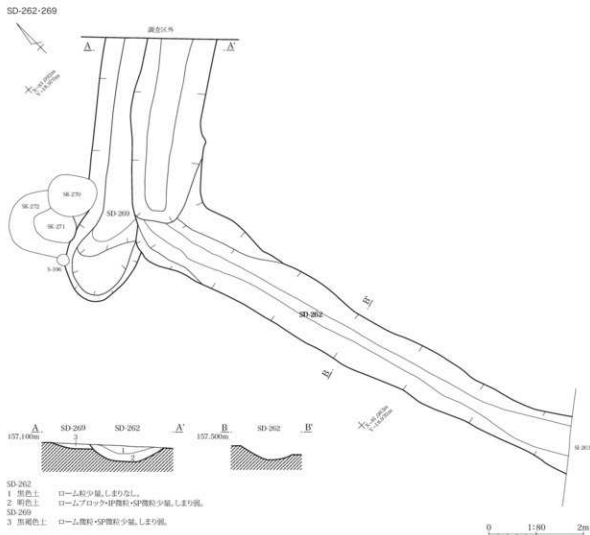
SD-187・188・234・235



第67図 小鍋内I遺跡 SD-187・SD-188・SD-234・SD-235 実測図



第68図 小銅内I遺跡 SD-189・SD-224・SD-225 実測図



第70図 小鍋内I遺跡 SD-262・SD-269 実測図

SD-262・269 (第70図)

SD-262は東西方向から南北に曲がる。コーナー部分は直角ではなく、やや鈍角に曲がる。また、この部分で溝底面は僅かに段差を持つ。SD-269はSD-262に切られコーナー部分で途切れる。SD-262の南端はSI-263の北壁上端を切った後、削平により消滅する。東に向きを変え、SD-239の北端と繋っていた可能性もある。SD-269の西端は階段状に段差が設けられている。

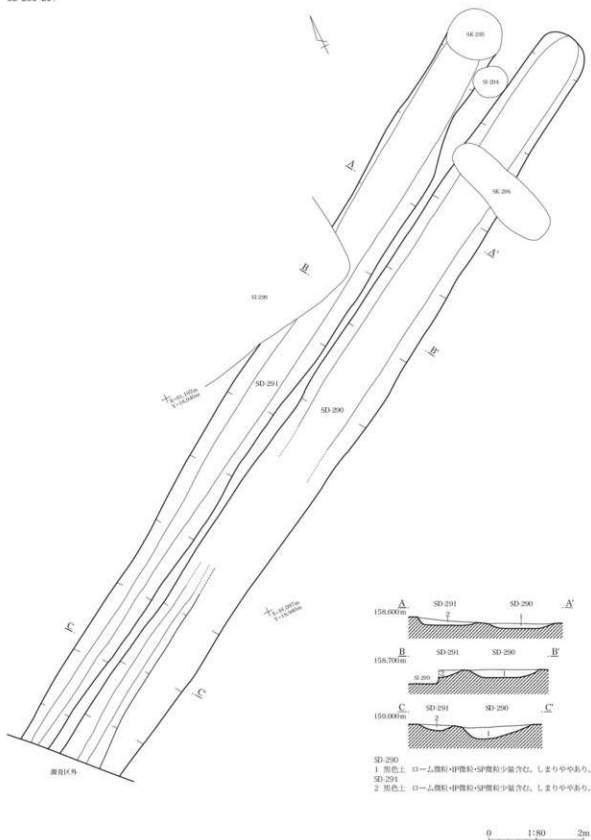
SD-290・291 (第71図)

調査区北部に位置する東西溝である。両者は平行する菜研場と考えられ、東端は削平され消滅する。新旧は不明である。SD-291はSI-299のコーナーとSI-294のカマド、およびSK-295を切る。SD-290はSK-296に切られる。

SD-305 (第72図)

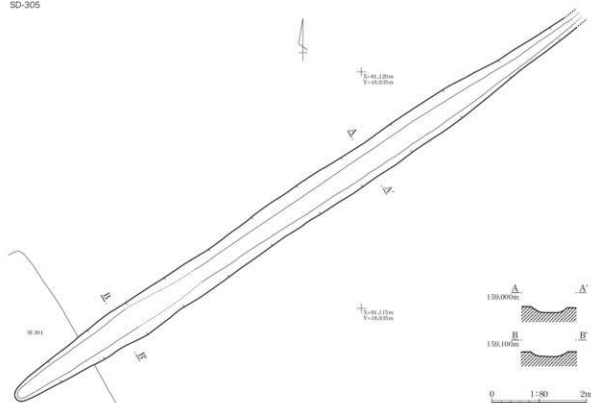
調査区の最も北に位置する東西溝である。東端は削平される。底部が辛うじて残り、断面形は不明である。西端はSI-301を切っている。

SD-290-291



第71図 小鍋内I遺跡 SD-290・SD-291 実測図

SD-305



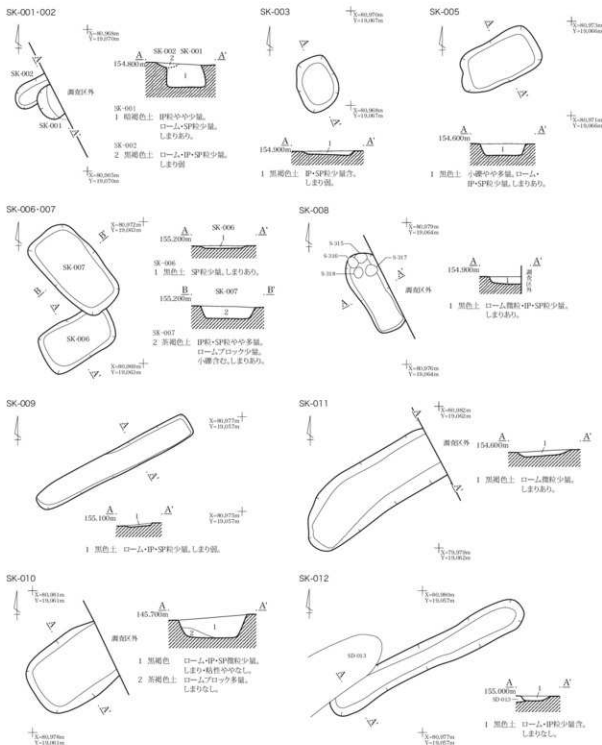
第72図 小鍋内I遺跡 SD-305 実測図

2. 土坑 (第62・63・73～96図、第36～44表、図版八～一四・二一)

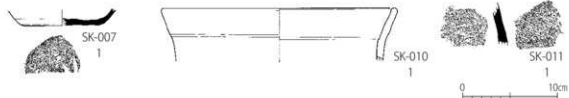
小鍋内I遺跡の土坑群は、調査区の南半分の範囲に集中する。そして「1. 溝跡」で記述した溝跡群に区画され、さらに中央を波板状圧痕の顕著な道路遺構SD-115で仕切られて、南北2つのグループを形成する。土坑の長軸は平行あるいは直交の関係にある。また、区画溝の方向とも軸線がほぼ一致する。土坑の形状は、隅丸長方形、長楕円形、隅丸正方形、円形など多様で、大きさにも開きがあるが、短軸1に対して長軸2～2.5前後の縦横比の隅丸方形土坑が多くを占める。これらの多くは埋土にロームブロックを多量に含み、人為的に埋め戻されたことを示唆しており、最下層に薄い黒色土層が見られること等の所見からも、墓塚と判断される。また、正方形の土坑では、SK-159のように対辺の中央にピットを有するものもあり、方形竈穴の可能性が高い。どの土坑も深さは比較的一定で、複数の土坑が重複する場合でも底面に極端な段差を生ずる例はあまりなく、平坦に繋がる場合が多い。

わずかながら遺物の出土した土坑もある。SK-010からは、深い内耳土銅破片が出土し、SK-030では鉄鍋の口縁部破片が発見された。SK-028からは鉄軸を施した古瀬戸の小皿が出土している。SK-207では銅銭（聖宗元寶）が出土している。また、SK-046では、底面の一部に焼土の堆積が認められる。

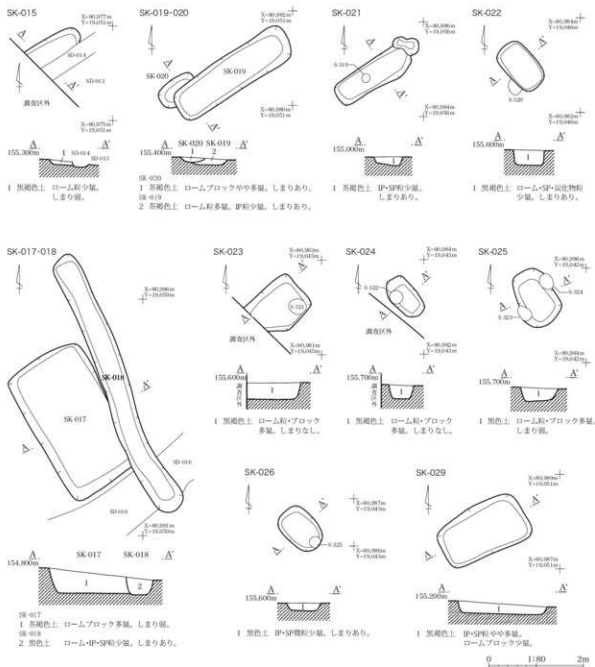
この他、特徴的な形状の土坑としてはSK-009・012・018・088・095・096・105などの細長い土坑である。遺構の重複関係を観察すると、一般に上記の方形土坑に比して新しく、深い場合が多い。従って周辺地域が開田時の掘撃を受けた後に造られた土坑とも考えられる。



第73図 小銅内I遺跡 中世以降土坑実測図(1)



第74図 小銅内I遺跡 SK-007・SK-010・SK-011 出土遺物実測図



第75図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図(2)



第76図 小鍋内I遺跡 SK-017 出土遺物実測図

第36表 小竈内I遺跡 SK-007出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
I	須恵陶 環	口径 口径 (8.1) 底径 (1.7)	10Y5/1 灰	砂粒多量含む。	良好	底部1/4	口縁部	—	—	底部へラ起付 「—」	埋土	
							体部	ロクロナデ	—			
							底面	—	回転へラケズリ			
							底面	—	—			

第37表 小竈内I遺跡 SK-010出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
I	土師器 内耳罐	口径 口径 (25.0) 底径 — 底径 (5.6)	5Y2/1 黒	砂粒・赤色粒・雲母 微量含む。	良好	破片	口縁部	横ナデ	横ナデ	内耳縁。口縁端 部に丸み。	埋土	外面残存部
							体部	—	ナデ			
							底面	—	—			
							底面	—	—			

第38表 小竈内I遺跡 SK-011出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
I	須恵陶 甕	口径 口径 (5.0)	N4/0 灰	白色細砂粒多量。 白色針状物質少量 含む。	良好	胴部破片	口縁部	—	—		埋土	南側段階か。
							体部	ナデ	平行タタキ			
							底面	—	—			
							底面	—	—			

第39-1表 小竈内I遺跡 SK-017出土遺物観察表(1)

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
I	須恵陶 甕	口径 口径 (5.7)	5Y4/1 灰	白色細砂粒。雲母 細粒微量含む。	良好	破片	口縁部	—	—	今や散見。	埋土	新治堂か。
							体部	ナデ	同心円タタキ			
							底面	—	—			
							底面	—	—			

第39-2表 小竈内I遺跡 SK-017出土遺物観察表(2)

No.	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
2	石製品	砥石	(9.64)	3.30	2.45	89.45	上部欠損	埋土	砂目数。4方に砥面。

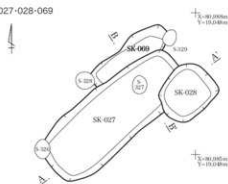
第40表 小竈内I遺跡 SK-028出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
I	志保式 土師 小皿	口径 口径 (10.0) 底径 5.0 底径 3.1	2.5Y7/2 灰濁	黒色細砂粒微量含 む。	良好	口縁部～体 部1/4 底部欠存	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ回リ。 口縁部に鉄線。	埋土	
							体部	ロクロナデ	—			
							底面	—	回転木切り			
							底面	—	—			

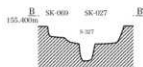
第41表 小竈内I遺跡 SK-030出土遺物観察表

No.	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
1	石製品	砥石	(13.21)	(6.60)	0.95	(92.80)	破片	埋土	口縁部破片。口縁端部扁平。先端ほど厚くなる。

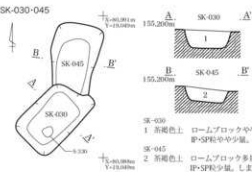
SK-027-028-069



SK-028
1 赤褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック含む、しまり強。
SK-027
2 暗茶褐色土 ロームブロック少量、ローム粒含む。

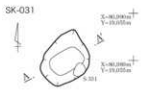


SK-030-045



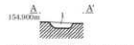
SK-030
1 赤褐色土 ロームブロックやや多量、
IP・SP粒中や少量、しまり強。
SK-045
2 赤褐色土 ロームブロック多量、
IP・SP粒少量、しまり強。

SK-031



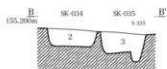
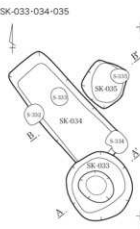
1 赤褐色土 ローム粒少量、
しまりなし。

SK-032



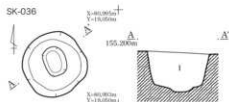
1 赤褐色土 ローム粒少量、しまり強。

SK-033-034-035



SK-033
1 赤褐色土 ローム粒・ブロック多量、
IP・SP粒少量、しまりなし。
SK-034
2 赤褐色土 ローム粒・ブロック多量、
IP・SP粒少量、しまりあり。
SK-035
3 黒色土 IP・SP粒中や少量、
ローム・黒色土粒含む、
しまりあり。

SK-036



1 赤褐色土 ロームブロック・IP・SP粒多量、しまりなし。



1 赤褐色土 ロームブロック多量、
IP粒・SP粒含む。

第77図 小鍋内I遺跡 中世以降土実測図(3)

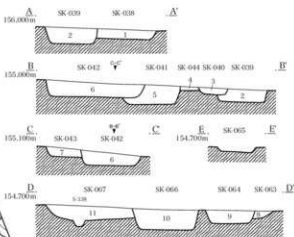
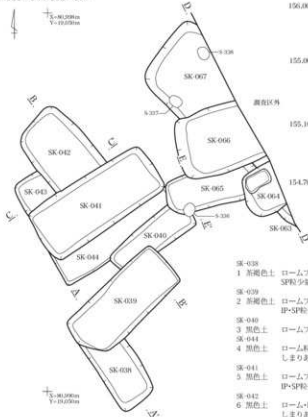
0 1:80 2m

SK-028
1SK-030
1

0 10cm

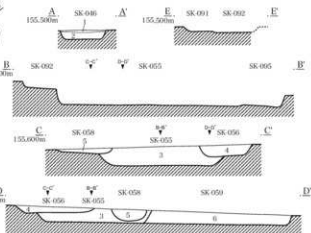
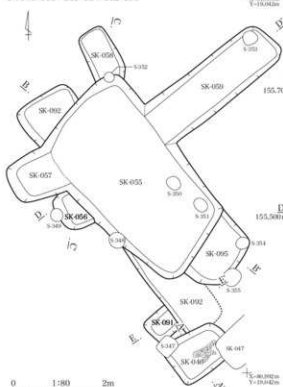
第78図 小鍋内I遺跡 SK-028・SK-030 出土遺物実測図

SK-038~044-063~067



- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|-----------------------------|
| SK-038 | ロームブロック多量、SPR少。しまりあり。 | SK-043 | ローム・ブロックやや少。しまりあり。 |
| SK-039 | ロームブロック多量、SPR少。しまりあり。 | SK-063 | ローム・IP・SP。しまりややあり。 |
| SK-040 | ロームブロック多量、IP・SP粒やや少。しまりあり。 | SK-064 | ローム粒やや少。IP・SP粒少。しまりあり。 |
| SK-041 | ローム・IP・SP少。しまりあり。 | SK-066 | IP・SPブロックやや多。ローム粒やや少。しまりあり。 |
| SK-042 | ローム・IP・SP少。しまりあり。 | SK-067 | IP・SPブロックやや少。しまりあり。 |
| SK-043 | ローム・IP・SP粒少。しまりあり。 | | |

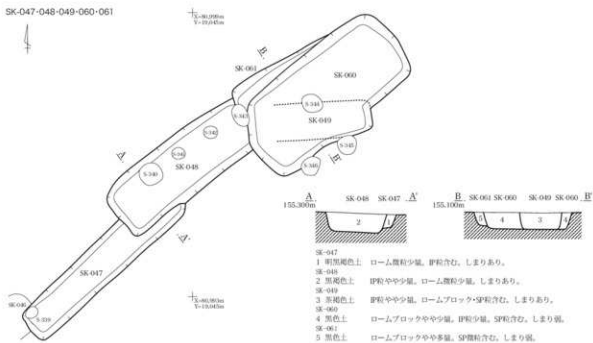
SK-046-055-059-091-092-095



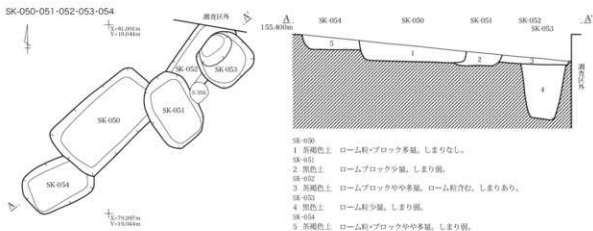
- | | |
|--------|------------------------------------|
| SK-046 | ローム粒やや少。SP粒少。焼土粒。しまりあり。 |
| SK-055 | ローム粒やや少。SP粒少。しまりあり。 |
| SK-058 | ローム粒・ローム多量、IP粒やや少。IP粒少。しまり・粘性ややなし。 |
| SK-056 | ローム・IP粒少。しまり・粘性ややなし。 |
| SK-059 | ローム・IP・SP少。しまりややなし。粘性ややあり。 |
| SK-091 | ローム・ブロック多量、SP・SPR少。しまり・粘性ややなし。 |

第79図 小網内1遺跡 中世以降土坑実測図(4)

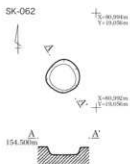
SK-047-048-049-060-061



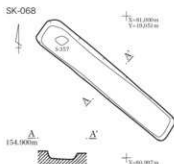
SK-050-051-052-053-054



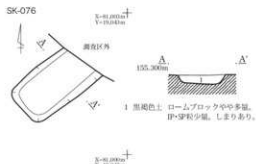
SK-062



SK-068



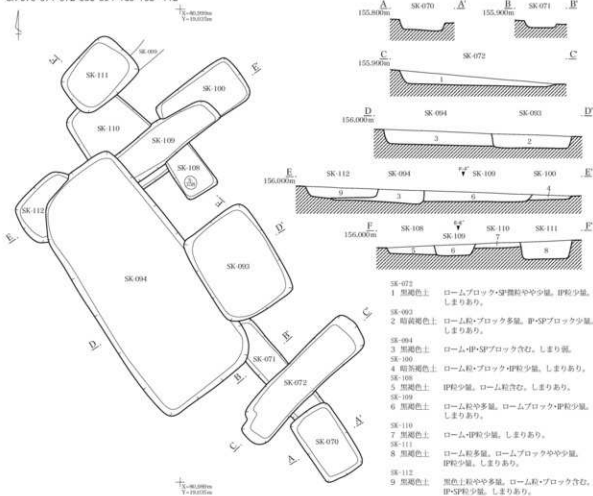
SK-076



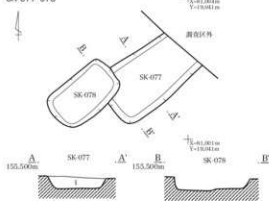
0 1:80 2m

第80図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図(5)

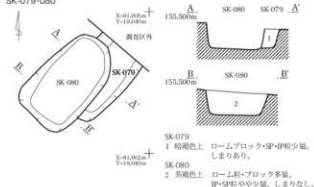
SK-070-071-072-093-094-100-108~112



SK-077-078



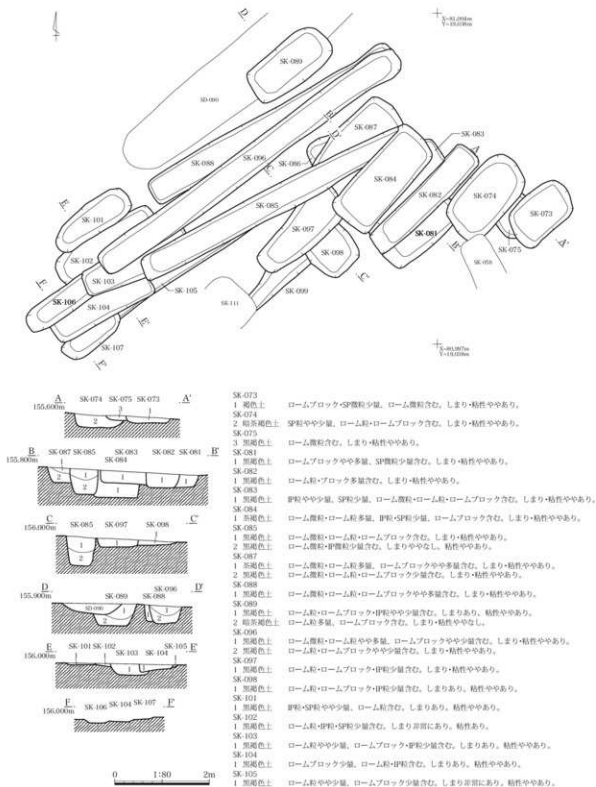
SK-079-080



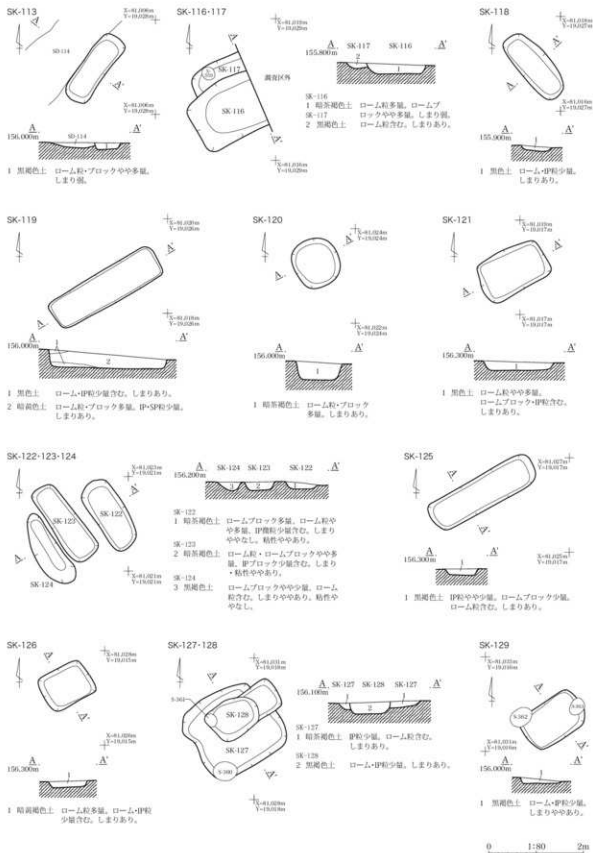
0 1:80 2m

第81図 小銅内I遺跡 中世以降土坑実測図(6)

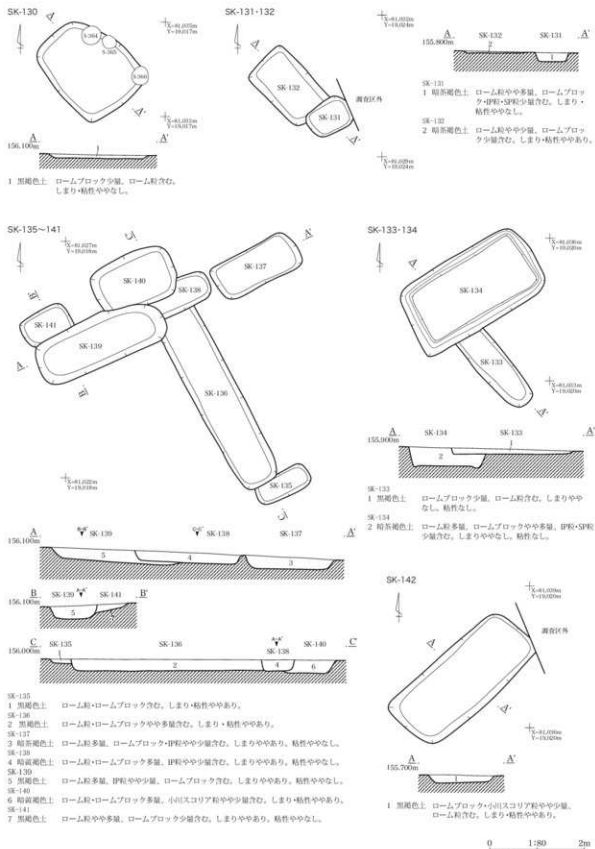
SK-073-074-075-081~085-087-088-089-096~099-101~107



第82図 小鍋内1遺跡 中世以降土坑実測図(7)

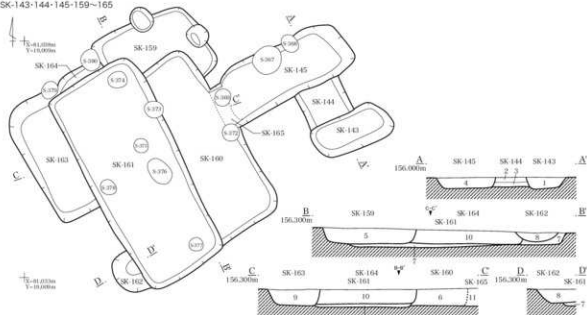


第83図 小銅内I遺跡 中世以降土坑実測図(8)



第84図 小鍋内I遺跡 中世以降土実測図(9)

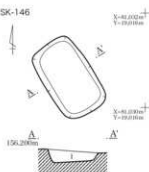
SK-143-144-145-159-165



- SK-143
1 黒褐色土 IP粒やや少量、ロームブロック少量、ローム粒含む、しまりややあり。
- SK-144
2 黒褐色土 IPブロック少量、ローム粒含む、しまり弱。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多量、IPブロック少量、しまりなし。
- SK-145
4 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP粒やや少量、ロームブロック少量、しまり弱。
- SK-159
5 黒色土 ローム粒やや多量、IP粒少量、ロームブロック含む、しまりあり。

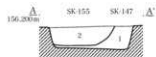
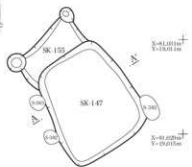
- SK-160
6 粘黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多量、しまりややあり。
- SK-161
7 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量、しまりややあり。
- SK-162
8 黒褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロックやや少量、しまり弱。
- SK-163
9 黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多量、しまりあり。
- SK-164
10 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量、しまりややあり。
- SK-165
11 黒褐色土 ロームブロック多量、しまりややあり。

SK-146



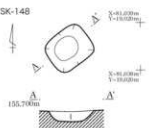
- 1 粘黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒含む、しまり弱。

SK-147-155



- SK-147
1 粘黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒含む、しまりあり。
- SK-155
2 黒褐色土 ロームブロックやや少量、IP粒少量、ローム粒含む、しまりややあり。

SK-148



- 1 黒褐色土 ロームブロック・IP粒少量、ローム粒含む、しまり弱。

SK-149-150

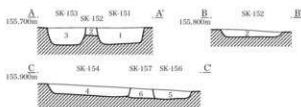
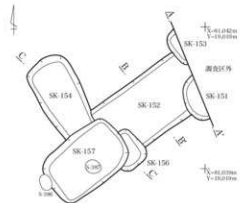


- SK-149
1 黒色土 IP・SPブロックやや少量、ローム粒・ブロック含む、しまりややあり。
- SK-150
2 黒色土 IP粒少量、ローム粒・ブロック含む、しまりややあり。

0 1:80 2m

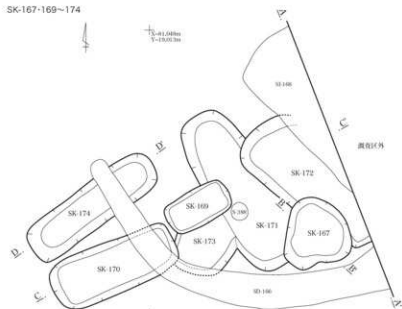
第85図 小銅内I遺跡 中世以降土坑実測図(10)

SK-151~154-156-157

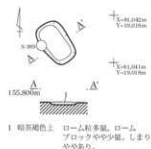


- SK-151
1 黒褐色土 ロームブロックやや少量、ローム粒含む、しまりあり。
SK-152
2 暗茶褐色土 ローム粒多量、IP・SP粒少量、ロームブロック含む、しまりややあり。
SK-153
3 黒褐色土 ローム粒やや少量、ローム・炭化物ブロック少量、しまりややあり。
SK-154
4 暗黄褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック含む、しまりあり。
SK-156
5 暗黄褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック含む、しまりややあり。
SK-157
6 黒褐色土 ロームブロックやや少量、IPブロック少量、ローム粒含む、しまりややあり。

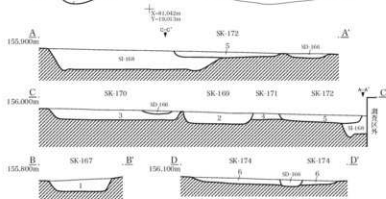
SK-167-169-174



SK-158



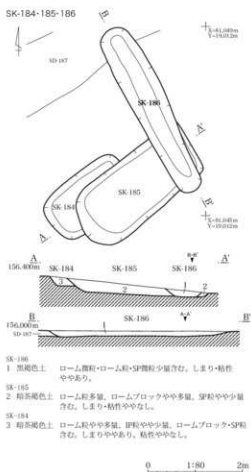
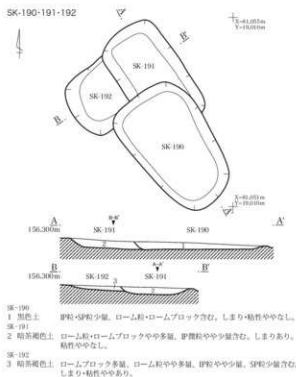
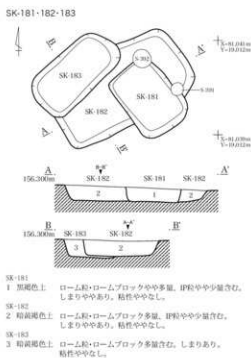
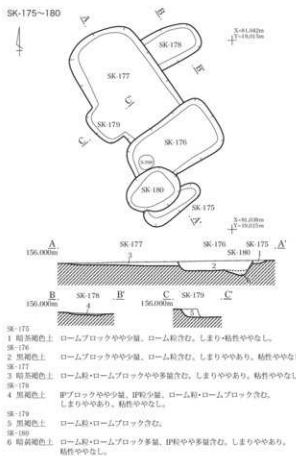
- 1 暗茶褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや少量、しまりややあり。



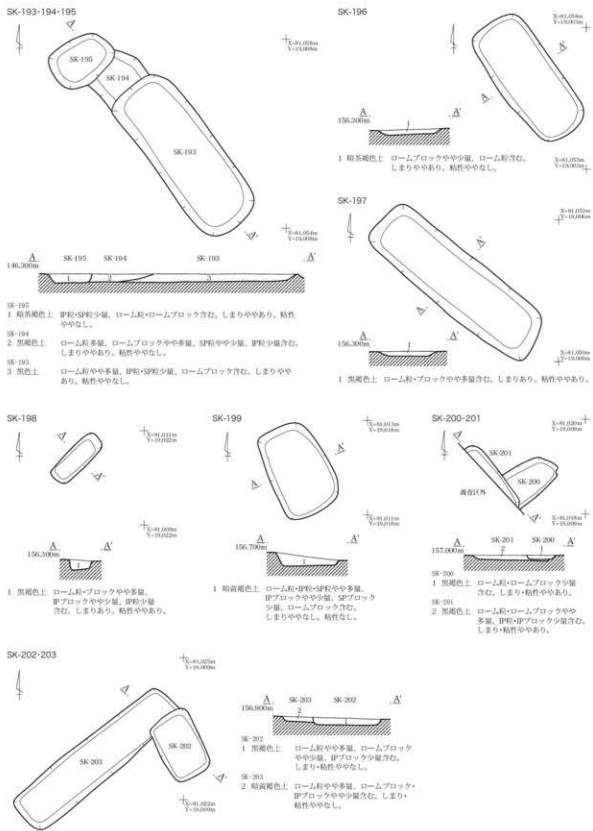
- SK-167
1 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP粒少量、しまり弱。
SK-169
2 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、しまり弱。
SK-170
3 暗茶褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、しまり弱。
SK-171
4 黒褐色土 ロームブロック4粒少量、ローム粒含む、しまりあり。
SK-172
5 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック含む、しまりややあり。
SK-174
6 黒褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック含む、しまりややあり。

0 1:80 2m

第86図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図(11)

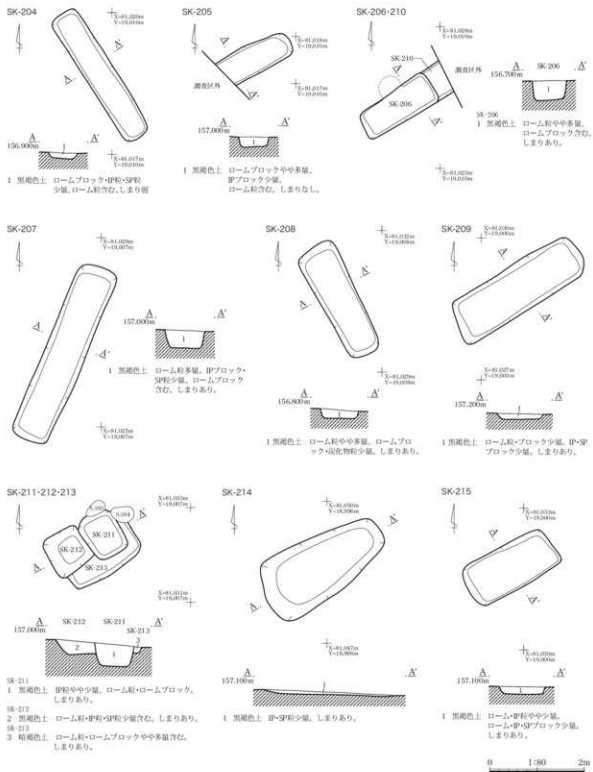


第87図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図(12)



第88図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図(13)

第三章 小鍋内I遺跡



第89図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図 (14)

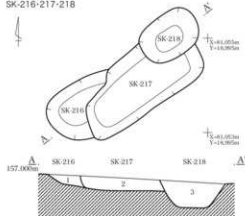


第90図 小鍋内I遺跡 SK-207 出土遺物実測図

第42表 小鍋内I遺跡 SK-207出土遺物観察表

No.	区分	種類	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
1	銅製品	銭	2.27	0.13	1.59	完存	埋土	明治元寶

SK-216-217-218



SK-216

1 黒褐色土 ローム・IPブロック少量、ローム粘含む、しまりあり。

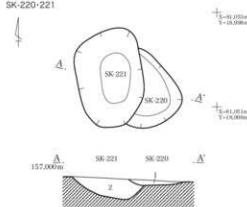
SK-217

2 黒褐色土 砂粒やや少量、ローム粒・ブロック含む、しまりあり。

SK-218

3 黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多量、しまりあり。

SK-220-221



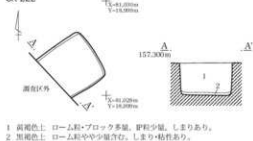
SK-220

1 黒褐色土 ローム・IPブロック少量、IP・SP粒少量ローム粘含む、しまりあり。

SK-221

2 黄褐色土 ロームブロック・粒多量、IP粒・ブロック・SP粒少量、SPブロック含む、しまりなし。

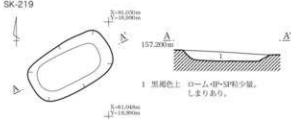
SK-222



1 黄褐色土 ローム粒・ブロック多量、IP粒少量、しまりあり。

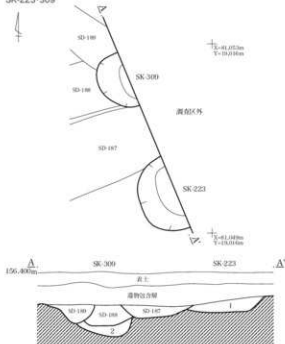
2 黒褐色土 ローム粒やや少量含む、しまり・粘りあり。

SK-219



1 黒褐色土 ローム・IP・SP粒少量、しまりあり。

SK-223-309



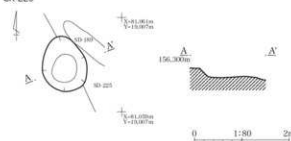
SK-223

1 黒褐色土 ロームブロック・IP粒少量、ローム粘含む、しまりあり。

SK-309

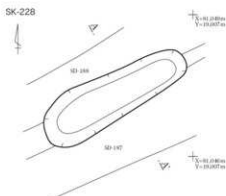
2 黒褐色土 SP粒少量、ローム粒・IP粒含む、しまりあり。

SK-226



0 1:80 2m

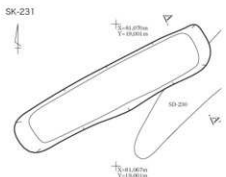
第91図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図 (15)



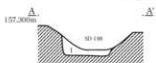
I 黒褐色土 ロームブロック・砂粒少量、ローム粒含む。しまり・粘付ややあり。



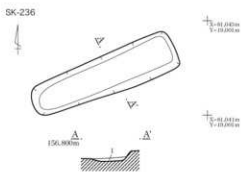
I 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック・砂粒含む。しまり・粘付ややあり。



I 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、砂粒・SPブロック少量含む。しまり・粘付なし。



I 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック含む。しまりややなし。粘付なし。

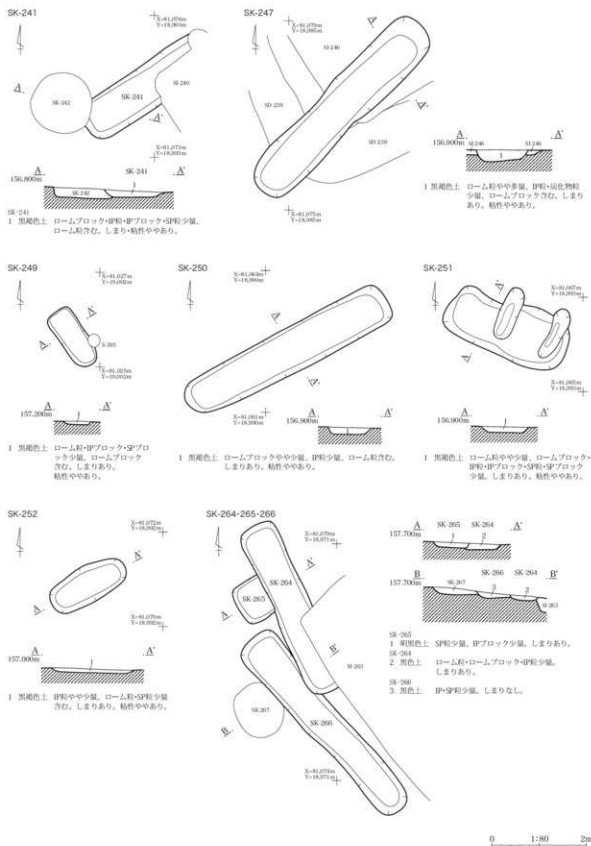


I 黒褐色土 ローム粒・SPブロック・SPブロック少量含む。しまり・粘付ややなし。

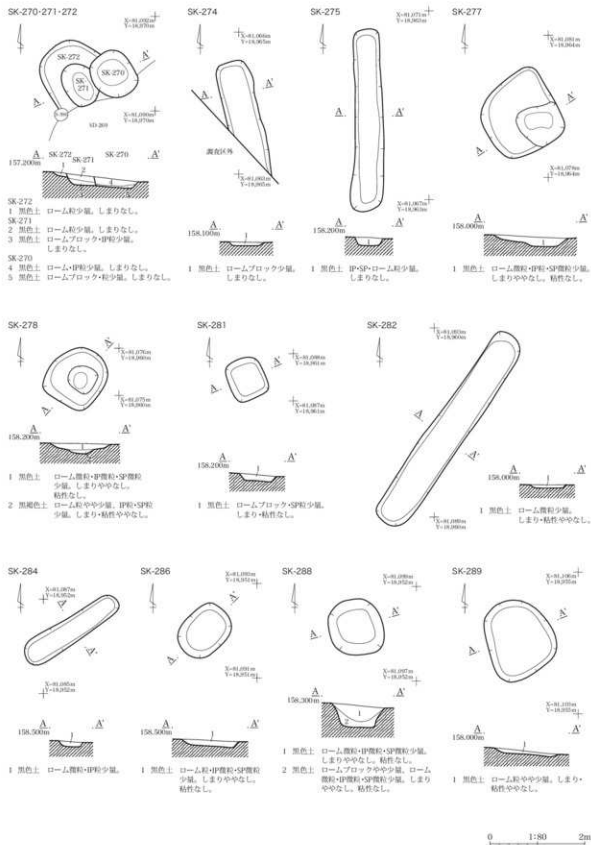


0 1:80 2m

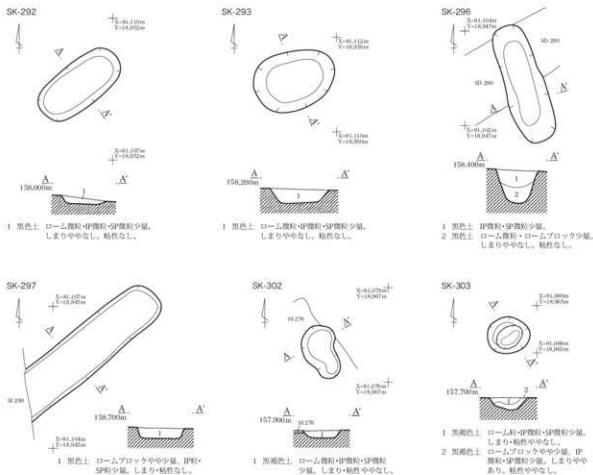
第92図 小銅内I遺跡 中世以降土坑実測図(16)



第93図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図(17)



第94図 小銅内I遺跡 中世以降土実測図(18)



第95図 小鍋内I遺跡 中世以降土坑実測図(19)



第96図 小鍋内I遺跡 SK-296 出土遺物実測図

第43表 小鍋内I遺跡 SK-296出土遺物観察表

No	掘削 図様	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	校正		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	上部周 壁	口径	—	骨片多量、砂粒少 量欠乏。	良好	破片	口縁部	—	外面 垂書(判 読不明)。内面 黒色処理。	埋土	
		経厚	109/96/3 に不規則				体部	ロクロナデ、ヘラミダキ ロクロナデ、ヘラミダキ			
		底高	(3.4)				底部	—			
2	器底周 壁	口径	—	砂粒少量、白色針 状物質・雲母微量。	良好	破片	口縁部	—	粘く強い。 平行タタキ。	埋土	南朝国産か
		経厚	7.5/9.4/2 不規則				体部	ナデ			
		底高	(8.2)				底部	—			

第44-1表 小銅内I遺跡 中世以降土坑一覧表

No.	遺構番号	調査区 (グラフ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
1	SK-001	I	P-17	隅丸長方	0.72	0.42	0.48	N57°E		調査区外へのびている。 オーバーハングしている。	SK-002より且。
2	SK-002	I	P-17	隅丸長方	0.84	0.50	0.08	N58°E		調査区外へのびている。	SK-001より新しい。
3	SK-003	I	P-17	隅丸長方	1.14	0.84	0.08	N22°W			
4	SK-005	I	P-17	隅丸長方	1.80	0.97	0.25	N65°E			
5	SK-006	I	P-17	隅丸長方	1.66	0.98	0.06	N60°E			SK-007より且。
6	SK-007	I	P-17	隅丸長方	2.08	1.12	0.25	N42°W	磨製遺物あり 須恵I		SK-006より新しい。
7	SK-008	I	P-17	隅丸長方	1.82	0.70	0.16	N28°W		調査区外へのびている。北寄りに4 箇所ピット状の掘り込みあり。	S-315・S-316・S-317・S-318との 切り合い不明。
8	SK-009	I	O-17	隅丸長方	3.62	0.56	0.04	N63°E			
9	SK-010	I	P-16-17	隅丸長方	1.80	1.48	0.44	N56°E	磨製遺物あり 土器I	調査区外へのびている。	
10	SK-011	I	O-16-17 P-16-17	隅丸長方	0.24	1.18	0.11	N55°E	磨製遺物あり 須恵I	調査区外へのびている。	
11	SK-012	I	O-17	隅丸長方	4.56	0.64	0.10	N62°E			SD-013より新しい。
12	SK-015	I	O-17	隅丸長方	1.14	0.50	0.08	N55°E		調査区外へのびている。	SD-014より且。
13	SK-017	I	O-16	隅丸長方	3.06	1.64	0.50	N30°W	磨製遺物あり 須恵I 礎石I		SK-018より且。
14	SK-018	I	O-16	隅丸長方	5.88	0.56	0.34	N24°W			SD-016・SK-017より新しい。
15	SK-019	I	O-16-17	隅丸長方	2.74	0.80	0.14	N54°E			SK-020より且。
16	SK-020	I	O-16	隅丸長方	0.87	0.50	0.10	N55°E			SK-019より新しい。
17	SK-021	I	O-16	隅丸長方	2.04	0.60	0.10	N58°E		北寄りと底面中央にピット状の掘り 込みあり。(セクション図にはなし)	S-319・S-308との切り合い不明。
18	SK-022	I	O-16	隅丸長方	1.12	0.68	0.32	N39°W		北西壁際にピット状の掘り込みあり。	S-320との切り合い不明。
19	SK-023	I	O-16	隅丸長方	1.12	1.00	0.34	N47°E		調査区外へのびている。 西寄りにピット状の掘り込みあり。	S-321との切り合い不明。
20	SK-024	I	O-16	隅丸長方	0.96	0.54	0.28	N39°W		東寄りにピット状の掘り込みあり。	S-322との切り合い不明。
21	SK-025	I	O-16	隅丸長方	1.24	0.80	0.28	N33°W		東寄りと西寄りにピット状の掘り込 みあり。	S-323・S-324との切り合い不明。
22	SK-026	I	O-16	隅丸長方	1.02	0.70	0.16	N45°W		南寄りにピット状の掘り込みあり。	S-325との切り合い不明。
23	SK-027	I	O-16	隅丸長方	3.44	1.32	0.34	N49°E		東寄りにピット状の掘り込みあり。 西寄り底面より深さ34cmほどの 掘り込みあり。	SK-028より且。 SK-069・S-320・S-327との切り合 い不明。
24	SK-028	I	O-16	隅丸長方	1.24	1.02	0.38	N49°E	磨製遺物あり 灰釉I		SK-027より新しい。
25	SK-029	I	O-16	隅丸長方	1.90	1.10	0.22	N62°E			
26	SK-030	I	O-16	隅丸長方	1.60	0.98	0.38	N43°E	磨製遺物あり 鉄製品I	底面中央にピット状掘り込みあり。	SK-045より且。 S-330との切り合い不明。
27	SK-031	I	O-16	隅丸長方	1.08	0.90	0.22	N62°E		南寄りにピット状の掘り込みあり。	S-331との切り合い不明。
28	SK-032	I	O-16	隅丸長方	0.80	0.50	0.12	N43°W			
29	SK-033	I	O-16	円	1.40	1.38	0.86	-		底面中央にピット状の掘り込みあり。 ピットとの切り合い不明。	SK-034より新しい。 ピットとの切り合い不明。
30	SK-034	I	O-16	隅丸長方	0.72	1.08	0.36	N44°W		東寄りにさか所と西寄りにピット状 の掘り込みあり。	SK-033より且。 S-332・S-333・S-334との切り合 い不明。
31	SK-035	I	O-16	隅丸長方	0.90	0.90	0.58	-		西寄りに底面より20cm深いピット 状の掘り込みあり。	S-335との切り合い不明。

第44-2表 小鍋内1遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区 (グリッド)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
32	SK-006	1	O-16	円	1.30	1.30	0.82	—		底面中央にピット状の盛り込みあり。	ピットとの切り合い不明。
33	SK-007	1	O-16	隅丸長方	1.84	1.04	0.36	N53°E		東寄りにピット状の盛り込みあり。	ピットとの切り合い不明。
34	SK-008	1	O-16	隅丸長方	1.50	0.90	0.20	N35°W			SK-039より旧。
35	SK-009	1	O-16	隅丸長方	2.56	1.08	0.34	N48°E			SK-038より新しい。 SK-040より旧。
36	SK-040	1	O-16	隅丸長方	1.78	0.66	0.14	N52°E			SK-030・SK-044より新しい。 SK-065との切り合い不明。
37	SK-041	1	O-16	隅丸長方	2.86	1.20	0.40	N56°E			SK-042より旧。 SK-043・SK-044より新しい。
38	SK-042	1	O-16	隅丸長方	1.60	1.26	0.32	N37°W			SK-041・SK-043より新しい。
39	SK-043	1	O-16	(隅丸長方)	0.74	0.64	0.18	N57°E			SK-041・SK-042より旧。
40	SK-044	1	O-16	隅丸長方	0.86	0.58	0.08	N56°E			SK-040・SK-041より旧。 SK-065との切り合い不明。
41	SK-045	1	O-16	(隅丸長方)	1.40	0.10	0.28	N7°E			SK-030より新しい。
42	SK-046	1	O-16	隅丸長方	1.32	0.98	0.18	N53°E		東寄りにピット状の盛り込みあり。	SK-047・SK-001・SK-002より新しい。 S-347との切り合い不明。
43	SK-047	1	O-16	隅丸長方	14.20	0.84	0.26	N49°E		東寄りにピット状の盛り込みあり。	SK-040・SK-048より旧。 S-330との切り合い不明。
44	SK-048	1	O-16	隅丸長方	0.22	1.28	0.40	N53°E		底面中央に3カ所ピット状の盛り込みあり。	SK-047より新しい。 SK-005・SK-041より旧。 S-349・S-341・S-342との切り合い不明。
45	SK-049	1	O-16	隅丸長方	1.86	0.88	0.34	N84°E			SK-060より新しい。
46	SK-050	1	O-16	隅丸長方	0.36	1.30	0.38	N47°E			SK-051・SK-054より新しい。
47	SK-051	1	O-16	隅丸長方	1.52	1.02	0.28	N30°W		西壁間にピット状の盛り込みあり。	SK-050より旧。 SK-052より新しい。 S-356との切り合い不明。
48	SK-052	1	O-15-16	隅丸長方	1.24	0.82	0.14	N30°E		調査区外へのびている。	SK-051より旧。 SK-053より新しい。
49	SK-053	1	O-15-16	隅丸長方	1.10	1.04	1.28	—		西壁間にピット状の盛り込みあり。	SK-052より旧。 ピットとの切り合い不明。
50	SK-054	1	O-16	隅丸長方	1.30	1.00	0.28	N64°E			SK-050より旧。
51	SK-055	1	N-10・ O-16	隅丸長方	4.00	2.40	0.40	N44°W		南寄りに3カ所、北寄りに1カ所ピット状の盛り込みあり。	SK-056・SK-058より旧。 SK-057・SK-059より新しい。 SK-062・SK-055・S-349・S-350・S-351・S-352との切り合い不明。
52	SK-056	1	N-16	隅丸長方	0.88	0.58	0.22	N66°E		東寄りにピット状の盛り込みあり。	SK-055・SK-057より新しい。 S-349との切り合い不明。
53	SK-057	1	N-16	(隅丸長方)	0.98	0.98	—	—			SK-055・SK-056より旧。
54	SK-058	1	N-16	隅丸長方	0.96	0.70	0.10	N27°W			SK-055より新しい。
55	SK-059	1	N-10・ O-16	隅丸長方	0.98	0.10	0.26	N52°E		北寄りにピット状の盛り込みあり。	SK-055より旧。 S-333との切り合い不明。
56	SK-060	1	O-16	隅丸長方	3.84	1.78	0.36	N51°E		西壁間に2カ所、底面中央に1カ所ピット状の盛り込みあり。	SK-049より旧。 SK-048・SK-061より新しい。 S-344・S-345・S-346との切り合い不明。
57	SK-061	1	O-16	隅丸長方	0.20	0.38	0.28	N59°E		西壁間にピット状の盛り込みあり。	SK-060より旧。 SK-048より新しい。 S-343との切り合い不明。
58	SK-062	1	O-16	円	0.70	0.70	0.16	—			
59	SK-063	1	O-16	(隅丸長方)	0.46	0.26	0.16	N19°W		調査区外へのびている。	SK-064より旧。
60	SK-064	1	O-16	(隅丸長方)	1.02	0.88	0.28	N25°W		調査区外へのびている。 東寄りにピット状の盛り込みあり。	SK-063・SK-065より新しい。 ピットとの切り合い不明。
61	SK-065	1	O-16	隅丸長方	1.66	0.80	0.10	N76°E		南寄りにピット状の盛り込みあり。	SK-064・SK-066より旧。 SK-040・SK-044・S-316との切り合い不明。
62	SK-066	1	O-16	隅丸長方	1.02	1.42	0.42	N72°E		調査区外へのびている。	SK-065・SK-067より新しい。

第44-3表 小銅内1遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区(グラブ)	位置	平面形	大きさ(m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
63	SK-067	I	O-16	隅丸長方	1.90	1.68	0.44	N-47°W		調査区外へのびている。 堆積りに3ヶ所ピット状の掘り込みあり。	SK-066より目。 S-337-S-338ピットとの切り合い不明。
64	SK-068	I	O-16	隅丸長方	3.48	0.62	0.14	N-52°W		北寄りにピット状の掘り込みあり。	S-357との切り合い不明。
65	SK-069	I	O-16	隅丸長方	1.90	0.30	0.72	N-51°E		堆積りと西寄りにピット状の掘り込みあり。	SK-027-S-328-S-329との切り合い不明。
66	SK-070	I	N-16	隅丸長方	1.60	0.96	0.18	N-33°W			SK-071との切り合い不明。
67	SK-071	I	N-16	隅丸長方	2.30	0.68	0.12	N-40°W			SK-072-SK-093-SK-094より目。 SK-070との切り合い不明。
68	SK-072	I	N-16	隅丸長方	3.30	0.80	0.26	N-45°E			SK-071より新しい。
69	SK-073	I	N-15-16 O-15-16	隅丸長方	1.46	0.92	-	N-49°E			SK-075より新しい。
70	SK-074	I	N-15-16	隅丸長方	1.90	1.04	-	N-43°E			SK-058-SK-073より目。 SK-081との切り合い不明。
71	SK-075	I	N-16	隅丸長方	0.88	0.52	-	N-41°E			SK-073より目。 SK-074より新しい。
72	SK-076	I	O-15	隅丸長方	1.02	1.02	0.18	N-49°E		調査区外へのびている。	
73	SK-077	I	N-15-16	隅丸長方	1.94	1.23	0.26	N-48°E		調査区外へのびている。	SK-078との切り合い不明。
74	SK-078	I	N-15	隅丸長方	1.56	0.94	0.28	N-49°E			SK-077との切り合い不明。
75	SK-079	I	N-15	隅丸長方	1.74	1.14	0.42	N-39°E		調査区外へのびている。	SK-080との切り合い不明。
76	SK-080	I	N-15	隅丸長方	2.14	1.28	0.50	N-40°E			SK-079との切り合い不明。
77	SK-081	I	N-15-16	隅丸長方	1.84	0.50	0.24	N-44°E			SK-082より目。 SK-074との切り合い不明。
78	SK-082	I	N-15-16	隅丸長方	2.84	0.50	0.28	N-43°E			SK-081-SK-083より新しい。
79	SK-083	I	N-15-16	隅丸長方	2.28	0.63	0.24	N-42°E			SK-082より目。 SK-084より新しい。
80	SK-084	I	N-15-16	隅丸長方	2.40	0.98	0.58	N-40°E			SK-083-SK-085より目。 SK-086-SK-097との切り合い不明。
81	SK-085	I	N-15-16	隅丸長方	0.70	0.60	0.52	N-62°E			SK-084-SK-087より新しい。 SK-086-SK-097-SK-103-SK-104-SK-105との切り合い不明。
82	SK-086	I	N-15	隅丸長方	0.44	0.30	-	N-62°E			SK-084-SK-085-SK-087-SK-097との切り合い不明。
83	SK-087	I	N-15	隅丸長方	1.42	0.72	0.30	N-40°E			SK-085より目。 SK-086との切り合い不明。
84	SK-088	I	N-15	隅丸長方	5.00	0.60	0.34	N-59°E			SK-096より目。
85	SK-089	I	N-15	隅丸長方	1.86	0.92	0.46	N-49°E			SK-090より目。
86	SK-091	I	N-10-16	隅丸長方	0.60	0.60	0.10	-			SK-046より目。 SK-082との切り合い不明。
87	SK-092	I	N-16	隅丸長方	0.96	1.33	0.12	N-36°W			SK-046より目。 SK-055-SK-091-SK-095との切り合い不明。
88	SK-093	I	N-16	隅丸長方	2.22	1.68	0.28	N-35°W			SK-071-SK-094より新しい。
89	SK-094	I	N-16	隅丸長方	5.44	2.48	0.28	N-36°W			SK-093-SK-112より目。 SK-071-SK-109-SK-110より新しい。
90	SK-095	I	O-16	隅丸長方	1.50	1.10	0.24	N-44°W		堆積りに2ヶ所ピット状の掘り込みあり。	SK-055-SK-092-S-354-S-355との切り合い不明。
91	SK-096	I	N-15-16	隅丸長方	7.62	0.60	0.38	N-53°E			SK-088より新しい。 SK-102-SK-103との切り合い不明。
92	SK-097	I	N-15-16	隅丸長方	2.20	0.80	0.18	N-43°E			SK-098より新しい。 SK-084-SK-085-SK-086-SK-099との切り合い不明。
93	SK-098	I	N-16	隅丸長方	1.00	0.80	0.10	N-44°E			SK-097より目。 SK-099との切り合い不明。

第44-4表 小鍋内1遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区 (グラッド)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
94	SK-099	1	N-16	楕円長方形	(1.48)	0.42	—	N46°E			SK-097・SK-098・SK-111との切り合い不明。
95	SK-100	1	N-16	楕円長方形	(1.94)	1.04	0.10	N57°E			SK-109より新しい。
96	SK-101	1	N-13+16	楕円長方形	1.82	0.68	0.02	N56°E			SK-102より新しい。
97	SK-102	1	N-16	楕円長方形	(2.40)	(0.50)	0.06	N54°E			SK-101・SK-103より旧。 SK-096・SK-100との切り合い不明。
98	SK-103	1	N-16	楕円長方形	2.42	0.64	0.22	N59°E			SK-102より新しい。 SK-104より旧。 SK-085・SK-096・SK-102の切欠不明。
99	SK-104	1	N-16	楕円長方形	2.20	(0.54)	0.16	N62°E			SK-103・SK-105より新しい。 SK-104より旧。 SK-106・SK-107との切り合い不明。
100	SK-105	1	N-16	楕円長方形	(1.96)	(0.20)	0.04	N62°E			SK-104より旧。 SK-085・SK-107との切り合い不明。
101	SK-106	1	N-16	楕円長方形	(1.48)	0.54	0.08	N52°E			SK-102・SK-103・SK-104との切り合い不明。
102	SK-107	1	N-16	楕円長方形	(1.40)	(0.44)	0.02	N51°E			SK-104・SK-105との切り合い不明。
103	SK-108	1	N-16	楕円長方形	(1.02)	0.72	0.18	N35°W		南寄りにビット状の盛り込みあり。	SK-109より旧。 SK-110・S-358との切り合い不明。
104	SK-109	1	N-16	楕円長方形	(2.24)	0.80	0.22	N56°E			SK-094より旧。 SK-100・SK-108・SK-110より新しい。
105	SK-110	1	N-16	楕円長方形	(2.24)	1.46	0.10	N43°W			SK-094・SK-109・SK-111より旧。 SK-108との切り合い不明。
106	SK-111	1	N-16	楕円長方形	1.62	1.14	0.38	N47°E			SK-110より新しい。 SK-099との切り合い不明。
107	SK-112	1	N-16	楕円長方形	(1.38)	(1.04)	0.22	N47°E			SK-094より新しい。
108	SK-113	1	N-15	楕円長方形	1.64	0.54	0.14	N33°E			SD-114より新しい。
109	SK-116	1	N-15	楕円長方形	(1.48)	1.30	0.20	N61°E		調査区外へのびている。	SK-117より新しい。
110	SK-117	1	N-15	楕円長方形	(1.18)	(0.40)	0.12	N64°E		調査区外へのびている。 東寄りにビット状の盛り込みあり。	SK-116より旧。 S-359との切り合い不明。
111	SK-118	1	N-15	楕円長方形	1.60	0.68	0.10	N40°W			
112	SK-119	1	N-15	楕円長方形	2.50	0.74	0.34	N60°E			
113	SK-120	1	N-14	円	1.04	0.98	0.38	—			
114	SK-121	1	M-15	楕円長方形	1.50	0.94	0.18	N62°E			
115	SK-122	1	N-14	楕円長方形	1.60	0.70	0.14	N33°W			
116	SK-123	1	M-9+14	楕円長方形	1.82	0.62	0.16	N37°W			
117	SK-124	1	M-14	楕円長方形	1.66	0.58	0.18	N34°W			
118	SK-125	1	M-14	楕円長方形	2.42	0.70	0.14	N61°E			
119	SK-126	1	M-14	楕円長方形	1.06	0.82	0.12	N62°E			
120	SK-127	1	M-14	楕円長方形	1.90	1.76	0.12	N53°E		南壁間にビット状の盛り込みあり。	SK-128より旧。 S-360との切り合い不明。
121	SK-128	1	M-14	楕円長方形	1.60	0.72	0.24	N55°W		東寄りにビット状の盛り込みあり。	SK-127より新しい。 S-361との切り合い不明。
122	SK-129	1	M-14	楕円長方形	1.42	0.88	0.12	N54°E		東寄りと西寄りにビット状の盛り込みあり。	S-362・S-363との切り合い不明。
123	SK-130	1	M-14	楕円長方形	2.10	1.50	0.08	N42°W		北西寄りに3カ所ビット状の盛り込みあり。	S-364・S-365・S-366との切り合い不明。
124	SK-131	1	N-14	楕円長方形	(0.90)	0.68	0.18	N57°E		調査区外へのびている。	SK-132との切り合い不明。

第44-5表 小銅内1遺跡 中世以降土坑一覧表

No.	遺構番号	調査区 (グラブ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
125	SK-132	I	N-14	隅丸長方	1.50	1.00	0.04	N43°W			SK-131との切り合い不明。
126	SK-133	I	M-14	隅丸長方	1.86	0.70	0.12	N41°W			SK-134より新しい。
127	SK-134	I	M-14	隅丸長方	3.00	1.62	0.38	N61°E			SK-133より旧。
128	SK-135	I	N-14	隅丸長方	1.20	0.52	0.10	N64°E			SK-136より旧。
129	SK-136	I	N-14	隅丸長方	4.02	0.98	0.24	N28°W			SK-135より新しい。 SK-138より旧。 SK-139との切り合い不明。
130	SK-137	I	N-14	隅丸長方	1.88	0.82	0.26	N63°E			
131	SK-138	I	M-N-14	隅丸長方	1.34	0.68	0.22	N68°E			SK-136・SK-139・SK-140より新しい。
132	SK-139	I	M-N-14	隅丸長方	2.84	1.06	0.26	N67°E			SK-138より旧。 SK-141より新しい。 SK-136・SK-140との切り合い不明。
133	SK-140	I	M-N-14	隅丸長方	1.78	1.16	0.26	N66°E			SK-138より旧。 SK-139との切り合い不明。
134	SK-141	I	M-14	隅丸長方	1.08	0.62	0.14	N63°E			SK-139より旧。
135	SK-142	I	M-14	隅丸長方	3.20	1.40	0.16	N47°E		調査区外へのびている。	
136	SK-143	I	M-14	隅丸長方	1.68	0.80	0.24	N66°E			SK-144より新しい。
137	SK-144	I	M-14	隅丸長方	0.10	0.78	0.20	N65°E			SK-143・SK-145より旧。
138	SK-145	I	M-14	隅丸長方	0.76	1.10	0.22	N60°E		北寄りに2カ所ビット状の盛り込みあり。	SK-144・SK-165より新しい。 S-367・S-368との切り合い不明。
139	SK-146	I	M-14	隅丸長方	1.70	1.06	0.26	N34°W			
140	SK-147	I	M-14	隅丸長方	2.24	1.76	0.48	N30°W		東壁際に2カ所、西壁際に1カ所ビット状の盛り込みあり。	SK-133より旧。 S-381・S-382・S-383との切り合い不明。
141	SK-148	I	M-14	隅丸長方	0.94	0.80	0.20	N51°E			
142	SK-149	I	M-N-15	隅丸長方	1.58	1.14	0.12	N65°E			SK-150より新しい。
143	SK-150	I	M-15	隅丸長方	1.74	1.28	0.10	N65°E			SK-149より旧。
144	SK-151	I	M-13	隅丸長方	1.00	0.38	0.34	N22°W		調査区外へのびている。	SK-152より新しい。
145	SK-152	I	M-13-14	隅丸長方	0.20	1.30	0.14	N54°E			SK-151・SK-153・SK-156より旧。 SK-154・SK-157との切り合い不明。
146	SK-153	I	M-13	隅丸長方	0.80	0.22	0.36	N22°W		調査区外へのびている。	SK-152より新しい。
147	SK-154	I	M-13-14	隅丸長方	1.70	0.90	0.20	N29°W			SK-157より新しい。 SK-152との切り合い不明。
148	SK-155	I	M-14	隅丸長方	1.52	0.60	0.40	N49°E		東寄りと北寄りにビット状の盛り込みあり。	SK-147より新しい。 2つのビットとの切り合い不明。
149	SK-156	I	M-14	隅丸長方	0.80	0.68	0.18	N36°W			SK-152・SK-157より新しい。
150	SK-157	I	M-14	隅丸長方	1.80	1.18	0.20	N53°E		東寄りと壁面中央にビット状の盛り込みあり。	SK-154・SK-156より旧。 SK-152・S-386・S-387との切り合い不明。
151	SK-158	I	M-13	隅丸長方	0.96	0.60	0.06	N35°W		東寄りにビット状の盛り込みあり。	S-389との切り合い不明。
152	SK-159	I	M-14	隅丸長方	0.22	1.66	0.32	N67°E		北寄りと西寄りにビット状の盛り込みあり。	SK-160・SK-161・SK-164より新しい。 2つのビットとの切り合い不明。
153	SK-160	I	M-14	隅丸長方	4.00	1.30	0.36	N28°W		西寄りにビット状の盛り込みあり。	SK-159・SK-161・SK-162・SK-164より旧。 SK-165・S-372との切り合い不明。
154	SK-161	I	M-14	隅丸長方	4.68	2.02	0.08	N30°W		断面にも西側ビット状の盛り込みあり。	SK-159・SK-162・SK-163・SK-164より旧。 SK-165より新しい。 S-373・S-374・S-375・S-376・S-377・S-378との切り合い不明。
155	SK-162	I	M-14	隅丸長方	0.92	0.52	0.30	N33°W			SK-160・SK-161・SK-164より新しい。

第44-6表 小鍋内I遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区 (グリッド)	位置 (平面形)	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
				長軸	短軸	深さ				
156	SK-163	I	M-14	隅丸長方	2.72	0.94	0.32	N-29°W		SK-161-SK-164より新しい。 S-379との切り合い不明。
157	SK-164	I	M-14	隅丸長方	4.80	1.10	0.32	N-30°W		SK-159-SK-162-SK-163より旧。 SK-160-SK-161より新しい。 S-380との切り合い不明。
158	SK-165	I	M-14	不整	1.00	1.10	0.36	-		SK-162より旧。 SK-160-S-369との切り合い不明。
159	SK-167	I	M-13	隅丸方	1.38	1.36	0.24	-		SK-171-SK-172との切り合い不明。
160	SK-169	I	M-13	隅丸長方	1.42	0.76	0.24	N-61°E		SK-171-SK-173より新しい。
161	SK-170	I	M-13	隅丸長方	2.74	1.08	0.20	N-60°E		SD-166より旧。 SK-173との切り合い不明。
162	SK-171	I	M-13	隅丸長方	3.62	1.28	0.14	N-33°W		SK-169-SK-172より旧。 SK-173より新しい。 SK-167-S-388との切り合い不明。
163	SK-172	I	M-13	隅丸長方	0.360	1.14	0.16	N-48°W		SK-169-SK-171より新しい。 SK-167との切り合い不明。
164	SK-173	I	M-13	隅丸長方	1.08	1.10	-	N-26°E		SK-169-SK-171より旧。 SD-166-SK-170との切り合い不明。
165	SK-174	I	M-13	隅丸長方	3.10	0.90	0.12	N-54°E		SD-166より旧。
166	SK-175	I	M-14	隅丸長方	1.32	0.40	0.06	N-58°E		SK-176より旧。 SK-180との切り合い不明。
167	SK-176	I	M-14	隅丸長方	2.08	1.14	0.20	N-55°E		SK-175-SK-177より新しい。 SK-180-S-390との切り合い不明。
168	SK-177	I	M-13-14	隅丸長方	0.236	1.64	0.08	N-37°W		SK-176より旧。 SK-178-SK-179との切り合い不明。
169	SK-178	I	M-13	隅丸長方	1.08	0.78	0.02	N-63°E		SK-177との切り合い不明。
170	SK-179	I	M-13-14	隅丸長方	0.88	0.52	0.16	N-44°W		SK-177との切り合い不明。
171	SK-180	I	M-14	隅丸長方	1.18	0.88	-	N-59°E		SK-175-SK-176との切り合い不明。
172	SK-181	I	M-13-14	隅丸長方	1.60	1.12	0.28	N-37°W		北西寄りに2カ所ビット状の盛り込みあり。 SK-182より新しい。 S-391-S-392との切り合い不明。
173	SK-182	I	M-13-14	隅丸長方	3.00	1.58	0.32	N-59°E		SK-181より旧。 SK-183より新しい。
174	SK-183	I	M-13-14	隅丸長方	2.00	1.00	0.36	N-43°E		SK-182より旧。
175	SK-184	I	M-13	隅丸長方	1.94	1.10	0.16	N-51°E		SK-185より旧。
176	SK-185	I	M-13	隅丸長方	2.92	1.32	0.22	N-50°E		SK-184より新しい。 SK-186より旧。
177	SK-186	I	M-13	隅丸長方	3.82	0.72	0.14	N-28°W		SK-185-SK-187より新しい。
178	SK-190	I	M-13	隅丸長方	2.74	1.60	0.14	N-39°W		SK-191-SK-192より新しい。
179	SK-191	I	M-13	隅丸長方	2.34	1.36	0.18	N-38°W		SK-190より旧。 SK-192より新しい。
180	SK-192	I	M-13	隅丸長方	1.26	1.14	0.08	N-34°W		SK-190-SK-191より旧。
181	SK-193	I	M-13	隅丸長方	3.70	1.30	0.16	N-37°W		SK-194より旧。
182	SK-194	I	M-13	隅丸長方	1.10	0.64	0.16	N-50°E		SK-193より新しい。 SK-195より旧。
183	SK-195	I	M-13	隅丸長方	1.32	0.96	0.18	N-54°E		SK-194より新しい。
184	SK-196	I	M-13	隅丸長方	2.88	1.30	0.10	N-38°W		
185	SK-197	I	M-13	隅丸長方	4.12	1.22	0.10	N-51°W		
186	SK-198	I	N-15	隅丸長方	1.26	0.48	0.20	N-48°E		

第44-7表 小銅内I遺跡 中世以降土坑一覧表

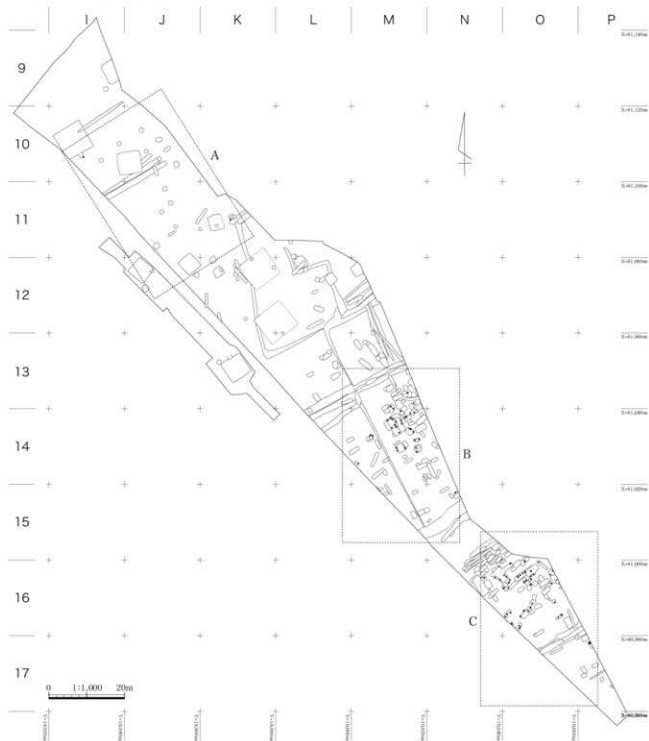
坑 番号	遺跡 番号	調査区 (グラフ)	位置	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
187	SK-199	I	M-15	隅丸長方	1.96	1.30	0.26	N29°W			
188	SK-200	I	M-15	隅丸長方	(1.14)	0.76	0.10	N53°E		調査区外へのびている。	SK-201より新しい。
189	SK-201	I	M-15	隅丸長方	(1.66)	(0.22)	0.12	N39°W		調査区外へのびている。	SK-200より旧。
190	SK-202	I	M-14	隅丸長方	1.42	0.94	0.14	N30°W			SK-203より新しい。
191	SK-203	I	M-14	隅丸長方	3.98	0.92	0.10	N51°E			SK-202より旧。
192	SK-204	I	M-15	隅丸長方	3.06	0.64	0.12	N33°W			
193	SK-205	I	M-15	隅丸長方	(1.54)	0.64	0.20	N62°E		調査区外へのびている。	
194	SK-206	I	M-14	隅丸長方	1.68	0.62	0.42	N56°E		断面が北壁よりオーバーハングしている。	SK-210との切り合い不明。
195	SK-207	I	M-14	隅丸長方	3.94	0.84	0.36	N22°E	礎石遺物あり 古瓦1		
196	SK-208	I	M-14	隅丸長方	2.54	0.80	0.18	N27°W			
197	SK-209	I	L-M-14	隅丸長方	3.00	0.98	0.10	N57°E			
198	SK-210	I	M-14	隅丸長方	(0.72)	(0.36)	—	N56°E		調査区外へのびている。	SK-206との切り合い不明。
199	SK-211	I	M-14	隅丸長方	1.00	0.76	0.48	N35°W		北境りにビット状の崩り込みあり。	SK-212・SK-213より新しい。 S-303との切り合い不明。
200	SK-212	I	M-14	隅丸長方	0.88	0.86	0.28	—			SK-211より旧。 SK-213との切り合い不明。
201	SK-213	I	M-14	隅丸長方	1.68	(0.52)	0.12	N57°E		北境りにビット状の崩り込みあり。	SK-211より旧。 SK-212・S-304との切り合い不明。
202	SK-214	I	L-13	隅丸長方	2.80	1.24	0.08	N53°E			
203	SK-215	I	L-M-14	隅丸長方	2.00	0.96	0.16	N61°E			
204	SK-216	I	L-13	隅丸長方	(1.44)	1.20	0.20	N57°E			SK-217より旧。
205	SK-217	I	L-13	隅丸長方	2.78	1.28	0.28	N55°E			SK-216より新しい。 SK-218より旧。
206	SK-218	I	L-13	隅丸長方	1.30	0.92	0.54	N57°E			SK-217より新しい。
207	SK-219	I	L-13	隅丸長方	1.80	1.04	0.20	N60°E			
208	SK-220	I	L-13	隅丸長方	(1.38)	(1.06)	0.10	N35°E			SK-221より新しい。
209	SK-221	I	L-13	隅丸長方	2.08	1.40	0.42	N2°W			SK-220より旧。
210	SK-222	I	L-14	隅丸長方	1.12	(1.02)	0.70	N40°W		調査区外へのびている。	
211	SK-223	I	M-13	隅丸長方	(1.60)	(0.70)	0.30	N22°W		調査区外へのびている。	SD-187より旧。
212	SK-226	I	M-12・13	楕円	1.18	0.96	0.16	N27°W			SD-189・SD-225との切り合い不明。
213	SK-228	I	M-13	隅丸長方	3.34	0.92	0.22	N59°E			SD-187・SD-188より新しい。
214	SK-229	I	L-13	隅丸長方	2.24	1.34	0.20	N37°W			
215	SK-231	I	L-M-12	隅丸長方	4.50	1.06	0.42	N63°E			SD-230より旧。
216	SK-233	I	L-14	隅丸長方	1.08	1.06	0.32	—			SD-188より旧。
217	SK-236	I	L-M-13	隅丸長方	3.20	0.82	0.08	N67°E			

第44-8表 小鍋内I遺跡 中世以降土坑一覧表

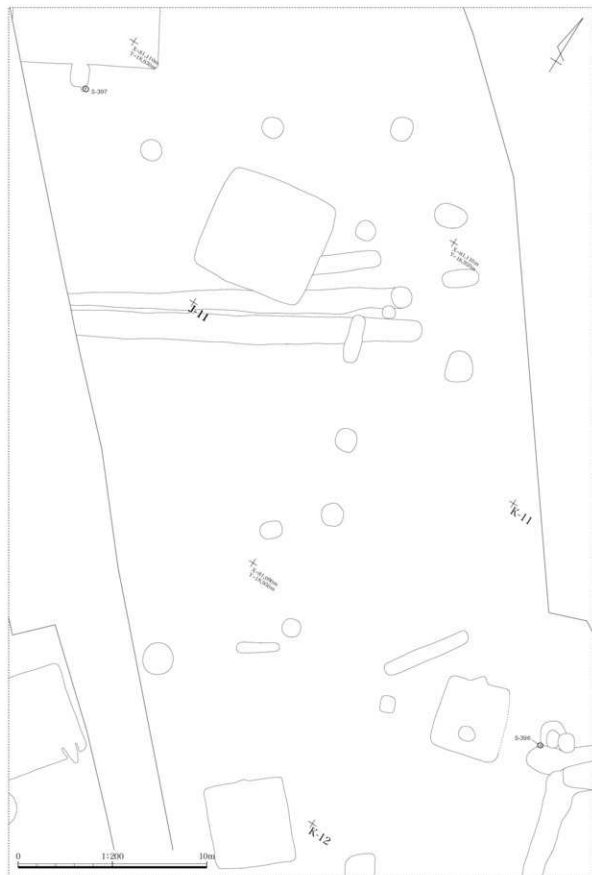
坑 番号	遺構 番号	調査区 (グラフ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
218	SK-237	I	L-M-13	楕円長方形	0.246	0.886	0.04	N63°E			SD-188・SD-235との切り合い不明。
219	SK-241	I	L-12	楕円長方形	0.246	0.90	0.14	N56°E			SI-240・SK-242より新しい。
220	SK-245	I	L-11-12	楕円	0.008	0.580	0.04	N29°W			SK-244より旧。 SI-246より新しい。
221	SK-247	I	L-12	楕円長方形	4.80	0.88	0.26	N41°E			SI-246より新しい。 SD-239より旧。
222	SK-249	I	M-14	楕円長方形	1.36	0.58	0.06	N35°W		西寄りにビット状の盛り込みあり。	S-395との切り合い不明。
223	SK-250	I	L-12	楕円長方形	4.72	0.94	0.14	N62°E			
224	SK-251	I	L-12	楕円長方形	2.64	1.20	0.12	N69°W		北西寄りに2方南ビット状の盛り込みあり。	2つのビットとの切り合い不明。
225	SK-252	I	L-12	楕円長方形	1.74	0.78	0.08	N60°E			
226	SK-264	I	K-12	楕円長方形	3.86	0.80	0.12	N26°W			SI-263・SK-266より新しい。 SK-265より旧。
227	SK-265	I	K-12	楕円長方形	0.90	0.68	0.10	N33°W			SK-264より新しい。
228	SK-266	I	K-12	楕円長方形	4.74	0.80	0.10	N43°W			SK-264より旧。 SK-267より新しい。
229	SK-270	I	K-11	楕円	1.02	0.88	0.16	N35°W			SK-271・SK-272より新しい。 SD-269との切り合い不明。
230	SK-271	I	K-11	楕円	0.94	0.60	0.20	N32°W			SK-270より旧。 SK-272より新しい。 SD-269との切り合い不明。
231	SK-272	I	K-11	楕円長方形	1.146	1.34	0.08	N38°W		東寄りにビット状の盛り込みあり。	SK-270・SK-271より旧。 SD-269・S-396との切り合い不明。
232	SK-274	I	K-12	楕円長方形	2.00	0.70	0.08	N14°W		調査区外へのびている。	
233	SK-275	I	K-12	楕円長方形	3.84	0.60	0.18	N0°E			
234	SK-277	I	K-11-12	楕円	1.64	1.60	0.18	-		西寄りにビット状の盛り込みあり。	ビットとの切り合い不明。
235	SK-278	I	J-12	楕円長方形	1.28	1.18	0.20	N41°E		底面中央にビット状の盛り込みあり。	ビットとの切り合い不明。
236	SK-281	I	J-K-11	楕円長方形	0.90	0.78	0.12	N23°W			
237	SK-282	I	J-K-11	楕円長方形	4.76	0.74	0.06	N35°E			
238	SK-284	I	J-11	楕円長方形	2.28	0.52	0.10	N57°E			
239	SK-286	I	J-11	楕円長方形	1.18	0.90	0.12	N44°E			
240	SK-288	I	J-11	楕円	1.18	1.16	0.48	-			
241	SK-289	I	J-10	楕円長方形	1.60	1.40	0.08	N24°W			
242	SK-292	I	J-10	楕円長方形	1.96	0.94	0.16	N53°E			
243	SK-293	I	J-10	楕円長方形	1.74	1.24	0.30	N70°E			
244	SK-296	I	J-10	楕円長方形	2.56	0.88	0.08	N18°W	破砕遺物あり 調査区外	須藤1	SD-290との切り合い不明。
245	SK-297	I	J-10	楕円長方形	0.508	0.98	0.20	N51°E			SI-299との切り合い不明。
246	SK-302	I	K-12	楕円長方形	1.14	0.64	0.14	N34°W			SI-276より新しい。
247	SK-303	I	K-11	楕円	0.90	0.80	0.26	N75°E		底面中央にビット状の盛り込みあり。	ビットとの切り合い不明。
248	SK-309	I	M-13	楕円長方形	1.028	0.62	0.26	N22°W		調査区外へのびている。	SD-188・SD-189より旧。

3. ビット (第97～100図、第45表)

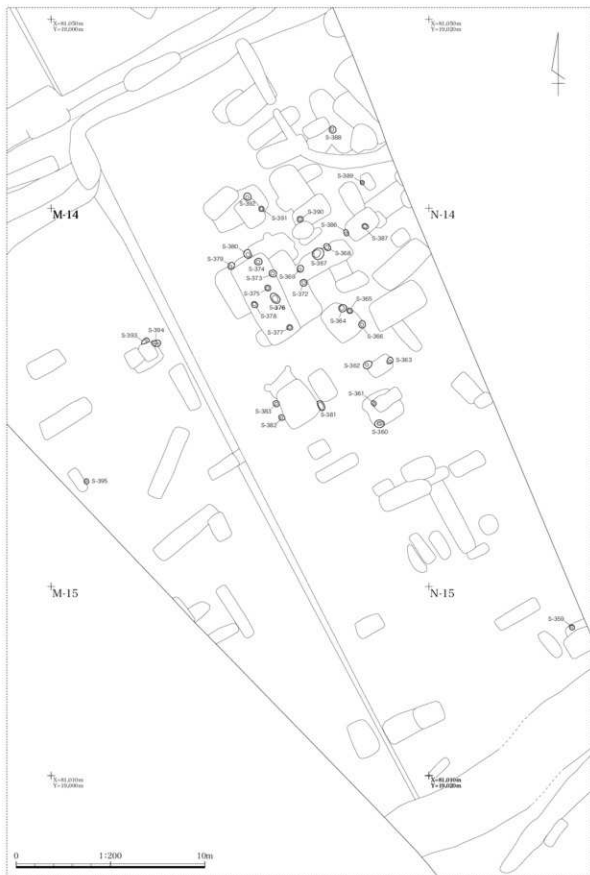
小鍋内I遺跡の調査区では、ビット80基が、大きく3つのエリアに分布する状況が看取された(第96図)。年代の指標となる遺物の出土はなく、近現代のビットも含まれると考えられるが、BとCのエリアでは土坑群との重複も見られ、中世まで遡るものも存在すると思われる。以下、第45表にビットの大きさ、形状、所見等をまとめ、記述する。



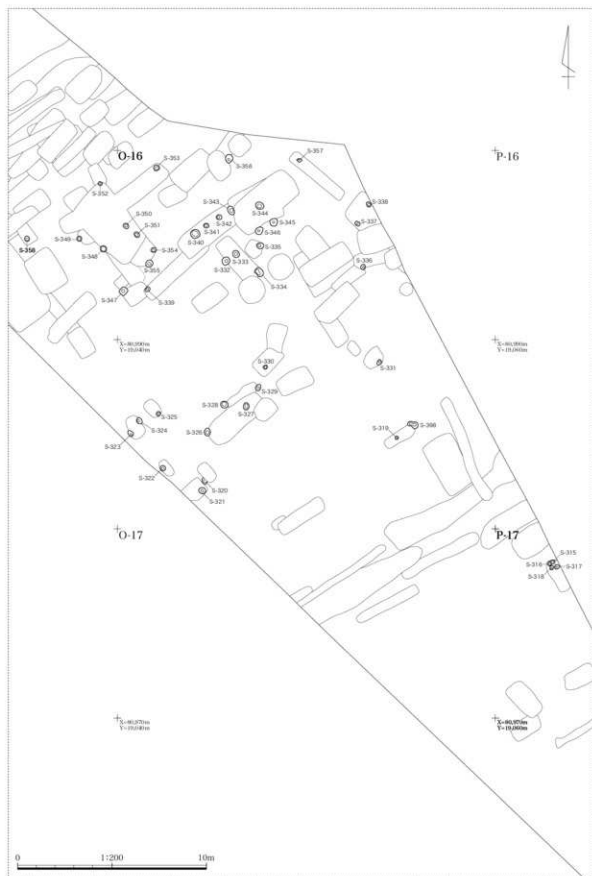
第97図 小鍋内I遺跡 ビット分布図



第98図 小鍋内I遺跡 ビット分布図(A)



第99図 小綱内I遺跡 ピット分布図 (B)



第100図 小網内 | 遺跡 ビット分布図 (C)

第45-1表 小銅内I遺跡 ビットー一覧表

No.	遺構 番号	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	備考
				長軸	短軸	深さ		
1	S-315	P-47	円	0.26	0.20	0.30		SK-008+S-316を切っている。
2	S-316	P-47	円	0.26	0.20	0.15		SK-008+S-315を切っている。
3	S-317	P-47	円	0.26	0.24	0.15		SK-008を切っている。
4	S-318	P-47	円	0.22	0.20	0.20		SK-008を切っている。
5	S-319	O-16	円	0.18	0.18	0.20		SK-021を切っている。
6	S-320	O-16	(竪長方形)	0.32	0.22	0.25	N48°W	SK-022に切られる。
7	S-321	O-16	円	0.38	0.34	1.05		SK-023を切っている。
8	S-322	O-16	円	0.30	0.28	0.36		SK-024との切り合い不明。
9	S-323	O-16	楕円	0.34	0.24	0.55	N51°W	SK-025を切っている。
10	S-324	O-16	円	0.34	0.28	0.30		SK-025を切っている。
11	S-325	O-16	円	0.24	0.22	0.30		SK-026を切っている。
12	S-326	O-16	円	0.42	0.34	0.80		SK-027との切り合い不明。
13	S-327	O-16	円	0.38	0.30	0.54		SK-027に切られる。
14	S-328	O-16	円	0.38	0.36	0.70		SK-069を切っている。
15	S-329	O-16	円	0.36	0.28	0.40		SK-069を切っている。
16	S-330	O-16	円	0.22	0.22	0.10		SK-030に切られる。
17	S-331	O-16	円	0.30	0.22	0.40		SK-031を切っている。
18	S-332	O-16	円	0.42	0.38	0.75		SK-034との切り合い不明。
19	S-333	O-16	円	0.38	0.34	0.47		SK-034に切られる。
20	S-334	O-16	竪長方形	0.48	0.36	0.55	N47°W	SK-034との切り合い不明。
21	S-335	O-16	楕円	0.40	0.30	0.60	N84°E	SK-035を切っている。
22	S-336	O-16	円	0.30	0.24	0.35		SK-065を切っている。
23	S-337	O-16	円	0.28	0.22	0.20		SK-067との切り合い不明。
24	S-338	O-16	円	0.30	0.22	0.20		SK-067に切られる。
25	S-339	O-16	円	0.28	0.22	0.07		SK-047との切り合い不明。
26	S-340	O-16	円	0.48	0.48	0.20		SK-048に切られる。
27	S-341	O-16	円	0.26	0.26	0.15		SK-048に切られる。
28	S-342	O-16	円	0.28	0.28	0.05		SK-048に切られる。
29	S-343	O-16	楕円	0.50	0.32	0.20	N20°W	SK-061に切られる。
30	S-344	O-16	円	0.42	0.40	0.12		SK-060に切られる。
31	S-345	O-16	円	0.40	0.40	0.60		SK-060との切り合い不明。
32	S-346	O-16	円	0.44	0.38	0.65		SK-060を切っている。
33	S-347	O-16	竪長方形	0.40	0.36	0.80		SK-046を切っている。
34	S-348	N-O-16	円	0.36	0.32	0.70		SK-0534に切られる。

第45-2表 小鍋内I遺跡 ビット一覧表

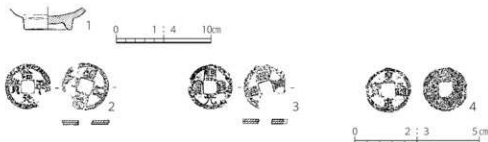
No.	遺構番号	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	備考
				長軸	短軸	深さ		
35	S-349	N-16	円	0.28	0.26	0.15		SK-056との切り合い不明。
36	S-350	N-0-16	円	0.32	0.26	0.15		SK-055に切られる。
37	S-351	N-0-16	円	0.32	0.26	0.25		SK-055に切られる。
38	S-352	N-0-16	円	0.24	0.20	0.28		SK-055との切り合い不明。
39	S-353	N-0-16	円	0.30	0.30	0.30		SK-059を切っている。
40	S-354	O-16	円	0.30	0.26	0.30		SK-095に切られる。
41	S-355	O-16	円	0.40	0.36	0.55		SK-095を切っている。
42	S-356	O-16	隅丸方	0.40	0.38	0.55		SK-051との切り合い不明。
43	S-357	O-16	隅丸方	0.20	0.20	0.42		SK-068を切っている。
44	S-358	N-16	円	0.28	0.26	0.15		SK-108を切っている。
45	S-359	N-15	円	0.30	0.26	0.26		SK-117を切っている。
46	S-360	M-14	円	0.50	0.42	0.50		SK-127との切り合い不明。
47	S-361	M-14	円	0.30	0.24	0.28		SK-128との切り合い不明。
48	S-362	M-14	楕円	0.50	0.36	0.40	N60°E	SK-129を切っている。
49	S-363	M-14	円	0.38	0.30	0.52		SK-129を切っている。
50	S-364	M-14	円	0.40	0.38	0.52		SK-130を切っている。
51	S-365	M-14	円	0.30	0.28	0.25		SK-130を切っている。
52	S-366	M-14	円	0.40	0.36	0.50		SK-130との切り合い不明。
53	S-367	M-14	円	0.62	0.56	0.63		SK-145に切られる。
54	S-368	M-14	楕円	0.42	0.32	0.40	N35°W	SK-145を切っている。
55	S-369	M-14	円	0.36	0.36	0.22		SK-165を切っている。
56	S-372	M-14	円	0.38	0.36	0.40		SK-160との切り合い不明。
57	S-373	M-14	円	0.40	0.38	0.18		SK-161を切っている。
58	S-374	M-14	円	0.40	0.36	0.23		SK-161を切っている。
59	S-375	M-14	円	0.32	0.30	0.28		SK-161を切っている。
60	S-376	M-14	楕円	0.60	0.42	0.30	N30°W	SK-161に切られる。
61	S-377	M-14	円	0.30	0.30	0.33		SK-161に切られる。
62	S-378	M-14	円	0.34	0.30	0.23		SK-161を切っている。
63	S-379	M-14	円	0.38	0.32	0.50		SK-163との切り合い不明。
64	S-380	M-14	円	0.44	0.38	0.40		SK-164との切り合い不明。
65	S-381	M-14	楕円	0.56	0.44	0.40	N29°W	SK-147に切られる。
66	S-382	M-14	円	0.30	0.30	0.15		SK-147との切り合い不明。
67	S-383	M-14	円	0.34	0.30	0.35		SK-147との切り合い不明。
68	S-386	M-14	楕円	0.34	0.24	0.30	N22°W	SK-157との切り合い不明。

第45-3表 小鍋内1遺跡 ビット一覧表

No.	遺構番号	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	備考
				長軸	短軸	深さ		
69	S-387	M-14	円	0.34	0.30	0.11		SK-157に切られる。
70	S-388	M-13	円	0.38	0.36	0.25		SK-171との切り合い不明。
71	S-389	M-13	円	0.22	0.22	0.20		SK-158との切り合い不明。
72	S-390	M-14	円	0.32	0.30	0.40		SK-176に切られる。
73	S-391	M-13+14	円	0.28	0.28	0.08		SK-181との切り合い不明。
74	S-392	M-13+14	円	0.40	0.40	0.30		SK-184に切られる。
75	S-393	M-14	楕円	0.40	0.26	0.30	N-51°E	SK-211との切り合い不明。
76	S-394	M-14	楕円	0.50	0.34	0.55	N-89°W	SK-213を切っている。
77	S-395	M-14	円	0.28	0.28	0.42		SK-249を切っている。
78	S-396	K-11	円	0.28	0.26	0.22		SK-272を切っている。
79	S-397	I-10	円	0.32	0.30	0.20		SK-301を取り出しビットを切る。
80	S-398	O-16	楕円	0.56	0.22	0.24	N-79°W	SK-021との切り合い不明。

4. 中世以降の遺構外出土遺物 (第101図、第46・47表、図版二一)

土坑群の周囲で、遺構確認面において採取された遺物である。1は鉄軸の茶碗の体部下端から高台部分にかけての破片である。体部下端の外面に稜が見られ、高台内部には巾兎がみられるので、天目茶碗であろう。内面と高台際まで釉を施す。胎土の耐火性は高く、焼締まりは弱い。美濃産と思われる。2の銅銭は2枚が裏面で固着している。表は「治平元宝」、裏面は「皇宗通宝」である。3の銅銭は腐食が進んでいるが、やはり2枚が裏面で固着している。表は「開元通宝」、裏面は「皇宗通宝」である。3の銅銭は「皇宗通宝」である。



第101図 小鍋内1遺跡 遺構外出土の中世以降遺物実測図

第46-1表 小鍋内1遺跡 遺構外出土の中世以降遺物観察表(1)

No.	種類 品名	寸法 規格 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	陶磁器 碗	口径 4.9 総高 (2.4)	10YR7/4 に濃い黄褐色 む。	白色細砂和骨質含有。	良好	底部のみ	口径部 — 体部 — 底部	— — 開山高行	天目茶碗か、近世 遺物か。表裏。 高台は脱落せず。	表採	遺跡・美濃産 か。	

第46-2表 小鍋内1遺跡 遺構外出土の中世以降遺物観察表(2)

No.	区分	種類	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
2	銅製品	銭	2.54	0.27	(5.15)	一部欠損	表採	治平元宝・皇宗通宝各1枚が裏で同径。
3	銅製品	銭	2.46	0.25	(3.17)	一部欠損	表採	開元通宝・皇宗通宝各1枚が裏で同径。
4	銅製品	銭	2.40	0.16	2.25	完存	表採	皇宗通宝。

第IV章 小鍋内II遺跡

第1節 遺跡の概要

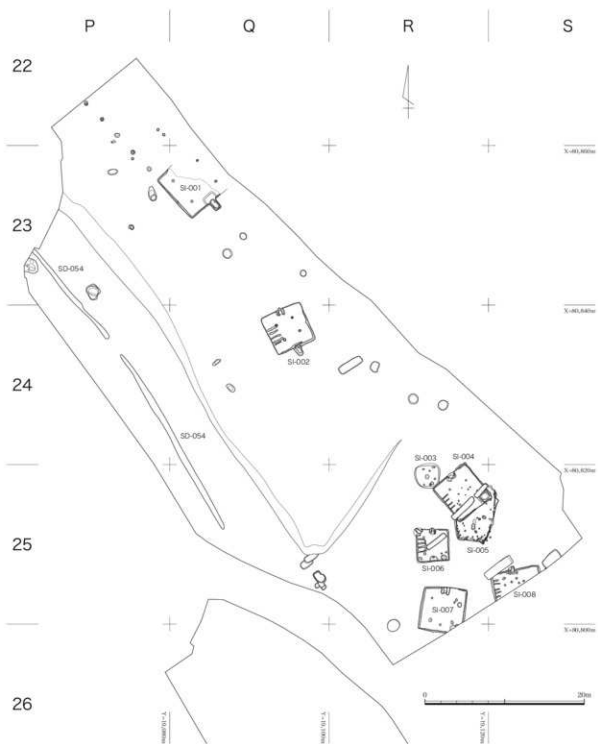
小鍋内II遺跡は、小鍋内I遺跡の南側に、範囲を接して存在する。小鍋内II遺跡は町史編纂時の踏査において新しく確認された遺跡で、古墳時代の遺物が多く散布することから該期の集落跡と考えられてきた。今回の、平成21年度調査では、段丘上面に位置する北区(2,300㎡)、西区(1,700㎡)、東区(2,400㎡)の3区、合計6400㎡の発掘調査を実施した。調査範囲では、開墾時の造成によって遺構の保存状態にばらつきが出ている。則ち、耕地の平坦面を確保するために斜面の高い部分を掘削して斜面下方に盛り土しているため、段丘の下方では遺構が削平され保存が悪く、斜面側は盛り土によって遺構が保護され、保存状態が良好であった。

調査範囲からは、若干の旧石器と、縄文時代前期の竪穴建物跡2軒、前期から晩期までの土器破片・石鍬石器・石製品などが出土し、弥生時代前期の土器破片も採取された。続く古墳時代では、中期から後期・終末期にかけての竪穴建物跡19軒、土坑10基が確認され、奈良・平安時代の遺構としては柵列2条、掘立柱建物跡9軒、溝跡2条、竪穴建物跡7軒、土坑4基、中世以降では井戸跡2基、土坑205基、ピット451基などが発見された。

縄文時代では、北区の南部において、大小2軒の前期黒浜式期の竪穴建物跡が近接して発見され、土器を中心に遺物が比較的多く出土した。該期の集落跡の一部となる可能性がある。周囲でも早期～晩期にわたる時期



第102図 小鍋内II遺跡 調査区全体図



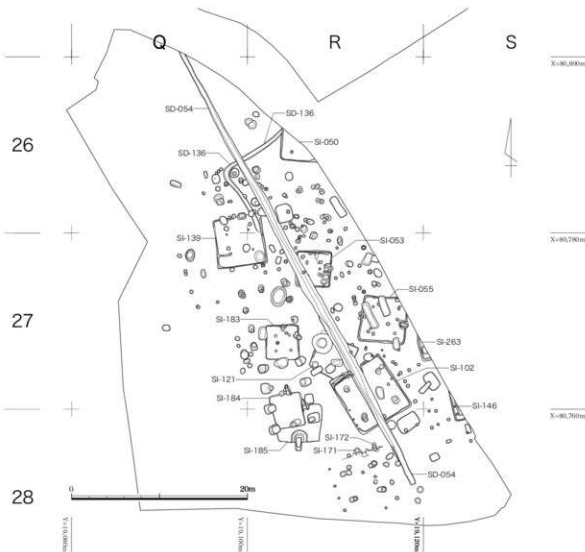
第103図 小網内II遺跡 調査区(北区)遺構分布図

の縄文土器破片や石器・石製品が採取された。

弥生土器には、当地域では確認例の少ない前期のものが一定含まれていることも判明した。

古墳時代では、後期から終末期にかけての竪穴建物跡が19軒を数え、北区南部から西区東側にかけて集中する様相がみられる。継続的な集落跡の一部と考えられる。また、後期にかけて、竪穴建物跡からは比較的多くの赤彩された土師器等が出土した。

奈良・平安時代の掘立柱建物跡は、西区のほぼ中央に2×2間～2×3間規模の5軒が近接して存在していることが判明した。棟はほぼ南北方向で、東西方向のものも含まれる。2×3間規模の掘立柱建物には総柱構造のものも見られる。方形の柱穴掘形を有するものと、円形の柱穴のみのもものが存在する。また柵列は、掘立柱建物群の西側に1列、それから離れた北区北端に1列確認された。竪穴建物は、古墳時代のものに比べると概して小型で、主柱穴の存在しないものも多い。分布範囲は、古墳時代の遺構分布域とほぼ重複し、西区に多く集まる。小鍋内Ⅱ遺跡の調査では、北区で古墳時代～古代の遺構分布が希薄になることが判明し、小鍋内Ⅰ遺跡との間で該期の集落が途切れることも考えられる。また、掘立柱建物跡が集中する箇所は、南東約1.9kmに位置する森後遺跡（第1図）との関連も想起させる。



第104図 小鍋内Ⅱ遺跡 調査区(西区)遺構分布図



第105図 小瀬内Ⅱ遺跡 調査区(東区)遺構分布図

中世以降の遺構としては、東区において方形や楕円形の土坑群が確認された。大小の長方形平面の土坑が、主軸を平行あるいは直交する向きに密集し、激しく切り合っている。小瀬内Ⅰ遺跡では土坑群を区画する溝跡や道路遺構も確認されたが、小瀬内Ⅱ遺跡の今回の調査範囲においては、このような遺構は確認できなかった。遺跡全体としてはこのような中世遺構群の範囲はさらに広がるものと考えられる。

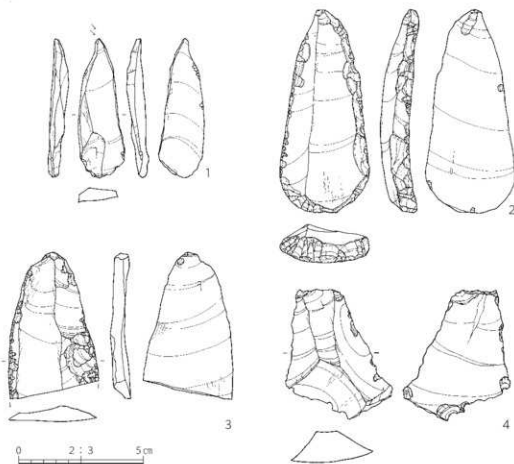
この他、西区、東区を中心にピットが多数存在することが確認された。時代・時期が明確にできないものも少なくなかったが、多くは近世以降と推測される。中には柱痕を残すものもみられ、埋土の状態から判断しても、土坑群などの他遺構との関連を考慮すべきピットも存在する。

第2節 旧石器時代

旧石器時代に関しては、調査区内では遺構は確認されず、西区西端のローム削平面で遺物が採取された。

1. 旧石器時代の遺物（第106図、第47表、図版四二）

1は圭質頁岩の縦長剥片を素材とし、剥片端部に極状剥離を2回に渡って施している。2は圭質頁岩の縦長剥片端部に急斜度調整がみられる、搔器である。両側縁にも刃部が作出される。3は圭質頁岩の縦長剥片を素材とした削器で、両側縁に刃部が作出される。剥片の途中で、裏側からの力により折れている。4は端部に向かって広がる縦長剥片である。表面の剥離は裏面と同じものと、90°異なるものがある。石材は高原山麓に産出する圭質流紋岩である。



第106図 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の旧石器時代遺物実測図

第47表 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の旧石器時代遺物観察表

No.	出土位置	区分	種類	石材	特徴	計測値			
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
1	西区北探	石製品	搔器	圭質頁岩	剥片端部に極状剥離を2回。	5.54	1.72	0.52	4.74
2	表探	石製品	搔器	圭質頁岩	縦長剥片端部に急斜度調整。	8.05	3.58	0.91	32.14
3	西区北探	石製品	削器	圭質頁岩	1/2折前。縦長剥片を素材。両側縁に刃部。	5.41	3.62	0.61	12.16
4	SD-054埋土	石製品	剥片	圭質流紋岩	縦長剥片使用。	5.54	3.61	1.12	17.93

第3節 縄文時代の遺構と遺物

小鍋内II遺跡では、北区において縄文時代前期の竪穴建物跡2軒が発見され、調査区全域で前期から晩期までの土器破片および石器・石製品が表面採取された。

1. 竪穴建物跡

SI-003 (第107～109図、第48表、図版二四・四二)

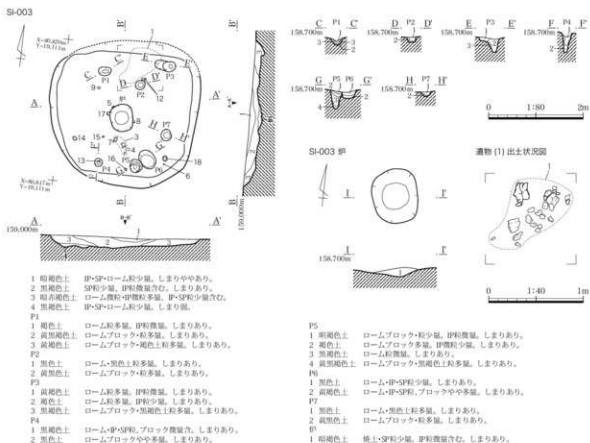
【概要】北区の南部で確認された竪穴建物跡である。R-24・25グリッドに跨る。江川に臨む段丘縁辺の南東向き緩斜面に立地する。5m南東には、縄文時代前期のSI-005が存在する。当遺構は、南東の一部を古墳時代のSI-004に切られる。遺構上面はかなり削平を受けている。西壁の方位は、N-12.5°-Wである。

【位置】確認面標高は北西側コーナー部分の上端で158.690m、北東コーナーで158.500m、南東コーナーで158.820m、南西コーナーで158.820mである。

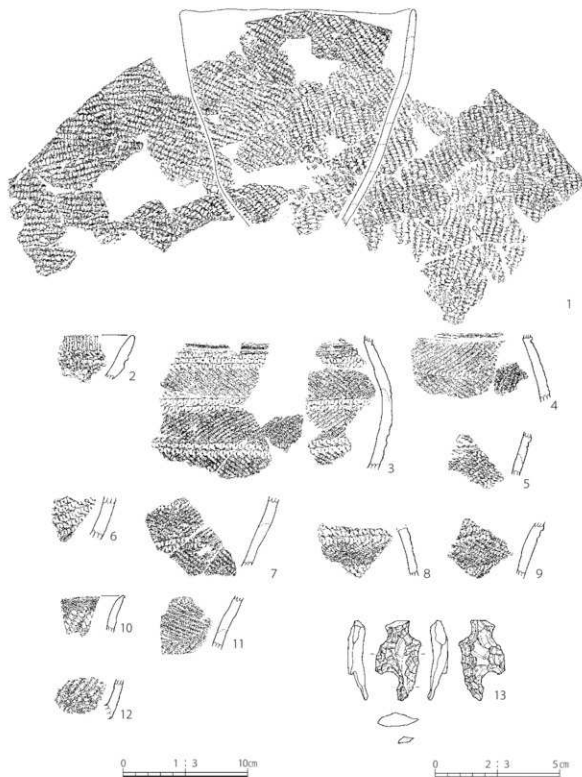
【規模】東西軸3.11m、南北軸3.14mで、平面形は各コーナーが曲線的となる隅丸方形である。床面の標高は、西側コーナー158.525m、東側コーナー158.547m、南側コーナー158.610m、中央158.540mである。北側に向かってわずかに傾斜し、若干凹面を呈する。床面面積は7.8㎡である。

【埋土】「レンズ状堆積」が認められ、自然堆積(1～4層)と考えられる。各層はローム粒子を中心に、IP・SP粒子を含み、炭化物や焼土粒子の混入は顕著でない。

【床面】床面は、ハードローム層を削平して、直接床面とする。全体的に踏みしめ等によって硬く締まり、凹凸がやや激しい。入口は特定できない。



第107図 小鍋内II遺跡 SI-003 実測図



第108図 小銅内Ⅱ遺跡 SI-003 出土遺物実測図(1)

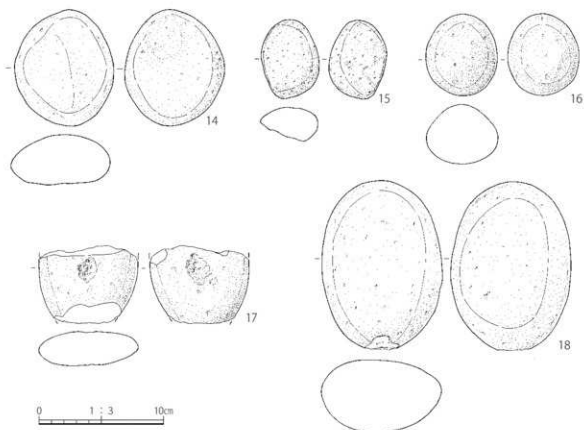
第48-1表 小銅内II遺跡 SI-003出土遺物観察表(1)

No	出土位置	時期	部種	部位	壁厚 (mm)	色調			状況	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
1	床面直上	前期	深鉢	口縁部- 胴下部	0.7	5YR6/6 橙	5Y3/1 オリーブ黒	5YR4/4 にぶい赤褐	良	白色微粉多量、白色細粒 少量、スサ少量含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、単節縄文、 0段2条。
2	埋土	前期	深鉢	口縁部	1.0	5YR17/1 黒	10YR4/1 褐灰	10YR4/2 灰黒濁	良	白色微粉多量、白色・透明 細粒少量含む。	羽状縄文系土器、有文の土器、口縁部に縦位の 口縁線、短沈線。
3	床面直上	前期	深鉢	胴部	1.0	10YR3/1 黒濁	2.5Y3/1 黒濁	5YR5/4 にぶい赤褐	良	白色微粉多量、白色・透明 細粒少量、スサ少量含む。	羽状縄文系土器、有文の土器、胴部に横位の 半截竹管文を巡らし、ループ文重層。
4	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.9	5YR4/3 にぶい赤褐	2.5Y2/1 黒	7.5YR4/2 灰濁	良	白色微粉多量、白色・透明 細粒少量、スサ少量含む。	羽状縄文系土器、有文の土器、胴部に横位の 半截竹管文、ループ文重層。
5	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.8	5YR4/2 灰濁	5Y2/1 黒	7.5YR6/4 にぶい橙	良	白色・透明細粒少量、白色 明粒微量、スサ少量含む。	羽状縄文系土器、有文の土器、縄文地に顔立 文。
6	床面直上	前期	深鉢	胴部	1.1	7.5YR5/4 にぶい赤褐	5Y2/1 黒	5YR5/4 にぶい赤褐	良	白色細粒少量、スサ少 量含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、ループ文、 0段2条。
7	床面直上	前期	深鉢	胴部	1.0	10YR6/6 明灰濁	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/4 にぶい赤	良	白色細粒少量、白色粗粒 微量、スサ少量含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、ループ文、 0段多条。
8	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR4/2 灰濁	5Y4/1 灰	7.5YR6/6 橙	良	白色微粉多量、白色細粒 少量、スサ少量含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、ループ文、 0段2条。
9	床面直上	前期	深鉢	胴部	1.0	10YR3/2 黒濁	10YR3/1 黒濁	7.5YR4/3 黒	良	白色微粉少量、白色・赤褐 色細粒微量、スサ少量 含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、ループ文、 0段2条。
10	埋土	前期	深鉢	口縁部	0.8	10YR4/3 にぶい赤褐	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/6 赤濁	良	白色微粉多量、スサ少 量含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、単節縄文、 0段2条。
11	埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR3/2 黒濁	5Y2/1 黒	7.5YR5/6 赤濁	良	白色微粉多量、白色透明 細粒少量、スサ少量含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、単節縄文、 0段2条。
12	床面直上	前期	深鉢	胴部- 底部	0.9	10YR5/3 にぶい赤褐	5Y2/1 黒	10YR4/2 灰濁濁	不良	白色・灰色微粉多量、スサ 少量含む。	羽状縄文系土器、地文のみの土器、無節縄文、

【柱穴】床面で7基のピット(P1~7)確認されたが、主柱穴と考えられる比較的深いものは、P3~5の3基で、位置的にはP1も主柱穴の可能性が。これらは床面北側の、平面がやや開いた部分の各コーナーに2基、南側の、輪郭がやや狭まる部分に近接して2基が配置されていると考えられる。P1は直径19~26cm、深さ15cm、P2は直径20cm、深さ11cm、P3は直径21~45cm、深さ30cm、P4は直径18cm、深さ42cmである。P4では埋土中に柱痕が確認できる。南東側では複数の柱穴が近接するため、立て替えも考えられる。

【缸】がは、床面のほぼ中央で確認された。平面は南北長軸の楕円形で、床面を皿状に浅く掘り窪めた形状である。長軸59cm、短軸48cm、床面からの深さ9cmである。埋土に焼土粒子を含み底面は被熱し一部焼土化する。

【出土遺物】出土遺物は、土器12点、石器1点、石製品5点である。1はほぼ全形の判明した深鉢で、4単位の緩やかな波状口縁を持つ。単節縄文による地文のみを施す。2は深鉢口縁部破片で、羽状縄文系の有文土器である。口縁部に縦位の短沈線を施す。3は深鉢の胴部破片で、羽状縄文系の有文土器である。頸部に横位の半截竹管文を巡らし、地文に重層するループ文を施す。4も深鉢の胴部破片で、羽状縄文系の有文土器である。頸部に横位の半截竹管文を巡らし、地文に重層するループ文を施す。5は深鉢胴部破片で、羽状縄文系の有文土器である。縄文地に鋸歯文を施す。6は深鉢胴部破片で、羽状縄文系の地文のみを持つ土器である。0段多条のループ文を施す。7も深鉢胴部破片で、羽状縄文系の地文のみを持ち、0段多条のループ文を施す。8は深鉢胴部破片で、羽状縄文系の地文のみを持ち、0段2条のループ文を施す。9も深鉢胴部破片で、0段2条のループ文による羽状縄文系の地文のみを持つ。10は深鉢口縁部の破片で、0段2条の単節縄文による羽状縄文系の地文のみを持つ。11は深鉢胴部破片で、羽状縄文系の地文のみを持ち、0段2条の単節縄文を



第109図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-003 出土遺物実測図(2)

第48-2表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-003出土遺物観察表(2)

No.	出土位置	形状	種別	石材	特徴	計測値			
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
13	床面直上	石製品	(石匙)	黒曜岩	先端が二段に分かれる。異形石器の一種か。	3.71	2.40	0.71	3.94
14	床面直上	石製品	磨石	安山岩	裏面に研磨痕が顕著。	9.08	7.80	4.03	389.08
15	床面直上	石製品	磨石	安山岩	側縁部の一部が薄い。	6.24	4.42	2.50	70.89
16	床面直上	石製品	磨石	安山岩	裏面の磨滅。	6.43	5.00	4.80	237.01
17	床面直上	石製品	磨石	安山岩	磨滅が顕著。	7.85	5.81	2.74	185.23
18	床面直上	石製品	磨石	安山岩	側縁の一部が薄い。下端に敲打痕。	12.96	9.32	5.81	1074.45

施す。12は深鉢の胴部から底部にかけての破片で、無筋縄文による地文のみの土器である。

13は黒曜石製の異形石器である。

14～18は磨石である。裏面に研磨痕が顕著だが、その他の面は原石の表面を留める。15は全体に研磨痕がみられ、側縁部の一部が薄くなっている。16は全体に研磨痕がみられるが、比較的裏面の磨滅が進む。17は約3/5を欠損。過度の研磨により扁平化し、表裏面の中央に複数の凹がある。18は全体に研磨痕がみられ、磨滅により側縁の一部は薄くなる。下端に敲打痕が認められる。

【時期】出土遺物から、関山式末から黒浜式古段階の住居跡と考えられる。

SI-005 (第110~112図、第49表、図版二四・四三)

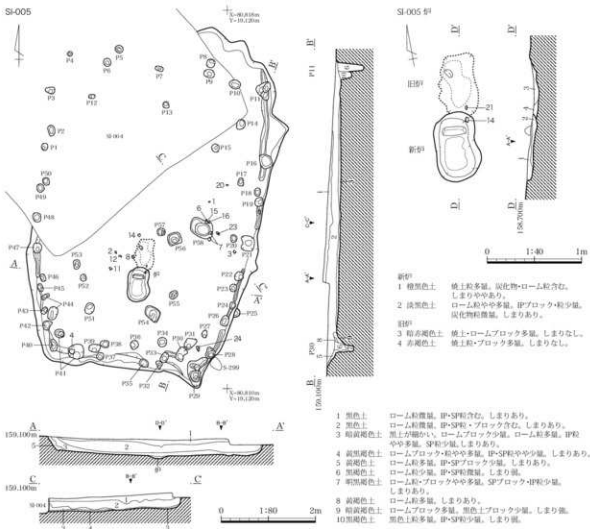
【概要】北区南端で確認された。R-25、S-25グリッドに跨る。5 m北西には、縄文時代前期のSI-003が存在する。当遺構は、北西の一部を古墳時代のSI-004に、北西はSK-010・015に切られ、遺構上面はかなり削平を受けている。西壁の方位は、N-8.5°-Wである。

【位置】確認面標高は北西側コーナー部分の上端で158.950m、北東コーナーで158.640mである。

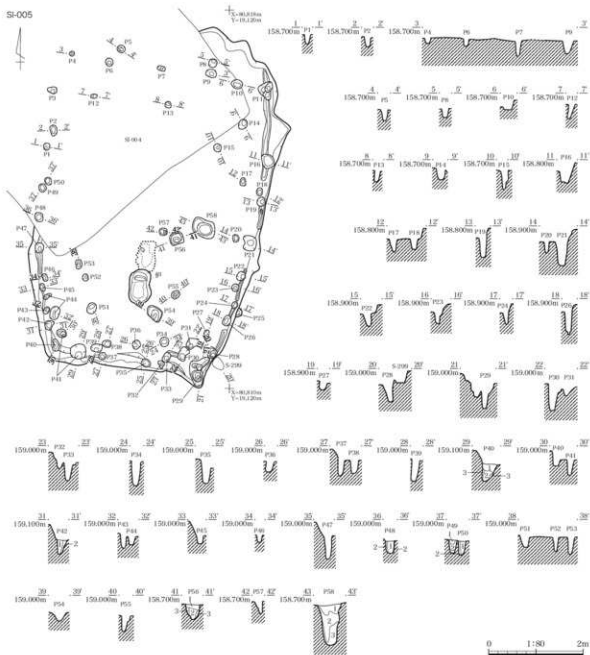
【規模】SI-004の掘形に壁柱穴や壁際のピットの底部が残っているため、全体の輪郭が確認でき、南北方向に長軸を持つ、逆台形であることが確認できた。北東のコーナーは丸く、南西と南東のコーナーは角張っている。南壁は直線的だが、北壁と西壁、東壁は中央で外側に膨らむ。床面の標高は、中央で158.430mである。床面は南東側に向かってわずかに傾斜し、中央がやや低く、凹面を呈する。床面面積は27.8㎡である。

【埋土】「レンズ状堆積」が認められ、自然堆積(1~3・4層)と考えられる。

【床面】床面は、大部分でローム層掘撃面を、直接床面とする。東側の一部には貼床と思われる硬化層(4層)がみられる。全体的に踏みしめ等によって硬く締まり、凹凸がやや激しい。入口は南辺中央と考えられる。



第110図 小竈内Ⅱ遺跡 SI-005 実測図(1)



P40

- 1 灰色土 ローム粒・ブロックやや多量。IP・SP・炭化物粒少量。しまりややあり。
- 2 黄褐色土 ローム・褐色土粒多量。しまりややあり。
- 3 黄褐色土 ローム・褐色土ブロック多量。しまりあり。

P42

- 1 褐色土 ローム・SP・SP粒やや多量。しまりややあり。
- 2 黄褐色土 ローム・SP・ブロック。黒褐色土粒多量。SP・炭化物粒少量。しまりややあり。

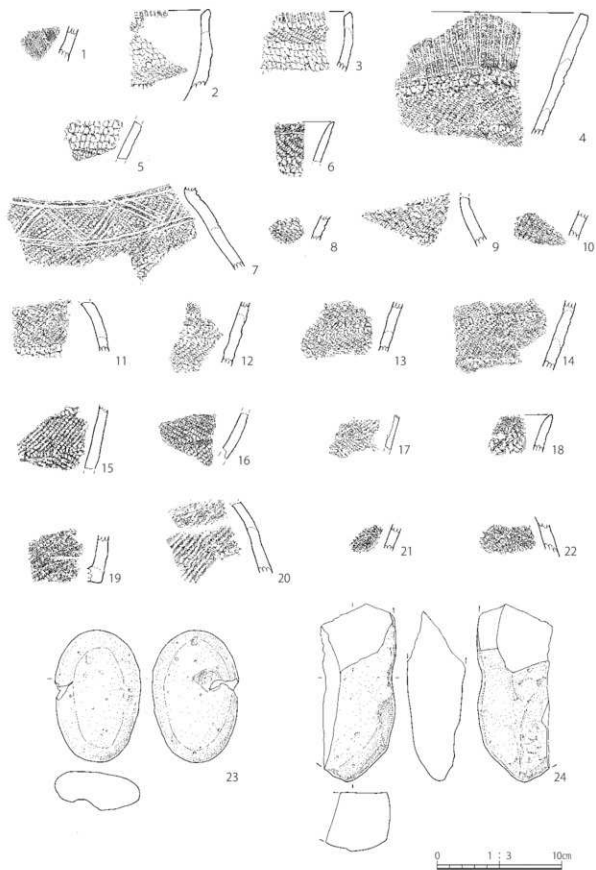
P48-50

- 1 暗褐色土 ローム粒多量。ロームブロック、IP粒やや多量。SP粒・ブロック少量。炭化物粒微量。しまりややあり。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ブロック。褐色土粒多量。IP・SP粒・ブロック少量。炭化物粒微量。しまりややあり。

P56

- 1 灰色土 ローム粒・ブロックやや多量。IP・SP粒微量。しまりややあり。
 - 2 黄褐色土 ローム・褐色土粒多量。IP・ブロック微量。しまりややあり。
 - 3 黄褐色土 ローム・ブロック多量。しまりあり。
- P58
- 1 黄褐色土 ロームブロック・粒、IP・ブロック・粒、SP・ブロック・SP粒やや多量。炭化物粒少量。しまりややあり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒・ブロック、IP・粒・ブロック、SP・粒・ブロックやや多量。しまりあり。
 - 3 褐色土 褐色土粒多量。SP・IP・粘土粒微量。しまりあり。

第111図 小網内II遺跡 SI-005 実測図(2)



第112圖 小銅内II遺跡 SI-005 出土遺物実測図

第49-1表 小鍋内II遺跡 SI-005出土遺物観察表(1)

No	出土位置	時期	部類	部位	壁厚 (mm)	色調			状況	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
1	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.8	5YR6/6 にぶい焼	5YR6/6 焼	7.5YR6/3 にぶい焼	良	白色微粉多量。 白色細粉少量含む。	早期 三戸式。
2	床面直上	前期	深鉢	口縁部	1.0	7.5YR4/1 焼灰	5Y4/1 灰	7.5YR5/4 にぶい焼	良	白色微粉多量。白色・褐色細粉少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。有文の土器。口縁部に褐色の沈線・短沈線。
3	床面直上	前期	深鉢	口縁部	0.7	5YR4/3 にぶい・赤焼	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR6/4 にぶい焼	良	白色・透明細粉少量含む。	前期羽状縄文系土器。有文の土器。口縁部に褐色の沈線・短沈線。
4	床面直上	前期	深鉢	口縁部	0.9	7.5YR3/1 黒焼	5Y3/1 オリーブ黒	5YR5/4 にぶい・赤焼	良	白色微粉多量。白色・透明細粉少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。有文の土器。口縁部に褐色の沈線・長い沈線。
5	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.8	7.5YR6/6 焼	5Y3/1 オリーブ黒	10YR5/3 にぶい・赤焼	良	白色微粉多量。白色細粉少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。有文の土器。胴部に褐色の平敷竹文。ループ文垂線。
6	床面直上	前期	深鉢	口縁部	0.6	2.5Y3/1 黒焼	10YR2/1 黒	7.5YR4/1 焼灰	良	白色細粉少量。スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。有文の土器。胴部に褐色の平敷竹文。ループ文垂線。
7	床面直上	前期	深鉢	胴上部	0.9	10YR3/1 黒焼	2.5Y3/1 黒焼	10YR4/2 灰黄焼	良	白色粘多量。白色細粉少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。有文の土器。胴部に褐色の平敷竹文。平敷竹文による垂線文。
8	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.7	10YR6/4 にぶい・黄焼	7.5YR3/1 黒焼	7.5YR4/3 焼	良	白色粘少量含む。	前期羽状縄文系土器。有文の土器。縄文地に刺線。
9	埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR4/1 焼灰	5Y3/1 オリーブ黒	10YR7/3 にぶい・黄焼	良	白色微粉多量。白色・赤褐色粘少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文口段2条。
10	埋土	前期	深鉢	胴部	0.8	7.5YR3/1 黒焼	5YR4/2 灰焼	5YR4/4 にぶい・赤焼	良	白色粘粉多量。白色粘粉・スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ・スサ少量含む。
11	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR7/4 にぶい・黄焼	5Y3/1 オリーブ黒	10YR6/3 にぶい・黄焼	良	白色・黒色粘粉少量。スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文口段2条。
12	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR3/2 黒焼	5Y4/1 灰	2.5Y5/2 灰黄焼	良	白色微粉少量。赤褐色・白色粘粉少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文口段2条。
13	埋土	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR3/2 黒焼	2.5Y3/1 黒焼	7.5YR4/3 焼	良	白色・透明・褐色粘粉多量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文口段2条。
14	床面直上	前期	深鉢	胴部	1.0	10YR5/3 にぶい・黄焼	5Y3/1 オリーブ黒	10YR6/4 にぶい・黄焼	良	白色・赤褐色・黒色粘粉多量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文口段2条。
15	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR3/2 黒焼	5Y2/1 黒	10YR5/3 にぶい・黄焼	良	白色微粉多量。白色細粉少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文粘帯引口縄文。
16	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.7	10YR3/3 黄焼	5Y3/1 オリーブ黒	10YR3/2 黒焼	良	白色微粉多量。スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文粘帯引口縄文。
17	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.5	7.5YR5/4 にぶい焼	5Y3/1 オリーブ黒	10YR2/2 黒焼	良	白色微粉少量。透明細粉微量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。ループ文粘帯引口縄文。
18	埋土	前期	深鉢	口縁部	0.8	5YR4/2 灰焼	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/4 にぶい・焼	良	白色微粉少量。スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。甲斐縄文口段2条。
19	埋土	前期	深鉢	胴下部～底部	1.0	10YR5/4 にぶい・黄焼	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR6/4 にぶい・焼	良	白色・赤褐色粘少量。赤褐色粘粉少量。 スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。甲斐縄文口段2条。
20	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR7/4 にぶい・黄焼	5Y3/1 オリーブ黒	10YR6/4 にぶい・黄焼	良	白色粘粉多量。スサ少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。無刺縄文。
21	床面直上	前期	深鉢	胴部	0.8	5YR3/2 暗赤焼	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/4 にぶい・焼	良	白色細粉少量含む。	前期羽状縄文系土器。地文のみの土器。付知刺縄文。
22	埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	10YR7/4 にぶい・黄焼	5Y3/1 灰	10YR6/2 灰黄焼	中	白色・赤褐色粘少量含む。	前期末～中期前の土器。

第49-2表 小鍋内II遺跡 SI-005出土遺物観察表(2)

No	出土位置	区分	種別	石材	特徴	計測値			
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
23	床面直上	石製品	磨石	燧石	表面の摩滅が顕著。	10.34	6.70	3.08	277.14
24	床面直上	石製品	磨石	安山岩	石面磨滅。	13.92	5.57	4.62	472.28

【柱穴】床面および壁際で大小合わせて58基の柱穴と考えられるピットが確認された。主柱穴と思われる開口部が大きく、深さのあるものは、床面の中央から東寄りに位置するP58・56と、南よりのP51・54の4基である。P58は直径36～55cm、深さ87cm、P56は直径25～30cm、深さ34cm、P51は直径19～25cm、深さ23cm、P54は直径26～36cm、深さ19cmである。P51・54は1対になって上部構造を支える事が考えられる。直径が30cmに満たない小ピットは壁際に集中する。これらは比較的一定の間隔をおいて並び、同時期性は高い。南壁際に位置するP40・35は対になり、入口等の施設存在を示唆する。また、P29・40は南東・南西のコーナーに位置する。P40・42・48～50・56では、埋土中に柱痕が確認できる。南壁の付近では複数の柱穴が近接するが、カ跡が、北から南側に造り替えられており、建物が南に拡張された可能性がある。P30・33・36・38・39・41は壁に平行に、やや内側に並ぶことから、拡張前の壁際ピットと考えられる。

【竈】カ跡は、床面中央から南に寄った箇所でも新旧2基が確認された。新竈は、建物と長軸方向を同じくする楕円形で、中央がやや括れる。床面を皿状に浅く掘り窪めて掘形を造り、北半分は薄く黒褐色土を貼って火床面とする。長軸76cm、短軸46cmで、床面からの深さ16cmである。埋土に焼土粒子や炭化物を含み、底面は焼土化する。また、火床面の北寄りには細長い川原石を単軸方向に置く。石の南側の辺は被熱している。旧竈は、新竈の北側に位置し、南端を新竈に切られる。平面は新竈と長軸方向を同じくする楕円形で、北側がやや角張る。床面を皿状に浅く掘り窪め、焼土粒子や焼土ブロックが充填する。長軸62cm、短軸40cmで、床面からの深さ23cmである。石の一部と思われる小礫が北側で火床面のやや上方で出土した。底面は被熱により焼土化する。

【出土遺物】出土遺物は、図示し得たもので土器22点、石製品2点である。土器は全て繊維を含む。土器の大部分は羽状縄文系土器で、半截竹管文や刺突が見られる。また、ループ文、0段多条の縄文や、付加条縄文を施すものもある。早期の三戸式期の深鉢破片も存在する。多段のループ文、結束羽状縄文を施すものもみられる。23は磨石である。全体に研磨痕がみられるが、比較的表面の摩滅が進む。裏面中央のやや上部に複数の凹がある。24は石皿破片である。全体の1/5程度の破片で安山岩製である。被熱して割れたものと思われる。

【時期】関山式末～黒浜式の住居跡と考えられる。

2. 遺構外出土遺物（第113～115図、第50表、図版四三・四四）

関山式末期の土器（第113図1～10）

1・2は口縁部に縦位の短沈線を描す。3～7は末端環付きの縄によるループ文がみられる。3・5・7は多段のループ文がみられる。4・6は単段のループ文で、黒浜式の可能性もある。8～10は0段多条の2段の縄による単節斜縄文である。

黒浜式土器（第113図11～23）

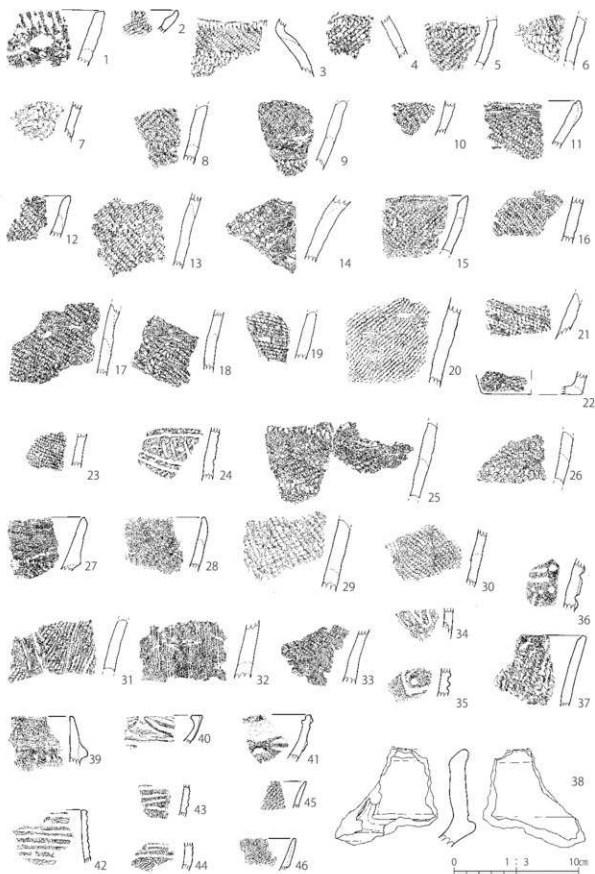
11～14・16・17・19は、0段2条の2段の縄の横位施文による単節斜縄文がみられる。11～13・16・17・19は2段RL、14は2段LRの縄を横位施文する。15は2段LRとRLの縄を横位施文する。ともに直前段4条の縄を用いている。18・20は無節斜縄文がみられる。18は1段R、20は1段Lを用いている。21・23は直前段多条の2段RLの縄を用いている。22は、2段RLの縦位施文による単節斜縄文がみられる底部直上の破片である。

浮島I a式土器（第113図24）

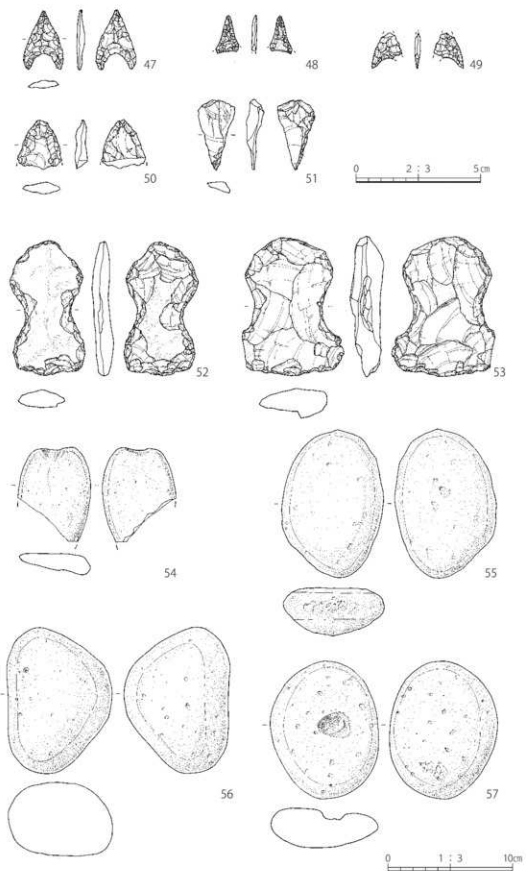
1段Lの縄を用いた単軸絡条体によるまばらな撚糸文を地文とし、有節平行沈線で弧状のモチーフを施す。

前期末葉～中期初頭の土器（第113図25・26）

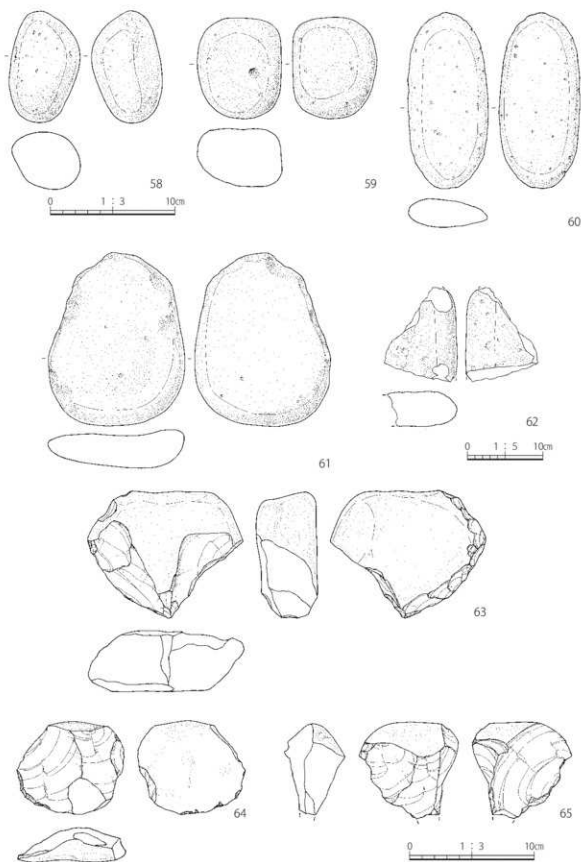
開端を結節した2段LRとRLの縄による結束羽状縄文（結束第1種）がみられる。



第113図 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物実測図(1)



第114図 小銅内II遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物実測図(2)



第115図 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物実測図(3)

第50-1表 小竈内II遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(1)

No	出土位置	時期	種類	部位	壁厚 (mm)	色調			焼成	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
1	SI-008 埋土	前期	深鉢	口縁部	1.0	2.5YR5/6 明赤褐色	10YR5/1 褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	良	白・赤・赤褐色粒多量。赤褐色顔料少量含む。	羽状縄文系土層。有文の上層。口縁部に縦色の沈線状紋飾。
2	SI-053 埋土	前期	深鉢	口縁部	0.7	10YR5/2 灰褐色	10YR4/1 褐色	10YR2/2 黒褐色	良	白色微粒多量。白色顔料微量含む。	羽状縄文系土層。有文の上層。口縁部に縦色の沈線状紋飾。
3	SI-003 埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR6/6 暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR6/6 暗褐色	良	白色・透明顔料多量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。ループ文多量。O段2条。
4	SI-006 埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR6/4 にぶい暗褐色	5Y5/1 灰	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	白色微粒多量。白色・赤褐色顔料少量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。ループ文多量。O段2条。
5	SI-055 埋土	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR5/4 にぶい赤褐色	5Y4/1 灰	7.5YR6/4 にぶい暗褐色	良	黒色微粒多量。赤褐色・白色顔料微量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。ループ文多量。O段2条。
6	SB-262 埋土	前期	深鉢	胴部	0.8	7.5YR5/4 にぶい暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR4/3 暗褐色	良	白色微粒多量。透明・白色顔料微量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。ループ文多量。O段2条。
7	西長表段	前期	深鉢	胴部	0.7	10YR6/3 にぶい灰褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR6/6 暗褐色	良	白色微粒多量。白色顔料微量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。ループ文多量。O段2条。
8	西長表段	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR5/4 にぶい暗褐色	2.5Y3/1 黒褐色	7.5YR6/4 にぶい暗褐色	良	白色微粒多量。白色・赤褐色顔料少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段多量。
9	北長表段	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR4/2 灰褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/4 にぶい暗褐色	良	白色微粒多量。白色顔料微量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段多量。
10	SI-008 埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	10YR7/4 にぶい暗褐色	5Y4/1 灰	10YR6/4 にぶい赤褐色	良	白色顔料少量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段多量。
11	SI-001 埋土	前期	深鉢	口縁部	0.7	7.5YR5/3 にぶい暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	10YR6/3 にぶい暗褐色	良	白色顔料多量。透明・赤褐色顔料少量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段2条。
12	SI-009 埋土	前期	深鉢	口縁部	0.8	10YR6/3 にぶい暗褐色	2.5Y3/2 黒褐色	2.5Y3/2 黒褐色	良	白色微粒少量。白色顔料微量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段2条。
13	SI-006 埋土	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR7/4 にぶい暗褐色	5Y5/1 灰	10YR6/3 にぶい暗褐色	良	赤褐色顔料少量。赤褐色・透明顔料微量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段2条。
14	SI-002 埋土	前期	深鉢	胴部	1.0	7.5YR5/4 にぶい暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	10YR7/4 にぶい赤褐色	良	白色微粒多量。白色・透明・赤褐色顔料微量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段2条。
15	西長表段	前期	深鉢	口縁部	0.8	10YR5/3 にぶい暗褐色	2.5Y4/1 灰褐色	10YR6/4 にぶい赤褐色	良	白色微粒多量。白色・赤褐色・赤褐色顔料少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。2段目と2段目の縦色帯文。ともに右面約4条。
16	SD-054 埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	5YR6/8 暗褐色	10YR5/1 褐色	2.5Y3/2 黒褐色	良	黒色微粒多量。白色顔料少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段2条。
17	SI-007 埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	5YR5/6 明赤褐色	5Y4/1 灰	7.5YR6/6 暗褐色	良	白色・赤褐色・黒色微粒多量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段2条。
18	北長表段	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR4/3 にぶい暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	白色微粒多量。白色・赤褐色顔料少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。無彫刻文。1段目。
19	SI-004 埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	5YR3/2 暗赤褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/4 にぶい暗褐色	良	白色微粒少量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。甲斐斜織文。O段2条。
20	SB-250 埋土	前期	深鉢	胴部	1.1	10YR6/4 にぶい暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	10YR6/3 にぶい暗褐色	良	白色微粒多量。赤褐色・白色顔料微量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。無彫刻文。1段目。
21	SI-004 埋土	前期	深鉢	胴部	0.9	7.5YR4/3 暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR6/6 暗褐色	良	白色微粒多量。赤褐色・白色顔料微量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。付加斜織文。右面約2条の2段目。
22	北長表段	前期	深鉢	胴部	0.8	10YR6/3 にぶい暗褐色	7.5YR2/1 黒	10YR5/3 にぶい暗褐色	良	白色微・黒・赤褐色顔料多量。スサ少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。付加斜織文。2段目の縦色帯文による甲斐斜織文。
23	北長表段	前期	深鉢	胴部	0.7	10YR6/3 にぶい暗褐色	10YR5/1 褐色	7.5YR2/1 黒	良	白色微・黒・赤褐色顔料少量含む。	羽状縄文系土層。地文のみの上層。表面段多量。
24	SI-053 埋土	前期	深鉢	胴部	0.8	7.5YR6/4 にぶい暗褐色	10YR7/6 明褐色	10YR7/6 明褐色	良	白色微・黒粒・赤褐色顔料少量含む。	首文系土層。地文は1段上の甲斐斜織文による横条文。気休の無彫行比類。
25	SI-006 埋土	前期末～ 中期初葉	深鉢	胴部	0.9	10YR5/3 にぶい暗褐色	5Y4/1 灰	10YR7/4 にぶい暗褐色	良	白色顔料・黒粒多量含む。	2段目と2段目の結帯羽状縄文(結帯目1種)
26	SK-011 埋土	前期末～ 中期初葉	深鉢	胴部	0.9	10YR3/3 暗褐色	5Y4/1 灰	10YR5/3 にぶい暗褐色	良	透明顔料・黒粒多量含む。	2段目と2段目の結帯羽状縄文(結帯目1種)
27	SI-007 埋土	中期 前期末～ 中期初葉	深鉢	口縁部	0.8	10YR7/3 にぶい暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	10YR6/4 にぶい暗褐色	良	黒色顔料多量。白色顔料少量含む。	無彫刻文。
28	SI-102 埋土	中期 前期末～ 中期初葉	深鉢	口縁部	0.7	7.5YR6/4 にぶい暗褐色	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR5/6 明褐色	良	白色・黒色・赤褐色・黒粒多量含む。	甲斐斜織文。

加曾利E式期の土器（第112図27～33）

27は微隆起線を施す加曾利EⅣ式土器である。28～30・33は単節斜縄文、32は縦位の条線、31は単節斜縄文と条線が併用される。

後期の土器（第112図34～36・38・39）

34・35は区画内に列点を施す称名寺Ⅱ式土器である。36は「8」の字状貼付文を起点に横位に沈線を巡らす堀之内Ⅰ式土器である。39は口縁部無文帯下に刻みを加えた隆帯を巡らす綱取Ⅰ式土器である。38は屈曲部より上に沈線で区画を描く後期初頭の土器である。37は口縁部内面に沈線を配す加曾利B式の粗製土器である。

晩期末葉の土器（第112図40～46）

40は両脇を削った隆帯による変形工字文、41は浮線網状文がみられる。42～44は横位の沈線を巡らす。45・46は口縁から節の細かい2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる。一部は弥生時代前期に降る可能性がある。

石器・石製品（第112図47～65）

47～49はチャート製の石鐮である。47はほぼ完形で、基部の抉りは深く、逆差しの先端は内側に湾曲する。48は下半部を欠損する。本来、両側縁が直線的な二等辺三角形と推測される。器体に施された剥離は細かく緻密である。49は先端部と逆差しの一方を欠損する。基部の抉りは深く、逆差しは比較的鋭角で鋭い。

50はチャート製の尖頭器基部の破片と考えられる。全体の2/3以上を欠損する。両面加工で、剥離は比較的粗い。51は微細な剥離痕のある割片である。形状から石錐の可能性もある。頁岩製である。

52・53は打製石斧である。52はやや小型の分銅形で、表裏面に自然面を大きく残す。粘岩製である。53は括れの弱い肥厚な分銅形で、表裏面には横方向からの主要剥離面が残る。砂岩製である。

第50～2表 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表（2）

No.	出土位置	時期	器種	部位	壁厚 (mm)	色調			構成	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
29	R-27 グリップ 表層	中期 後曾利Ⅰ	深鉢	胴部	1.1	10YR4/1 黒灰	5Y6/1 灰	10YR7/4 にぶい・黄緑	不具	白色微・細粒・赤褐色細粒多量、白色粗粒少量含む。	単節斜縄文。
30	SD-054 埋土	中期 後曾利Ⅰ	深鉢	胴部	0.7	7.5YR5/4 にぶい・黄	5Y4/1 灰	10YR3/1 茶黒	具	白色・黒色微粒多量、白色粗粒少量含む。	単節斜縄文。
31	SI-001 埋土	後期 称名寺	深鉢	胴部	0.9	10YR7/4 にぶい・黄緑	5Y4/1 灰	10YR6/4 にぶい・黄緑	具	白色・黒色微粒多量、赤褐色細粒少量含む。	単節斜縄文と条線。
32	SK-009 埋土	後期 称名寺Ⅱ	深鉢	胴部	1.1	7.5YR6/4 にぶい・黄	10YR6/2 灰黄緑	5YR5/4 にぶい・赤黒	具	白色・赤褐色細粒多量、黒色粗粒少量含む。	縦位の条線。
33	SI-01 埋土上層入	後期 称名寺	深鉢	胴部	0.9	7.5YR5/4 にぶい・黄	5Y4/1 灰	10YR5/3 にぶい・黄緑	具	白色・黒色微粒多量、白色・透明細粒少量含む。	単節斜縄文。
34	S-090 埋土	後期 称名寺Ⅱ	深鉢	胴部	0.7	10YR7/3 にぶい・黄緑	10YR6/4 にぶい・黄緑	10YR7/4 にぶい・黄緑	具	白色・黒色微・細粒少量含む。	区画内に列点。
35	665表層	後期 称名寺Ⅱ	深鉢	胴部	0.8	5YR5/6 明赤褐	5YR4/3 にぶい・赤黒	5YR5/4 にぶい・赤黒	具	白色微・細粒少量含む。	区画内に列点。
36	SI-102 埋土	後期 堀之内Ⅰ	深鉢	胴部	1.0	5YR5/8 明赤褐	5YR5/8 明赤褐	10YR5/6 黄緑	不具	白色・黒色微粒多量、白色粗粒少量含む。	「8」の字状貼付文。横位の沈線。
37	表層	後期 後曾利Ⅰ	深鉢	口縁部	0.7	10YR6/3 にぶい・黄緑	10YR7/3 にぶい・黄緑	7.5YR5/3 にぶい・黄	具	白色・黒色微粒多量、透明細粒少量含む。	口縁部内面に沈線。粗製土器。
38	SK-000 埋土	後期 初頭	深鉢	口縁部	1.1	5YR6/6 橙	N3/0 暗灰	2.5YR6/2 灰黄	具	白色粗粒多量、黒色細粒少量含む。	沈線で区画。
39	SI-102 埋土	後期 網取Ⅰ	深鉢	口縁部	0.8	10YR7/4 にぶい・黄緑	5YR2/1 黒	10YR5/4 にぶい・黄緑	不具	白色微粒少量、白色粗粒少量含む。	口縁部無文帯下に隆帯。

No.	出土位置	時期	器種	部位	器厚 (mm)	色調			構成	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
40	S-276 埋土	晩期 終末	深鉢	口縁部	0.5	2.5YR4/2 灰赤	5YR5/1 褐灰	7.5YR3/1 黒褐色	貝	白色・赤褐色微粉多量、赤褐色細粒微量含む。	縁部で変形工文字。
41	SD-054 埋土	晩期 終末	深鉢	口縁部	0.6	10YR6/3 にぶい・黄褐色	10YR7/4 にぶい・黄褐色	7.5YR6/6 黒	貝	白・黒色粒多量、赤褐色細粒微量含む。	浮線刻文。
42	SB-250 埋土	晩期 終末	深鉢	口縁部	0.5	2.5Y5/1 黄灰	10YR3/1 黒	10YR3/2 黒褐色	貝	黒・白色微粉多量、赤褐色・透明細粒微量含む。	縁部の沈線。
43	SD-054 埋土	晩期 終末	深鉢	胴部	0.6	10YR7/4 にぶい・黄褐色	10YR3/1 黒	10YR5/2 灰黄褐色	貝	白色微粉多量、透明細粒微量含む。	縁部の沈線。
44	西区表探	晩期 終末	深鉢	胴部	0.7	10YR6/2 灰黄褐色	10YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒	貝	白色細粒少量含む。	縁部の沈線。
45	SB-250 埋土	晩期 終末	深鉢	口縁部	0.4	10YR6/3 にぶい・黄褐色	5Y4/1 灰	7.5YR7/4 にぶい・暗褐色	貝	白色微粉多量、白色・黒色粒少量含む。	2段LRの横位施文による早期斜縁文。
46	SB-250 埋土	晩期 終末	深鉢	口縁部	0.6	10YR3/1 黒	10YR6/2 灰黄褐色	10YR2/1 黒	貝	白・黒・黄褐色多量含む。	2段LRの横位施文による早期斜縁文。

第50-3表 小銅内II遺跡 遺構外出土の縄文時代遺物観察表(3)

No.	出土位置	区分	種類	石材	特徴	計測値			
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
47	埋土	石製品	石錐	チャート	逆差し先端が内湾。	2.26	1.62	0.30	0.82
48	表探	石製品	石錐	チャート	下半部欠損。割縁は微凸。	1.44	0.91	0.22	0.27
49	S-325埋土	石製品	石錐	チャート	先端部と逆差し一方欠損。	1.42	0.92	0.20	0.25
50	SI-302埋土	石製品	石錐	チャート	2/3欠損。	1.90	1.79	0.53	1.59
51	北区表探	石製品	ドリル	頁岩	石錐の可能性。微細な割縁痕。	2.75	1.49	0.70	1.63
52	西区表探	石製品	打製石斧	粘板岩	分削形。表面に自然部。	10.68	5.75	1.53	108.89
53	SI-171・172 埋土	石製品	打製石斧	砂岩	分削い分削形。横方向から大きく割縁。	11.07	8.13	2.29	215.78
54	西区表探	石製品	石錐	砂岩	1/3欠損。	7.44	5.73	1.64	95.87
55	SI-008埋土	石製品	磨石	燧石	下端に鋭行痕。	11.40	7.84	3.60	446.16
56	SI-102埋土	石製品	磨石	閃緑岩	断面が面多い。表面面に割縁。	11.40	8.16	5.82	834.19
57	SK-04埋土	石製品	磨石	閃緑岩	片面中央に凹。	10.86	8.44	3.15	431.65
58	SI-102埋土	石製品	磨石	閃緑岩	側面が摩滅。	8.72	5.46	4.58	296.09
59	西区表探	石製品	磨石	閃緑岩	側面が摩滅。	8.00	6.60	4.58	365.72
60	SB-262 PI0埋土	石製品	磨石	閃緑岩	逆差の摩滅。側縁部の一部が削い。	13.8	6.30	2.10	294.47
61	SI-002埋土	石製品	石皿	砂岩	縁辺に割縁痕。	22.80	18.00	5.10	2986.62
62	SD-054埋土	石製品	石皿	燧石	縁辺部破片。	12.49	9.82	4.76	537.80
63	SI-005埋土	石製品	磨盤	砂岩	端部に方部。	10.98	10.30	5.08	788.71
64	SI-001埋土	石製品	磨盤	ホルンフェルス	最終割縁面端部に小さい割縁。	8.36	7.50	2.73	180.58
65	SI-005埋土	石製品	磨盤	流紋岩	表面で割縁方向が異なる。	7.75	7.68	4.78	239.52

54は砂岩製の大型の石錐である。約1/3を欠損する。楕円状の河原石の端部に紐掛け用の比較的大きな割縁を加え、その割縁面を中心に研磨する。

55~60は磨石である。55は片面の研磨が進み、下端には鋭打痕が認められる。56は閃緑岩製で、比較的多く原石の表面を留める。57も閃緑岩製で、表面の中央に凹がある。58も閃緑岩と思われる。全体に研磨痕がみられるが、比較的側面の摩滅が進む。59も全体に研磨痕がみられ、特に側面の摩滅が進み全体が角張った様相を呈する。閃緑岩製である。60は表裏面の過度の摩滅により、全体的に厚みが無くなり、側縁の一方は特に薄くなる。やはり、閃緑岩を用いる。

61・62は石皿である。61は砂岩製で縁辺に磨滅した博羅婚が見られる。62は安山岩製で、縁辺部破片である。

63~65は磨盤である。63は扁平な礫の端部に急角な刃部を作出する。石材は砂岩である。64は原礫面を打面とし、片面もほぼ原礫面である。最終割縁面側の端部に小さな割縁を施している。石材はホルンフェルスである。65は上面に大きく原礫面を残す。表裏で割縁方向が異なる。石材は流紋岩である。

第4節 弥生時代

小鍋内Ⅱ遺跡では、調査区内では弥生時代の遺構は確認できず、少量の土器破片が採取された。

縞糸文が施される土器（第116図1～6、第51表、図版四四）

1・2は複合口縁の鉢形土器である。複合部で横位、以下縦位に縞糸文を施す。3～12は縞糸文のみがみられる体部破片である。3が横位、4・7・10～12が斜位、5・6・8・9が縦位の縞糸文を施している。5・6は、体部上位の器形の屈曲部で施文を変えている。原体は、いずれも1段Rの縄を用いた単軸絡条体である。これらは全面に縞糸文のみを施した土器と思われる。内面はいずれも入念に磨かれ、平滑に仕上げられている。但し3は斜位の擦痕がみられる。

条痕文が施される土器（第116図13～18、第51表、図版四四）

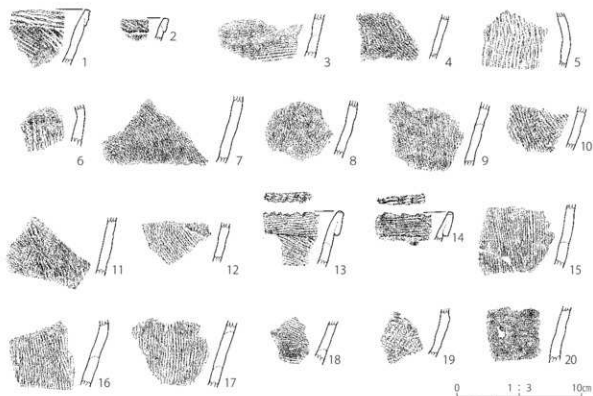
13・14は複合口縁の鉢形土器と思われる。複合部には横位の条痕文を施す。13では、複合部以下に斜位の条痕文がみられる。口端には絡条体圧痕文を施している。13では絡条体を上方から押捺するが、14では向かって左から右へ僅かに回転させている。15～17は縦位の条痕文、18は斜位の条痕文がみられる体部破片である。15以外の内面には擦痕がみられる。

縄文が施される土器（第116図19、第51表、図版四四）

19は2段LRの横位施文による単節斜縄文を施す。原体の間端付近に緩い結節を作ったと思われる、崩れたS字状結節縄文がみられる。破片上端はわずかに屈曲し、それより上は無文である。

無文の土器（第116図20、第51表、図版四四）

20は無文の体部破片である。外面にミガキ痕、内面に擦痕がある。



第116図 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の弥生時代遺物実測図

第51表 小鍋内II遺跡 遺構外出土の弥生時代遺物観察表

No	出土位置	時期	器種	部位	器厚 (mm)	色調			焼成	胎土	文様などの特徴
						外	断面	内			
1	SB-054 埴土	前期	甕	口縁部	0.7	7.5YR6/4 にぶい焼	7.5YR5/6 茶褐色	7.5YR5/6 茶褐色	良	白・黒色微粒多量、赤褐色・白色細粒少量含む。	漆文文。複合口縁の上縁。
2	SI-102 埴土	前期	甕	口縁部	0.5	10YR6/2 灰黄褐色	5Y5/1 灰	10YR7/3 にぶい・黄褐色	良	白色微粒多量、黒色微粒少量含む。	漆文文。複合口縁の上縁。
3	SB-252・ 253 埴土	前期	甕	胴部	0.7	10YR7/3 にぶい・黄褐色	5Y3/1 オリーブ黄	2.5Y7/2 灰黄	良	白色・透明・褐色微粒多量含む。	漆文文。
4	SI-053 埴土	前期	甕	胴部	0.6	10YR2/1 黒	5Y4/1 灰	10YR6/3 にぶい・黄褐色	良	黒色微粒多量、白色・赤褐色微粒少量含む。	漆文文。
5	SI-139 埴土	前期	甕	胴部	0.6	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい・黄褐色	良	白色微粒多量、白・灰色細粒少量含む。	漆文文。
6	SI-053 埴土	前期	甕	胴部	0.7	5YR4/6 赤褐色	7.5YR5/3 にぶい・黄褐色	2.5YR4/6 赤褐色	良	白色微粒多量、褐色細粒少量含む。	漆文文。
7	SI-053 埴土	前期	甕	胴部	0.8	10YR5/2 灰黄褐色	5Y6/1 灰	10YR6/2 灰黄褐色	良	白色微粒多量、赤褐色・白色細粒少量含む。	漆文文。
8	SK-063 埴土	前期	甕	胴部	0.7	2.5Y7/3 灰黄	2.5Y6/1 黄灰	7.5YR3/1 茶褐色	良	白色微粒多量、赤褐色・透明細粒・白色粗粒微量含む。	漆文文。
9	SI-183 埴土	前期	甕	胴部	0.7	10YR7/4 にぶい・黄褐色	5Y4/1 灰	10YR6/3 にぶい・黄褐色	良	黒色微粒多量、黒色・白色・赤褐色細粒少量含む。	漆文文。
10	S-248 埴土	前期	甕	胴部	0.7	7.5YR6/4 にぶい・黄褐色	5Y5/1 灰	7.5YR3/1 茶褐色	良	白色微粒多量、白色・黒色細粒少量含む。	漆文文。
11	SI-055 埴土	前期	甕	胴部	0.8	7.5YR6/6 にぶい・黄褐色	5Y5/1 灰	10YR3/1 茶褐色	良	黒・白色微粒多量、黒・白色細粒少量含む。	漆文文。
12	SK-052 埴土	前期	甕	胴部	0.7	10YR7/3 にぶい・黄褐色	10YR6/1 黄灰	10YR7/2 にぶい・黄褐色	良	白・黒色微粒多量、白色・赤褐色細粒微量含む。	漆文文。
13	SB-253 埴土	前期	甕	口縁部	0.7	10YR6/3 にぶい・黄褐色	5Y4/1 灰	10YR7/4 にぶい・黄褐色	良	白色微粒多量、白色・黒色細粒少量含む。	漆文文。複合口縁の上縁。
14	S-091 埴土	前期	甕	口縁部	0.5	10YR6/2 灰黄褐色	5Y4/1 灰	10YR7/4 にぶい・黄褐色	良	白色微粒多量、白・黒色細粒少量含む。	漆文文。複合口縁の上縁。
15	SB-262 埴土	前期	甕	胴部	0.8	10YR6/3 にぶい・黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい・黄褐色	良	白色微粒多量、白色・黒色・赤褐色細粒少量含む。	漆文文。
16	SI-053 埴土	前期	甕	胴部	0.8	10YR7/3 にぶい・黄褐色	5Y4/1 灰	10YR6/2 灰黄褐色	良	白・黒色微粒多量、白色・褐色・赤褐色細粒少量含む。	漆文文。
17	西長表塚	前期	甕	胴部	0.8	10YR6/4 にぶい・黄褐色	5Y4/1 灰	10YR7/3 にぶい・黄褐色	良	白・黒色微粒多量、白・黒色細粒微量含む。	漆文文。
18	SB-252・ 253 埴土	前期	甕	胴部	0.7	7.5YR4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	10YR7/3 にぶい・黄褐色	良	白色・黒色・赤褐色細粒少量含む。	漆文文。
19	SI-053 埴土	前期	甕	胴部	0.7	10YR2/1 黒	2.5Y3/2 黒	10YR4/1 黄灰	良	白色微粒多量、白色・透明細粒少量含む。	2段LRの横線文による甲部斜線文。
20	SB-252 埴土	前期	甕	胴部	0.8	10YR6/4 にぶい・黄褐色	5Y3/1 オリーブ黄	2.5Y6/2 灰黄	良	白色微～細粒・黒色微粒多量含む。	横文・磨文文。

第5節 古墳時代の遺構と遺物

今回の小鍋内Ⅱ遺跡の発掘調査範囲では、小鍋内Ⅰ遺跡と異なり、古墳時代中期の遺構は確認されず、6世紀初頭から末にかけての竪穴建物跡19軒、土坑10基を調査した。全ての建物跡でカマドの存在が確認あるいは推測される。これらの遺構は調査範囲の北区南から西区の東側、東区東側にかけて分布密度が高い。過去の水田造成時に、掘削を受けて遺構が消滅した箇所もあり、現状での遺構分布状況に粗密が生じているが、巨視的には、古墳時代後期の集落北端部分の状況が明らかになったと考えられる。

1. 竪穴建物跡

SI-001（第117・118図、第52表、図版二五・四五）

【概要】北区北端で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。南東15mには古墳時代の竪穴建物跡SI-002が、その中間には古墳時代の円筒形土坑S-024・025が存在する。遺構確認面は、開田に伴う造成等で北東方向に斜めに削平を受けており、当遺構は北東側において床面の約1/2が消滅している。また、本来カマドを持つものと考えられるが、それも全て消滅している。南西側の最も保存状態の良い部分においても壁溝は15cmに満たない。しかし、南東壁の中央に位置する張出ピットは完存し、東側の支柱穴2基の底部も削平面に残っていたため柱の配置が判明し、ある程度、建物跡の平面形・規模が推定できた。南西壁の方位は、N-42°-Wである。

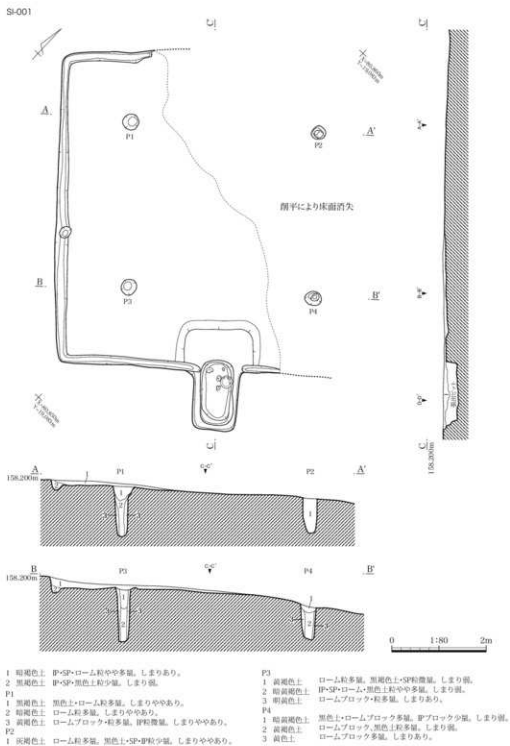
【位置】P23、Q-23グリッドに位置する。確認面の標高は西側コーナーで158.060m、北東コーナーで157.520m、南東コーナーで157.730m、南西コーナーで157.730mである。

【規模】北西壁2.04m、南東壁4.76m、南西壁6.60mの大きさである。また、支柱穴の配置から推定して、北西壁および南東壁の長さは6.7m程度であったと考えられる。従って当竪穴建物は、ほぼ正方形を呈するものと思われる。床面の標高は、西側コーナー157.950m、北側コーナー157.520m、南側コーナー157.692m、東側コーナー157.550m、中央157.610mである。床面は残存部分の上面にまで削平が及んでおり、現状では南東に向かってわずかに傾斜する。床面積は25.4㎡である。

【埋土】埋土は最下層（1層）がわずかに残るのみで、自然埋没か人為的埋め戻しかは判断できない。壁周溝埋土には黒色土を含み、この上に1層が堆積する。張出ピットも同様で、ほぼ建物床面の高さまで埋没した後、1層がその上を覆っている。

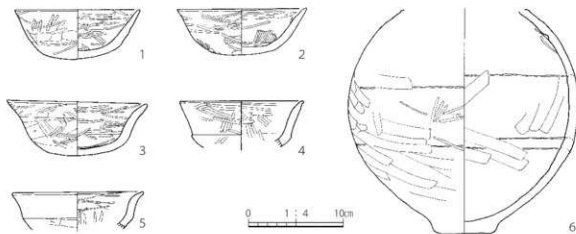
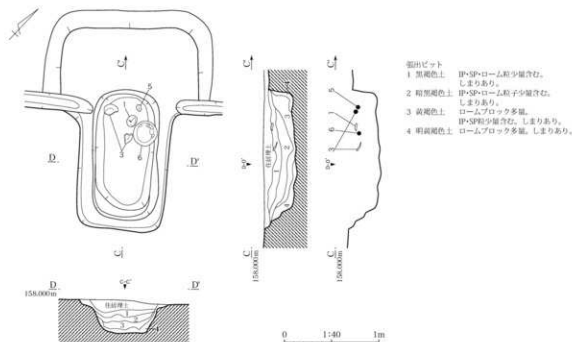
【床面・掘形】掘形は、存在せず、ハードローム層まで掘り込んだままの状態を床面としている。表面は一樣に硬く締まっているが、特に支柱穴P1、P2の間は硬化の度合いが大きい。南東壁の中央に位置する張出ピットでは、ピットの北辺から建物床面にかけて、幅2m、奥行き1.2mの隅丸方形に、床面から5～7cm高くなる部分が存在する。上面は平坦で、著しく硬化している。

【柱穴】当遺構では、床面で4基の支柱穴（P1～4）が確認された。このうち2基（P2・4）は床面と共に開口部が削平されている。P1は開口部平面形が円形で、抜き取りによると思われる上端の崩れがみられる。直径は34cmで、床面からの深さは107cmある。P2は上端が床面と共に削平されているが、残存部分の平面は円形で、直径は30cm、床面からの深さ74cm、P3も平面円形で直径は35cm、床面からの深さは114cmである。P4も円形で残存部分の直径30～36cm、床面からの深さ72cmである。P2を除き、埋土断面において柱痕が確認できた。柱と柱穴の間はロームブロック等で充填し、硬く突き固めている。また、南西壁の壁周溝中にピットが1基確認されたが、単独であり用途は不明である。削平部分においては、壁際にピットが存在した痕跡は認められなかった。



第117図 小銅内II遺跡 SI-001 実測図(1)

SI-001 掘出ピット



第118図 小鍋内II遺跡 SI-001 実測図(2)及び出土遺物実測図

第52-1表 小鍋内II遺跡 SI-001出土遺物観察表

No.	種類 図様	計測値 (cm)	色調	出土	地成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	上縁部 耳	口径 13.3 底径 — 高さ 5.1	5YR5/5 明赤褐色	細砂粒・白色層砂粒 ・雲母・赤色粒少量。	良好	完好	口縁部	横ヘラミガキ	斜ヘラミガキ	体部～口縁部 まで直線的に 細く、幾不明 瞭。	掘出 ピット	
							体部	斜ヘラミガキ	ヘラミガキ後、磨ナデ			
							底面	一定方向ヘラミガキ	不定方向ヘラミガキ			

第52-2表 小銅内II遺跡 SI-001出土遺物観察表

No.	種類 種類	計測値 (cm)	色調	素材	形状	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							口縁部	内部				
								内面	外面			
2	土器類 杯	口径 (13.7)	—	2.5YR5/8 明赤褐色	細砂粒・白色細砂粒・ 赤色粘・雲母少量。	良好	1/2	口縁部	横ヘラミガキ	斜ヘラミガキ	体部～口縁部 まで直線的に 開く。稜不明 瞭。	P1
		底面						一定方向ヘラミガキ	不定方向ヘラミガキ			
		体部						斜ヘラミガキ	斜ヘラミガキ			
3	土器類 杯	口径 (15.0)	—	5YR5/8 明赤褐色	細砂粒・白色細砂粒 ・雲母少量、小礫少 含む。	良好	口縁部一部 欠損、ほぼ 完存	口縁部	横ヘラミガキ	斜ヘラミガキ	口縁部がやや 開く。稜不明 瞭。	張出 ビット
		底面						一定方向ヘラミガキ	不定方向ヘラミガキ			
		体部						斜ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラナジ			
4	土器類 杯	口径 (13.0)	—	2.5YR5/8 明赤褐色	細砂粒・赤色粘多量 含む。	良好	口縁部1/8	口縁部	横ヘラミガキ	斜ヘラミガキ	口縁部は直線的 に開く。端 部やや外反。 稜明瞭。	埋土
		底面						—	ヘラミガキ			
		体部						斜ヘラミガキ	ヘラミガキ			
5	土器類 杯	口径 (14.0)	—	2.5YR5/8 明赤褐色	細砂粒・白色細砂粒 ・雲母少量含む。	良好	口縁部～体 部1/6	口縁部	横ヘラミガキ	横ナジ	口縁端部が外 反。稜明瞭。	張出 ビット
		底面						—	—			
		体部						斜ヘラミガキ	横ヘラミガキ			
6	土器類 壺	口径 (—)	—	10YR7/8 明赤褐色	白色細砂粒・多量。 赤色粘・透明細砂粒 含む。	良好	口縁部欠損、 体部～底面完 存	口縁部	—	—	胴部中央に筒 大径。稜、 底面が突出。	張出 ビット
		底面						ヘラナジ後、ヘラミガキ	ヘラナジ後、ヘラミガキ			
		体部						ヘラナジ後、ナジ	ヘラナジ後、ナジ			

【壁溝】残存する壁際には全て溝が存在する。北西壁ではカマドの直前と思われる位置で壁溝が切れる。また、張出ビットの西側と北側の両側にも壁溝が延びてきているが、ビット上端の直前で止まっている。従って、張出ビット前面の方形の段は、壁際の部分が壁溝によって切られている。

【張出ビット】南東壁中央部に張出ビットが存在する。壁の上端からは南東に125cm張出す。張出部分の平面は整った長方形である。開口部平面は隅丸長方形で、突出部分の平面より一回り小さく、突出部分においては開口部は2段に掘り込まれる。底面は楕円形で、やや凹凸が目立つ。ビットの壁面は、北西側では垂直に落ち込むが、南東側では中位に段を持ち、階段状になる。開口部の長軸139cm、短軸70cm、底面の長軸114cm、短軸45cmで、床面からの深さは28cmである。埋土は4層（2～5層）に分かれ、レンズ状の堆積であるが、4層にはロームブロックが多量に混入し、人為的な埋め戻しの可能性も考えられる。遺物は、土師器甕1点と土師器杯5点が、2層より上位の埋土から出土した。ビットの北側に多く集中し、建物の中から外に向かって流入した状況を呈している。

【入口ビット】存在しない。

【カマド】北西壁の中央に存在したと考えられるが、削平されて痕跡も全く無い。

【出土遺物】図4・掲載した遺物は、張出ビットから出土した、土師器杯5点（1～5）、甕1点（6）である。杯は、体部外面の稜が比較的明瞭な2点（4、5）と、不明瞭な3点（1、2、3）が存在する。1と2は口縁部が直線的、あるいはやや開くが、3は口縁部が外反する。内外面とも、比較的入念にミガキを施す。4と5は稜微坏で、4の稜線は低い位置に巡る。両者とも口径はやや小振り、それに比して器高は高い。甕は球胴で、わずかに縦長である。内外面ともミガキはほとんど無い。内外面共に、輪轡み痕が所々にみられ、粘土帯1段の丈は2～2.5cmである。底部は突出し、底部の外面はヘラ削り後、指頭でナデを施す。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉の遺構と考えられる。

SI-002 (第119～122図、第53表、図版二五・四五・四六)

【概要】北区中央で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。北西15mには後期前葉の竪穴建物跡SI-001が、その中間には古墳時代の円筒形土坑SK-024・025が存在する。遺構確認面は、過去の造成で北東方向に斜めに削られているが、削平は軽微である。西側の最も残りのよい部分では、壁溝は60cmある。カマドの保存状態も比較的良好である。南壁中央には張出ピットが存在する。東壁の方位は、N-24°-Wである。

【位置】Q-23・24グリッドに跨る。確認面の標高は西側コーナーで158.115m、北東コーナーで158.100m、南東コーナーで158.140m、南西コーナーで158.185mである。

【規模】北壁5.4m、東壁5.25m、南壁5.14m、西壁5.06mの大きさで、ほぼ正方形を呈する。床面の標高は、北西側コーナー157.990m、北東側コーナー157.795m、南東側コーナー157.885m、南西側コーナー158.025m、中央157.820mである。床面はほぼ水平である。床面積は25.6㎡である。

【埋土】埋土(1～8層)は概ねレンズ状堆積であり、各層の粒子も細かく大ききもそろっているため、自然埋没であろう。壁周溝埋土には黒色土を含み、この上に1層が堆積する。

【床面・掘形】全面貼床で、最大20cmに及ぶ。最上層の10層は硬く締まる。掘形底面は、比較的平坦で、北東コーナー部分がやや凹む。北東コーナーではピットが1基確認されたが、他のコーナーには存在せず、用途は不明である。南壁中央に位置する張出ピットの前面には、特に床面の盛り上がりは認められない。一方、主柱穴であるP1、P3を結ぶ線から外側には建物主軸に直交して間仕切り溝5本が存在する。両端の2本はほぼP1、P3に突き当たっている。長さは97～137cmで、深さは3～6cmである。

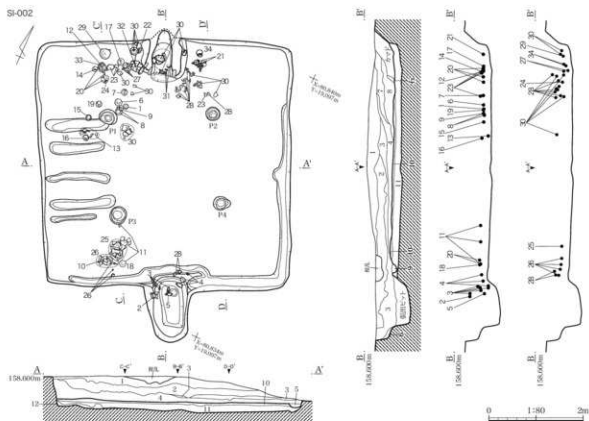
【柱穴】当遺構では、床面で4基の主柱穴(P1～4)が確認された。P1は円形で直径30～39cm、床面からの深さ52cm、P2は円形で残存部の直径30cm、床面からの深さ58cm、P3も円形で直径38cm、床面からの深さ46cm、P4も円形で残存部分の直径38～41cm、床面からの深さ56cmである。P3を除き、埋土中に柱痕が確認できた。

【壁溝】南東コーナーを挟んで東壁の3/4と南壁の9/10の範囲に壁溝が存在する。南壁では、張出ピットの前にも溝が存在する。

【張出ピット】南東壁中央部に張出ピットが存在する。建物壁の上端からは112cm南に張出す。開口部平面は隅丸長方形で、突出部分では開口部は2段に掘り込まれる。底面も隅丸長方形で、北東コーナーには開口部径18cm、張出ピット底面からの深さ12cmの円形ピットが存在する。壁は、南側では垂直に落ち込むが、北側立ち上がりの傾斜が緩くなる。開口部の長軸98cm、短軸48cm、底面の長軸82cm、短軸34cmで、床面からの深さは40cmである。埋土は3層(1～3層)に分かれ、レンズ状の堆積であるが、2層には今市軽石(IP)のブロックが多量に混入し、人為的な埋戻しの可能性も考えられる。ピット内部からの遺物出土はなかったが、開口部北側の上端や、その前面で土師器環3点(4、12、16)、土師器鉢1点(20)、土師器小壺1点(21)が出土した。

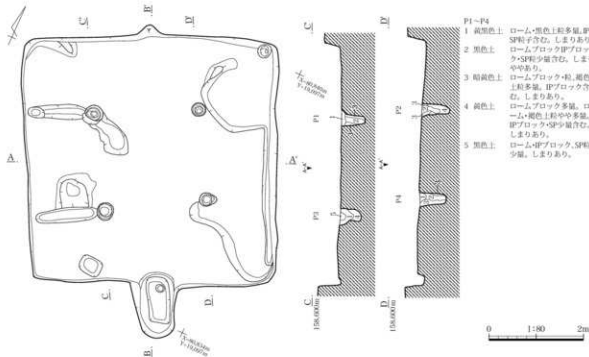
【入口ピット】存在しない。

【カマド】北西壁の中央に付設している。掘形は、建物貼床の上に燃焼部を浅く掘り込み、その周囲に灰白色粘土を主体とした灰褐色土で袖部を構築している。カマド上面はほとんど削平を受けていないため、両袖部とも保存状態は比較的良好である。袖部は芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けている。袖部先端には長さ25～30cmの川原石を立て、その上に軟質砂岩の棒状の割石を掛け渡して焚き口を構成していた。燃焼部の火床面中央には、軟質砂岩の割石の支脚が1本、立ったままで出土した。煙道の突出は小さく、燃焼部から急角度に立ち上がっている。天井は崩落して埋土の土層中で確認できた。燃焼部から土師器壺



- 1 黒褐色土 IP・SP明れ含む。しまりややあり。
- 2 暗褐色土 IP・SPブロック・粒やや多量。しまりややあり。
- 3 黒褐色土 IP・SPブロック・粒含む。しまりあり。
- 4 黒色土 IP・SPブロック多量。しまりややあり。
- 5 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりあり。
- 6 褐色土 ローム粒・IPブロック多量。しまり強。
- 7 灰褐色土 ローム・IP・SPブロック含む。しまり強。灰マド構築材。

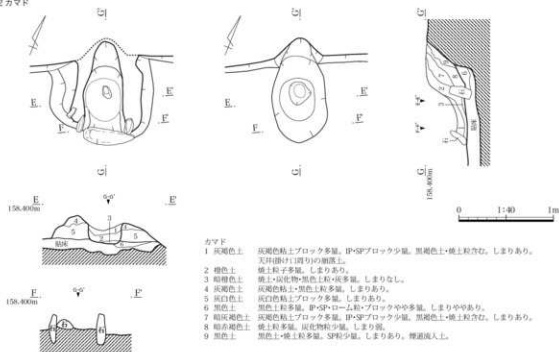
- 8 褐色土 ローム・IP・SPブロックやや多量。しまりあり。
- 9 暗褐色土 ロームブロック・灰褐色土多量。IPブロック少量。しまり弱。
- 10 暗褐色土 ロームブロック多量。
- 11 黒褐色土 ロームブロック・灰褐色土粒多量。IPブロックやや多量。SPブロック少量。しまりあり。
- 12 黒色土 ロームブロック・粒多量。しまりあり。



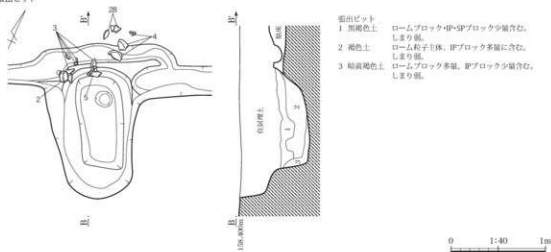
- P1-P4
- 1 黒褐色土 ローム・黒色土粒多量。IP・SP粒子含む。しまりあり。ロームブロック・IPブロック・SP粒少量含む。しまりややあり。
- 2 黒色土 ロームブロック・粒。褐色土粒多量。IPブロック含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・粒。褐色土粒多量。IPブロック含む。しまりあり。
- 4 褐色土 ロームブロック多量。ローム・褐色土粒やや多量。IPブロック・SP少量含む。しまりあり。
- 5 黒色土 ローム・IPブロック。SP粒少量。しまりあり。

第119図 小竈内II遺跡 SI-002 実測図(1)

SI-002 カマド



SI-002 張出ビット



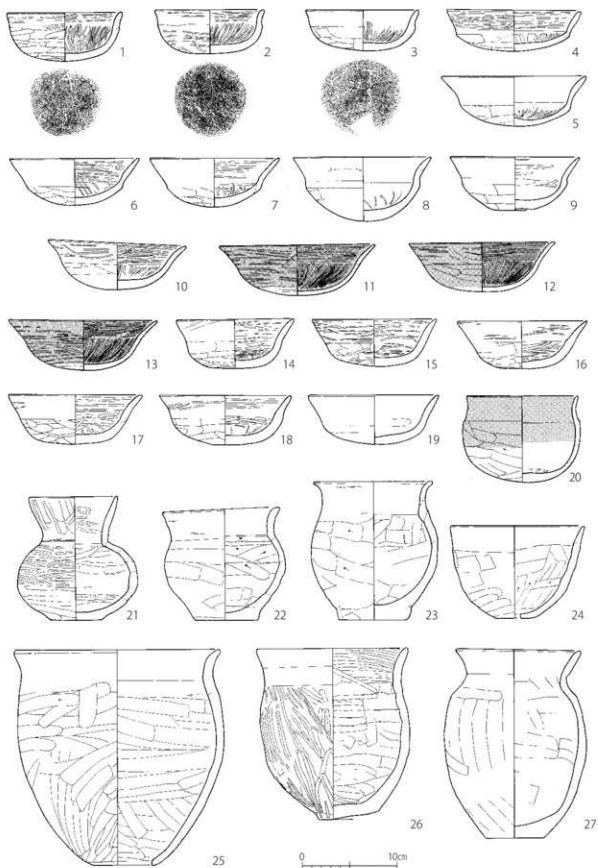
第120図 小竈内Ⅱ遺跡 SI-002 実測図(2)

2点(30、31)が出土した。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

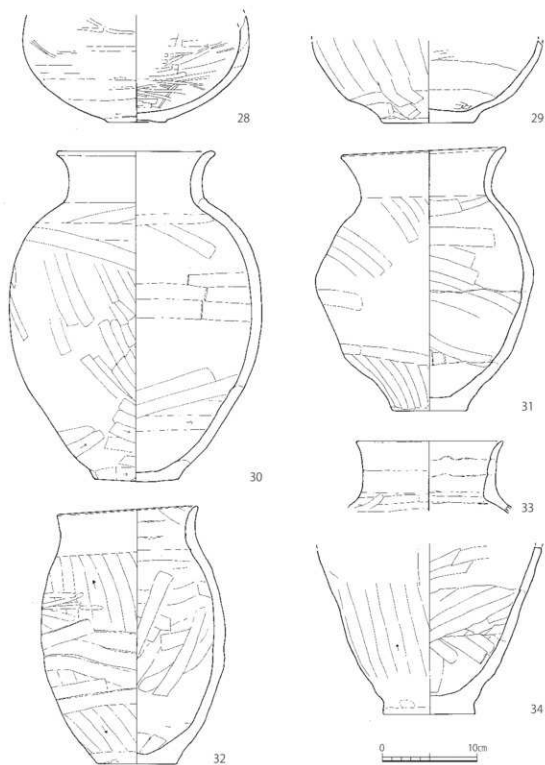
【出土遺物】当遺構では、主にカマド周壁、南西コーナー付近、張出ビット前面の3カ所で遺物がまとめて出土した。遺物は全て土師器で、図化・掲載した遺物は、坏19点(1~19)、鉢1点(20)、小型壺1点(21)、甗2点(24、25)、甗11点(22、23、26~34)である。カマド周囲には、甗の他に土環が多く、南西コーナーでは甗の比率が高い。張出ビット前面の状況は先述のとおりである。

坏は、体部外面の稜の明瞭な模倣坏(4)と、不明瞭なもの(10~19)の他に、内斜口縁碗に類似するもの2点(1、2)がみられる。11~13の3点の坏はほぼ同形同大で、赤彩され、胎土も類似する。甗は、28、29が球胴で、その他は長胴である。28は内面底部にもミガキが施され、口縁部は広いものと推測される。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉でもやや降る時期の遺構であろう。



第121図 小銅内Ⅱ遺跡 SI-002 出土遺物実測図(1)



第122図 小銅内Ⅱ遺跡 SI-002 出土遺物実測図(2)

第53-1表 小竈内II遺跡 SI-002出土遺物観察表(1)

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	出土	状況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
								口縁部	体部			
1	土師陶 杯	口径 12.1	25YR5/8 明赤褐色	細砂粒多量。	良好	7/8	口縁部	横へらミガキ	ナデ、へらミガキ	境不明瞭。底面 やや平凹。口縁 部やや外反。	床面直上	底部閉塞
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
2	土師陶 杯	口径 11.4	25YR5/6 明赤褐色	細砂粒少量。	良好	ほぼ完好	口縁部	横へらミガキ	横へらミガキ	境不明瞭。底面 やや平凹。口縁 部やや外反。	器出 ビット	底面閉塞
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
3	土師陶 杯	口径 11.8	25YR5/6 明赤褐色	細砂粒多量。	良好	7/8	口縁部	ナデ	ナデ	境やや不明瞭。口縁 部底面やや 外反。	器出 ビット	底面閉塞(※)
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
4	土師陶 杯	口径 14.2	25YR5/8 明赤褐色	砂粒多量含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横へらミガキ	横へらミガキ	境不明瞭。口縁 部は開く。	器出 ビット	
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
5	土師陶 杯	口径 13.7	25YR6/8 暗	砂粒多量。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部は大き く外反する。	床面直上	
		体部					ナデ	横へらミガキ				
		底面					ナデ	横へらミガキ				
6	土師陶 杯	口径 13.7	5YR6/8 暗	細砂粒多量。赤色 粘質層含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	口縁部は大き く開く。	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
7	土師陶 杯	口径 13.6	5YR6/6 暗	赤色粒少量含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	口縁部は外反 する。	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
8	土師陶 杯	口径 14.5	5YR6/8 暗	細砂粒少量含む。	良好	口縁部一部 欠損	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	表面に厚膜。底面 境不明瞭。赤色 が良く、粘質層	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	へらミガキ				
9	土師陶 杯	口径 13.7	5YR6/8 暗	砂粒多量含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナデ	横ナデ	首高高く、境 不明瞭。口縁部 は開く。	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	へらミガキ				
10	土師陶 杯	口径 14.5	25YR5/8 明赤褐色	赤色粘質層含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	底面外部厚膜。 境不明瞭。口縁 部は外反。	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
11	土師陶 杯	口径 16.3	10R5/6 赤	砂粒多量含む。	良好	5/6	口縁部	横へらミガキ	横へらミガキ	境不明瞭。口縁 部外反。底面外 部以外全て赤色	床面直上	器材は ベンガラ
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
12	土師陶 杯	口径 15.4	10R5/6 赤	細砂粒多量。白色 細砂粒少量含む。	良好	完好	口縁部	横へらミガキ	ナデ、横へらミガキ	境不明瞭。口縁 部外反。底面外 部以外全て赤色	床面直上	器材は ベンガラ
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
13	土師陶 杯	口径 15.6	10R5/6 赤	細砂粒少量含む。	良好	9/10、体部 一部欠損	口縁部	横へらミガキ	横へらミガキ	境不明瞭。口縁 部外反。底面外 部以外全て赤色	床面直上	器材は ベンガラ
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
14	土師陶 杯	口径 12.4	25YR5/8 明赤褐色	細砂粒多量含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	口縁部は開く。 底面平凹。	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
15	土師陶 杯	口径 13.2	5YR5/2 明赤褐色	細砂粒多量。透明 細砂粒少量含む。	良好	完好	口縁部	横へらミガキ	横へらミガキ	体部～口縁部 は直線的に開く。 境不明瞭。	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	横へらミガキ				
16	土師陶 杯	口径 13.7	5YR6/8 暗	細砂粒多量含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナデ後、へらミガキ	横ナデ後、へらミガキ	口縁部は直線的 に開く。境不明 瞭。底面平凹。	床面直上	
		体部					へらミガキ	横へらミガキ				
		底面					へらミガキ	横へらミガキ				
17	土師陶 杯	口径 14.1	5YR5/8 明赤褐色	細砂粒多量。透明 細砂粒少量含む。	良好	完好	口縁部	横へらミガキ	横ナデ後、へらミガキ	口縁部は直線的 に開く。境不明 瞭。底面平凹。	床面直上	
		体部					放射状へらミガキ	へらミガキ				
		底面					放射状へらミガキ	へらミガキ				

第53-2表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-002出土遺物観察表(2)

No.	種類 遺構	計測値 (cm)	色調	表土	地況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内部	外面				
18	土師器 杯	口径 13.8	5YR5/8 明赤褐色	細砂粒多量含む。	良好	ほぼ定存	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、一部ヘラミガキ	横不明瞭。口縁部は外反する。	床面直上	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					—	—				
19	土師器 杯	口径 15.2	2.5YR5/8 明赤褐色	赤色粒多量含む。	良好	1/2	口縁部	横ナデ	横ナデ	断面が厚減し、成形不明瞭。	床面直上	
		底面					ヘラミガキ	ナデ				
		底面					—	—				
20	土師器 鉢	口径 11.7	10YR6/4 にぶい黄褐色	細砂粒多量含む。	良好	ほぼ定存	口縁部	横ナデ	横ナデ	横不明瞭。口縁部は外反。内面・外面に凹溝。	床面直上	胎料はベンガラ
		底面					ヘラナデ	ヘラケズリ				
		底面					—	—				
21	土師器 小空甕	口径 9.2	2.5YR5/8 明赤褐色	細砂粒・赤色粒多量。	良好	ほぼ定存	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	小径の直口蓋。底面はやや突出し、平坦。	床面直上	
		底面					ヘラナデ+横ナデ	ヘラケズリ				
		底面					—	—				
22	土師器 小空甕	口径 12.4	5YR5/8 褐色	細砂粒・赤粒多量。透明磁粒と少量含む。	良好	定存	口縁部	横ナデ	横ナデ	平底。口縁部は外反。	カマド	
		底面					横ナデ	ヘラケズリ後、ヘラナデ				
		底面					ヘラナデ	ヘラケズリ				
23	土師器 小空甕	口径 12.3	2.5YR6/6 褐色	細砂粒・赤粒・小礫多量含む。	良好	3/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	平底。口縁部は外反。	床面直上	
		底面					横ヘラケズリ	横ヘラケズリ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラケズリ				
24	土師器 甕	口径 14.2	5YR5/8 明赤褐色	細砂粒・赤粒少量含む。	良好	定存	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面にミガキ無し。孔直径1.5cm	床面直上	煎焼
		底面					横ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ				
		底面					横ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラナデ				
25	土師器 甕	口径 21.4	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂粒多量含む。	良好	4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面にミガキ無し。孔直径6.2cm	床面直上	
		底面					ヘラケズリ後、ヘラナデ	ヘラケズリ				
		底面					端部を面取	横ヘラケズリ				
26	土師器 甕	口径 6.5	5YR5/8 褐色	細砂粒多量。砂粒・小礫少量含む。	良好	ほぼ定存	口縁部	横ヘラケズリ	横ナデ	広くの小空甕。磨殺の跡あり。	床面直上	外面に煎焼
		底面					ヘラケズリ後、ヘラナデ	ヘラミガキ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラミガキ				
27	土師器 甕	口径 13.3	2.5YR6/8 褐色	細砂粒・赤粒多量。透明磁粒と小礫少量含む。	良好	4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	底面の片れ傷あり。口縁部やや厚。	床面直上	
		底面					横ヘラナデ	横ヘラナデ				
		底面					新ヘラナデ	新ヘラナデ				
28	土師器 甕(高)	口径 —	5YR5/8 褐色	赤色粒少量含む。	良好	胴部下半～底面	口縁部	—	—	窪見。底面やや凹溝。大型の直口甕の残片も。	床面直上	
		底面					ナデ後、ヘラミガキ	横ヘラケズリ				
		底面					ナデ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ナデ				
29	土師器 甕	口径 —	10YR7/4 にぶい黄褐色	黒色細砂粒多量。砂粒・小礫少量含む。	良好	胴部下半～底面1/3	口縁部	—	—	厚縁。底面がやや突出。	床面直上	外面に煎焼
		底面					ヘラケズリ後、ヘラナデ	横ヘラケズリ				
		底面					ヘラケズリ後、ナデ	ナデ				
30	土師器 甕	口径 16.6	10YR5/8 黄褐色	細砂粒・白色細砂粒・黄砂・透明磁粒と小礫含む。	良好	口縁部 底面定存、胴部3/4	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	口縁部断面外反。胴部上に溝あり。	カマド	
		底面					ヘラケズリ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ				
		底面					ヘラケズリ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ				
31	土師器 甕	口径 17.0	5YR5/6 褐色	細砂粒・赤粒・小礫多量含む。	良好	ほぼ定存	口縁部	横ナデ	横ナデ	胴部がやや歪む。内外面とも丁寧なヘラミガキ。	カマド	外面に煎焼
		底面					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ後、ヘラナデ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラミガキ				
32	土師器 甕	口径 15.6	5YR5/6 褐色	細砂粒多量。砂粒・小礫少量含む。	良好	定存	口縁部	ヘラケズリ、ヘラナデ	横ナデ	口縁部断面やや外反。底面の片れ傷。長胴。	床面直上	煎焼
		底面					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラケズリ				
33	土師器 甕	口径 15.0	7.5YR8/3 浅黄褐色	細砂粒少量含む。	良好	口縁部3/4	口縁部	ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ	底面が長く、直立。口縁部断面やや外反。	床面直上	
		底面					—	—				
		底面					—	—				
34	土師器 甕	口径 —	2.5YR7/6 褐色	細砂粒・赤粒・小礫多量含む。	良好	胴部下半～底面1/3	口縁部	—	—	胴部上に溝あり。輪縁部あり。	床面直上	煎焼、復
		底面					ヘラケズリ後、ヘラナデ	横ヘラナデ				
		底面					ヘラケズリ後、ヘラナデ	ヘラケズリ後、ヘラナデ				

SI-004 (第123～125図、第54表、図版二五・二六・四六・四七)

【概要】北区南部で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。縄文時代前期のSI-003・005を切り、SK-010・015に切られる。南東10mにSI-006、南12mにはSI-007が存在する。遺構確認面は、過去の造成で北東方向に斜めに削られているが、削平は軽微である。西側の最も残りのよい部分では、壁溝は30cmある。カマドの保存状態も比較的良好である。西壁の方位は、N-39.5°-Wである。

【位置】R-25、S-25グリッドに跨る。確認面の標高は西側コーナーで158.770m、北側コーナーで158.650m、東側コーナーで158.705m、南側コーナーで158.825mである。

【規模】北西壁5.40m、北東壁5.60m、南東壁5.28m、南西壁5.57mの大きさで、ほぼ正方形を呈する。床面の標高は、西側コーナー158.460m、北側コーナー158.835m、東側コーナー158.460m、南側コーナー158.495m、中央158.500mである。床面は北東方向にやや傾斜する。床面積は28.1㎡である。

【埋土】埋土(1～5層)は概ね水平に堆積し、各層にロームブロックを多く含む。人為的な埋戻しの可能性がある。

【床面・掘形】ほぼ全面が貼床で、旧床面(6層)の上に、新たに貼床(4層)している。両層とも、表面は硬く締まっている。掘形底面は比較的凹凸が多く、カマド周囲から北側コーナーにかけての範囲や、南側コーナーはやや深く掘り穿てている。旧床面では主柱穴と壁溝を結んで間仕切り溝が3本確認された。P1から南西壁に延びるものは1.4m、幅20～25cm、深さ平均7cm、P3と南西壁を結ぶものは長さ120cm、幅25～40cm、深さ平均10cm、P4と北東壁を結ぶものは長さ120cm、幅20～25cm、深さ平均7cmの大きさである。その他、P1、P3を結ぶ線から外側には建物主軸に直交してさらに3本の短い間仕切り溝が確認された。壁からの長さは、中央の1本は70cm、その北側は長さ43cm、南側は長さ65cmである。

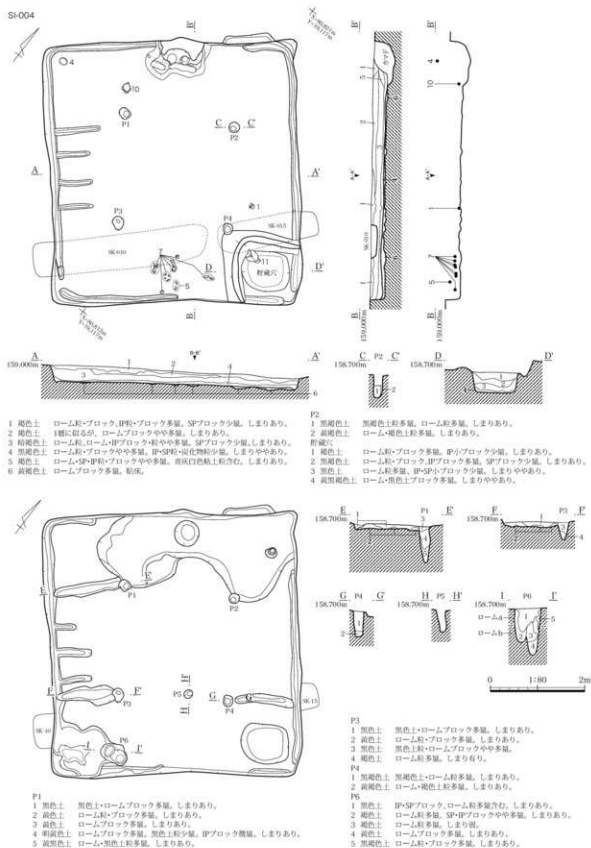
【柱穴】当遺構では、床面で4基の主柱穴(P1～4)が確認された。P1は円形で直径21～25cm、床面からの深さ76cm、P2は円形で残存部の直径23cm、床面からの深さ50cm、P3も円形で直径26～30cm、床面からの深さ38cm、P4も円形で残存部分の直径23～25cm、床面からの深さ55cmである。P2では、埋土中に柱痕が確認できた。上層の新しい貼床を除去すると、旧床面においてさらに3基のピットが確認された。P6は南側コーナーの南東壁際に存在し、柱の立て替えを示唆する、隣接する2重のピットであることが判明した。単独であり、旧入口ピットの可能性もある。

【壁溝】壁溝は、新しい床面では南側コーナー、カマドの東側、南東壁の北半分、東側コーナーにおいて途切れるが、ほぼ全周する。旧床面では西側コーナーから南西壁にかけての部分と、北東壁に沿って確認できるが、南東壁では両側に分かれて存在する。

【貯蔵穴】東側のコーナーに1基存在する。開口部平面はやや歪んだ隅丸方形で、西側には幅30～55cm、床面からの高さ7cm前後の土手状の盛土が取り巻く。建物壁側には壁周溝が存在し、貯蔵穴開口部との間に10～25cm程度の平坦部(建物床面の一部)が存在する。底面も隅丸長方形で、壁は4方向とも、急角度に立ち上がる。開口部の長軸100cm、短軸86cm、底面の長軸76cm、短軸66cmで、床面からの深さは44cmである。埋土は4層(1～4層)に分かれ、各層に、建物本体と同様にロームブロックが多量に混入し、人為的な埋戻しの可能性もある。ピット内部からは、1層から土師器壺1点(10)が出土した。

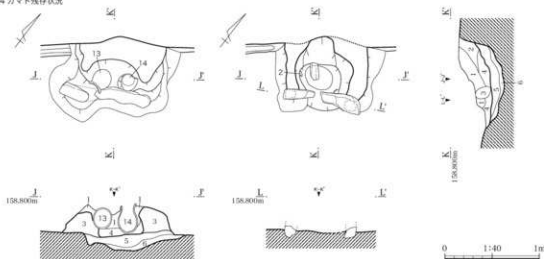
【入口ピット】先述の通り、旧床面のP6が旧入口ピットの可能性がある。新しい床面では入口ピットは確認されなかった。

【カマド】北西壁のほぼ中央に付設している。掘形は、建物掘形まで掘り抜いて、厚く貼床を施し、燃焼部底面を設け、その周囲の貼床上に、粘土を主体とした灰褐色土で袖部を構築している。カマド上面はほとんど



第123図 小鍋内II遺跡 SI-004 実測図(1)

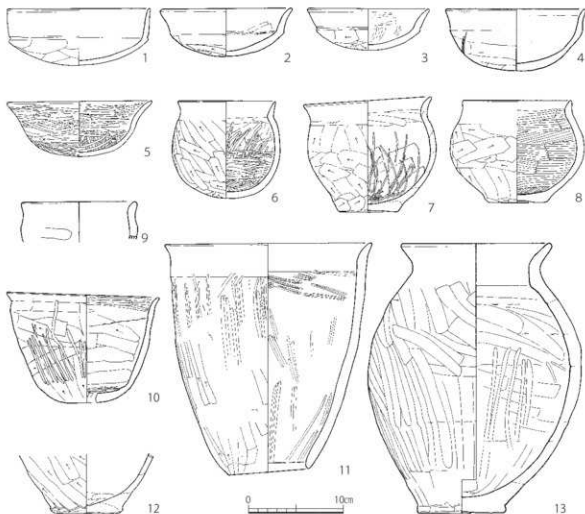
SI-004 カマド残存状況



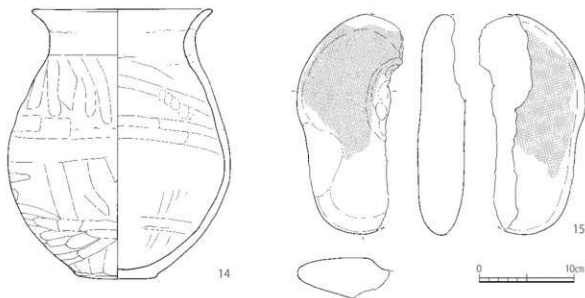
カマド

- 1 灰褐色土 rome-褐色土粒多量、IP粒を含む、しまりあり。
- 2 褐色土 焼土ブロック多量、しまりなし。
- 3 灰褐色土 灰褐色粘土多量、SP+IPブロック散在、しまりあり。

- 4 赤褐色土 焼土ブロック多量、黒色土ブロックを含む、しまりややあり。
- 5 黒色土 rome-ブロック多量、焼土ブロック、IP+SP粒やや多量、しまりあり。
- 6 灰褐色土 rome-ブロック-褐色土粒多量、IPブロックSP粒多量、しまりあり。



第124図 小銅内II遺跡 SI-004 実測図(2)及び出土遺物実測図(1)



第125図 小銅内Ⅱ遺跡 SI-004 出土遺物実測図(2)

第54-1表 小銅内Ⅱ遺跡 SI-004出土遺物観察表(1)

No.	種類 器種	寸法 径(高)	色調	出土	形状	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内部	外部				
1	土師器 埴	口径 15.2 底径 — 高さ 5.6	5YR6/8 黄	細砂粒多量含む。	良好	2/3	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	遺構外の埴、 口縁部直立。	床面直上		
2	土師器 埴	口径(14.0) 底径 — 高さ 5.0	2.5YR5/8 明赤褐	白色細砂粒・黒色細 砂粒少量含む。	良好	1/4	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	口縁部外反。	カマド	煎焼、燻	
3	土師器 埴	口径(13.0) 底径 — 高さ 4.4	2.5YR5/8 明赤褐	細砂粒多量含む。	良好	口縁部1/2欠 部1/3	口縁部 横ミガキ	外部 横ナデ	横明焼、内面 と外面共に肉 色焼しい。	床面直上		
4	土師器 埴	口径 14.9 底径 — 高さ 6.4	5YR6/6 黄	細砂粒多量、赤褐色 ・透明細砂粒少量。	良好	完存	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	体部外面に肉 色、口縁部 内面一部赤焼。	床面直上	原料は ペンガラ	
5	土師器 埴	口径 15.4 底径 — 高さ 5.9	5YR6/6 黄	黒赤、黒色細砂粒 微量含む。	良好	口縁部1/2欠 損、他ほぼ 完存	口縁部 横ミガキ	外部 横ミガキ	口縁部外反。	床面直上		
6	土師器 埴	口径 10.2 底径 — 高さ 10.3	2.5YR5/8 明赤褐	微赤、白色細砂粒 少量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	横不明焼。底 部外面に肉色。	床面直上		
7	土師器 小型 埴	口径 13.6 底径 8.4 高さ 11.8	5YR6/4 に赤い黄	砂粒多量含む。	良好	口縁部・底 部4/5	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	平焼。口縁部 外反。	床面直上		
8	土師器 小型 埴	口径(11.6) 底径 6.2 高さ 10.8	5YR5/4 に赤い黄	砂粒多量含む。	良好	口縁部・体 部2/5、底部 完存	口縁部 横ナデ	外部 横ハケ	平焼、ハケ多 量。	床面直上		
9	土師器 小型 埴	口径(12.0) 底径 — 高さ 4.1	10YR6/4 に赤い黄	細砂粒多量、砂粒 少量含む。	良好	口縁部のみ 1/8	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	煎焼・燻しい。陶 形坯の可能性 もあり。	埋土		
10	土師器 埴	口径 16.3 底径 3.5 高さ 11.7	7.5YR7/8 黄	細砂粒・砂粒少量含む。	良好	完存	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	粗いヘラミガ キ、単孔。孔 径2.3cm。	床面直上	煎焼	
11	土師器 埴	口径 22.0 底径 8.6 高さ 24.6	10YR8/6 黄	細砂粒・赤褐色・白 色細砂粒含む。	良好	ほぼ完存	口縁部 横ナデ	外部 ヘラミガキ	ヘラミガキ多 量、孔直径8.2cm。	西壁下		
12	土師器 埴	口径(7.8) 底径(6.2) 高さ 15.5	2.5YR5/6 明赤褐	細砂粒多量含む。	良好	底部1/3	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	2次煎焼による 肉色の化著しい。	床面直上		
13	土師器 埴	口径 9.1 底径 28.4	10YR7/4 に赤い黄	砂粒多量、小礫 量含む。	良好	完存	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	内面にヘラミ ガキ、辛辛 煎焼。	カマド		
14	土師器 埴	口径 8.4 底径 28.5	10YR7/3 に赤い黄	砂粒多量含む。	良好	口縁部1/3欠 損	口縁部 横ナデ	外部 横ナデ	煎焼下部に肉 色。	カマド		

第54-2表 小銅内Ⅱ遺跡 SI-004出土遺物観察表(2)

No.	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
15	土師器	土師	23.30	11.30	4.95	1267.31	1/2	床面直上	表面に肉色、ペンガラ付着。全体的に煎焼による赤褐色化。

ど削平を受けていないため、両袖部とも保存状態は比較的良好である。袖部は芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けている。袖部先端には長さ25cm前後の川原石を立て、その上に軟質砂岩の棒状の割石を掛け渡して焚き口を構成していた。この割石は中央から2つに割れていた。燃焼部の火床面中央には、軟質砂岩の割石の支脚が1本、傾いた状態で出土した。煙道の突出はきわめて僅かで、燃焼部から急角度に立ち上がっている。天井は崩落して埋土の土層中で確認できた。燃焼部から土師器環1点(2)、甕2点(13、14)が出土した。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

【出土遺物】当遺構では、西側コーナー、カマド周壁、南東壁沿い、貯蔵穴内の4カ所で遺物が出土した。遺物は土師器と石皿である。図化・掲載した遺物は、坏5点(1～5)、鉢3点(6～8)、甕2点(10、11)、甕3点(12～14)である。

坏は、忠実な蓋模倣坏(1)が存在し、5は稜の不明瞭なもので、口縁部が外反する。鉢には丸底(6)と平底(7、8)がみられる。甕には底部孔の大きいもの小さいものが見られる。甕は28、29は長胴化が進んでいる。15の石皿は硬砂岩製で、各面の研磨が進んでいる。縦に折損しているが表面には鉄分が付着しており、ベンガラ等の生成に用いられたものかも知れない。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉の遺構であろう。

SI-006 (第126～128図、第55表、図版二六・四七・四八)

【概要】北区南部で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。埋土の範囲内に長方形土坑のSK-011が存在するが、その底部は、ちょうどSI-006の床面に達している。北東5mにSI-004、南4mにはSI-007が存在する。遺構確認面の、造成による削平は軽微である。西側の最も残りのよい部分では、壁溝は60cmあり、カマドの保存状態も良好である。西壁の方位は、N-2°-Wである。

【位置】R25グリッドに位置する。確認面の標高は北西側コーナーで159.240m、北東コーナーで159.135m、南東コーナーで159.170m、南西コーナーで159.310mである。

【規模】西壁4.35m、北壁4.20m、東壁3.95m、南壁4.08mの大きさで、ほぼ正方形を呈する。床面の標高は、北西側コーナー158.440m、北東側コーナー158.750m、南東側コーナー158.850m、南西側コーナー158.900m、中央158.840mである。床面は北東方向にやや傾斜する。床面積は16.2㎡である。

【埋土】埋土(1～5層)は概ねレンズ状堆積であり、各層の粒子も細かく大きさもそろっているため、自然埋没であろう。4層はロームブロック等を含む黄褐色土で、床面直上に薄く広がっていることから、土層根の崩落層の可能性もある。

【床面・掘形】貼床の範囲は全面におよび、表面は硬く締まっている。掘形底面は凹凸が多く、床面中央からカマドにかけての範囲を、周囲より20cm程度掘り窪めている。また、北西と北東のコーナーも同様に掘り下げている。床面では、西側の主柱穴であるP1とP4の間に西壁から延びる間仕切り溝が確認された。各溝の東端は南北方向の溝でつながり、全体で「目」字型に溝が配される。南東のP4の東側にも短い間仕切り溝が存在する。これらの溝幅は20～30cm、深さ平均5～7cm程度である。また、南壁の中央には幅1.1m、奥行き0.85mの半円形に床面が1段高くなり、著しく硬化する。この段は南壁際の周溝によって壁から分離している。

【柱穴】当遺構では、床面で4基の主柱穴(P1～4)および南西コーナーで浅い楕円形ピットP5が確認された。P1は円形で直径26cm、床面からの深さ62cm、P2は円形で残存部の直径25cm、床面からの深さ65cm、P3も円形で直径31～35cm、床面からの深さ58cm、P4も円形で残存部分の直径19～23cm床面からの深さ53cmである。

P1・2では、埋土中に柱痕が確認できた。P5は長軸46cm、短軸27cm、深さ11cmの浅い掘り込みである。

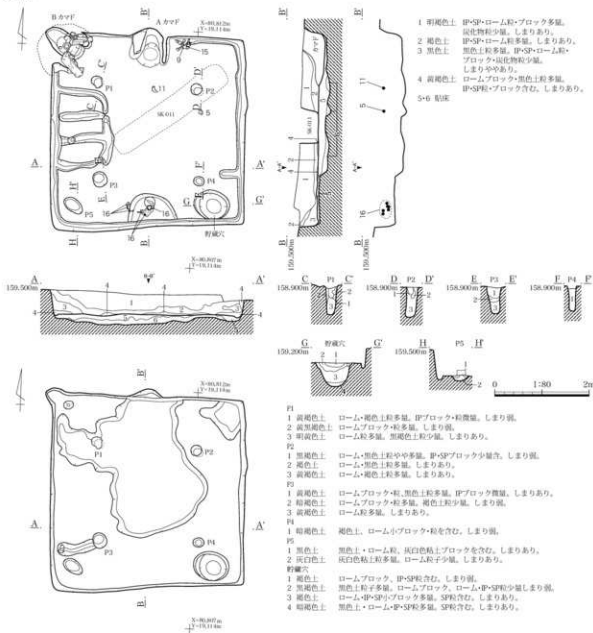
【壁溝】壁溝は、北西コーナーから北壁の西半分を除いて、全ての壁際に存在する。

【貯蔵穴】南東側のコーナーに1基存在する。開口部平面はやや歪んだ楕円形で、底部は凹面となり円形である。開口部の長軸78cm、短軸62cm、底面の直径31cmで、床面からの深さは50cmである。埋土は4層（1～4層）に分かれ、各層に、ローム、七本椀バミス、今市バミスなどのブロックが混入する。

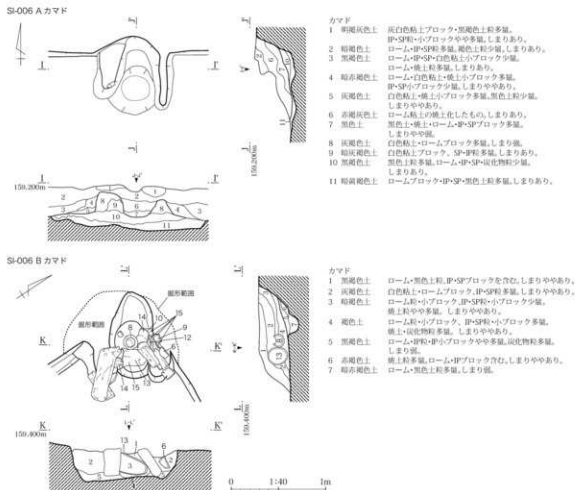
【入口ピット】入口ピットは存在しないが、先述の通り、南壁中央に半円形の段があり、入口施設の可能性がある。

【カマド】北西壁のほぼ中央（Aカマド）と、北西コーナー（Bカマド）の2カ所にカマドが付設される。Aカマドの掘形は、建物貼床をカマド本体より一回り大きく掘り窪め、厚く貼床を施し、燃烧部底面を設け、そ

S-006



第126図 小鍋内Ⅱ遺跡 S1-006 実測図(1)



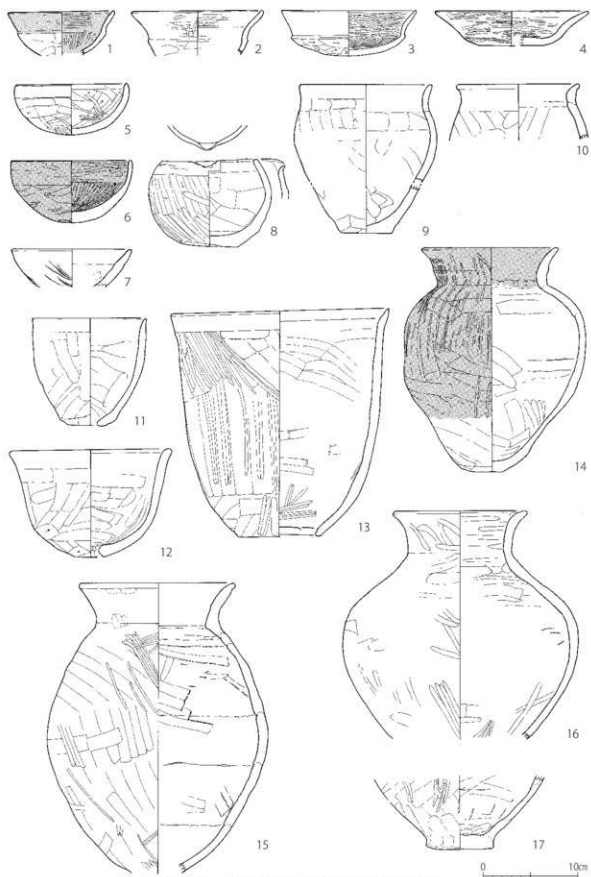
第127図 小鍋内II遺跡 SI-006 実測図(2)

の周囲の貼床上に、灰白色粘土を主体とした灰褐色土で袖部を構築している。カマド上面はあまり削平を受けていないため、両袖部とも保存状態は良好である。袖部は芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けられている。火床面はあまり凹まず平坦である。煙道の突出はきわめて僅かで、燃烧部から急角度に立ち上がっている。天井は崩落して埋土中に痕跡が確認できた。カマド内面はよく焼けて焼土化している。遺物は袖部の外側周囲で土師器裏(9、15)などが出土している。Bカマドは所謂コーナーカマドである。主軸は建物壁面とほぼ45°方向になる。掘形は遺構外に大きく突出し、内側に燃烧部や袖部の基部になる灰白色が厚く貼られていた。カマド本体は激しく崩壊しており、袖部の芯材が折り重なっていた。袖石と袖石の間には土師器裏(15)と甕(13)が陥没・転倒した状態で出土した。以上から、Aカマド、Bカマドは併存したものと考えられる。

【出土遺物】当遺構では、A・Bカマド内部および周壁、入口施設周壁の2カ所で遺物の集中が見られた。遺物は全て土師器である。図化・掲載した遺物は、坏7点(1~7)、鉢1点(8)、甕3点(11、12、13)、裏6点(9、10、14~17)である。

坏は、横倣坏(1~3)、稜線が不明瞭で口縁部が開くもの1点(4)、碗形のもの3点(5~7)が存在する。鉢(8)には注口が付く。平底(7、8)、碗形がみられる。甕には底部孔の大きいもの小さいものが見られる。裏には、長胴化が進んだものが見られる。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉の遺構と考えられる。



第128図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-006 出土遺物実測図

第55表 小鍋内II遺跡 SI-006出土遺物観察表

No.	種類 図録	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師陶 坪	口径 (11.4)	7.5YR6/0 橙	細砂粒・砂粒少量 含む。	良好	1/8	口縁部	横へラミガキ	へラミガキ	口縁部中や内 側、内面と外面 上平に赤褐色。	表面面上	胎料は ベンガラ
		底面					放射状へラミガキ	へラケズリ後、へラナデ				
		底面					—	—				
2	土師陶 坪	口径 (14.0)	7.5YR7/0 橙	細砂粒・黒色細砂粒 少量含む。	良好	口縁部～体 部1/3	口縁部	へラミガキ	へラミガキ	口縁部は大き く開く。端部 やや内湾。	埋土	
		体部					へラミガキ	横へラケズリ				
		底面					—	—				
3	土師陶 坪	口径 (14.5)	7.5YR7/0 黄橙	赤色粒少量含む。	良好	口縁部～底 部3/4	口縁部	横ミガキ	横ナデ	外面にφ12cm のリング状の 凹凸付	Bカマド	
		体部					—	—				
		底面					放射状ミガキ	へラケズリ				
4	土師陶 坪	口径 (16.4)	7.5YR6/0 橙	細砂粒・黒色細砂粒 少量含む。	良好	1/5	口縁部	横へラミガキ	へラミガキ	口縁部が割さ り、縁部内側	表面面上	
		体部					横へラミガキ	へラナデ後、へラミガキ				
		底面					放射状へラミガキ	へラミガキ				
5	土師陶 銅形鉢	口径 (12.2)	5YR5/6 明赤褐	細砂粒多量、砂粒 ・黒色細砂粒少量 含む。	良好	1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	横不明瞭。割 破が強い。	表面面上	
		体部					へラナデ後、へラミガキ	へラナデ後、へラミガキ				
		底面					へラナデ後、へラミガキ	へラナデ後、へラミガキ				
6	土師陶 坪	口径 13.0	2.5YR5/0 明赤褐	細砂粒多量、透明 細砂粒・砂粒・少量 含む。	良好	欠存	口縁部	横へラミガキ	横へラミガキ	横不明瞭。内 面と外面共に 赤褐色。	Bカマド	胎料は ベンガラ
		体部					へラケズリ、へラナデ	へラナデ後、へラミガキ				
		底面					放射状へラミガキ	不定方向へラケズリ				
7	土師陶 坪	口径 (12.7)	2.5YR6/0 橙	細砂粒・砂粒少量 含む。	良好	1/6	口縁部	へラナデ	ナデ	口縁部内側に 横。体部外面に 内湾し、	埋土	
		体部					へラナデ	へラケズリ				
		底面					—	—				
8	土師陶 片1口	口径 10.0	7.5YR7/0 黄橙	白色細砂粒多量、 透明細砂粒・細砂粒 ・小礫含む。	良好	欠存	口縁部	横ナデ	横ナデ	縁部縁に1口注 り、平縁。	Bカマド	
		体部					へラケズリ後、へラミガキ	へラナデ				
		底面					へラミガキ	へラミガキ				
9	土師陶 小甕	口径 (14.1)	10YR7/0 明赤褐	細砂粒・砂粒・小礫 多量、黒色細砂粒 少量含む。	良好	1/2	口縁部	横ナデ	横ナデ	広口で、胴部 上段に最大径。	Bカマド	
		体部					へラケズリ、へラナデ	へラケズリ後、へラナデ				
		底面					へラケズリ、へラナデ	へラケズリ、へラナデ				
10	土師陶 小甕	口径 (13.1)	7.5YR6/0 橙	細砂粒少量含む。	良好	口縁部1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	広口縁、唇部 厚い。	Bカマド	
		体部					へラケズリ、へラナデ	へラケズリ後、へラナデ				
		底面					—	—				
11	土師陶 甕	口径 (12.0)	5YR6/0 橙	細砂粒少量含む。	良好	1/10	口縁部	横ナデ	横ナデ	ミガキ無し。 孔直径1.4cm。	表面面上	
		体部					へラナデ後、へラミガキ	へラナデ後、へラミガキ				
		底面					へラナデ後、へラミガキ	へラナデ後、へラミガキ				
12	土師陶 甕	口径 17.4	7.5YR6/0 橙	白色細砂粒多量、 透明細砂粒・砂粒・ 小礫少量含む。	良好	欠存	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部外反、 孔直径3.0cm。	Bカマド	黒炭
		体部					へラナデ後、へラミガキ	へラケズリ、へラナデ				
		底面					へラケズリ、へラナデ	へラケズリ、へラナデ				
13	土師陶 甕	口径 23.0	5YR7/0 橙	細砂粒・白色細砂粒 ・赤色粒・小礫含む。	良好	体部一部欠 存。ほぼ欠 存	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部外反、 孔直径7.4cm。	Bカマド	
		体部					へラナデ後、へラミガキ	横へラミガキ				
		底面					へラケズリ後、へラミガキ	へラミガキ				
14	土師陶 甕	口径 14.4	10YR3/2 黒褐	細砂粒・砂粒多量 含む。	良好	4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ、へラミガキ	胴部下平が凸 まる。口縁内 面～胴部下平 に赤褐色。	Bカマド	胎料は ベンガラ
		体部					へラナデ後、へラミガキ	へラナデ後、へラミガキ				
		底面					へラケズリ	不定方向へラケズリ				
15	土師陶 甕	口径 16.4	10YR7/0 明赤褐	細砂粒・白色細砂粒、 赤色粒・少量含む。	良好	口縁部外反、 体部3/4	口縁部	横ナデ	横ナデ、指オセ	やや内湾、 口縁中に最大 径。	Bカマド	
		体部					へラナデ	へラミガキ後、へラミガキ				
		底面					—	—				
16	土師陶 甕	口径 14.1	7.5YR7/4 に赤い橙	砂粒・細砂粒多量 含む。	良好	底面欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	首部がやや凸 まる。胴部中 段に最大径。	埋土	外面に 黒炭
		体部					へラナデ後、へラミガキ	へラナデ後、へラミガキ				
		底面					—	—				
17	土師陶 甕	口径 7.2	10YR6/4 に赤い黄橙	黄褐色。細砂粒少量 含む。	良好	底面2/3	口縁部	—	—	底面突出し、 体部外側に黒 炭付	Bカマド	
		体部					横へラナデ	へラナデ後、粗ミガキ				
		底面					不定方向横ナデ	不定方向へラナデ				

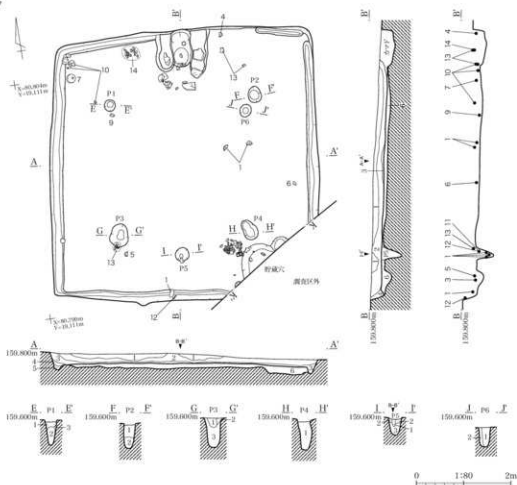
SI-007 (第129~131図、第56表、図版二六・二七・四八)

【概要】北区南端で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。南東コーナーは調査区外になる東方4.3mにSI-008、北方4mにSI-006が位置する。他遺構との切り合いは無い。遺構確認面は、過去の造成で北東方向に斜めに削られている。南側の最も残りのよい部分では、壁高は30cmである。カマドの保存状態も比較的良好である。西壁の方位は、N-8.5°-Eである。

【位置】R-25・26グリッドに跨る。確認面の標高は南西側コーナーで159.750m、北西コーナーで159.620m、北東コーナーで159.520mである。

【規模】西壁5.35m、北壁5.45m、東壁4.08m、南壁3.60mの大きさで、ほぼ正方形を呈する。床面の標高は、北西側コーナー159.370m、北東側コーナー159.200m、南東側コーナー159.200m、南西側コーナー159.450m、中央159.380mである。床面は北東方向にやや傾斜する。床面積は30.3㎡である。

SI-007



- 1 黒色土 SP小ブロック・粘・SP粘多量、ローム粘少量、しまりあり。
 2 黒褐色土 ロームIP・SP小ブロック・粘少量、しまりややあり。
 3 黒褐色土 ローム・IP・SP小ブロック・粘少量、炭化物粘多量、しまりあり。
 4 黒褐色土 IP・SP粘やや多量、しまり弱。
 5 暗褐色土 ローム粘・ロームブロック・粘やや少量、SP粘少量、しまりあり。
 6 褐色土 ローム・SP・褐色土多量、しまりあり。

- P1
 1 暗褐色土 ローム粘多量、ローム小ブロック・IP・SP粘少量、しまりややあり。
 2 褐色土 ローム粘・ロームブロック・粘やや多量、しまりややあり。
 3 暗褐色土 ローム粘・ローム粘土多量、しまりややあり。

- P2
 1 暗褐色土 ローム粘多量、褐色土・ローム小ブロック・IP・SP粘含む、しまり弱。
 2 褐色土 ローム小ブロック・IP・SP粘少量、しまりややあり。

- P3
 1 暗褐色土 ロームブロック・粘多量、SP小ブロック・SP粘やや多量、IP粘少量、しまりややあり。
 2 暗褐色土 ロームブロック・粘多量、SP小ブロック・SP粘多量、しまり弱。
 3 暗褐色土 ロームブロック・粘多量、IP・SP粘・IP・SP粘少量、しまり弱。

- P4
 1 暗褐色土 ローム小ブロック・粘・褐色土粘多量、しまり弱。
 2 暗褐色土 ローム粘多量、IP小ブロック少量、しまりややあり。
 3 暗褐色土 ローム粘・SP小ブロック少量、しまりややあり。

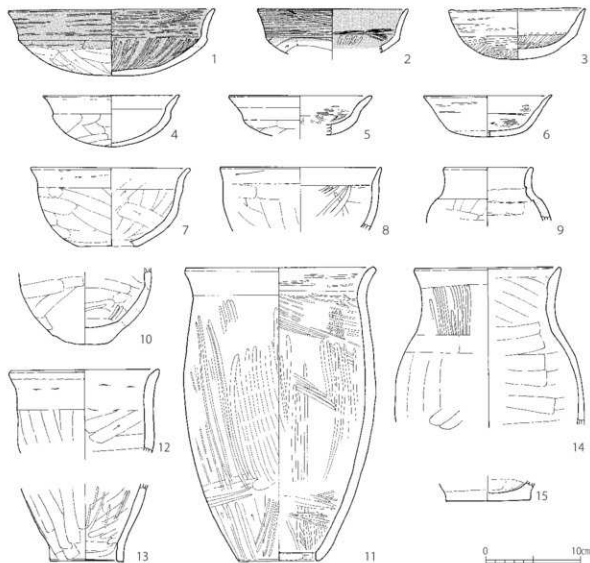
- P6
 1 暗褐色土 ロームブロック・粘多量、IP・SP粘少量、しまりややあり。
 2 黄褐色土 ローム・褐色土粘多量、IP・SP小ブロック含む、しまりややあり。

第129図 小竈内II遺跡 SI-007 実測図(1)

【埋土】埋土（1～3層）はレンズ状堆積で、各層にロームブロック等は少なく、自然埋没と考えられる。

【床面・柱穴・掘形】全面が貼床で、表面は硬く締まっている。4本の主柱穴（P1～4）と入口ピットと考えられるP5が確認された。P1は円形で直径23cm、床面からの深さ53cm、P2は円形で直径30～35cm、床面からの深さ54cm、P3も円形で直径34～51cm、床面からの深さ63cm、P4も円形で直径30～45cm、床面からの深さ64cmである。P3では、埋土中に柱痕が確認できた。P5は円形で直径30cm、床面からの深さ39cmである。埋土には柱痕が確認できる。南東コーナーには貯蔵穴がある。掘形底面は比較的凹凸が少なく中央が僅かに凹む。南壁と東壁に沿った範囲では、やや深く掘り進めている。また、旧床面では主柱穴（P1～4）と入口ピット（P5）以外に、P1、P2の南側で、旧主柱穴であるP6、P7が発見され、当建物は北側に拡張されていたことが判明した。P3とP4は新旧共用であるが、新しい柱はやや南側に据え付けられたと考えられ、柱穴が拡張されている。P3、P7からは西壁に向かって間仕切り溝が延びる。また、北壁際にP7が存在するが、北西向きに斜めに穿たれており、当遺構との関係は不明である。

【壁溝】壁溝は、ほぼ全周すると考えられるが、カマドの東側と北東コーナーにおいて途切れる。南東コーナー部分の状況は、調査区外のため不明である。



第131図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-007 出土遺物実測図

第56表 小竈内II遺跡 SI-007出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師器 大型片	口径 (21.7)	10R6/4 に赤い赤褐	砂粒多量、透明細 砂粒・赤色粒微量含 む。	良好	1/2	口縁部	横ナズ後、ヘラミガキ	横ナズ後、ヘラミガキ	極めて大型、 内面と外面上 平に削平。	貯蔵穴	胎土は ベンガウ
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		体部					—	—				
2	土師器 環	口径 (16.0)	2.5YR4/6 赤褐	白色細砂粒・透明細 砂粒少量含む。	良好	口縁部～体 部1/6	口縁部	横ナズ	横ナズ	摩耗差しい、 内面～口縁部 外面に赤褐。	埋土	胎土は ベンガウ
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
3	土師器 環	口径 14.5	2.5YR5/6 明赤褐	赤色粒少量含む。	良好	口縁部～底 部4/5	口縁部	横ナズ	横ナズ	外面底面、内 面に赤色。	床面直上	
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
		底面					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
4	土師器 環	口径 (14.6)	7.5YR7/6 橙	白色細砂粒・雲母微 量含む。	良好	口縁部～体 部1/8	口縁部	横ナズ	横ナズ	口縁広く外縁、 内面の磨耗著 しい。	カマド	
		体部					ヘラケズリ後、ヘラナズ	ヘラケズリ後、ヘラナズ				
		底面					ナズ	不定方向ヘラケズリ				
5	土師器 片	口径 (15.4)	5YR5/6 明赤褐	白色細砂粒・黒色細砂 粒・雲母少量含む。	良好	口縁部～体 部1/8	口縁部	横ナズ	横ナズ	磨耗深い、口 縁部は広く外 面に赤。	床面直上	
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
		底面					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
6	土師器 環	口径 (13.5)	2.5YR6/8 橙	赤色粒少量含む。	良好	口縁部～底 部1/3	口縁部	横ナズ	横ナズ	体部～口縁部 底面に黒く、 底面平坦。	床面直上	
		体部					横ナズ	横ナズ				
		底面					ミガキ	横ナズ、ヘラケズリ				
7	土師器 鉢	口径 16.8	5YR6/6 橙	白色細砂粒少量、 透明細砂粒微量含 む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナズ	横ナズ	底面に焼成後の 黒い敷に転写 か、孔直径3.6m	床面直上	
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
8	土師器 鉢	口径 (17.2)	5YR6/6 橙	白色・黒色・透明細 砂粒少量含む。	良好	口縁部～体 部1/8	口縁部	横ナズ	横ナズ	赤褐色外縁、 カマド		
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
9	土師器 小型 壺	口径 (9.8)	7.5YR5/4 に赤い赤褐	雲母・透明・黒色細砂 粒・透明細砂粒少量 含む。	良好	口縁部～体 部上1/8	口縁部	横ナズ、ヘラミガキ	横ナズ、ヘラミガキ	頸部は直立、 口縁部はやや 外反。	床面直上	
		体部					—	—				
		底面					—	—				
10	土師器 小型 壺	口径 6.3	5YR5/4 に赤い赤褐	雲母・白色・透明細 砂粒少量。	良好	体部～底面 部3/5	口縁部	横ナズ	横ナズ	底面はやや突 出。	床面直上	
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラナズ				
		底面					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラナズ				
11	土師器 壺	口径 (21.0)	5YR6/8 橙	小粒・白色・透明細 砂粒少量。	良好	口縁部～底 部2/5	口縁部	横ナズ	横ナズ	頸部中央が膨れ る。ヘラミガキ 多量、孔直径2m。	埋土	
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
		底面					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
12	土師器 壺	口径 (8.1)	5YR6/6 橙	白色細砂粒・雲母・ 砂粒少量含む。	良好	口縁部～体 部1/5	口縁部	横ナズ	横ナズ	壺の中間部あり、 また被覆により赤 色表出し。	カマド	
		体部					ヘラケズリ後、ヘラナズ	ヘラケズリ後、ヘラナズ				
		底面					—	—				
13	土師器 壺	口径 7.5	2.5YR6/8 橙	雲母・白色・透明細 砂粒少量。	良好	体部～底面 部1/3	口縁部	—	—	底面がやや凸 まる。孔径 (4) cm。	床面直上	
		体部					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラナズ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラケズリ				
14	土師器 壺	口径 (15.0)	5YR4/3 に赤い赤褐	透明・白色細砂粒含 む。	良好	口縁部～体 部1/5	口縁部	斜ヘラナズ	横ナズ	外面外面にヘ ラミガキ。	床面直上	
		体部					斜ヘラケズリ	ヘラナズ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
15	土師器 壺	口径 (8.8)	7.5YR6/1 に赤い赤褐	黒色・白色細砂粒・ 雲母粒含む。	良好	底面2/5	口縁部	—	—	平底。	カマド	
		体部					—	—				
		底面					ヘラナズ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ				

【貯蔵穴】南東側のコーナーに1基存在する。約半分は調査区外のため、詳細は不明である。開口部平面はやや歪んだ隅丸方形と思われる、底面もほぼ同形である。調査区境界部分での幅は92cm、奥行き45cmで、床面からの深さ75cmである。壁は北方向、西方向とも、急角度に立ち上がる。埋土は6層（1～6層）に分かれ、ロームブロックが多量に混入する層も確認でき、人為的な埋戻しの可能性もある。内部からは、土師器環1点（1）が出土したが、開口部の北西床面では土師器壺（11）、小型壺（12）が破片の状態でもとまって出土した。

【入口ピット】先述の通り、旧床面のP6が入口ピットの可能性がある。

【カマド】北壁のほぼ中央に付設している。掘形は、建物掘形まで掘り抜いて、貼床を施し、燃焼部底面を設け、その周囲の貼床上に、ロームを主体とした黄褐色土で袖部を構築している。カマド上面がやや削平を受け

ているが、両袖部とも保存状態は比較的良好である。袖部は芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けられている。袖部先端や、その周囲には被熱した砂岩の破片が多数散乱し、袖部先端と焚口のブリッジ部分に砂岩が用いられていたものと考えられる。燃焼部の火床面奥には、軟質砂岩の割石の支脚が1本立ったままの状態出土した。煙道の突出はほとんど無く、燃焼部から急角度に立ち上がっている。天井は崩落して埋土の土層中で確認できた。燃焼部から土師器環2点(8、4)が出土した。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

【出土遺物】当遺構では、主にカマド燃焼部、カマド西脇、北西側コーナー、P3開口部、貯蔵穴北西で遺物が出土した。図4・掲載した遺物は全て土師器で、環6点(1～6)、鉢2点(7、8)、甕3点(11～13)、甕2点(14、15)である。

環では、模倣環(1)は極めて大型で、赤彩される。3、5、6は稜の不明瞭なもので、口縁部が開く。7と8は鉢である。9、10は小型の甕で、12は口縁部が広く開口することから甕と推測される。13の甕底部はやや突出する特異な形状である。14は甕と推測されるが、胴部の長胴化は進んでいると考えられる。

【時期】出土遺物から、6世紀前半の遺構と考えられる。

SI-008 (第132・133図、第57表、図版二七・四八)

【概要】北区南端で確認された方形平面の竪穴建物跡である。遺構の2/3は調査区外で、北壁と北東コーナー及び西壁の1/2までが調査できた。北西コーナーはSK-013に切られ、埋土に掘り込まれたピットS-032・033・034・036・037も床面を切っている。西側4mにはSI-007が存在する。遺構上面は削平を受け、北西方向に緩く傾斜している。西壁の方位は、N-12°-Wである。

【位置】S-25グリッドに位置する。確認面標高は西側コーナー部分の上端で159.105m、北コーナーで158.985m、東コーナーで158.920m、南コーナーで159.430mである。

【規模】西壁の調査長2.8m、北壁の推定長6.2m、東壁の調査長0.97mである。床面の標高は、北西側コーナー158.760m、北東側コーナー158.580m、床面中央158.650mである。床面はほぼ水平である。調査した床面積は14.0㎡である。

【埋土】7層(1～7層)に分層される。ロームブロックを含む層も目立つが、概ねレンズ状堆積と判断できる。自然埋没と考えられる。

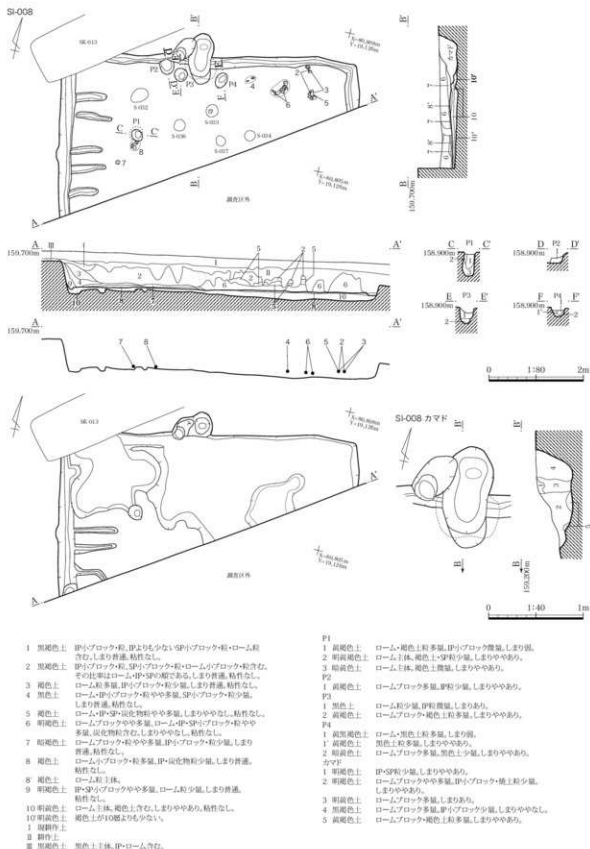
【床面・掘形】床面は調査範囲では貼床で、部分的に2層になる。西壁からは間仕切り溝5条が東に向かって延びる。主柱穴に繋がるものはない。掘形は、北東側が低く、北西コーナー部分はさらに一段低くなる。掘形底面においても間仕切り溝が確認できるが、南端の1本は先端で南側にL字状に曲がるのが判明した。

【柱穴・入口ピット】主柱穴は北西側の1基(P1)が確認された。平面は円形で直径22～28cm、床面からの深さ51cmである。埋土中に柱痕が確認できる。この他、カマド西側の北壁際にP2が存在する。平面は半円形で直径33cm、床面からの深さ18cmと浅い。入口ピットは、調査範囲には存在しない。

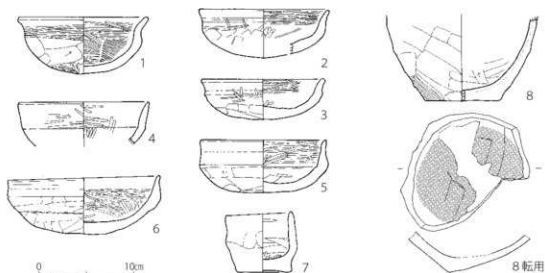
【壁溝】調査範囲では完周する。

【貯蔵穴】調査範囲には存在しない。

【カマド】北壁のほぼ中央に付設している。カマド本体は完全に壊れ、白色粘土の散布範囲として確認されたに留まる。カマド内部は、埋土断面の状況からも、激しく崩れている様相が看取される。掘形のみが残る状態であった。カマドの西側に接してピットが存在するが、東側に対になるものは確認されず、カマドに伴うか否かは不明である。一方、焚き口位置の左右に1対のピットが確認され、袖の先端を示すと考えられる。カマド内面はよく焼けて焼土化している。



第132図 小鍋内II遺跡 SI-008 実測図



第133図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-008 出土遺物実測図

第57表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-008出土遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土師陶 楕円形 口縁	14.4	2.5Y2/1 黒	白色粉少量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	横ナデ	口縁部が厚く 残存。	埋土	
		底面					ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラナデ後、ヘラミガキ			
2	土師陶 環	14.0	7.5Y06/6 黒	黒砂粒・白色細砂粒・赤色粒・雲母少量含む。	良好	口縁部～体部1/3	口縁部	ヘラミガキ	口縁部が厚く、 残存。	床面上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			
3	土師陶 環	13.0	10YR5/2 灰黄褐色	黒砂粒・白色細砂粒・赤色粒・雲母少量含む。	良好	口縁部～体部1/6、底面1/3	口縁部	ヘラミガキ	器壁厚い。残存。	床面上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			
4	土師陶 環	14.0	5Y06/6 黒	黒砂粒・赤色粒含む。	良好	口縁部～体部1/8	口縁部	ヘラミガキ	口縁部直立。	床面上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラミガキ			
5	土師陶 環	13.5	10YR7/3 に濃い灰褐色	黒砂粒・白色細砂粒・赤色粒・雲母少量含む。	良好	1/2	口縁部	ヘラミガキ	口縁部直立。 残存。	床面上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			
6	土師陶 環	16.4	10YR7/4 に濃い灰褐色	黒砂粒・白色細砂粒・赤色粒・雲母少量含む。	良好	口縁部～底面4/5	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	口縁部直立。	床面上	やや大形の杯、 口縁部直立。
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ			
7	土師陶 小型土器	7.0	2.5Y06/8 黒	黒砂粒・白色細砂粒・赤色粒・雲母少量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	口縁部が広く、 やや円筒形。	床面上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ			
8	土師陶 甕	18.0	5YR7/8 黒	黒砂粒・白色細砂粒・雲母少量含む。	良好	胴部下平～底面1/2	口縁部	—	内面にベンガラが 付着。ベンガラの 溶き跡に転用。	床面上	
		体部					ヘラケズリ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			
		19.0					底面	ヘラケズリ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ		

【出土遺物】図化・掲載した遺物は、土師器環6点（1～6）、土師器小型土器1点（7）、土師器甕1点（4）である。環は全体に器壁が厚く、3・5は口縁部と体部の境界の稜が明瞭である。環類は主に北東コーナー周壁から出土し、甕は主柱穴P1の開口部で確認された。小型土器は間仕切り溝の並ぶエリアから出土している。甕は、胴部下平から底部にかけての破片をベンガラを溶き器に転用している。内面には顔料の溜まった範囲が明瞭に残る。

【時期】出土遺物の形状から、6世紀前葉の遺構と考えられる。

SI-050 (第134・135図、第58表、図版四八)

【概要】西区北寄りで確認された方形平面の竪穴建物跡である。遺構の1/2以上は調査区外で、西壁の一部と南西コーナー及び南壁2/3程度までが調査できた。西壁北端の調査区との境界部分でSD-136に上端が切られる。北東10mには、調査区を越えて北区のSI-007が、南西7mにはSI-139が存在する。遺構上面は比較的削平を受けていない。西壁の方位は、N-3.5°-Eである。

【位置】R-26グリッドに位置する。確認面標高は 南西側コーナー部分の上端で160.800mである。

【規模】西壁の調査長3.6m、南壁の調査長4.1mである。床面の標高は、南西側コーナー160.300m、北端160.260m、床面中央160.280mである。床面はほぼ水平である。調査した床面積は9.6㎡である。

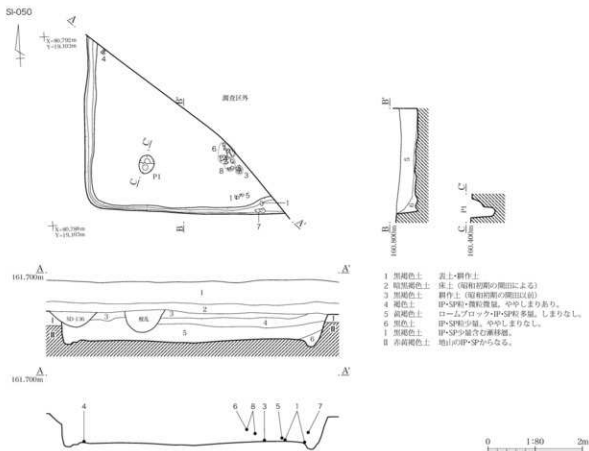
【埋土】3層(3～5層)に分層される。5層はロームブロックを多量に含み締まりも悪く、人為的な埋戻しの可能性もある。

【床面・掘形】調査範囲では床面に著しい凹凸や、段は無い。全体的に硬くしまっているが、主柱穴内側の範囲が特に硬い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。

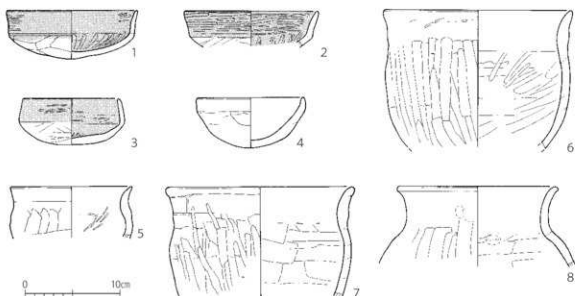
【柱穴・入口ピット】主柱穴は南西側の1基(P1)が確認された。平面は、柱の抜取りによりやや歪むが、直径37～42cm、床面からの深さ52cmである。入口ピットは、調査範囲には存在しない。

【壁溝】調査範囲では完周する。

【貯蔵穴・カマド】調査範囲には存在しない。



第134図 小鍋内II遺跡 SI-050 実測図



第135図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-050 出土遺物実測図

第58表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-050出土遺物観察表

No.	種類 図様	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	上開筒 環	口径 (13.7)	7.5YR7/4 に赤・橙	砂粒多量含む。	良好	1/2	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面と外面上 平に赤彩。	床面直上	胎料は ベンガラ
		体部					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底部					放射状ヘラミガキ	ヘラミガキ				
2	上開筒 環	口径 (14.0)	1084/6 赤	砂粒多量、透明細 砂少量含む。	良好	口縁破片	体部	放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ	内面と外面上 平に赤彩。	埋土	胎料は ベンガラ
		底部					—	—				
		口縁部					ヘラミガキ	ヘラミガキ				
3	上開筒 環	口径 (10.0)	10YR7/4 に赤・黄褐色	砂粒多量、透明細 砂少量含む。	やや 不良	2/5	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部は内傾。 内面と外面上 平に赤彩。	床面直上	胎料は ベンガラ
		体部					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底部					—	—				
4	上開筒 環	口径 (11.2)	7.5YR8/6 橙	細砂粒多量含む。	良好	1/2	口縁部	—	横ナデ	小管の残形。 横ナデ。内 面厚減。	床面直上	
		体部					ナデ	ヘラケズリ後、ナデ				
		底部					—	—				
5	上開筒 鉢	口径 (12.8)	7.5YR4/6 赤	細砂粒多量含む。	良好	口縁破片	口縁部	横ナデ	横ナデ	小管の残の可 能性もある。 口縁部外反。	床面直上	
		体部					粗いヘラミガキ	—				
		底部					—	—				
6	上開筒 甕	口径 (19.7)	5YR5/6 明赤彩	砂粒多量含む。	良好	口縁部一部 破片1/2	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面にヘラミ ガキあり。横 ナデ。	床面直上	
		体部					ヘラケズリ後、一部ミガキ	ヘラケズリ				
		底部					—	—				
7	上開筒 甕	口径 (19.6)	5YR5/6 明赤彩	砂粒多量含む。	良好	口縁破片	口縁部	横ナデ	横ナデ	外面にヘラミ ガキ、横ナデ。	床面直上	
		体部					ヘラケズリ	ヘラケズリ				
		底部					—	—				
8	上開筒 甕	口径 (16.5)	7.5YR4/2 灰	砂粒多量含む。	良好	口縁部1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	縁部直上。口 縁部外反。	床面直上	破片が
		体部					ヘラケズリ	ヘラケズリ				
		底部					—	—				

【出土遺物】図化・掲載した遺物は全て土師器で、環4点（1～4）、鉢1点（5）、甕2点（6、7）、甕1点（8）である。環は赤彩が目立ち、甕は胴部の張り強い。

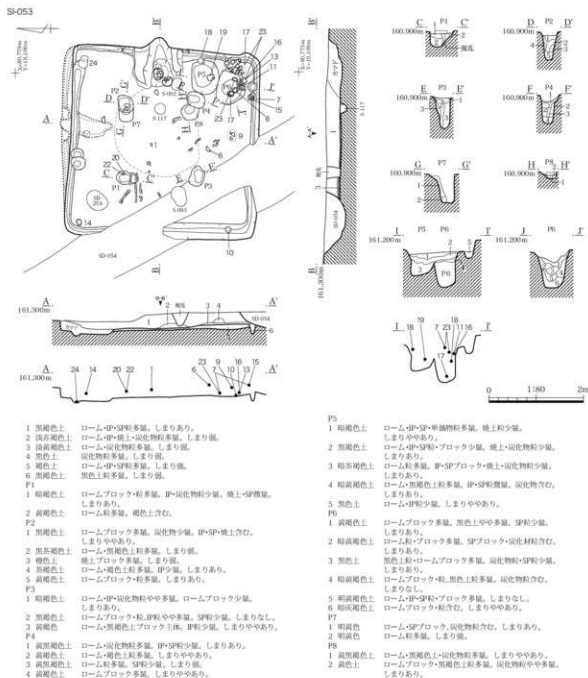
【時期】出土遺物の形状から、6世紀前葉の遺構と考えられる。

SI-053 (第136～139図、第59表、図版二七・四八・四九)

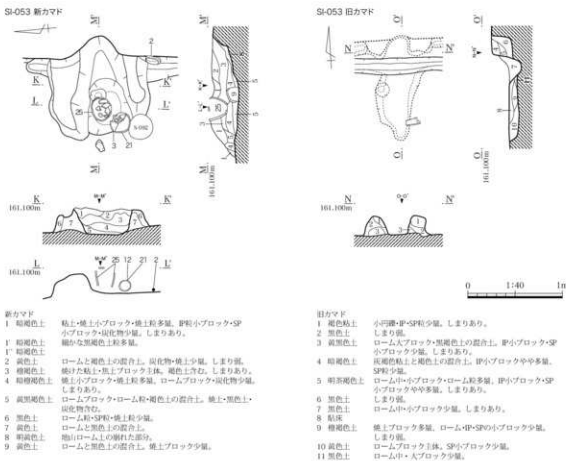
【概要】西区中央よりやや北東寄りで確認された、方形平面の竪穴建物跡である。3 m西にはSI-139が存在し、北東10mにはSI-055が存在する。南西コーナーのやや内側を北西から南東へ抜けるSD-054に切られている。北側では上面をかなり削平されている。東壁の方位は、N-3.5°-Eである。

【位置】R-27グリッドに位置する。確認面標高は西側コーナー部分の上端で161.055m、北コーナーで161.010m、東コーナーで161.090m、南コーナーで161.155mである。

【規模】西壁3.83m、北壁3.98m、東壁3.88m、南壁3.82mの大きさで、正方形に近い。床面の標高は、北西側コーナー160.775m、北東側コーナー160.775m、南東側コーナー160.850m、南西側コーナー160.815m、中



第136図 小鍋内II遺跡 SI-053 実測図(1)



第137図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-053 実測図(2)

央160.780mである。東側に向かって緩く傾斜し、わずかに凹面を呈する。床面積は15.0㎡である。

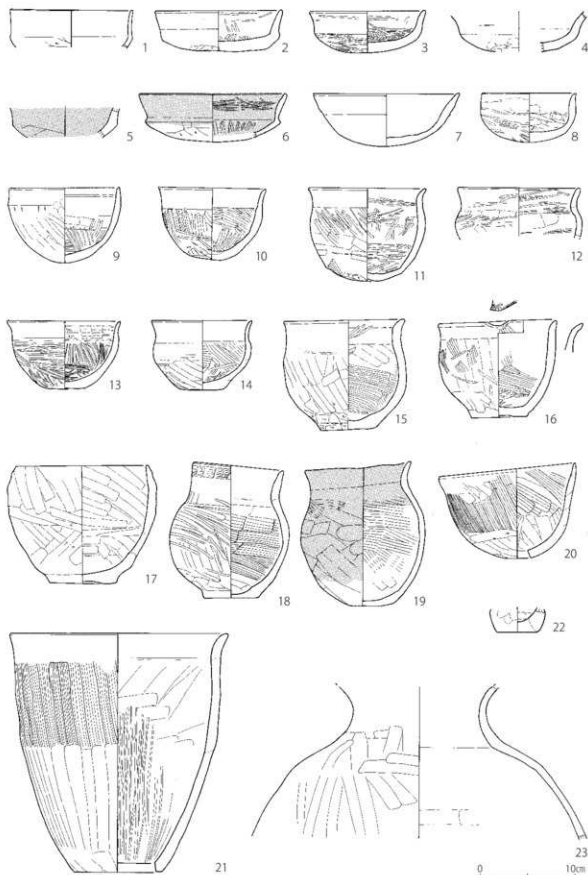
【埋土】1～4層に分層されるが、埋土はほとんど1層が占める。5層は貼床である。2～4層は炭化材や焼土を多く含み、薄く且つ床面に散在している。こうしたことから、焼失建物の可能性もある。

【床面・掘形】床面は全面が薄い貼床である。表面に著しい凹凸や、壇状の高まりもみられない。主柱穴の内側の範囲で床面の硬化が著しい。掘形はほぼ平坦である。

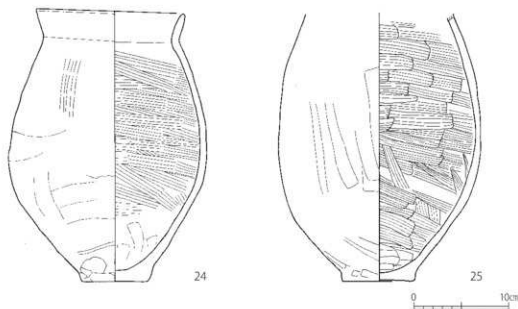
【柱穴】主柱穴は6基(P1・2・3・4・7・8)確認された。当建物は柱の立て替えを行っており、西側のP1、P3はそのままで、北東のP7はP2に切られ、南東のP8はP4に切られる。P1は円形で直径26～47cm、床面からの深さ35cm、P2は円形で直径35～42cm、床面からの深さ60cm、P3も円形で直径34～44cm、床面からの深さ68cm、P4も円形で直径34～43cm、床面からの深さ62cm、P7も円形で直径35cm、床面からの深さ63cm、P8も円形で直径37cm、床面からの深さ16cmである。P3とP8では埋土中に柱痕が確認できた。

【壁溝】北東コーナーで短く途切れるが、ほぼ完周する。

【貯蔵穴】南東コーナーに2基(P5、P6)存在する。北側のP5と南側のP6は隣接するが、埋土の状況からは新旧は不明であるが、開口部周囲で遺物出土量の多いP6が最終的に開口していたと考えられる。開口部平面は両者ともほぼ同大で、歪んだ楕円形である。底面は両者とも楕円形で、壁の立ち上がりの角度は急である。P5は開口部の長軸72cm、短軸60cm、床面からの深さは58cm、P6は開口部の長軸78cm、短軸60cm、床面からの深さは77cmである。



第138図 小銅内Ⅱ遺跡 SI-053 出土遺物実測図(1)



第139図 小鍋内II遺跡 SI-053 出土遺物実測図(2)

第59-1表 小鍋内II遺跡 SI-053出土遺物観察表(1)

編	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土器 甕	口径 (12.8)	5YR6/6 橙	砂粒多量含む。	良好	口縁部破片	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部直立。 口縁部が平 坦。横割線。	床面直上	
		底径 (4.0)					体部	ナデ	ヘラケズリ			
2	土器 甕	口径 13.6	5YR6/6 橙	細砂粒、白色細砂 粒・雲母少量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	肩厚く、中 少平直。	床面直上	
		底径 —					体部	ヘラミガキ	ヘラミガキ			
3	土器 甕	口径 12.4	7.5YR6/6 橙	細砂粒、白色細砂 粒・雲母少量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部外反。 横不直。	床面直上	
		底径 —					体部	放射状ヘラミガキ	ヘラミガキ			
4	土器 甕	口径 —	2.5Y5/3 黄褐	細砂粒・白色細砂 粒含む。	良好	体部1/4、底 部1/5	口縁部	—	—	口縁部は広く 外反。横不直。	埋土	
		底径 —					体部	ヘラナデ	ヘラケズリ後、雲母粗 直。			
5	土器 甕	口径 —	10R4/6 赤	砂粒多量含む。	良好	体部破片	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面と外面共 に赤。	埋土	胎料は ベンガラ
		底径 (5.1)					体部	ヘラミガキ	ヘラケズリ			
6	土器 甕	口径 (15.3)	10R5/6 赤	細砂粒少量含む。	良好	口縁部1/5	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ	横直。口縁部 中平内。内面と 外面に赤。	床面直上	胎料は ベンガラ
		底径 (4.5)					体部	放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ			
7	土器 甕	口径 15.4	2.5YR5/8 明赤	細砂・赤色粒含む。	良好	口縁部7/8、底 部一部欠 損	口縁部	横ナデ	横ナデ後、ヘラミガキ	横不直。口 縁部は広く 外反。	床面直上	
		底径 —					体部	両面の厚減で不直	両面の厚減で不直			
8	土器 甕	口径 9.9	7.5YR7/4 に赤	細砂粒多量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ後、ナデ	横ナデ	小型の陶器。 口縁部外反。	床面直上	
		底径 (5.2)					体部	ヘラケズリ後、ナデ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			
9	土器 甕	口径 (11.6)	7.5YR6/8 橙	白色・黒色・透明細砂 粒少量、赤色粒・黒 色細砂粒微量含む。	良好	口縁部1/2、底 部2/5、底 部一部現存	口縁部	横ナデ	横ナデ	肩高い。横 不直。	床面直上	
		底径 —					体部	ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラナデ後、ヘラミガキ			
10	土器 甕	口径 11.4	5YR5/8 明赤	白色・黒色・透明細 砂粒、赤色粒少量 含む。	良好	ほぼ完存、 口縁部一部 欠損	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ	口縁部むす かに外反。底 部中平直。	床面直上	
		底径 —					体部	ヘラミガキ	ヘラナデ後、ヘラミガキ			
11	土器 甕	口径 12.4	2.5YR5/6 明赤	黒色・白色細砂粒・ 雲母少量含む。	良好	口縁部1/2、 体部3/4、底 部全欠	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部外反。 底部中平直。	床面直上	
		底径 —					体部	ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ			

第59-2表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-053出土遺物観察表(2)

No.	種類 部種	計測値 (cm)	色調	出土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面	外面			
12	土師陶 鉢	口径 (I28)	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂粒少量含む。	良好	口縁部破片 1/4	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	胴部がやや広 れる。	埋土	
		体部					—	—				
		底面					—	—				
13	土師陶 埴	口径 11.9	7.5YR6/6 青	細砂粒少量含む。	良好	4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	平底。	床面直上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
14	土師陶 鉢	口径 10.5	7.5YR6/6 青	砂粒多量含む。	良好	4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面にハケメ、 平底。	床面直上	
		体部					ハケメ後、ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラミガキ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラミガキ				
15	土師陶 鉢	口径 12.5	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	砂粒・白色細砂粒・ 赤色粒・小礫含む。	良好	ほぼ完存、 体部一部欠 損	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	口縁部外反、 内面にハケメ、 平底。	床面直上	
		体部					ハケメ	ヘラミガキ				
		底面					ハケメ	ヘラミガキ				
16	土師陶 打子	口径 12.6	7.5YR6/8 青	細砂粒・白色細砂粒 含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部に注口、 内面にハケメ、 平底。	床面直上	
		体部					ハケメ	ヘラミガキ				
		底面					ハケメ後、ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラミガキ				
17	土師陶 鉢	口径 (I40)	10YR7/6 明黄褐色	白色・透明細砂粒多 量、赤色粒豊富含 む。	良好	口縁部1/5、 体部1/2、底 部完存	口縁部	ハケメ	ハケメ	口縁部直立、 口縁部部と内 面にハケメ。	床面直上	
		体部					ハケメ	ヘラミガキ				
		底面					ハケメ	ヘラミガキ				
18	土師陶 小型 壺	口径 10.0	7.5YR6/6 青	砂粒多量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	作りが粗雑、 口縁部内湾、 平底。	床面直上	
		体部					ヘラミガキ後、ヘラミガキ	ナデ、ハケメ				
		底面					ヘラミガキ後、ナデ	ヘラミガキ				
19	土師陶 小型 壺	口径 11.2	2.5YR6/8 青	細砂粒・砂粒多量、 小礫少量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面にハケメ、 体部内面上部一 部外反下湾形。	胴料は ベンガラ	
		体部					ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラミガキ				
		底面					ヘラミガキ	不定方向ヘラミガキ				
20	土師陶 壺	口径 14.3	5YR6/6 青	砂粒少量含む。	良好	ほぼ完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部やや 内湾、ハケ多 量、口径19cm	床面直上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラミガキ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラミガキ				
21	土師陶 壺	口径 (I226)	7.5YR6/6 青	細砂粒多量含む。	良好	3/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面にハケメ、 内径19.5cm、 口径8.6cm	床面直上	
		体部					ヘラミガキ後、ヘラミガキ	ハケメ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
22	土師陶 小型 土器	口径 (I4)	10YR6/4 にぶい黄褐色	細砂粒多量含む。	良好	底面1/2	口縁部	横ナデ	指形土器	平底。	床面直上	
		体部					指ナデ	指ナデ				
		底面					指ナデ	指ナデ				
23	土師陶 壺	口径 (I59)	7.5YR6/6 青	砂粒多量、小礫物 量含む。	良好	口縁部一 部上半	口縁部	横ナデ	横ナデ	胴部直徑小、 傾斜。	床面直上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラミガキ				
		底面					—	—				
24	土師陶 壺	口径 15.8	10YR6/8 明黄褐色	細砂粒・砂粒多量、 小礫少量含む。	良好	完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	長胴、 内面にハケメ、 底面やや突出。	床面直上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラミガキ後、横ナデ				
		底面					ヘラミガキ後、ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ヘラミガキ				
25	土師陶 壺	口径 (I28.3)	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂粒多量含む。	良好	胴部一底面	口縁部	—	—	長胴 内面にハケメ、 底面やや突出。	床面直上	
		体部					ハケメ	ヘラミガキ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラミガキ後、ナデ				

【入口ピット】床面の残存部分には存在しない。

【カマド】新旧2基のカマドが確認された。新しいカマド(新カマド)は東壁の中央からやや北寄りに付設している。燃焼部と煙道の範囲を直接地山に掘り込んで掘形を造る。カマドの範囲は建物の貼床はなく、地山の上にローム粒を含む暗褐色土で袖部を構築する。カマド上面は削平を受けているが、両袖部とも保存状態は比較的良好である。芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けられている。煙道はほとんど突出せず、燃焼部から急角度に立ち上がっている。燃焼部では土師器の甕1点(25)、甕1点(21)が出土した。火床面にはローム土で造られた支脚が残存し、頂部に土師器破片を被せていた。カマド内面はよく焼けて焼土化している。旧カマドは北壁中央からやや東に寄った箇所には設けられていた。北壁は旧壁面に「張り壁土」して改修されていたが、この時に旧カマドは袖部の大部分が切除され、壁面に埋め込まれた。火床面の掘り込みも、埋め戻され、その上に貼床されていた。煙道は壁外にほとんど突出しない。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は全て土師器で、坏8点(1~8)、鉢9点(9~17)、甕5点(18~19)、甌2点(20,21)、小型土器1点(22)である。坏の大半は模倣坏で、稜線が不明瞭で口縁部が開く7、口縁部が直に立ち上がる8なども見られる。鉢は丸底・平底に大別できる。平底の鉢には内面にハゲ目を持つものが多い。16の鉢は注口を持ち、17は口縁端部が内湾する。小型の甕18・19は内面にハゲ目が顕著である。ハゲ目は甌にも見られる。23は球胴の甕で、24、25は長胴で内面にハゲ目がある。24は外面にも若干ハゲ目が目立つ。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉から中葉にかけての遺構と考えられる。

SI-055 (第140・141図、第60表、図版二七・二八・四九・五〇)

【概要】西区中央の東端で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。北東コーナーは調査区外になる。南東コーナー付近はSK-143に切られ、埋土中に長方形土坑SK-056・057が存在し、それぞれ北壁中央と西壁の北寄りの上端を切っている。2m南西にはSI-121が存在し、2.5m南にはSI-102が存在する。上面は削平される。西壁の方位は、N-9°-Eである。

【位置】R-27グリッドに位置する。確認面標高は北西側コーナー部分の上端で160.890m、北東コーナーで160.870m、南東コーナーで160.945m、南西コーナーで161.000mである。

【規模】北壁の調査区内での長さは3.64m、東壁の調査区内での長さは3.56m、南壁5.40m、西壁5.08mの大きさで、正方形に近い。床面の標高は、北西側コーナー160.755m、北東側コーナー160.680m、南東側コーナー160.760m、南西側コーナー160.830m、中央160.780mである。床面は東側に向かってわずかに傾斜し、若干凹面を呈する。床面積は98.14㎡である。

【埋土】1~6層に分層されるが、1層が埋土の大部分を占める。明確なレンズ状堆積は確認できないが、埋土の粒子は細かく、当遺構が自然埋没したことを示している。

【床面・掘形】床面は部分的に見られ、凹凸の少ない掘形の上に薄くロームブロックを主体とした貼床を施す。全体的に硬くしまるが、主柱穴内側の部分では特に硬化の度合いが強い。

【柱穴】主柱穴は4基(P1~4)確認された。P1は新旧2基のピットから成る。土層断面観察からは南側のピットが新しく、埋土中断面で柱痕が確認できる。この新P1は、円形で直径30cm、床面からの深さ40cm、P2は円形で直径36cm、床面からの深さ51cm、P3も円形で直径30~33cm、床面からの深さ44cm、P4も円形で直径25~30cm、床面からの深さ32cmである。P4では、南西側に接して貼床下から旧柱穴が確認され、柱の建て替えを行ったものと考えられる。P3においても埋土中に柱痕が確認できる。東側の2基(P1、P2)がやや深い。

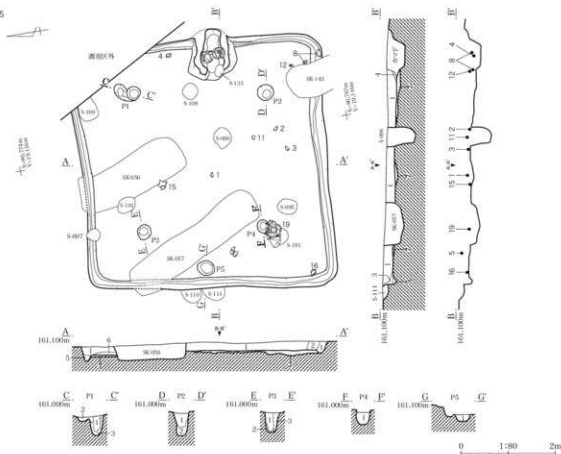
【壁溝】調査範囲では全ての壁際に存在する。

【貯蔵穴】調査範囲には貯蔵穴は存在しない。

【入口ピット】西壁の中央に、壁溝に接して存在するP5が入口ピットと考えられる。開口部は円形で、径30~35cm、床面からの深さ20cmである。

【カマド】東壁のほぼ中央からやや南寄りに付設される。地山に、ほぼカマド範囲の掘形を設け、粘土・ローム等を貼って基盤面を造る。この上に主に灰白色粘土ブロックを盛って、袖部を構築している。カマド上面は削平を受けているが、両袖部とも保存状態は比較的良好である。袖部は芯材は用いず、煙道側壁と一体化させ、建物壁面に固定している。燃焼部の火床面の北寄りには、小型の土師器脚付鉢を逆さまに置き、支脚に転用していた。この上には土師器甕(18)が置かれていた。また、この甕の南側にも土師器甕(17)が接して置かれ、燃焼部も広いことから、架け口が横2連であった可能性がある。煙道は建物壁外へはあまり突出せ

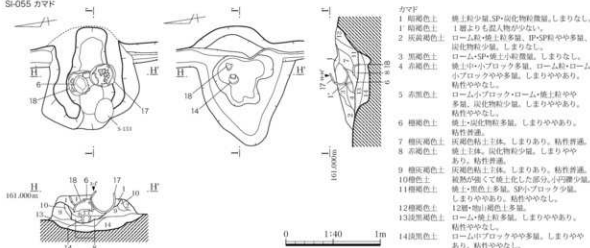
SI-055



- 1 黄褐色土 IP・SP粒多量。
 2 黒褐色土 SP粒少量。本遺構より北新しいゼット。
 3 黄褐色土 ローム・IP粒少量。
 4 灰褐色土 焼土少量。カマド跡上。
 5 黄褐色土 ロームブロック多量。
 6 赤褐色土 ロームブロック・IP多量。
 7 灰床
 P1
 1 黄褐色土 ローム・褐色土多量。IP・SP粒・小ブロック少量。しまり普通。粘性ややなし。
 2 黒褐色土 褐色ローム主体。IP・SP小ブロック含む。しまりあり。粘性ややなし。
 3 赤褐色土 褐色ローム主体。IP・SP粒微量。しまりあり。粘性ややなし。

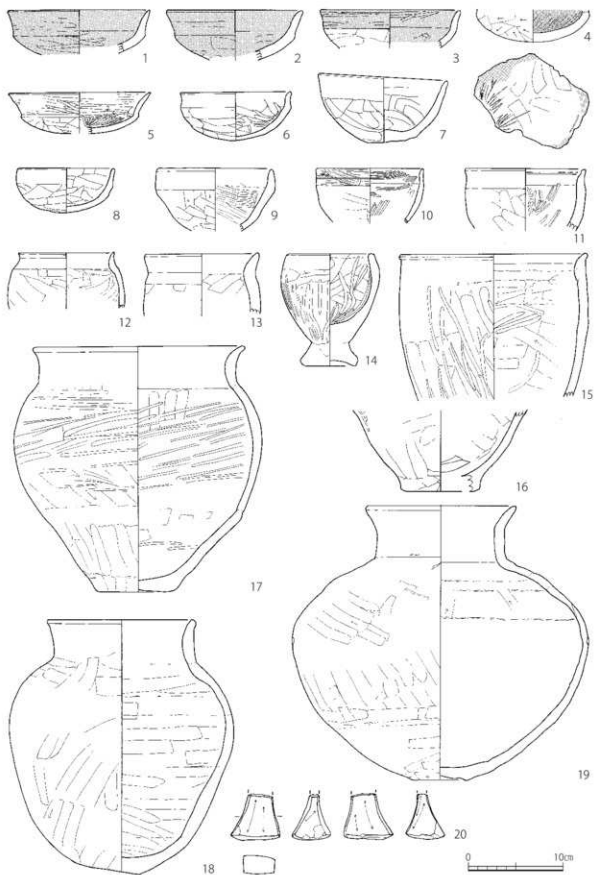
- P2
 1 灰褐色土 ローム粒多量。IP・SP・焼土粒少量。しまりややあり。
 2 灰黄褐色土 ローム粒主体。褐色土少量。
 P3
 1 黄褐色土 ローム・IP・SP粒・小ブロック多量。しまり普通。粘性なし。
 2 黄褐色土 ローム・褐色土多量。IP・SP粒微量。しまりややあり。粘性ややなし。
 3 褐色土 ロームブロック主体。褐色土やや少量。IP・SP粒少量。しまりあり。粘性ややなし。
 P4
 1 黒褐色土 ローム小ブロック多量。灰化物・IP粒少量。しまりなし。
 P5
 1 黄褐色土 ローム小ブロック・ローム・IP粒多量。SP粒少量。しまり普通。

SI-055 カマド



- カマド
 1 黄褐色土 焼土粒少量。SP・灰化物粒微量。しまりなし。1層より北西人物が少な。
 2 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒多量。IP・SP粒やや多量。灰化物粒少量。しまりなし。
 3 黄褐色土 ローム・IP・SP粒少量。しまりなし。
 4 赤褐色土 焼土中・小ブロック多量。ローム粒・ローム小ブロックやや多量。しまりややあり。粘性ややなし。
 5 赤褐色土 ローム小ブロック・ローム・焼土粒やや多量。灰化物粒少量。しまりややあり。粘性ややなし。
 6 黄褐色土 焼土・灰化物粒多量。しまりややあり。粘性普通。
 7 黄褐色土 灰褐色粘土主体。しまりあり。粘性普通。焼土主体。灰化物粒少量。しまりややあり。粘性普通。
 8 赤褐色土 焼土主体。灰化物粒少量。しまりややあり。粘性普通。
 9 黄褐色土 灰褐色粘土主体。しまりあり。粘性普通。
 10 褐色土 焼土が落ちて焼土化した部分。IP・SP粒少量。しまりややあり。粘性普通。
 11 黄褐色土 焼土・赤褐色土多量。SP小ブロック少量。しまりややあり。粘性ややなし。
 12 黄褐色土 12層・11層土多量。
 13 黄褐色土 ローム・焼土粒多量。しまりややあり。粘性ややなし。
 14 黒褐色土 ローム小ブロックやや多量。しまりややあり。粘性ややなし。

第140図 小堀内II遺跡 SI-055 実測図



第141図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-055 出土遺物実測図

第60-1表 小竈内II遺跡 SI-055出土遺物観察表(1)

No.	種類 種別	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面	特製			
1	土師陶 坪	口径 (15.4)	10YR2/2 黒黒	細砂粒多量、透明 細砂粒少量含む。	良好	1/6	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ後、ヘラミガキ	内面と外面共に 赤黒。	床面直上	胎料は ベンガラ
		底面					ヘラケズリ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
2	土師陶 坪	口径 (14.3)	2.5YR4/6 赤黒	細砂粒・砂粒少量含 む。	良好	1/6	口縁部	横ナデ	横ナデ	外面・内面に 赤黒。	床面直上	胎料は ベンガラ
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					—	—				
3	土師陶 坪	口径 (14.9)	2.5YR5/8 明赤黒	細砂粒少量含む。	良好	口縁上部・ 体部1/8	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面と外面上 中に赤黒。	床面直上	胎料は ベンガラ
		体部					ヘラケズリ	ヘラケズリ後、ヘラナデ				
		底面					—	—				
4	土師陶 坪	口径 —	5YR5/6 明赤黒	細砂粒多量、透明 灰色細砂粒少量含 む。	良好	底面2/3	口縁部	—	—	底面に3割以上、 内面と外面の底面 周囲に赤黒。	床面直上	胎料は ベンガラ
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
5	土師陶 坪	口径 (15.0)	2.5YR5/6 明赤黒	透明細砂粒・小礫少 量含む。	良好	1/2	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁縁部が外 反、輪明瞭。	床面直上	胎料は ベンガラ
		体部					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
6	土師陶 坪	口径 11.9	5YR6/8 黒	砂粒・小礫少量含 む。	良好	ほぼ完全	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部土が広く、 地形を写す。	カマド	
		体部					ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
		底面					ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
7	土師陶 坪	口径 13.2	7.5YR7/6 黒	細砂粒多量、砂粒・ 透明細砂粒少量含 む。	良好	ほぼ完全	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部がやや 突き、地形を 写す。	床面直上	外面に黒炭
		体部					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
		底面					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
8	土師陶 坪	口径 10.4	7.5YR7/8 黒	細砂粒・砂粒少量含 む。	良好	完全	口縁部	ヘラケズリ、ヘラナデ	横ナデ	地形を写し、 口縁縁部がやや 内傾する。	床面直上	黒炭
		体部					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
		底面					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
9	土師陶 坪	口径 06.2	5YR6/8 黒	白色細砂粒、赤色 粒・透明細砂粒少量 含む。	良好	口縁部1/6、 体部1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	赤みが強い、 胎料が明確で、 地形である。	埋土	
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					—	—				
10	土師陶 坪	口径 (11.0)	10YR7/6 黒	細砂粒・白色細砂粒 含む。	良好	口縁部1/4、 体部1/8	口縁部	横ナデ	横ナデ後、ヘラミガキ	地形外で、ハ ケミが推される。	埋土	
		体部					ヘラナデ	ヘラミガキ				
		底面					—	ヘラミガキ				
11	土師陶 鉢	口径 (12.6)	10YR4/1 黒灰	細砂粒・白色細砂粒 ・骨片含む。	良好	口縁部・体 部1/8	口縁部	横ナデ	横ナデ	胎厚が厚く、赤 と考えられる。 口縁縁部が内反。	床面直上	
		体部					ヘラミガキ	ヘラナデ				
		底面					—	—				
12	土師陶 鉢	口径 (10.2)	7.5YR6/6 黒	細砂粒・砂粒少量含 む。	良好	口縁部・体 部上半1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が内反し、 底面は外反する。	床面直上	黒炭
		体部					ヘラケズリ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
13	土師陶 小型壺	口径 (12.2)	10YR6/4 にぶい黄褐色	細砂粒少量、透明 細砂粒少量含む。	良好	口縁部1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	胎厚が厚く、 口縁部がやや内 傾。	埋土	
		体部					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
		底面					—	—				
14	土師陶 付付	口径 (9.4)	5YR6/8 黒	細砂粒少量含む。	良好	1/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	胎厚が厚く、 胎部の胎厚が 5.4 (cm)。	カマド	
		体部					縦ヘラミガキ	縦ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ナデ				
15	土師陶 小壺	口径 (20.0)	5YR6/8 黒	細砂粒・砂粒多量含 む。	良好	口縁部・体 部2/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	内外面にヘラ ミガキ、口縁 縁部が外反。	床面直上	
		体部					ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラナデ後、ヘラミガキ				
		底面					—	—				
16	土師陶 甕	口径 (8.4)	10YR7/4 にぶい黄褐色	細砂粒・砂粒少量含 む。	良好	底面1/2	口縁部	横ナデ	横ナデ	底面中や突出。	床面直上	外面に黒炭付 着
		体部					ヘラケズリ後、ヘラナデ	ヘラケズリ後、ヘラナデ				
		底面					ヘラケズリ後、ヘラナデ	ヘラケズリ後、ヘラナデ				
17	土師陶 甕	口径 (22.0)	10YR7/4 にぶい黄褐色	砂粒多量含む。	良好	2/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部の横、側 面上位に黒大 片。	カマド	
		体部					ヘラナデ、ミガキ	ヘラケズリ、ミガキ				
		底面					ナデ	ナデ				
18	土師陶 甕	口径 15.3	10YR7/4 にぶい黄褐色	砂粒多量、透明細 砂粒少量含む。	良好	4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が直立。 側面上位に黒 大片。	カマド	
		体部					ヘラナデ	ヘラケズリ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラケズリ、ナデ				
19	土師陶 甕	口径 (15.0)	10YR6/6 黒	白色細砂粒・骨片・ 透明細砂粒少量含 む。	良好	口縁部1/2、 体一部2/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	胎厚が薄く、胎部 や上位に黒大 片。	床面直上	
		体部					ヘラナデ	ヘラナデ				
		底面					ヘラナデ	ヘラナデ				

第60-2表 小竈内II遺跡 SI-055出土遺物観察表(2)

No.	区分	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
20	石製品	砥石	4.9	5.2	4.1	80.62	1/2	床面直上	10Y7黒、色調 7.5YR 7/1 灰白、四方に砥面。

ず、側壁は粘土で固めている。火床面からの立ち上がりは緩いが、中段から煙道の角度は急になる。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

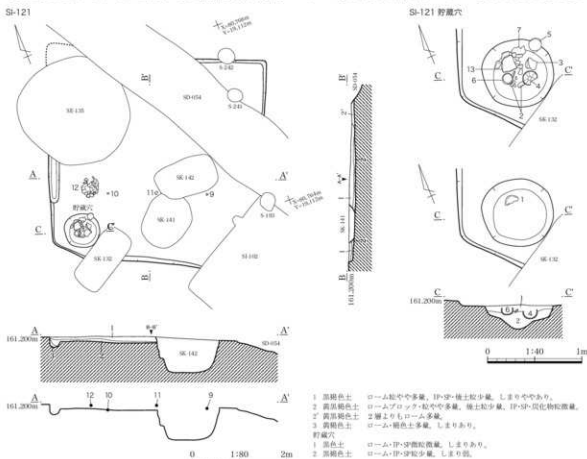
【出土遺物】図化・掲載した遺物は土師器と砥石である。土師器は、坏6点（1～6）、壺5点（7～11）、小型の甕2点（12、13）、台付鉢1点（14）、甕1点（15）、甕4点（16～19）である。1～4の坏には赤彩がみられる。4の坏は、底部外面に刃潰し痕が残り、砥石に転用されていた。15は内外面に粗いミガキがあり、甕であろう。17・18の甕は、上記のとおり14を支脚としてカマドで使用されていた。両者とも、胴部下半から底部にかけて被熱している。また、19の胴部の張る甕は、主柱穴P4開口部の床面で一括で出土した。この場所に置かれていたと考えられる。20の砥石は砂岩製で、縦方向の研減が激しい。残存長5.0cm、最大幅5.4cm、最大厚4.1cm、残存重量80.62gである。SK-056・057・143からの混入品の可能性もある。

【時期】出土遺物から、古墳時代後期中頃の遺構と考えられる。

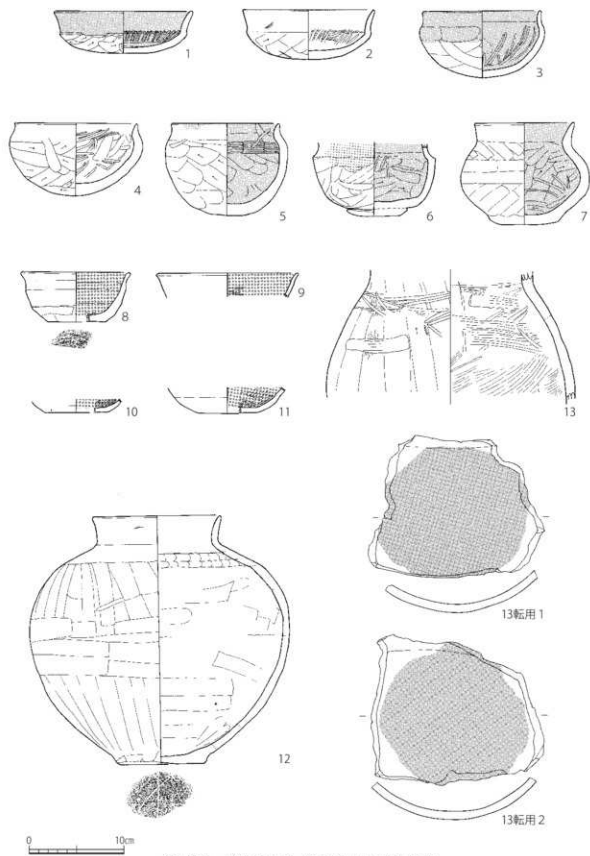
SI-121（第142・143図、第61表、図版二八・五〇）

【概要】西区の中央からやや南寄りに存在する、方形の竪穴建物跡である。上面の削平が著しく、他遺構にも多く切られ、保存状態はあまりよくない。南コーナーは古代のSI-102に切られる。また、北東壁の中央から南東壁の中央にかけて斜めに、古代のSD-054に切られる。また北コーナー付近は井戸SE-135に、南西壁では方形土坑SK-132に切られる。北西壁の方位は、N-20.5°-Eである。

【位置】R-27グリッドに位置する。確認面標高は西コーナーで161.230m、東コーナーで161.010mである。



第142図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-121 実測図



第143図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-121 出土遺物実測図

第61表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-121出土遺物観察表

No.	種類 種別	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
								内面	外面			
1	土師陶 埴	口径 14.7	7.5YR5/4 に赤い地	白色・透明細砂粒少 量含む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナデ、ヘラミガキ	横ナデ	内面と外面上 平に赤彩。	貯蔵穴	胎料は ベンガラ
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
2	土師陶 埴	口径 14.0	7.5YR5/4 に赤い地	黄白・白色細砂粒・ 小礫少量含む。	良好	口縁部～底 部4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面と外面上 平に赤彩。	貯蔵穴	
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
		底面					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
3	土師陶 埴	口径 (12.4)	7.5YR5/4 に赤い地	黄白・白色細砂粒・ 白色粒少量含む。	良好	口縁部～底 部1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面と外面上 平に赤彩。	貯蔵穴	胎料は ベンガラ
		底面					ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
		底面					ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ				
4	土師陶 埴	口径 13.0	5YR5/4 に赤い地	粗い、砂粒多量含 む。	良好	口縁部～底 部4/5	口縁部	横ナデ、ヘラミガキ	横ナデ	口縁部は内輪 し、胎部は外 反する。	貯蔵穴	
		底面					ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ				
		底面					ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ				
5	土師陶 埴	口径 11.6	7.5YR5/4 浅黄緑	やや粗い、小礫・砂 粒多量含む。	良好	口縁部を1/3 欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面と口縁部 の一部に赤彩。	貯蔵穴	
		底面					ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ				
		底面					ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ				
6	土師陶 埴	口径 4.5	5YR5/6 黄	白色細砂粒少量含 む。	良好	口縁部欠損、 底部～底部 4/5	口縁部	—	—	底部が突出。 内面赤彩、外 面は塗附赤か。	貯蔵穴	胎料は ベンガラ
		底面					ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラナデ				
		底面					ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ				
7	土師陶 小型埴	口径 10.5	7.5YR5/6 黄緑	粗い、砂粒・白色・ 透明細砂粒少量含 む。	良好	ほぼ完好	口縁部	横ナデ	横ナデ	胎部が厚まり、 濃彩を呈する。 内面のみ赤彩。	貯蔵穴	胎料は ベンガラ
		底面					ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
		底面					ヘラケズリ	ヘラケズリ				
8	土師陶 埴	口径 (11.7)	2.5YR/4 淡黄	細砂粒多量、透明 細砂粒少量含む。	良好	1/6	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転系切 り、内面黒色 彩施。	埋土	黒炭
		底面					ヘラナデ	回転ヘラケズリ				
		底面					ヘラナデ	回転ヘラケズリ				
9	土師陶 埴	口径 (15.0)	2.5YR/4 淡黄	細砂粒多量、透明 細砂粒少量含む。	良好	口縁部1/10	口縁部	横ナデ	ロクロナデ	内面黒色彩施。	床面直上	
		底面					横ヘラミガキ	ロクロナデ				
		底面					—	—				
10	土師陶 埴	口径 (6.6)	10YR7/4 に赤い黄緑	細砂粒・砂粒多量含 む。	良好	底面1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面黒色彩施。	床面直上	
		底面					ヘラミガキ	ロクロナデ				
		底面					横ヘラミガキ	回転ヘラケズリ				
11	土師陶 埴	口径 (5.6)	7.5YR7/4 に赤い黄	細砂粒多量、透明 細砂粒少量含む。	良好	底部下層～ 底部1/4	口縁部	—	—	内面黒色彩施。	床面直上	
		底面					ヘラナデ、ヘラミガキ	ロクロナデ				
		底面					ヘラミガキ	回転ヘラケズリ				
12	土師陶 埴	口径 13.6	10YR7/4 に赤い黄緑	細砂粒多量、透明 細砂粒・小礫少量含 む。	良好	4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	底部木葉状。	床面直上	黒炭
		底面					ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラナデ、ヘラミガキ				
		底面					ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラナデ、ヘラミガキ				
13	土師陶 埴	口径 —	7.5YR5/4 に赤い地	やや粗い含む。	良好	口縁部、底 部欠損	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面に丁寧な ミガキ。胎の 可能性もある。	貯蔵穴	ベンガラの パレットに 用いた。
		底面					ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ				
		底面					—	—				

【規模】各壁の推定長は、北西壁4.3m、北西壁4.6m、南東壁4.6mで、南西壁4.3mで、やや歪んだ方形である。床面の標高は、西側コーナー161.045m、南側コーナー161.060m、中央161.010mであり、ほぼ水平である。床面積は推定17.8㎡である。

【埋土】埋土の残りは薄いが、1・2層の粒子は細かく均一で、自然埋没と考えられる。各層ともに焼土粒と炭化物粒を含む。

【床面・掘形】残存部分では、床面には著しい凹凸や、壇状の高まりなどはみられない。全体的に硬くしまる。貼床は無く、ハードルーム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。

【柱穴】柱穴は残存部分には存在しない。

【壁溝】北西壁の一部に存在する。幅15～20cm、深さ5～8cmである。底部にローム粒子の堆積が見られる。

【貯蔵穴】西コーナーで円形平面の貯蔵穴が1基確認された。開口部直径は80cm、底面も円形で直径60cm、

床面からの深さ36cmである。遺物は多く、土師器の坏4点（1、2、3、4）、甕2点（7、13）が埋土上層で出土している。

【入口ピット】調査範囲には存在しない。

【カマド】調査範囲には存在しない。建物本体のB-B'ラインの埋土断面において、北端部分で暗黄褐色土の東側からの流入が見られることから、北壁にカマドが存在し、SD-054に切られて消滅した可能性もある。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は土師器14点で、8～11のロクロ成形の土師器坏は混入品と考えられる。1・2は模倣坏で1には内面から口縁部外面にかけて赤彩される。3・4は埴、5・6は鉢である。6は底部外面に円形の粘土板を貼り付けて突出した底部を作る。7は小型の甕で、13は大振りの胴部破片2つがベンガラを溶くための皿に転用されていた。両者とも、内面に赤色の液体を溜めた痕跡が円形に残っていた。12は胴部上位に最大径のある球胴の甕である。底部外面には木葉痕がみられる。なお、8～11の坏は、内面に黒色処理を行い、古代の遺物である。9～11では内面にミガキを施し、8は体部下端に手持ちへら削りがみられる。この4点はいずれも埋土最上層から出土し、9世紀代の遺物であることから、混入品とみなしたい。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉から中葉の遺構と考えられる。

SI-139（第144・145図、第62表、図版二八）

【概要】西区の中央からやや北寄りに位置する、方形の竪穴建物跡である。削平を受けて壁は消滅している。壁溝と貼床の残存範囲から全形が確認できる。北壁は掘立柱建物跡SB-250・251の南辺の柱穴別に切られ、保存状態が悪い。北東コーナー付近にはさらにSD-136に切られる。その他の範囲では他遺構との切り合いは無い。西壁の方位は、N-65°-Wである。

【位置】Q-26・27、R-26・27グリッドに跨る。確認面標高は北西コーナーで161.105m、北東コーナーで161.145m、南東コーナーで161.118m、南西コーナーで161.195m、床面中央で161.065mである。

【規模】各壁の長さは、西壁5.5m、北壁は推定5.4m、東壁は推定5.7mで、南壁5.6mで、正方形に近い。床面の標高は、北西コーナーで161.040m、北東コーナーで160.980m、南東コーナーで161.170m、南西コーナーで161.130m、中央では161.065mである。床面の中央から北東にかけての範囲は削平を受けている。床面積は推定30.0㎡である。

【埋土】埋土の最下層が僅かに残る（1層）。

【床面・掘形】部分的に貼床である。建物残存部分では、床面には著しい凹凸や、段状の高まりなどはみられない。全体的に硬くしめる。凹凸の多い掘形底面をロームブロックで埋め、貼床を施している。

【柱穴】主柱穴は4基（P1～4）確認された。全て円形平面で、建て替え等による重複は見られない。P1は直径22cm、床面からの深さ32cm、P2は直径25cm、床面からの深さ37cm、P3の直径27cm、床面からの深さ45cm、P4は直径24cm、床面からの深さ38cmである。埋土中に柱痕が確認できるものは無い。

【壁溝】北壁の東半分は削平されているため確認できないが、その他の壁際には壁溝が存在する。幅13～20cm、深さ4～7cmである。埋土には、部分的に矢板等の壁面保護材の基部の痕跡が認められる。P3からは間仕切り溝が西に延び、壁溝と繋がる。

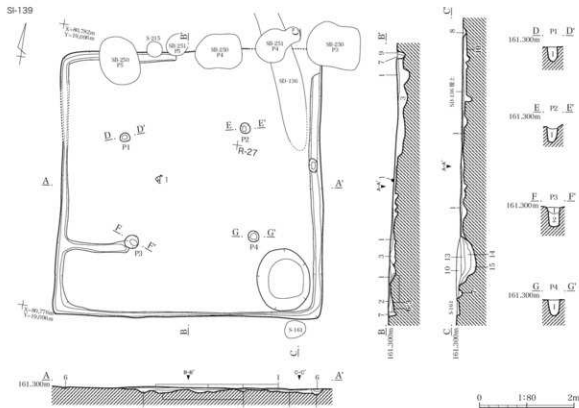
【貯蔵穴】床面南東コーナーに円形平面の貯蔵穴が1基確認された。開口部径は長軸122cm、短軸112cm、底面は隅丸方形で、一辺92cm、床面からの深さ35cmである。埋土は3層に分層（13～15）され、ロームブロックを多量に含む。13層から2の土師器破片が出土した。

【入口ピット】調査範囲には存在しない。

【コマド】痕跡は認められない。北壁に設置されていたのならば、削平と他遺構との切り合いで失われたと考えられる。SB-250のP6に切られて消滅した可能性もある。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は土師器破片2点のみである。1は土師器模倣坏で、床面中央で出土した。2は、口縁端部があまり開かない形の甕である。

【時期】出土遺物が少ないが、遺構の規模や主軸方向などを勘案すると、6世紀前半から中葉の遺構と推測される。



- | | | | |
|---------|------------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム・IP・SP・炭化物少量。しまり強。粘床。 | 13 黒褐色土 | ローム・IP・SPブロック・粒。炭化物多量。しまりあり。 |
| 2 黄褐色土 | ロームブロックと褐色土含む。しまり強。粘床。 | 14 黒黄褐色土 | ローム・IP・SPブロック・粒多量。しまりあり。 |
| 3 単黄褐色土 | ロームブロック・粒多量。IP・SPブロックやや多量。しまり強。粘床。 | 15 暗黄褐色土 | ロームブロック多量。IP・SPブロック少量。しまりあり。 |
| 4 明黄褐色土 | 軟SPブロック含む。 | P1 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 5 黄灰色土 | ローム粒多量。ロームブロック少量。しまりあり。 | P2 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 6 黒褐色土 | ロームブロック多量。IP・SP粒多量。 | P3 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 7 黒褐色土 | ローム・IP・SP粒やや多量。 | P4 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 8 黒褐色土 | ローム・IP・SP粒やや多量。 | P5 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 9 明黄褐色土 | ローム・IP・SP粒多量。IP・SP粒少量。 | P6 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 10 黄灰色土 | ローム・IP・SP粒多量。IP・SP粒少量。 | P7 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 11 黄灰色土 | ローム・IP・SP粒多量。IP・SP粒少量。 | P8 | ローム・IP・SP粒多量。 |
| 12 暗褐色土 | ローム・IP・SP粒・ブロック多量。しまりあり。 | P9 | ローム・IP・SP粒多量。 |

第144図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-139 実測図



第145図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-139 出土遺物実測図

第62表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-139出土遺物観察表

No.	種類 形状	計測値 (cm)	色調	取上	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内部	外面				
1	土師器 鉢	1径 (13.5) 底径 (8.1) 高さ (5.1)	N1.5/O	細粒砂少量含む。	良好	口縁部1/5	口縁部	格子子	格子子	取付痕、種の 突出。	床面直上	
							底部	ナデ	ヘラウズリ			
							底面	—	—			
2	土師器 甕	1径 (14.5) 底径 (10.0) 高さ (6.2)	100R/4 比ふい黄褐色	砂粒多量含む。	やや 不良	口縁破片	口縁部	格子子	格子子	断面は平く、直 径し、口縁部は 過厚なる。	貯蔵穴	
							底部	—	—			
							底面	—	—			

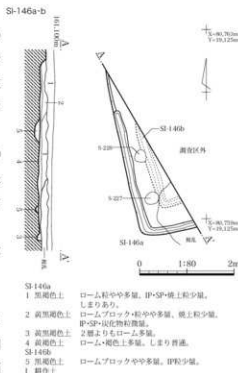
SI-146 (第146図、図版二八)

【概要】西区南部の東寄りに位置する竪穴建物跡である。遺構の南西コーナーが僅かに調査区にかかるだけで、その全形は不明である。上面は削平を受け、床面が一部露出している。西壁の方位は、N-12°-Wである S-27・28グリッドに跨る。確認面標高は南西側コーナー部分の上端で160.800mである。

【規模】西壁の調査長3.6m、南壁の調査長1.2mである。床面の標高は、南西側コーナー160.680m、北端160.700m、床面中央160.280mである。床面はほぼ水平である。調査した床面積は2.16㎡である。

【埋土】2層(1・2層)に分層される。ロームブロックを多量に含み、人為的な埋め戻しの可能性もある。

【床面・掘形】調査範囲では床面は平坦で硬くしまっている。浅い掘形に貼床が施される。掘形では、壁のやや内側に、さらに壁溝が巡ることが確認され、当建物が拡張されていることが判明した。主柱穴および入口ピットは、調査範囲には存在しない。西壁の南半分と南壁の調査範囲に周溝が存在する。旧建物跡は、調査範囲内では全て周溝を持つ。貯蔵穴とカマドは調査範囲には存在しない。遺物は出土しなかった。遺構の形状や主軸方向から、古墳時代後期と考えられる。



第146図 小鍋内II遺跡 SI-146 実測図

SI-183 (第147・148図、第63表、図版二八・五〇・五一)

【概要】西区中央に位置する、方形平面の竪穴建物跡である。東壁をSB-262のP5に、床面中央の西寄りをSB-262のP9に、南東コーナーをSB-152のP1に、南壁中央をSB-152のP9に切られる。また、北西コーナーの南側をSK-198に切られる。南東2mにSI-121、南方3mにはSI-184が位置する。遺構確認面は、東方向に斜めに削られている。南側の最も残りのよい部分でも、壁高は20cmである。東壁の方位は、N-2°-Wである。

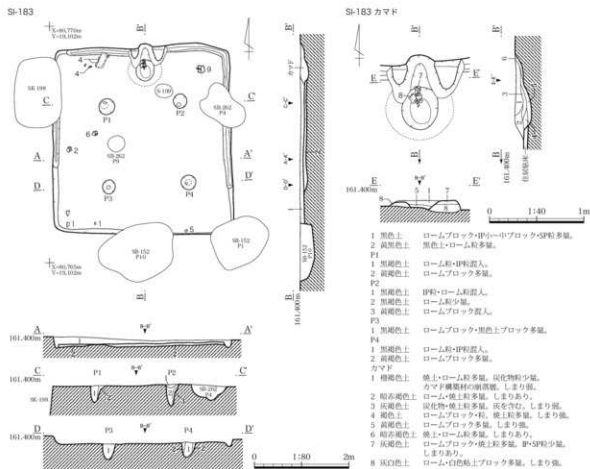
【位置】R 27グリッドに位置する。確認面の標高は南西側コーナーで161.245m、北西コーナーで161.285m、北東コーナーで161.200mである。

【規模】西壁3.8m、北壁3.6m、東壁3.9m、南壁3.8mの大きさと、ほぼ正方形を呈する。床面の標高は、北西側コーナー161.000m、北東側コーナー161.150m、南東側コーナー161.175m、南西側コーナー161.155m、中央161.111mである。床面はほぼ水平である。床面積は13.9㎡である。

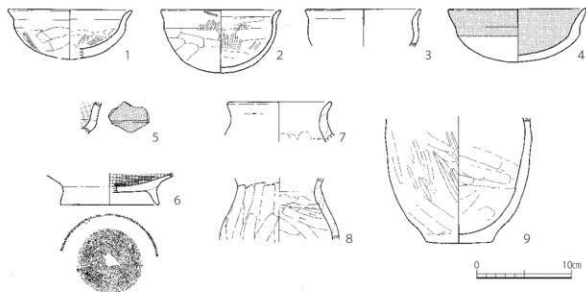
【埋土】埋土は最下層の1層を残すのみである。ロームブロックを多く含む。

【床面・掘形】北東側の約1/3が貼床で、残りの範囲は地山の掘削面を床面にする。床面は全体的に硬く締まり、著しい凹凸や、壇状の高まりなどはみられない。掘形底面も比較的平坦で、黒色土とロームブロックで埋め、その上に貼床を施している。

【柱穴】主柱穴は4基(P1~4)確認された。全て円形平面で、建て替え等による重複は見られない。P1は直径35cm、床面からの深さ42cm、P2は直径30cm、床面からの深さ53cm、P3の直径30cm、床面からの深さ35cm、P4は直径32cm、床面からの深さ38cmである。P2を除き、全ての柱穴の埋土中に柱痕が確認できる。



第147図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-183 実測図



第148図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-183 出土遺物実測図

第63表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-183出土遺物観察表

No.	種類 部群	計測値 (m)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							口縁部	内面	外面			
1	土師陶 銅形埴	口径 13.2	5YR6/6 橙	黒褐色、白色・透明 砂粒少量、雲母薄 量含む。	良好	口縁部～腹 部1/10	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が外 傾し、内面に 横溝。	床面直上	
		底径 5.4					体部	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ			
2	土師陶 銅形埴	口径 (12.8)	5YR6/6 橙	粗い、砂粒・白色細 砂粒多量含む。	良好	口縁部～腹 部2/5	口縁部	横ナデ	横ナデ、ヘラミガキ	口縁部が外 傾し、内面に 横溝。	床面直上	
		底径 6.8					体部	ヘラケズリ	ヘラケズリ、ヘラミガキ			
3	土師陶 銅形埴	口径 12.2	7.5YR6/6 橙	やや粗密、透明・白 色細砂少量含む。	良好	口縁部1/10	口縁部	横ナデ、ナデアゲ	横ナデ	口縁部が外 傾、内面に横 溝、内面の磨耗痕 あり。	埋土	
		底径 3.9					体部	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ			
4	土師陶 埴	口径 (20.8)	7.5YR7/6 橙	赤色粒少量含む。	良好	口縁部～腹 部1/10	口縁部	横ナデ	横ナデ	表面摩滅度しく 調整不明瞭。内 面～口縁部外面 赤紅。	貯蔵穴	胎料は ベンガラ
		底径 5.6					体部	ナデ	ナデ			
5	土師陶 埴	口径 12.2	10YR7/3 赤い黄緑	白色細砂粒、雲母 少量含む。	良好	体部部割片	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面と外面共 に赤紅。	貯蔵穴	胎料は ベンガラ
		底径 3.4					体部	ナデ	ヘラケズリ			
6	土師陶 高台付 埴	口径 (11.0)	10YR7/4 赤い黄緑	やや粗密、雲母、 白色・透明細砂粒少 量含む。	良好	高台部割1/2	口縁部	ナデ	ヘラケズリ	内面黒色処理。 高台縁部は薄く なる。高台径 10.4cm	床面直上	
		底径 3.2					底部	ロクロナデ後、ヘラミガキ	回転ヘラケズリ後、付高台			
7	土師陶 小型埴	口径 (11.0)	7.5YR6/4 赤い黄緑	白色細砂粒含む。	良好	口縁部割片	口縁部	横ナデ	横ナデ		カマド	
		底径 4.2					体部	磨削圧削	ナデ			
8	土師陶 小型埴	口径 6.8	7.5YR4/3 黄	細砂粒多量含む。	良好	胴部～肩部 1/2	口縁部	横ナデ	横ナデ	粗製、内面輪 縁部。	貯蔵穴	
		底径 6.5					体部	削ナデ	磨ヘラナデ			
9	土師陶 埴	口径 6.8	7.5YR7/6 橙	やや粗い、白色細砂 粒・雲母少量含む。	良好	体部～腹 部3/5	口縁部	ナデ	ナデ	底部がやや尖 形。	床面直上	
		底径 13.2					体部	ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラミガキ			
							底部	ヘラケズリ、ヘラナデ	不定方向ヘラケズリ			

【壁溝】壁溝は、西壁の中央、北壁のカマドの両側、東壁の北側2/3に存在する。南壁際には存在しない。

【貯蔵穴・入口ピット】存在しない。

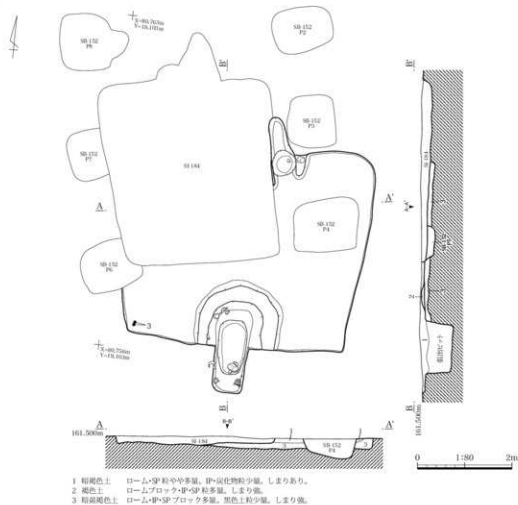
【カマド】北壁のほぼ中央に付設される。掘形は、燃焼部の範囲を中心に円形に地山を掘り込んで設けられ、貼床を施し火床面とする。袖部は、燃焼部周囲の建物貼床上に、主に灰白色粘土を用いて構築される。カマド上面は削平を受けているが、両袖部とも保存状態は比較的良好である。袖部には芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けている。煙道の突出はほとんど無く、燃焼部から急角度に立ち上がるものと考えられる。天井部は崩落して埋土の土層中で確認できた。燃焼部から土師器の埴1点(5)、裏1点(7)が出土した。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

【出土遺物】当遺構では、主にカマド燃焼部、カマド周囲で遺物が出土した。図化・掲載した遺物は全て土師器で、埴3点(1、4、5)、埴2点(2、3)、裏3点(7～9)である。

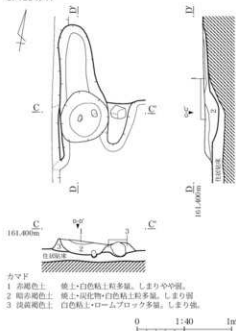
2・3の形状は、内斜口縁の塊を想起させるが、2は口縁部外面に僅かに稜が見られる。1の埴も2に類似する。4は模倣埴で、内面と口縁部外面が赤彩される。7・8は小振りな裏の口縁部から肩部までで、9はこれに類似する裏の胴部下半と考えられる。6のロクロ土師器は、内面黒色処理で、底面回転ヘラ削りの後、丈の高い高台を付ける。これは9世紀後葉から10世紀代にかけての特徴を示し、掘立柱建物跡建設時の混入品の可能性がある。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉の遺構と考えられる。

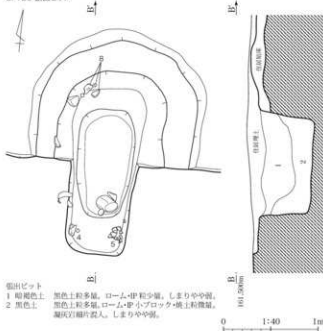
SI-185



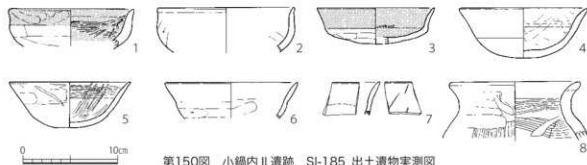
SI-185 カマド



SI-185 墓出ピット



第149図 小鍋内II遺跡 SI-185 実測図



第150図 小鍋内II遺跡 SI-185 出土遺物実測図

第64表 小鍋内II遺跡 SI-185出土遺物観察表

No.	種類 図様	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	接合		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師陶 坪	口径 (13.4)	7.5YR4/6 橙	白色細砂粒・透明細 砂粒・黒砂粒・雲母 少量。	良好	口縁部1/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	境不明瞭。 内面～口縁部 外面に赤彩。	埋土	顔料は ベンガラ
		体部					ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ				
2	土師陶 坪	口径 (14.5)	10YR6/6 明黄橙	細砂粒多量含む。	良好	口縁部～体 部下端1/6	口縁部	横ナデ	横ナデ	形状不詳。 口縁部が外 反。	埋土	
		体部					放射状ヘラミガキ	ヘラケズリ				
3	土師陶 坪	口径 12.2	10YR7/4 に淡い黄橙	やや粗い、白色細 砂粒・透明細砂粒少 量含む。	良好	口縁～体部 2/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面～口縁部 の外側に赤彩。	床面直上	顔料は ベンガラ
		体部					ヘラミガキ	ヘラケズリ				
4	土師陶 坪	口径 (13.8)	5YR6/6 橙	黒色、雲母・白色細 砂粒・印粒含む。	良好	2/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部開く。表 面磨耗激しく調 整一部不明瞭。	張出 ビット	
		体部					ヘラミガキ	ヘラミガキ				
5	土師陶 坪	口径 (12.8)	7.5YR7/6 橙	赤色粒少量、やや 磨滅含む。	良好	口縁部～体 部2/3	口縁部	横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ	口縁部開く。 器面の磨滅が 激しい。	張出 ビット	
		体部					ヘラナデ後、ヘラミガキ	ヘラケズリ後、磨ミガキ				
6	土師陶 坪	口径 (12.9)	2.5YR6/8 橙	赤・黒・印粒少量含む。	良好	口縁部～体 部1/3	口縁部	磨滅し不明	磨滅し不明	口縁部開く。 境不明瞭。口縁 部やや内折。	張出 ビット	
		体部					磨滅し不明	磨滅し不明				
7	土師陶 坪	口径 (11.6)	2.5YR6/8 橙	磨滅、赤色粒少量 含む。	良好	口縁部破片	口縁部	横ナデ	横ナデ	表面磨耗激しく、 調整不明瞭。	埋土	
		体部					—	—				
8	土師陶 小型 坪	口径 16.0	7.5YR7/6 橙	やや粗い、透明細 砂粒・白色細砂粒多 量。	良好	口縁部1/2	口縁部	横ナデ	横ナデ	磨滅激しい。 内外面にハケ メ。	張出 ビット	
		体部					ハケメ	ハケメ				
		口径 6.0					底部	—	—			

SI-185 (第149・150図、第64表、図版二八・五一)

【概要】西区中央の南寄りに位置する、方形平面の竪穴建物跡である。北西コーナーを古代の竪穴建物跡SI-184が切り、遺構の約1/3が失われている。さらに古代の掘立柱建物跡SB-152のP4～6が床面と西壁の一部を切っている。南西壁の方位は、N-11°-Wである。

【位置】R-27・28グリッドに跨って位置する。確認面の標高は西側コーナーで161.260m、北東コーナーで161.160m、南東コーナーで161.150m、南西コーナーで161.260mである。

【規模】北壁残存長2.1m、東壁4.0m、南壁4.5m、西壁残存長0.95mの大きさで、北東コーナーがやや丸くなる。床面の標高は、中央で161.150mである。残存床面積は12.8㎡である。

【埋土】埋土は1層(1層)が薄く残るのみで、自然埋没か人為的埋め戻しかは判断できない。

【床面・掘形】残存部分は全て貼床である。南壁中央では、ロームブロックの盛土が、張出ビット前面を巡っている。この上面は極めて硬い。残存部分に柱穴・壁溝は存在しない。

【張出ビット】南壁中央に存在する。南壁から97cm張出す。平面は隅丸長方形で、開口部は2段である。底

面は平坦である。開口部の長軸114cm、短軸58cmで、床面からの深さは45cmである。壁は、急角度で立ち上る。埋土は2層に分かれ、2層には焼土粒子や凝灰岩破片が含まれる土師器環2点と、馬蹄形盛土の内側で土師器環1点が出土した。入口ピットは残存範囲には存在しない。

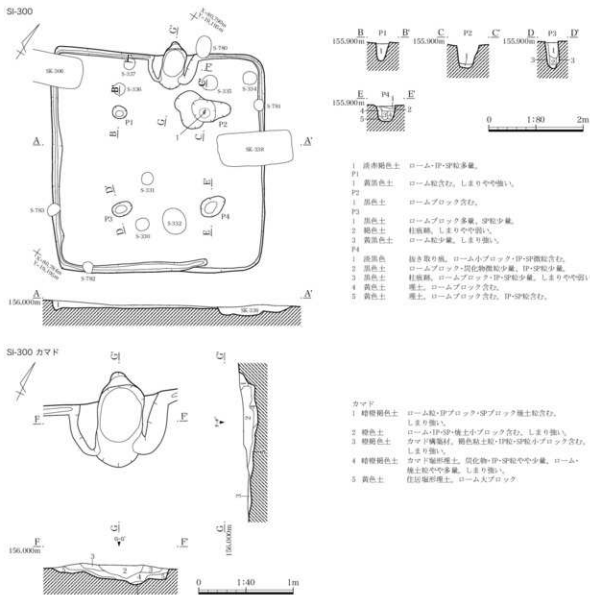
【カマド】北壁の中央からやや東寄りに付設される。西側袖部はSI-184に切られている。建物貼床を浅く掘って火床面を造り、灰白色粘土とロームブロックで袖部を構築している。袖部の取り付け部分では、凝灰岩の芯材を立て、構築材で塗り込める。火床面には凝灰岩製の支脚が残る。煙道は建物北壁から0.8m突出する。

【出土遺物】土師器環7点と小型の甕1点が出土した。環は、稜の明瞭なもの、不明瞭なもの2種に大別され、後者はさらに口縁のやや内傾する2と、広がる4・5に分かれる。

【時期】出土遺物から、6世紀前葉から中葉にかけての遺構と考えられる。

SI-300 (第151・152図、第65表、図版二九)

【概要】東区の東端に位置する、竪穴建物跡である。西コーナーをSK-306に、東壁中央をSK-338に切られ



第151図 小鍋内II遺跡 SI-300 実測図



第152図 小鍋内II遺跡 SI-300 出土遺物実測図

第65表 小鍋内II遺跡 SI-300出土遺物観察表

No.	種類 種類	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	口縁部	(46.2)	7.5/4/1 灰	緻密、雲母・細砂粒 多量含む。	良好	口縁部破片	口縁部	口ウロナデ	口ウロナデ	口縁部張り出し 器部外面に、磨損 穴、中穴あり。	P2	新由産
	底面	底面					底面					
	底面	底面					底面					

る。南西2mにSI-301が位置する。南西壁の方位は、N-34.5°-Wである。

【位置】V-26グリッドに位置する。確認面の標高は東コーナーで155.860m、西コーナーで155.970mである。

【規模】南西壁4.65m、北西壁4.4m、北東壁4.58m、南東壁4.2mで、正方形に近い。床面標高は、中央で155.780mである。床面はほぼ水平で、面積は18.5㎡である。

【埋土】埋土は最下層の1層を残すのみである。粒子は均一で細かい。

【床面・掘形】貼床部分は無い。床面は全体的に硬く締まり、凹凸も少ない。主柱穴は4基存在し、P2には抜き取りによる開口部周囲の崩れがある。P3、P4には埋土中に柱痕が確認できる。

【壁溝】壁溝は、北東壁の2/3、南東壁の1/4を除いて存在する。貯蔵穴・入口ピットは存在しない。

【カマド】北西壁の中央からやや北東寄りに付設される。掘形に、貼床を施し火床面とする。袖部は、灰褐色粘土で構築され、芯材は用いず、壁面に直接取り付けられる。煙道の突出は少なく、急角度に立ち上がる。

【出土遺物】図示し得たのは須恵器甕口縁端部の破片(1)のみで、波長のやや細かい櫛描波状文が残る。

【時期】時期推定の資料に乏しいが、カマド煙道の形状や、出土遺物から、7世紀前葉頃と推測する。

SI-301 (第153図)

【概要】東区南端に位置する。大きく削平を受け、建物の北側3/5が失われている。南側の最も残りのよい部分では、壁高は14cmである。さらに床面の東半分はSK-765に切られる。北東2mにSI-301が存在する。南壁の方位は、N-79°-Wである。V-26・27グリッドにまたがり、確認面の標高は南西側コーナーで156.305m、南東コーナー156.350mである。

【規模】南壁4.4m、東壁残存長0.6m、西壁残存長0.5mである。床面の標高は、中央で156.140mである。床面の残存面積は3.5㎡である。

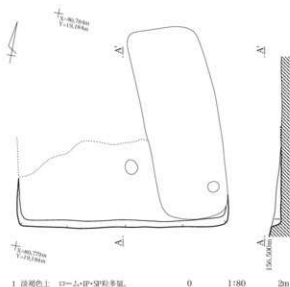
【床面・掘形】残存範囲に貼床は無い。床の表面は硬く締まっている。

【柱穴・壁溝・貯蔵穴・入口ピット】これらは残存部分には存在しない。

【カマド】残存部分には存在しない。

【出土遺物】埋土から、内面にミガキを施す土師器環破片等が少量出土したが、図化・掲載し得る遺物は少ない。

【時期】古墳時代後期～終末期頃と推測される。



第153図 小鍋内II遺跡 SI-301 実測図

SI-457 (第154図、第66表、図版五一)

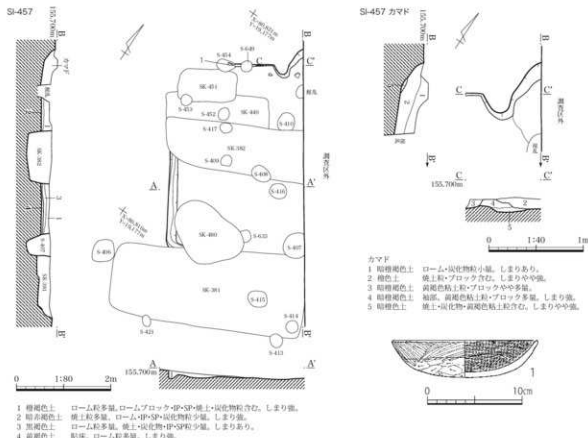
【概要】東区の北に位置する、竪穴建物跡である。カマドの主軸を境に、北東側の1/2は調査区外である。この場所は、小鍋内Ⅱ遺跡の中でも中世の方形土坑が密集する地点で、当遺構も、西コーナーをSK-382に、床面中央をSK-440・451に、南東壁をSK-381・480に切られる。北西4.5mに古墳時代のSI-521が位置する。遺構上面は削平を受け、壁高は15cm以下である。南西壁の方位は、N-31.5°-Wである。

【位置】U-24・25、V-24・25グリッドに跨る。確認面の標高はカマド煙道先端で155.650m、南コーナーで155.650mである。

【規模】南西壁の推定は長3.8m、北壁の調査長2.5m、南壁調査長2.85mであり、推定ではほぼ4m四方の正方形を呈するものと考えられる。床面の標高は、カマドの前で155.370m、南コーナー155.540m、中央で155.350mである。床面はほぼ水平である。床面の調査面積は11.2㎡である。

【埋土】埋土は3層で、2・3層には炭化物が含まれる。粒子は均一で細かい。

【床面・掘形】調査範囲の床面は全て貼床である。床面は全体的に硬く締まり、著しい凹凸や、壇状の高まりなどはみられない。掘形底面も比較的平坦で、ロームブロックを用い、薄く貼床を施している。



第154図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-457 実測図及び出土遺物実測図

第66表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-457出土遺物観察表

No.	発掘 段階	計測値 (m)	色調	質土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内部	外面			
1	土間層 坪	15.5 3.9	10YR7/3 に濃い黄褐色	黄州、細砂粒少量 含む。	良好	4/5	内部 側部	新ヘラミガキ 新ヘラミガキ	壁不揃、 内部凹色処理、 側部外面に黒 焼。	埋土	

【柱穴】調査範囲に柱穴は存在しない。主柱穴を床面四隅に立てる構造ではないと判断される。

【壁溝】南西壁に沿って壁溝が確認できる。

【貯蔵穴・入口ピット】調査範囲では確認できない。

【カマド】北西壁に付設される。北東側1/2は調査区外である。燃焼部の範囲の地山を掘り凹め火床面とする。袖部は、主にロームブロックを用いて構築される。袖部には芯材は用いず、建物壁面に直接取り付けている。煙道は壁から38cm突出し、燃焼部から緩い角度に立ち上がる。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

【出土遺物】図化・掲載し得た遺物は土師器灰1点（1）である。カマドの西側の床面で出土した。内と口縁部外面に丁寧なミガキを施す。内面には漆を薄く塗布する。

【時期】出土遺物から、7世紀後葉と考えられる。

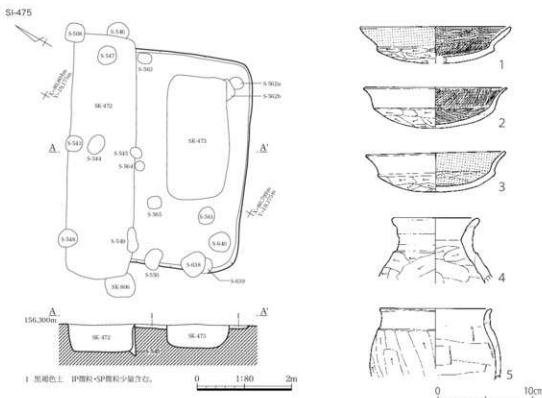
SI-475（第155図、第67表、図版四一）

【概要】東区の中央に位置する、竪穴建物跡である。この場所は、小鍋内II遺跡の中でも中世の方形土坑が密集する地点で、当遺構も、北壁をSK-472に、床面の南寄りの範囲をSK-473に切られ、埋土に掘られたS-545・549・550・638～640・561～565のピットは、床下に達する。北東4.5mには古代のSI-303が位置する。遺構上面は削平を受け、壁高は10cm以下である。南壁の方位は、N-22.3°-Wである。

【位置】U-25・26グリッドに跨る。確認面の標高は南東コーナー156.070m、南西コーナー156.147mである。

【規模】西壁の残存長2.18m、南壁の長さ4.4m、東壁の残存長2.3mである。床面標高は、南西コーナー156.050m、南東コーナー156.030m、中央で156.030mである。床面はほぼ水平で、床面の残存面積は9.6㎡である。

【埋土】埋土は1層で、今市バミス（IP）・七本桜バミス（SP）を含み、粒子は均一で細かい。



第155図 小鍋内II遺跡 SI-475 実測図及び出土遺物実測図

第67表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-475出土遺物観察表

No.	埋蔵 深層	計測値 (cm)	色調	粘土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師器 埴	口径 (16.0)	10YR6/4 に赤い黄斑 含む。	褐色、砂粒少量含 む。	良好	口縁部～底 部2/5	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ	口縁部が厚く、 内面と外面上 平にウルムシ仕 上げ。	埋土	
		体部					放射状ヘラミガキ	横ヘラケズリ				
		底面					一定方向ヘラケズリ	不定方向ヘラケズリ				
2	土師器 埴	口径 15.2	7.5YR5/4 に赤い黄 斑	白色陶砂粒少量含 む。	良好	口縁部～底 部3/4	口縁部	横ヘラミガキ	横ナデ	口縁部が外反、 内面ウルムシ仕 上げ。	埋土	
		体部					横ヘラミガキ	横ヘラケズリ				
		底面					一定方向ヘラミガキ	不定方向ヘラケズリ				
3	土師器 埴	口径 14.8	7.5YR6/3 に赤い黄 斑	陶砂粒多量含む。	良好	口縁部～底 部4/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	内面ウルムシ仕 上げか。	埋土	
		体部					横ナデ	横ヘラケズリ				
		底面					ナデ	不定方向ヘラケズリ				
4	土師器 埴	口径 (9.2)	10YR6/2 黄斑斑	褐色、陶砂粒少量 含む。	良好	口縁部～底 部1/5	口縁部	横ヘラナデ	横ヘラナデ	器壁が厚い、 断面が狭い。	埋土	
		体部					横ヘラナデ	横ヘラケズリ				
		底面					—	—				
5	土師器 埴	口径 (12.0)	7.5YR7/6 橙	陶砂粒多量含む。	良好	口縁部～底 部1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	外面に黒斑。	埋土	
		体部					横ヘラナデ	横ヘラナデ				
		底面					—	—				

【床面・掘形】残存範囲の床面は全てローム面である。貼床はみられない。

【柱穴・壁溝】残存範囲に柱穴・壁溝は存在しない。主柱穴を床面四隅に立てる構造ではないと判断される。

【貯蔵穴・入口ピット・カマド】残存範囲には存在しない。

【出土遺物】図化・掲載し得た遺物は土師器の埴3点、埴2点である。床面とその直上の出土である。模倣埴は口縁部が大きく開く。2・3は赤彩である。

【時期】出土遺物から、6世紀中葉から後半にかけての時期と考えられる。

SI-521 (第156・157図、第68表、図版二九・五一)

【概要】東区北端に位置する、方形平面の竪穴建物跡である。SK-394・395・399・443・518～520・526・528・530・535・590に切られ、カマドの西半分と床面の1/4程度が残るのみである。南東6mにSI-457が位置する。遺構上面は削平され、壁高は15cm以下である。南壁の方位は、N-119°-Wである。

【位置】U-24グリッドに位置する。確認面の標高はカマドの北端で155.735mあり、南東コーナー部分では155.760mである。

【規模】西壁復元長3.0m、北壁復元長3.25m、東壁3.0m、南壁2.98mの大きさで、北壁がやや開く方形である。床面の標高は、北東コーナー155.710m、南東コーナー155.650m、南西コーナー155.750mである。床面積は復元で、9.0㎡である。

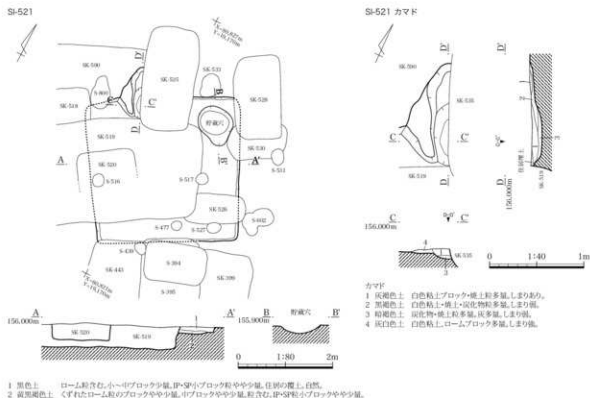
【埋土】上記の通り遺構正面の削平が著しく、埋土は下層の2層を残すのみであった。両者とも白色粘土粒子、焼土粒子等を多く含む。

【床面・掘形】残存床面は東側の一部が貼床で、その他はローム面を床にする。床面は全体的に硬く締まる。

【柱穴・壁溝・入口ピット】これらは、残存範囲には存在しない。

【貯蔵穴】北東コーナーに1基存在する。開口部は歪んだ楕円形で、極めて浅く、皿状を呈する。長軸78cm、短軸70cm、床面からの深さ20cmである。土師器埴(1)が出土した。ほぼ1個体分の破片がそろい、底面中央で潰れた状態で確認された。

【カマド】北壁の中央から西に寄った位置に付設される。東半分はSK-535に切られ、失われている。ローム面を浅く掘り凹めて火床面とする。袖部は、主に白色粘土を用いて構築される。袖部には芯材は用いず、基部



第156図 小鍋内II遺跡 SI-521 実測図



第157図 小鍋内II遺跡 SI-521 出土遺物実測図

第68表 小鍋内II遺跡 SI-521出土遺物観察表

No.	種類 図様	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 甕	口徑	13.6	S1R5/4 にぶい赤褐色	砂粒少量、南々に 小の礫含む。	良好	胴部一部欠 損	口縁部	横ナデ溝、彫へウエリナデ	横ナデ	胴部は長く、口 縁部は外反、 底部はやや厚。	貯蔵穴
		底径	6.4					体部	横へウナデ	へウナデ溝、ミナデ		
		器高	14.2					底部	放射状へウナデ	不定方向ナデ		

を煙道側壁と一体化した構造にして、建物壁面に固定する。煙道は、壁から70cm突出し、燃燒部から緩い角度で立ち上がる。天井部は崩落して埋土の土層中で確認できた。カマド内面はよく焼けて焼土化している。

【出土遺物】図化・掲載し得た遺物は1の土師器甕のみであった。口縁部の内面と胴部の外面にやや粗いヘラミガキを施す。

【時期】出土遺物から、6世紀中葉～後半と考えられる。

2. 土坑 (第158・159図、第69・70表、図版二九・五一)

小鍋内Ⅱ遺跡においても、古墳時代の竪穴建物の周辺に、同時代の土坑が10基確認された。全て円筒形の土坑で、開口部の直径1～1.5m程度の大きさである。遺構上部は削平されているが、概して小鍋内Ⅰ遺跡よりは保存状態の良いものが多い。以下、各遺構について述べる。

SK-014 (第158・159図、第69・70表、図版二九・五一)

北区の南部で確認された。R-25・26グリッドに跨り、他遺構との重複はない。開口部の平面は正門に近い。直径160cmである。壁面は直線的でやや内傾する。残存高は45cmである。底面は僅かに凸面を呈する。埋土はモザイク状に細かく分層され、人為的に埋め戻された可能性が高い。土師器が4点出土している。1は坏で、内面や口縁部外面に丁寧なヘラミガキが施される。2～3は塊で、いずれも底部を欠損する。器壁が厚く、ヘラケズリの後ナデを施す。口縁端部は僅かに外反する。古墳時代後期(6世紀中葉)の土坑と考えられる。

SK-018 (第158図、第70表)

北区の南部で確認された。R-24グリッドに位置し、他遺構との重複はない。開口部の平面は正門に近い。直径132cmである。壁面は急角度に立ち上がる。残存高は35cmである。底面は中央が僅かに高くなり、凸面を呈する。埋土は壁際に黒褐色土層が認められるが、ほとんど1層である。ロームブロックも多く含み、人為的に埋め戻された可能性が高い。図示できる遺物は出土しなかった。

SK-019 (第158図、第70表)

北区南部で確認された。R-24グリッドに位置し、2.3m北東にSK-018が存在する。他遺構との重複はない。開口部の平面は、一部に崩落の痕が存在するが、ほぼ正門である。直径120cmである。壁面は急角度に立ち上がる。残存高は25cmである。底面は中央が僅かに高くなり、凸面を呈する。埋土は上下2層で、下層にロームブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。図示できる遺物は無い。

SK-024 (第158図、第70表)

北区北部で確認された。Q-23グリッドに位置する。北東3mにSK-25が存在する。他遺構との重複はない。開口部の平面はほぼ正門で、直径126cmである。壁面は急角度に立ち上がる。残存壁高は60cmである。底面は中央が僅かに高くなり、凸面を呈する。埋土は上下2層に分層できる。1層にはロームブロックが極めて多く含まれ、人為的に埋め戻されたものと考えられる。土師器の小破片が出土したが、図示できる遺物は無い。

SK-025 (第158図、第70表、図版二九)

北区北部で確認した、やや小型の円筒形の土坑である。Q-23グリッドに位置する。3m南西にSK-024が存在する。他遺構との重複はない。開口部の平面はほぼ正門で、直径92cm前後である。壁面は急角度に立ち上がる。残存高は40cmである。底面は平坦である。埋土は上下2層に分層できる。1層にはロームブロックを極多く含むことから、人為的に埋め戻された可能性がある。図示できる遺物の出土は無い。

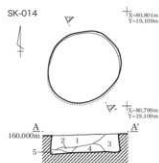
SK-064 (第158図、第70表、図版二九)

西区北部で確認した、やや小型の円筒形の土坑である。R-26グリッドに位置する。1.5m北にSI-050が存在する。他遺構との重複はない。遺構上部は削平を受け、底部が僅かに残る。平面は正門に近く、直径は100cmである。残存壁高は17cmである。底面は中央が僅かに高くなり、凸面を呈する。埋土は最下層の1層が残るのみで、埋没の状況は不明である。図示できる遺物の出土は無い。

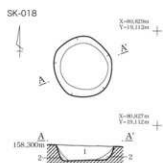
SK-067 (第158図、第70表)

西区中央で確認した、やや小型の円筒形の土坑である。R-27グリッドに位置する。3.1m西にSI-055が存在する。他遺構との重複はない。遺構上部は削平を受け、底部が僅かに残る。平面は正門に近く、直径は102cm

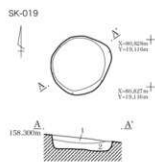
第IV章 小鍋内II遺跡



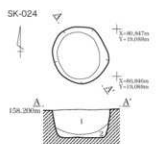
- 1 黒色土 ローム・伊敷粒多量。
- 2 黒色土 炭化物多量、ロームブロック・ローム粒・伊敷粒少量。
- 3 黒色土 ローム・IP・SP少量。
- 4 黒褐色土 ロームブロック(厚10mm)・ローム粒多量、伊敷粒少量。
- 5 黒褐色土 ロームブロック・伊敷粒少量。



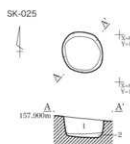
- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多量、IP・SP小ブロックと粒少量、しまり強。
- 2 黒褐色土 ロームと伊敷粒少量、しまり弱。



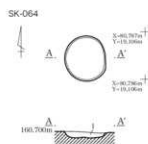
- 1 黒褐色土 ロームとIPの小ブロック少量、しまりあり。
- 2 黄褐色土 ロームブロック多量、IP・小ブロック少量、しまりあり。



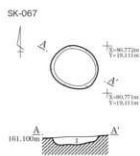
- 1 明褐色土 ローム・IP・SPブロック粒多量、しまりあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロック粒少量、しまりあり。



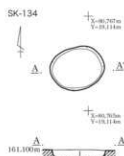
- 1 褐色土 ローム粒・ブロック多量、IPブロック少量、しまり強。
- 2 黒褐色土 ロームブロック粒少量、しまり弱。



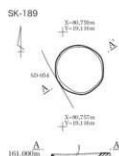
- 1 黒褐色土 ローム・IP・SP粒少量。



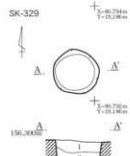
- 1 明黄褐色土 ローム粒と小ブロックやや多量、伊敷粒の小ブロックと伊敷粒の小ブロック少量、しまりあり。
- 2 黄褐色土 ロームブロック人多量、IP小ブロック少量。



- 1 明黄褐色土 ローム・小ブロック、SP・IPの小ブロック多量、しまりあり。

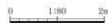


- 1 灰黒色土 粘石のある灰黒色土(床平)の上にIP・SP・ローム・炭化物・土の微粒混雑。



- 1 黒褐色土 ローム・IP・SP粒少量、しまり強、ロームブロック少量。
- 2 黄褐色土 ロームブロック・黒色土粒多量、しまりあり。

第158図 小鍋内II遺跡 古墳時代土坑実測図



第159図 小鍋内II遺跡 SK-014 出土遺物実測図

第69表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-014出土遺物観察表

No.	種類 種類	計測値 (cm)	色調	出土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師器 環	口径	13.1	2.5YR4/4 に濃い赤褐色	砂粒多量含む。	良好	完好	口縁部	横へらミガキ	横へらミガキ	器壁厚い。焼 明瞭。口縁部 外反。	表面直上
		底径	4.7					底部	放射状へらミガキ	へらケズリ。一部ミガキ		
		口径	(12.3)					口縁部	横ナデ	横ナデ		
		底径	(5.9)					底部	横ナデ	横ナデ		
2	土師器 環	口径	(11.4)	2.5YR5/8 明赤褐色	細砂粒少量含む。	良好	1/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	環形環。口縁 部内面に焼。	表面直上
		底径	(4.6)					底部	へらミガキ	へらケズリ		
		口径	(11.4)					口縁部	横ナデ	横ナデ		
		底径	(4.6)					底部	へらナデ	へらナデ		
3	土師器 環	口径	(11.0)	7.5YR5/6 明褐色	白色細砂粒多量含む。	良好	口縁部～底 部1/10	口縁部	横ナデ	横ナデ	器面の磨減が 激しい。	埋土
		底径	(4.6)					底部	へらナデ	へらナデ		
		口径	(11.0)					口縁部	ナデ	ナデ		
		底径	(2.8)					底部	—	—		

である。残存壁高は20cmである。底面には比較的凹凸が多い。埋土は最下層の1層が残るのみで、埋没の状況は不明である。図示できる遺物の出土は無い。

SK-134 (第158図、第70表、図版二九)

西区の中央で確認された。R-27グリッドに位置し、SI-102を切る。遺構上部は削平を受け、底部と壁の立ち上がり部分が僅かに残る。平面は、北東にやや長い円形である。長軸は117cm、短軸90cm、残存壁高は23cmである。底面は平坦である。埋土は最下層の1層が残るのみで、埋没の状況は不明である。図示できる遺物の出土は無い。

SK-189 (第158図、第70表、図版二九)

西区南東部で確認された。R-28グリッドに位置し、SI-102の南壁に接する。古代の溝跡SD-054が南西壁に接することから、遺構上部ではSD-054に切られていたと考えられる。遺構上部は削平を受け、底部が残る。平面は正円に近く、直径103cmで、残存壁高は15cmである。底面は平坦である。埋土は最下層の1層が残るが、埋没の状況は不明である。図示できる遺物の出土は無い。

第70表 小鍋内Ⅱ遺跡 古墳時代土坑一覧表

No.	遺構 番号	調査区	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
1	SK-014	Ⅱ北	R-25	円	1.52	1.50	0.38	—	(埋藏遺物あり。土師器環3、銅1) 土器5・ケルミ固化物5出土あり	南側オーバーハンダで底部の方が広い。	
2	SK-018	Ⅱ北	R-24	円	1.30	1.20	0.34	—			
3	SK-019	Ⅱ北	R-24	円	1.32	1.20	0.28	—			
4	SK-024	Ⅱ北	Q-23	円	1.22	1.10	0.50	—			
5	SK-025	Ⅱ北	Q-23	円	0.82	0.84	0.40	—			
6	SK-064	Ⅱ西	R-26	円	0.95	0.86	0.14	—			
7	SK-067	Ⅱ西	R-27	円	0.98	0.90	0.17	—			
8	SK-134	Ⅱ西	R-27	南北長方	1.09	0.91	0.16	N60°E			S240との切り合い不明
9	SK-189	Ⅱ西	R-28	円	1.04	1.03	0.09	—	(埋藏遺物あり。かわらけ1)		SD-054との切り合い不明
10	SK-329	Ⅱ南	V-26	円	0.98	0.94	0.51	—			

SK-329 (158図、第70表、図版二九)

東区南東部で確認した、やや小型の円筒形土坑である。V-26 グリッドに位置する。他遺構との重複はない。開口部の平面はほぼ正円で、直径95cmである。壁面は急角度に立ち上がり、残存高は53cmである。底面は中央が僅かに高くなり、凸面を呈する。底面は東側に僅かに傾斜している。埋土は上下2層に分層でき、2層にロームブロックを極多く含む。人為的に埋め戻された可能性がある。図示できる遺物の出土は無い。

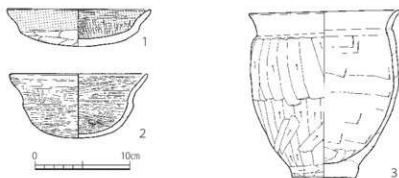
3. 遺構外出土遺物 (第160図、第71表、図版五一)

小鍋内II遺跡では、発掘調査に先立つ現地踏査、表土除去作業、遺構確認作業に際し、古墳時代の遺物も採取されている。これらの中で、図示可能な主要遺物について記載する。土師器環2点、土師器甕1点である。

1は西区南部の遺構確認面で採取された。土師器環である。体部と底部の境界に稜を持ち、口縁部は大きく開く。内面には放射状の粗いヘラミガキが施される。内面から口縁部外面にかけて赤彩される。

2は土師器環あるいは鉢である。北区南部の遺構確認面で採取された。器壁は薄く口縁部と体部の境界には弱い稜線が認められる。内外面共に極めて丁寧な細かいヘラミガキが施される。ミガキは横方向に施される。

3は土師器甕で、東区中央の北寄りで遺構確認面から採取された。口縁部から底部までの破片が存在し、全形が復元できる。口縁部外面には強い横ナデによって、胴部との境に段差が生じる。胴部外面は縦方向のヘラケズリ、内面は幅の広い工具による横ナデが施され、平滑に仕上げられている。底部外面はヘラケズリにより、平坦である。古墳時代終末期、あるいは古代まで年代が下がる可能性もある。



第160図 小鍋内II遺跡 遺構外出土の古墳時代遺物実測図

第71表 小鍋内II遺跡 遺構外出土の古墳時代遺物観察表

No.	種類 形状	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土師器 環	口径 (15.1) 底径 — 高さ 3.9	10YR2/3 灰濁	白色細砂粒・透明細 砂粒含む。	良好	口縁部～底 部1/2	口縁部 横ナデ後、ヘラミガキ 体部 横ナデ後、ヘラミガキ 底部 横ナデ後、ヘラミガキ	横ナデ ヘラケズリ	内面と外面土 平にウルクシ。	表採	
2	土師器 環	口径 (14.6) 底径 — 高さ 6.8	7.5YR5/6 明濁	白色細砂粒少量、 透明細砂粒微量含 む。	良好	口縁部～底 部1/2	口縁部 横ヘラミガキ 体部 横ヘラミガキ 底部 ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	口縁部が大き く開く。	表採	
3	土師器 甕	口径 16.0 底径 6.7 高さ 17.7	7.5YR7/3 に灰濁	砂質でやや粗い、 白色細砂粒・黒母多 量含む。	良好	口縁部～胴 部1/3欠損	口縁部 横ナデ 体部 横ヘラナデ 底部 不定方向ナデ	横ナデ 横ヘラケズリ 不定方向ヘラケズリ	底部が突出す る。外面被熱 跡しい。	表採	

第6節 奈良・平安時代の遺構と遺物

小鍋内Ⅱ遺跡における該期の遺構の多くは、調査区の西区・東区に集中する。櫛列2条、掘立柱建物跡竪穴建物9棟、竪穴建物7軒、土坑4基、溝跡2条が確認された。

1. 掘立柱崩跡

SA-044 (第161図、図版三〇)

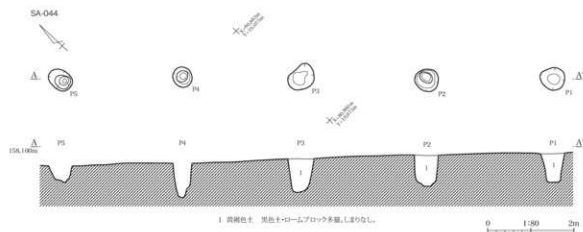
【概要】北区北端で確認された5間の掘立柱列で、櫛跡あるいは崩跡と考えられる。北西から南東方向に延びる。他遺構との重複はない。方位は南N-44°-Wである。西北端の柱穴は調査区境界にほぼ接しているため、柱穴列は北西方向にさらに延びる可能性はある。

【位置】P-22・23グリッドに位置し、確認面標高は157.7~158.0mで、北西に緩やかに傾斜する。

【規模・柱間寸法】総長は11.32mで、柱間寸法は北西から南から2.75m、2.7m、2.95m、2.98mである。

【柱穴】柱穴は、南東からP1~5の番号を付した。5基とも開口部は円形で、直径は45~50cm、確認面からの深さは、39~78cmである。また、底面の標高はP1は157.230m、P2は157.180m、P3は157.000m、P4は156.900m、P5は157.250mで、P5は浅いものの、各柱穴は、あくまでも遺構確認面に対してではあるが、地形の傾斜に沿って一定の深さで掘り込まれていることが推測される。北西端のP5は中央のP3では柱を抜き取っている。P2・4・5の底面には柱の当たりが見られ、柱の太さは直径20~25cmである。

【遺物】いずれの柱穴からも、遺物は出土していない。当遺構の南東至近にSI-001が存在し、南西壁の方向は一致する。SA-044の周辺には奈良・平安時代の遺構は確認されていないが、周辺の遺跡では古代の掘立柱崩の確認事例が多いことから、当遺構も古代の崩跡と考えておきたい。



第161図 小鍋内Ⅱ遺跡 SA-044 実測図

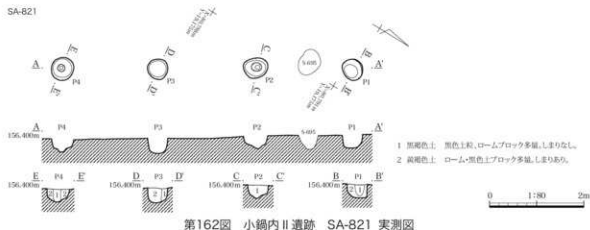
SA-821 (第162図)

【概要】西区中央部のやや西寄りでは確認された3間の掘立柱列で、櫛跡あるいは崩跡と考えられる。ほぼ南北方向に延びる。方位は南N-33°-Wである。柱穴の他遺構との重複はない。柱穴間にピットS-695が位置する。東方5mには、北からSB-250・SB-251・SB-262・SB-152が、当遺構と長軸を平行に並ぶ。当遺構の周囲は、後世の開田により深く掘削されているため、他遺構の残りも悪い。しかし当遺構では柱穴の深さは一定で、消滅したものは無いと判断される。

【位置】Q-27グリッドに位置し、確認面標高は156.0~156.1mで、ほぼ水平である。

【規模・柱間寸法】総長は6.2mで、柱間寸法は北から南から2.0m、2.1m、2.0m、2.98mである。

SA-821



第162図 小鍋内II遺跡 SA-821 実測図

【柱穴】柱穴は、北からP1～4の番号を付した。5基とも開口部は、直径は40～48cmの円形で、確認面からの深さは、30～39cmである。また、底面の標高はP1が156.000m、P2が155.880m、P3が155.930m、P4が155.980mで、各柱穴は、ほぼ水平に一定の深さで掘り込まれている。P1・3・4の埋土には柱痕が確認でき、P2・4の底面には柱の当たりが見られる。柱の太さは直径20～25cm程度と推測される。

【遺物】いずれの柱穴からも、遺物は出土していない。先にも記したように、東方5mには、北から古代の掘立柱建物跡であるSB-250・SB-251・SB-262・SB-152が南北に並び、当遺構と長軸方向が一致することから、これらは近い時代の遺構と考えられる。

2. 掘立柱建物跡

SB-152 (第163・164図、第72表、図版三〇・三一)

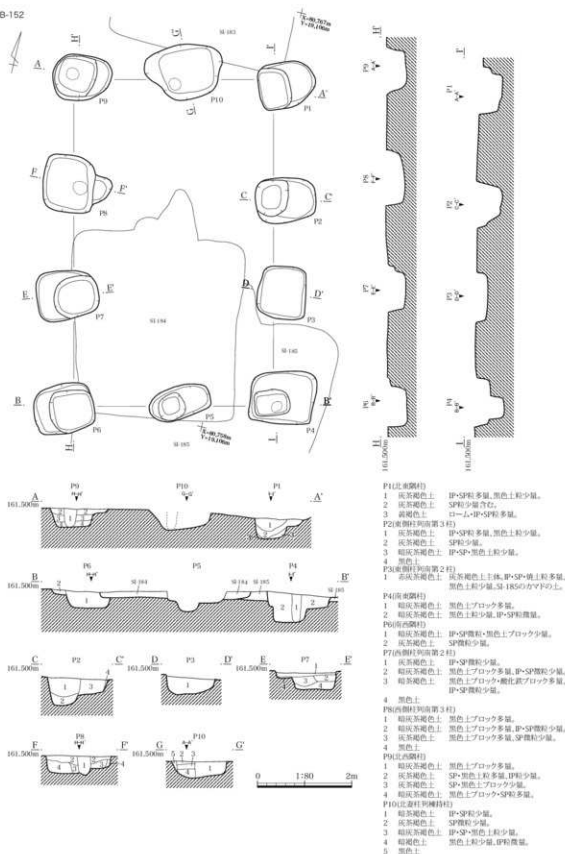
【概要】桁行3間×梁行2間の側柱式南北棟建物である。柱掘形は方形である。西区の南部中央で発見された。西区で確認された掘立柱建物跡5棟のうち、最も南に位置する。北に隣接するSB-262との距離は2.3mである。古代のSI-184と古墳時代のSI-185を切っている。南北方位はN-15°Wである。

【位置】R-27・28グリッドに跨る。確認面標高は145.9～146.0mである。

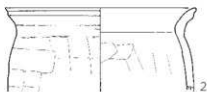
【規模・柱間寸法】桁行総長は7.05mで、柱間寸法は東側柱列が南から2.25m、2.42m、2.38m、西側柱列が南から2.33m、2.05m、2.43mである。梁行総長は4.2mで、柱間寸法は南妻柱列が東から2.2m、2.0m、北妻柱列は東から2.18m、2.02mである。面積は29.6㎡である。

【掘形】柱穴掘形は全て隅丸方形と考えられるが、抜き取りにより上端の輪郭が大きく崩れるものもみられる。東側柱列のP1は東西128cm南北99cm、確認面からの深さ54cm、P2は東西128cm、南北101cm、確認面からの深さ67cm、P3は東西108cm、南北117cm、確認面からの深さ58cm、P4は東西136cm、南北112cm、確認面からの深さ67cmである。西側柱列では、P5は東西132cm、南北102cm、確認面からの深さ51cm、P6は東西133cm、南北110cm、確認面からの深さ52cm、P7は東西142cm、南北122cm、確認面からの深さ53cm、P8は東西123cm、南北101cm、確認面からの深さ51cmである。北妻柱列のP9は東西121cm、南北118cm、確認面からの深さ41cm、南妻柱列のP10は東西135cm、南北85cm、確認面からの深さ47cmである。全ての柱が抜き取られたと考えられ、埋土に柱痕を留めるものはなかった。しかし、P8とP9の掘形底面には柱痕の位置が硬化範囲として把握でき、P10では柱の当たりが確認された。柱の直径は30～35cm前後である。

SB-152



第163図 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-152 実測図



第164図 小鍋内II遺跡 SB-152 出土遺物実測図

第72表 小鍋内II遺跡 SB-152出土遺物観察表

編	種類 説明	計測値 (cm)	色調	出土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	須恵器 環	口径 (I2.0)	2.5V/1 灰黄	白色・黒色 細砂 粒・雲母少量含む。	良好	口縁部1/8	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁部は急角直 に立ち上がる。 器壁は薄く、口 縁縁部に凹線。	埋土	
		底面					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底面					—	—				
2	土師器 甕	口径 (20.2)	10VR4/3 —に近い黄緑	砂粒多量、雲母少 量含む。	良好	口縁部一休 部1/5	口縁部	楕円ナデ	楕円ナデ	口縁部外面 に横	埋土	
		底面					へらナデ	へらナデ				
		底面					—	—				

【出土遺物】掘り埋土中から須恵器環、土師器甕等の小破片が少量出土したが、図示できたものは2点である。1は須恵器の環で、体部下端に稜が見られ、体部から底部にかけて屈曲し、高台が付く形状と思われる。2は土師器甕で、口縁端部の外縁に凹線が1条巡る。当遺構がSI-184を切っていることも勘案すると、9世紀中葉頃の掘立柱建物跡と考えられる。

SB-250・251 (第165・166図、図版三一・三二)

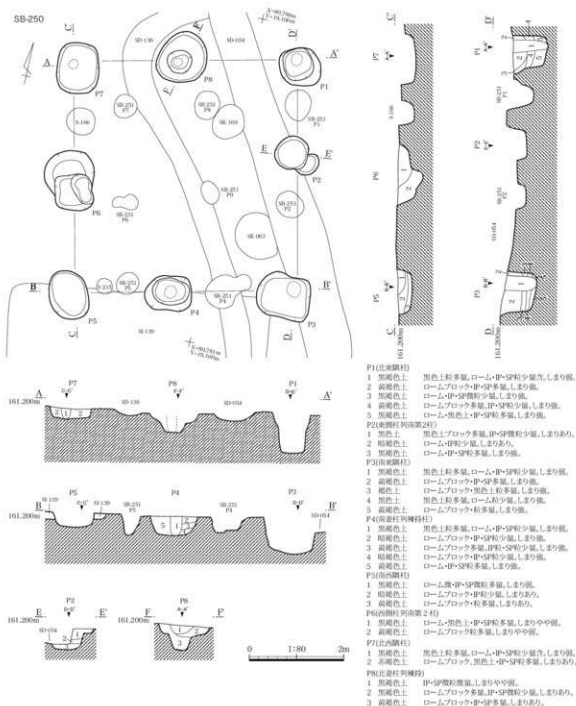
【概要】SB-250は桁行2間×梁行2間の掘立柱南北棟建物である。またこの内側で、東辺と南辺が重複する、やや小規模な掘立柱建物跡SB-251が重複することが確認された。そして東側柱列南端のP5が、大きい方形掘形に掘り替えられていることから、SB-250はSB-251を拡張したものであることが判明した。SB-250の柱掘形は方形のものと円形のものが混在し、SB-251は円形の柱穴のみで構成される。西区の北部中央で発見された。西区で確認された掘立柱建物跡5棟のうち、最も北に位置する。南に隣接するSB-262との距離は1.1mである。古墳時代のSI-159を切り、SD-054に切られる。南北方位はN-10°-Wである。

【位置】Q-26、R-26 グリッドに跨る。確認面標高は161.0～160.8mである。

【規模・柱間寸法】桁行総長は7.05mで、柱間寸法は東側柱列が南から2.25m、2.42m、2.38m、西側柱列が南から2.33m、2.05m、2.43mである。梁行総長は4.2mで、柱間寸法は南妻柱列が東から2.2m、2.0m、北妻柱列は東から2.18m、2.02mである。面積は29.6㎡である。

【掘形】SB-250の柱の掘形は、抜き取りにより上端の輪郭が大きく崩れるものもみられる。西側柱列のP1は隅丸方形で、東西92cm、南北110cm、確認面からの深さ30cm、P8は隅丸方形で、東西89cm、南北124cm、確認面からの深さ52cm、P7は楕円形で東西90cm、南北108cm、確認面からの深さ39cmである。東側柱列では、P3はやや歪な隅丸方形で、東西87cm、南北83cm、確認面からの深さ75cm、P4は円形で、東西79cm、南北73cm、確認面からの深さ46cm、P5は隅丸方形で、東西115cm、南北91cm、確認面からの深さ80cmである。北妻柱列のP2は円形で、東西径107cm、南北径105cm、確認面からの深さ70cm、南妻柱列のP6は楕円形で長軸102cm、幅78cm、確認面からの深さ42cmである。P2・P3・P5・P6、では埋土中に柱痕が確認され、P2・P3・P5・P6では底面に柱の当たりが存在する。柱の直径は28～32cm前後である。

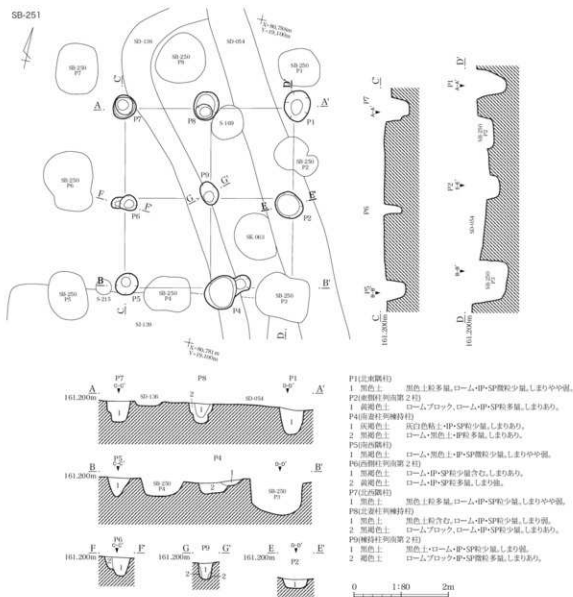
一方、SB-251の柱穴は、東側柱南端のP5がSB-250の同位置の柱掘形に掘り直され、形状が不明である他は、開口部平面は円形である。西側柱列のP1は直径50cm、確認面からの深さ51cm、P8は直径40cm、確認面



第165図 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-250 実測図

からの深さ46cm、P7は直径48cm、確認面からの深さ43cmである。東側柱列では、P3は直径62cm、確認面からの深さ58cm、P4は直径62cm、確認面からの深さ62cm、P5は直径32cm、確認面からの深さ82cmである。北東柱列のP2は直径58cm、確認面からの深さ42cm、南東柱列のP6は直径71cm、確認面からの深さ33cmである。P2・P9では埋土中に柱痕が確認され、P1・P2では底面に柱の当たりが存在する。柱の直径は15~20cm前後である。

【出土遺物】掘形埋土中からは年代が判明する遺物の出土はなかったが、建物の規模、方位、分布などを勘案すると、9世紀中葉頃の一連の掘立柱建物跡と考えられる。



第166図 小鍋内II遺跡 SB-251 実測図

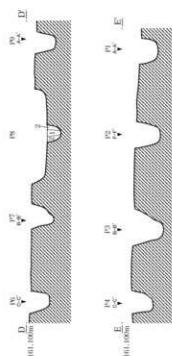
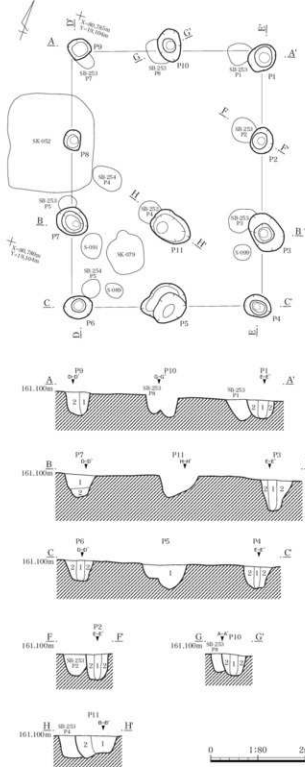
SB-252・253 (第167・168図、図版三二・三三)

【概要】西区の北部中央で発見されたSB-252は南北2間×東西2間の側柱式建物で、南側に一間の庇が付く。南側一列の柱穴は他の柱穴に比べて直径がやや小さく、且つ浅いことから、庇と推定した。またこの内側で、身舎の西辺と北辺がほぼ重複する、南北2間×東西2間のやや小規模な掘立柱建物跡が確認されSB-253と遺構番号を付した。北西および北東の隅柱において外側の柱穴が内側の柱穴を切っており、ある時期に拡張されて庇が付設され、SB-252に改築されたと考えられる。柱穴の開口部平面は、両者とも円形である。西区で確認された掘立柱建物跡5棟のうち、最も東に位置する。西側に隣接するSB-250との距離は2.5mである。古墳時代のSI-139を切り、P8がSK-052に切られる。南北方位はN-16°-Wである。

【位置】R-26・27グリッドに跨る。確認目標高は159.9～160.8mである。

【規模】SB-252は南北3.7m、東西4.0mで、庇は開口4.0m、奥行き1.75mである。SB-253は南北3.6m、東西3.5mの規模である。面積はSB-252の身舎部分が14.8㎡、SB-253は12.6㎡である。

SB-252



P1(北東竈柱)

- 1 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP・SP小ブロック少量。
- 2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、IP・SP粒少量。

P2(東側柱列南端3柱)

- 1 暗黒褐色土 ローム・IP粒少量、しまりなし。
- 2 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP・SP粒少量、しまりあり。

P3(西側柱列南端2柱)

- 1 黒褐色土 ローム・IP・SP粒少量。
- 2 黄褐色土 ロームブロック・ローム粒多量。

P4(南東竈柱)

- 1 褐色土 SP微粒少量、IP粒微量、ややしまりなし。
- 2 黒土 IP・SP粒少量、しまりあり。

P5(南東柱列横柱柱)

- 1 黒褐色土 ローム・IP・SP粒多量。

P6(南西竈柱)

- 1 黒褐色土 IP・SP粒少量。
- 2 黒褐色土 ローム粒多量、SP微粒少量。

P7(西側柱列南端2柱)

- 1 黒褐色土 ローム・IP・SP多量、しまりあり。
- 2 黒土 ローム微粒・IP微粒少量。

P8(南側柱列南端3柱)

- 1 黒褐色土 ローム・IP粒含む、(柱礎)
- 2 黄褐色土 ロームブロック多量。

P9(北西竈柱)

- 1 暗黒褐色土 ローム・IP・SP粒少量。
- 2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、IP粒・小ブロック少量、SP粒微量。

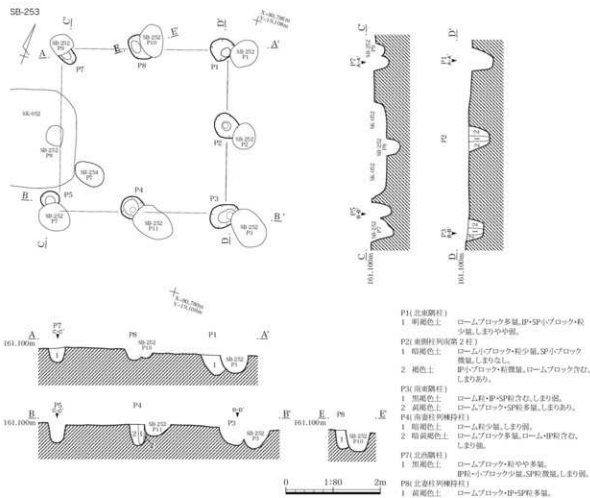
P10(北東柱列横柱柱)

- 1 黒褐色土 ローム微粒少量。
- 2 黄褐色土 ロームブロック・IP粒多量。

P11(横柱柱列南端2柱)

- 1 褐色土 ロームブロック・IP・SP粒少量。
- 2 黄褐色土 ローム小ブロック・ローム・IP粒多量、SP粒少量。

第167図 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-252 実測図



第168図 小鍋内II遺跡 SB-253 実測図

【柱穴】SB-252・253ともに柱穴は円形で、SB-252の身舎では直径45～60cm、深さ40～70cm、庇では中央の柱穴が柱の抜き取りにより崩れているが、直径40cm前後で深さは30～40cm、SB-253では直径40cm前後、深さ35～40cmである。P1～5・8・10・12では埋土中に柱痕が確認され、P2・P3・P10では底面に柱の当たりが存在する。これらから推測される柱の直径は28～32cm前後である。

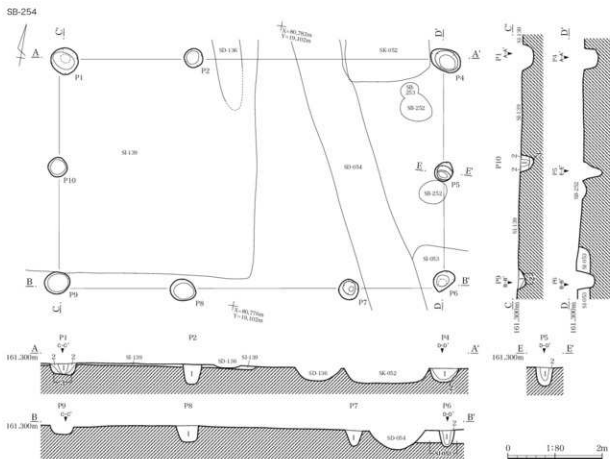
【出土遺物】掘形埋土中からは年代が判明する遺物の出土はなかったが、建物の規模、方位、他遺構との位置関係などを勘案すると、9世紀中葉頃の一連の掘立柱建物跡と考えられる。

SB-254 (第169図、図版三三・三四)

【概要】桁行3間×梁行2間の側柱式東西棟建物である。西区中央のやや北寄りで発見された。西区で確認された掘立柱建物跡5棟のうち、北から2棟目に位置する。北に隣接するSB-250との距離は1.1mで、南に隣接するSB-262とは2.6m離れている。古墳時代のSI-139を切り、古代のSD-054に北側柱列のP3が切られ、消滅している。南北方位はN-9°-Wである。

【位置】Q-26・27、R-26・27グリッドに跨る。確認面標高は161.1～160.8mである。

【規模・柱間寸法】桁行総長は8.0mで、柱間寸法は北側柱列が西から2.70m、5.30mである。P3を欠くため2番目と3番目の柱間寸法は不明である。南側柱列の柱間寸法は、西から2.60m、3.55m、1.85mである。



P1 (北西隅柱)

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロッカ・ローム粒・IP粒含む。
 - 3 黄褐色土 ロームブロッカ多量、IP粒少量含む。
- P2 (北西柱列西第2柱)
- 1 黒褐色土 ローム微粒・IP粒・SP粒少量含む。
- P4 (北東隅柱)
- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒多量含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロッカ多量含む。

P5 (東西柱列棟柱)

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒多量含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロッカ・IP粒多量含む。

P6 (南東隅柱)

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒・焼土和少量含む。しまりあり。
- 2 黄褐色土 ロームブロッカ・粘粉多量、焼土粒・SP粒少量。しまりあり。

P7 (南西柱列西第3柱)

- 1 黒褐色土 灰土多量、ローム微粒・IP粒・SP粒少量含む。
- P8 (南西柱列西第2柱)
- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。
- P9 (南西隅柱)
- 1 黒褐色土 ロームブロッカ多量、IP・SP粒少量、しまりあり。
 - 2 黄褐色土 ロームブロッカ多量、しまりあり。
- P10 (西妻柱列棟柱)
- 1 黒褐色土 ローム微粒・IP粒多量、SP粒少量含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロッカ多量、ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。
 - 3 黄褐色土 ロームブロッカ多量含む。

第169図 小鍋内II遺跡 SB-254 実測図

梁行総長は4.80mで、柱間寸法は西妻柱列が北から2.25m、2.55m、東妻柱列は北から2.40m、2.40mである。面積は38.4㎡である。

【柱穴】遺構上面の削平により、各柱穴は最も深いものでも深さ40cm程度である。確認面での平面形は全て円形で、柱の抜き取り等による大きい輪郭の崩れは無い。直径は40～58cm、確認面からの深さ18～40cmである。P1・P5・P6・P10では、埋土で柱痕を確認できた。さらに、P1とP6の底面には柱痕の位置が硬化範囲として把握でき、P5では柱の当たりが確認された。柱の直径は25cm前後である。

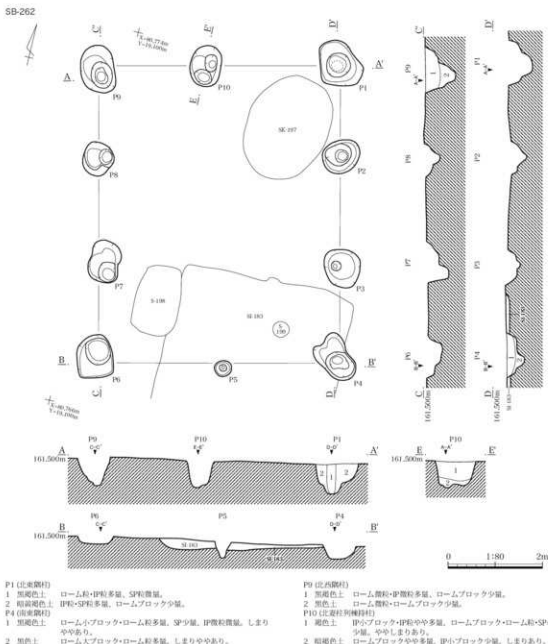
【出土遺物】掘形埋土中からは年代が判明する遺物の出土はなかった。建物の規模、他遺構との位置関係などから、西区の中央において近接して並ぶ古代の掘立柱建物跡群の1棟と考えられる。しかし、棟の方向が東西であり、比較的大型の柱掘形や方形掘形をもつ掘立柱建物跡が当遺構を挟むようにして建てられていることから、一群の中でも相対的に早い時期の遺構とも考えられる。

SB-262 (第170・171図、第73表、図版三四)

【概要】桁行3間×梁行2間の側柱式南北棟建物である。西区中央で発見された。西区で確認された掘立柱建物跡5棟のうち、北から3棟目に位置する。北に隣接するSB-254との距離は2.6mで、南に隣接するSB-152とは2.3m離れている。古墳時代のSI-183を切る。南北方位はN-14°-Wである。

【位置】Q・27、R・27グリッドに跨る。確認面標高は161.4～161.2mである。

【規模・柱間寸法】桁行総長は6.3mで、柱間寸法は西側柱列が北から1.90m、2.55m、1.85mである。東側柱列の柱間寸法は、北から1.90m、2.42m、1.98mである。梁行総長は5.10mで、柱間寸法は北妻柱列が西から2.40m、2.70m、南妻柱列は西から2.60m、2.50mである。面積は32.14㎡である。



第170図 小鍋内II遺跡 SB-262 実測図



第171図 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-262 出土遺物実測図

第73表 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-262出土遺物観察表

No.	種類 部類	計測値 (cm)	色調	取土	構成	残存率	性状			特徴	出土位置	備考
							内部	外面				
1	土師器 蓋	口径 (L15D)	7.5YR7/4 に赤い焼	白色・黒色・赤色 細砂・粗砂含む。	良好	頂部～縁部 1/3	内部	ロクロナガ溝、へらこぶき	凹縁へのケズリ	頂部外面にツ マミの新痕跡	P2	
		体部					ロクロナガ溝、へらこぶき	ロクロナガ				
		縁部					ロクロナガ	ロクロナガ				
2	銅器 環	口径 (L13.6)	5Y7/1 灰白	白色・黒色細砂粒 含む。	良好	口縁部～体 部1/6	口縁部	ロクロナガ溝	ロクロナガ溝	ロクロナガ溝、 新痕跡、体部 は直線状に直ぐ。	P9	
		体部					ロクロナガ溝	ロクロナガ溝				
		底面					—	—				

【柱穴】柱穴の確認面での平面形は全て円形と考えられるが、柱の抜き取りに伴う開口部の変形が著しい。復元直径は50cm前後と考えられ、確認面からの深さ35～60cmである。P1では、埋土で柱痕を確認できた。また、その底面では柱痕の位置が硬化範囲として把握でき、P2、P3、P4、P5、P8、P9、P10では柱の当たりが確認された。柱の直径は25cm前後と考えられる。

【出土遺物】P1から須恵器環破片1点（2）が、P2からは土師器環蓋破片（1）が出土した。1はロクノ成形でつまみを欠損する。器高が高く、全体的に丸みを帯びる。2は口径に比して底径が小さいと推測される。概ね9世紀中葉頃の遺構と考えられる。

SB-674（第172・173図、第74表、図版三五）

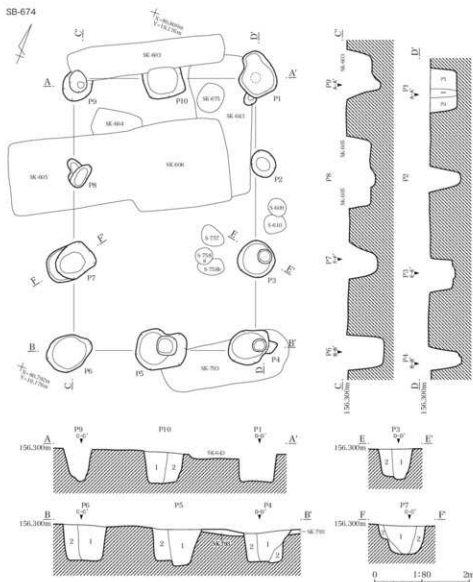
【概要】桁行3間×梁行2間の割柱式南北棟建物である。柱掘形は円形あるいは楕円形である。東区の中央部で発見された。北に隣接するSB-820の距離は2.3mである。中世のSK-603・605・643・672・673が柱掘形を切っている。南北方位はN-23°Wである。

【位置】U-26、V-26グリッドに跨る。確認面標高は156.0～156.2mである。

【規模・柱間寸法】桁行総長は5.60mで、柱間寸法は東側柱列が南から1.95m、1.85m、1.8m、西側柱列が南から1.80m、2.00m、1.80mである。梁行総長は4.05mで、柱間寸法は南妻柱列が東から2.2m、1.85m、北妻柱列は東から1.95m、2.1mである。面積は22.68㎡である。

【掘形】柱穴掘形は全て隅丸方形と考えられるが、抜き取りにより上端の輪郭が大きく崩れるものもみられる。東側柱列のP1は東西80cm、南北105cm、確認面からの深さ62cm、P2は東西52cm、南北72cm、確認面からの深さ70cm、P3は東西83cm、南北91cm、確認面からの深さ69cm、P4は東西90cm、南北77cm、確認面からの深さ67cmである。西側柱列では、P5は東西104cm、南北89cm、確認面からの深さ78cm、P6は東西98cm、南北90cm、確認面からの深さ80cm、P7は東西92cm、南北78cm、確認面からの深さ62cm、P8は東西58cm、南北62cm、確認面からの深さ70cmである。北妻柱列のP9は東西28cm、南北70cm、確認面からの深さ72cm、南妻柱列のP10は東西86cm、南北80cm、確認面からの深さ78cmである。ほとんどの柱は抜き取られたと考えられ、埋土に柱痕を留めるものはP1・P4・P7の3基のみであった。しかし、P3・P4・P5では柱の当たりが確認された。柱の直径は30cm前後と推定される。

【出土遺物】P3の掘形埋土下層から土師器狭口縁部の小破片1点（1）が出土し、P4の埋土確認面では銅銭1点が発見された。1は口縁部が直立し、甌の可能性もある。2は中世の銅銭で、紹聖元寶である。1は付近の古墳時代遺構からの混入品の可能性もあり、2は遺構確認面での採取であり、中世遺構と考えられるSK-793に伴う可能性が高い。西区の掘立柱建物跡の形状に類似し、棟の方位もほぼ同一であることから9世紀中葉頃の掘立柱建物跡と推測される。



P1 (北東隅柱)

- 1 灰褐色土 ローム・珪砂多量, IP・SP散粒小量, しまり強。
- 2 暗黄褐色土 ローム・黒色土ブロック多量, IP・SP粒多量, しまり強。
- 3 灰褐色土 ローム・珪砂多量, IP・SP粒少量, しまり強。

P3 (南側柱列南第2柱)

- 1 灰褐色土 ローム・珪砂多量, ローム・IP・SP粒多量, しまりやや弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム・黒色土ブロック多量, ローム・IP・SP粒多量, しまり強。

P4 (南東隅柱)

- 1 灰褐色土 ローム・珪砂多量, IP・SP粒多量, しまりやや弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム・黒色土ブロック多量, ローム・IP・SP粒多量, しまり強。

P5 (南倉柱列南第1柱)

- 1 灰褐色土 ローム・珪砂多量, ローム・IP・SP粒多量, しまりやや弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム・黒色土ブロック多量, ローム・IP・SP粒多量, しまり強。

P6 (南西隅柱)

- 1 灰褐色土 ローム・珪砂多量, ローム・IP・SP粒多量, しまりやや弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム・黒色土ブロック多量, ローム・IP・SP粒多量, しまり強。

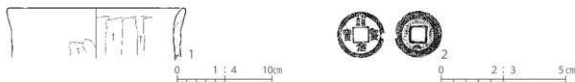
P7 (南側柱列南第2柱)

- 1 灰褐色土 ローム・珪砂多量, ローム・IP・SP粒多量, しまりやや弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム・黒色土ブロック多量, ローム・IP・SP粒多量, しまり強。

F10 (北倉柱列南第1柱)

- 1 灰褐色土 ローム・珪砂多量, ローム・IP・SP粒多量, しまりやや弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム・黒色土ブロック多量, ローム・IP・SP粒多量, しまり強。

第172図 小鍋内II遺跡 SB-674 実測図



第173図 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-674 出土遺物実測図

第74-1表 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-674出土遺物観察表(1)

No.	種類 名称	計測値 (cm)	色調	出土	構成	残存率	形状		特徴	出土位置	備考
							内部	外面			
1	上部	口径 (19.0)	7.5YR7/4 土赤(暗)	費用細粒少量含む。	良好	口径部1/8	口径部	横ナデ	器形から、器の可能性が高い。	埋土	
	底径	—					横ナデ	ヘラナデ			
	底高 (5.3)	—					—	—			

第74-2表 小鍋内Ⅱ遺跡 SB-674出土遺物観察表(2)

No.	区分	種類	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
2	副製品	瓦	2.50	0.13	2.10	完存	埋土	切取片

SB-820 (第174図、第75表、図版三五)

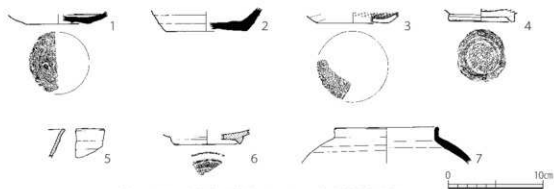
【概要】桁行3間×梁行2間の総柱式南北棟建物である。柱掘形は円形である。東区の中央部のやや東寄りで見えられた。P3はSK-352を切っている。SB-674との距離は2.3mである。南北方位はN-25°-Wである。

【位置】V-26グリッドに位置する。確認面標高は155.800～156.000mである。

【規模・柱間寸法】桁行総長は5.48mで、柱間寸法は東側柱列が南から1.92m、1.78m、1.78m、西側柱列が南から2.00m、1.70m、1.78mである。梁行総長は3.80mで、柱間寸法は南妻柱列が東から1.84m、1.96m、北妻柱列は東から1.97m、1.83mである。面積は20.8㎡である。

【掘形】柱穴掘形は全て円形と考えられるが、抜き取りにより上端の輪郭が削れるものもみられる。東側柱列のP1は平面形が著しく変形するが、推定で直径78cm、確認面からの深さ58cm、P2は直径83cm、確認面からの深さ58cm、P3は直径69cm、確認面からの深さ28cm、P4は直径73cm、確認面からの深さ60cmである。西側柱列では、P5は直径78cm、確認面からの深さ62cm、P6は直径72cm、確認面からの深さ60cm、P7は直径78cm、確認面からの深さ20cm、P8は直径83cm、確認面からの深さ20cmである。北妻柱列のP9は楕円形で長軸73cm、短軸58cm、確認面からの深さ22cm、南妻柱列のP10は直径63cm、確認面からの深さ50cmである。内側柱列のP11は直径80cm、確認面からの深さ70cm、P12は直径60cm、確認面からの深さ62cmである。ほとんどの柱が抜き取られたと考えられるが、南東隅のP4のみ埋土に柱痕を留めていた。柱の直径は25～30cm程度である。柱の当たりが確認できる掘形は無かった。

【出土遺物】図示できる遺物としては、P2埋土中から出土した土師器杯1点(1)である。内面は丁寧なヘラミガキを施し、黒色処理を行う。体部外面は手持ちヘラ削りである。森後遺跡10期に近似例(SI-329)、がみられ、8世紀中葉頃の年代が与えられている。



第176図 小鍋内Ⅱ遺跡 SD-054 出土遺物実測図

第76表 小鍋内Ⅱ遺跡 SD-054出土遺物観察表

No.	種類 説明	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考		
							内面	外面					
1	須恵器 片	口径	7.5/6/1 灰	細砂粒・白色細砂粒 含む。	良好	底部1/2	口縁部	—	—	埋土			
		底径					(6.6)	体部				—	
		断面					(1.0)	底部				ロケロ水焼き	回転糸切り
2	須恵器 片	口径	5/6/1 灰	白色細砂粒多量含 む。	良好	底部1/4、体 部1/8	口縁部	—	—	埋土			
		底径					(8.6)	体部				ロケロナデ	ロケロナデ
		断面					(2.3)	底部				ロケロナデ	回転ヘラ切り後、ナデ
3	土師器 片	口径	10/9/7/4 濃い黄褐色	細砂粒多量含む。	良好	底部1/5	口縁部	—	—	埋土	内面黒色処理。		
		底径					(7.6)	体部				—	
		断面					(1.3)	底部				ロケロナデ後、 簀子状ヘラミガキ	回転糸切り
4	土師器 高台片	口径	10/9/8/3 浅黄褐色	細砂粒・白色細砂粒 ・赤色粒少量、雲母 含む。	良好	底部全周	口縁部	—	—	埋土	内面黒色処理・ 高台付7.0cm		
		底径					—	体部				—	
		断面					(1.3)	底部				ヘラミガキ	糸切り後、付け蓋付 その他のロケロナデ
5	須恵器 片	口径	5/7/1 灰白	細砂粒・白色細砂粒 含む。	良好	口縁部一部	口縁部	—	—	埋土			
		底径					—	体部				ロケロ水焼き	ロケロ水焼き
		断面					(3.0)	底部				ロケロ水焼き	ロケロ水焼き
6	灰陶 陶器 片	口径	2.5/3/6/1 黄灰	細砂粒・白色細砂粒 ・赤色粒含む。	良好	底部1/3	口縁部	—	—	埋土	断面内面輪状き・ 高台付(7.7)cm		
		底径					—	体部				—	
		断面					(1.5)	底部				ロケロ水焼き	回転ヘラミガキ後、高台付
7	須恵器 短頸器 片	口径	5/4/1 灰	白色細砂粒少量含 む。	良好	口縁部一部 1/10	口縁部	—	—	埋土	断面外面に露 出。		
		底径					—	体部				ロケロナデ	ロケロナデ
		断面					(3.7)	底部				—	—

3. 溝跡

SD-054 (第175・176図、第76表)

西区の中央で確認された。上面を削平され、保存状態が悪い。断面は逆台形と思われる。確認総延長は56.2m、確認面からの深さは10~40cmである。軸方向はN-28.5°-Wで、底面の標高は160.570~160.760mの間を高下し、ほぼ水平である。古代のSB-250・251とSI-102を切り、中世のSE-135に切られる。土師器環、須恵器環・短頸壺、灰陶陶器皿・碗の破片などが出土し、掘立柱建物群廃絶後の遺構と判断した。

SD-136 (第176図)

SD-054に切られる。遺物の出土はない。北東端は調査区外になる。削平により、断面形は不明である。コーナー部分では直角に曲がる。

4. 竪穴建物跡

SI-102 (第177~180図、第77表、図版三五・五一・五二)

【概要】調査区中央東端で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。古墳時代のSI-121の南東コーナーを切り、建物の中軸部分を古代のSD-054に切られる。また、遺構埋土の中央やや北東寄りにSK-280が掘り込まれるが、床面までは達していない。北東壁の方位は、N-33.5°-Wである。

【位置】R-27・28グリッドに位置する。確認面標高は西コーナーで161.130m、北コーナーで160.930m、東コーナーで160.920m、南コーナーで160.919mである。

【規模】北西壁の長さは6.4mで、北東壁7.0m、南東壁6.6m、南西壁7.2mである。床面の標高は、西コーナー160.640m、北コーナー160.610m、東コーナー160.540m、南コーナー160.510m、床面中央で160.480mである。ほぼ水平で、床面積は40.0㎡である。

【埋土】埋土はロームブロックを多く含み、層状に分層できないことから、人為的な埋め戻しの可能性がある。なお、床面の東側では焼土塊が5カ所に分かれて散布していた。炭化材などは見られない。

【床面・掘形】床面には著しい凹凸や、壇状の高まりはない。全体的に硬くしまり、主柱穴の内側とカマドの前面で比較的硬化の度合いが強い。掘形は存在せず、ハードローム層まで掘り込んで平坦に削平したまま、直接床面としている。

【柱穴】主柱穴は4基(P1~4)存在し、その他に壁際やカマドの両側に小柱穴が存在する。P1は開口部の長軸0.8m、床面からの深さ1.0mで、埋土断面に柱痕が確認できる。P2は柱が抜き取られている可能性もあり、開口部の縁が崩れている。床面からの深さは0.87mである。P3も開口部周囲に浅い掘り込みが見られ、柱の抜き取りが考えられる。深さは0.95mである。P4も同様で、開口部に南側からの掘り込みが見られる。床面からの深さは0.83mである。P8・17はコーナーの小柱穴と考えられる。カマド両側のP9・P16は1対の壁柱穴であろう。P18~21は壁の保護材を支持する杭穴の可能性はある。P6はP2とP4の中間にあり、主柱の補助的な柱の存在が考えられる。P7は、これと対になる柱穴は確認できず、単独で存在しており、用途不明である。他の主柱穴には掘り直しの痕跡はない。

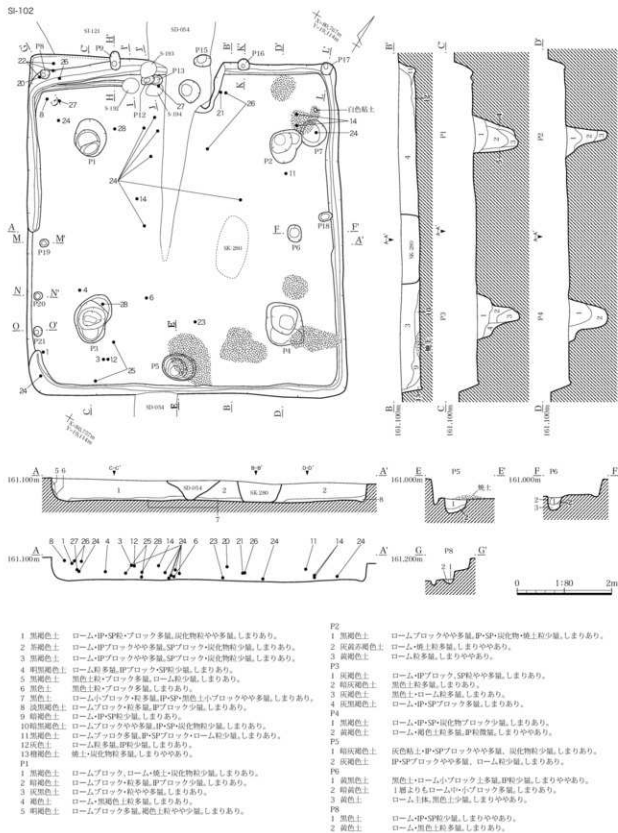
【貯蔵穴・入口ピット】貯蔵穴は存在しない。入口ピットは、南東壁の中央からやや南寄りに位置する。

【壁溝】南西壁の南寄りの一部分を除いて全周する。なお、西コーナーには拡張の痕跡があり、旧壁際の壁溝を埋めて、北西側に床面をやや拡張している。拡張された壁際には溝は通らない。

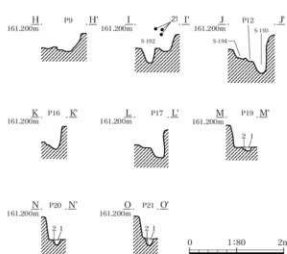
【カマド】北西辺の中央に付設されるが、SD-054に中央部分を切られ、火床面の掘形と北東側の袖の一部が残るのみである。袖部は灰白色粘土とロームブロックを積み上げて造られている。芯材は無く、建物壁面に直接取り付けられている。

【出土遺物】図化・掲載し得た遺物は、須恵器環8点(1~8)、土師器環4点(9~11、13)、土師器鉢1点(12)、須恵器甕2点(14、19)、土師器甕2点(15、16)、灰釉陶器2点(17、18)、須恵器甕破片1点(20)、土師器甕8点(21~28)である。1、2の環は三義三山麓古窯址群産と考えられる。3の底部は回転ヘラ切りで、5、6、7の底面は回転ヘラ削りである。9~13は内面の黒色処理を行っている。12の鉢は鉄鉢形に近似する。14の須恵器甕は、直口甕であろう。灰釉陶器17は、美濃産で大原2号窯式期に位置づけられる。混入品の可能性もある。土師器甕は口縁部が短く、急角度に開き胴部の張りが少ないものが目立つ。24は口縁部が立ち上がり、胴部の上位に最大径を持つ。破片はカマドの前面を中心に床面に広く散布していた。25は所謂下野型の甕で、垂系に属するものかも知れない。

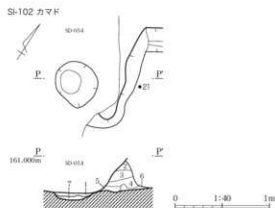
【時期】土器類の形状等から、当建物跡は9世紀後葉の遺構と考えられる。



第177図 小綱内II遺跡 SI-102 実測図(1)

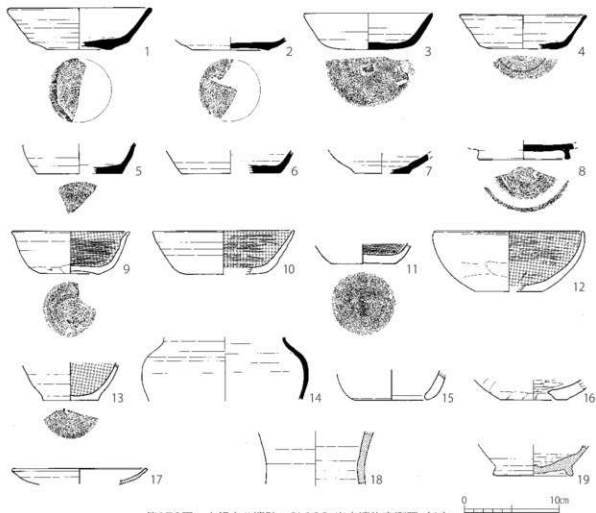


P10-20-21
 1 黒色土 SP粒・ローム塊多量。しまり普通。粘性ややなし。
 2 灰黒色土 SP粒少量。しまりあり。粘性ややなし。

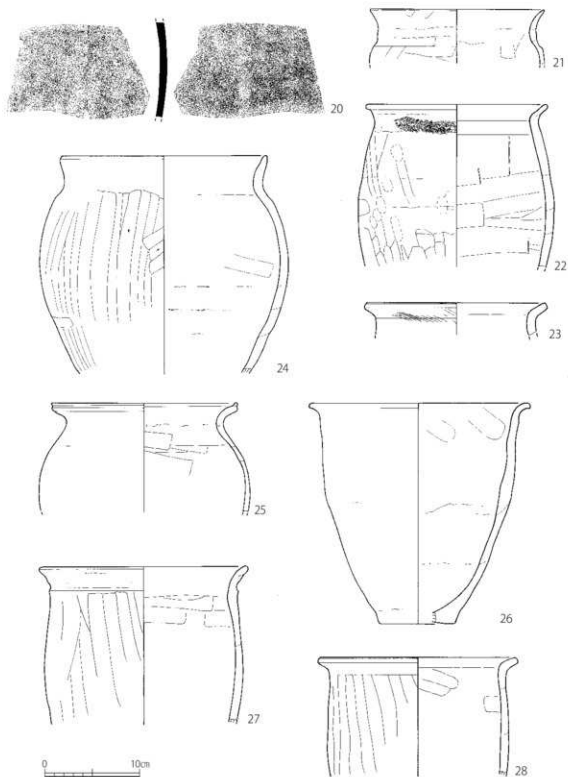


かマ F
 1 棕色土 焼土ブロック多量。
 2 黄色土 ロームブロック・黄色土多量。しまり強。
 3 灰白色土 灰白色粘土層有り。炭化物粘・焼土少量。しまり強。
 4 灰褐色土 ロームブロック多量。しまり強。
 5 黄褐色土 ロームブロック多量。灰白色粘土ブロック・粘少量。しまり強。
 6 黄色土 ロームブロック・黄色土多量。しまりあり。粘性ややなし。
 7 灰黒褐色土 黒褐色土・ローム塊上小ブロック粘多量。灰白色粘土・炭化物粘少量。しまりあり。粘性なし。

第178図 小銅内II遺跡 SI-102 実測図(2)



第179図 小銅内II遺跡 SI-102 出土遺物実測図(1)



第180図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-102 出土遺物実測図(2)

第77-1表 小鍋内II遺跡 SI-102出土遺物観察表(1)

No.	種類 図録	計測値 (cm)	色調	出土	状況	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内部	外面				
1	竪穴 環	口径 (15.0)	SY7/1 灰白	砂粒多量含む。	良好	1/3	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	体部下端に段。床面直上	三義成か。	
		底面					回転糸切り					
		底面					—					
2	竪穴 環	口径 (8.0)	SY6/1 灰	砂粒多量含む。	良好	底部片1/4	口縁部	—	—	体部下端に段。	三義成か。	
		底面					ロクロナデ	回転糸切り				
		底面					—	—				
3	竪穴 環	口径 (15.4)	2SY7/1 灰白	砂粒少量含む。	良好	1/2	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	扁平で底径大。床面直上		
		底面					回転糸切り					
		底面					回転ヘラ切り後、ナデ					
4	竪穴 環	口径 (13.2)	NS/0 灰	砂粒・白色細砂粒少量含む。	良好	1/5	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	扁平で底径大。床面直上		
		底面					回転ヘラナデ					
		底面					—					
5	竪穴 環	口径 (9.0)	2SY85/1 黄灰	砂粒多量含む。	良好	体部下半～ 底部1/6	口縁部	—	—	尾張		
		底面					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底面					ロクロナデ	静止糸切り				
6	竪穴 環	口径 (10.4)	2SY5/1 黄灰	白色細砂粒多量含む。	良好	体部下半～ 底部1/4	口縁部	—	—	床面直上		
		底面					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底面					ナデ	手持ちヘラナデ				
7	竪穴 環	口径 (5.7)	10YR8/2 灰白	細砂粒多量含む。	良好	体部下半～ 底部1/8	口縁部	—	—	一部割れ壊れ。体部が今や外側。	埋土	
		底面					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底面					ナデ	—				
8	竪穴 環	口径 (8.1)	SY6/1 灰	砂粒・黒色細砂粒多量含む。	良好	底部1/2	口縁部	—	—	高台は比較的 低く、下層が 今や広がる。	埋土直上	
		底面					—	—				
		底面					ロクロナデ	回転ヘラナデ後、付着片				
9	土師器 環	口径 (12.3)	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂粒多量、透明細 砂粒少量含む。	良好	1/2	口縁部	横ナデ、一部ヘラミガキ	ロクロナデ	内面黒色処理。	埋土	
		底面					ヘラミガキ	回転ヘラナデ				
		底面					—	—				
10	土師器 環	口径 (8.0)	5YR5/6 明赤褐	砂粒多量含む。	良好	口縁部～底 部1/5	口縁部	ヘラミガキ	ロクロナデ	内面黒色処理。 ロクロ成形の上 に施す。	埋土	
		底面					—					
		底面					—					
11	土師器 環	口径 (6.8)	10YR7/4 にぶい黄褐色	砂粒多量、透明細 砂粒少量含む。	良好	底部片	口縁部	—	—	ロクロ成形の 上層部・内面黒 色処理。	床面直上	
		底面					ロクロナデ後、ヘラミガキ	回転ヘラ切り後、ナデ				
		底面					—	—				
12	土師器 環	口径 (7.0)	10YR7/4 にぶい黄褐色	白色細砂粒・透明細 砂粒少量含む。	良好	1/4	口縁部	ヘラミガキ	一部ヘラミガキ	平底。内面黒色 処理。口縁部 が内側へ傾斜。	床面直上	
		底面					ヘラナデ					
		底面					ナデ					
13	土師器 環	口径 (5.8)	10YR7/4 にぶい黄褐色	透明細砂粒少量含 む。	良好	体部～底部 片1/4	口縁部	—	—	内面黒色処理。	カマド	
		底面					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底面					ナデ、ヘラミガキ	静止糸切り				
14	竪穴 環	口径 (6.9)	NS/0 灰	白色細砂粒多量含 む。	良好	胴部片	口縁部	—	—	広口の短筒 か。	床面直上	
		底面					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底面					—	—				
15	土師器 壺	口径 (7.8)	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒・透明細砂粒多 量含む。	良好	胴部下端片	口縁部	—	—	孔直径 (7.0) cm	埋土	
		底面					下層：横ナデ	下層：ナデ				
		底面					—	—				
16	土師器 壺	口径 (7.2)	7SYR6-6 青	砂粒多量含む。	良好	胴部下端片	口縁部	—	—	孔直径 (3.1) cm	埋土	
		底面					ヘラナデ	ヘラナデ				
		底面					—	—				
17	灰陶器 皿	口径 (14.1)	2SY7/1 灰白	細砂粒も平かに含 む。	良好	口縁部破片	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	内面に魚鱗。口 縁部下部を押し つぶす。底面は七 字状に傾斜。	埋土	東溝原
		底面					—	—				
		底面					—	—				

第77～2表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-102出土遺物観察表(2)

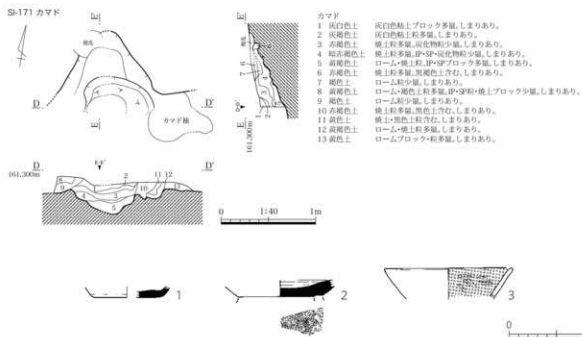
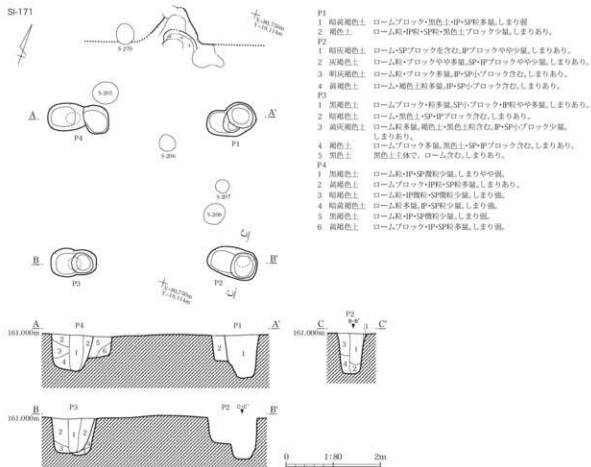
No.	種類 説明	詳細図 (m)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							口縁部	内部	外面			
18	瓦輪 陶器 破片	—	5Y7/2 灰白	細砂粒多量含む。	良好	口縁部片	口縁部	ロウロナデ	ロウロナデ	大型の無蓋陶器。	埋土	窯穴跡
							体部	—	—			
							底面	—	—			
19	瓦輪 陶器 破片	—	5Y7/1 灰白	砂粒含む。	良好	高台～体部 下縁4/5	口縁部	—	—	やや軟質。 高径約8.5cm	床面直上	窯穴跡
							体部	ロウロナデ	回転ヘラケズリ			
							底面	ロウロナデ	回転ヘラケズリ施、付着			
20	瓦輪 陶器 破片	—	5YR5/2 灰濁	砂粒少量含む。	良好	胴部片	口縁部	—	—		床面直上	内、外面黒 色付着物
							体部	ナデ	ナデ			
							底面	—	—			
21	上脚陶 器 破片	—	5YR5/6 明赤褐	砂粒・透明細砂粒多 量含む。	良好	口縁部破片	口縁部	横ナデ	横ナデ、ヘラナデ	器壁は極めて 薄い。胴部は 直立し、口縁 部は外反する。	床面直上	
							体部	—	—			
							底面	—	—			
22	上脚陶 器 破片	—	7.5YR6/6 橙	砂粒多量含む。	良好	口縁部～胴 部上平1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部に布目 織あり。	床面直上	
							体部	ヘラナデ	ヘラケズリ、ナデ			
							底面	—	—			
23	上脚陶 器 破片	—	7.5YR6/6 橙	砂粒・透明細砂粒多 量含む。	良好	口縁部破片 1/8	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部外面に ハケム。	床面直上	
							体部	—	—			
							底面	—	—			
24	上脚陶 器 破片	—	7.5YR6/6 橙	砂粒多量含む。	良好	口縁部～胴 部上平	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が急角 度で立ち上る。	P7	
							体部	ナデ	ヘラケズリ			
							底面	—	—			
25	上脚陶 器 破片	—	10YR7/4 灰赤	砂粒・透明細砂粒多 量含む。	やや 不良	口縁部～胴 部上平1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部の上 縁つまみ上げ。 雲形型・下野型 無し。	床面直上	外面の一部 に灰化物質 着
							体部	ヘラナデ	—			
							底面	—	—			
26	上脚陶 器 破片	—	10YR6/2 灰赤褐	砂粒・透明細砂粒多 量含む。	やや 不良	1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が屈 曲し、水平に なる。	床面直上	
							体部	ナデ	ナデ			
							底面	—	—			
27	上脚陶 器 破片	—	7.5YR6/6 橙	砂粒多量含む。	良好	口縁部～胴 部上平1/6	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部は短く、 やや外反。胴部 にはほとんど括弧 無し。	床面直上	
							体部	ヘラナデ	ヘラケズリ			
							底面	—	—			
28	上脚陶 器 破片	—	10YR7/6 明灰赤	砂粒・透明細砂粒多 量含む。	良好	口縁部～胴 部上平1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部は短く、 やや外反。胴部 にはほとんど括弧 無し。	P3	
							体部	ナデ	ヘラケズリ			
							底面	—	—			

SI-171 (第181図、第78表、図版三六)

【概要】西区南端で確認された、竪穴建物跡である。建物本体は開墾等の削平により完全に消滅し、カマドの一部と、削平面に4本の主柱穴だけが残る。主柱穴P2・P3・P4では柱痕が確認され、P3・P4の柱痕の中心を結ぶと、その方位は、N-20°-Wとなる。他遺構との切り合いはない。東側に隣接してSI-172が存在するが、削平により、新旧は確認できなかった。

【位置】R-28グリッドに位置する。確認面標高は、煙道の先端で161.210mである。

【規模】主柱穴とカマドの位置から復元すると、当遺構は一辺6m程度の大きさと推測される。床面は全く残らず、掘形も不明である。主柱穴は4基とも外側に若干位置をずらして建て掘り直され、柱の立て替えがあったことを示している。



第181図 小鍋内II遺跡 SI-171 実測図及び出土遺物実測図

第78表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-171出土遺物観察表

No.	種類 名称	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	仕上げ		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	須恵系 高台付 環	1口径 底径 (7.2) 高さ (1.1)	2.5YR5/1 黄灰	細砂・粘り質を含む。	良好	底部片 1/6	上縁部	—	—	埋土	—	
							体部	—				
							底部	ロクロナデ				回転ヘラケズリ後、ナデ
2	高台付 環	1口径 底径 (9.0) 高さ (1.7)	2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量含む。	良好	底部片 1/6	上縁部	—	—	埋土	内面一部白 粉塗あり。	
							体部	—				
							底部	ロクロナデ				回転ヘラケズリ
3	土師系 環	1口径 (13.3) 底径 — 高さ (3.2)	10YR7/3 にぶい黄褐色	細砂粒・透明細砂粒 少量含む。	良好	上縁部～体 部片	上縁部	—	—	埋土	内面黒色処理。	
							体部	ロクロナデ後、ヘラミゴト				ロクロナデ
							底部	—				—

【カマド】北壁の中央付近に付設され、東側の袖部に関しては基部が残る。構築にはロームブロックを多用している。芯材は用いない。煙道は壁面の線から72cm外方へ突出し、煙道天井は崩落していた。カマド内部は被熱して焼土化する。

【出土遺物】須恵系環の底部破片2点（1、2）と、土師系環1点（3）が出土した。1の底面は回転ヘラ削り、2には高台の剝離痕がある。3はロクロ成形で、内面にミガキが施され、黒色処理される。

【時期】遺物の形状等から、9世紀後葉の遺構と考えられる。

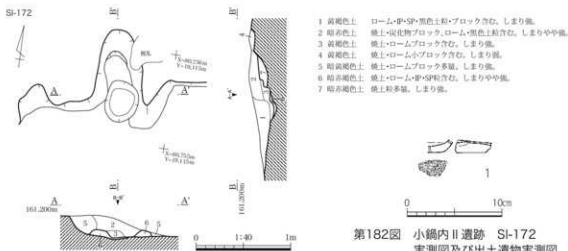
SI-172（第182図、第79表、図版三六）

【概要】西区南端のR-28グリッドで確認された、竪穴建物跡のカマドの一部である。西側にSI-171が隣接し、当初はその旧カマドとも思われたが、壁筋がややずれることなど、位置的に同一遺構の施設と判断できなため、別遺構として扱った。煙道主軸の方位は、N-8°-Wである。

【位置】R-28に位置する。確認面標高は、煙道の先端で160.910mである。

【形状】東側の袖部が残る。構築にはロームブロックを多用する。芯材は無く、壁面に直接取り付けられる。煙道は壁面から0.58m突出する。燃焼部の天井は崩落している。カマドの内部は被熱して焼土化する。

【出土遺物】土師系環破片1点（1）が出土した。ロクロ成形で、底部外面には回転糸切り痕がみられる。



第79表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-172出土遺物観察表

No.	種類 名称	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	仕上げ		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	土師系 高台付 環	1口径 底径 — 高さ (1.3)	7.5YR5/6 黄	細砂粒少量含む。	良好	底部片	上縁部	—	—	カマド	—
							体部	—			
							底部	ロクロナデ			

SI-184 (第183・184図、第80表、図版三六・五二)

【概要】西区南部の中央で確認された、竪穴建物跡である。R・27・28グリッドに跨る。古墳時代のSI-185を切り、SB-152のP5・P6・P7も切っている。3m北にはSI-183とSB-262が位置する。7m東には古墳時代のSI-263が存在する。北東壁中央から床面にかけてSK-302に切られる。上面を削平され、壁高は15cm以下である。東壁の方位は、N-9°-Wである。

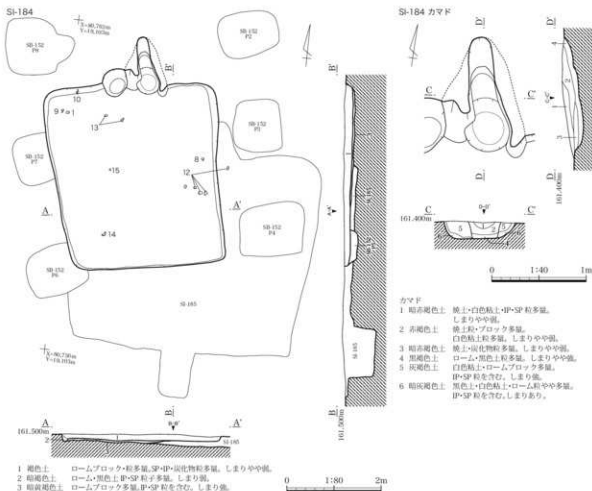
【規模】西壁の長さ3.8m、北壁3.5m、東壁3.6m、南壁3.22mで、床面中央の標高は161.200mである。ほぼ水平で、床面積は12.1㎡である。

【埋土・床面・掘形】埋土(1層)はロームブロックを多く含む。床面は平坦で、全体的に硬くしまり、掘形とSI-185埋土の上に貼床を施す。

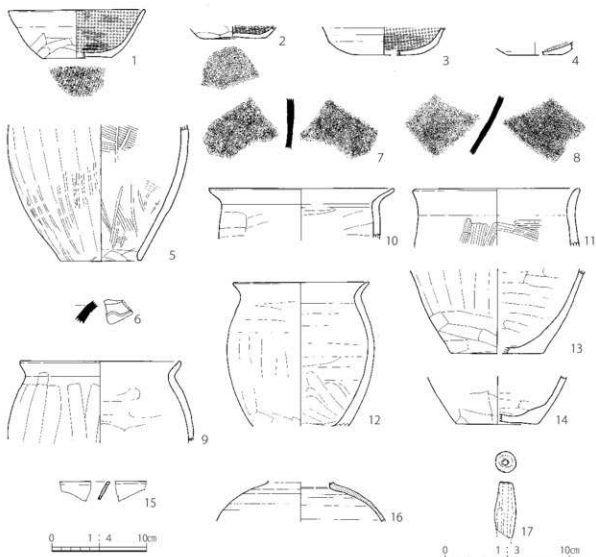
【柱穴・壁溝・貯蔵穴・入口ピット】柱穴、壁溝、貯蔵穴、入口ピットは存在しない。

【カマド】北壁の中央からやや東寄りに設置される。煙道と東側の袖部の基部が残る。煙道は掘形を持ち、その内側に白色粘土を厚く貼って壁面にする。カマドの西側には直径0.5mのピットが存在し、内面が被熱するが用途は不明である。煙道は、北壁から1.07m突出する。火床面の焼土化は弱い。

【出土遺物】土師器杯4点(1~4)、土師器瓶1点(5)、甕類6点(9~14)、須恵器甕口縁部細片(6)。灰釉陶器(15、16)と土鍾1点(17)が出土した。1はロクロ成形で、内面はミガキである。底部外面は回転ヘラ削りである。15の灰釉陶器検は遠江産と推測される。



第183図 小鍋内II遺跡 SI-184 実測図



第184図 小鍋内II遺跡 SI-184 出土遺物実測図

第80—1表 小鍋内II遺跡 SI-184出土遺物観察表(1)

No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師鍋 坪	口径 (14.5)	10YR7/4 (7.4)	細砂粒多量、黒色・透 明細砂粒少量含む。	良好	1/5	口縁部	口縁部	内面黒色施埋、 ロクロ石肌。	床面直上	灰境	
		底径 (7.4)					体部	ロクロナデ後、ヘラミガキ				ロークロナデ
		高さ (3.0)					底面	回転未切り肌				回転未切り肌
2	土師鍋 坪	口径	N15/0 (8.0)	細砂粒多量、透明 細砂粒少量含む。	良好	体部 下層一 底部1/3	口縁部	体部	内面黒色施埋、 ロクロ石肌。	埋土		
		底径 (7.8)					体部	ロクロナデ後、ヘラミガキ				下層ヘラケズリ
		高さ (1.3)					底面	ロクロナデ後、ヘラミガキ				回転未切り
3	土師鍋 坪	口径	10YR7/4 (6.6)	細砂粒多量、透明、 黒色細砂粒少量含 む。	良好	底部1/2、体 部一部	口縁部	体部	内面黒色施埋、 ロクロ石肌。	埋土		
		底径 (7.8)					体部	ロクロナデ後、ヘラミガキ				ロークロナデ
		高さ (2.9)					底面	ロクロナデ後、ヘラミガキ				回転ヘラケズリ
4	土師鍋 坪	口径	10YR6/4 (5.8)	細砂粒・透明細砂粒 少量含む。	良好	体部 下層一 底部1/5	口縁部	体部	内面黒色施埋、 ロクロ石肌。	埋土		
		底径 (6.6)					体部	ロクロナデ後、ヘラミガキ				回転ヘラケズリ
		高さ (1.4)					底面	ロクロナデ後、ヘラミガキ				回転ヘラケズリ
5	土師鍋 腹	口径	7.5YR7/8 (8.6)	白色細砂粒・黒色細 砂粒少量含む。	良好	体部一底部 1/4	口縁部	体部	内面にハケメ、 乳径 (3.8) cm	埋土	スス付部	
		底径 (8.6)					体部	ハケメ後、ヘラミガキ				ヘラミガキ
		高さ (14.3)					底面	ヘラケズリ、ヘラナデ				ヘラケズリ、ヘラナデ

第80—2表 小竈内II遺跡 SI-184出土遺物観察表(2)

No.	種類 種類	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考		
							内面	外面					
6	灰土 遺物	口径 底径 高さ (2.4)	—	7.5YR5/4 に赤い焼	細砂粒少量含む。	良好	断面破片	口縁部	—	3~4巻の磨 光工事で焼文 内面に残存	埋土	新田産か、	
								体部	白クロナデ				ヘラ跡含む状況
7	灰土 遺物	口径 底径 高さ (3.2)	—	10Y5/1 灰	細砂粒多量、白色 針状物質少量含む。	良好	断面破片	体部	本製無文当て具	平行タタキ	床面直上	小砂か 赤砂混在	
								底面	—	—			
8	灰土 遺物	口径 底径 高さ (6.7)	—	NS/1 オリーブ灰	細砂粒多量、白色 針状物質含む。	良好	断面破片	体部	本製無文当て具	平行タタキ	床面直上	小砂か 赤砂混在	
								底面	—	—			
9	土器 遺物	口径 底径 高さ (8.6)	—	10YR7/6 黄褐色	細砂粒・砂粒多量、 黒色細砂粒・透明細 砂粒少量含む。	良好	口縁部~体 部上端1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が平 や内縁。	床面直上	
								体部	ヘラナデ	ヘラナズリ			
10	土器 遺物	口径 底径 高さ (5.5)	—	7.5YR7/8 黄褐色	細砂粒・砂粒多量含 む。	良好	口縁部~体 部上端1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部が狭く、	床面直上	
								体部	ヘラナデ	ヘラナデ			
11	土器 遺物	口径 底径 高さ (6.0)	—	10YR4/4 黄	白色細砂粒多量、 透明・黒色細砂粒少 量含む。	良好	口縁部~体 部上端1/6	口縁部	横ナデ	横ナデ	内外面にハケメ	埋土	
								体部	斜ハケメ	縦ハケメ			
12	土器 遺物	口径 底径 高さ (13.3)	—	10YR8/3 黄褐色	細砂粒・黒色細砂粒 多量含む。	良好	1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	中央に狭。	床面直上	
								体部	斜ヘラナデ	縦ヘラナデ			
13	土器 遺物	口径 底径 高さ (8.9)	—	7.5YR6/6 黄褐色	細砂粒・砂粒多量、 黒色細砂粒・透明細 砂粒少量含む。	良好	底面1/4	口縁部	—	—	埋土		
								体部	ヘラナズリ、ヘラナデ	ヘラナズリ、ヘラナデ			
14	土器 遺物	口径 底径 高さ (5.0)	—	10YR8/4 黄褐色	細砂粒多量、黒色 細砂粒・小礫少量含 む。	良好	底面1/2	口縁部	—	—	内面底部に粘 土玉有り	床面直上	外面に スズ付着
								体部	胎ナデ	ヘラナズリ			
15	灰土 陶器 片	口径 底径 高さ (2.2)	—	2.5Y7/3 浅黄	白色細砂粒・黒色細 砂粒含む。	良好	口縁部1/10	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	内面と外面に 磨光	床面直上	新田産か、
								体部	—	—			
16	灰土 陶器 片	口径 底径 高さ (3.7)	—	7.5Y6/3 オリーブ黄	黒色細砂粒少量含 む。	良好	断面1/8	口縁部	—	—	外面に黒粒、 炭粒混在、ロ クロナズリ	埋土	炭粒混在
								体部	ロクロナデ	ロクロナデ			
17	土器 土塊	長さ 幅 厚さ 口径 底径 高さ 孔径	—	10YR7/3 に赤い黄褐色	白色細砂粒多量、 赤色細砂粒含む。	良好	4/5	口縁部	—	—	貫通にヒゴ状 工具使用。	床面直上	重量11.75g
								体部	胎ナデ	ナデ			
								底面	—	—			

【時期】 環、甕(3)の形状から、9世紀後葉頃の遺構と考えられる。

SI-263 (第185図、第81表)

【概要】 西区南部の東寄りに位置する竪穴建物跡である。遺構の南西コーナーが僅かに調査区にかかるだけで、その全形は不明である。上面は削平を受けている。西壁の方位は、N-17°Wである。

【位置】 R-27、S-27グリッドに跨る。確認面標高は 南西側コーナー部分の上端で161.050mである。

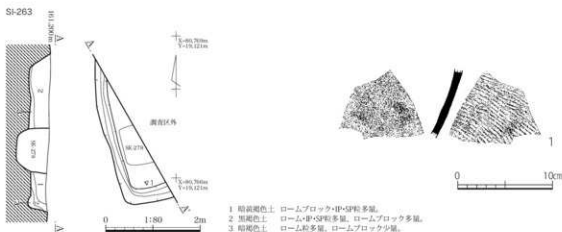
【規模】 西壁の調査長3.25m、南壁の調査長1.05mである。床面の標高は、南西側コーナー160.700m、床面中央では160.720mである。床面はほぼ水平である。調査した床面面積は1.05㎡である。

【埋土】 3層(1~3層)に分層される。ロームブロックを多量に含み、人為的な埋め戻しの可能性もある。

【床面・掘形】 調査範囲では床面は平坦で硬くしまり、貼床は無い。

【柱穴・入口ピット・貯蔵穴・カマド】 これらは、調査範囲には存在しない。

【壁溝】 調査範囲では壁際の全てに周溝が存在する。



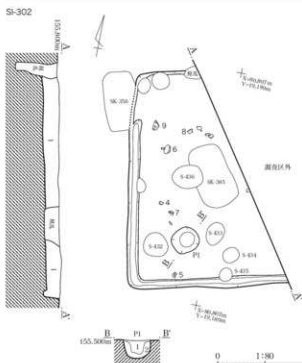
第185図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-263 実測図及び出土遺物実測図

【出土遺物】図化し得る遺物は埋土下層から出土した須恵器残破片1点（1）である。外面は平行タタキで、内面の当て具は無地である。

【時期】遺物の形状から、平安時代前期（9世紀代）と考えられる。

第81表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-263出土遺物観察表

編	種類 部類	計測値 (m)	色調	胎土	構成	残存率	状況		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
1	胎前褐色土	—	2.5V6/2	白色細砂粒を含む。	良好	割断破片	上縁部	—	内面に当具の 木目痕有り。	床面直上	
	底面	—	—								
	側面	—	—								



第186図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-302 実測図

SI-302 (第186・187図、第82表、図版三六・五二)

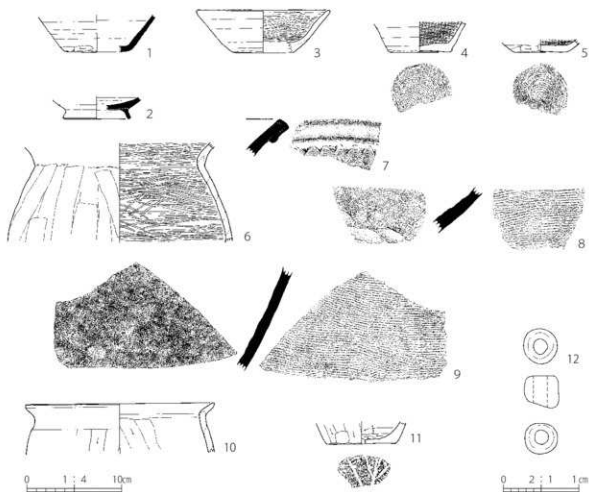
【概要】東区中央の東端で確認された、竪穴建物跡である。全体の約1/2が調査区外になる。2m西には古代のSI-303が存在し、床面中央はSK-385に、北西コーナーはSK-356に切られる。その他S-432・433・434・435、に床面を切られている。遺構上面を削平され、壁高は0.3~0.38mである。西壁の方位は、N-76.5°Wである。

【位置】V-25グリッドに位置する。確認面の標高は、埋土上面中央で155.680mである。

【規模】北壁の調査長は1.3m、西壁は4.58m、南壁の調査長は3.39mある。床面中央の標高は155.420mである。ほぼ水平で、床面積は8.9㎡である。

【埋土】埋土は1層で、ロームブロック、今市パミスのブロック等を多く含み、埋め戻しの可能性が高い。

【床面・掘形】調査範囲では、床面は平坦で、全体的に硬くしまる。地山の掘削面をそのまま床面



第187図 小鍋内II遺跡 SI-302 出土遺物実測図

とし、貼床はみられない。

【柱穴・入口ピット・貯蔵穴】南西コーナーでP1が確認されたが、北西コーナーには対になるピットは見られない。P1が柱穴か否かは不明である。ただし、埋土の上層（1層）は柱痕の可能性もある。入口ピットとしては位置が一般的ではなく、壁からも距離があるように思われる。また、時期的に貯蔵穴の可能性も低いと考えられる。P1は開口部平面が円形で、直径0.55～0.59m、床面からの深さ0.38mである。埋土は2層に分かれる。

【壁溝】壁溝は、調査範囲では南壁と西壁の約3/4に壁溝が存在する。

【カマド】調査範囲にはカマドは存在しない。

【出土遺物】図化・掲載し得た遺物には比較的須恵器が多い。1・2は須恵器、3・4・5は土師器の坏で、1と5の体部下端は手持ちヘラ削りである。いずれも口径に対する底径比は小さい。師器裏の6は内面に丁寧なミガキが施される。須恵器裏は外面平行タタキ、内面は無文の当て具痕が見られる。11の土師器裏底部には木葉痕が見られる。12は青緑色のガラス小玉である。1点のみの出土である。管切り技法による作成である。

【時期】遺物の形状から、9世紀後葉の遺構と考えられる。

第82-1表 小鍋内II遺跡 SI-302出土遺物観察表(1)

No.	種類 図様	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							口縁部	内面	外面			
1	須恵陶 坪	口径	—	10YR7/4 にぶい黄褐色	細砂粒少量。	良好	口縁部欠損。 底部～底部 1/5	口縁部	—	—	口縁右回り。	埋土
		底径	(6.4)					体部	ロクロナデ	下端平持ヘラケズリ		
		高さ	(3.7)					底部	ロクロナデ	回転ヘラ切り		
2	須恵陶 蓋付坪	口径	—	10Y5/1 灰	白色細砂粒少量含む。	良好	高台～底部 2/5	口縁部	—	—	高台は高い。 高台径7.3cm	埋土
		底径	—					体部	ロクロナデ	ロクロナデ		
		高さ	(2.3)					底部	ロクロナデ	回転ヘラケズリ後、平高付		
3	土師陶 坪	口径	(14.0)	7.5YR7/4 にぶい黄褐色	細砂粒少量含む。	良好	口縁部～底 部1/5	口縁部	ロクロナデ、横ヘラミガキ	ロクロナデ	内面はヘラミ ガキ、酸化鉄 成分もある	埋土
		底径	(6.4)					体部	ロクロナデ、横ヘラミガキ	ロクロナデ		
		高さ	4.5					底部	—	—		
4	土師陶 坪	口径	—	10YR7/4 にぶい黄褐色	褐色。白色細砂粒 少量含む。	良好	底部3/5	口縁部	—	—	口縁右回り。 内面黑色処理。	床面直上
		底径	6.4					体部	横ミガキ	ロクロナデ		
		高さ	(3.2)					底部	一定方向ミガキ	回転糸切り		
5	土師陶 坪	口径	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	白色細砂粒少量。	良好	底部のみ	口縁部	—	—	内面黑色処理。	床面直上
		底径	5.6					体部	—	—		
		高さ	(1.2)					底部	ロクロナデ、ヘラミガキ	回転糸切り		
6	土師陶 壺	口径	—	2.5Y4/1 黄灰	細砂粒多量含む。	良好	頸部～頸部 1/4	口縁部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ	内面に密なミ ガキ、膨心。	床面直上
		底径	—					体部	横ヘラミガキ	横ヘラミガキ		
		高さ	(10.5)					底部	—	—		
7	須恵陶 壺	口径	(37.2)	N4/0 灰	白色細砂粒多量含む。	良好	口縁部破片	口縁部	ロクロナデ	磨瑠璃文・文	5本の磨瑠璃 工具使用。	床面直上 新治区 8田尻の跡
		底径	—					体部	—	—		
		高さ	(4.0)					底部	—	—		
8	須恵陶 壺	口径	—	5Y4/1 灰	白色細砂粒多量。 細砂粒少量含む。	良好	破片	口縁部	—	—	—	床面直上
		底径	—					体部	無文当具箱	平行タタキ		
		高さ	(4.8)					底部	—	—		
9	須恵陶 壺	口径	—	5Y5/1 灰	白色細砂粒少量含む。	良好	破片	口縁部	—	—	—	床面直上
		底径	—					体部	無文当具箱後、ナデ	平行タタキ		
		高さ	(11.2)					底部	—	—		
10	土師陶 壺	口径	(20.0)	5YR6/6 褐色	褐色。細砂粒多量 含む。	良好	口縁部1/4	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部は短く 強く屈曲。内 面に焼。	埋土
		底径	—					体部	横ヘラナデ	横ヘラケズリ		
		高さ	(5.2)					底部	—	—		
11	土師陶 壺	口径	—	10YR4/2 灰黄褐色	白色細砂粒多量含む。	良好	底部1/3	口縁部	—	—	—	埋土
		底径	(7.2)					体部	横ヘラケズリ	横ヘラケズリ		
		高さ	(2.2)					底部	不定方向ヘラケズリ	木葉煎		

第82-2表 小鍋内II遺跡 SI-302出土遺物観察表(2)

No.	区分	種類	径 (cm)	厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
12	玉瓶	芽スス 小玉	0.45	0.38	0.13	0.10	完存	埋土	色調 2.5Y8 青・黄入り 柱状

SI-303 (第188・189図、第83表、図版三六・五二)

【概要】東区の中央で確認された、方形平面の竪穴建物跡である。2 m東には古代のSI-302、西5 mには古墳時代のSI-475が存在する。周辺には中世の土坑が多数重複する。当遺構も北西コーナーをSK-358が、南東コーナー北側をSK-357が切る。遺構の上面は東側にかけて斜めに削平を受けており、壁高は最も高い箇所10cm前後である。東壁の方位は、N-32°-Wである。

【位置】V-25グリッドに位置する。確認面の標高は北東コーナーの上端で155.800m、南東コーナーで155.850m、南西コーナーで155.950mである。

【規模】北壁の長さ2.93m、東壁2.38m、南壁2.8m、西壁2.55mの大きさと、歪んだ方形である。床面の標高は、西北側コーナー155.840m、北東側コーナー155.795m、南東側コーナー155.803m、南西側コーナー155.810m、中央155.820mである。床面は東側にわずかに傾斜する。床面積は6.68㎡である。

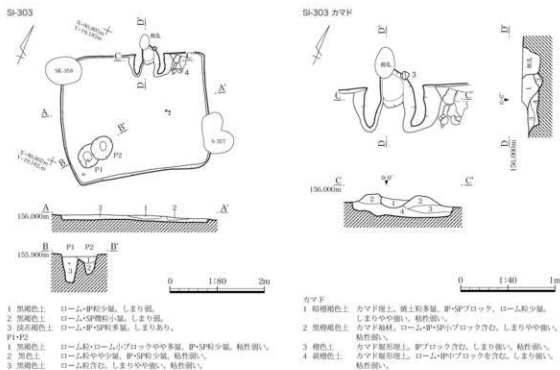
【埋土】埋土は2層に分層され、粒子は比較的均一で細かい。自然埋没と思われる。

【床面・掘形】床面は東に向かってやや傾斜する。掘形は存在せず、ハードルーム層まで掘り込んだままの状態を床面としている。

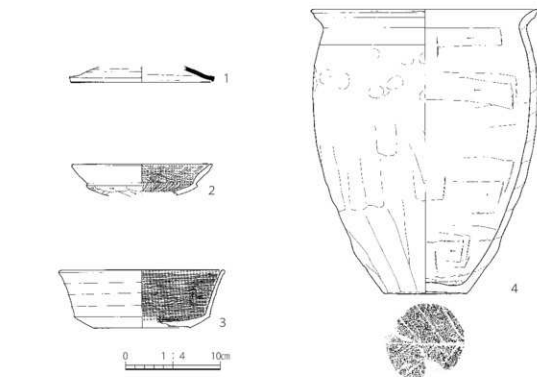
【柱穴・壁溝】壁溝は存在しない。南コーナーに2基のピットが重複するが、他にはピットが存在しない。

【柱穴・入口ピット・貯蔵穴】南コーナーで重複するP1・P2が確認されたが、他には対になるピットは見られない。P1はP2に切られる。入口ピットとしては位置が一般的ではなく、壁からも距離があるように思われる。また、定期的に貯蔵穴の可能性も低いと考えられる。P1は開口部平面が円形で、直径0.50～0.55m、床面からの深さ0.61m、P2も開口部平面が円形で、直径0.55～0.59m、床面からの深さ0.5mである。埋土は2層に分かれる。

【カマド】北東壁の中央からやや北寄りに存在する。上面は削平されているが、袖部は先端まで残っている。ほぼカマド全体の範囲に掘形を設け、貼床を施した後、褐色の粘土で袖部が構築される。火床面は建物床面と



第188図 小鍋内II遺跡 SI-303 実測図



第189図 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-303 出土遺物実測図

第83表 小鍋内Ⅱ遺跡 SI-303出土遺物観察表

編	種類 説明	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	須恵器 坏蓋	口径	—	7.5V5/1 灰	白色細砂粒多量含 む。	良好	1/6	頂部	—	ロクロ左回り。 床面直上		
		底径	(15.0)					体部	ロクロナデ			回転ヘラケズリ
		高さ	(1.7)					底部	ロクロナデ			ロクロナデ
2	土師器 坏	口径	(15.0)	7.5VR6/6 粗	白色細砂粒多量含 む。	良好	口縁部～底 部1/5	口縁部	横ミガキ	横ナデ	口縁部は大き く開く。内面 ウルクシ上げ。	埋土
		底径	—					体部	横ミガキ	横ナデ		
		高さ	(3.4)					底部	放射状ミガキ	ヘラケズリ		
3	土師器 鉢	口径	(17.6)	10VR5/3 に濃い黄褐色	緻密、白色細砂粒 少量含む。	良好	口縁部～底 部1/5	口縁部	横ミガキ	ロクロナデ	底部下部に横 底面外面がわず かに凹む。	カマド
		底径	(10.0)					体部	横ミガキ	ロクロナデ		
		高さ	6.1					底部	一定方向ミガキ	回転ヘラケズリ		
4	土師器 甕	口径	(24.2)	7.5VR7/4 に濃い橙	透明細砂粒多量含 む。	良好	口縁部～底 部2/5	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部部の外 面に横。	床面直上
		底径	8.6					体部	横ヘラナデ	上下両面直。下ヘラナデ		
		高さ	30.1					底部	不定方向ナデ	木葉痕		

ほぼ同じ高さである。支脚は見られない。煙道先端は攪乱を受けているが、煙道はあまり突出せず、急角度に立ち上がる。カマドの内面は被熱で焼土化している。東側の袖基部で土師器甕1個体(4)が出土した。

【出土遺物】図4・掲載した遺物は、須恵器坏蓋破片1点(1)、土師器坏2点(2、3)、土師器甕1点(4)である。須恵器坏蓋1は返りは無い、天井部を欠く。土師器坏2は種の位置が低く、口縁部は大きく開く。内面には丁寧なヘラミガキが密に入る。土師器坏3はロクロ成形で、内面に横位の密なミガキが施される。器壁は極めて薄く、硬質である。底部外面は回転ヘラ削りで、内周を一段深く削り込み所謂「碁筒底」の様相を呈する。4の土師器甕は口縁端部が外縁に凹線が1条巡らされる。体部外面の下半は縦方向のヘラ削りで、底面には木葉痕がみられる。

【時期】土師器の形状から、本遺構の年代は8世紀後葉～9世紀前葉と考えられる。

5. 土坑

小竈内Ⅱ遺跡遺跡では、古代の土坑が4基確認できた(第85表)。形状は楕円形、方形と様々である。SK-022(第190・191図、第84・85表、図版三七)

北区の北西端部で確認された。P-23グリッドに位置する。他遺構との重複はない。西側は調査区外になり、形状は不明である。開口部、底面共に平面は歪んだ楕円形で、壁は斜めに緩い角度で立ち上がり、すり鉢状を呈する。底面は平坦である。残存壁高は60cmである。底面では角礫が少量出土し、それらと共に土師器環1点(1)、須恵器裏胴部破片(2)が確認された。1はロクロ成形で内面にミガキ、黒色処理を施す。2は内面は当て具痕を消し、外面には平行タタキがみられる。

SK-052(第190・191図、第84・85表、図版三七)

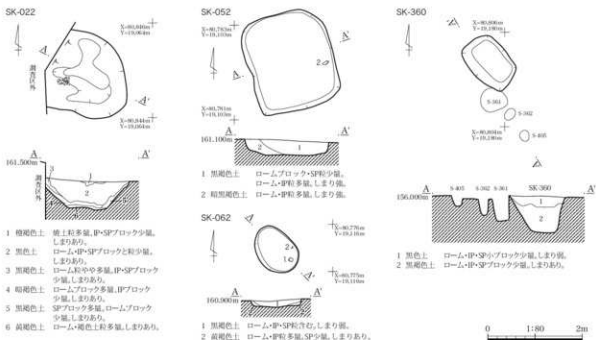
西区の北部で確認された。R-26グリッドに位置する。他遺構との重複はない。確認面での形状はやや歪な隅丸方形で、底面は概ね平坦である。壁は急角度に立ち上がり、残存高は23cmである。埋土は2層に分層され、1層にはロームブロックを多量に含む。人為的な埋め戻しの可能性がある。土師器環1点(1)、須恵器裏1点(2)が出土した。1はロクロ成形で、内面にミガキ、黒色処理を施す。2は口縁部破片で、頸部外面は無文である。

SK-062(第190・191図、第84・85表、図版三七・五二)

西区の中央部で確認された。R-27グリッドに位置する。他遺構との重複はない。楕円形の土坑である。上部を削平され、残存壁高は18cmである。壁は急角度で立ち上がる。須恵器環蓋1点(1)、須恵器環1点(2)が出土した。1は环蓋の破片で、つまみは小さく、丈が比較的高い。2は本来蓋を伴う环身と思われる。

SK-360(第190・191図、第84・85表)

東区の中央部で確認された。U-25グリッドに位置する。平面はやや歪な隅丸方形で、底面は平坦である。壁は北東側では急角度に立ち上がり、残存高は78cmである。埋土は2層に分層され、自然埋没と思われる。灰釉陶器塊の破片(1)が出土した。9世紀前葉～中葉の猿投産(黒笹14号窯式期)と思われる。



第190図 小竈内Ⅱ遺跡 奈良・平安時代土坑実測図



第191図 小鍋内II遺跡 SK-022・SK-052・SK-062・SK-360 出土遺物実測図

第84表 小鍋内II遺跡 SK-022・SK-052・SK-062・SK-360出土遺物観察表
SK-022

坑	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師陶 杯	口径 (12.6)	10YR8/4 浅黄褐色	細砂粒多量含む。	良好	1/4	口縁部	ロクロナデ、ヘラミダリ細網	ロクロナデ	ロクロ右回り、 内面黒色処理。	床面直上	
		底径 (4.5)					体部	ロクロナデ、ヘラミダリ	下平ヘラケズリ			
		底面					—	—	—			
2	須恵陶 壺	口径 —	10YR6/4 灰	砂粒・透明細砂粒多 量含む。	良好	破断片	口縁部	—	—	—	床面直上	
		底径 (12.4)					体部	当具龍脚し	平行タタキ目			
		底面					—	—	—			

SK-052

1	土師陶 杯	口径 —	N2/0 黒	白色細砂粒多量、 白色粘少量含む。	良好	破片	口縁部	—	—	内面黒色処理、 ロクロ右回り。	埋土	
		底径 (5.4)					体部	—	—			
		底面 (1.2)					底面	ヘラミダリ	回転ヘラケズリ			
2	須恵陶 壺	口径 (31.0)	10Y6/1 灰	白色細砂粒多量、 白色粘少量含む。	良好	破片	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁底部下縁 が下方に折れ る。	埋土	
		底径 —					体部	—	—			
		底面 (7.2)					底面	—	—			

SK-062

1	須恵陶 壺	口径 —	7.5Y5/1 灰	砂粒・白色細砂粒含 む。	良好	1/4	口縁部	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	口縁は平直、 縁外は縦立真 直。	床面直上	
		底径 (2.3)					体部	ロクロナデ	ロクロナデ			
		底面					—	—	—			
2	須恵陶 杯	口径 (11.6)	3Y6/1 灰	細砂粒・白色細砂粒 含む。	良好	口縁部一部	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	体部はやや丸 みを帯びる。 口縁縁部わず かに外反。	床面直上	
		底径 (4.6)					体部	ロクロナデ	ロクロナデ			
		底面					—	—	—			

SK-360

1	灰釉 陶器 碗	口径 7.2	N7/0 灰白	白色細砂粒少量、 所々に気泡含む。	良好	高台・割部 破片	口縁部	—	—	内面黒色、外面 上平に黄緑、高 台断面四角形、 高台径 (7.2) cm	埋土	階段築成
		底径 (4.3)					体部	ロクロナデ	ロクロナデ			
		底面					ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台				

第85表 小鍋内II遺跡 奈良・平安時代土坑一覧表

坑	遺構 番号	調査区	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
1	SK-022	Ⅱ北	P-23	(楕円)	1.82	1.70	0.54	N-58°-W	赤鉄遺物あり。 土師杯1、須恵壺1	西側の調査区外へびでている。	
2	SK-052	Ⅱ西	R-26	隅丸方	2.08	1.80	0.12		遺物実測。土師8点あり		SB-252・253 PTより新しい。
3	SK-062	Ⅱ西	R-27	隅丸長方	1.08	0.79	0.13	N-45°-W	(赤鉄遺物あり。須恵壺 1、杯1)		
4	SK-360	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.18	0.83	0.77	N-40°-W	(赤鉄遺物 灰地あり)		S-361との切り合い不明

6. 遺構外出土遺物 (第192図、第86表)

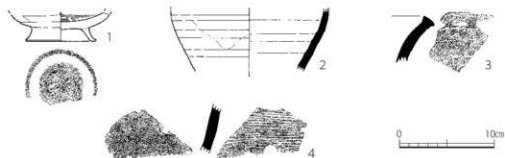
小鍋内Ⅱ遺跡では、遺構確認作業に際し、遺構外から奈良時代から平安時代にかけての遺物が採取されている。これらのうち、図示可能な主要遺物について記載する。土師器杯1点(1)、須恵器甕あるいは甗1点(2)、須恵器甕2点(3、4)である。

1は北区南部の遺構確認面で採取された。ロクロ成形で、体日外面を回転ヘラケズリした後、縦の高い高台を付ける。内面は横方向の丁寧なヘラミガキが施される。9世紀末から10世紀にかけての遺物であろう。

2は西区中央の遺構確認面で採取された。胴部の破片で、肩部から胴部にかけて自然軸がみられる。胴部外面の下半は回転ヘラケズリによって、器厚を調整している。肩部以上は欠損するが、短い口縁部が直立し、蓋を伴うものと思われる。9世紀台の遺物であろう。

3は裏口縁端部で、西区東寄りの遺構確認面で採取された。頸部外面にヘラ描の波状文が2段施される。文様の区画帯は無い。口縁端部の下端に沈線が1条巡る。

4は須恵器甕の胴部中位の破片である。西区の遺構確認面で採取された。外面には明瞭な平行タタキ目が残り、内面は無文の当て具痕と思われるが、当て具痕をナデ消している。



第192図 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の奈良・平安時代遺物実測図

第86表 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の奈良・平安時代遺物観察表

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考		
							内面	外面					
1	土師器 高台杯	口径	—	10YR8/4 淡黄褐色	細砂粒多量含む。	良好	底面1/2	口縁部	—	高台端部は外反する。高台径(7.4)cm	底面直上		
		底径	—					体部	—				
		器高	[3.0]					底部	ロクロナデ、ヘラミガキ 回転ヘラケズリ後、打高付				
2	須恵器 甕	口径	—	5Y7/1 灰白	細砂粒、赤色粒・白色細砂粒少量含む。	良好	破片一部	口縁部	—	胴部上半に自然軸。	西区表層		
		底径	—					体部	ロクロナデ				下層ヘラケズリ
		器高	[6.7]					底部	—				—
3	須恵器 甕	口径	—	2.5Y5/2 暗黄褐色	細砂粒・白色細砂粒・白色針状物黄含む。	良好	口縁部一部	口縁部	ロクロナデ	磨縮造状文	1条の沈線による波状文。	西区表層	南部直上か、
		底径	—					体部	—	—			
		器高	[4.8]					底部	—	—			
4	須恵器 甕	口径	—	5Y5/1 灰	細砂粒・雲母多量、白色細砂粒含む。	良好	破片一部	口縁部	—	平行タタキ目	西区表層		
		底径	—					体部	当て具痕				—
		器高	[3.2]					底部	—				—

第7節 中世以降の遺構と遺物

小鍋内Ⅱ遺跡の調査区内では、東区において中世関係の遺構、特に密集する方形の土坑群が確認された。東区の範囲は土坑群の中心部に相当すると思われ、土坑群を区画する溝跡は確認できなかった。また土坑群からやや離れて西区や東区で井戸跡が2基が確認された。なお、土坑の中には、近世以降のものも含まれるが、「中世以降の遺構」として一括して掲載した。またピットも多数確認されたが分布状況の図と、一覧表にまとめて示した。なお、それらの中には、柱根等が残るものや、銅銭等の遺物を出土して中世遺構との関係を示唆するものもあり、これらについては遺構実測図を示し、詳述した。

1. 井戸跡

SE-135 (第193・194図、第87表、図版三七)

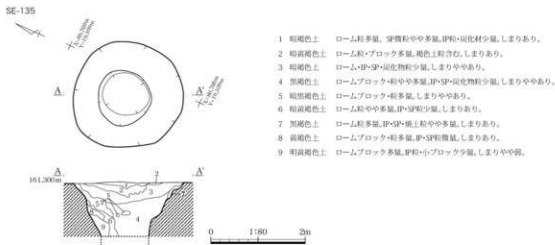
【概要】西区の中央に位置し、古墳時代のSI-121を切る。素堀の井戸跡である。開口部平面形はほぼ正円で、確認面から0.9m下方で直径が小さくなり、断面が漏斗状になる。壁面には、上方において、やや崩れた跡がみられる。

【位置】R-27グリッドに位置する。確認面標高は161.200mである。

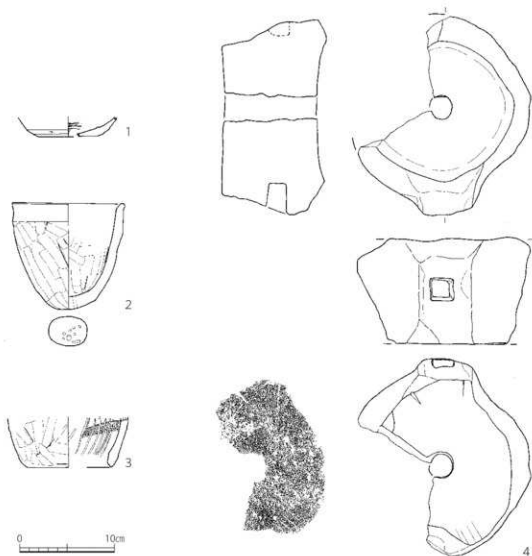
【規模】開口部の直径は2.25～2.30mである。断面形が屈曲する箇所では直径1.10～1.18mである。確認面から1.15mの深さまで調査を行ったが、底部の深さは不明である。

【埋土】4層以下は、北側から土を投入して人為的に埋め戻した形跡があり、大小の礫が混入する。3層より上部は、埋め戻した後、埋土の凹んだ部分がさらに自然埋没したものと推測される。

【出土遺物】図化・掲載した遺物は、土師器と石臼である。土師器は底部破片1点(1)、土師器甕2点(2、3)、石臼1点(4)である。土師器は遺構確認面から埋土上層にかけて出土し、石臼は下層で出土している。1はロクロ成形で、底部外面は回転ヘラズリである。内面にミガキを施す。2は多孔の甕である。直径3～4mmの小孔が9個穿たれる。3は単孔の甕で、内面には所々横方向のハケメが見られ、その上に縦方向の粗いミガキを施す。4の石臼は多孔性の安山岩製で、上臼部分である。側面に突出部を彫出し、挽木を挿入する正方形の孔を穿っている。下面には磨滅した目がわずかに残る。大きさや、供給口が中心にあり、挽木の打ち込み孔が対になることから、茶臼の可能性もある。



第193図 小鍋内Ⅱ遺跡 SE-135 実測図



第194図 小鍋内II遺跡 SE-135 出土遺物実測図

第87-1表 小鍋内II遺跡 SE-135出土遺物観察表(1)

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考		
							内面	外面					
1	土器 鉢	口径	—	10YR7/4 に赤い黄褐色 を帯び含む。	細砂粒・白色細砂粒 ・雲母を含む。	良好	底部～体部 1/8	口縁部	—	—	埋土	—	
		底径 (5.4)	—					体部	ロウロナ子後、ヘラミガキ				ロウロナ子
		高さ (2.0)	—					底部	ロウロナ子後、ヘラミガキ				回転ヘラケズリ後、ナデ
2	土器 甌	口径	12.0	5YR6/8 粗	細砂粒・白色細砂粒 ・雲母を含む。	良好	口縁部5/6、 体部4/5、底 部完存	口縁部	横ナデ	横ナデ	底部に多孔。	埋土	—
		底径	—					体部	斜ヘラナデ	斜ヘラナデ			
		高さ 11.4	—					底部	縦ヘラナデ	ヘラケズリ			
3	土器 甌	口径	—	10YR7/6 明黄褐色	細砂粒・白色細砂粒、 赤色粒・雲母少量含む。	良好	底部～胴下 半分1/5	口縁部	—	—	内面の一部に ハケム。	埋土	—
		底径 (9.0)	—					体部	削ナデ後、ヘラミガキ	ヘラナデ後、ヘラミガキ			
		高さ (5.2)	—					底部	ヘラミガキ	ヘラナデ			

第87-2表 小鍋内II遺跡 SE-135出土遺物観察表(2)

No.	区分	種類	土径 (cm)	下径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
4	石製品	石臼	19.3	15.6	11.0	3.638kg	2/3	埋土	機木の打ち込み孔が2ヶ所有り、赤白と考えられる。

SE-768 (第195図、第88表、図版三七)

【概要】東区の南端に位置し、他遺構との切り合いは無い。素堀の井戸跡である。開口部平面形はほぼ正円で、底部に向けて直線的に窄まる。壁面に大きい崩れはみとめられない。

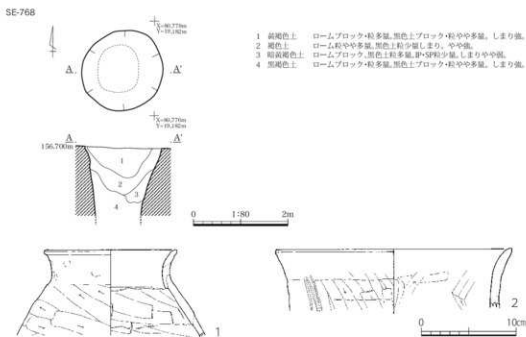
【位置】V-27グリッドに位置する。確認面標高は156.650mである。

【規模】開口部の直径は1.68～1.80mで、確認面から1.40mの深さまで調査したが、底部の深さは確認できなかった。

【埋土】最上層の1層はロームブロックを多量に含む。また、3層にもロームブロックが多量に含まれるが、壁面の崩落土の可能性もある。全体的に、埋土の様相からは人的な埋め戻しの可能性が高い。

【出土遺物】埋土の3層には、内耳土鍋と思われる小破片が散見されたが、図化できた遺物は、遺構確認面で採取された土師器である。1は土師器甕で、口縁部は直立し端部がやや開く。胴部の膨らみが大きい。内面、外面ともに、横方向のヘラナデを施す。2は、やや大型の土師器甕の口縁部である。胴部の膨らみは少なく、口縁部はわずかに外反する。内面、外面ともに、ヘラナデの後、粗いヘラミガキが施される。

埋土の最上層で古墳時代後期の土師器が出土しているが、下層において中世と思われる遺物の小破片が確認され、当遺構の年代も中世以降と考えたい。



第195図 小鍋内Ⅱ遺跡 SE-768 実測図及び出土遺物実測図

第88表 小鍋内Ⅱ遺跡 SE-768出土遺物観察表

No.	種類 目録	計測値 (cm)	色調	取土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							内面	外面				
1	土師器 甕	口径 (14.0) 底径 — 器高 (7.3)	7.5YR6/3 に濃い褐	赤色粘土層を含む。	良好	口縁部～胴部 1/2	口縁部	横ナデ	横ナデ	口縁部がわずかに外反。 内面に輪筋状。	埋土	
							体部	斜ヘラナデ	斜ヘラナデ			
							底部	—	—			
2	土師器 甕	口径 (25.0) 底径 — 器高 (6.3)	10YR8/3 浅黄褐色	微砂粒・白色細砂粒 ・雲母少量含む。	良好	口縁部1/5	口縁部	横ナデ	横ナデ後、ヘラミガキ	胴部の膨らみは無く、内外面にミガキ、輪と磨定。	埋土	
							体部	ヘラナデ	ヘラミガキ後、ヘラナデ			
							底部	—	—			

2. 土坑 (第196～227図、第89～101表、図版三七～四一・五二)

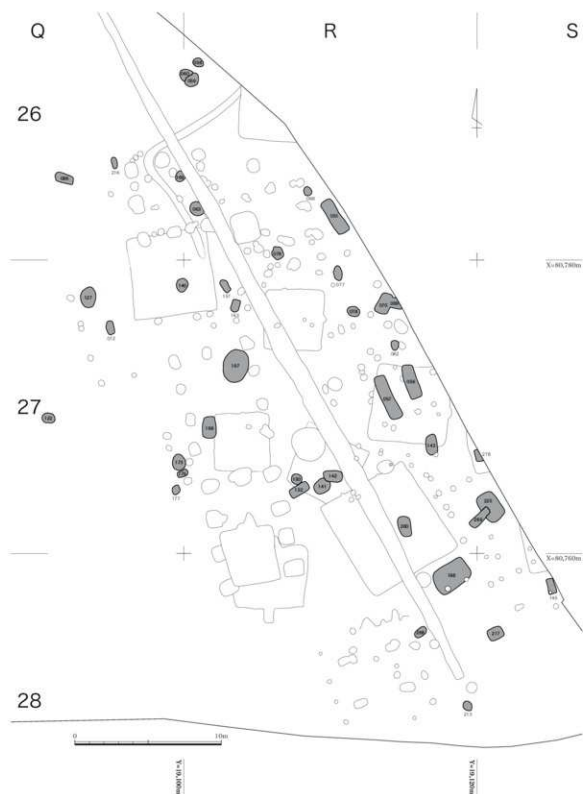
小鍋内Ⅱ遺跡においても、小鍋内Ⅰ遺跡と同様に、中世およびそれ以降の所産と考えられる土坑群が確認された。

まず、各区ごとにその様相を観視すると、北区では古墳時代の土坑が目立ち、中世以降の土坑は主にその南部に散在する。長軸を北東方向に向け、概ね等高線に対して直角方向に掘られるものが目立つ。西区では西半分は主に造成による掘削で、土坑に限らず遺構の保存状態は悪いが、古代の掘立柱建物群が存在する西区の中央部分から東側にかけての範囲に土坑が散在する。方形・楕円形土坑が主体であるが、重複は少なく、密集する様相はみられない。これに対し、東区は調査範囲の中では土坑の分布密度が最も高かった。特に区の中央東寄りの部分から北東端部にかけて最も多くの集中がみられ、重複も激しかった。主軸の方向は概ね平行あるいは直行の関係にある。

これらの土坑の形状は、隅丸長方形、長楕円形、隅丸正方形、円形など多様で、大型(長軸6.7m)～小型(長軸1.0m)まで様々な大きさがあるが、小鍋内Ⅰ遺跡の場合と同じく、短軸1に対して長軸2～2.5前後の比率の隅丸方形土坑が多くを占める。ただし、全体的に小鍋内Ⅰ遺跡の土坑よりもやや大きい傾向がみられる。また、正方形の土坑も少なくない。これらには、対辺の中央にピットを有するものや、底面の一角に焼土の堆積が認められるものは確認できなかったが、底面が硬化するものも見られ、方形竅穴の可能性もある。また、土坑の深さは小鍋内Ⅰ遺跡に比べると比較的ばらつきが認められ、長軸が2m未満の比較的小型の隅丸方形土坑の中には、SK-021・039・077・086・143・198・268・278・320・648などのように、確認面からの深さが1mを越えるものが散見される。これらでは、埋土にロームブロックを多量に含み、人為的に埋め戻されたものが多く、墓塚と推測される。なお、SK-039は南半分を古墳時代の円筒形土坑であるSK-038に切られていたが、残存部分の底面の外縁には、巾10cm程度の細い溝状の掘り込みが巡っていた。また、北区で確認されたSK-012とSK-013は確認面での平面がほぼ同大の長方形の土坑で、2基が主軸方向を描いて重複していたが、両者とも壁面がやや内傾して直線的に立ち上がり、地下式の種類とも考えられる。

次に、遺物を出土した土坑について記載する。東区のSK-321は小型の方形土坑で、銅銭の「熙寧元宝」(第207図1)が1枚出土した。また、SK-461～464の重複部分で出土した赤彩の土師器杯(第211図1)はSI-457からの流入遺物と思われる。SK-391出土の土師器模倣杯(第213図SK-391-1)やSK-395の土師器碗(第215図1、2)も同様に、近接する竅穴建物跡からの遺物と考えられる。SK-472からは「開眼通宝」(第213図SK-472-1)が出土した。SK-400からは瀬戸灰軸平碗破片(1)が出土した。また、SK-402では内耳土鍋の口縁部破片(第219図1)が確認され、SK-605からは口径に比して底径の小さい、器高の低い土師質土器底部破片(第225図1)が出土した。

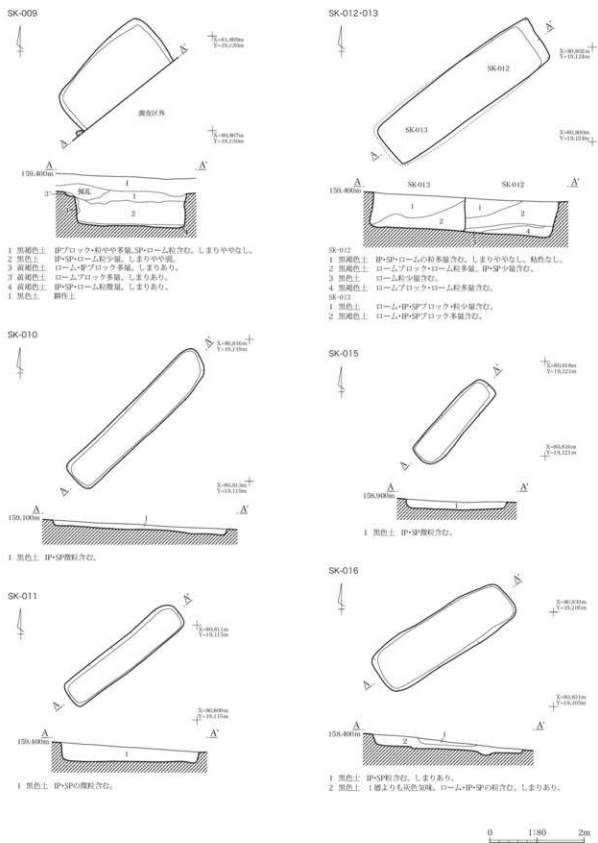
小鍋内Ⅱ遺跡で確認された土坑群は以上のような状況・内容であり中世の墓塚群の可能性は高い。しかし、小鍋内Ⅰ遺跡の調査状況との違いは、これらの土坑群を区画・囲繞する溝が確認できないことであろう。小鍋内Ⅰ遺跡では、斜面に対し直角に、断面V字形の溝が一定の間隔で掘られ、それらの間に土坑群が展開する様相が看取された。また土坑群の中央に、道路遺構と考えられる波板状瓦痕を有する溝も発見され、中世の遺構群を形作っている。こうした様相に対し、小鍋内Ⅱ遺跡では、土坑の分布密度は同等以上のものがあるが、周囲の付属遺構と考えられるものが確認されなかった。



第197図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑分布図(西区)

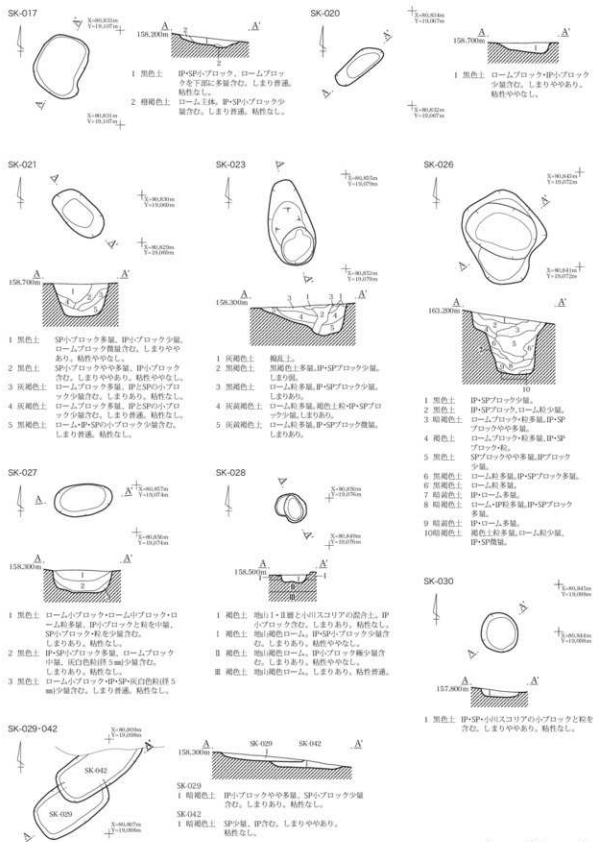


第198図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑分布図(東区)



第199図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑実測図(1)

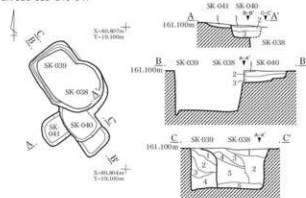
第IV章 小鍋内遺跡



第200図 小鍋内II遺跡 中世以降土坑実測図(2)

0 1:80 2m

SK-038-039-040-041



SK-038

- 1 黒色土 ローム粒・ブロック含む。IP・ブロック少量。しまりあり。
- 2 黒色土 ロームブロック多量。IP・SP・ブロック少量。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒や中多量。IP・ブロック少量。しまり弱。
- 4 褐色土 ロームブロックや中多量。SP・黒色土・ブロック含む。しまり弱。
- 5 暗褐色土 ロームブロックや中多量。SP・IP・ブロック少量。しまり弱。
- 6 褐色土 ローム粒多量。IP・少量。しまりあり。

SK-039

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量。IP・少量。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量。IP・少量。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多量。IP・ブロック少量。しまり弱。
- 4 黒色土 ロームブロックや中多量。IP・SP・ブロック少量。しまり弱。

SK-040

- 1 暗黒褐色土 SP粒や中多量。IP・ブロック少量。ロームブロック含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 SP粒多量。IP・ブロック少量。しまりあり。
- 3 暗褐色土 SP粒多量。IP・ブロック少量。しまりあり。

SK-041

- 1 黒色土 IP・ブロック少量。しまりあり。

SK-051



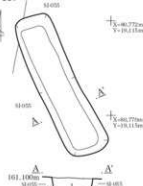
- 1 褐色土 IP粒数値。やや砂質でしまり少ない。粘性なし。

SK-056



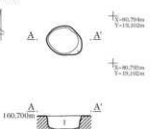
- 1 黒褐色土 ロームブロック粒多量。埋め戻し上。SI-055を切っている。

SK-057



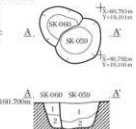
- 1 黒褐色土 ロームブロック粒多量。埋め戻し上。SI-055を切っている。

SK-058



- 1 赤褐色土 黒色土・ロームブロック・IP・SP多量。埋め戻し。

SK-059-060



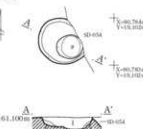
SK-059

- 1 赤褐色土 黒色土中にローム・ブロック・IP・SP多量。埋め戻し。
- 2 赤褐色土 ロームブロック多量。埋め戻し。

SK-060

- 1 赤褐色土 黒色土中にローム・ブロック・IP・SP多量。埋め戻し。
- 2 赤褐色土 ロームブロック多量。埋め戻し。

SK-063

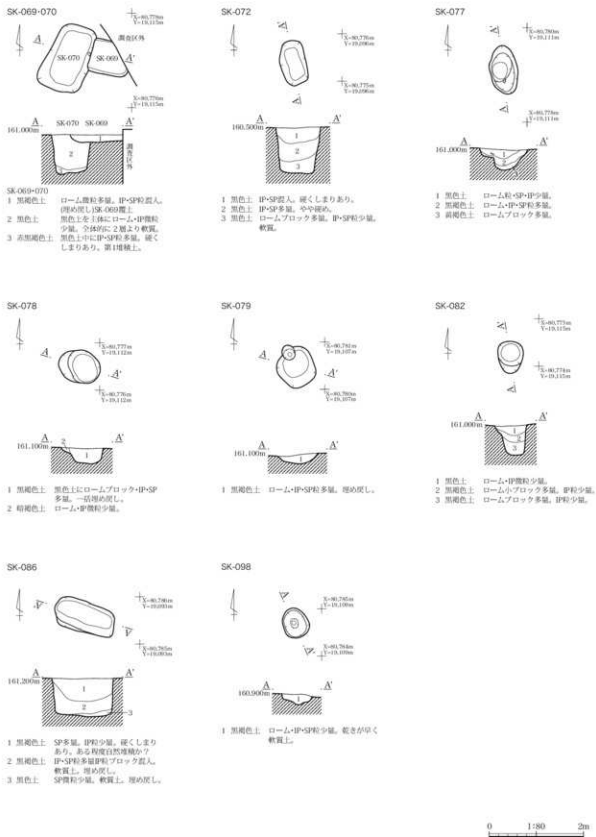


- 1 黒褐色土 黒色土中にローム・IP・SP多量。
- 2 赤褐色土 ロームブロック・IP多量。

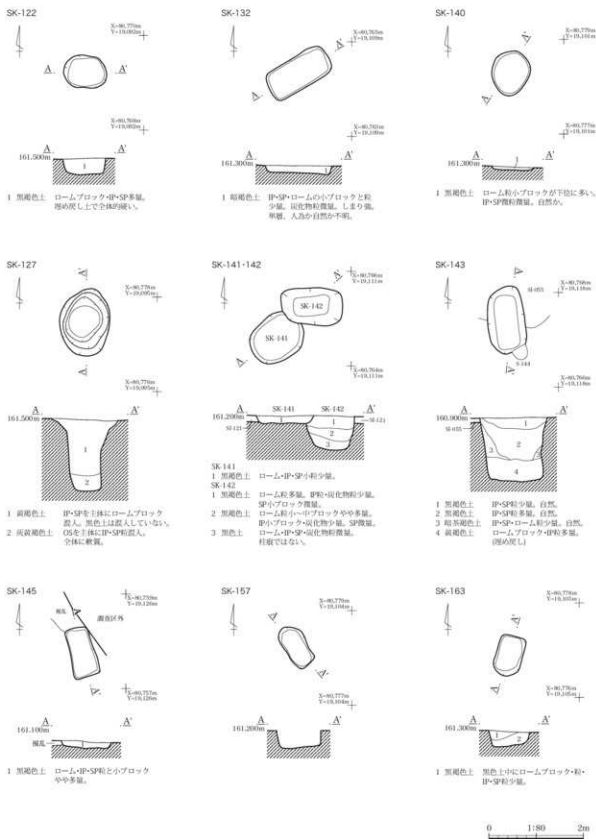
0 1:80 2m

第201図 小鍋内II遺跡 中世以降土実測図(3)

第IV章 小鍋内遺跡

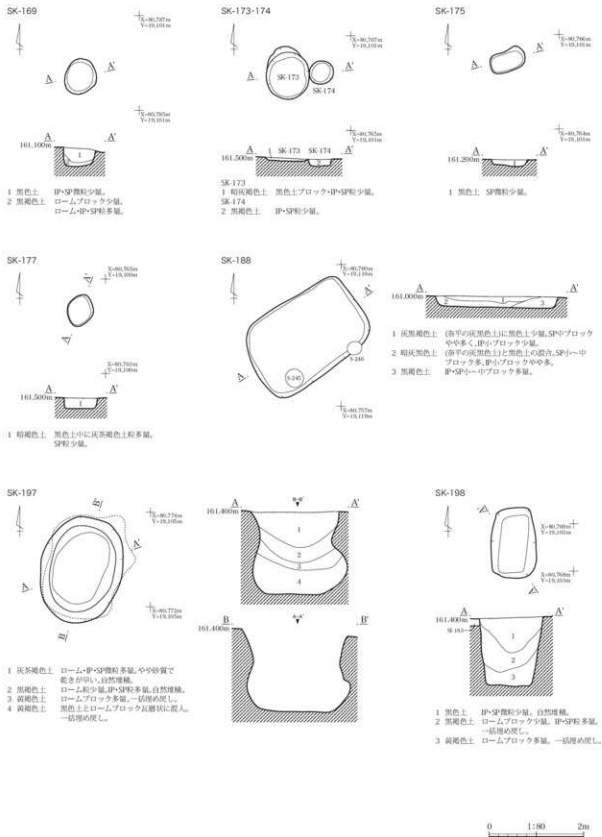


第202図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑実測図(4)

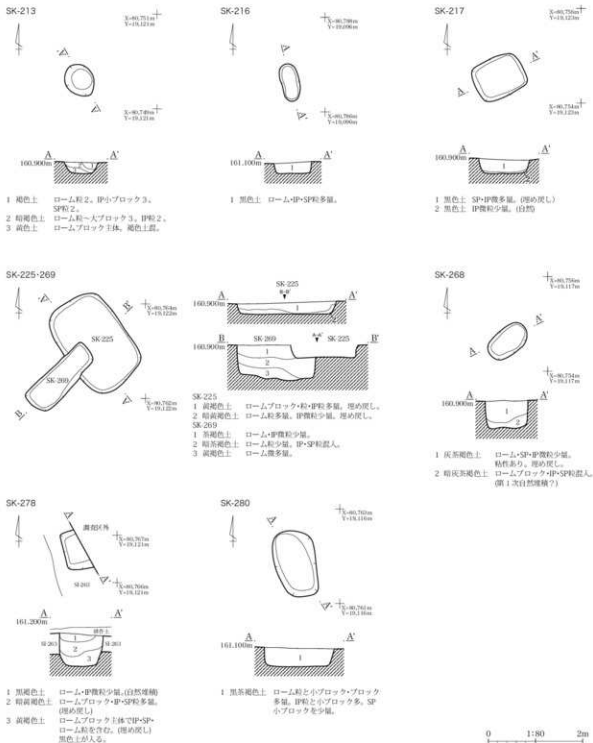


第203図 小鍋内II遺跡 中世以降土坑実測図(5)

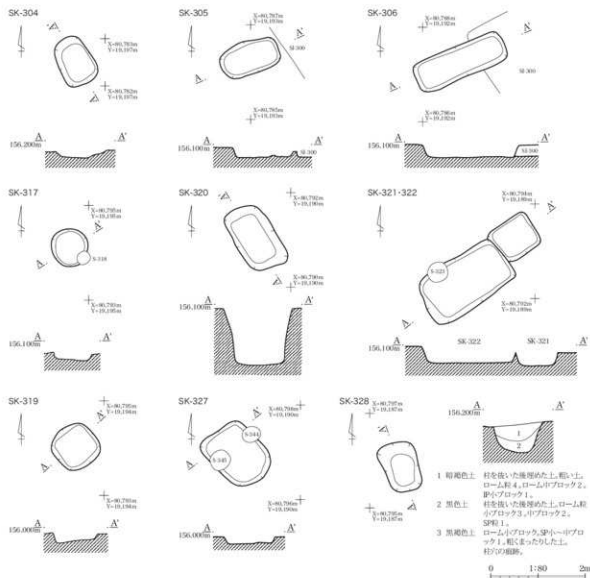
第IV章 小竈内日遺跡



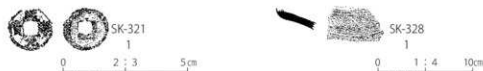
第204図 小竈内II遺跡 中世以降土坑実測図(6)



第205図 小鍋内II遺跡 中世以降土坑実測図(7)



第206図 小鍋内II遺跡 中世以降土坑実測図(8)



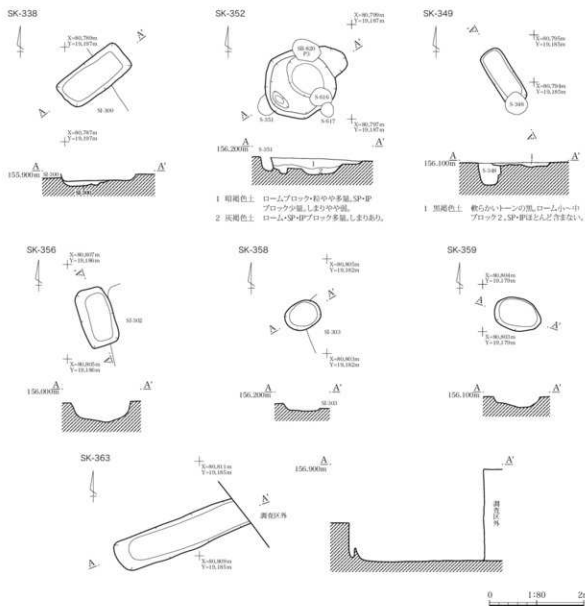
第207図 小鍋内II遺跡 SK-321・SK-328 出土遺物実測図

第89表 小鍋内II遺跡 SK-321出土遺物観察表

No.	区分	種類	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
1	副製品	銅銭	(2.42)	0.13	(2.09)	竪跡欠損	埋土	新寧元景

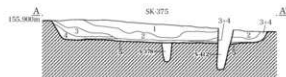
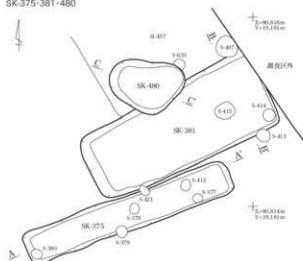
第90表 小鍋内II遺跡 SK-328出土遺物観察表

No.	種類 器種	許容径 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考
							内部	外面			
1	副製品	1径	—	NS/O 灰	白色細砂粒少量含む。	良好	破片	—	—	ロクロに張り、 扉部で、4支 の櫛歯状工具 による波状文。	埋土
	遺物	底径	—	—	—	—	底部	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—
	断面	(2.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

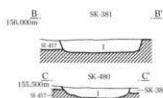


第208図 小鍋内II遺跡 中世以降土坑実測図(9)

SK-375-381-480



- SK-375
- 1 黒褐色土 ローム・IP・SP小〜中ブロック3, 雑沓, 自然。
 - 2 暗褐色土 ローム中〜大ブロック5, IP・中ブロック3, SP・小ブロック2, 自然。
 - 3 黒褐色土 ローム小ブロック1, IP・SP・粘土, 自然。
 - 4 黒色土 ローム粘土, 自然。
 - 5 暗褐色土 瓦入物のない貫つ筋でなつた, 雑沓な土。溝の直下層によくみられる上, 自然。



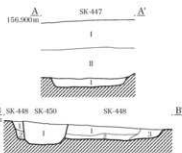
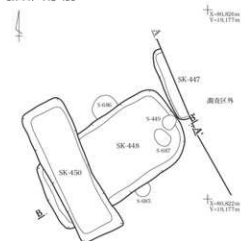
- SK-381
- 1 黒褐色土 ローム粘〜中ブロック5, 大ブロック2, IP・SP小ブロック2, 埋め戻し。
- SK-480
- 1 暗褐色土 黒色土中にロームブロック多量, 埋め戻し。

SK-390



- 1 黒褐色土 ローム・IP・SP・粘土少量。
- 2 暗褐色土 ロームブロックローム・IP・SP粘多量。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多量。

SK-447-448-450

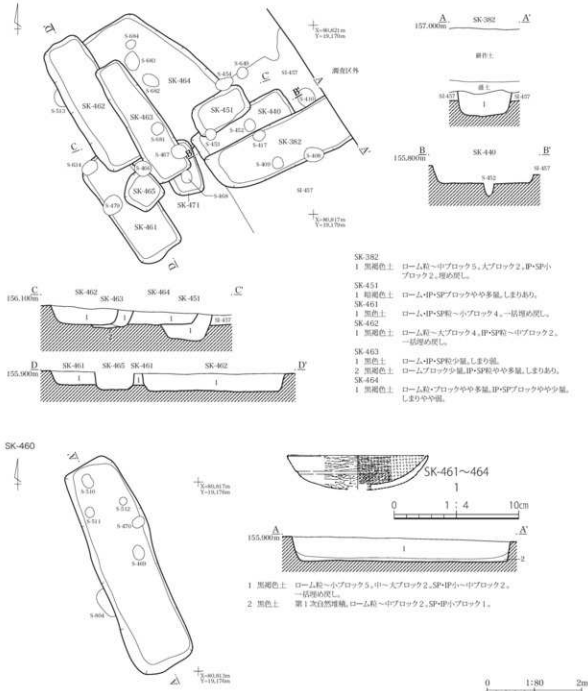


- SK-447
- 1 黄粘土
 - 2 黒色土 ローム・IP・SP・灰化粘土を含む, しまりあがり。
 - 3 黒褐色土 ローム・IP・SP粘少量, しまりや平あがり。
- SK-448
- 1 暗褐色土 ローム・IP粘小ブロック4, SP・小ブロック2。
 - 2 黒色土 ローム粘〜中ブロック3, IP・SP小ブロック2。
 - 3 黒褐色土 ローム粘〜中ブロック5, SP・IP小ブロック3, 埋め戻し。
- SK-450
- 1 暗褐色土 ローム粘〜中ブロック5, IP小ブロック2, SP・小ブロック2, 埋め戻し。

0 1:80 2m

第210図 小鍋内II遺跡 中世以降土坑実測図(11)

SK-382-440-451-461-462-463-464-465-471

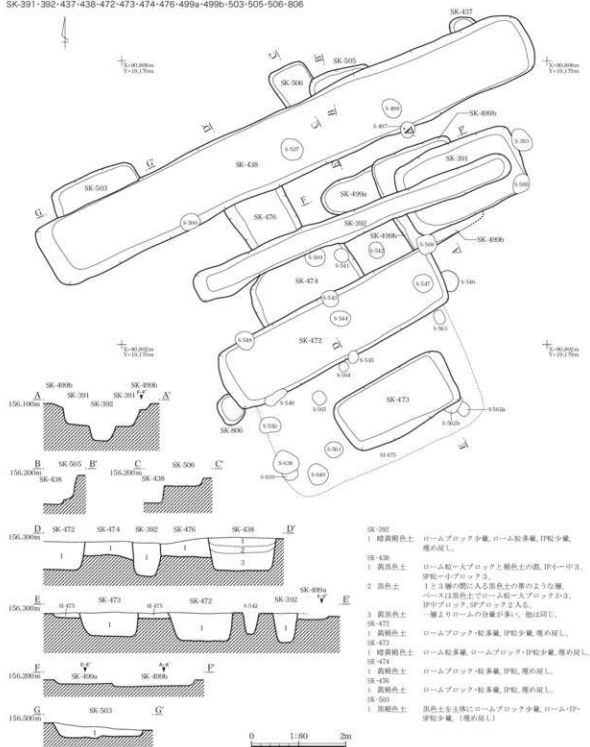


第211図 小銅内II遺跡 中世以降土坑実測図(12)及びSK-461～SK-464出土物実測図

第91表 小銅内II遺跡 SK-461～464出土遺物観察表

464	種類 容積	許容積 (m)	色調	胎土	焼成	残存率	柱状		特徴	出土位置	備考	
							内部	外面				
I	土師器 弁	1群 (15.0)	109K/3	褐色、細砂粒少量 含む。	良好	口縁部～底 部1/4	口縁部	縦ヘラミガキ	縦ヘラミガキ	緩平的。扁平 で、口縁部近く、 内面黒色処理。	埋土	
		底群 (3.6)					底群	縦ヘラミガキ	縦ヘラミガキ			
							底群	一定方向ヘラミガキ	縦ヘラケズリ			

SK-391・392・437・438・472・473・474・476・499a・499b・503・505・506・806

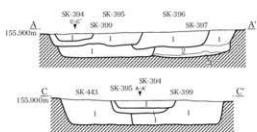
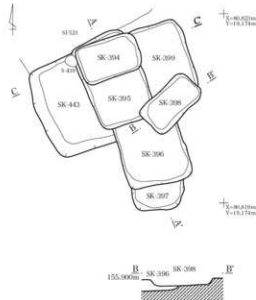


第212図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑実測図 (13)



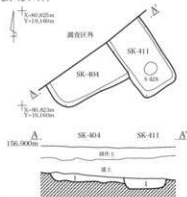
第213図 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-391・SK-472 出土遺物実測図

SK-394-395-396-397-398-399-443



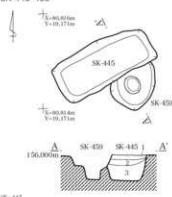
- SK-394
1 黄褐色土 ローム中ブロック多, IP小ブロック2, SP靴1, 堀の戻し.
SK-395
1 黄褐色土 ローム中ブロック多, 大ブロック3, IP中ブロック2, SP靴小ブロック1, 堀の戻し.
SK-396
1 黄褐色土 ローム中ブロック多, IP中ブロック2, SP小ブロック2, 堀の戻し.
SK-397
1 黒褐色土 ローム中ブロック多, 中一夫3, IP中ブロック2, SP靴小ブロック2, 白かみ.
2 黒褐色土 ロームブロック中一夫5, 靴小ブロック多, IP小ブロック中ブロック2, 白かみ.
3 黄褐色土 くだれたロームブロック中一夫ブロックと雑土の混, 自然.
SK-399
1 黒土 ローム中ブロック5, IP中ブロック2, IP靴1, 扉壁, 堀の戻し.
SK-443
1 暗褐色土 ロームブロック多量, ローム・IP・SP靴多量, しまりあり.

SK-404-411



- SK-404
1 黒土 すごくかたくなりまるきついろんの黒土ベース, ローム中ブロック4, IP中ブロック3, SP中ブロック2.
SK-411
1 黒土 すごくかたくなりまるきついろんの黒土ベース, ローム靴2, IP・SP小ブロック2.

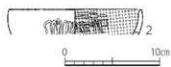
SK-445-459



- SK-445
1 黒土 ローム・IP靴小ブロック3.
2 黄褐色土 ローム靴大ブロックごく多, IP・SP靴小ブロック多.
3 黄褐色土 ローム靴大ブロック多, IP中ブロック2, SP小ブロック2, 黒土とローム等のブロック多量, しまりあり, 斜め上から入るので自然.

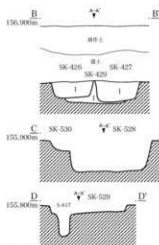
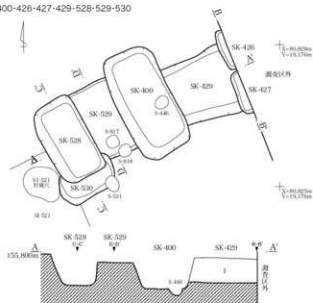
0 1:80 2m

第214図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑実測図 (14)



第215図 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-395 出土遺物実測図

SK-400-426-427-429-528-529-530

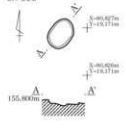


SK-426
1 黒色土 ローム・IP・SP小へブロックや砂多量、埋め戻し。
SK-427
1 黒色土 ローム・IP・SP小ブロック含む、埋め戻し。
SK-429
1 黒色土 ローム小へ大ブロック多量、IP・SP小ブロック少量。

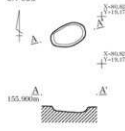
SK-533



SK-536



SK-538

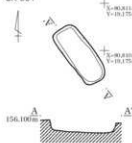


SK-540

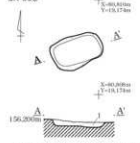


SK-540
1 黒褐色土 黒色土粒多量、ローム・IP・SP程少量、しまりあり。

SK-551

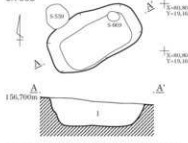


SK-552



1 黒褐色土 黒色土粒多量、ローム・IP・SP粒多量、しまりあり。

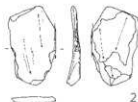
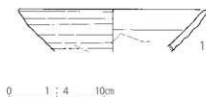
SK-558



1 黒褐色土 黒色土を主体にロームブロック・粒多量、IP・SP粒少量、埋め戻し。

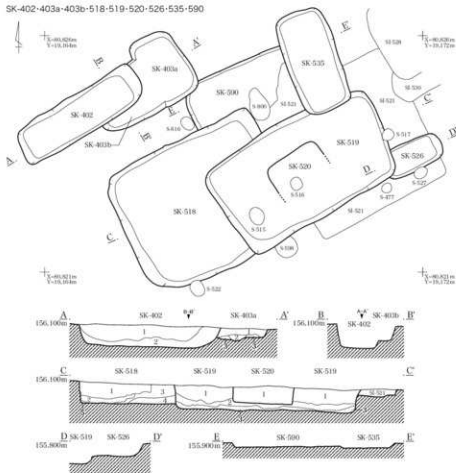
0 1:80 2m

第216図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑実測図(15)



第217図 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-400 出土遺物実測図

SK-402-403a-403b-518-519-520-526-535-590



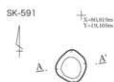
SK-402
1 黒褐色土 ローム粒～大ブロック多量, IP・SP小～中ブロックやや少量。
2 黒色土 ローム粒～中ブロック多量, IP・SP小～中ブロック少量。

SK-403a
1 黒色土 ローム・IP・SP粒～中ブロックやや多量, 一括。
2 黒灰色土 ローム・SP・IP粒やや少量。
3 褐色土 ロームと黒色土の混合。

SK-518
1 黒褐色土 ローム粒小ブロック多量, 中～大ブロックやや多量, IP・SP小ブロックやや少量, 裏側からの堆積。
2 黒色土 ローム粒～大ブロック含む, IP・SP粒少量, 裏側からの堆積。
3 黒褐色土 ローム粒～大ブロック多量, IP・SP小ブロック少量, 裏側からの堆積。
4 黒褐色土 ローム粒～大ブロックやや多量, SP・IP小ブロック少量, 裏側からの堆積。
5 黄色土 瓦溝部にすれたロームに黒色土粒を含む。

SK-519
1 黒褐色土 ローム粒～小ブロックやや多量, 中ブロック含む, IP・SP小ブロックやや少量。
2 黒褐色土 ローム粒やや多量, 小～中ブロックやや少量, 大ブロック少量, IP・SP粒少量。
3 黒色土 自然堆積時間のかかった上の上まった堆積土ローム粒～大ブロックやや少量, IP・SP小ブロック少量。

SK-520
1 黒褐色土 ローム粒粒やや多量, 粒～小ブロック含む, IP・SP粒やや少量, 一括処理の所。



1 黒褐色土 黒色土粒多量, ローム・IP・SP粒少量, しまり肌。

0 1:80 2m

第218図 小綱内Ⅱ遺跡 中世以降土坑実測図 (16)

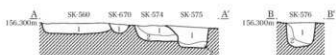
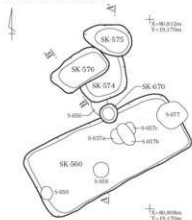


第219図 小綱内Ⅱ遺跡 SK-402 出土遺物実測図

第92表 小綱内Ⅱ遺跡 SK-402出土遺物観察表

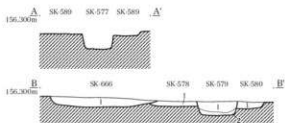
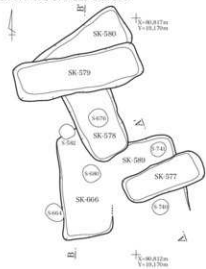
部	種類	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	形状		特徴	出土位置	備考
							内面	外面			
土器類	土器	38.6	5YR5/4	白色細砂粒多量, 黄色細砂粒少量含む。	良好	口縁部破片	口縁部	轡子字	轡子字, 断面に深。	埋土	
	内土	—	—	—	—	—	体部	轡子字	—	—	
	土層	15.6	—	—	—	—	底面	—	—	—	

SK-560-574-575-576-670



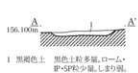
- SK-560
 1 黄褐色土 ローム粒～中ブロック多量,IP粒～中ブロック含む,SP粒～中ブロックやや多量。
 2 黒色土 ローム粒～大ブロックやや多量,IP粒～中ブロックやや多量,SP粒～小ブロックやや多量。
- SK-574
 1 黒褐色土 ローム小～中ブロック含む,IP・SP小～中ブロックやや多量,SP中ブロックやや多量。
 2 暗黒褐色土 ローム小～中ブロックやや多量,SP小～中ブロック含む,SP中～中ブロックやや多量。
- SK-575
 1 黒褐色土 ローム粒～中ブロック多量,大ブロックやや多量,IP中ブロックやや多量,SP中ブロックやや多量。
 2 黒色土 ローム粒～中ブロックやや多量,IP・SP小ブロック少量。
- SK-576
 1 黒色土 ローム大ブロックを含む,IP・SPブロック少量,しまりや中塊。
 2 暗褐色土 ローム大ブロックやや多量,IP・SPブロック少量,しまりあり。
- SK-670
 1 黒褐色土 ローム・IP・SPブロックを含む,しまりあり。

SK-577-578-579-580-589-666



- SK-578
 1 黄褐色土 ローム、IP・SPブロック少量,ローム、IP・SP粒多量,しまりあり。
- SK-579
 1 暗黄褐色土 ローム粒～小ブロックとSP小ブロック,IP粒やや多量。
 2 褐色土 ローム小ブロックやや多量,SP粒やや多量,IP粒少量。
- SK-580
 1 暗褐色土 ローム、IP・SP粒少量。
- SK-666
 1 黄褐色土 ローム、IP・SP粒～小ブロック少量。

SK-571



- I 黄褐色土 褐色土多量,ローム、IP・SP粒少量,しまりあり。

SK-599



0 180 2m

第222図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑実測図(18)



SK-589他
1



SK-666周辺
1

0 10cm

第223図 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-589他・SK-666周辺出土遺物実測図

第93表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-391出土遺物観察表

No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師器 坪	口径 (13.4)	—	10YR7/3 に赤い青泥	黒砂粒・白色細砂 粒・透明細砂粒少 量。	良好	口縁部～体 部1/8 底部	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	口縁部内底。	埋土
		体部						放射状へらミガキ	横へらケズリ			
		底部						—	—			

第94表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-472出土遺物観察表

No.	区分	種類	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
1	副製品	銅鏡	2.38	0.14	2.33	定存	埋土	銅元湯鍔

第95表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-395出土遺物観察表

No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師器 甕	口径 (15.0)	—	5YR5/4 に赤い青泥	黒粒・赤色粒・白色 細砂粒・磁粒少量含 む。	良好	口縁部～底 部1/3	口縁部	横ナデ	横ナデ	横ナデ。口 縁部部むすぶ に内底。	埋土
		体部						ベタナデ。不定方向へらミガキ	横へらミガキ			
		底部						不定方向へらミガキ	不定方向へらケズリ			
2	土師器 甕	口径 (14.2)	—	2.5YR7/4 に赤い青泥	織布。	良好	口縁部1/5	口縁部	横いミガキ	横ナデ。	内面着色処理。	埋土
		体部						横いミガキ	横いミガキ			
		底部						—	—			

第96-1表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-400出土遺物観察表 (1)

No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	陶器 甕	口径 (20.0)	—	5Y7/3 浅黄	黒かへら泡有り。 織布。	良好	口縁部1/10	口縁部	—	—	瀬戸瓦輪平輪	埋土
		体部						口ウロナデ	口ウロナデ			
		底部						—	—			

第96-2表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-400出土遺物観察表 (2)

No.	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
2	石製品	砥石	7.90	5.01	1.21	51.88	3/4	埋土	砂目質。表面面に砥面。

第97表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-456出土遺物観察表

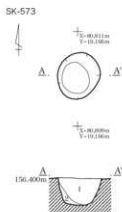
No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師器 甕	口径 (14.0)	—	7.5YR6/6 黄	白色細砂粒少量含 む。	良好 硬質	口縁部1/8。 体部～底部 1/3	口縁部	横へらミガキ	横ナデ	底部平直。口 縁部内底。 内面着色処理。	埋土
		体部						放射状へらミガキ	横へらミガキ			
		底部						—	ヘラナデ。不定方向へらミガキ			

第98表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-589出土遺物観察表

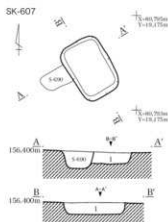
No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	副産物 坪	口径 —	—	7.5Y4/1 灰	黒粒少量含む。	良好 硬質	底部1/3	口縁部	—	—	内面に陥凹。	埋土
		体部						—	—			
		底部						口ウロナデ	回転車切り			

第99表 小鍋内Ⅱ遺跡 SK-666出土遺物観察表

No.	種類 図種	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	副産物 甕	口径 —	—	5Y5/1 灰	織布。白色細砂粒 少量含む。	小・中 粒軟式 破片	胴部下半小 破片	口縁部	—	—	埋土	
		体部						同心円当直	平行タナキ			
		底部						—	—			

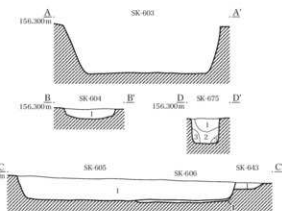
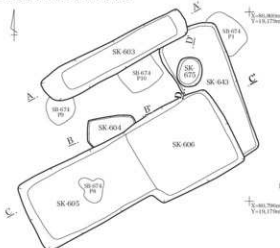


- 1 黒褐色土 ローム粒少量、ローム・IP・SPブロック少量、しりりあり。
- 2 黄褐色土 ロームブロック・粒多量、黒色土粒少量、しりりあり。



- 1 黒褐色土 黒色土を主体にロームブロック少量、ローム粒多量、IP粒少量。

SK-603-604-605-606-643-675



- SK-604
1 黒褐色土 ローム・ブロック・粒多量、IP粒少量。
SK-605
1 淡黄褐色土 ローム・ブロック・粒を主体に黒色土粒、IP・SP粒少量。
SK-606
1 黒褐色土 ローム・IP・SP粒多量、しりりあり。

- SK-643
1 黒褐色土 ローム粒多量、IP・SP粒少量。
SK-675
1 淡黄褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒・黒色土ブロック少量。
2 黄褐色土 黒色土多量。
3 黄褐色土 ローム・ブロック・OS多量。

第224図 小鍋内II遺跡 中世以降土坑実測図(19)

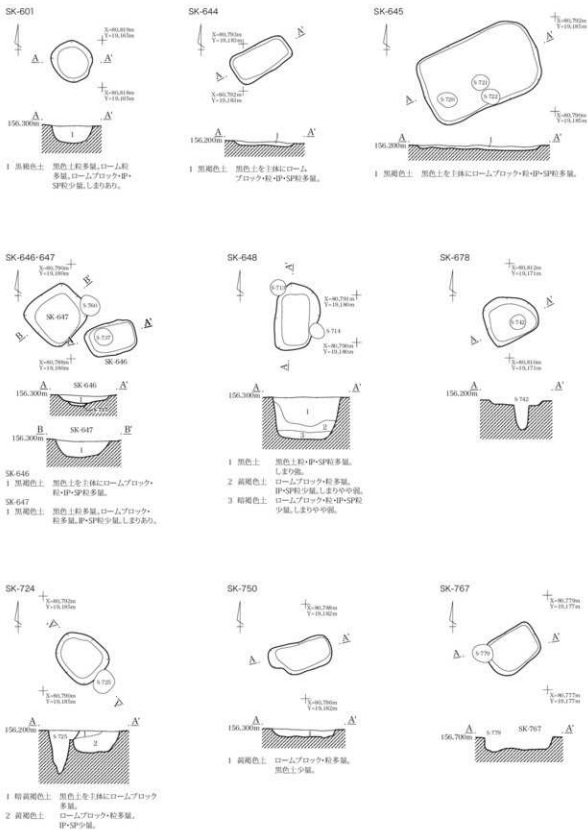


第225図 小鍋内II遺跡 SK-605 出土遺物実測図



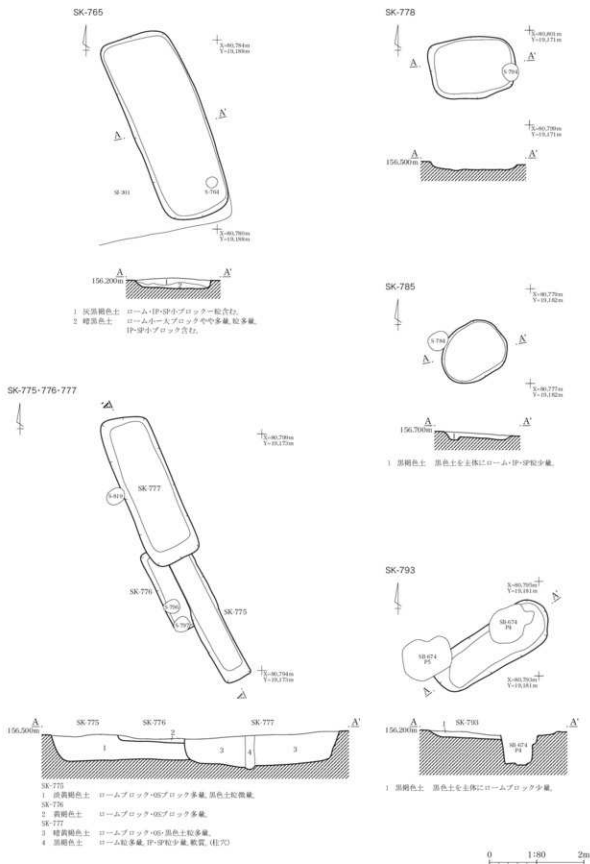
第100表 小鍋内II遺跡 SK-605出土遺物観察表

編年	層位	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	形状		特徴	出土位置	備考	
							内部	外面				
							1	上面土層				1径 底径 高さ



第226図 小鍋内II遺跡 中世以降土実測図(20)

0 1:80 2m



第227図 小銅内II遺跡 中世以降土坑実測図(21)

第101-1表 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴等
					長軸	短軸	深さ			
1	SK-009	Ⅱ北	S-25	(隅丸方)	2.50	1.13	0.72	—	土層片2あり	南側調査区外へのびる。
2	SK-010	Ⅱ北	R-25	隅丸長方	3.70	0.72	0.13	N48°E		SK-004より新しい。
3	SK-011	Ⅱ北	R-25	隅丸長方	2.03	0.66	0.36	—		SK-006より新しい。
4	SK-012	Ⅱ北	S-25	隅丸長方	1.86	1.08	0.76	—		SK-013より旧。
5	SK-013	Ⅱ北	S-25	隅丸長方	1.92	1.06	0.73	—		北・西・南壁オーバーハンダして底部の方が広い。 SK-008-SK-012より新しい。
6	SK-015	Ⅱ北	R-25	隅丸長方	2.13	0.65	0.18	N42°E		SK-004より新しい。
7	SK-016	Ⅱ北	R-24	隅丸長方	3.17	1.05	0.23	N58°E	土層 (土層割分) 片少量あり	
8	SK-017	Ⅱ北	R-24	隅丸長方	1.26	1.00	0.16	N25°E	土層 (土層割分) 片少量あり	南東側がふくらんでいる。
9	SK-020	Ⅱ北	Q-24	楕円	1.14	0.42	0.20	N51°E		
10	SK-021	Ⅱ北	Q-24	隅丸長方	1.21	0.68	0.66	N40°W		
11	SK-023	Ⅱ北	P-23	楕円	1.80	0.94	0.62	N15°W		ゆるい壁に段がある。底部は南側によっている。
12	SK-026	Ⅱ北	P-23	楕円	1.98	1.78	1.20	N0°E		壁に段がある。底部の長軸は土層の長軸にはほぼ直交する。
13	SK-027	Ⅱ北	P-23	楕円	1.23	0.66	0.46	N85°E		
14	SK-028	Ⅱ北	P-23	楕円	0.62	0.46	0.18	N20°W	土層片少量あり	壁に段がある。
15	SK-029	Ⅱ北	Q-25	隅丸長方	1.72	0.96	0.13	N53°E		SK-042より新しい。
16	SK-030	Ⅱ北	Q-23	円	0.84	0.80	0.17	—		
17	SK-038	Ⅱ北	Q-25	円	1.36	1.15	0.82	—		SK-039+040より新しい。
18	SK-039	Ⅱ北	Q-25 (隅丸長方)	(1.08)	0.97	0.85	N34°W		底面の貫眼が若干球むり。最底の可能性あり。SK-038より旧。	
19	SK-040	Ⅱ北	Q-25	隅丸長方	(1.27)	0.62	0.23	N34°W	土層片あり	壁に段がある。SK-041より新しい。 SK-038より旧。
20	SK-041	Ⅱ北	Q-25 (隅丸長方)	(0.51)	0.55	0.10	N54°E			SK-040より旧。
21	SK-042	Ⅱ北	Q-25	隅丸長方	(1.30)	0.85	0.15	N54°E		北側を削平されている。SK-029より旧。
22	SK-051	Ⅱ西	R-26	隅丸長方	2.57	0.85	0.12	N35°W		
23	SK-056	Ⅱ西	R-27	隅丸長方	2.37	0.87	0.34	N19°W		SK-055より新しい。 S-101との切りあい不明
24	SK-057	Ⅱ西	R-27	隅丸長方	3.19	0.84	0.40	N25°W		SK-055より新しい。
25	SK-058	Ⅱ西	R-26	楕円	0.75	0.61	0.28	N55°W		
26	SK-059	Ⅱ西	R-26	円	1.06	(0.81)	0.56	—		SK-060より新しい。
27	SK-060	Ⅱ西	R-26	円	0.82	(0.61)	(0.54)	—		SK-059より旧。
28	SK-063	Ⅱ西	R-26	円	1.01	(0.42)	0.25	—	遺物未測。土層1あり	壁に段あり。SD-054より旧。
29	SK-069	Ⅱ西	R-26	隅丸長方	(1.10)	0.72	0.15	N78°W	遺物未測。土層1あり	北東側は調査区外へのびている。SK-070より新しい。

第101-2表 小鍋内II遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区 (グラブ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴等
					長軸	短軸	深さ			
30	SK-070	II西	R-26	隅丸長方	1.46	0.93	0.84	N20°E		SK-069より目。
31	SK-072	II西	Q-27	隅丸長方	0.94	0.55	0.98	N10°W		
32	SK-077	II西	R-26	楕円	1.02	0.58	0.40	N6°W		壁に段あり。
33	SK-078	II西	R-27	楕円	0.89	0.70	0.32	N78°W		壁に段あり。
34	SK-079	II西	R-26	隅丸方	0.79	0.89	0.22	—		北壁面直上より20.8cm深いピット状の掘り込みあり。 (セクション図になし)
35	SK-082	II西	R-27	楕円	0.66	0.54	0.62	N10°W		S-105より新しい。
36	SK-086	II西	Q-26	隅丸長方	1.29	0.64	0.80	N65°W		
37	SK-088	II西	R-26	円	0.63	0.53	0.15	—		中央部に直上より6.3cm深いピット状の掘り込みあり。 (セクション図になし)
38	SK-122	II西	Q-27	隅丸長方	0.90	0.68	0.34	N0°E		
39	SK-127	II西	Q-27	楕円	1.40	1.06	1.50	N0°E		
40	SK-132	II西	R-27	隅丸長方	1.42	0.66	0.14	N58°E		
41	SK-140	II西	R-27	楕円	0.94	0.80	0.07	N10°E		
42	SK-141	II西	R-27	隅丸長方	1.25	0.92	0.16	N48°E		SK-142より新しい。
43	SK-142	II西	R-27	隅丸長方	1.28	0.80	0.72	N90°E		SK-141より目。
44	SK-143	II西	R-27	隅丸長方	1.39	0.78	1.35	N5°W		S-055より目。(84回に注あり) S-144より目。
45	SK-145	II西	S-28	隅丸長方	1.08	0.55	0.14	N14°W		S-226との切り合い不明。
46	SK-157	II西	R-27	隅丸長方	0.92	0.51	0.37	N40°W		
47	SK-163	II西	R-27	隅丸長方	0.87	0.56	0.34	N17°E		
48	SK-169	II西	Q-26	円	0.75	0.66	0.41	—		
49	SK-173	II西	Q-27	円	1.00	0.90	0.07	—		
50	SK-174	II西	Q-27	円	0.31	0.30	0.15	—		セクション図のみ石1あり。
51	SK-175	II西	Q-27	隅丸長方	0.75	0.42	0.14	N75°E		
52	SK-177	II西	Q-27	楕円	0.68	0.56	0.22	N20°E		
53	SK-188	II西	R-28	隅丸長方	2.59	1.70	0.22	N56°E		S-245・246より目。
54	SK-197	II西	R-27	隅丸長方	2.25	1.93	1.60	N0°E	土器片少量。	壁面がオーバーハングする。
55	SK-198	II西	R-27	隅丸長方	1.48	0.95	1.45	N0°E		
56	SK-213	II西	R-28	楕円	0.73	0.60	0.24	N30°W		
57	SK-216	II西	Q-26	楕円	0.80	0.39	0.25	N14°W		
58	SK-217	II西	S-28	隅丸長方	1.07	0.85	0.30	N65°E		

第101-3表 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区 (グラブ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴等
					長軸	短軸	深さ			
59	SK-225	Ⅱ西	S-27	隅丸長方	2.09	1.44	0.25	N39°-W		SK-269より新しい。
60	SK-268	Ⅱ西	R-28	隅丸長方	0.92	0.55	0.60	N55°-E		
61	SK-280	Ⅱ西	R-27	隅丸長方	1.66	0.61	0.70	N45°-E		SK-225より目。
62	SK-278	Ⅱ西	R-27	(隅丸長方)	0.52	0.83	0.67	N78°-E		調査区外へのびている。SK-263より新しい。
63	SK-280	Ⅱ西	R-27	隅丸長方	1.41	0.88	0.38	N10°-W		SK-102より新しい。
64	SK-304	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.06	0.73	0.13	N27°-W		
65	SK-305	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.26	0.70	0.19	N75°-E		底部中央西寄り10cmほどのビット状腐り込みあり。
66	SK-306	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	2.00	0.67	0.26	N68°-E		SK-300との切り合い不明。
67	SK-317	Ⅱ東	V-26	円	0.78	0.78	0.15	—		北壁面に北面より深さ5cmほどのビットあり。 S-318との切り合い不明。
68	SK-319	Ⅱ東	V-26	隅丸方	0.92	0.92	0.33	—		
69	SK-320	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.48	0.90	1.18	N30°-W		
70	SK-321	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	0.96	0.82	0.44	N55°-E	(埋藏遺物 銅銭あり)	SK-322との切り合い不明。
71	SK-322	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	2.00	1.13	0.31	N62°-E		S-323より目。 SK-321との切り合い不明。
72	SK-327	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.40	1.07	0.15	N46°-W		S-344・S-343との切り合い不明。
73	SK-328	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.08	0.77	0.60	N20°-W	(埋藏遺物 銅銭1あり)	
74	SK-308	Ⅱ東	V-26	楕円	1.58	0.75	0.22	N62°-E		SK-300より新しい。
75	SK-349	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.35	0.50	0.10	N35°-W		S-348より新しい。
76	SK-332	Ⅱ東	V-26	円	1.50	1.47	0.33	—		SK-820・S-331より新しい。 S-616・S-617との切り合い不明。
77	SK-356	Ⅱ東	V-25	隅丸長方	1.26	0.71	0.37	N20°-W		SK-302との切り合い不明。
78	SK-358	Ⅱ東	V-25	隅丸長方	0.78	0.61	0.15	N67°-E		SK-303との切り合い不明。
79	SK-359	Ⅱ東	U-25	楕円	1.00	0.70	0.23	N80°-W		
80	SK-363	Ⅱ東	V-25	隅丸長方	0.27	0.73	0.83	N68°-E		調査区外へのびる。
81	SK-366	Ⅱ東	V-25	楕円	2.47	0.61	0.18	N55°-E		S-368より新しい。 S-367より目。
82	SK-370	Ⅱ東	V-25	隅丸長方	1.58	0.40	0.47	N36°-W		調査区外へのびる。S-425より目。
83	SK-371	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.00	1.69	0.54	N53°-E		SK-372より新しい。 S-430・S-431・S-444との切り合い不明。
84	SK-372	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.35	1.30	0.40	—		SK-371より目。
85	SK-374	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	4.65	1.63	0.74	N75°-E		SK-376・SK-424・S-422との切り合い不明。
86	SK-375	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	4.56	0.66	0.42	N70°-E		S-378より新しい。 S-377・S-379・S-412・S-421との切り合い不明。
87	SK-376	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.15	0.73	0.26	N65°-E		SK-374との切り合い不明。

第101-4表 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区(グラブ)	位置(グリッド)	平面形	大きさ(m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴等
					長軸	短軸	深さ			
88	SK-381	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	4.10	1.72	0.18	N63°E		SK-457より新しい。SK-480より旧。SK-407-S-413-S-414-S-415-S-421との切り合い不明。
89	SK-382	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2(2.88)	1.10	0.48	N62°E		調査区外へのびる。SK-457より新しい。SK-440-S-408-S-409-S-417との切り合い不明。
90	SK-383	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.12	1.15	0.33	N58°E		S-419-S-420との切り合い不明。
91	SK-385	Ⅱ東	V-25	隅丸長方	1.37	0.80	0.27	N33°W		SK-302-S-432との切り合い不明。
92	SK-386	Ⅱ東	V-25	隅丸方	0.86	0.79	0.31	—		
93	SK-390	Ⅱ東	V-26	円	0.78	(0.76)	0.45	—		調査区外へのびている。
94	SK-391	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.56	1.55	0.39	N66°E	陶製遺物 土師器(1あり)	SK-392-SK-498-S-393-S-509-S-568との切り合い不明。
95	SK-392	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	7.11	0.67	0.67	N68°E		SK-474-SK-476より新しい。
96	SK-394	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1.32	0.85	0.15	N74°E		SK-395-SK-399より新しい。SK-443-S-493との切り合い不明。
97	SK-395	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1.99	1.18	0.28	N18°W	陶製遺物 土師器(あり)	SK-396-SK-399より新しい。SK-394より旧。SK-398-SK-443との切り合い不明。
98	SK-396	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1(1.43)	1.34	0.33	N15°W		SK-397-SK-399より新しい。SK-395-SK-398より旧。SK-443との切り合い不明。
99	SK-397	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.05	0.53	0.55	—		SK-396より旧。
100	SK-398	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1.30	0.71	0.15	N44°E		SK-396より新しい。SK-395-SK-399との切り合い不明。
101	SK-399	Ⅱ東	U-24	隅丸方	1(1.47)	1(1.04)	0.49	—		SK-397より新しい。SK-394-SK-395-SK-396より旧。SK-398との切り合い不明。
102	SK-400	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	2.73	1.18	0.70	N27°W	陶製遺物 陶器(あり)	SK-429より新しい。SK-329-S-446との切り合い不明。
103	SK-402	Ⅱ東	V-24	隅丸長方	2.90	0.86	0.48	N55°E	陶製遺物 内耳土師土(あり)	SK-403aより新しい。SK-403bとの切り合い不明。
104	SK-403a	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1.55	0.93	0.19	N30°W		SK-402より旧。SK-403bとの切り合い不明。
105	SK-403b	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1(1.08)	1.25	0.20	N57°E		SK-402-SK-403aとの切り合い不明。
106	SK-404	Ⅱ東	U-24	隅丸方	1(1.59)	(0.89)	0.19	—		調査区外へのびる。SK-411より旧。
107	SK-411	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1(1.59)	0.86	0.23	N32°W		調査区外へのびる。SK-404より新しい。SK-428との切り合い不明。
108	SK-424	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1(1.31)	1.26	0.53	N34°W		SK-374との切り合い不明。
109	SK-426	Ⅱ東	U-24	隅丸方	0.90	(0.29)	0.31	—		調査区外へのびる。SK-429より新しい。
110	SK-427	Ⅱ東	U-24	隅丸方	0.97	(0.23)	0.42	—		調査区外へのびる。SK-429より新しい。
111	SK-429	Ⅱ東	U-24	長方	1(1.49)	1.39	0.49	N67°E		調査区外へのびる。SK-400-SK-426-SK-427より旧。
112	SK-437	Ⅱ東	U-25	円	0.55	(0.29)	0.18	—		SK-438より旧。
113	SK-438	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	11.15	1.45	0.70	N65°E		SK-437より新しい。SK-503-SK-505-SK-506-S-497-S-498-S-500-S-507との切り合い不明。
114	SK-440	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.18	(0.63)	0.16	N58°E		SK-457-SK-451-SK-464-S-452-S-453との切り合い不明。
115	SK-443	Ⅱ東	U-24	隅丸方	2.05	1(1.29)	0.53	—		SK-394-SK-395-SK-396-S-439との切り合い不明。
116	SK-445	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.15	0.96	0.62	N61°E		SK-459との切り合い不明。

第101-5表 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑一覧表

No	遺構番号	調査区 (グリッド)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴等
					長軸	短軸	深さ			
117	SK-447	Ⅱ東	U-24	隅丸方	1.60	0.28	0.19	—		調査区外へのびる。
118	SK-448	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	3.23	1.69	0.30	N58°E		SK-450より且、 S-449・S-688・S-687・S-683との切り合い不明。
119	SK-450	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	3.05	0.97	0.45	N25°E		SK-448より新しい。
120	SK-451	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.25	0.69	0.29	N58°E		SK-457より新、SK-464より且、 SK-440・S-453・S-454との切り合い不明。
121	SK-455	Ⅱ東	V-20	隅丸長方	4.45	0.93	0.28	N30°W		SK-456より且、 SK-404・S-508との切り合い不明。
122	SK-456	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	6.79	2.60	0.43	N28°W	陶磁遺物 土師器あり	SK-455より新しい。 SK-420・SK-495・SK-496・S-482・S-483・S-484・S-485・S-486・S-488・S-490・S-493・S-507との切り合い不明。
123	SK-459	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.08	0.87	0.48	N27°E		SK-445との切り合い不明。
124	SK-460	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	4.66	1.29	0.55	N22°W		S-469・S-470・S-510・S-511・S-512・S-804との切り合い不明。
125	SK-461	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.59	1.03	0.33	N32°W	陶磁遺物 土師器あり	SK-462より且、 SK-465・S-466・S-479・S-634との切り合い不明。
126	SK-462	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	3.00	1.00	0.38	N29°W		SK-461・SK-463・SK-464より新しい。 S-543との切り合い不明。
127	SK-463	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	2.79	0.76	0.36	N32°W		SK-464より新しい。SK-462より且、 SK-465・SK-471・S-466・S-467・S-681との切り合い不明。
128	SK-464	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	3.17	1.49	0.28	N36°W		SK-473より新しい。 SK-462・SK-463より且、 SK-467・SK-410・SK-471・S-434・S-467・S-681・S-682・S-683・S-684との切り合い不明。
129	SK-465	Ⅱ東	U-25	隅丸方	0.77	0.75	0.13	—		SK-461・S-466との切り合い不明。
130	SK-471	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.19	0.68	0.23	N16°W		SK-463・SK-464・S-467・S-468との切り合い不明。
131	SK-472	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	5.13	1.39	0.56	N62°E	陶磁遺物 土師器・銅瓦あり	SK-475・SK-474より新しい。 S-543・S-544・S-545・S-546・S-547・S-548・S-549・S-568・S-806との切り合い不明。
132	SK-473	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.57	1.33	0.51	N62°E		SK-475より新しい。 S-562との切り合い不明。
133	SK-474	Ⅱ東	U-25	隅丸方	2.37	0.98	0.30	—		SK-392・SK-472より且、 S-509・S-541・S-543との切り合い不明。
134	SK-476	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.25	1.02	0.40	—		SK-438・SK-392より且。
135	SK-480	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.48	1.16	0.27	N70°W		SK-437・SK-381より新しい。 S-633との切り合い不明。
136	SK-494	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	2.43	0.98	0.28	N30°W		S-508より且、 SK-455との切り合い不明。
137	SK-495	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	0.88	1.50	0.28	N35°W		SK-456・SK-496・S-805との切り合い不明。
138	SK-496	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.83	1.29	0.18	N54°W		SK-456・SK-495・S-628・S-629・S-630との切り合い不明。
139	SK-499a	Ⅱ東	U-25	楕円	1.20	0.68	0.15	N72°E		SK-392・SK-499bとの切り合い不明。
140	SK-499b	Ⅱ東	U-25	隅丸方	2.07	1.79	0.21	—		SK-391・SK-392・SK-472・SK-499a・S-568との切り合い不明。
141	SK-503	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.92	0.79	0.28	—		SK-438との切り合い不明。
142	SK-505	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.30	0.30	0.48	—		SK-438・SK-506との切り合い不明。
143	SK-506	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	0.85	0.85	0.18	N30°W		SK-438・SK-505との切り合い不明。
144	SK-518	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	3.45	2.92	0.41	N62°E		SK-519より且、 SK-500・S-522との切り合い不明。
145	SK-519	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	3.83	2.06	0.50	N60°E		SK-521・SK-518より新しい。 SK-520より且、 SK-529・SK-530・SK-590・S-519・S-516・S-517との切り合い不明。

第101-6表 小鍋内II遺跡 中世以降土坑一覧表

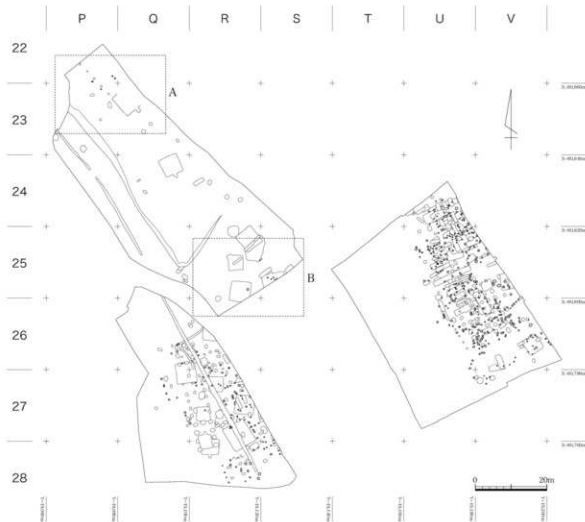
坑 番号	遺構 番号	調査区 (グラフ)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴等
				長軸	短軸	深さ			
146	SK-520	Ⅱ東	U-24	隅丸方	1.23	0.45	0.38	—	SK-519より新しい。S-516との切り合い不明。
147	SK-526	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1.33	0.63	0.26	N63°E	SK-521・SK-519・S-527との切り合い不明。
148	SK-528	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1.78	1.00	0.60	N-27°W	SK-521・SK-529・SK-530との切り合い不明。
149	SK-529	Ⅱ東	U-24	方	1.65	0.75	0.13	—	SK-400・SK-528・SK-530・S-817・S-818との切り合い不明。
150	SK-530	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	1.26	0.80	0.21	N-57°E	SK-521・SK-528・SK-532・S-531との切り合い不明。
151	SK-532	Ⅱ東	U-24	円	0.72	0.64	0.22	—	副坑遺物 土器類あり 断面中央にビット部の盛り込みあり。 SK-521・SK-530との切り合い不明。
152	SK-533	Ⅱ東	U-24	円	0.53	0.42	0.41	—	
153	SK-535	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	2.23	1.10	0.11	N-19°W	SK-521・SK-519との切り合い不明。
154	SK-536	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	0.65	0.47	0.10	N-36°E	
155	SK-538	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	0.75	0.49	0.11	N-76°E	
156	SK-540	Ⅱ東	U-24	円	0.89	0.80	0.16	—	表壁際に底面より15cm近いビット状の盛り込みあり。
157	SK-551	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.33	0.59	0.28	N-33°W	
158	SK-552	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.10	0.72	0.13	N-72°E	
159	SK-553	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.00	1.11	0.17	N-63°E	SK-554との切り合い不明。
160	SK-554	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.30	1.05	0.33	N-64°E	SK-555より旧。SK-554との切り合い不明。
161	SK-555	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	3.00	0.83	0.24	N-58°E	SK-554より新しい。 SK-556・S-667・S-668・S-745との切り合い不明。
162	SK-556	Ⅱ東	U-25	隅丸方	0.58	0.43	0.12	—	SK-555との切り合い不明。
163	SK-558	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.00	1.05	0.43	N-65°E	S-559・S-660との切り合い不明。
164	SK-560	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	3.32	1.47	0.23	N-65°E	S-657aより新しい。 SK-670より旧。 S-657・S-658・S-659・S-677との切り合い不明。
165	SK-571	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.38	1.02	0.12	N-26°W	
166	SK-573	Ⅱ東	U-25	楕円	1.00	0.87	0.57	N-23°E	
167	SK-574	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.00	0.96	0.23	—	SK-575より旧。 SK-576との切り合い不明。
168	SK-575	Ⅱ東	U-25	楕円	1.05	0.68	0.45	N-75°W	SK-574より新しい。 SK-576との切り合い不明。
169	SK-576	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.20	0.60	0.50	N-56°E	SK-574・SK-575との切り合い不明。
170	SK-577	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.73	0.71	0.37	N-66°E	SK-589との切り合い不明。
171	SK-578	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.60	0.99	0.16	N-25°W	SK-579・SK-666より旧。 SK-589・S-676との切り合い不明。
172	SK-579	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	2.67	0.85	0.27	N-81°E	SK-578・SK-580より新しい。
173	SK-580	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	1.96	0.98	0.13	N-54°E	SK-579より旧。
174	SK-580	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.70	1.60	0.11	—	副坑遺物 瓦器類あり SK-666より新しい。 SK-577・SK-578・S-680・S-740・S-741との切り合い不明。

第101-7表 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降土坑一覧表

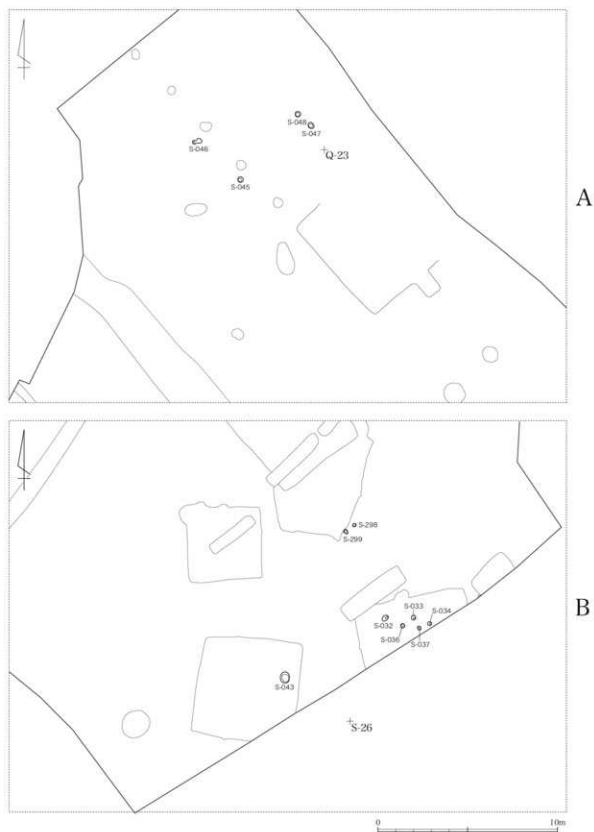
No	遺構番号	調査区 (グラブ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴等
					長軸	短軸	深さ			
175	SK-590	Ⅱ東	U-24	隅丸方	0.27	1.30	0.12	—		SK-403a+SK-518-SK-519-SK-535+SK-500との切り合い不明。
176	SK-591	Ⅱ東	U-25	隅丸方	0.63	0.61	0.40	—		
177	SK-599	Ⅱ東	U-24	隅丸長方	2.27	0.68	0.10	N50°W		
178	SK-601	Ⅱ東	U-25	円	0.88	0.87	0.37	—		
179	SK-603	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	3.30	0.69	1.00	S62°E		SK-674a+b+SK-643との切り合い不明。
180	SK-604	Ⅱ東	U-26	隅丸方	1.00	0.57	0.13	—		SK-605+SK-606との切り合い不明。
181	SK-605	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	4.60	1.50	0.47	N65°E	陶磁遺物 かわらけあり	SK-606より新しい、SK-604との切り合い不明。
182	SK-606	Ⅱ東	U-26	隅丸方	2.06	1.89	0.48	—		SK-605より且、SK-643+SK-604との切り合い不明。
183	SK-607	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	1.30	0.87	0.25	N29°W		S-600との切り合い不明。
184	SK-636	Ⅱ東	U-25	円	0.78	0.64	0.58	—		
185	SK-643	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	2.99	1.18	0.14	N21°W		SK-605より且、SK-603+SK-606+SK-675との切り合い不明。
186	SK-644	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.29	0.65	0.11	N60°E		
187	SK-645	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	2.57	1.55	0.10	N65°E		S-720+S-721+S-722との切り合い不明。
188	SK-646	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.05	0.70	0.18	N74°E		S-737より新しい。
189	SK-647	Ⅱ東	U-26	隅丸方	1.15	1.13	0.35	—		S-760との切り合い不明。
190	SK-648	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	1.43	0.95	0.89	N3°E		S-713+S-714との切り合い不明。
191	SK-666	Ⅱ東	U-25	隅丸長方	0.18	1.05	0.38	N5°W	陶磁遺物 須恵器あり	SK-578より新しい、SK-580より且、S-604+S-582+S-680との切り合い不明。
192	SK-670	Ⅱ東	U-25	円	0.41	0.39	0.20	—		SK-560より新しい、S-656との切り合い不明。
193	SK-675	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	0.63	0.53	0.53	N43°E		SK-643との切り合い不明。
194	SK-678	Ⅱ東	U-25	隅丸方	1.11	1.00	0.11	—		S-742との切り合い不明。
195	SK-724	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.10	0.93	0.46	N55°W		S-725より且。
196	SK-750	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	1.35	0.67	0.15	N75°E		
197	SK-765	Ⅱ東	V-26	隅丸長方	4.15	1.59	0.24	N20°W		SK-301+S-764との切り合い不明。
198	SK-767	Ⅱ東	V-27	隅丸長方	1.15	0.81	0.28	N52°E		S-779との切り合い不明。
199	SK-775	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	0.28	0.60	0.55	N27°W		SK-776+SK-777より且。
200	SK-776	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	1.85	0.50	0.09	N27°W		SK-775より新しい、SK-777より且、S-790+S-791との切り合い不明。
201	SK-777	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	3.21	1.06	0.64	N21°W		SK-775+SK-776より新しい、S-819との切り合い不明。
202	SK-778	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	1.80	1.30	0.19	N84°E		S-794との切り合い不明。
203	SK-785	Ⅱ東	V-27	楕円	1.43	1.18	0.18	N55°E		S-784との切り合い不明。
204	SK-793	Ⅱ東	U-26	隅丸長方	2.70	0.92	0.14	N58°E		SK-674a+bより且。
205	SK-806	Ⅱ東	U-25	隅丸方	0.64	0.43	0.28	—		SK-472との切り合い不明。

3. ビット (第228～237図、第102～106表、図版四一・五二)

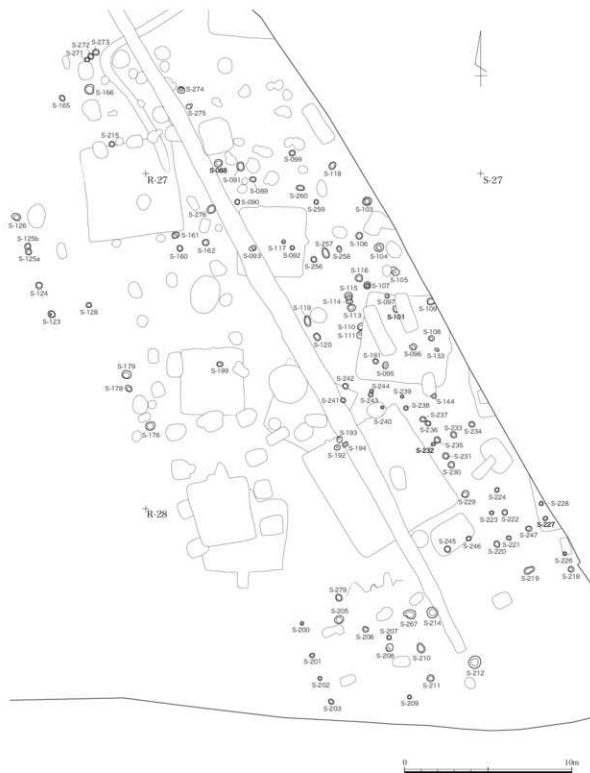
小網内II遺跡の調査区では、ビット452基の分布が確認された(第228～231図)。北区では12基、西区105基、東区では335基が存在する。年代の指標となる遺物の出土は少なく、近現代のビットも含まれると考えられるが、東区では土坑群との重複が顕著で、中世まで遡るものも含まれると思われる。また、埋土に柱の痕跡を残すビットも確認されたため、これらについては、第232～236図にまとめて図示した。用途は明確にはできないが、中世の墓域と考えられる東区の土坑群と重複するものについては、例えば木製塔婆等の柱穴の可能性なども検討すべきかも知れない。S-610からは古代の土師器甕1点(第234図S-610-1)、S-617からは砂岩製の砥石1点(第234図S-617-1)、S-563からは銅銭「□□元寶」1枚(第234図S-563-1)、S-819でも銅銭「熙寧元寶」1枚(第237図S-819-1)が出土した。なお、第106表にはビットの大きさ、形状、所見等をまとめた。



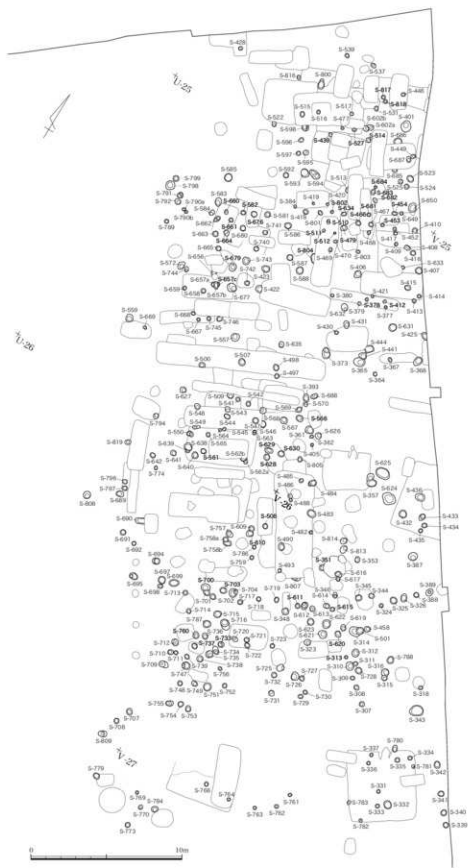
第228図 小網内II遺跡 中世以降ビット分布全体図



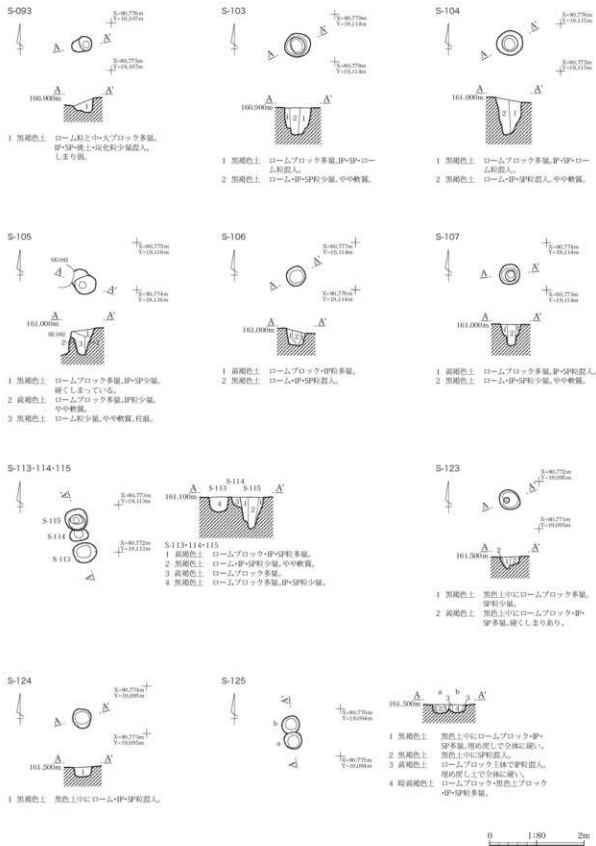
第229図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降ビット分布図（北区）



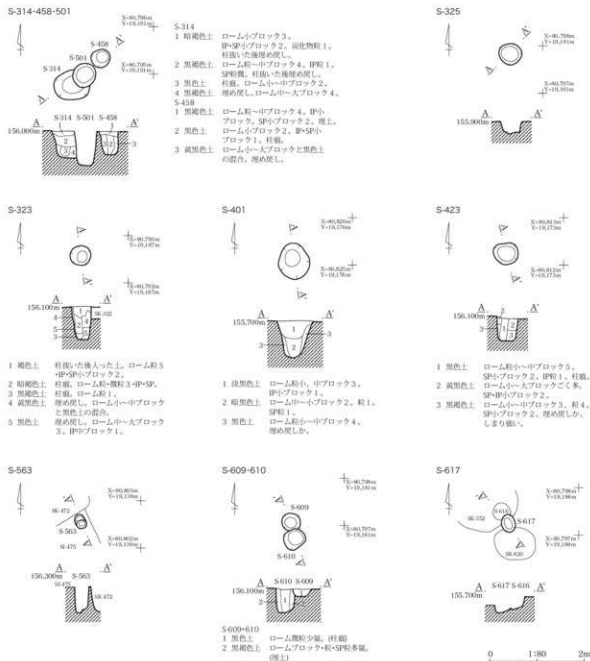
第230図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降ビット分布図(西区)



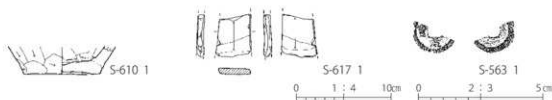
第231図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降ビット分布図(東区)



第232図 小鍋内II遺跡 中世以降ピット実測図(1)



第233図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降ピット実測図(2)



第234図 小鍋内Ⅱ遺跡 S-563・S-610・S-617 出土遺物実測図

第102表 小鍋内Ⅱ遺跡 S-610出土遺物観察表

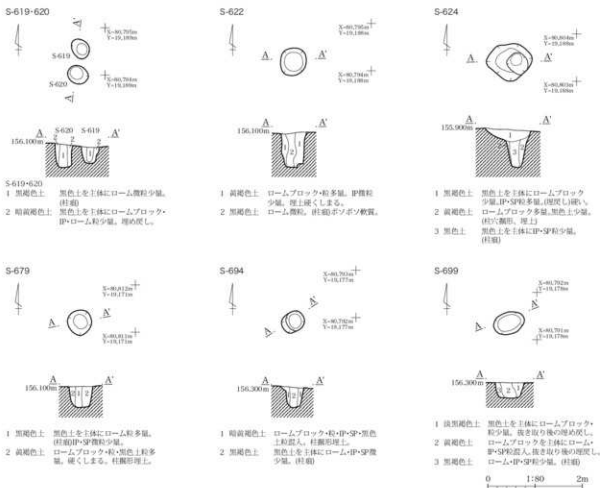
品名	種類	計測値 (cm)	色調	胎土	構成	残存率	技法		特徴	出土位置	備考	
							口縁部	外面				
土器類	土師器	口径	—	10YR7/4 に濃い黄褐色を含む。	細砂粒・雲母多量含む。	良好	底面1/3	口縁部	—	底面外面がやや凹状。	埋土	
		底径	(底径)					体部	縦へらナデ			へらケズリ
		高さ	(2.9)					底面	指ナデ			指ナデ

第103表 小鍋内Ⅱ遺跡 S-617出土遺物観察表

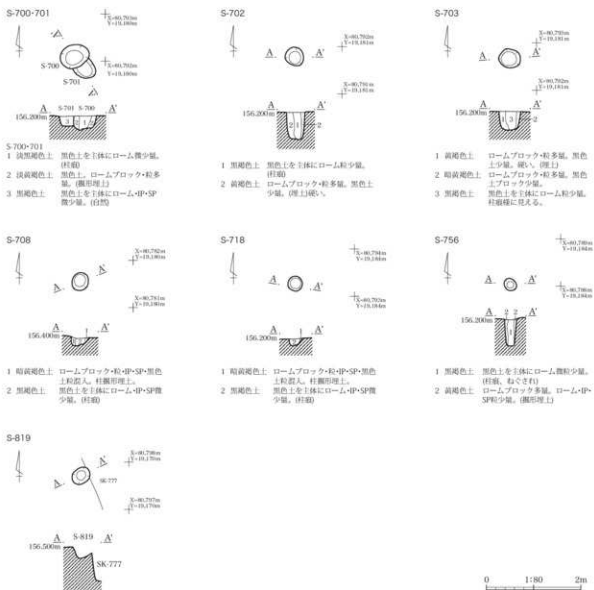
品名	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
1	石製品	硬石	(4.5)	3.8	0.8	18.54	1/3	埋土	砂子製。表面面に硬面。側面も使用。

第104表 小鍋内Ⅱ遺跡 S-563出土遺物観察表

品名	区分	種類	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
1	銅製品	銭	2.38	0.13	1.07	一部欠損	埋土	打鑄して文字不明。□□元寶



第235図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降ビット実測図(3)



第236図 小鍋内Ⅱ遺跡 中世以降ピット実測図(4)



第105表 小鍋内Ⅱ遺跡 S-819出土遺物観察表

編	区分	種別	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	出土位置	特徴
1	副製品	銅銭	2.47	0.12	3.02	完存	埋上	煎茶元寶

第106-1表 小鍋内II遺跡 ビットー覧表

No	遺跡番号	調査区 (グラブ)	方位 (方位)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
1	S-032	Ⅱ北	S-25	楕円	0.4	0.28	0.25	N53°E			SI-008より新しい。
2	S-033	Ⅱ北	S-25	円	0.28	0.27	0.30	—	石1出土あり		SI-008より新しい。
3	S-034	Ⅱ北	S-25	円	0.24	0.21	0.16	—	石1出土あり		SI-008より新しい。
4	S-036	Ⅱ北	S-25	円	0.24	0.23	0.25	—			SI-008より新しい。
5	S-037	Ⅱ北	S-25	円	0.24	0.18	0.15	—			SI-008より新しい。
6	S-043	Ⅱ北	R-25	円	0.62	0.56	1.36	—		壁に段あり。	SI-007より新しい。
7	S-045	Ⅱ北	P-23	円	0.36	0.34	0.32	—			
8	S-046	Ⅱ北	P-24	円	0.39	0.35	0.47	—	石1出土あり		
9	S-047	Ⅱ北	P-24	円	0.39	0.36	0.40	—			
10	S-048	Ⅱ北	P-24	円	0.36	0.34	0.36	—			
11	S-298	Ⅱ北	S-25	円	0.21	0.18	0.40	—			
12	S-299	Ⅱ北	S-25	楕円	0.26	0.20	0.26	N50°W			
13	S-088	Ⅱ西	R-26	円	0.25	0.22	0.16	—			
14	S-089	Ⅱ西	R-27	円	0.36	0.30	0.26	—			
15	S-090	Ⅱ西	R-27	円	0.34	0.33	0.37	—			
16	S-091	Ⅱ西	R-27	楕円	0.52	0.40	0.36	N35°W			
17	S-092	Ⅱ西	R-27	円	0.26	0.21	0.20	—			SI-033より新しい。
18	S-093	Ⅱ西	R-27	楕円	0.42	0.32	0.31	N64°E		柱礎あり。	SI-053・SI-054より新しい。
19	S-095	Ⅱ西	R-27	円	0.38	0.32	0.35	—			SI-055より新しい。
20	S-096	Ⅱ西	R-27	円	0.35	0.32	0.41	—			SI-055より新しい。
21	S-097	Ⅱ西	R-27	円	0.28	0.27	0.53	—			SI-055より新しい。
22	S-099	Ⅱ西	R-26	円	0.36	0.37	0.22	—		壁に段あり。 北寄りにビット状の敷り込みあり。	
23	S-101	Ⅱ西	R-27	円	0.40	(0.29)	0.29	—			SI-055・SI-056より新しい。
24	S-103	Ⅱ西	R-27	円	0.55	0.51	0.54	—		柱礎あり。	
25	S-104	Ⅱ西	R-27	円	0.55	0.50	0.80	—		柱礎あり。	
26	S-105	Ⅱ西	R-27	円	(0.50)	0.49	0.56	—		柱礎あり。	SI-082より旧。
27	S-106	Ⅱ西	R-27	円	0.41	0.40	0.36	—		柱礎あり。	
28	S-107	Ⅱ西	R-27	円	0.43	0.42	0.45	—		柱礎あり。	
29	S-108	Ⅱ西	R-27	円	0.32	0.32	0.41	—	(埋藏遺物あり 調査 放棄1)		SI-055より新しい。
30	S-100	Ⅱ西	R-27	隅丸方 (0.41)	0.38	0.11	—			調査区外へのびる。	SI-055より新しい。
31	S-110	Ⅱ西	R-27	円	0.32	(0.25)	0.18	—			SI-055より新しい。
32	S-111	Ⅱ西	R-27	円	0.42	(0.26)	0.11	—			SI-055より新しい。
33	S-113	Ⅱ西	R-27	円	0.48	0.41	0.31	—			
34	S-114	Ⅱ西	R-27	円	0.40	(0.25)	0.23	—			S-115より旧。
35	S-115	Ⅱ西	R-27	円	0.47	(0.45)	0.66	—		柱礎あり。	S-114より新しい。
36	S-116	Ⅱ西	R-27	円	0.41	0.39	0.18	—			
37	S-117	Ⅱ西	R-26	円	0.24	0.23	0.13	—			SI-053より新しい。
38	S-118	Ⅱ西	R-26	円	0.36	0.30	0.63	—			

第106-2表 小鍋内II遺跡 ビットー覧表

No	遺構番号	調査区 (グラブ)	方位	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	現状の対候	備考
					長軸	短軸	深さ				
39	S-119	Ⅱ西	R-27	楕円	0.71	0.37	0.40	N15°W		壁に段あり。	
40	S-120	Ⅱ西	R-27	円	0.45	0.40	0.31	-			
41	S-123	Ⅱ西	Q-27	円	0.43	0.41	0.18	-		柱礎あり。	
42	S-124	Ⅱ西	Q-27	円	0.43	0.40	0.21	-		柱礎あり。	
43	S-125a	Ⅱ西	Q-27	円	0.36	0.36	0.19	-		柱礎あり。	S-125bより新しい。
44	S-125b	Ⅱ西	Q-27	円	0.38	(0.34)	0.14	-		柱礎あり。	S-125aより旧。
45	S-126	Ⅱ西	Q-27	円	0.46	0.45	0.16	-			
46	S-128	Ⅱ西	Q-27	円	0.36	0.33	0.23	-	遺物未測	土層1あり	
47	S-133	Ⅱ西	R-27	円	0.28	0.20	0.21	-			SI055より新しい。
48	S-144	Ⅱ西	R-27	円	0.32	0.30	0.40	-			SI-143より新しい。
49	S-160	Ⅱ西	R-27	円	0.30	0.29	0.30	-			
50	S-161	Ⅱ西	R-27	円	0.43	0.36	0.25	-			
51	S-162	Ⅱ西	R-27	円	0.36	0.33	0.16	-			
52	S-165	Ⅱ西	Q-26	楕円	0.44	0.32	0.43	N20°W			
53	S-166	Ⅱ西	Q-26	円	0.58	0.55	0.35	-			
54	S-176	Ⅱ西	Q-27	楕円方	0.42	0.38	0.32	-			
55	S-178	Ⅱ西	Q-27	円	0.27	0.28	0.14	-			
56	S-179	Ⅱ西	Q-27	楕円	0.60	0.46	0.21	-			
57	S-191	Ⅱ西	R-27	円	(0.36)	0.34	0.23	-			SI055より旧。
58	S-192	Ⅱ西	R-27	円	0.35	0.32	0.32	-			SI-102より新しい。
59	S-193	Ⅱ西	R-27	円	0.33	(0.32)	0.51	-			SI-102・SD-054・S-194より新しい。
60	S-194	Ⅱ西	R-27	楕円方	0.42	0.35	0.18	-			SI-102・SD-054・S-193より新しい。
61	S-199	Ⅱ西	R-27	円	0.34	0.36	0.42	-			SI-183より新しい。
62	S-200	Ⅱ西	R-28	円	0.32	0.28	0.43	-			
63	S-201	Ⅱ西	R-28	円	0.29	0.28	0.54	-			
64	S-202	Ⅱ西	R-28	円	0.30	0.24	0.26	-			
65	S-203	Ⅱ西	R-28	楕円	0.44	0.35	0.17	N58°E			
66	S-205	Ⅱ西	R-28	円	0.52	0.51	0.83	-			
67	S-206	Ⅱ西	R-28	円	0.36	0.35	0.32	-			
68	S-207	Ⅱ西	R-28	円	0.30	0.27	0.31	-			
69	S-208	Ⅱ西	R-28	楕円	0.54	0.44	0.22	N50°E		壁に段あり。	
70	S-209	Ⅱ西	R-28	円	0.42	0.40	0.31	-			
71	S-210	Ⅱ西	R-28	楕円	0.64	0.42	0.54	N25°W		壁に段あり。	
72	S-211	Ⅱ西	R-28	円	0.42	0.42	0.44	-			
73	S-212	Ⅱ西	R-28	円	0.58	0.50	0.63	-		壁に段あり。	
74	S-214	Ⅱ西	R-28	円	0.63	0.56	0.54	-		壁に段あり。	
75	S-215	Ⅱ西	Q-26	円	0.28	0.27	0.43	-			
76	S-218	Ⅱ西	S-28	円	0.36	0.36	0.39	-			

第106-3表 小鍋内II遺跡 ビットー覧表

No	遺構番号	調査区 (グラブ)	方位 (方位)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
77	S-219	Ⅱ西	S-28	楕円	0.62	0.41	0.48	N 65° E		壁に段あり。	
78	S-220	Ⅱ西	S-28	楕円	0.48	0.38	0.36	N 16° W			
79	S-221	Ⅱ西	S-28	円	0.32	0.30	0.17	-			
80	S-222	Ⅱ西	S-28	円	0.35	0.32	0.64	-			
81	S-223	Ⅱ西	S-28	円	0.30	0.26	0.18	-			
82	S-224	Ⅱ西	S-27	円	0.32	0.31	0.30	-			
83	S-226	Ⅱ西	S-28	円	0.31	0.25	0.51	-			SK-145より新しい。
84	S-227	Ⅱ西	S-28	円	0.32	0.28	0.30	-			
85	S-228	Ⅱ西	S-28	円	0.30	0.25	0.52	-			
86	S-229	Ⅱ西	R-27	円	0.45	0.43	0.29	-			
87	S-230	Ⅱ西	R-27	楕円	0.65	0.43	0.36	N 26° W		壁に段あり。	
88	S-231	Ⅱ西	R-27	円	0.29	0.22	0.22	-			
89	S-232	Ⅱ西	R-27	円	0.26	0.25	0.26	-			
90	S-233	Ⅱ西	R-27	円	0.43	0.40	0.36	-			
91	S-234	Ⅱ西	R-27	円	0.35	0.33	0.32	-			
92	S-235	Ⅱ西	R-27	円	0.35	0.30	0.23	-			
93	S-236	Ⅱ西	R-27	円	0.35	0.35	0.26	-			
94	S-237	Ⅱ西	R-27	円	0.36	0.35	0.36	-			
95	S-238	Ⅱ西	R-27	円	0.33	0.33	0.32	-			
96	S-239	Ⅱ西	R-27	円	0.26	0.22	0.16	-			
97	S-240	Ⅱ西	R-27	円	0.23	0.23	0.20	-			SK-134より新しい。
98	S-241	Ⅱ西	R-27	楕円	0.38	0.26	0.32	N 18° W		壁に段あり。	
99	S-242	Ⅱ西	R-27	円	0.38	0.37	0.47	-			
100	S-243	Ⅱ西	R-27	円	0.34	0.31	0.32	-			S-244より旧。
101	S-244	Ⅱ西	R-27	円	0.22	0.20	0.14	-			S-243より新しい。
102	S-245	Ⅱ西	R-28	円	0.38	0.37	0.94	-			SK-188より新しい。
103	S-246	Ⅱ西	R-28	円	0.31	0.28	0.42	-			SK-188より新しい。
104	S-247	Ⅱ西	S-28	円	0.37	0.36	0.44	-			
105	S-256	Ⅱ西	R-27	円	0.40	0.39	0.33	-			
106	S-257	Ⅱ西	R-27	隅丸長方	0.64	0.42	0.15	N 28° W			
107	S-258	Ⅱ西	R-27	円	0.34	0.33	0.26	-			
108	S-259	Ⅱ西	R-27	円	0.30	0.29	0.26	-			
109	S-260	Ⅱ西	R-27	楕円	0.52	0.40	0.42	N 83° W			
110	S-267	Ⅱ西	R-28	円	0.59	0.57	0.45	-			
111	S-271	Ⅱ西	Q-26	楕円	0.38	0.26	0.36	N 36° W			
112	S-272	Ⅱ西	Q-26	円	0.35	0.30	0.23	-			
113	S-273	Ⅱ西	Q-26	円	0.43	0.36	0.38	-			
114	S-274	Ⅱ西	R-26	円	0.43	0.38	0.31	-		壁に段あり。	

第106-4表 小鍋内II遺跡 ビットー覧表

No.	遺構番号	調査区 (グラブ)	方位 (グッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
115	S-275	Ⅱ西	R-26	円	0.34	0.34	0.24	-			
116	S-276	Ⅱ西	R-27	楕円	0.56	0.40	0.26	N60°E		壁に段あり。	SD-054より新しい。
117	S-279	Ⅱ西	R-28	円	0.45	0.37	0.32	-			
118	S-307	Ⅱ東	V-26	円	0.35	0.33	0.32	-			
119	S-308	Ⅱ東	V-26	円	0.39	0.35	0.23	-			
120	S-309	Ⅱ東	V-26	円	0.31	0.28	0.34	-			
121	S-310	Ⅱ東	V-26	円	0.57	0.49	0.50	-			
122	S-311	Ⅱ東	V-26	円	0.35	0.30	0.23	-			
123	S-312	Ⅱ東	V-26	円	0.53	0.48	0.46	-			
124	S-313	Ⅱ東	V-26	円	0.25	0.23	0.35	-			
125	S-314	Ⅱ東	V-26	楕円	(0.75)	0.61	0.55	N84°E		柱礎あり。	S-501より旧。
126	S-315	Ⅱ東	V-26	円	0.37	0.34	0.75	-			S-316より新しい。
127	S-316	Ⅱ東	V-26	円	0.50	0.49	0.28	-			S-315より旧。
128	S-318	Ⅱ東	V-26	円	0.27	0.26	0.43	-			SK-317より新しい。
129	S-323	Ⅱ東	V-26	円	0.44	0.41	0.70	-		柱礎あり。	SK-322より新しい。
130	S-324	Ⅱ東	V-26	円	0.27	0.24	0.28	-			
131	S-325	Ⅱ東	V-26	円	0.46	0.45	0.25	-	(埋藏遺物 石器1あり)		
132	S-326	Ⅱ東	V-26	楕円	0.52	0.40	0.67	N20°W			
133	S-330	Ⅱ東	V-26	円	0.28	0.23	0.14	-			SI-300より新しい。
134	S-331	Ⅱ東	V-26	円	0.26	0.24	0.12	-			SI-300より新しい。
135	S-332	Ⅱ東	V-26	円	0.57	0.49	0.33	-			SI-300より新しい。
136	S-334	Ⅱ東	V-26	円	0.30	0.27	0.23	-			SI-300より新しい。
137	S-335	Ⅱ東	V-26	円	0.32	0.31	0.28	-			SI-300より新しい。
138	S-336	Ⅱ東	V-26	円	0.28	0.25	0.34	-			SI-300より新しい。
139	S-337	Ⅱ東	V-26	円	0.25	0.21	0.38	-			SI-300より新しい。
140	S-339	Ⅱ東	W-26	円	0.37	0.36	0.32	-			
141	S-340	Ⅱ東	W-26	円	0.40	0.37	0.32	-			
142	S-341	Ⅱ東	W-26	円	0.40	0.40	0.27	-			
143	S-342	Ⅱ東	V-26	円	0.50	0.44	0.34	-			
144	S-343	Ⅱ東	V-26	楕円	0.90	0.73	0.56	N48°E		断面に3ヵ所ビットあり。 [深さ: 45cm・43cm・15cm]	
145	S-344	Ⅱ東	V-26	円	0.40	0.33	0.21	-			SK-327より新しい。
146	S-345	Ⅱ東	V-26	円	0.45	0.42	0.30	-			SK-327より新しい。
147	S-346	Ⅱ東	V-26	楕円	0.40	0.23	0.53	N35°W		壁に段あり。	
148	S-348	Ⅱ東	V-26	円	0.56	0.50	0.45	-			SK-349より旧。
149	S-351	Ⅱ東	V-26	円	0.43	0.40	0.28	-			SK-352より旧。
150	S-353	Ⅱ東	V-26	円	0.47	0.43	0.27	-			
151	S-357	Ⅱ東	V-25	楕円	0.88	0.65	0.68	N28°W		壁に段あり。	SI-303より新しい。
152	S-361	Ⅱ東	U-25	円	0.57	0.51	0.53	-			SK-360より新しい。

第106-5表 小鍋内II遺跡 ビットー覧表

No.	遺構番号	調査区 (グラブ)	方位 (グッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
133	S-362	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.20	0.35	-			
134	S-364	Ⅱ東	V-25	円	0.36	0.26	0.48	-			
135	S-365	Ⅱ東	V-25	楕円	0.78	0.59	0.62	N78°E			S-441より新しい。
136	S-367	Ⅱ東	V-25	円	0.34	0.27	0.36	-			SK-366より新しい。
137	S-368	Ⅱ東	V-25	楕円	0.68	0.47	0.35	N42°E			SK-366より且。
138	S-373	Ⅱ東	U-25	楕円	0.73	0.52	0.43	N35°W		壁に段あり。	
139	S-377	Ⅱ東	U-25	円	0.23	0.20	0.23	-			SK-375より新しい。
140	S-378	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.21	0.38	-			SK-375より且。
141	S-379	Ⅱ東	U-25	円	0.27	0.23	0.65	-			SK-375より新しい。
142	S-380	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.22	0.63	-			SK-375より新しい。
143	S-384	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.17	0.57	-			
144	S-387	Ⅱ東	V-25	円	0.60	0.55	0.71	-			
145	S-388	Ⅱ東	V-26	円	0.35	0.35	0.41	-			
146	S-389	Ⅱ東	V-26	楕円	0.55	0.42	0.64	N10°E			SK-390との切り合いなし。
147	S-393	Ⅱ東	U-25	円	0.53	0.42	0.57	-			SK-391より新しい。
148	S-401	Ⅱ東	U-24	円	0.77	0.68	0.78	-		柱礎あり。	
149	S-405	Ⅱ東	V-25	円	0.25	0.21	0.25	-			
170	S-406	Ⅱ東	U-25	円	0.57	0.50	0.41	-			
171	S-407	Ⅱ東	V-25	円	0.47	0.45	0.55	-		調査区外にかかる。	SI-457より新しい。 SK-381より新しい。
172	S-408	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.32	0.44	-			SI-457・SK-382より新しい。
173	S-409	Ⅱ東	U-25	円	0.27	0.23	0.37	-			SK-382より新しい。
174	S-410	Ⅱ東	U-25	円	0.37	0.35	0.38	-			SI-457・SK-382より新しい。
175	S-412	Ⅱ東	U-25	円	0.27	0.21	0.58	-			SK-375より新しい。
176	S-413	Ⅱ東	V-25	円	0.30	0.27	0.35	-			SK-381より新しい。
177	S-414	Ⅱ東	V-25	円	0.29	0.28	0.48	-			SK-381より新しい。
178	S-415	Ⅱ東	V-25	円	0.40	0.35	0.16	-			SK-381より新しい。
179	S-416	Ⅱ東	U-25	円	0.35	0.35	0.46	-			SI-457より新しい。
180	S-417	Ⅱ東	U-25	円	0.27	0.23	0.20	-			SK-382より新しい。
181	S-418	Ⅱ東	U-25	円	0.39	0.33	0.43	-			
182	S-419	Ⅱ東	U-25	円	0.20	0.18	0.30	-			SK-383より新しい。
183	S-420	Ⅱ東	U-25	円	0.22	0.19	0.12	-			SK-383より新しい。
184	S-421	Ⅱ東	U-25	円	0.24	0.16	0.44	-			SK-375・SK-381より新しい。
185	S-422	Ⅱ東	U-25	円	0.53	0.43	0.74	-			SK-374より新しい。
186	S-423	Ⅱ東	U-25	円	0.50	0.46	0.52	-		柱礎あり。	
187	S-425	Ⅱ東	V-25	楕円	0.55	(0.35)	0.35	N59°W		調査区外へのびる。	SK-370より新しい。
188	S-428	Ⅱ東	U-24	円	0.30	0.27	0.34	-			SK-411より新しい。
189	S-430	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.23	0.20	-			SK-371・SK-372より新しい。
190	S-431	Ⅱ東	U-25	楕円	0.53	0.40	0.28	N34°W			SK-371より新しい。

第106-6表 小鍋内Ⅱ遺跡 ビットー覧表

№	遺構番号	調査区 (グラフ)	基礎 (グラフ)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
101	S-432	Ⅱ東	V-25	円	0.54	0.33	0.30	-			SI-302より新しい。
102	S-433	Ⅱ東	V-25	楕円	0.51	0.37	0.35	N14°E		壁に段あり。	SI-302より新しい。
103	S-434	Ⅱ東	V-25	円	0.33	0.31	0.52	-			SI-302より新しい。
104	S-435	Ⅱ東	V-25	円	0.31	0.26	0.17	-			SI-302より新しい。
105	S-436	Ⅱ東	V-25	楕円	0.67	0.51	0.23	N77°E			SI-302・SK-385より新しい。
106	S-439	Ⅱ東	U-24	円	0.26	0.25	0.27	-			SK-304・SK-433より新しい。
107	S-441	Ⅱ東	V-25	円	0.53	0.47	0.33	-			S-365より新しい。
108	S-444	Ⅱ東	V-25	隅丸長方	0.60	0.45	0.23	N48°E			SK-371より新しい。
109	S-446	Ⅱ東	U-24	円	0.30	0.25	0.16	-			SK-400より新しい。
110	S-449	Ⅱ東	U-24	円	0.30	0.28	0.30	-			SK-448より新しい。
111	S-452	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.25	0.21	-			SK-440より新しい。
112	S-453	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.23	0.43	-			SK-440・SK-451より新しい。
113	S-454	Ⅱ東	U-25	楕円	0.40	0.27	0.60	N66°E			SI-437・SK-451・SK-464より新しい。
114	S-458	Ⅱ東	V-26	円	0.40	0.38	0.49	-		柱礎あり。	
115	S-466	Ⅱ東	U-25	円	0.35	0.33	0.36	-			SK-461・SK-463・SK-465より新しい。
116	S-467	Ⅱ東	U-25	円	0.35	0.32	0.23	-			SK-463・SK-464・SK-471より新しい。
117	S-468	Ⅱ東	U-25	円	0.29	0.23	0.35	-			SK-463・SK-471より新しい。
118	S-469	Ⅱ東	U-25	円	0.32	0.24	0.37	-			SK-460より新しい。
119	S-470	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.23	0.29	-			SK-460より新しい。
120	S-477	Ⅱ東	U-24	円	0.23	0.23	0.25	-			SI-521より新しい。
121	S-479	Ⅱ東	U-25	円	0.43	0.37	0.45	-			SK-461より新しい。
122	S-482	Ⅱ東	V-26	円	0.28	0.25	0.06	-			SK-456より直。
123	S-483	Ⅱ東	V-26	楕円	0.60	0.48	0.47	N89°E			SK-456より直。
124	S-484	Ⅱ東	V-25	楕円	0.58	0.39	0.75	S40°E		壁に段あり。	SK-456より新しい。
125	S-485	Ⅱ東	V-25	円	0.32	0.27	0.31	-			SK-456より新しい。
126	S-486	Ⅱ東	V-25	円	0.32	0.30	0.28	-			SB-820 (SK-487) より新しい。 S-488より新しい。
127	S-488	Ⅱ東	V-25	円	0.25	0.23	0.30	-			SK-487・S-486より新しい。
128	S-490	Ⅱ東	V-26	楕円	0.53	0.40	0.27	N33°W			SB-820 (SK-491) より新しい。 SK-456より新しい。
129	S-493	Ⅱ東	V-26	円	0.28	0.24	0.46	-			SB-820 (SK-492) より新しい。 SK-456より新しい。
130	S-497	Ⅱ東	U-25	円	0.35	0.32	0.43	-			SK-438より新しい。
131	S-498	Ⅱ東	U-25	円	0.45	0.37	0.45	-			SK-438より新しい。
132	S-500	Ⅱ東	U-25	円	0.42	0.35	0.16	-			SK-438より新しい。
133	S-501	Ⅱ東	V-26	円	0.50	0.48	0.72	-			S-314より新しい。
134	S-507	Ⅱ東	U-25	円	0.50	0.45	0.22	-			SK-438より新しい。
135	S-508	Ⅱ東	V-26	円	0.38	0.33	0.56	-			SK-494より新しい。
136	S-509	Ⅱ東	U-25	円	0.43	(0.33)	0.33	-			SK-392・SK-474より新しい。
137	S-510	Ⅱ東	U-25	楕円	0.31	0.20	0.42	N28°W		壁に段あり。	SK-460より新しい。
138	S-511	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.21	0.39	-			SK-460より新しい。

第106-7表 小鍋内II遺跡 ビットー覧表

No	遺跡番号	調査区 (グラブ)	方位 (グッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
229	S-512	Ⅱ東	U-25	円	0.18	0.17	0.35	-			SK-460より新しい。
230	S-513	Ⅱ東	U-25	円	0.40	(0.17)	0.23	-			SK-462より新しい。
231	S-514	Ⅱ東	U-24	円	0.33	0.32	0.41	-			
232	S-515	Ⅱ東	U-24	円	0.40	0.32	0.24	-			SK-519より新しい。
233	S-516	Ⅱ東	U-24	円	0.28	0.26	0.20	-			SK-519・SK-520より新しい。
234	S-517	Ⅱ東	U-24	円	0.29	0.25	0.40	-			SI-521・SK-519より新しい。
235	S-522	Ⅱ東	U-24	円	0.37	0.30	0.36	-			SK-518より新しい。
236	S-523	Ⅱ東	U-24	円	0.50	0.43	0.13	-			
237	S-524	Ⅱ東	U-24	円	0.37	0.35	0.33	-			
238	S-525	Ⅱ東	U-24	円	0.33	0.33	0.38	-			
239	S-527	Ⅱ東	U-24	円	0.29	0.25	0.25	-			SI-521・SK-526より新しい。
240	S-531	Ⅱ東	U-24	円	0.35	0.28	0.25	-			SK-530より新しい。
241	S-537	Ⅱ東	U-24	円	0.39	0.30	0.67	-			(SK-536と併り合わない)
242	S-539	Ⅱ東	U-24	円	0.35	0.29	0.21	-			
243	S-541	Ⅱ東	U-25	円	0.32	0.30	0.36	-			SK-474より新しい。
244	S-542	Ⅱ東	U-25	円	0.37	0.33	0.42	-			
245	S-543	Ⅱ東	U-25	円	0.37	0.35	0.23	-			SK-472・SK-474より新しい。
246	S-544	Ⅱ東	U-25	楕円	0.45	0.33	0.08	N88°W			SK-472より新しい。
247	S-545	Ⅱ東	U-25	円	0.28	0.25	0.12	-			SI-475・SK-472より新しい。
248	S-546	Ⅱ東	U-25	円	0.47	(0.30)	0.08	-			SK-472より新しい。
249	S-547	Ⅱ東	U-25	円	0.44	0.42	0.13	-			SK-472より新しい。
250	S-548	Ⅱ東	U-25	円	0.43	0.38	0.25	-			SK-472より新しい。
251	S-549	Ⅱ東	U-25	楕円	0.53	0.25	0.06	N57°E			SI-475・SK-472より新しい。
252	S-550	Ⅱ東	U-25	楕円形	0.48	0.33	0.68	N82°E		壁に段あり。	SI-475より新しい。
253	S-557	Ⅱ東	U-25	円	0.55	0.53	0.90	-			
254	S-559	Ⅱ東	U-25	円	0.53	0.50	0.24	-			SK-558より新しい。
255	S-561	Ⅱ東	U-26	円	0.35	0.35	0.16	-			SI-475より新しい。
256	S-562a	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.27	0.27	-			SI-475・S-562bより新しい。
257	S-562b	Ⅱ東	U-25	楕円形	0.38	(0.20)	0.39	-			S-475・SK-473・S-562aより新しい。
258	S-563	Ⅱ東	U-25	楕円	0.33	0.25	0.53	N19°W	磁気遺物 古銭1あり		SI-475より新しい。
259	S-564	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.23	0.30	-			SI-475・SK-472より新しい。
260	S-565	Ⅱ東	U-25	円	0.33	0.27	0.43	-			SI-475より新しい。
261	S-566	Ⅱ東	U-25	円	0.49	0.43	0.59	-			
262	S-567	Ⅱ東	U-25	円	0.50	0.49	0.87	-			
263	S-568	Ⅱ東	U-25	円	0.42	0.40	0.55	-			SK-472より新しい。
264	S-569	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.37	0.30	-			SK-391より新しい。
265	S-570	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.27	0.47	-			
266	S-572	Ⅱ東	U-25	円	0.50	0.46	0.83	-			

第106-8表 小鍋内Ⅱ遺跡 ビットー覧表

No	遺構番号	調査区 (グラッド)	方位 (グッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
307	S-581	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.38	0.54	-			
308	S-582	Ⅱ東	U-25	円	0.33	0.32	0.32	-			SK-666より新しい。
309	S-583	Ⅱ東	U-25	楕円	0.58	0.42	0.88	N24°W			
370	S-584	Ⅱ東	U-25	楕円	0.40	0.29	0.47	N42°E			
371	S-585	Ⅱ東	U-25	円	0.57	0.52	0.20	-			
372	S-586	Ⅱ東	U-25	円	0.48	0.44	0.20	-			
373	S-587	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.40	0.21	-			
374	S-588	Ⅱ東	U-25	円	0.52	0.50	0.39	-			
375	S-592	Ⅱ東	U-25	円	0.37	0.38	0.15	-			
376	S-593	Ⅱ東	U-25	円	0.60	0.55	0.34	-			
377	S-594	Ⅱ東	U-25	楕円	0.78	0.49	0.35	N75°W		壁に段あり。	
378	S-595	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.33	0.56	-			
379	S-596	Ⅱ東	U-24	円	0.38	0.30	0.48	-			
380	S-597	Ⅱ東	U-24	円	0.33	0.32	0.31	-			
381	S-598	Ⅱ東	U-24	円	0.45 (0.30)	0.24	-	-			SK-519より新しい。
382	S-602a	Ⅱ東	U-24	円	0.38 (0.32)	0.48	-	-			S-602bより新しい。
383	S-602b	Ⅱ東	U-24	円	0.40	0.37	1.00	-			S-602aより新しい。
384	S-609	Ⅱ東	U-26	円	0.38 (0.34)	0.16	-	-			S-610より新しい。
385	S-610	Ⅱ東	U-26	円	0.46	0.40	0.52	-	陶製遺物 土師器類1あり	柱礎あり。	S-609より旧。
386	S-611	Ⅱ東	V-26	円	0.37	0.34	0.16	-			
387	S-612	Ⅱ東	V-26	楕円	0.55	0.43	0.25	N5°W		壁に段あり。	
388	S-613	Ⅱ東	V-26	円	0.36	0.37	0.48	-			
389	S-614	Ⅱ東	V-26	円	0.44	0.36	0.36	-			
390	S-615	Ⅱ東	V-26	円	0.33	0.32	0.13	-			
391	S-616	Ⅱ東	V-26	円	0.38	0.36	0.28	-			SK-352・S-617より新しい。
392	S-617	Ⅱ東	V-26	円	0.37	0.29	0.66	-	陶製遺物 瓦石1あり		SK-820 (S-347)・SK-352・S-616より新しい。
393	S-619	Ⅱ東	V-26	円	0.44	0.36	0.34	-		柱礎あり。	
394	S-620	Ⅱ東	V-26	円	0.45	0.39	0.49	-		柱礎あり。	
395	S-621	Ⅱ東	V-26	円	0.57	0.53	0.47	-			
396	S-622	Ⅱ東	V-26	円	0.58	0.54	0.76	-		柱礎あり。	
397	S-623	Ⅱ東	V-26	円	0.48	0.45	0.58	-			
398	S-624	Ⅱ東	V-25	隅丸方	0.80	0.78	0.78	-		柱礎あり。 壁に段あり。	
399	S-625	Ⅱ東	V-25	楕円	0.97	0.71	0.15	N87°E			
399	S-626	Ⅱ東	V-25	円	0.45	0.42	0.65	-			
399	S-627	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.37	0.78	-			
399	S-628	Ⅱ東	U-25	円	0.45	0.42	0.33	-			SK-496より新しい。
399	S-629	Ⅱ東	U-25	楕円	0.55	0.37	0.29	N72°E			SK-496より新しい。
399	S-630	Ⅱ東	U-25	円	0.43	0.42	0.28	-			SK-496より新しい。

第106-9表 小鍋内II遺跡 ビットー覧表

No	遺構番号	調査区 (グラブ)	方位 (グッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
305	S-631	Ⅱ東	V-25	円	0.55	0.33	0.48	-			
306	S-632	Ⅱ東	U-25	楕円	0.53	0.40	0.84	N-49°W			
307	S-633	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.24	0.26	-			SI-457・SK-480より新しい。
308	S-634	Ⅱ東	U-25	円	0.35	0.29	0.44	-			SK-461より新しい。
309	S-635	Ⅱ東	U-25	円	0.43	0.36	0.48	-			
310	S-638	Ⅱ東	U-26	円	0.53	0.49	0.59	-			S-639より新しい。
311	S-639	Ⅱ東	U-26	円	0.33	0.19	0.25	-			S-638より新しい。
312	S-640	Ⅱ東	U-26	円	0.47	0.43	0.16	-			SI-475より新しい。
313	S-641	Ⅱ東	U-26	円	0.40	0.39	0.80	-			
314	S-642	Ⅱ東	U-26	円	0.38	0.32	0.31	-			
315	S-649	Ⅱ東	U-24	円	0.27	0.24	0.46	-			SI-457より新しい。
316	S-650	Ⅱ東	U-24	楕円	0.63	0.50	0.55	N-27°W			
317	S-656	Ⅱ東	U-25	円	0.36	0.28	0.47	-			SK-574・SK-670より新しい。
318	S-657a	Ⅱ東	U-25	楕円	0.56	0.37	0.23	N-61°E			SK-560より旧。 S-657bより新しい。
319	S-657b	Ⅱ東	U-25	楕円	0.52	0.28	0.46	N-35°W			SK-560より旧。 S-657aより新しい。
320	S-658	Ⅱ東	U-25	円	0.37	0.32	0.23	-			SK-560より新しい。
321	S-659	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.25	0.30	-			SK-560より新しい。
322	S-660	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.24	0.59	-			
323	S-661	Ⅱ東	U-25	円	0.34	0.30	0.27	-			
324	S-662	Ⅱ東	U-25	楕円	0.52	0.30	0.48	N-25°E		壁に段あり。	
325	S-663	Ⅱ東	U-25	円	0.39	0.39	0.50	-			
326	S-664	Ⅱ東	U-25	円	0.43	0.35	0.63	-			SK-666より新しい。
327	S-665	Ⅱ東	U-25	円	0.35	0.35	0.40	-			
328	S-667	Ⅱ東	U-25	円	0.28	0.24	0.35	-			SK-555より新しい。
329	S-668	Ⅱ東	U-25	円	0.28	0.23	0.25	-			SK-555より新しい。
330	S-669	Ⅱ東	U-25	円	0.28	0.22	0.29	-			SK-558より新しい。
331	S-676	Ⅱ東	U-25	円	0.42	0.40	0.33	-			SK-578より新しい。
332	S-677	Ⅱ東	U-25	隅丸方	0.58	0.55	0.62	-		壁に段あり。	SK-560より新しい。
333	S-679	Ⅱ東	U-25	円	0.51	0.50	0.44	-		柱礎あり。	
334	S-680	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.35	0.28	-			SK-666より新しい。
335	S-681	Ⅱ東	U-25	円	0.27	0.26	0.20	-			SK-463より新しい。
336	S-682	Ⅱ東	U-24	楕円	0.38	0.26	0.38	N-63°W			SK-464より新しい。
337	S-683	Ⅱ東	U-24	楕円	0.43	0.32	0.28	N-6°W			SK-464より新しい。
338	S-684	Ⅱ東	U-24	円	0.23	0.18	0.25	-			SK-464より新しい。
339	S-685	Ⅱ東	U-24	円	0.33	0.23	0.23	-			SK-448より新しい。
340	S-686	Ⅱ東	U-24	円	0.54	0.39	0.20	-			SK-448より新しい。
341	S-687	Ⅱ東	U-24	円	0.40	0.30	0.51	-			SK-448より新しい。
342	S-688	Ⅱ東	U-25	楕円	0.50	0.35	0.55	N-32°E		壁に段あり。	

第106-10表 小鍋内II遺跡 ビットー一覧表

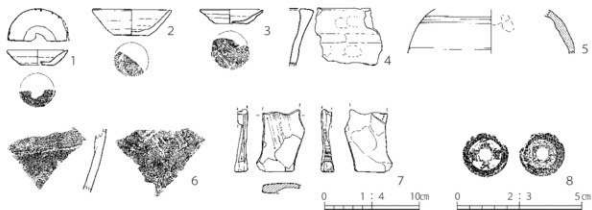
No	遺構番号	調査区 (グラッド)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
342	S-689	Ⅱ東	U-26	楕円	0.50	0.40	0.40	N66°E			
344	S-690	Ⅱ東	U-26	楕円	(0.62)	0.44	0.37	N63°E			SK-607より新しい。
345	S-691	Ⅱ東	U-26	円	0.39	0.39	0.30	-			
346	S-692	Ⅱ東	U-26	円	0.30	0.29	0.34	-			
347	S-694	Ⅱ東	U-26	楕円	0.49	0.40	0.45	N58°E		柱礎あり。 壁に段あり。	
348	S-695	Ⅱ東	U-26	楕円	0.57	0.46	0.65	N74°E		壁に段あり。	
349	S-697	Ⅱ東	U-26	円	0.50	0.47	0.35	-			
350	S-698	Ⅱ東	U-26	円	0.37	0.30	0.35	-			
351	S-699	Ⅱ東	U-26	楕円	0.66	0.46	0.32	N67°E		柱礎あり。	
352	S-700	Ⅱ東	U-26	楕円	0.62	0.48	0.30	N65°E		柱礎あり。	S-701より新しい。
353	S-701	Ⅱ東	U-26	楕円	(0.35)	0.40	0.20	N50°W			S-700より旧。
354	S-702	Ⅱ東	V-26	円	0.40	0.38	0.58	-		柱礎あり。	
355	S-703	Ⅱ東	V-26	円	0.46	0.40	0.40	-		柱礎あり。	
356	S-704	Ⅱ東	V-26	円	0.62	0.57	0.39	-		壁に段あり。	
357	S-707	Ⅱ東	U-26	円	0.47	0.40	0.60	-			
358	S-708	Ⅱ東	U-26	円	0.38	0.34	0.22	-		柱礎あり。	
359	S-709	Ⅱ東	U-26	楕円	0.64	0.41	0.10	N79°E		壁に段あり。	
360	S-710	Ⅱ東	U-26	円	0.37	0.37	0.57	-			
361	S-711	Ⅱ東	U-26	円	0.30	0.29	0.17	-			
362	S-712	Ⅱ東	U-26	円	0.50	0.43	0.62	-		壁に段あり。	
363	S-713	Ⅱ東	U-26	円	0.35	0.35	0.45	-			SK-648より新しい。
364	S-714	Ⅱ東	U-26	円	0.35	0.30	0.27	-			SK-648より新しい。
365	S-715	Ⅱ東	V-26	円	0.53	0.47	0.20	-			
366	S-716	Ⅱ東	V-26	楕円	0.77	0.53	0.24	N52°W		壁に段あり。	
367	S-717	Ⅱ東	V-26	円	0.35	0.34	0.62	-			
368	S-718	Ⅱ東	V-26	円	0.32	0.30	0.15	-		柱礎あり。	
369	S-719	Ⅱ東	V-26	円	0.40	0.32	0.24	-			
370	S-720	Ⅱ東	V-26	円	0.43	0.33	0.06	-			SK-645より新しい。
371	S-721	Ⅱ東	V-26	円	0.37	0.35	0.16	-			SK-645より新しい。
372	S-722	Ⅱ東	V-26	円	0.40	0.33	0.18	-			SK-645より新しい。
373	S-723	Ⅱ東	V-26	円	0.31	0.30	0.27	-			
374	S-725	Ⅱ東	V-26	円	0.48	0.43	0.00	-			SK-724より新しい。
375	S-726	Ⅱ東	V-26	円	0.55	0.50	0.60	-			S-727より旧。
376	S-727	Ⅱ東	V-26	円	0.39	0.35	0.46	-			S-728より新しい。
377	S-728	Ⅱ東	V-26	円	0.49	0.45	0.63	-		柱礎あり。	
378	S-729	Ⅱ東	V-26	円	0.35	0.30	0.49	-			
379	S-730	Ⅱ東	V-26	円	0.32	0.30	0.20	-			
380	S-731	Ⅱ東	V-26	円	0.39	0.37	0.61	-			

第106-11表 小鍋内II遺跡 ビット一覧表

No	遺跡番号	調査区 (グラブ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
381	S-732	Ⅱ東	V-26	円	0.40	0.38	0.52	-			
382	S-733	Ⅱ東	V-26	円	0.43	0.40	0.18	-		壁に段あり。	
383	S-734	Ⅱ東	V-26	楕円	0.59	0.38	0.20	N45°W		壁に段あり。	
384	S-735	Ⅱ東	V-26	隅丸方	0.50	0.48	0.38	-		壁に段あり。	
385	S-736	Ⅱ東	V-26	円	0.45	0.38	0.68	-			
386	S-737	Ⅱ東	V-26	円	0.43	0.37	0.08	-			SK-646より直。
387	S-738	Ⅱ東	V-26	円	0.45	0.43	0.61	-			
388	S-739	Ⅱ東	V-26	円	0.37	0.30	0.43	-			
389	S-740	Ⅱ東	V-25	円	0.35	0.33	0.28	-			SK-589より新しい。
390	S-741	Ⅱ東	V-25	円	0.37	0.31	0.61	-			SK-589より新しい。
391	S-742	Ⅱ東	V-25	円	0.34	0.32	0.52	-			SK-678より新しい。
392	S-743	Ⅱ東	V-25	円	0.52	0.48	0.46	-			
393	S-744	Ⅱ東	U-25	円	0.37	0.28	0.48	-			
394	S-745	Ⅱ東	U-25	円	0.28	0.28	0.47	-			SK-555より新しい。
395	S-746	Ⅱ東	U-25	円	0.43	0.33	0.59	-			SK-554より新しい。
396	S-747	Ⅱ東	V-26	円	0.58	0.50	0.25	-		壁に段あり。	
397	S-748	Ⅱ東	V-26	円	0.37	0.35	0.18	-			
398	S-749	Ⅱ東	V-26	円	0.44	0.37	0.82	-			
399	S-751	Ⅱ東	V-26	円	0.58	0.55	0.41	-			
400	S-752	Ⅱ東	V-26	円	0.36	0.32	0.90	-			
401	S-753	Ⅱ東	V-26	円	0.43	0.37	0.39	-			
402	S-754	Ⅱ東	V-26	円	0.40	0.37	0.12	-			
403	S-755	Ⅱ東	V-26	楕円	0.52	0.35	0.54	N60°E		壁に段あり。	
404	S-756	Ⅱ東	V-26	円	0.26	0.26	0.55	-		付着あり。	
405	S-757	Ⅱ東	U-26	楕円	0.48	0.40	0.34	N78°E			
406	S-758a	Ⅱ東	U-26	円	0.38	0.37	0.45	-			S-758bより新しい。
407	S-758b	Ⅱ東	U-26	楕円	0.55	0.34	0.41	N60°E			S-758aより直。
408	S-759	Ⅱ東	V-26	円	0.30	0.27	0.31	-			
409	S-760	Ⅱ東	V-26	円	0.49	0.41	0.18	-			SK-647より新しい。
410	S-761	Ⅱ東	V-26	円	0.28	0.24	0.13	-			
411	S-762	Ⅱ東	V-26	円	0.30	0.25	0.19	-			
412	S-763	Ⅱ東	V-26	円	0.23	0.23	0.29	-			
413	S-764	Ⅱ東	V-26	円	0.26	0.25	0.23	-			SK-705より新しい。
414	S-766	Ⅱ東	V-26	円	0.33	0.28	0.20	-			SI-301より新しい。
415	S-769	Ⅱ東	V-27	円	0.26	0.24	0.34	-			
416	S-770	Ⅱ東	V-27	円	0.33	0.30	0.30	-			
417	S-773	Ⅱ東	V-27	円	0.35	0.33	0.25	-			
418	S-774	Ⅱ東	U-26	円	0.28	0.24	0.18	-			

第106-12表 小鍋内Ⅱ遺跡 ビット一覧表

No	遺構番号	調査区 (グラブ)	位置 (グリッド)	平面形	大きさ (m)			主軸方向	出土遺物	形状の特徴	備考
					長軸	短軸	深さ				
419	S-779	Ⅱ東	U-27	円	0.47	0.40	0.28	-			SK-767より新しい。
420	S-780	Ⅱ東	V-26	楕円	0.48	0.33	0.38	N-30°W			SI-300より新しい。
421	S-781	Ⅱ東	V-26	円	0.22	0.22	0.64	-			SI-300より新しい。
422	S-782	Ⅱ東	V-26	円	0.22	0.20	0.42	-			SI-300より新しい。
423	S-783	Ⅱ東	V-26	円	0.26	0.22	0.21	-			SI-300より新しい。
424	S-784	Ⅱ東	V-27	円	0.47	0.40	0.40	-			
425	S-786	Ⅱ東	V-26	円	0.31	0.27	0.21	-			
426	S-787	Ⅱ東	V-26	円	0.52	0.49	0.58	-			
427	S-788	Ⅱ東	V-26	円	0.53	0.45	0.43	-			
428	S-789	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.30	0.41	-			
429	S-790a	Ⅱ東	U-25	円	0.28	0.22	0.42	-			S-790bより新しい。
430	S-790b	Ⅱ東	U-25	円	0.24	0.23	0.42	-			S-790aより新しい。
431	S-791	Ⅱ東	U-25	円	0.43	0.40	0.23	-		壁に段あり。	
432	S-792	Ⅱ東	U-25	円	0.44	0.39	0.53	-			
433	S-794	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.36	0.64	-			SK-778より新しい。
434	S-796	Ⅱ東	U-26	円	0.38	0.32	0.55	-			SK-776より新しい。
435	S-797	Ⅱ東	U-26	円	0.37	0.33	0.40	-			SK-776より新しい。
436	S-798	Ⅱ東	U-25	円	0.60	0.59	0.43	-			
437	S-799	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.38	0.77	-			
438	S-800	Ⅱ東	U-24	楕円	0.72	0.43	0.40	N-19°W			SI-521・SK-590より新しい。
439	S-801	Ⅱ東	U-25	円	0.35	0.28	0.37	-			
440	S-802	Ⅱ東	U-25	円	0.25	0.22	0.44	-			
441	S-803	Ⅱ東	U-25	円	0.30	0.27	0.67	-			
442	S-804	Ⅱ東	U-25	楕円	0.68	(0.25)	0.47	N-33°W			SK-460より新しい。
443	S-805	Ⅱ東	U-25	円	0.40	0.33	0.52	-			SK-495より新しい。
444	S-807	Ⅱ東	V-26	楕円	(0.42)	(0.22)	0.43	N-81°E			SK-456より新しい。
445	S-808	Ⅱ東	U-26	円	0.52	0.50	0.78	-			
446	S-809	Ⅱ東	U-26	楕円	0.60	0.40	0.47	N-60°E			
447	S-813	Ⅱ東	V-26	円	0.43	0.40	0.67	-			
448	S-814	Ⅱ東	V-26	楕円	0.57	0.43	0.69	N-10°E			
449	S-816	Ⅱ東	U-24	円	0.32	0.25	0.55	-			
450	S-817	Ⅱ東	U-24	円	0.30	0.28	0.45	-			SK-529より新しい。
451	S-818	Ⅱ東	U-24	円	0.29	0.28	0.39	-			SK-529より新しい。
452	S-819	Ⅱ東	U-26	円	0.40	0.33	0.25	-	陶磁遺物 銅銭1あり		SK-777より新しい。



第238図 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の中世以降遺物実測図

第107-1表 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の中世以降遺物観察表(1)

No.	種類 器種	計測値 (cm)	色調	胎土	焼成	残存率	部位			特徴	出土位置	備考
							内面	外面				
1	土師 土鍋	口径 (7.0)	10YR6/4 浅黄褐色	黒砂粒・黒色細砂粒 ・赤色粒含む。	良好	口縁部～底 部1/2	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	底部穿孔か、 Q-27 グリッド 表採		
		体部					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底部					ロクロナデ	回転車切り				
2	土師 土鍋	口径 (8.5)	10YR7/3 に赤・黒	透明細砂粒少量含 む。	良好	口縁部～底 部1/4	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	地区表採		
		体部					ロクロナデ	ロクロナデ				
		底部					ロクロナデ	回転車切り				
3	土師 土鍋	口径 (6.5)	7.5YR6/4 に赤・黒	黒砂粒・白色細砂粒 ・赤色粒・黒色細砂粒 を含む。	良好	口縁部～底 部4/5、底部 欠存。	口縁部	ロクロ水澱ぎ	ロクロ水澱ぎ	小型、口径に 比して縦高が 低い。	SK-180 埋土	
		体部					ロクロ水澱ぎ	ロクロ水澱ぎ				
		底部					—	回転車切り後、ヘラナデ				
4	内耳 土鍋	口径 —	10YR3/3 暗褐色	白色細砂粒・雲母含 む。	良好	口縁部破片	口縁部	横ナデ	ヘラナデ	表採		
		体部					—	—				
		底部					—	—				
5	古瀬 土器	口径 —	7.5Y5/3 灰青	緻密。	良好	底部破片	口縁部	—	—	外面に灰筋薄 敷。 肩部に沈線	地区表採	
		体部					輪縁後、ロクロナデ	ロクロナデ				
		底部					—	—				
6	中世 陶器 片	口径 —	2.5YR6/1 黄灰	黒砂粒・白色細砂粒 含む。	良好	破片一部	口縁部	—	—	粘土帯の積み 上げに内面から ハケヌ。	西区表採	須磨産か、
		体部					ハケヌ	格子状タタキ				
		底部					—	—				

第107-2表 小鍋内Ⅱ遺跡 遺構外出土の中世以降遺物観察表(2)

No.	区分	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	色調	出土位置	特徴
7	石製品	灰石	16.7	3.1	1.3	27.66	7.5YR/2 灰白	Q-27 グリッド 表採	浅灰石質層灰石。磨形、長軸4面に砥面。
8	銅製品	銭	径 (2.41)	—	0.13	(1.98)	—	地区トレンチ	紹聖元寶。残存率：周縁欠損

4. 遺構外出土遺物(第238図、第107表、図版五二)

1、2は北区の遺構確認面で採取された土師質土器である。1は小型で浅い。底部に穿孔した痕跡がある。4は北区南端で採取された内耳土鍋の口縁部破片である。5は東区で採取された灰褐色の梅瓶肩部の破片である。内面には施軸されない。ロクロ成形であるが、肩部上方では内面に指頭による圧痕が多数見られ、粘土紐の輪積みあるいは巻き上げの痕跡と考えられる。外面には、上方に沈線が3条施され、下方に1条が残る。瀬戸製と考えられる。6は腰胴部破片である。西区の遺構確認面で採取された。内面には粘土帯の積み上げ、あるいは巻き上げ痕が確認でき、上部の粘土帯端部を櫛状工具で横方向になで、圧着している。外面にはタタキ目が残る。7は西区で出土した砥石の破片である。研ぎ減って撚形を呈する。長軸方向4面を砥面とする。8は東区で採取された銅銭で、「紹聖元寶」である。

第V章 調査のまとめ

今回の小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡の発掘調査では、旧石器時代から中・近世に至るまでの遺物・遺構が確認された。ここでは、それらの大半が属するところの古墳時代～平安時代および中世に重点を置き、遺構・遺物の若干の検討を行って調査のまとめとしたい。

第1節 古墳時代から平安時代の遺構・遺物について

平成20年度の小鍋内I遺跡の調査では4世紀末から10世紀初頭までの竪穴建物跡15軒と、その時代の土坑270基が発見され、続く平成21年度の小鍋内II遺跡では、6世紀前葉から9世紀後葉までの竪穴建物跡と、8世紀から9世紀にかけての掘立柱建物9棟、同じ時期の土坑219基、溝2条、掘立柱崩跡2条などが確認され、集落の一角が明らかになった。

遺構の分布状況を見ると、小鍋内I遺跡では調査区の北半分は竪穴建物跡や土坑の大部分が集まり、南半分は中世以降の遺構集中区になる。おそらく、古墳時代から古代の集落の南端部分を発掘調査したことになるであろう。一方、小鍋内II遺跡では北区の北部から竪穴建物跡の散在する様子が確認できるが、北区南部から西区の東半分の範囲にかけて竪穴建物跡の分布密度が高くなる。東区では調査区東端に竪穴建物跡の分布がみられるが、西半分は深く掘削され、削平も受けていることから、本来この範囲にも同種の遺構が分布していたものと推測される。従って小鍋内II遺跡では西区の東部から段丘東縁部にかけて、さらに北区南端から南方にかけての範囲が集落の中心であったと考えられる。南端は今回の調査では確認できなかった。

以下、遺構の時期および集落の変遷について所見をまとめてみたい。なお遺物、主に土器の年代を検討するに当たっては、栃木県内における古墳時代～平安時代までの土器編年（今平1997：古墳時代前期、藤田1999：古墳時代中期、津野1995：古墳時代後期～終末期、田熊・梁木1989、津野1997：奈良～平安時代）小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡の南東約2kmに位置する森後遺跡、および南東10kmに存在する北原遺跡の土器編年を主に参考にした。森後遺跡は江川左岸の段丘上に立地し、奈良・平安時代の集落跡、掘立柱建物群を中心に古墳時代前期から近世までの遺構・遺物が発見された。土器編年は4世紀後半から9世紀後半までを14期に区分して土器の変遷を検討している。北原遺跡は江川と並行して流れる荒川左岸の段丘状に位置し、古墳時代から平安時代の規模の大きい集落跡が発見され、遺物も多数出土した。土器編年は4世紀代から11世紀初頭までを13段階に区分して土器の変遷を追っている。いずれも集落遺跡としては小鍋内I遺跡・小鍋内II遺跡に近く、当遺跡の遺構、遺物を検討する上では看過できない発掘調査例である。

【小鍋内I遺跡】

小鍋内I遺跡も開田による掘削を受けて遺構の保存状態は良好とは言えなかった。しかし、カマド・貯蔵穴・張出ピット等からは土器器を中心に、比較的多くの遺物が出土した。これらの形状を上記の森後遺跡・北原遺跡における土器編年と比較すると、4世紀末から11世紀前半までの間に、各遺構は以下のように変遷するものと推測された。

4世紀後半

SI-168・SI-256・SI-263・SI-307が該当すると思われる。SI-168では頸付高坏（1）が出土している。SI-256では口縁部から肩部にかけてハケ目が顕著な小型壺と腰口縁部がみられる。SI-263でも頸付高坏、体部下端に稜を有する高坏坏身、小型壺が出土した。SI-307では棒状脚高坏、ハケ目を施す球胴壺がみられる。森後

遺跡1期、北原遺跡1段階に相当すると思われる。

5世紀前葉

この時期の遺構としては、SI-299・SI-311・SK-257・SK-261が挙げられる。SI-299は小型器台を持つが、環は内斜口縁碗形で、環類も中期的である。SI-311は高環は畿内化し、小型壺や甔も中期的である。SK-257の高環も畿内型で、裏はハケ目を多用する。SK-261の裏も同様である。森後遺跡2期、北原遺跡2段階に相当する。

5世紀中葉

SK-254・SK-314がこの時期の遺構と考えられる。竪穴建物跡は確認できないが、SK-254ではミガキを多用する小型壺、SK-314は中期の高環環身が出土した。森後遺跡2期、北原遺跡2段階に相当する。

6世紀前葉

この時期の遺構は、SI-301である。模倣環の割合が増加し、ヘラケズリを多用する球胴甔が伴う。北原遺跡3段階の古段階に相当すると思われる。

6世紀中葉

SI-279・SI-310がこの時期に相当する。SI-279では土師器甔はやや長胴化し、底部が突出する鉢・碗類が目立つ。北原遺跡3段階の新段階に近い組成である。SI-310では球胴甔がみられなくなり、長胴化がやや進む。蓋模倣環の口縁部はあまり開かない。北原遺跡3段階の新段階に相当するものと考えられる。

9世紀中葉

SI-240・SI-246がこの時期の遺構と推定される。SI-240では須恵器環とロクロ成形による土師器環が併存する。後者は胎土に白色針状物質を含み、体部下端は手持ちヘラケズリである。須恵器環の底径が口径に比して比較的大きく、ロクロ成形による土師器環の占める割合が増加し始める頃と思われる。

SI-246では小型台付甔が出土し、森後遺跡13期、北原遺跡9段階に位置づけられる。

9世紀中葉～後葉

この時期の遺構は、SI-280である。SI-280では須恵器環をほとんど伴わず、土師器ロクロ環には丈の高い高台がみられ、体部は直線的に開く。北原遺跡10段階頃と考えられる。

9世紀後葉

この時期の遺構は、SI-232が、あえて比定されるが、遺物が少なく確定は難しい。森後遺跡14期、北原遺跡10～11段階に相当する。

9世紀後葉～10世紀初頭

SI-294・SI-276が該当すると思われる。SI-294は灰釉陶器椀（猿投黒笹90号型）を伴う。北原遺跡11段階である。SI-276は、須恵器環消滅後か。森後遺跡14期、北原遺跡11段階に当たる。

【小鍋内Ⅱ遺跡】

次に、小鍋内Ⅱ遺跡の古墳時代～平安時代遺構の年代についてである。小鍋内Ⅱ遺跡も開田による掘削を受けて遺構の保存状態は良好とは言えなかった。しかし、カマド・貯蔵穴・張出ピット等からは土師器を主に比較的多くの遺物が出土した。これらの示す年代等から竪穴建物跡を集約すると、4世紀末から9世紀後葉までの間に、次のような変遷が推測できた。

6世紀前葉

この時期の遺構は、SI-001・SI-002・SI-004・SI-006・SI-007・SI-008・SI-050・SI-053・SI-055・SI-121・SI-139・SI-183・SI-185・SK-014である。SI-001では球胴甔を伴うが模倣環の割合が多くなる。北原遺跡3段

階古段階か。SI-002では裏が長胴化し、稜が不明瞭で口縁部が開く環がみられる。所謂甕が残る。北原遺跡3段階新段階か。SI-004では裏に長胴化がみられ、稜が不明瞭で口縁部が開く環がみられる。北原遺跡3段階新段階か。SI-006でも裏に長胴化がみられ、稜が不明瞭で口縁部が開く環がみられる。北原遺跡3段階の新段階に並行する時期が考えられる。SI-007でも裏に長胴化がみられ、稜が不明瞭で口縁部が開く環がみられる。大型の環が存在する。北原遺跡3段階新段階か。SI-008では模倣環の口縁部があまり開かず、北原遺跡3段階古段階並行と思われる。SI-050では埴形環が残り、甕も球胴と思われる。模倣環の口縁部もあまり開かない。北原遺跡3段階古段階並行と推測される。SI-053では球胴型と長胴型甕が共存する。模倣環の口縁部はやや開き、稜が不明瞭で口縁部が開く環がみられる。北原遺跡3段階古段階と新段階の中間ぐらいか。SI-055では内斜口縁鉢形の環が残る。模倣環の占める割合は比較的多い。甕は概ね球胴である。北原遺跡3段階古段階か。SI-121では球胴甕とやや長胴化したものが併存する。埴形の環が多く、模倣環が少ない。北原遺跡3段階古段階と新段階の過渡期か。SI-139はカマドが存在しない。出土資料に乏しいが、口縁部が直立する模倣環、口縁部が直立し、肩部で大きく膨らむ形状は胴が球形であることを推測させる。北原遺跡3段階古段階であろう。SI-183は内斜口縁の埴形環が多いが、甕は小型のものの長胴化が進む。北原遺跡3段階古段階か。SI-185は模倣環に混って、稜が不明瞭で口縁部が開く環がみられる。北原遺跡3段階新段階であろう。SK-014では模倣環に加え、埴形環の占める割合がやや多い。森後遺跡3期、北原遺跡3段階古段階に近い時期と考えられる。

6世紀中葉

この時期の遺構は、SI-475・SI-521である。SI-475では、器高が低く、口縁部が開く環がみられる。森後遺跡4期、北原遺跡4段階並行か。

7世紀前葉

この時期の遺構は、SI-300である。SI-300は須恵器大甕口縁部の小破片であるが、櫛描波状文は条数・波数も多く、古相を呈するとも考えられる。古墳副葬等に須恵器大甕が盛行する時期と推定される。森後遺跡6期、北原遺跡5段階に比定した。

7世紀後葉

SI-457が古墳時代終末期の遺構と考えられる。SI-457では稜の無い器高の低い環が出土した。7世紀後葉の時期が考えられる。森後遺跡8期、北原遺跡6段階の時期であろう。

8世紀前葉

この時期の遺構として、SB-262・SB-674を挙げた。SB-262では、須恵器環とロクロ成形の土師器坯蓋がみられ森後遺跡9期、北原遺跡7～8段階並行と考えられる。坯蓋の形状は益子原東窯段階の須恵器蓋に近似する。SB-674では、広口の土師器甕破片が出土したのみであるが、あえて比定するならば森後遺跡9期北原遺跡7段階であろう。

8世紀後葉

この時期の遺構は、SI-303である。SI-303では模倣環は混入品であろう。3の特徴的なロクロ土師器は森後遺跡11期、北原遺跡8段階にみられる。甕の形状もこの時期と考えて矛盾は無い。

9世紀中葉

SB-152、SB-820をこの時期の遺構と推測した。SB-152は後述する9世紀後葉のSI-184に切られ、出土遺物の時期も勘案すると、9世紀中葉に位置付けることが妥当と思われる。SB-820ではロクロ土師器環の体部外面にヘラケズリを多用する。内面はミガキである。森後遺跡13期、北原遺跡9段階並行であろう。

9世紀後葉

この時期の遺構は、SI-102・SI-171・SI-184・SI-302である。SI-102は、須恵器環に対してロクロ土師器環が一定量含まれる。また、下野型甕を伴う。SI-184は須恵器環は出土せず、ロクロ土師器環のみ出土した。森後遺跡14期、北原遺跡10段階並行と考えられる。

以上のとおり検討した遺構の時期に基づき、集落の変遷を概観すると、まず小鍋内Ⅰ遺跡では古墳時代前期の終わりから後期の前半にかけて、集落の継続が認められ、古墳時代後期後半から平安時代前期の間には、少なくとも調査範囲内からは集落の形跡が無くなってしまふ。しかし、9世紀の半ばを過ぎると再び竪穴建物跡数が増加し、11世紀前半までは、またこの範囲に集落が営まれるようになる。

これに対して小鍋内Ⅱ遺跡では、古墳時代前期末から中期全般にかけては遺構が認められないものの、6世紀前半に顕著な遺構の増加がみられるようになる。このことは、県域での通有の現象と捉えるだけではなく、集落の再編成など、当地域内でも政治的動向に大きな変化があったことを示唆している。そして、この遺構の増加は長くは続かず、古墳時代後期中葉～終末期までの間は集落がふたたび調査区内からは姿を消してしまう。奈良時代に入ると、掘立柱建物の出現と共に、遺構が再び確認されるようになり、10世紀初頭までは一定数の戸数が継続している。

では、以上のような小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡における遺構の動向が、地域の歴史的な動きとどのように係わるのか、若干の検討を行いたい。

古墳時代では、小鍋内Ⅰ遺跡において前期の集落が確認された。南東1.8kmに位置する高山古墳は前期の前方後方墳の可能性も指摘されており、そうであれば森後遺跡の前期集落跡と共に、小鍋内Ⅰ遺跡に最も近い前期古墳であり、集落と首長墓の関連が考えられる。

中期の竪穴建物跡は小鍋内Ⅰ遺跡で6軒発見された。森後遺跡においても4軒確認されており、小規模ながら古墳時代中期の集落が喜連川丘陵の合間に点在しているものと思われる。この時期の周辺域の主要な集落跡としては、北西10kmの内川流域に位置する矢板市の十三塚遺跡が挙げられる。この遺跡では古墳時代中期の竪穴建物跡20数軒が確認され、古式の槽などが出土しており、馬匹生産との関連性も指摘されている集落遺跡である。また、小鍋内Ⅰ遺跡の北東7.5kmには三輪中町遺跡が所在し、中期の竪穴建物跡13軒が確認されている。古墳時代中期は、前期に卓越性を示した那珂川流域の前方後方墳が衰退し、宇都宮市南部の田川流域に大型前方後円墳に象徴される広域支配勢力が台頭したと考えられており、有力首長墓の動向から見る限り、この時期の県北部の様相は明確にはなっていない。しかし中期も後葉になると県北部でも大型円墳の築造が目立ち始め、いくつかの地域勢力台頭の現れと考えられている。もしそうであれば、小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡において後期初頭から集落規模が拡大する動きは、このことと無関係では無いと思われる。古墳時代後期後半になると、県内でも群集墳の急激な増加が見られるが、喜連川丘陵でも小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡西側の丘陵上に石岡平古墳群が存在する。直径6～16mの5基の円墳状の地彫れが確認でき、横穴式石室構築材と考えられる河原石が散乱していることから、後期の群集墳と判断できる。この他、丘陵内では江川上流の古原敷古墳群なども群集墳の可能性はある。しかし北方の現矢板市周辺や、南方の芳賀郡地域に比べると、その分布は現状では希薄であると言わざるを得ない。

奈良時代以降の律令制下の社会では、小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡の周囲では森後遺跡の他に南西約4.5kmに位置する長者ヶ平遺跡などが重要な遺跡として挙げられる。発掘調査で「コの字」型配置の政庁や多くの倉庫で構成される倉院などが発見され、主に8世紀前半から9世紀後半にかけての官衙遺跡であることが判明した。古代の芳賀郡に属し、都衛出先機関、あるいは東山道家などに比定される。小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺

跡および森後遺跡とは郡域を超えた遺跡ではあるが、東山道ルートに近接する地域の一連の遺跡として関連性がうかがわれる。

この時期の中心的遺構である掘立柱建物の出現は森後遺跡では東方地区の区画施設内で「8世紀前半から中葉にかけて」と推測されており、小鍋内Ⅱ遺跡では、これらとほぼ同じ時期に、掘立柱建物が現れたと考えられる。全ての掘立柱建物の年代が遺物・重複関係で裏付けられたわけではないが、遺構が近接しながらも、棟・梁方向を揃えて少なくとも9世紀中葉までは継続していると考えられる。小鍋内Ⅱ遺跡における掘立柱建物群の動向は、集落の再展開と共に、森後遺跡の動きと関連すると思われる。また、小鍋内Ⅰ遺跡においても9世紀中葉以降、調査区内において再び集落跡が確認できるようになることは、森後遺跡の「ミヤケ」と推定される施設の規模・機能拡充期と符合し、やはりその動向と関連した変遷をたどっている可能性はある。

第2節 中世以降の遺構・遺物について

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡ともに、この時代の遺構として重複する土坑群と井戸跡、さらに多数のピット等が確認された。さらに、小鍋内Ⅰ遺跡ではこれらを区画する溝群が存在することも判明した。土坑は平面形から円形・方形・不整形などに大別され、主軸・短軸はほぼ一定の方向に揃っている。そして、散在する場合と、特定の場所に集中して重複する場合とがみられる。埋土の観察からは、人為的に埋め戻されたものが多く、県内外の調査事例に照合しても、これらの大半は中世の墓塚と判断される。今回の調査で、江川流域の低地に臨む段丘上で、集団墓地の一部が確認されたと考えられる。

土坑からの出土遺物は銅銭も含めて、極めて少ないが、小鍋内Ⅱ遺跡SK-400から出土した古瀬戸灰軸平茶碗は後期様式Ⅲ期（藤澤良祐1991）の特徴を示しており、15世紀前半に位置づけられる。また、小鍋内Ⅰ遺跡SD-090・SK-010出土の内耳鍋は、深いタイプのもので、口縁部の形状などから15世紀中葉～後半にかけての年代が考えられる。小鍋内Ⅱ遺跡SK-605出土の土師質土器は器高が低く、底径の小さいもので、宇都宮市域の編年（大澤2003）では5期の範疇に入るものと考えられ、15世紀中葉～後葉の年代が考えられる。その他、土坑群の周囲での採取遺物であるが、古瀬戸瓶肩部破片や天目茶碗破片なども採取され、当遺跡における中世遺構の展開は15世紀代に両期があるものと考えられる。

小鍋内Ⅰ遺跡では、調査範囲の南半分において土坑群が確認された。土坑群はさらに北の一群と、南の一群に明確に分布域が別れ、それらの北端や南端が溝で区画されている。そして南北土坑群の中央には、区画溝と平行に、波板状圧痕を有する道路遺構が発見された。

土坑には上記のように円形・方形・不整形の平面がみられるが、方形のものが大部分を占めている。方形土坑にはさらに、正方形に近いもの、長方形のものに分かれるが、正方形の土坑は壁際のピットが確認できないものの、方形竅穴に近似する遺構と思われる。また、長方形土坑には大型で壁がオーバーハングするものが存在することから、地下式墳の一種とも考えられる。

溝は段丘の縁辺部を南西から北東に向かって延び、複数が重複している。北側の土坑群の北端を区画する一群（A群）と、南側土坑群の北端および南端を仕切る一群とに分かれている。

南北土坑群の中間を仕切る道路遺構は、浅い溝状の掘り込みの底面に、9条の細長い圧痕が並び、圧痕の中に小円礫を埋め込むものも確認されている。県内の調査事例からも、道路遺構と考えられる。土坑群と区画溝、およびその中を横切る道路遺構の組み合わせは、真岡市所在の下陰遺跡で調査確認されている。この遺跡は小貝川支流の五行川低地に臨む低段丘上の遺跡で、立地の面でも小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡に近似する。

小鍋内Ⅱ遺跡では、東区の東半分の範囲に土坑が密集する様子がみられる。先述の通り、小鍋内Ⅰ遺跡に比してやや大型の土坑が多いことが特徴である。また、今回の調査では南北に長い範囲を精査したが、小鍋内Ⅰ遺跡のように、これらを区画する溝跡は確認できなかった。しかし土坑集中範囲とほぼ重複してピット群が確認されていることから、欄列や掘立柱脚などによる区画も考慮する必要があるであろう。土坑墓群の、欄列での区画は、佐野市の鷺久根遺跡の調査で確認されており、区画の出現、区画の分割が進む段階、区画施設が無くなり墓域が拡散する時期の3段階の変遷が考察されている。

土坑の形状は小鍋内Ⅰ遺跡の場合と大差ないと考えられる。

参考文献

- 安藤美保 2008『北原遺跡遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
池田敏宏 2010『下陰遺跡』Ⅱ 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
板橋正幸 2007『長者ヶ平遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
板橋正幸・鈴木芳英 2009『森後遺跡遺跡』Ⅰ 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
大澤伸啓 2003『下野におけるかわらけの変遷 ―中世前半を中心として―』『栃木の考古学 ―塚野夫先生古希記念論文集』
喜連川町史編さん委員会 2003『喜連川町史』第一巻 資料編Ⅰ 考古 喜連川町
今平利幸 1997『栃木県における古墳時代前期の様相―土器を中心として―』『前方後墳の世界Ⅱ―那須に古墳が遡られたころ―』栃木県立なす風土記の丘資料館 第5回企画展 栃木県教育委員会
齋藤弘・進藤敏雄 1995『北関東における中世集落遺跡について』『研究紀要』第3号 (財) 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
齋藤弘 1996『中世後期の墓地―下野を中心に―』『栃木県考古学会誌』第18号 栃木県考古学会
齋藤弘 1996『地下式竈と葬送儀礼―栃木県下の事例を中心に―』『研究紀要』第4号 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
芹澤正八、中島瑞穂 1997『中林遺跡・鷺久根遺跡・西久保Ⅱ遺跡』栃木県教育委員会、(財) 栃木県文化振興事業団
田熊清彦・梁木 誠 1990『栃木県の黒色土器―奈良・平安時代を中心に―』『東国土器研究』第3号 東国土器研究会
津野 仁 1995『栃木県における6・7世紀の土器編年と地域的特徴』『東国土器研究』第4号 東国土器研究会
津野 仁 1997『栃木県の須恵器編年』『東国の須恵器―関東地方における歴史時代須恵器の系譜―』古代生産史研究会
平田堅三 1997『地下式竈再考―市原市台遺跡中世遺構の分析―』『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』(財) 市原市文化財センター
藤田典夫 1999『栃木県における5世紀の土器編年』『東国土器研究』第5号 東国土器研究会
藤澤良祐 1991『瀬戸古窯址群Ⅱ―古瀬戸後期様式の編年―』『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗資料館
梁木 誠・田熊清彦 1989『栃木県の彩色土器について』『東国土器研究』第2号 東国土器研究会
吉田哲ほか 2010『森後遺跡遺跡』Ⅱ 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

附章 小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡発掘調査に係る自然科学分析

栃木県では高原山で黒曜石が産出する。縄文時代では前期中葉の黒浜式期になって黒曜石の利用が活発化する（上野2006）。黒浜式期の大規模集落として知られる宇都宮市根古谷台遺跡では、数十点の黒曜石が出土した。肉眼観察では、大半が高原山産黒曜石で、非高原山産黒曜石が少量あると判断された。産地に近い遺跡が、一方的に黒曜石を搬出するといった単純な状況ではなく、離れた地域の集団どうしが、互いに交渉を持ちながら、黒曜石が流通していたことが想定できる。そこで、高原山の南約30kmに位置する小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡出土の黒曜石の産地同定を行うことによって、こうした問題に有益な情報を提供できるとと思われる。

次に、栃木県内の赤彩された土師器は6世紀前半と8世紀前半にピークがあるとされる（梁木・田熊）。県内では胎土自体が赤色を呈するものが多いとされるが、小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡の発掘調査ではベンガラと思われる赤色顔料を塗布したものが高い比率を占めた。また、6世紀中葉の小鍋内Ⅰ遺跡SI-310では、赤色顔料の粉末が入ったままの土師器の小型土器が出土した。さらに小鍋内Ⅱ遺跡では、やはり6世紀中葉の竪穴建物跡であるSI-004からこれと同種の顔料を磨り潰したと思われる、一種の石皿が出土した。そこで、この小型土器内に残っていた赤色顔料が土器に塗布されたベンガラと同じものなのか、これを調べるための基礎調査として、その成分分析を行うこととした。

参考文献

- 上野修一 2006 『縄文時代における高原山産黒曜石の利用について—栃木県矢板市雲入遺跡例を中心に—』『高原山産黒曜石調査事業報告書』矢板市教育委員会
- 梁木誠・田熊清彦 1989 『栃木県の彩色土器について』『東国土器研究』第2号 東国土器研究会

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡発掘調査に係る理化学分析（石材鑑定ほか）報告

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡から出土した黒曜石製石鏃および赤色顔料について、由来を明らかにすることを目的として、蛍光X線分析およびX線回折試験を行う。

1. 試料

SR-KN-II SI-003 No.1の縄文時代前期（黒浜式）の黒曜石製石鏃1点について、蛍光X線分析により化学組成を求め、原産地を推定する。試料は、古墳時代後期のミニチュア土器内に充填されていた顔料とみられる赤褐色の粉状～塊状の物質1点（試料名：SR-KN-I SI-310 No.10内）である。

2. 分析方法

(1) 蛍光X線分析

遺物保存の観点から、非破壊分析を前提とする。したがって、調査はセイコーインスツルメンツ製エネルギー分散型蛍光X線分析装置（SEA2120L）を用いた非破壊分析法により、半定量的に化学組成を求める。以下の条件で測定を実施する。得られた蛍光X線スペクトルはファンダメンタルパラメーター法（FP法）による定量演算を実施し、化学組成を算出する。なお、定量演算の際には組成既知の黒曜石を標準試料として登録し、正確度の向上を図っている。

第108表 蛍光X線分析測定条件

測定装置	SEA2120L	
管球ターゲット元素	Rb	
対象元素	Na~Ca	Sc~U
励起電圧 (KV)	15	50
管電流 (μ A)	自動設定	自動設定
測定時間 (秒)	300	300
コリメータ	ϕ 10.0mm	
フィルター	なし	
雰囲気	真空	

黒曜石は、流紋岩～デイサイトに相当するガラス岩である。流紋岩～デイサイトの成因は多様であるが、その反面出発物質としてのマグマの生成過程および分化過程で化学組成の挙動が異なることが期待される。大沢ら（1991）の黒曜石の化学組成を岩系別に見ると、Rb（ルビジウム）、La（ランタン）、Ce（セリウム）、Eu（ユウロビウム）、Th（トリウム）、Sc（スカジウム）の変動が著しく、地域的な特性を示す微量元素成分元素として注目される。

そこで黒曜石の岩系に基づいた化学成分の変化を背景に、産地判定の指標成分としてコンパティブル元素であるFeとインコンパティブル元素であるRbを選択し、産地ごとの2成分の領域を図示した黒曜石の産地判別図（図239）を作成する。本判別図は、当社保有の原産地黒曜石110試料のほか、これまでに当社で調査を実施した遺跡出土黒曜石（産地未確定も含む）など計500試料以上の黒曜石を基に、破壊調査により得られた化学組成を用いて作成した。作成した判別図は縦軸にRb（ppm）、横軸にFe（%）をとると指数関数的な分布を示し、産地間の分離が良好であることから、分析精度が十分に高ければ産地の識別は可能であると考えられる（五十嵐ほか、2001）。なお、この図はFe（%）とRb（ppm）の値を採用しているため、酸化物の分析結果を換算して用いている。

(2) X線回折試験（赤色顔料分析）

赤色物質を60℃で乾燥させた後、メノウ乳鉢で微粉砕する。微粉砕試料はアルミニウムホルダーに詰め、測定試料とする。作成したX線回折測定試料について以下の条件で測定する。

装置：理学電気製MultiFlex	Divergency Slit：1°
Target：Cu（K α ）	cattering Slit：1°
Monochrometer：Graphite湾曲	Receiving Slit：0.3mm
Voltage：40KV	Scanning Speed：2°/min
Current：40mA	Scanning Mode：連続法
Detector：SC	Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps	Scanning Range：2～45°

4. 結果

(1) 蛍光X線分析

推定産地を記した黒曜石の化学組成を表1に示し、Fe-Rb判別図および補完法であるSr-Zr判別図を図239に

示す。

(2) X線回折試験(赤色顔料分析)

試験結果の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物を、JCPDS (Joint Committee on Powder Diffraction Standards) のPDF (Powder Data File) をデータベースとしたX線粉末回折線解析プログラムJADEにより検索し、同定した。X線回折チャートを図240に示す。図中の最上段が試料の回折図であり、下段が同定された結晶性鉱物もしくは化合物の回折パターンである。以下の文中においては、回折チャートの同定に使用したPDFデータの鉱物名(英名)は括弧内に記している。

今回の回折試験の結果、検出された鉱物は、赤鉄鉱(hematite)、石英(quartz)、トリディマイト(tridymite)、カリ長石(microcline)および斜長石(albite)である。赤鉄鉱は、2.69Å(2θ:33.3°)、2.51Å(2θ:35.7°)、3.66Å(2θ:24.3°)などにおいて尖度の高い明瞭な回折線を示す。

第109表 黒曜石元素分析結果(非破壊EDX分析法)

測定試料 No. 試料名	測定値														推定産地	
	SiO ₂ %	TiO ₂ %	Al ₂ O ₃ %	Fe ₂ O ₃ %	MnO %	MgO %	CaO %	Na ₂ O %	K ₂ O %	Rb %	Sr %	Zr %	Ba %	Fe %	Rb ppm	
1 SR-KN-B-39-03 No.1	77.44	0.07	13.50	0.68	0.06	0.25	0.34	2.83	4.71	0.0146	0.0035	0.0080	0.0322	望ヶ塔	0.48	146

5. 考察

(1) 蛍光X線分析

今回、調査対象とした黒曜石試片は、Fe-Rb判別図およびSr-Zr判別図中で屋ヶ塔の領域近傍に位置することより、長野県屋ヶ塔産の黒曜石である可能性がある。

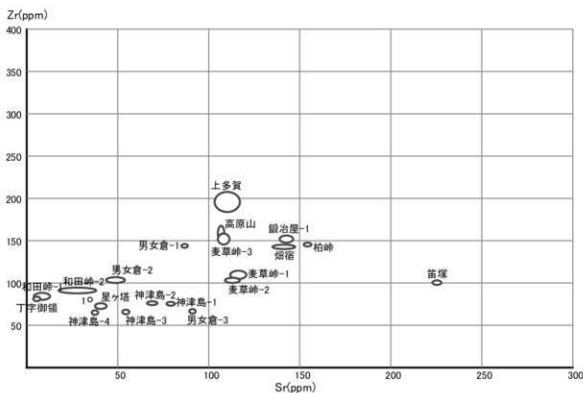
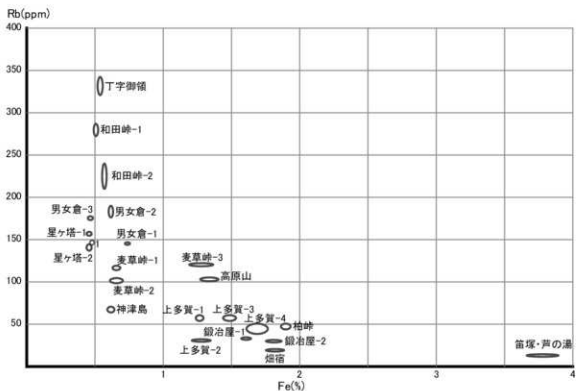
(2) X線回折試験(赤色顔料分析)

遺跡から出土する赤色を呈する代表的な顔料としては、ベンガラ(赤鉄鉱; hematite [α-Fe₂O₃])のほか、水銀朱(辰砂; cinnabar[HgS])、鉛丹(鉛丹; minium[Pb₃O₄])などが知られている。今回検出された赤鉄鉱はいわゆるベンガラである。赤鉄鉱以外の石英、長石類などの検出鉱物は、土器内に充填された際もしくは埋没後に混入した住居跡覆土等の土壌に由来するものと考えられる。

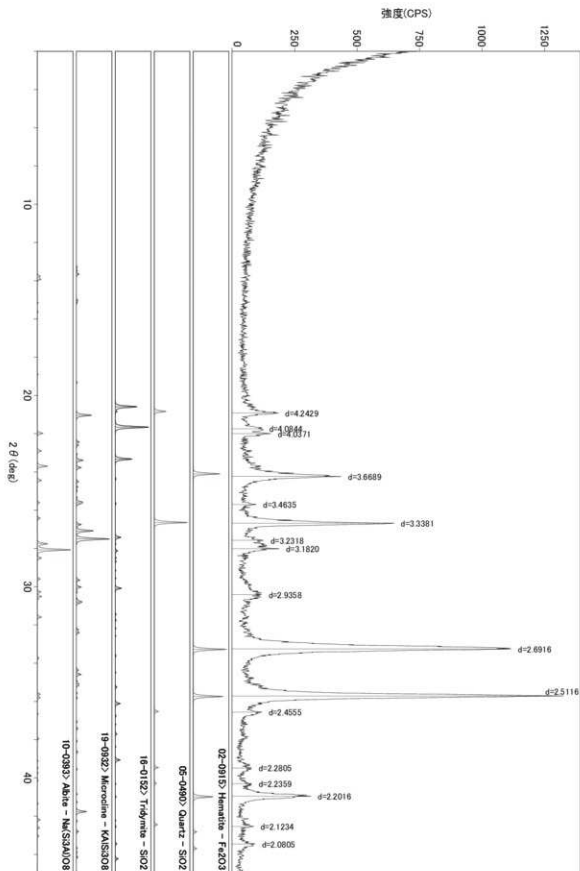
赤鉄鉱の鉱石としての採取地は、熱水鉱床、含マンガン鉄鉱床、接触交代鉱床、變成鉱床、風化残留鉱床などの鉱床の分布地域が考えられる。新潟県赤谷、岩手県和賀仙人などの熱水交代鉱床では、良質な雲母赤鉄鉱が採取可能であり、東北地方の各地の遺跡において同質なものが出土している。一方、このような天然の鉱石を利用するほかに、含水水酸化鉄を焼成して得られる赤鉄鉱を利用することも指摘されている(成瀬, 1998)。また、電子顕微鏡レベルでパイプ状構造を示す赤鉄鉱は、沼沢地などにおいて鉄バクテリアが生成する含水水酸化鉄が発育物質となっているという報告もある(岡田, 1997; 織幡・沢田, 1997)。そのため、今後電子顕微鏡などを利用した形態観察も必要であり、その由来についての検討材料を提示できるものと期待される。

引用文献

五十嵐俊雄・斉藤紀行・中根秀二, 2001, Fe-Rb法による黒曜石の産地推定, PALYNO, No.4, 16-25.
 成瀬 正和, 1998, 縄文時代の赤色顔料Ⅰ, 考古学ジャーナル, 438, 10-14.
 岡田 文男, 1997, パイプ状ベンガラ粒子の復元, 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 38-39.
 大沢眞澄(研究者代表), 1991, 黒曜石の化学組成, 遺跡出土黒曜石石器の産地推定の基礎として, 平成2年度科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 69p.
 織幡 順子・沢田 正昭, 1997, 酸化鉄系赤色顔料の基礎的研究, 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 76-77.



第239図 黒曜石原産地判別図（関東地域）[上図：Fe-Rb法、下図：Sr-Zr法]



第240図 小鍋内I遺跡 SI-310試料のX線回折チャート

写 真 图 版



小鍋内I遺跡 全景



小鍋内I遺跡 全景（南東上空より）



小鍋内1遺跡 調査区全景（南半分）（北西より）



小鍋内1遺跡 作業風景（北より）



小鍋内1遺跡 作業風景（南西より）



小鍋内1遺跡 作業風景（北西より）



小鍋内1遺跡 作業風景（東より）



SI-168 土層断面（南西より）



SI-168・SD-166・SK-167・169～174 完掘全景（南西より）



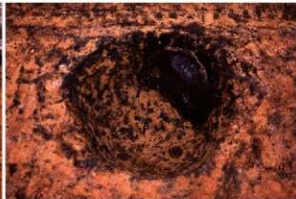
SI-256 完掘全景白線入り（北東より）



SI-256 貯蔵穴遺物出土状況（西より）



SI-263 完掘全景白線入り（南東より）



SI-263 貯蔵穴遺物出土状況（東より）



SI-279 遺物出土状況（南東より）



SI-279 カマド土層断面・遺物出土状況（南東より）

図版四
小鍋内一遺跡
古墳時代の竪穴建物跡



SI-279 カマド土層断面・遺物出土状況（北東より）



SI-279 カマド完掘全景（南東より）



SI-299 遺物出土状況（南より）



SI-299 炉確認状況（南より）



SI-299 貯蔵穴完掘全景（南より）



SI-301 完掘全景白線入り（南東より）



SI-301 カマド確認状況（南東より）



SI-301 掘出ピット遺物出土状況（南より）



SI-307 遺物出土状況 (西より)



SI-310 完掘全景 (西より)



SI-310 北東隅遺物出土状況 (北より)



SI-310 カマド周辺遺物出土状況 (北より)



SI-311 完掘全景 (西より)



SK-254 完掘全景 (南より)



SK-261 完掘全景 (南東より)



SK-287 遺物出土状況 (東より)



SK-304 完掘全景（南より）



SI-232 完掘全景（南東より）



SI-240 遺物出土状況（南東より）



SI-246・SK-247 完掘全景（北東より）



SI-246 カマダ・貯蔵穴完掘全景（東より）



SI-276 完掘全景（南東より）



SI-276 カマダ完掘全景（南より）



SI-280 遺物出土状況（南より）



SI-280 南西隅遺物出土状況（北東より）



SI-280 南西隅遺物出土状況（東より）



SI-280 墨書土器「万用」出土状況（南より）



SI-280 カマド土層断面（南より）



SI-294 カマド完掘全景（東より）



SD-013・014・016・SK-008・010~012・017・018・021 完掘全景（北西より）



SD-114・115・SK-113 土層断面（南西より）



SD-187・188・234・235 完掘全景（南西より）

図版八 小鍋内一遺跡 中世以降の溝跡・土坑



SD-189・224・225・227・SK-226 完掘全景(北西より)



SD-227・230・238・SK-231 完掘全景(西より)



SK-019・020 完掘全景(西より)



SK-022・023 完掘全景(西より)



SK-024 完掘全景(南西より)



SK-027~030・045・069 完掘全景(南西より)



SK-032・038~040 完掘全景(南東より)



SK-033~037 完掘全景(北東より)



SK-036・038～044 完掘全景（北東より）



SK-046 完掘全景（南東より）



SK-046～049・060・061 完掘全景（北東より）



SK-050～054 完掘全景（北東より）



SK-055～057・092・095 完掘全景（北より）



SK-062～068 完掘全景（南東より）



SK-070～072・093・094 完掘全景（北東より）



SK-071・072・093・094・100・108～112 完掘全景（南西より）



SK-073~075 完掘全景 (南東より)



SK-077~080 完掘全景 (北東より)



SK-081~089・096・SD-090 完掘全景 (北より)



SK-093・094・112 完掘全景 (北より)



SK-111 完掘全景 (東より)



SK-119 完掘全景 (北東より)



SK-120・122~124・135~141 完掘全景 (東より)



SK-121 完掘全景 (南西より)



SK-133・134・142・148 完掘全景（南西より）



SK-146・147・155 完掘全景（南東より）



SK-148・151~154・156~158 完掘全景（北西より）



SK-149・150 完掘全景（北東より）



SK-159~165 完掘全景（南東より）



SK-175~180 完掘全景（北東より）



SK-181~183 完掘全景（南西より）



SK-184~186・SD-234 完掘全景（南西より）



SK-190~192 完掘全景（西より）



SK-193~195 完掘全景（南西より）



SK-196 完掘全景（南東より）



SK-198 完掘全景（北東より）



SK-199 完掘全景（北東より）



SK-200・203 完掘全景（東より）



SK-204・205 完掘全景（北東より）



SK-207 完掘全景（東より）



SK-208 完掘全景（北東より）



SK-211～213 完掘全景（北より）



SK-215 完掘全景（北東より）



SK-216～218 完掘全景（北東より）



SK-219 完掘全景（北東より）



SK-220・221 完掘全景（南西より）



SK-222 完掘全景（北東より）



SK-229 完掘全景（西より）



SK-249 完掘全景（南東より）



SK-250 完掘全景（東より）



SK-252 完掘全景（東より）



SK-263～266 完掘全景（南東より）



SK-292 完掘全景（北東より）



SK-293 完掘全景（東より）



SK-296 完掘全景（北より）

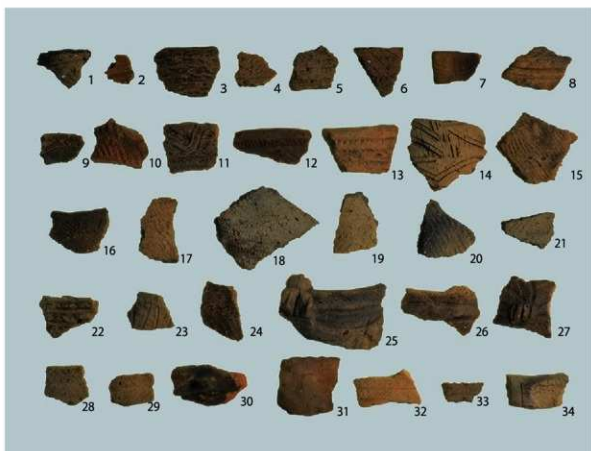


SK-302 完掘全景（南東より）



旧石器時代の遺構外遺物

縄文時代の遺構外遺物



縄文時代の遺構外遺物



弥生時代の遺構外遺物





SI-299 14



SI-299 15



SI-299 17



SI-299 18



SI-301 1



SI-301 2



SI-301 3



SI-301 4



SI-301 5



SI-301 6



SI-301 7



SI-301 8



SI-301 9



SI-301 10



SI-301 11



SI-301 12



SI-301 13



SI-301 14



SI-301 15



SI-301 16



SI-301 17



SI-301 18



SI-301 19



SI-301 22



SI-301 25



SI-301 20



SI-301 22



SI-301 25



SI-301 26



SI-301 22底部



SI-301 27



SI-310 1



SI-310 2



SI-310 3



SI-310 4



SI-310 6



SI-310 7



SI-310 8



SI-310 9





SI-310 27



SI-310 36



SI-310 33



SI-310 34



SI-311 1



SI-311 3



SI-311 4



SI-311 5



SI-311 6



SI-311 7



SI-311 8



SI-311 10



SI-311 14



SI-311 15



SK-257 1



SK-261 13



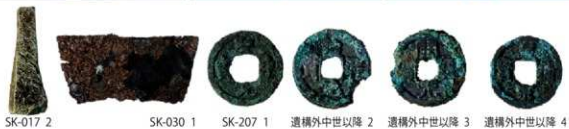
遺構外古墳 1



SI-232 4



SI-240 1





小鍋内Ⅱ遺跡 全景（北東上空より）



小鍋内Ⅱ遺跡 全景



小鍋内Ⅱ遺跡 東区全景（北より）



小鍋内Ⅱ遺跡 作業風景（南西より）



小鍋内Ⅱ遺跡 作業風景（北西より）



小鍋内Ⅱ遺跡 作業風景（南より）



小鍋内Ⅱ遺跡 作業風景（南より）



SI-003 遺物出土状況 (南より)



SI-003 完掘全景 (南より)



SI-003 完掘全景 (南より)



SI-003 炉確認状況 (南より)



SI-005 完掘全景 (南より)



SI-005 炉土層断面 (西より)



SI-005 東壁際柱穴完掘全景 (北より)



SI-005 西・南壁際柱穴完掘全景 (北西より)



SI-001 完掘全景 (南東より)



SI-001 掘出部遺物出土状況 (北西より)



SI-001 掘出部完掘全景 (南東より)



SI-002 遺物出土状況 (南より)



SI-002 完掘全景 (東より)



SI-002 カマド全景 (南より)



SI-002 掘形完掘全景 (南より)



SI-004 完掘全景 (南より)



SI-004 カマダ確認状況（南より）



SI-004 カマダ土層断面（南より）



SI-006 遺物出土状況（南より）



SI-006 完掘全景（南より）



SI-006 北西隅カマダ完掘全景（東より）



SI-006 P5土層断面（東上より）



SI-006 掘形完掘全景（東より）



SI-007 完掘全景（南より）



SI-007 掘形完掘全景（西より）



SI-008 完掘全景（西より）



SI-008 掘形完掘全景（西より）



SI-053 完掘全景（西より）



SI-053 カマド全景（西より）



SI-053 カマド旧カマド全景（南より）



SI-053 P5・P6遺物出土状況（東より）



SI-055 完掘全景（西より）



SI-055 カマダ全景（西より）



SI-121 貯蔵穴土層断面（南より）



SI-121 貯蔵穴遺物出土状況（西より）



SI-139 完掘全景（南より）



SI-146a・SI-146b 完掘全景（南より）



SI-183 完掘全景（南より）



SI-185・SI-184 遺物出土状況（南より）



SI-185 掘出ピット遺物出土状況（南より）



SI-300 完掘全景（南より）



SI-521 カマド全景（南東より）



SK-014 遺物出土状況（東より）



SK-025 完掘全景（南より）



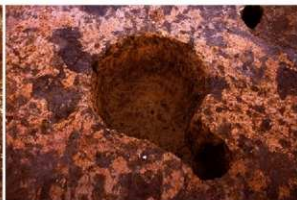
SK-064 完掘全景（南より）



SK-134 完掘全景（南より）



SK-189・SK-188 完掘全景（南より）



SK-329 完掘全景（西より）



SA-044 完掘全景（南より）



SA-044 P1土層断面（東より）



SA-044 P3土層断面（東より）



SA-821 P4土層断面（南より）



SB-152 完掘全景（南より）



SB-152 P1土層断面（東より）



SB-152 P2土層断面（東より）



SB-152 P8土層断面（南より）



SB-152 P10土層断面（東より）



SB-250・SB-251 完掘全景（南より）



SB-250 P1土層断面（南より）



SB-250 P4土層断面（南より）



SB-251 P1完掘全景（東より）



SB-251 P5完掘全景（南より）



SB-252・SB-253 完掘全景（南より）



SB-252 P2・SB-253 P2土層断面（南より）



SB-252 P3土層断面（南より）



SB-252 P4土層断面（南より）



SB-252 P8土層断面（西より）



SB-254 完掘全景（西より）



SB-254 P1土層断面（南より）



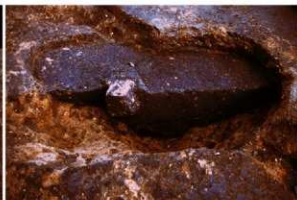
SB-254 P4土層断面（南より）



SB-262 完掘全景（南より）



SB-262 P1土層断面（東より）



SB-262 P4土層断面（南東より）



SB-674 完掘全景（南より）



SB-674 P3完掘全景（南より）



SB-820 P2完掘全景（西より）



SI-102 遺物出土状況（南より）



SI-102 完掘全景（南より）



SI-171 カマド土層断面（南より）



SI-171 柱穴完掘全景（南より）



SI-171 カマド・SI-172 カマド土層断面（南より）



SI-172 カマド土層断面（南東より）



SI-184 遺物出土状況（南より）



SI-184 カマド全景（南より）



SI-302 完掘全景（南より）



SI-302 完掘全景（南より）



SK-022 遺物出土状況 (北より)



SK-052 完掘全景 (南より)



SK-062 完掘全景 (南西より)



SE-135 土層断面 (西より)



SK-135 全景 (東より)



SE-763 土層断面 (南東より)



SK-009 完掘全景 (北より)



SK-010・015 完掘全景 (北東より)



SK-021 完掘全景（東より）



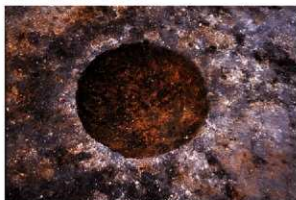
SK-026 完掘全景（西より）



SK-027 完掘全景（南より）



SK-029・042 完掘全景（東より）



SK-030 完掘全景（南より）



SK-038~041 完掘全景（東より）



SK-051 完掘全景（南より）



SK-058 完掘全景（南より）



SK-069・070 完掘全景 (南より)



SK-122 土層断面 (東より)



SK-132 完掘全景 (南より)



SK-143 完掘全景 (南より)



SK-175 完掘全景 (南より)



SK-217 完掘全景 (南より)



SK-225 完掘全景 (南より)



SK-268 完掘全景 (南より)

図版四〇
小鍋内Ⅱ遺跡

中世以降の土坑



SK-320 完掘全景（西より）



SK-363 完掘全景（西より）



SK-371・372・S-365・430・432・441・444 完掘全景（西より）



SK-382 完掘全景（西より）



SK-383 完掘全景（西より）



SK-392・472~474 完掘全景（西より）



SK-402・403a・403b 完掘全景（西より）



SK-438 完掘全景（西より）



SK-445 完掘全景（西より）



SK-455・456 完掘全景（南より）



SK-473・SI-475 完掘全景（西より）



S-124 土層断面（南より）



S-125 土層断面（東より）



S-212 完掘全景（南より）



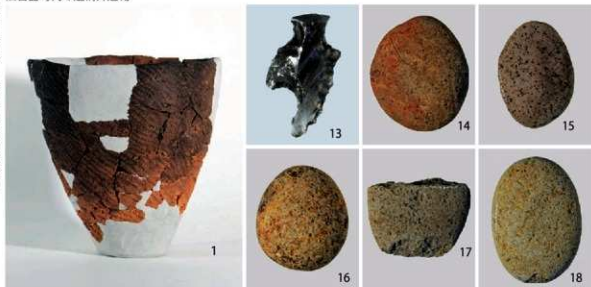
S-423 土層断面（西より）

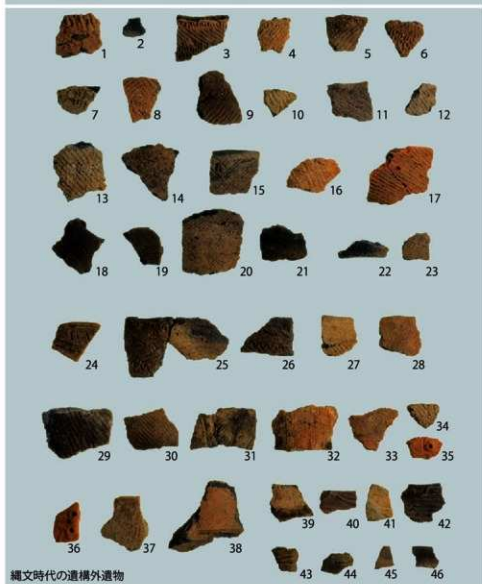
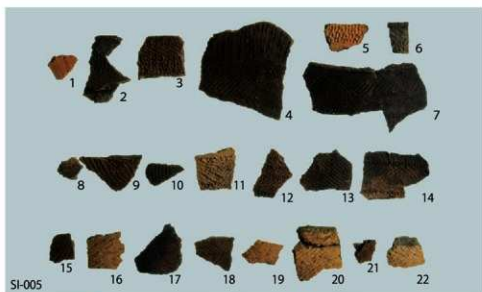


S-819 遺物出土状況（東より）



旧石器時代の遺構外遺物

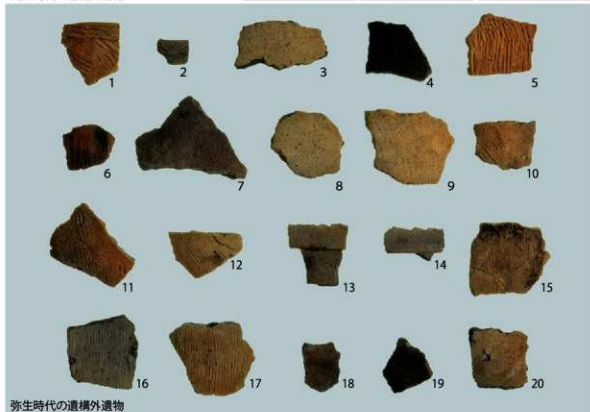




図版四四 小鍋内II遺跡 縄文時代・弥生時代の遺物

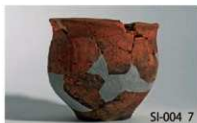


縄文時代の遺構外遺物



弥生時代の遺構外遺物









SI-053 10



SI-053 11



SI-053 13



SI-053 14



SI-053 15



SI-053 16



SI-053 17



SI-053 18



SI-053 19



SI-053 20



SI-053 21



SI-053 24



SI-053 23



SI-053 25



SI-055 5



SI-055 6



SI-055 7



SI-055 8





SI-183 4



SI-183 9



SI-185 4



SI-185 5



SI-457 1



SI-521 1



SK-014 1



遺構外古墳 1



遺構外古墳 2



遺構外古墳 3



SI-102 1



SI-102 3



SI-102 4



SI-102 9



SI-102 12



SI-102 19



SI-102 22



SI-102 25



SI-102 24



報告書抄録

ふりがな	こなべうちいせいせき・こなべうちにいせき
書名	小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡
副書名	経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第358集
編著者名	進藤敏雄
編集機関	財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2013年3月28日 (平成25年3月28日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こなべうちいせいせき 小鍋内Ⅰ遺跡	さくら市 かのこはた 籠子畑地内			36°43'45"	140°02'48"	20081001 ～20090330	5,700	経営体育成基盤 整備事業 江川南部Ⅰ地区
こなべうちいせいせき 小鍋内Ⅱ遺跡				36°43'38"	140°02'56"	20090501 ～20100330	6,400	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
こなべうちいせいせき 小鍋内Ⅰ遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良～ 平安時代 中世以降	竪穴建物跡 9軒 土坑 22基 竪穴建物跡 6軒 溝 25条 土坑 234基	旧石器、縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、灰釉陶器 古瀬戸、常滑 鉄製品(鉄鍬) 銅製品(銅鏡) 石製品(磨石、石皿、砥石、土製品(土鍾))	古墳時代中期の集落を 確認。 土師器小型遺からベン ガラ出土。
こなべうちいせいせき 小鍋内Ⅱ遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良～ 平安時代 中世以降	竪穴建物跡 2軒 竪穴建物跡 19軒 溝 2条 竪穴建物跡 9棟 竪穴建物跡 7軒 溝 2条 井戸 2基 土坑 219基	旧石器、縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、灰釉陶器 古瀬戸、常滑 鉄製品(鉄鍬) 銅製品(銅鏡) 石製品(磨石、石皿、砥石、土製品(土鍾))	

要約	<p>小鍋内Ⅰ遺跡は江川西岸の段丘縁辺部に立地する古墳時代から中世以降まで続く遺跡である。今回の発掘調査では、古墳時代前期から平安時代前半にかけての集落跡の一部が発見され、土師器をはじめ、遺物も多数出土した。古墳時代中期から後期前半の土師器にはベンガラで赤彩するものが目立ち、顔料を入れた小形土器も出土した。また、中世以降の土坑群と、それらを区画する溝群も確認された。</p> <p>小鍋内Ⅱ遺跡は小鍋内Ⅰ遺跡の南に隣接し、古墳時代後期から平安時代前半の集落跡が発見され、9世紀～10世紀代の竪立柱建物群も確認された。また、小鍋内Ⅰ遺跡と同様に、段丘縁辺には中世以降の土坑群も存在し、溝を伴わな等の相違もあるが、両遺跡の関連がうかがえる。</p>
----	---

栃木県埋蔵文化財調査報告第358集

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡

—経営体育成基盤整備事業(江川南部1地区に伴う埋蔵文化財発掘調査)—

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市埴田1-1-20

T E L 028 (623) 3425

財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

T E L 028 (643) 1011

平成25年3月28日発行

編集 財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市県474番地

T E L 0285 (44) 8441

印刷 第一印刷株式会社
